

教育学部

(1)整理番号	1
(2)区分番号	1
(3)科目種別	教育学部
(4)授業科目名 〔英文名〕	環境教育概論 (Introduction to Environmental Education)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日 1・2時限
(10)担当教員 (所属)	○長南 幸安 (教育学部)・佐藤 崇之 (教育学部)・廣瀬 孝 (教育学部)・島田 透 (教育学部)・大高 明史 (教育学部)・安川 あけみ (教育学部)・櫻田 安志 (教育学部)・岩井 草介 (教育学部)・小岩 直人 (教育学部)・勝川 健三 (教育学部)・木村 友久 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度 (レベル)	レベル3
(13)対応する CP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○私たちの生活に関連する環境問題の概要を理解すること (見通す力) ○それらを正しく理解するための方法を身につけること (解決する力) ○教育活動に生かすことができるようになること (学び続ける力)
(15)授業の概要	環境教育を実践するために必要な基礎知識の習得を目的に、さまざまな分野における課題の所在と学校教育での扱いを学習する。
(16)授業の内容予定	<p>以下は予定であり、内容や順番は変更になることがあります。変更に関しては、A-NETや掲示板で周知します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要説明 (長南幸安) 2. 学校と環境教育 1: 理論編 (佐藤崇之) 3. 学校と環境教育 2: 実際編 (佐藤崇之) 4. 青森県内廃棄物の活用技術 (廣瀬孝) 5. 光と私たちの暮らし (島田透) 6. 大気汚染の現状 (長南幸安) 7. 現代の水問題 (長南幸安) 8. 環境にやさしい洗濯 (安川あけみ) 9. 教育現場における教材使用の注意—知的財産教育の視点から (木村友久) 10. 教育現場における教材使用の注意—著作権の視点から (木村友久) 11. 今後の電気エネルギー (櫻田安志) 12. 生物とエネルギー (岩井草介) 13. 自然災害と私たちの暮らし (小岩直人) 14. SDGs～世界の未来を変えるための17の目標～ (勝川健三) 15. レッドリストの現状と課題 (大高明史) 16. まとめ (長南幸安)

(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	予習として、それぞれの回の学習項目について、あらかじめ調べておくこと (90分) 復習として、教育活動にどう活かせるか考えてみること (90分)
(18)学問分野 1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	環境保全対策関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	環境解析評価関連
(19)実務経験 のある教員によ る授業科目につ いて	実務教員
(20)教材・教 科書	それぞれの回の学習項目について、あらかじめ調べておくこと。
(21)参考文献	共通の教科書は用いない。授業ごとに適宜、プリントなどを配布する。
(22)成績評価 方法及び採点基 準	授業中の取り組み (20%・小テストなどを含む) とレポート (80%) から総 合的に評価する。
(23)授業形式	講義
(24)授業形 態・授業方法	木村友久先生の講義は集中講義形式で以下の日程で行うので注意すること。 4月21日(日) 8:40~11:50 (1・2コマ) 教育学部2階大教室
(25)留意点・ 予備知識	特になし
(26)オフィス アワー	まとめ教員 長南幸安 月~金 8:00~8:30
(27)Eメールア ドレス・HPア ドレス	cho@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	オムニバス講師に、実務教員が複数います。

教育学部

(1)整理番号	2
(2)区分番号	2
(3)科目種別	教育学部
(4)授業科目名 〔英文名〕	健康教育概論 (health education and literacy)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日 5・6時限
(10)担当教員 (所属)	小玉 正志 (教育学部)・太田 誠耕 (教育学部)・田中 完 (教育学部)・葛西 敦子 (教育学部)・新谷 ますみ (教育学部)・原 郁水 (教育学部)・鳴海 晃 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○児童生徒の心身の健康の保持増進のための健康教育・健康管理について理解し実践できる能力を身につけること ○児童生徒の自他の生命尊重を基盤とした安全能力の育成等を図るための安全教育と安全管理について理解し実践できる能力を身につけること
(15)授業の概要	健康・安全は学校教育の基本理念である生命の尊重、人間尊重の精神の基本をなすものであり、人間の存在、社会の発展、人類の幸福の基本要件である。そのため、健康・安全を直接目標とする学校保健は、学校教職員のすべてに理解され、認識され、実践されることが重要となる。 近年、子どもたちを取り巻く環境は急速に変化し、生活習慣病や心の健康問題、感染症の新たな問題などの健康課題があがっている。また、予想もしないような学校での事件や事故が発生するなど安全確保が重要な課題ともなっている。 そこで、児童生徒の心身の健康の保持増進のための健康教育と健康管理、さらに自他の生命尊重を基盤とした安全能力の育成等を図るための安全教育と安全管理について講義・実習する
(16)授業の内容予定	授業の内容予定 * 第1回 オリエンテーション, 学校保健・安全と学校教育 第2回 保健室の機能と健康・安全教育 第3回 児童生徒の健康・安全教育と教職員の役割 第4・5回 救急処置 (実習: CPR, AED) 第6回 学校における安全・犯罪被害の防止 第7回 子どもの発育・発達 第8回 性教育 第9回 災害と学校安全—地震と防災 第10回 災害にあった子どものこころのケア 第11回 児童生徒の感染症—学校感染症を中心に— 第12回 学校で気をつけて欲しい児童生徒の病気 第13回 学校における慢性疾患をもつ子どもへの支援 第14回 学校環境衛生の管理 第15回 保健教育 (食についての教育を含む)

	* 講義の進行状況によって、内容が変わったり、順番が入れ替わる可能性があります。
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	テキストに各授業のテーマを示しています。 事前にテキストを読んで、予習して講義に臨んでください。
(18)学問分野 1(主学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある 教員による 授業科目について	-
(20)教材・教科書	専用のテキストがあります。 テキストを生協から購入の上、オリエンテーションに必ず持参すること。
(21)参考文献	授業中に、適宜、参考文献を紹介します。
(22)成績評価方法 及び採点基準	毎回授業の終わりに、課題を出します。 テキスト巻末に解答用紙（兼出席票）がありますので、それで提出して下さい。 成績評価は、各教員の成績を総合して判定します。 試験日は設けません。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・ 授業方法	救急処置の回は実習を行います。 それ以外は、講義です。
(25)留意点・予 備知識	1) 前期中に受講の意思確認を行います。掲示板を通じて連絡するので、受講希望者は注意深く掲示板に目を通すこと。 2) 救急処置の回は第2体育館で実習を行います。日程が決定次第お知らせします。動きやすい服装・内履きで望むこと。今までに、弘前地区消防事務組合の普通救命講習を受講したことがある学生は修了証を提示してください。 生協より、キューマスク（フェイスシールド）を事前に購入し持参してください。
(26)オフィスア ワー	各教員の単独授業を参照。
(27)Eメールア ドレス・HPアド レス	各教員の単独授業を参照。
(28)その他	欠席を3回以上すると多くの場合、合格点に届かないことが多いので留意して下さい。

教育学部

(1)整理番号	3
(2)区分番号	3
(3)科目種別	教育学部
(4)授業科目名〔英文名〕	地域コラボレーション演習I (Regional Collaboration Seminar I)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	水曜日 7・8時限 集中演習（主に土曜日 午前中）
(10)担当教員（所属）	地域連携支援室・学務委員会
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度（レベル）	レベル1
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○地域と学校が抱える今日的な教育の諸問題を理解すること（見通す力） ○それに対応できる高い人間性とコミュニケーションを養うこと（解決する力） ○柔軟な思考力を持つ教員になる意欲を向上させること（学び続ける力）
(15)授業の概要	地域協働型教員養成プログラムの一つであり、弘前市教育委員会関連行事に参加します。弘前市教育委員会は、弘前市教育委員会指導主事による事前講義を受講した後、弘前市教育委員会が開設している「放課後子ども教室・BiBiっとスペース」にて、小・中学生の学習サポート（学校からの宿題、小・中学生各自が持ってくる課題について解き方などをアドバイスする。）をしながら子どもたちとの関わり方について体験します。学びの共有空間）にて、小・中学生の学習サポート（学校からの宿題、小・中学生各自が持ってくる課題について解き方などをアドバイスする。）をしながら子どもたちとの関わり方について体験します。

(16)授業 の内容予定	※実施日時等は演習の配属場所等により各自異なります。 ※日程は決まり次第掲示等で連絡します。
(17)準備 学習（予 習・復習） 等の内容	予習としては、小学校・中学校での学習内容の確認（90分） 復習としては、省察会（90分）
(18)学問 分野1(主 学問分野)	教育学関連
(18)学問 分野2(副 学問分野)	-
(18)学問 分野3(副 学問分野)	-
(19)実務 経験のある 教員による 授業科目に ついて	実務教員
(20)教 材・教科書	小学校や中学校の教科書など
(21)参考 文献	小学校や中学校の参考書など
(22)成績 評価方法及 び採点基準	実地演習の状況及び報告書により総合的に評価します。
(23)授業 形式	演習
(24)授業 形態・授業 方法	弘前市教育委員会の内容： 講義及び「放課後子ども教室・BiBiっとスペース」での実地演習
(25)留意 点・予備知 識	授業に関連する行事については、教育学部グループウェアA-Netにて掲示されま す。掲示を確認後、行事への参加を希望する学生は教育学部教務担当に届出をし、 必要な手続きを済ませ履修します。 欠席・遅刻する場合や、緊急の事態（交通事故など）が生じた場合は、必ず所定の ところへ速やかに連絡すること。 またインフルエンザの流行や、台風・大雪などによる災害の危険性により、急に事 業中止になる場合はA-NETと掲示板で通知するので、頻りにチェックしておくこ と。
(26)オフ イスアワー	ガイダンス時にお知らせします。
(27)Eメー ルアドレ	ガイダンス時にお知らせします。

ス・HPアドレス	
(28)その他	教育委員会の指導主事の先生などからレクチャーを受けます。弘前市内での活動です。

教育学部

(1)整理番号	4
(2)区分番号	4
(3)科目種別	教育学部
(4)授業科目名〔英文名〕	地域コラボレーション演習II (Regional Collaboration Seminar II)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	水曜日 9・10時限 集中演習（主に土曜日 午前中）
(10)担当教員（所属）	地域連携支援室・学務委員会
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度（レベル）	レベル1
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○地域と学校が抱える今日的な教育の諸問題を理解すること（見通す力） ○それに対応できる高い人間性とコミュニケーションを養うこと（解決する力） ○柔軟な思考力を持つ教員になる意欲を向上させること（学び続ける力）
(15)授業の概要	主に近隣5市町村（黒石市・平川市・田舎館村・藤崎町・大鰐町）の教育委員会関連行事や関連施設にて、子どもと触れ合う内容を中心とした地域協働型教員養成プログラムの一つです。僻地体験や近隣地域における学習ボランティア、公民館活動や子ども会支援等の教育活動に参加し、地域社会とかかわりの深い実習の充実を図るなど、教育的観点から地域住民との交流を盛んに行います。この授業は活動参加時間を積み立てることにより単位を修得します。活動内容は、各教育委員会関連行事の中から各自選択し、マッチングを行った後に参加します。活動内容については、選択する行事により異なります。

(16)授業 の内容予定	※実施日時等は演習の配属場所等により各自異なります。 ※日程は決まり次第掲示等で連絡します。
(17)準備 学習（予 習・復習） 等の内容	予習としては、小学校・中学校での学習内容の確認（90分） 復習としては、省察会（90分）
(18)学問 分野1(主学 問分野)	教育学関連
(18)学問 分野2(副学 問分野)	-
(18)学問 分野3(副学 問分野)	-
(19)実務 経験のある 教員による 授業科目に ついて	実務教員
(20)教 材・教科書	小学校や中学校の教科書など
(21)参考 文献	小学校や中学校の参考書など
(22)成績 評価方法及 び採点基準	実地実習の報告書により総合的に評価します。
(23)授業 形式	演習
(24)授業 形態・授業 方法	学内・学外での集中授業で、放課後、土曜日・日曜日ならびに冬季・学年末の休業中に実施されます。
(25)留意 点・予備知 識	授業に関連する行事については、教育学部グループウェアA-Netにて掲示されます。掲示を確認後、行事への参加を希望する学生は教育学部教務担当に届出をし、必要な手続きを済ませ履修します。 欠席・遅刻する場合や、緊急の事態（交通事故など）が生じた場合は、必ず所定のところへ速やかに連絡すること。 またインフルエンザの流行や、台風・大雪などによる災害の危険性により、急に事業中止になる場合はA-NETと掲示板で通知するので、頻りにチェックしておくこと。
(26)オフ イスアワー	ガイダンス時にお知らせします。
(27)Eメー ルアドレ	ガイダンス時にお知らせします。

ス・HPアドレス	
(28)その他	教育委員会の指導主事の先生などからレクチャーを受けます。 中南地区での活動です。

教育学部

(1)整理番号	5
(2)区分番号	5
(3)科目種別	教育学部
(4)授業科目名〔英文名〕	卒業研究 (Graduation Research)
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	必修
(7)単位	6 (15P以前は8単位)
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員 (所属)	各指導教員
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル4
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○研究テーマの文脈、背景を先行研究を通して見通す力を身につけること (見通す力) ○Research Question(s)を解決するための方法論を身につけること (解決する力) ○研究の汎用可能性を考える力を身につけること (学び続ける力)
(15)授業の概要	1) 研究背景を踏まえ適切な問題設定を行う。 2) 1)に相応しい方法論を探る。 3) 1) 2)を経て、分析、検討、結論等の手順により、研究の基礎を身につける。
(16)授業の内容予定	1) 論文とは 2) Titleについて 3) Context/Background: 先行研究について 4) Aim/Problemsについて 5) Research Questionsについて 6) Methods: Qualitative質的研究について 7) Methods: Quantitative量的研究について 8) Methods: Mixed method質量両方の研究について 9) Procedure/ Participants 11) Process of Analysis: データに分析について 12) Results/Findings: なにを見出したか 13) 検討 14) 結論と今後 15) 参考文献、引用について
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	研究方法によって時間配分は異なるが、週7時間程度の取り組みが必要。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員

(20)教材・教科書	各教員により指示される。
(21)参考文献	各教員により指示される。
(22)成績評価方法及び採点基準	主査、副査等複数の教員により論文、及び口述により評価される(100%)。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	セミナー形式
(25)留意点・予備知識	各教員により指示される。
(26)オフィスアワー	各教員のオフィスアワーを参照のこと。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	各教員のアドレスを参照のこと。
(28)その他	特になし。

教育学部

(1)整理番号	6
(2)区分番号	6
(3)科目種別	教育学部
(4)授業科目名〔英文名〕	企業等実習 (Internship)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	4
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員 (所属)	キャリアセンター
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	○自身の興味・関心のある企業や官公庁等での就業体験をとおり、職業観・勤労観を育み、自身の進路決定の参考とすること
(15)授業の概要	・5日間以上 (週30時間以上) のインターンシップへの参加 ・事前研修会、事後研修会への参加
(16)授業の内容予定	1. オリエンテーション 2. インターンシップ先の決定 3. 事前研修会 3. インターンシップ参加 4. 日誌・報告書提出 5. 事後研修会 ※詳細はオリエンテーションで説明
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	オリエンテーションで説明
(18)学問分野1(主学問分野)	-
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	オリエンテーションで説明
(21)参考文献	オリエンテーションで説明
(22)成績評価方法及び採点基準	オリエンテーションで説明
	実習

(23)授業形式	
(24)授業形態・授業方法	学外での実習
(25)留意点・予備知識	オリエンテーションで説明
(26)オフィスアワー	オリエンテーションで説明
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	オリエンテーションで説明
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	7
(2)区分番号	7
(3)科目種別	教育学部
(4)授業科目名〔英文名〕	介護等体験実習 (Practical Training for Nursing Cares)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等教育専攻：必修
(7)単位	1
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所属)	附属教育実践総合センター教育実習部門教員、大高明史(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル1
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的な到達目標	○特別支援学校と社会福祉施設での介護体験を通して、教員として必要な個人の尊厳および社会連帯の理念に関する認識を深めること
(15)授業の概要	ガイダンスで介護等体験実習の意義や留意点を学んだうえで、特別支援学校で2日間、社会福祉施設で5日間の介護等体験を行う。
(16)授業の内容予定	ガイダンス 1回目 : 介護等体験の意義と体験にあたっての留意点 ガイダンス 2回目 : 特別支援学校配属のグループ分けと事前学習、社会福祉施設への登録方法 特別支援学校：連続した2日間の体験を実施する。 社会福祉施設：連続した5日間の介護等体験を実施する。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	介護等体験の実習の意義をテキストで学んでおくこと。 自分の配属が決まった特別支援学校や社会福祉施設の特性を知り、児童生徒や利用者への留意点を確認したうえで実習に臨むこと。
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	全国特別支援学校長会(編)特別支援学校における介護等体験ガイドブック フィリア. ジ アース教育出版 特別支援学校、社会福祉施設ごとに、実習時の注意点や持ち物などをまとめた印刷物を用意する。
(21)参考文献	介護等体験実習の位置付けについては、「弘前大学教育実習手引」が参考になる。

(22)成績評価方法及び採点基準	ガイダンスおよび実習時への出席や取り組みの状況と事後に提出する下の二つの課題の内容で総合的に評価する。 ・特別支援学校：事後の省察文 ・社会福祉施設：実習日誌への毎日の記入および総括
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	特別支援学校および社会福祉施設での実習
(25)留意点・予備知識	社会福祉施設の実習に要する費用として5日間で10,000円が必要、ガイダンス時に徴収する。 実習の費用（テキスト代，食費，交通費）は自己負担。
(26)オフィスアワー	月曜5コマ目（大高）
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ohataka@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし。

教育学部

(1)整理番号	8
(2)区分番号	8
(3)科目種別	教育学部
(4)授業科目名〔英文名〕	キャリアサポート実習I (Career Support I)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所属)	地域連携支援室・学務委員会
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○キャリア教育の基礎となるコミュニケーションやプレゼンテーション等のスキルアップ(見通す力) ○研修と実践を通して、コミュニケーション・コーチング・ファシリテーションの方法を習得すること(解決する力)
(15)授業の概要	中・高校生と大学生による対話型のワークショップ「キャリアサポ」を通して、互いに成長を促し、キャリア形成の糧とするプログラム
(16)授業の内容予定	青森県教育委員会が主催する「キャリアサポ」事業への参加。大学生の働きかけにより、高校生が自らの夢の実現に向かって主体的に行動し、やる気や意欲を引き出すためのワークショップ「キャリアサポ」を実施する事業です。 あわせて、この事業に関わる大学生は、所定の研修を修了することや実践活動によってスキルアップを図ります。 所定研修 1) 基礎研修の受講 2) ワークショップ演習の受講 3) 合同リハーサル 4) 高校企画へ参加 5) レポート提出

(17)準備学習（予習・復習）等の内容	予習としては、キャリアサポ事業への話し合いや準備作業。（90分） 復習としては、実施したキャリアサポ事業の省察会。（90分）
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	特にありません。
(21)参考文献	特に指定はありませんが、キャリア教育に関する書物や資料になります。
(22)成績評価方法及び採点基準	キャリアサポ事業への参加状況や貢献度
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	青森県内の高校での実習活動
(25)留意点・予備知識	4月に青森県教育委員会によるキャリアサポ事業に関する説明会があります。事業に参加するためには、参加エントリーと研修の受講が必要です。
(26)オフィスアワー	ガイダンス時にお知らせします。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	http://www.alis.pref.aomori.lg.jp/kouza_caresupo.html
(28)その他	青森県教育委員会の講師によりレクチャーを受けます。 青森県内の学校で実践します。

教育学部

(1)整理番号	9
(2)区分番号	9
(3)科目種別	教育学部
(4)授業科目名〔英文名〕	キャリアサポート実習II (Career Support II)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	通年
(9)曜日・時間	集中
(10)担当教員(所属)	地域連携支援室・学務委員会
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○キャリア教育の基礎となるコミュニケーションやプレゼンテーション等のスキルアップ(見通す力) ○研修と実践を通して、コミュニケーション・コーチング・ファシリテーションの方法を習得すること(解決する力)
(15)授業の概要	中・高校生と大学生による対話型のワークショップ「キャリサポ」を通して、互いに成長を促し、キャリア形成の糧とするプログラム
(16)授業の内容予定	青森県教育委員会が主催する「キャリサポ」事業への参加。大学生の働きかけにより、高校生が自らの夢の実現に向かって主体的に行動し、やる気や意欲を引き出すためのワークショップ「キャリサポ」を実施する事業です。 あわせて、この事業に関わる大学生は、所定の研修を修了することや実践活動によってスキルアップを図ります。 所定研修 1) 基礎研修の受講 2) ワークショップ演習の受講 3) 合同リハーサル 4) 高校企画へ参加 5) レポート提出
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習としては、キャリサポ事業への話し合いや準備作業。(90分) 復習としては、実施したキャリサポ事業の省察会。(90分)
	教育学関連

(18)学問分野 1(主学問分野)	
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	特にありません。
(21)参考文献	特に指定はありませんが、キャリア教育に関する書物や資料になります。
(22)成績評価方法及び採点基準	キャリアサポ事業への参加状況や貢献度
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	青森県内の高校での実習活動
(25)留意点・予備知識	4月に青森県教育委員会によるキャリアサポ事業に関する説明会があります。事業に参加するためには、参加エントリーと研修の受講が必要です。
(26)オフィスアワー	ガイダンス時にお知らせします。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	alis.pref.aomori.lg.jp/kouza_caresupo.html
(28)その他	青森県教育委員会の講師によりレクチャーを受けます。 青森県内の学校で実践します。

教育学部

(1)整理番号	10
(2)区分番号	10
(3)科目種別	教育学部
(4)授業科目名〔英文名〕	健康教育実習 (Training of health education)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所属)	清水紀人 (教育学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業とし	○子どもや成人の「健康・スポーツ指導」の現場を体験して、その大変さと大切さを理解すること ○子どもや成人の指導のノウハウを獲得し、健康教育の意味と意義を理解すること

ての 具 体 的 到 達 目 標	
(15) 授 業 の 概 要	学校外の体育・スポーツ施設で子どもや成人を対象とした指導プログラムのアシスタントを体験して、その意義と問題点について考察します。学校外で指導することの難しさと意義を体験的に理解することがねらいです。
(16) 授 業 の 内 容 予 定	いくつかの施設のうち、受講者が選択した施設で2.5時間程度の実習を行います。施設の都合により、実習時期が異なるので、自分の実技能力と時間的都合に合わせて選択して下さい。 1回目：オリエンテーション 2回目～15回目：各施設により実習内容が違います。 16回目：実習を通して学んだことについての報告会を行います。
(17) 準 備 学 習 (予 習・ 復 習) 等 の 内 容	運動生理学とスポーツ心理学の内容をに関する図書を読んで基礎知識を身につけて下さい。
(18) 学 問 分 野 1(主 学 問 分 野)	スポーツ科学関連
(18) 学 問 分 野 2(副 学 問 分 野)	体育関連
(18) 学 問 分 野 3(副 学 問 分 野)	-
(19) 実 務 経 験 の あ る 教 員 に よ る 授 業 科 目 に つ い て	-
(20) 教 材・	特になし

教科書	
(21) 参考文献	特になし
(22) 成績評価方法及び採点基準	「実習場所の責任者の評価」：60% 「実習場所のあり方について健康教育的見地からの分析レポート並びに報告会の評価」：40% 上記を合算して成績評価を行います。
(23) 授業形式	実習
(24) 授業形態・授業方法	実習現場での実践
(25) 留意点・予備知識	※受講科目内容の詳細並びに受講を希望する学生は、4月中に清水までその旨をメールで伝えて下さい。その際には必ず件名に「健康教育実習」、内容に「学籍番号」氏名を入れて下さい。学外での実習です。きちんとした大人の対応とその場にあった服装を着用するよう留意すること。また、履修に当たっては途中放棄することの無いようにして下さい。受講にあたっては特段の予備知識は必要としません。
(26) オフィスアワー	(木) 14:30~15:30
(27) Eメールアドレス・HPアドレス	nori@hirosaki-u.ac.jp 教育者総覧 http://db.im.hirosaki-u.ac.jp/cybouz/db_exe?page=DBRecord&did=1988&vid=718&rid=2419&text=%90%B4%90%85%81%40%8B%49%90%6C&Head=&hid=&sid=n&rev=0&ssid=
(28) その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	11
(2)区分番号	11
(3)科目種別	教育学部
(4)授業科目名 〔英文名〕	環境教育演習 (Seminar on Environmental Education)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員 (所属)	○小岩 直人 (教育学部) ・大高 明史 (教育学部) ・勝川 健三 (教育学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての 具体的到達目標	○観察実習等を通して、地域の自然の特徴を説明できるようになること (見通す力)
(15)授業の概要	秋田県や青森県内の自然環境の観察実習などを通して、地域の自然環境についての理解を深めるとともに、生態系の保全や減災に向けた考察力を養います。
(16)授業の内容 予定	<p>本演習は、秋田県北西部・青森県南西部において、おもに次の1～3を実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 地形の観察 ①台地 3. 地形の観察 ②低地 4. 地形の観察 ③砂丘 5. 地質・岩石の観察 ① 6. 地質・岩石の観察 ② 7. 地質・岩石の観察 ③ 8. 植物・動物の観察 ① 9. 植物・動物の観察 ② 10. 植物・動物の観察 ③ 11. 植物・動物の観察 ④ 12. 観察結果整理①地形 13. 観察結果整理②岩石・地質 14. 観察結果整理③植物・動物 15. まとめ
(17)準備学習 (予習・復習)等 の内容	ガイダンス時に紹介される文献、資料を実習時までにとまとめておくこと。

(18)学問分野 1(主学問分野)	地球惑星科学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	個体レベルから集団レベルの生物学と人類学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	農芸化学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	実習時に資料を配布します。
(21)参考文献	授業中に指示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	演習・実習時の様子やレポートをもとに評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	実習・演習
(25)留意点・予備知識	必修科目「環境教育概論」の発展科目であり、異なる科目であることに注意。 基本的には1泊2日の宿泊を伴う授業、土曜日（1～2回）の実習を主体とします。授業の実施方法の全体については、授業日程等は掲示でお知らせします。なお、宿泊に伴う経費は個人負担となります。地域自然環境基礎実習と同時開講。
(26)オフィスアワー	水曜日10:20～11:50
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	koiwa@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	12
(2)区分番号	12
(3)科目種別	教育学部
(4)授業科目名〔英文名〕	国際理解教育 (Intercultural Understanding)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所属)	○野呂徳治 (教育学部) ・ 土屋陽子 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル1~3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○グローバルな人材の基礎となる英語力のスキルアップ (見通す力) ○ホームステイや現地の大学での交流を通して、コミュニケーションコンピタンスを習得すること (解決する力) ○異文化について体験を通して理解するとともに、日本の文化についても日本の外から見つめることでその特質や価値について理解を深めること (学び続ける力)
(15)授業の概要	2月中旬～3月上旬の3週間、米国メイン州オロノ町でホームステイをしながら本学の姉妹校であるメイン大学英語集中学習センターにおいて英語コミュニケーション能力を高める授業を受けます。また、授業の一部として、米国並びにメイン州の文化についても体験的に学びます。なお、本授業の実施にあたっては教育学部英語教育講座の担当教員が学生を引率し、滞在中は授業及びホームステイについて指導・助言するとともに必要な支援を行います。
	本プログラムは、以下に示す事前指導および、メイン州での短期語学研修を行います。 5月下旬：第1回事前指導・説明会

(16)授業 の内容予 定	<p>7月中旬：第2回事前指導・説明会 10月中旬：第3回事前指導・説明会 12月中旬：第4回事前指導・説明会 1月下旬：第5回事前指導・説明会 2月中旬：最終打ち合わせ、弘前出発・メイン州オロノ到着 2月中旬～3月上旬：メイン州立メイン大学での授業・ホームステイ 第1週（月曜～金曜） スピーキング・リスニング DVD視聴・リーディング ライティング（ジャーナル） 語彙学習 Conversation partners（メイン大学学生）との会話練習及び交流 メイン大学Page Farm Museum訪問 第2週（月曜～金曜） スピーキング・リスニング DVD視聴・リーディング ライティング（スキット作成） 語彙学習 Conversation partners（メイン大学学生）との会話練習及び交流 メイン大学Hudson Museum訪問 第3週（月曜～金曜） スピーキング・リスニング DVD視聴・リーディング ライティング（スキット作成） プレゼンテーション 語彙学習 Conversation partners（メイン大学学生）との会話練習及び交流 Brewer Middle School訪問 3月中旬：帰国 授業内容はメイン大学英語集中学習センターとの協議により変更される場合があります。</p>
(17)準備 学習（予 習・復 習）等の 内容	<p>○事前指導として計6回の説明があります。 ○メイン州立メイン大学の授業担当者から、授業終了時に復習内容と、次回の予習について連絡があります。 ○各自、必要に応じて自主的に学習を行ってください。</p>
(18)学問 分野1(主 学問分野)	言語学関連
(18)学問 分野2(副 学問分野)	教育学関連
(18)学問 分野3(副 学問分野)	-
(19)実務 経験のある 教員によ る授業 科目につ いて	-
	事前の説明会及び現地で適宜配布します。

(20)教材・教科書	
(21)参考文献	事前の説明会で指示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	事前の説明会および現地での研修時の取り組み状況で総合的に評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	<p>本学の姉妹校であるメイン州立メイン大学（アメリカ合衆国メイン州オロノ）において学部教員の引率の下に短期語学研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学での英語の授業 ・ホームステイによる異文化交流体験 ・現地の中学校訪問（Brewer Middle School）・現地の中学生との交流会
(25)留意点・予備知識	<p>○全ての経費は参加者負担となります（平成31年度の経費は約40万円の見込み）。</p> <p>○定員は20名で、全学部学生・大学院生が参加できます。希望者は早めに担当教員（教育学部英語教育講座・野呂徳治）まで連絡してください。第1回説明会は5月下旬に開催予定。</p> <p>○本授業は後期開講の「言語教育演習」（2単位）と合同授業となるので、履修希望者は「国際理解教育」並びに「言語教育演習」の両方の授業登録をしてください。</p> <p>○事前に数回にわたって実施される説明会には必ず参加してください。</p>
(26)オフィスアワー	野呂徳治：水曜日5・6時限
(27)メールアドレス・HPアドレス	<p>Email（野呂徳治）：norotoku@hirosaki-u.ac.jp</p> <p>HPアドレス：http://siva.cc.hirosaki-u.ac.jp/usr/norotoku/maine/index.html</p>
(28)その他	「国際理解教育」の2単位は、希望があれば英語科教員免許取得の必修科目である「比較文化」の2単位に読み替えることができます。

教育学部

(1)整理番号	13
(2)区分番号	13
(3)科目種別	教育学部
(4)授業科目名〔英文名〕	言語教育演習 (Foreign Language Education Seminar)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所属)	○野呂徳治 (教育学部) ・ 土屋陽子 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル1~3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○グローバルな人材の基礎となる英語力のスキルアップ (見通す力) ○ホームステイや現地の大学での交流を通して、コミュニケーションコンピタンスを習得すること (解決する力) ○異文化について体験を通して理解するとともに、日本の文化についても日本の外から見つめることでその特質や価値について理解を深めること (学び続ける力)
(15)授業の概要	2月中旬～3月上旬の3週間、米国メイン州オロノ町でホームステイをしながら本学の姉妹校であるメイン大学英語集中学習センターにおいて英語コミュニケーション能力を高める授業を受けます。また、授業の一部として、米国並びにメイン州の文化についても体験的に学びます。なお、本授業の実施にあたっては教育学部英語教育講座の担当教員が学生を引率し、滞在中は授業及びホームステイについて指導・助言するとともに必要な支援を行います。
	本プログラムは、以下に示す事前指導および、メイン州での短期語学研修を行います。 5月下旬：第1回事前指導・説明会

(16)授業 の内容予 定	<p>7月中旬：第2回事前指導・説明会 10月中旬：第3回事前指導・説明会 12月中旬：第4回事前指導・説明会 1月下旬：第5回事前指導・説明会 2月中旬：最終打ち合わせ、弘前出発・メイン州オロノ到着 2月中旬～3月上旬：メイン州立メイン大学での授業・ホームステイ 第1週（月曜～金曜） スピーキング・リスニング DVD視聴・リーディング ライティング（ジャーナル） 語彙学習 Conversation partners（メイン大学学生）との会話練習及び交流 メイン大学Page Farm Museum訪問 第2週（月曜～金曜） スピーキング・リスニング DVD視聴・リーディング ライティング（スキット作成） 語彙学習 Conversation partners（メイン大学学生）との会話練習及び交流 メイン大学Hudson Museum訪問 第3週（月曜～金曜） スピーキング・リスニング DVD視聴・リーディング ライティング（スキット作成） プレゼンテーション 語彙学習 Conversation partners（メイン大学学生）との会話練習及び交流 Brewer Middle School訪問 3月中旬：帰国 授業内容はメイン大学英語集中学習センターとの協議により変更される場合があります。</p>
(17)準備 学習（予 習・復 習）等の 内容	<p>○事前指導として計6回の説明があります。 ○メイン州立メイン大学の授業担当者から、授業終了時に復習内容と、次回の予習について連絡があります。 ○各自、必要に応じて自主的に学習を行ってください。</p>
(18)学問 分野1(主 学問分野)	言語学関連
(18)学問 分野2(副 学問分野)	教育学関連
(18)学問 分野3(副 学問分野)	-
(19)実務 経験のある 教員によ る授業 科目につ いて	-
	事前の説明会及び現地で適宜配布します。

(20)教材・教科書	
(21)参考文献	事前の説明会で指示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	事前の説明会および現地での語学研修時の取り組み状況で総合的に評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	<p>本学の姉妹校であるメイン州立メイン大学（アメリカ合衆国メイン州オロノ）において学部教員の引率の下に短期語学研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学での英語の授業 ・ホームステイによる異文化交流体験 ・中学校訪問（Brewer Middle School）・現地の中学生との交流会
(25)留意点・予備知識	<p>○全ての経費は参加者負担となります（平成31年度の経費は約40万円の見込み）。</p> <p>○定員は20名で、全学部学生・大学院生が参加できます。希望者は早めに担当教員（教育学部英語教育講座・野呂徳治）まで連絡してください。第1回説明会は5月下旬に開催予定。</p> <p>○本授業は後期開講の「言語教育演習」（2単位）と合同授業となるので、履修希望者は「国際理解教育」並びに「言語教育演習」の両方の授業登録をしてください。</p> <p>○事前に数回にわたって実施される説明会には必ず参加してください。</p>
(26)オフィスアワー	野呂徳治：水曜日5・6時限
(27)メールアドレス・HPアドレス	<p>Email（野呂徳治）：norotoku@hirosaki-u.ac.jp</p> <p>HPアドレス：http://siva.cc.hirosaki-u.ac.jp/usr/norotoku/maine/index.html</p>
(28)その他	特にありません。

教育学部

(1)整理番号	14
(2)区分番号	14
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英 文名〕	教職入門 (Introduction Teachers Theory)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員 (所 属)	○吉中 淳 (教育学部) 附属教育実践総合センター教職実践演習部門教員 (教育学部) 新谷ますみ・田中義久・宮崎充治 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベ ル)	レベル2
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具 体的到達目標	○現代社会における教職を取り巻く状況を踏まえつつ、教職の意義、教 員の役割・資質能力・職務内容、学校内外の専門家との連携等について の理解を深めること ○自らの教職キャリア形成について展望すること
(15)授業の概要	学部教員による講義、教職経験者による講話、及び小中学校における観 察実習とその検討会を通じて、上記についての理解深化やキャリア形成 を図ることとする。 なお、この科目は、教職導入科目として位置づくものであり、今後の大 学における講義・実習の基礎的な意義を与える契機として重要な役割を もつ。
(16)授業の内容予定	第1回 オリエンテーション (教職実践演習部門教員) 第2回 公教育の担い手としての教員とその社会的意義 (福島裕 敏) 第3回 教職観の変遷と今日の教員に求められる役割 (福島裕敏) 第4回 教職の魅力①: 教員の職務の全体像 (宮崎充治) 第5回 教職の魅力②: 教員の職能成長 (宮崎充治) 第6回 教職の特徴と教職キャリア形成 (吉中淳) 第7回 教職に求められる基礎的能力 (田中義久) 第8回 校内外の専門家との連携 (新谷ますみ) 第9回 教員のサービス上の義務及び身分保障 (福島裕敏) 第10~14回 教職の実際 (小中学校参観とその省察) (教職実践演習部 門教員) * 小中学校をそれぞれ1日ずつ訪問し、午前に校長講話・授業観察2 校時分をおこない、午後にグループごとに学校訪問についての省察 (振 り返り) を大学にておこなう。 第15回 まとめ: 教職についての省察 (教職実践演習部門教員)
(17)準備学習 (予 習・復習) 等の内容	各日、学習内容の省察のため日誌の作成を課す。
	教育学関連

(18)学問分野1(主学問分野)	
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	弘前大学教育学部（2019）『教育実習手引』
(21)参考文献	中央教育審議会（2015）『これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について ―学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築について（答申）』 同上 『チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について（答申）』 今津孝次郎（2012）『教師が育つ条件』岩波新書 岩瀬直樹他（2014）『せんせいのつくり方』旬報社 *その他、適宜指示する
(22)成績評価方法及び採点基準	下記により最終的な成績評価を行う予定 <1> 各日の日誌（省察）：20% <2> 授業への参加度：40% <3> レポート（ア授業観察記録 イ観察実習のまとめ ウ教職キャリアの到達点と課題）：40% 上記をもとに総合的に判断する。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	4日間の集中でおこなう。 講義を主とするが、演習やグループワークを一部含む。 特に、第10～14回では、授業観察の結果をグループに分かれて省察することになっている。
(25)留意点・予備知識	7月末にガイダンスを実施する。詳細については、掲示板にて確認すること。
(26)オフィスアワー	吉中のオフィスアワー：前後期ともに木曜日12:00～13:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	yosinaka%hirosaki-u. ac. jp(%を@に代える)
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	15
(2)区分番号	15
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	人間教育論I (The Basic Study of Human Education I)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等教育専攻小学校コース：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 5・6時限
(10)担当教員(所属)	桐村 豪文(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○教育についてより深く思考する手がかりを得ることができること ○教育をめぐる諸課題について、理論的に自ら思考することができること
(15)授業の概要	○教育という“当たり前”の営みについて改めて問い直し、教育の本質とは何かを共に思考したい。 ○まずはこれまで教育学が探求してきた中で、何が問題とされてきたか、そしてどのように考えられてきたかを知ることから始める。 ○また、社会がめまぐるしく変化する中で、教育がどのように変化してきたかという歴史的事実を受け止め、自分なりに教育のあるべき姿を思考してほしい。
(16)授業の内容予定	第1回 イン트로ダクション 第2回 教育とは何か？ 第3回 子どもとはどんな存在か？：野生児から考える 第4回 学ぶとは？：自己と他者 第5回 言語と学び：ヘレン・ケラーは何を学んだか？ 第6回 発達とは？：社会の発展と子どもの発達 第7回 学校での学びとは？ 第8回 社会と学校教育：教育の目的とは？ 第9回 道徳教育にどう向き合う？ 第10回 体罰は許されるか？ 第11回 学力とどう向き合う？ 第12回 学力とどう向き合う？(2) 第13回 学ぶを教えるとは？ 第14回 学ぶを教えるとは？(2) 第15回 教師の自己形成・育ちを共に考える 第16回 試験 授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	【予習】 次回の授業までに読解してくる課題を授業中に与える。 【復習】 毎回の授業終わりに、振り返りを行うミニツツペーパーの提出を求める。次回の授業までにオンラインで提出することを課題とす

	る。 予習・復習を合わせて約1時間/週の学習を要する。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書は指定せず、プリントを配布する。
(21)参考文献	授業中に適宜紹介する。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（ミニツツペーパー）：30% レポート：20% 期末試験：50% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定。 詳細は第1回授業で説明する。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	○講義を聴く。 ○問いをもとにペアワークまたはグループワークを行う。 ○ミニツツペーパーを提出する。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	火曜日13時～15時
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	kirimura%hirosaki-u.ac.jp（%を@に変更）
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	16
(2)区分番号	16
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	人間教育論I (The Basic Study of Human Education I)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等教育専攻中学校コース・特別支援教育専攻・養護教諭養成課程：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 5・6時限
(10)担当教員(所属)	松本 大(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○教育の理念、歴史さらには思想に関する教育学の基礎的知識を獲得すること
(15)授業の概要	教育の理念や思想などを社会的・歴史的に探究することによって教育の本質について理解を深める。
(16)授業の内容予定	第1回：イントロダクション—教育とは何か— 第2回：人間と教育 第3回：子ども観の形成とその背景 第4回：教育の理念と思想(1)—よい教育とはどのような教育か— 第5回：教育の理念と思想(2)—よい教え方とはどのようなものか— 第6回：近代公教育の成立と特徴 第7回：日本の近代化と学校教育 第8回：日本国憲法と旧教育基本法 第9回：教育を受ける権利と「子どもの権利条約」 第10回：教育行政の基本理念 第11回：教育改革の動向と改正教育基本法 第12回：学力問題と教育政策 第13回：現代社会における教育問題(1)—地域学校協働活動— 第14回：現代社会における教育問題(2)—「子どもの貧困」と教育— 第15回：教師の学びと専門性 第16回：試験 授業の進行状況等により内容が異なる場合がある。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(1) ふだんから教育問題に目を向け、複眼的に考察すること。 (2) 授業で紹介する参考文献や教育関連の文献を読んでみる
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
	-

(19)実務経験のある教員による授業科目について	
(20)教材・教科書	教科書は使用しない。毎回パワーポイント資料を配布する。
(21)参考文献	授業中に適宜紹介する
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（10%）、中間レポート（20%）、最終試験（70%）。採点基準は授業中に説明する。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	木曜12時～13時
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	dai% hirosaki-u. ac. jp（%を@に変更）
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	17
(2)区分番号	17
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英 文名〕	西洋の子どもと学校史 (History of School and Child in Europe)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日 5・6時限
(10)担当教員(所 属)	福島 裕敏(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベ ル)	レベル2
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての 具体的到達目標	○教育思想の展開について西欧社会を中心に学び、近代<教育>思想につ いての理解を深めること
(15)授業の概要	教育思想の展開について、西欧社会のそれを中心に学んでいく。その際、 <教育>という近代特有の人づくりのかたちの成立について注目しながら、 その前史とその後の展開について学んでいく。 授業を通じて、近代<教育>が抱える難しさとそれに挑んだ先人たちの 営みを知り、現代の教育をあらためて考える視点を得られるようにした い。
(16)授業の内容予 定	各回の予定は下記のとおり。 第1回 ガイダンス 第2回 <教育>思想という視座 第3回 <教育>論の萌芽 第4回 宗教改革の<教育>性 第5回 市民革命期の教育思想 第6回 国民国家と教育の制度化 第7回 学校制度と教育学の誕生 第8回 労働者教育と労働の教育性 第9回 マルクス主義教育学と作業主義 第10回 教育の民族性 第11回 教育とジェンダー 第12回 新教育論の思想的性格 第13回 非<教育>の思想 第14回 予備日 第15回 まとめ
(17)準備学習(予 習・復習)等の内容	事前学習WSにもとづく予習を前提として講義をおこなう。
(18)学問分野1(主 学問分野)	教育学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	歴史学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	レポート課題としては下記の文献を予定。 ジョン・デューイ（1938=2004）『経験と教育』講談社学術文庫 別途プリントを配布する。
(21)参考文献	中内敏夫（1998）『教育思想史』岩波書店 宮澤康人（1993）『近代の教育思想』放送大学出版会 広田照幸（2009）『ヒューマニティーズ教育学』岩波書店 その他授業中に指示する。
(22)成績評価方法及び採点基準	下記にもとづき、最終的な成績評価をおこなう予定 ・事前学習WS：30% ・中間レポート：30% ・最終レポート：40%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	学生小集団による作業を踏まえて講義をおこなう。
(25)留意点・予備知識	世界史・日本史の基本的知識を有していることが望ましい。
(26)オフィスアワー	火 昼休み・3コマ
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	hirof%hirosaki-u. ac. jp (%を@に変更)
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	18
(2)区分番号	18
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名 〔英文名〕	人間教育論II (The Basic Study of Human Education II)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	学校教育教員養成課程：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日 5・6時限
(10)担当教員 (所属)	○吉中 淳 (教育学部)・田名場 忍 (教育学部)・松田 侑子 (教育学部)・野寄 茉莉 (教育学部)・新任教員 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル1
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての 具体的到達目標	○幼児教育及び学校教育全般の基礎的概念を学び、心理学的観点から人間教育を考えることができるようになること (見通す力)
(15)授業の概要	発達教育総論 幼児、児童及び生徒の心身の発達等に関する理解を図るため、教育における発達(幼児の心理を含む)を中心とした心理学的諸過程や教育についての基本的理解を得させ、次学年以降の教育過程の心理学的な理解の導入として位置づける。
(16)授業の内容 予定	第1回： ガイダンス (担当：吉中) 第2回： 発達とは何か (担当：吉中) 第3回： 発達に関する代表的理論 (担当：吉中) 第4回： 発達の相互作用説 (担当：吉中) 第5回： 教育と発達 (担当：吉中) 第6回： 言語の発達 (担当：野寄) 第7回： 認知・思考の発達 (担当：野寄) 第8回： 社会性の発達(幼児期) (担当：野寄) 第9回： 社会性の発達(児童期以降) (担当：松田) 第10回： 運動機能の発達 (担当：松田) 第11回： 学習理論とその実践 (担当：松田) 第12回： 動機づけと学習意欲 (担当：松田) 第13回： 教育評価の方法と留意点 (担当：田名場) 第14回： 学級集団と集団規範 (担当：田名場) 第15回： 児童生徒の個別性に応じた指導・支援 (担当：田名場) 第16回： 試験
(17)準備学習 (予習・復習)等 の内容	授業で学習した内容についてはよく復習をしておいて下さい。教育心理学のテキストの発達の部分などを読んでおけば授業理解が進むでしょう。

(18)学問分野 1(主学問分野)	心理学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	プリント等を適宜配布する。
(21)参考文献	バーバラ M. ニューマン／フィリップ R. ニューマン著 福富護訳 新版 生涯発達心理学 1988年刊 川島書店
(22)成績評価方法及び採点基準	担当教員全員が出題する期末試験で評価する（100%）。 評価点は各教員の担当時間数に応じ按分する。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	大教室で資料を配付したり、パワーポイントなどを使った講義を行います。
(25)留意点・予備知識	欠席しないこと
(26)オフィスアワー	吉中のオフィスアワー：前後期ともに木曜日12:00～13:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	吉中のメールアドレス yosinaka@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特にありません。

教育学部

(1)整理番号	19
(2)区分番号	19
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名 〔英文名〕	発達と学習 (Development and Learning)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	養護教諭養成課程：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中 (9/24-26)
(10)担当教員 (所属)	安達 知郎 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての 具体的到達目標	○児童・生徒の運動、認知、言語、自己、社会性がどのような過程を経て、発達するのか、あるいは、発達に困難が生じるのかを理解すること ○さらに、児童・生徒の学習支援の基礎となる心理学的知見 (学習意欲、学習行動、教育評価、教授学習法) について理解すること
(15)授業の概要	乳児期、幼児期、児童期、青年期、成人期初期の運動、認知、言語、自己、社会性の発達、および、それらの発達に見られる困難について講義を行う。その上で、学校現場で必要となる学習意欲、学習行動、教育評価、および、教授学習法についての講義を行う。
(16)授業の内容 予定	第1回：ガイダンス 第2回：発達とは 第3回：発達心理学の諸理論 第4回：青年期の発達 第5回：成人初期の発達 第6回：乳児期の発達 運動、認知、言語 第7回：乳児期の発達 社会面 第8回：幼児期の発達 認知、言語 第9回：幼児期の発達 自己、社会性 第10回：児童期の発達 第11回：乳児期、幼児期、児童期の発達の困難 第12回：学習意欲 (動機付け) 第13回：学習行動の基礎 第14回：教育評価 第15回：教授学習法 * 授業の内容、進度は状況によって変更になる場合があります。
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	自らのこれまでの体験を授業内容に合わせふりかえる

(18)学問分野 1(主学問分野)	心理学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	授業内で適宜、紹介します
(21)参考文献	よくわかる発達心理学第2版（無藤・岡本・大坪、ミネルヴァ書房、2009） よくわかる発達臨床心理学第4版（麻生・浜田、ミネルヴァ書房、2012）
(22)成績評価方法及び採点基準	期末レポート（100%）
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義
(25)留意点・予備知識	とくにありません
(26)オフィスアワー	水曜日 12：00～12：30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	adachi あつとまーく hirosaki-u. ac. jp
(28)その他	とくにありません

教育学部

(1)整理番号	20
(2)区分番号	20
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名 〔英文名〕	学習心理学 (Psychology of Learning)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日 5・6時限
(10)担当教員 (所属)	平岡 恭一 (非常勤講師)
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル1~3
(13)対応する CP/DP	CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業とし ての具体的到 達目標	○学ぶということの心理学的過程について基本的な概念を身につけ、その視点から教育活動をとらえることができるようになること
(15)授業の概 要	行動と認知の学習。学習は行動的学習と認知的学習とに分けられる。この授業では両方に同程度の重点をおき、条件づけに基づいた行動理論体系と情報処理に基づいた認知的アプローチについて要説する。基礎を中心とし、教育活動への応用も考慮しつつ進めたい。
(16)授業の内 容予定	第1回 学習の定義・理論 第2回 古典的条件づけ (基本) 第3回 古典的条件づけ (展開) 第4回 オペラント条件づけ (基本) 第5回 オペラント条件づけ (展開) 第6回 条件づけの応用 第7回 報酬(強化)と罰 第8回 社会的学習 第9回 記憶と忘却の過程 第10回 忘却の理論 第11回 記憶の仕組み 第12回 心理学に基づく学習指導法 (行動理論編) 第13回 心理学に基づく学習指導法 (認知理論編) 第14回 心理学に基づく学習指導法 (新たな発展) 第15回 学習の転移 第16回 筆記試験
(17)準備学習 (予習・復 習)等の内容	復習に力を入れ、講義内容のおさらいを十分して欲しい。予習としては、資料に目を通しておけば講義内容の理解の助けになるであろう。

(18)学問分野 1(主学問分野)	心理学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験 のある教員に よる授業科目 について	-
(20)教材・教 科書	授業中に資料を配付する。
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価 方法及び採点 基準	平常評価（授業への参加度）15%、期末評価（期末筆記試験）85%とし、 これらを総合して、最終的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	講義
(24)授業形 態・授業方法	主に資料と板書によって内容を伝達するが、パソコンによるバーチャル実験や ビデオ視聴なども含む。
(25)留意点・ 予備知識	特になし
(26)オフィス アワー	なし
(27)Eメール アドレス・HP アドレス	hiraoka@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	22
(2)区分番号	22
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名 〔英文名〕	教育の社会制度論II (Social Structure and History of Education II)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日 3・4時限
(10)担当教員 (所属)	桐村 豪文 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての 具体的到達目標	<p>○現代の教育制度について、その背景にある様々な社会的課題も併せて、大要を理解すること</p> <p>○昨今の教育改革について、全体の政策的流れを踏まえて理解すること</p> <p>○教育制度の在り方について、批判的に思考できること</p>
(15)授業の概要	<p>○冷戦終結後、教育をめぐる対立は、かつての保守／革新の対立軸から別の形へと変わってきた。安定しない対立軸のもと、揺れ動く教育改革は、それでも次々に打ち出されてきた。我々は、こうした改革の波をどう受け止めるべきなのか。</p> <p>○本授業では、こうした課題について正しく思考するため、教育制度の基礎について理解し、教育政策が作られる過程やその正当性を評価する視点についても学ぶ。</p> <p>○また、グローバル化、情報化、少子高齢化などの社会変化の中で、教育はどのように変化することが求められているのか、その課題と現在進行する諸政策について学ぶ。</p> <p>○そのうえで、改めて教育制度・教育政策がどうあるべきかについて、自ら思考することを求める。</p>
(16)授業の内容 予定	<p>第1回 ガイダンス【※第1回は二階大教室で教育の社会制度論Ⅲと合同で実施する。】</p> <p>第2回 現代の教職と学校</p> <p>第3回 戦後における学校教育の整備と発展 (1)</p> <p>第4回 戦後における学校教育の整備と発展 (2)</p> <p>第5回 現代社会における学校教育の課題状況 (1)</p> <p>第6回 現代社会における学校教育の課題状況 (2)</p> <p>第7回 戦後日本のあゆみ</p> <p>第8回 学校教育を支える法制度 (1)</p> <p>第9回 学校教育を支える法制度 (2)</p> <p>第10回 中央における教育行政の組織と運営</p> <p>第11回 地方における教育行政の組織と運営</p> <p>第12回 教育課程行政とカリキュラム開発</p> <p>第13回 学校の組織と経営</p>

	第14回 学校経営の現代的課題と学校組織の特徴 第15回 地域コミュニティの中の学校経営 第16回 最終試験
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	【予習】教科書の指定する箇所を次回までに読解すること。 【復習】毎回授業後にミニッツペーパーの提出を求める。次回の授業までにオンラインで提出してもらう。 予習・復習を合わせて約1時間/週の学習を要する。
(18)学問分野 1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	浜田博文編著(2014)『教育の経営・制度(新・教職課程シリーズ)』一藝社
(21)参考文献	高見茂, 杉本均, 南部広孝編著(2018)『教育制度(教職教養講座)』協同出版 河野和清編著(2017)『現代教育の制度と行政[改訂版]』福村出版
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価(ミニッツペーパー): 30% レポート: 20% 最終試験: 50% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定。 詳細は第1回授業で説明する。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	<input type="radio"/> 講義を聴く。 <input type="radio"/> 問いをもとにワークを行う。 <input type="radio"/> ミニッツペーパーを提出する。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	火曜日13時~15時
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	kirimura%hirosaki-u.ac.jp (%を@に変更)
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	23
(2)区分番号	23
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	教育の社会制度論III (Social Structure and History of Education III)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日 3・4時限
(10)担当教員(所属)	福島 裕敏(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○日本における教育制度の歴史的展開について、社会の変容などに関わらせながら理解すること ○公教育の原理・理念・構造について理解すること ○現在の教育制度の在り方を相対化する視点をもつこと
(15)授業の概要	近代学校制度の歴史的展開について社会の変容などに関わらせながら学習していく。その際、＜教育＞という近代独自の思想にとってどのような可能性と制約をもっていたのか、制度にこめられた意図とその結果はどのようなものだったのか、現在との関わりとは何かについて考えていきたい。それらを通じて現代教育制度を相対化する視点を育てたい。
(16)授業の内容予定	各回の授業内容の予定は下記のとおり。 第1回 ガイダンス 第2回 近代学校制度への歴史的視座 第3回 近世以前の教育・学校① 第4回 近世以前の教育・学校② 第5回 近代教育制度の成立 第6回 教育勅語体制の確立 第7回 義務教育制度の具体的展開 第8回 教育制度の普及・拡大 第9回 教育制度の捉え直し①(新教育運動) 第10回 教育制度の捉え直し②(生活綴方と教育科学運動) 第11回 戦時下の教育制度 第12回 戦後教育改革 第13回 高度経済成長以降の教育制度 第14回 教育改革時代の教育制度 第15回 まとめ
	事前学習WSの作成を前提として授業を進める

(17)準備学習 (予習・復習)等の内容	
(18)学問分野 1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	歴史学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	社会学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	片桐芳雄・木村元(2017)『教育から見る日本の社会と歴史』八千代出版
(21)参考文献	勝田守一・中内敏夫(1964)『日本の学校』岩波新書 木村元(2015)『学校の戦後史』岩波新書 佐藤秀夫(1987)『学校ことはじめ事典』小学館 教育史学会(2007)『教育史研究の最前線』日本図書センター
(22)成績評価方法及び採点基準	以下を合算して、最終的な評価を行う予定 事前学習WS : 30% 期末試験 : 70%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義を基本とする。
(25)留意点・予備知識	・初回(第1回)は「教育の社会制度論Ⅱ」と合同で教育学部2F大教室でおこなう。 ・「人間教育論Ⅰ」「人間教育論Ⅱ」「子どもとカリキュラム」「人を育む営み(教育学への誘い)(人の成長)」「歴史学の基礎」など。 ・本授業の発展として、「西洋と子どもと学校史」がある。そこでは、教育思想史を扱う。
(26)オフィスアワー	火 昼休み・3コマ
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	hirof%hirosaki-u. ac. jp(%を@に変更)
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	24
(2)区分番号	24
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	生涯学習論 (Introduction to Lifelong Learning)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日 1・2時限
(10)担当教員(所属)	松本 大(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的な到達目標	○社会教育・生涯学習の制度・政策、実践、理念の基礎を理解できること
(15)授業の概要	(1) 学校教育以外に存在する、暮らしに根づき生活や社会をよりよく創りだす教育・学習の可能性を考察する。 (2) 社会教育・生涯学習の制度や理念の基礎を学ぶ。
(16)授業の内容予定	第1回：社会教育・生涯学習とは何か—社会教育・生涯学習を学ぶ意味— 第2回：なぜ生涯学習なのか(1)—夜間中学と識字教育— 第3回：なぜ生涯学習なのか(2)—不登校・フリースクールと生涯学習— 第4回：なぜ生涯学習なのか(3)—「子どもの貧困」と生涯学習— 第5回：ユネスコの生涯学習政策(1)—ラングランからジェルピまで— 第6回：ユネスコの生涯学習政策(2)—学習権宣言からベレンまで— 第7回：OECDの生涯学習政策 第8回：戦前社会教育行政 第9回：戦後社会教育行政 第10回：近年の自治体改革と社会教育行政 第11回：社会教育施設とは何か 第12回：NPO・ボランティアと生涯学習 第13回：地域学校協働活動とは何か(1)—学社連携と「開かれた学校づくり」— 第14回：地域学校協働活動とは何か(2)—支援から連携・協働へ— 第15回：防災と「学校・家庭・地域の連携」 第16回：試験 授業の進行状況等により内容が異なる場合がある
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	新聞や書籍などで社会教育実践について自ら情報収集し、社会教育の事例に関する「引き出し」を増やすよう心がけること。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
	-

(18)学問分野2(副学問分野)	
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書は使用しない。毎回パワーポイント資料を配布する。
(21)参考文献	適宜授業の中で紹介する。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（10%）、中間レポート（20%）、最終試験（70%）
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義
(25)留意点・予備知識	社会教育主事任用資格取得のための必修科目である。
(26)オフィスアワー	木曜12時～13時
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	dai%hirosaki-u. ac. jp（%を@に変更）
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	25
(2)区分番号	25
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	教育行財政 (Educational Administration and Finance)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 9・10時限
(10)担当教員(所属)	桐村 豪文(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○我が国における教育行財政制度について、その基本的な仕組みを広く理解するとともに、これらが抱える今日的課題について考えを深めること
(15)授業の概要	今日における我が国の公教育制度の構造とその理念、これを支える教育行財政の役割を理解する。その上で、近年の地方分権改革や規制改革を背景とした教育改革がもたらした影響について検討する。
(16)授業の内容予定	第1回 インTRODクシヨN 第2回 教育行政の概念 第3回 教育政策と教育行政 第4回 教育法規と教育行政 第5回 教育行政の基本原理解(1) 第6回 教育行政の基本原理解(2) 第7回 中央教育行政の組織 第8回 地方教育行政の組織 第9回 学校経営 第10回 生涯学習行政 第11回 教育財政 第12回 教育課程行政 第13回 教員に関わる教育行政 第14回 近年の教育改革 第15回 総括
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	【予習】教科書の指定する箇所を次回までに読解し、その内容に対するコメント(疑問、意見、わからない点など)を次回授業までにオンラインで提出する。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
	-

(18)学問分野2(副学問分野)	
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	高見茂 服部憲児編著 (2016) 『教育行政提要 (平成版)』協同出版
(21)参考文献	授業内で適宜紹介する。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価 (コメントの提出、発表) : 50% 期末レポート : 50%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	○教科書の指定する箇所を次回までに読解し、その内容に対するコメント (疑問、意見、わからない点など) を次回授業までにオンラインで提出する。 ○発表担当者が作成したレジュメをもとに発表する。 ○発表担当者が提示する論点、また事前に提出してもらったコメントを踏まえ議論し、理解を深める。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	火曜日13時~15時
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	kirimura%hirosaki-u. ac. jp (%を@に変更)
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	26
(2)区分番号	26
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英 文名〕	社会教育計画論 (Planning Theory of Adult Education)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日 3・4時限
(10)担当教員(所 属)	松本 大(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベ ル)	レベル3
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての 具体的到達目標	○社会教育の立場から、アートと学習、さらにアートと地域づくりとの関係性について考察できること ○社会教育や成人教育という「学校教育以外の教育の可能性」を理解・考察できること
(15)授業の概要	アートと社会教育を主たるテーマとし、アートという観点から社会教育実践を理解・展開するための基礎的・実践的な知識を学ぶ。具体的には、文献講読を進めながら、アートと社会教育をめぐる理論と実践を検討する。
(16)授業の内容予 定	第1回：オリエンテーション 第2回：社会教育計画とは何か 第3回：テキスト発表(第1章) 第4回：テキスト発表(第2章、第3章) 第5回：テキスト発表(第4章、第5章) 第6回：テキスト発表(第6章、第7章) 第7回：テキスト発表(第8章、第9章) 第8回：テキスト発表(第10章、第11章) 第9回：中間まとめ 第10回：「アートと地域づくり」論文発表(1) 第11回：「アートと地域づくり」論文発表(2) 第12回：「博物館と社会教育」論文発表(1) 第13回：「博物館と社会教育」論文発表(2) 第14回：「博物館と社会教育」論文発表(3) 第15回：まとめ授業の進行状況等により内容が異なる場合がある。
(17)準備学習(予 習・復習)等の内 容	(1)発表担当者はレジュメを作成すること。それ以外の者はテキストを精読してくること。 (2)新聞や書籍などで社会教育実践について自ら情報収集し、社会教育の事例に関する「引き出し」を増やすよう心がけること。
(18)学問分野1(主 学問分野)	教育学関連
	-

(18)学問分野2(副学問分野)	
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	畑潤・草野滋之編『表現・文化活動の社会教育学-生活のなかで感性と知性を育む-』学文社、2007年。
(21)参考文献	授業中に紹介する
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への参加度（20%）、発表内容（40%）、最終レポート（40%）
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	文献講読を進めながら、適宜解説を行う。
(25)留意点・予備知識	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生涯学習論、社会教育特殊講義、社会教育演習を履修していることが望ましい。 (2) 子どもや学校教育についてはほとんど扱わない。 (3) 社会教育主事任用資格取得にかかわる必修科目である。
(26)オフィスアワー	木曜12時～13時
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	dai% hirosaki-u. ac. jp（%を@に変更）
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	27
(2)区分番号	27
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	インクルーシブ教育概論 (Introduction to Inclusive Education)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日 1・2時限
(10)担当教員(所属)	○増田 貴人(教育学部)・吉中 淳(教育学部)・中山 忠政(教育学部)・天海 丈久(教育学部)・吉田 美穂(教育学部)・菊池 春香(非常勤講師)・小山内 筆子(非常勤講師)・白石 公揮(非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○学校教員として必要とされるインクルーシブ教育について、一般的な知識を獲得すること
(15)授業の概要	オムニバス形式で児童生徒の発達の諸側面についての理解をふまえ、通常の学級にも在籍する特別な教育的ニーズ(障害、貧困、異文化・外国籍)のある児童・生徒の心理や支援(理念や制度、実際)について学ぶ。
(16)授業の内容予定	授業予定：進捗状況等によっては、内容を変更することもある。 ①4/11 オリエンテーション、導入 (増田) ②4/18 発達(1) 知能・認知 (吉中) ③4/25 発達(2) 言語 (小山内) ④5/9 発達(3) 社会性 (吉中) ⑤5/16 発達障害と発達検査 (菊池) ⑥5/23 特別支援教育の開始とその範囲 (中山) ⑦5/30 障害者権利条約とインクルーシブ教育 (中山)

	⑧6/6 特別な教育的ニーズのある児童生徒と教育課程 (天海) ⑨6/13 個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成と関係機関との連携 (天海) ⑩6/20 肢体不自由児の環境と促進・阻害因子 (増田) ⑪6/27 発達障害・知的障害児にみられる学習性無力感 (増田) ⑫7/4 特別支援教育での支援の実際 (総論) (白石) ⑬7/11 特別支援教育での支援の実際 (各論) (白石) ⑭7/25 外国につながる子どもの教育的ニーズと支援の実際 (吉田) ⑮8/1 子どもの貧困の現状と教育支援の実際 (吉田) ⑯8/8 試験
(17) 準備学習(予習・復習)等の内容	授業でわからないことはそのままにせず、質問などで解決させるようにするなど予習・復習に努めること。
(18) 学問分野 1(主学問分野)	教育学関連
(18) 学問分野 2(副学問分野)	心理学関連
(18) 学問分野 3(副学問分野)	社会学関連
(19) 実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20) 教材・教科書	小林秀之他編(2018)『特別支援教育 共生社会の実現に向けて』ミネルヴァ書房
(21) 参考文献	参考資料は授業内で適宜資料を配付・紹介する。
(22) 成績評価方法及び採点基準	<p>試験。授業で扱った範囲の中から小問が5題出題され、全て回答する。合計の正答が60%以上で合格とする。ただし、出席が規定に満たない場合、最終試験を受験しても採点対象には含めない。</p> <p>成績不良を理由とする再試験・レポート等のいわゆる“救済措置”は、卒業年次であっても、原則として一切実施しない。</p> <p>病気・けが等で試験を受けられなかった場合は、教務等でしかるべき手続きをとること。また事前に試験が受けられないことがわかっている場合は、事前に窓口教員に相談して下さい。いずれも、状況に応じて追試験の日程を別途調整・実施します。</p>
(23) 授業形式	講義
(24) 授業形式	オムニバス形式での講義

態・授業方法	
(25) 留意点・予備知識	<p>1. 受講について 初回時に回収する受講カード未提出者（初回欠席者）の受講は、試験の受験を認めません。ご注意ください。事情があって出席できない者は、事前連絡があった場合のみ受講・受験を認めます。</p> <p>2. 欠席への配慮 合理的事由で授業に出席できないことがわかっていれば、事前に申し出た場合のみできるかぎり配慮します（証明できるものを準備してください）。なお実習については、証明書等は不要ですが、欠席する日のみお知らせいただければ結構です。</p>
(26) オフィスアワー	<p>増田：月曜7・8時限（とりまとめ：増田） 出欠や成績の集計、苦情処理はとりまとめ教員が行いますが、授業内容については、授業担当教員にそれぞれ相談すること。</p>
(27) Eメールアドレス・HPアドレス	<p>tmasuda@hirosaki-u.ac.jp</p>
(28) その他	<p>授業内容の変更や試験時の教室等については、その都度掲示にて連絡する。</p> <p>●7回目（障害者権利条約とインクルーシブ教育）に使用する文献は、以下の通りである。 （1）共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告） http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/gijiroku/_icsFiles/afieldfile/2012/07/24/1323733_8.pdf 【注意】「報告」にはページ数が打たれていないので、表紙を1ページとしてページ数を示してある。 （2）障害者の権利に関する条約（和文／英文） https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/iinken/index_shogaisha.html ※「和文（PDF）」は縦書きのため、「（和文／英文）」のものが使いやすい。 （3）障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律 https://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/law_h25-65.html （4）障害を理由とする差別の解消の推進に関する基本方針 https://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/sabekai/kihonhoushin/pdf/honbun.pdf</p>

教育学部

(1)整理番号	28
(2)区分番号	28
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	子どもとカリキュラム（初等）（Children and Curriculum (Primary)）
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等教育専攻小学校コース・特別支援教育専攻（小コース選択）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日 5・6時限
(10)担当教員（所属）	森本 洋介（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○初等教育の教育課程の理論的側面並びに実際面、課題等について理解すること（CP・DP1 見通す力） ○教師として授業をつくる力を構想することができること（CP・DP1 見通す力）
(15)授業	初等教育を中心とした教育課程の意義、類型及び領域等について触れ、教育課程を編成する法的根拠としての学習指導要領の特質と課題について検討する。

の概要	
(16) 授業の内容予定	<p>第1回 ガイダンス 第2回 カリキュラムとは何か 第3回 学習指導要領の変遷①(1947年～教育の現代化) 第4回 学習指導要領の変遷②(「ゆとり」～2008年告示) 第5回 現行学習指導要領の特質・構造 第6回 今日の学力観(PISA型学力)と教育課程 第7回 「学力低下論」 第8回 諸外国の教育課程 第9回 総合的な学習の時間および特別活動 第10回 教育課程の編成原理・条件 第11回 教育課程経営とカリキュラム・マネジメント 第12回 教科横断的な教育内容の実践と社会に開かれた教育課程①(メディア・リテラシー) 第13回 教科横断的な教育内容の実践と社会に開かれた教育課程②(国際理解教育) 第14回 教科横断的な教育内容の実践と社会に開かれた教育課程③(環境教育・SDGs) 第15回 まとめ ※担当者の都合により、部分的に変更となる可能性がある</p>
(17) 準備学習(予習・復習)等の内容	当該学習事項について授業内容の復習をするとともに、次回の授業内容について各自である程度調べてくること。
(18) 学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18) 学問分野2(副学問分野)	-
(18) 学問分野3(副学問分野)	-
(19) 実務経験のある教員による授業科目について	-
(20) 教材・教科書	小学校学習指導要領(平成29年3月告示)、小学校学習指導要領解説(平成29年6月告示)
(21) 参考文献	『新しい時代の教育課程第4版』(田中耕治他、有斐閣アルマ)
(22) 成績評価	試験に相当する課題(60%)及び授業での提出物(40%)で評価する。

方法及び採点基準	
(23) 授業形式	講義
(24) 授業形態・授業方法	基本的に講義形式で運営するが、状況によってグループワークや調べ学習などを授業内に入れ、アクティブ・ラーニング形式を行う場合もある。
(25) 留意点・予備知識	本授業の単位取得は3年次Tuesday実習を行うための要件にもなっている。欠席・遅刻は厳禁とし、欠席・遅刻があった場合には成績に大きく影響させる。
(26) オフィスアワー	金曜16:00-17:30
(27) Eメールアドレス・HPアドレス	morimoto%hirosaki-u.ac.jp(%を@に変換) http://db.jm.hirosaki-u.ac.jp/cybouz/db.exe?page=DBRecord&did=1988&vid=718&rid=1653&head=&hid=&sid=&rev=1&ssid=&fvid=18701&text=%90%58%96%7B%81%40%97%6D%89%EE&cal=
(28) その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	29
(2)区分番号	29
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	子どもとカリキュラム（中等）（Children and Curriculum (Secondary)）
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等教育専攻中学校コース・特別支援教育専攻（中コース選択）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員（所属）	○森本 洋介（教育学部）・上野 秀人（教育学研究科）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○中等教育の教育課程の理論的側面並びに実際面、課題等について理解すること（CP・DP1 見通す力） ○教師として授業をつくる力を構想することができること（CP・DP1 見通す力）
(15)授業	中等教育を中心とした教育課程の意義、類型及び領域等について触れ、教育課程を編成する法的根拠としての学習指導要領の特質と課題について検討する。

の概要	
(16) 授業の内容予定	<p>第1回 ガイダンス (森本・上野) 第2回 カリキュラムとは何か (上野) 第3回 学習指導要領の変遷① (1947年～教育の現代化) (上野) 第4回 学習指導要領の変遷② (「ゆとり」～2008年告示) (上野) 第5回 現行学習指導要領の特質・構造 (上野) 第6回 今日の学力観 (PISA型学力) と教育課程 (森本) 第7回 「学力低下論」 (森本) 第8回 諸外国の教育課程 (森本) 第9回 総合的な学習の時間および特別活動 (上野) 第10回 教育課程の編成原理・条件 (森本) 第11回 教育課程経営とカリキュラム・マネジメント (森本) 第12回 教科横断的な教育内容の実践と社会に開かれた教育課程① (メディア・リテラシー) (森本) 第13回 教科横断的な教育内容の実践と社会に開かれた教育課程② (国際理解教育) (森本) 第14回 教科横断的な教育内容の実践と社会に開かれた教育課程③ (環境教育・SDGs) (上野) 第15回 まとめ (森本・上野) ※担当者の都合により、部分的に変更となる可能性がある。森本と上野で分担して授業を運営するが、授業内容によっては「子どもとカリキュラム (初等)」と合同で授業を行う場合もありうる。</p>
(17) 準備学習 (予習・復習) 等の内容	<p>当該学習事項について授業内容の復習をするとともに、次回の授業内容について各自である程度調べてくること。</p>
(18) 学問分野 1(主学問分野)	<p>教育学関連</p>
(18) 学問分野 2(副学問分野)	<p>-</p>
(18) 学問分野 3(副学問分野)	<p>-</p>
(19) 実務経験のある教員による授業科目について	<p>-</p>
(20) 教材・教科書	<p>中学校学習指導要領 (平成29年3月告示)、中学校学習指導要領解説 (平成29年6月告示)</p>
(21) 参考文献	<p>『新しい時代の教育課程第4版』 (田中耕治他、有斐閣アルマ)</p>
(22) 成績評価	<p>試験に相当する課題 (60%) 及び授業での提出物 (40%) で評価する。</p>

方法及び採点基準	
(23) 授業形式	講義
(24) 授業形態・授業方法	基本的に講義形式で運営するが、状況によってグループワークや調べ学習などを授業内に入れ、アクティブ・ラーニング形式を行う場合もある。
(25) 留意点・予備知識	本授業の単位取得は3年次Tuesday実習を行うための要件にもなっている。欠席・遅刻は厳禁とし、欠席・遅刻があった場合には成績に大きく影響させる。
(26) オフィスアワー	金曜16:00-17:30
(27) Eメールアドレス・HPアドレス	morimoto%hirosaki-u.ac.jp(%を@に変換) http://db.jm.hirosaki-u.ac.jp/cybouz/db.exe?page=DBRecord&did=1988&vid=718&rid=1653&head=&hid=&sid=&rev=1&ssid=&fvid=18701&text=%90%58%96%7B%81%40%97%6D%89%EE&cal=
(28) その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	30
(2)区分番号	30
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	子どもとカリキュラム（初等）（Children and Curriculum (Primary)）
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員（所属）	○森本 洋介（教育学部）・平井 裕（非常勤講師）
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業とし	○初等教育について学習した事項を活用できること（CP・DP2 解決する力） ○初等教育についてのカリキュラムや学級経営、青森県における教育課題について理解すること（CP・DP1 見通す力） ○上記の目標について自分のこととして主体的に考えられるようになること（CP・DP3 学び続ける力）

<p>ての 具 体 的 到 達 目 標</p>	
<p>(15) 授 業 の 概 要</p>	<p>青森県総合学校教育センターで開催される企画や弘前大学大学院教育学研究科教職実践専攻の研究成果発表に参加し、青森県の教育課題について学ぶ。また青森県の指導主事による学級経営の技法についての講習を受ける。</p>
<p>(16) 授 業 の 内 容 予 定</p>	<p>第1回 ガイダンス 第2回 教育評価論 第3回 真正の評価 第4回 プログラミング教育 第5回 学習指導要領における資質・能力 第6回 教育課程と学級経営 第7回 青森県における教育課題①（学力） 第8回 青森県における教育課題②（子どものみとり） 第9回 青森県における教育課題③（県独自の教育課題） 第10回 学級経営の基本 第11回 青森県における教育課題の解決①（教職大学院のミドルリーダー院生1年生より） 第12回 青森県における教育課題の解決②（教職大学院の学部卒院生1年生より） 第13回 青森県における教育課題の解決③（教職大学院のミドルリーダー院生2年生より） 第14回 青森県における教育課題の解決④（教職大学院の学部卒院生2年生より） 第15回 まとめ</p>
<p>(17) 準 備 学 習 （ 予 習 ・ 復 習 ） 等 の 内 容</p>	<p>基本的に授業期間外に行われるため、企画・授業に参加できるように日程を確保しておくこと。事前に配布される資料に目を通し、授業後は各課題を作成・提出することで復習を行うこと。</p>
<p>(18) 学 問 分 野 1(主 学 問 分 野)</p>	<p>教育学関連</p>
<p>(18) 学 問 分 野 2(副 学 問 分 野)</p>	<p>-</p>
<p>(18) 学 問 分 野 3(副 学 問 分 野)</p>	<p>-</p>
<p>(19) 実 務 経 験 の あ る 教 員 に よ る 授 業 科 目</p>	<p>実務教員</p>

につ いて	
(20) 教 材・ 教科 書	特になし。
(21) 参 考 文 献	特になし。
(22) 成 績 評 価 方 法 及 び 採 点 基 準	授業への積極的な参加（50%）および課題提出（50%）
(23) 授 業 形 式	講義
(24) 授 業 形 態・ 授 業 方 法	各企画によりグループワークや講義、演習のように異なる。
(25) 留 意 点・ 予 備 知 識	やむをえない事情により各企画に参加できないことが事前にわかっている場合、当日にやむをえない事情で欠席した場合にはなんらかの代替措置を講ずる。代替措置は企画への参加と同等ないしそれ以上の課題を課す。授業日に他の予定を入れず、体調管理に気を配ること。
(26) オ フ ィ ス ア ワ ー	金曜16:00-17:30
(27) E メ ー ル ア ド レ ス・ H P ア ド レ ス	morimoto%hirosaki-u. ac. jp(%を@に変換) http://db.jm.hirosaki-u.ac.jp/cybouz/db.exe? page=DBRecord&did=1988&vid=718&rid=2392&text=%90%58%96%7B%81%40%97%6D%89%EE&Head=&hid=&sid=n&rev=0&ssid=
(28) そ の 他	特になし

教育学部

(1)整理番号	31
(2)区分番号	31
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	子どもとカリキュラム（中等）（Children and Curriculum (Secondary)）
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員（所属）	○森本 洋介（教育学部）・伴 貴代（非常勤講師）
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業とし	○中等教育について学習した事項を活用できること（CP・DP2 解決する力） ○中等教育についてのカリキュラムや学級経営、青森県における教育課題について理解すること（CP・DP1 見通す力） ○上記の目標について自分のこととして主体的に考えられるようになること（CP・DP3 学び続ける力）

<p>ての 具 体 的 到 達 目 標</p>	
<p>(15) 授 業 の 概 要</p>	<p>青森県総合学校教育センターで開催される企画や弘前大学大学院教育学研究科教職実践専攻の研究成果発表に参加し、青森県の教育課題について学ぶ。また青森県の指導主事による学級経営の技法についての講習を受ける。</p>
<p>(16) 授 業 の 内 容 予 定</p>	<p>第1回 ガイダンス 第2回 教育評価論 第3回 真正の評価 第4回 プログラミング教育 第5回 学習指導要領における資質・能力 第6回 教育課程と学級経営 第7回 青森県における教育課題①（学力） 第8回 青森県における教育課題②（子どものみとり） 第9回 青森県における教育課題③（県独自の教育課題） 第10回 学級経営の基本 第11回 青森県における教育課題の解決①（教職大学院のミドルリーダー院生1年生より） 第12回 青森県における教育課題の解決②（教職大学院の学部卒院生1年生より） 第13回 青森県における教育課題の解決③（教職大学院のミドルリーダー院生2年生より） 第14回 青森県における教育課題の解決④（教職大学院の学部卒院生2年生より） 第15回 まとめ</p>
<p>(17) 準 備 学 習 （ 予 習 ・ 復 習 ） 等 の 内 容</p>	<p>基本的に授業期間外に行われるため、企画・授業に参加できるように日程を確保しておくこと。事前に配布される資料に目を通し、授業後は各課題を作成・提出することで復習を行うこと。</p>
<p>(18) 学 問 分 野 1(主 学 問 分 野)</p>	<p>教育学関連</p>
<p>(18) 学 問 分 野 2(副 学 問 分 野)</p>	<p>-</p>
<p>(18) 学 問 分 野 3(副 学 問 分 野)</p>	<p>-</p>
<p>(19) 実 務 経 験 の あ る 教 員 に よ る 授 業 科 目</p>	<p>実務教員</p>

につ いて	
(20) 教 材・ 教科 書	特になし。
(21) 参 考 文 献	特になし。
(22) 成 績 評 価 方 法 及 び 採 点 基 準	授業への積極的な参加（50%）および課題提出（50%）
(23) 授 業 形 式	講義
(24) 授 業 形 態・ 授 業 方 法	各企画によりグループワークや講義、演習のように異なる。
(25) 留 意 点・ 予 備 知 識	やむをえない事情により各企画に参加できないことが事前にわかっている場合、当日にやむをえない事情で欠席した場合にはなんらかの代替措置を講ずる。代替措置は企画への参加と同等ないしそれ以上の課題を課す。授業日に他の予定を入れず、体調管理に気を配ること。
(26) オ フ ィ ス ア ワ ー	金曜16:00-17:30
(27) E メ ー ル ア ド レ ス・ HP ア ド レ ス	morimoto%hirosaki-u. ac. jp(%を@に変換) http://db.jm.hirosaki-u. ac. jp/cybouz/db. exe? page=DBRecord&did=1988&vid=718&rid=2392&text=%90%58%96%7B%81%40%97%6D%89%EE&Head=&hid=&sid=n&rev=0&ssid=
(28) そ の 他	特になし

教育学部

(1)整理番号	32
(2)区分番号	32
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	小学校国語科教育法 (Teaching Methodology of Japanese Language and Literature for Elementary School Teachers)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等 (小コース) ・特支 (小コース) : 必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 5・6時限
(10)担当教員 (所属)	○鈴木 愛理 (教育学部) ・田中 拓郎 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○小学校の国語教育の理論と方法に関する基本的な知識を身につけること (見通す力) ○小学校国語科の教材について分析・考察し、それをもとに授業を構想し、学習指導案を作成することができること (解決する力) ○模擬授業を検討することにより、授業を改善する視点をもつことができること (学び続ける力)
(15)授業の概要	・小学校の教員として、国語科の授業を担当するために知っておかなくてはならない基本的な知識を学び、国語科授業を構想し、学習指導案を作成するための力を養う。 ・模擬授業の実施と振り返りを通して、授業改善の視点を身につける。
(16)授業の内容予定	第1回 オリエンテーション (鈴木) 第2回 話すこと・聞くことにおける教材研究 (鈴木) 第3回 話すこと・聞くことにおける学習指導案の作成 (鈴木) 第4回 話すこと・聞くことの模擬授業 (鈴木) 第5回 読むこと (文学) の教材研究 (鈴木) 第6回 読むこと (文学) の授業づくり① (鈴木) 第7回 読むこと (文学) の授業づくり② (鈴木) 第8回 読むこと (文学) の模擬授業 (鈴木) 第9回 読むこと (説明文) の教材研究 (田中) 第10回 読むこと (説明文) の授業づくり① (田中) 第11回 読むこと (説明文) の授業づくり② (田中) 第12回 読むこと (説明文) の模擬授業 (田中) 第13回 書くことの教材研究 (田中) 第14回 書くことの授業づくり (田中) 第15回 書くことの模擬授業 (田中) ※オムニバス形式の授業です。前半と後半で教員が入れ替わります。 ※学籍番号 (奇数・偶数) により、授業内容の順番 (前半と後半) が異なります。 ※都合により、内容や予定が変更になる場合があります。
	・授業の中で適宜指示するので、自学自習に励んでください。

(17)準備学習（予習・復習）等の内容	
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・高木まさき・寺井正憲・中村敦雄・山元隆春編著『国語科重要用語事典』明治図書、2015 ・吉田武男監修『初等国語科教育』ミネルヴァ書房、2018 ・文部科学省『小学校学習指導要領解説 国語編』 ・学研教育出版編『正しく書ける正しく使える小学漢字1006』学研プラス、2012
(21)参考文献	・授業の中で適宜紹介するので、自学自習に励んでください。
(22)成績評価方法及び採点基準	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」（文学）における学習指導案：20% ・「読むこと」（説明文）における学習指導案：20% ・「書くこと」における学習指導案：20% ・「話すこと・聞くこと」における学習指導案：20% ・授業への参加度（単なる出席回数ではない）：20%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義にグループ学習なども加えます。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	水曜日 13:00～14:00（鈴木）
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	esuzuki@hirosaki-u.ac.jp （鈴木）
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	33
(2)区分番号	33
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名 〔英文名〕	小学校社会科教育法 (Curriculum and Instruction in Teaching Elementary Social Studies)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（小コース）・特支（小コース）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 5・6時間目
(10)担当教員 (所属)	○小瑠 史朗（教育学部）・篠塚 明彦（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2～4
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての 具体的到達目標	○小学校社会科の歴史および目標を理解すること（見通す力） ○小学校社会科のカリキュラム構造と各学年の学習内容を理解すること（見通す力） ○社会科の学習指導計画を立案することができること（解決していく力）
(15)授業の概要	前半は、小学校社会科の目標及びカリキュラム構造、各学年の学習内容などについて理論的な側面から理解を深めていきます。 後半は、具体的な教育実践事例や現職の先生方の取り組みに学びながら、社会科の授業づくりについて実践的に学んでいきます。
(16)授業の内容 予定	1 ガイダンス 2 小学校社会科の位置づけと歴史 3 小学校社会科の目標とカリキュラム構造 4 小学校社会科の学習内容Ⅰ（地域学習） 5 小学校社会科の学習内容Ⅱ（国土・産業学習） 6 小学校社会科の学習内容Ⅲ（歴史学習：グローバル化対応） 7 小学校社会科の学習内容Ⅳ（憲法、国際理解、防災学習：グローバル化対応） 8 小学校社会科授業の実際（VTRによる授業分析） 9 学習指導案の様式と書き方（単元指導計画の作成） 10 学習活動のアイデアと1時間の授業構成 11 教材研究の進め方 12 各学年の学習指導の焦点 13 模擬授業と相互批評 14 実地指導講師による講義（1） 15 実地指導講師による講義（2） 16 まとめ
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	・学習指導案の作成に当たっては、授業以外の時間も活用して資料収集・教材研究に取り組んでください。

(18)学問分野 1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	社会学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	政治学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	文部科学省編『小学校学習指導要領解説 社会編』
(21)参考文献	授業内で適宜、資料を配布します。
(22)成績評価方法及び採点基準	A授業への参加状況（15%）、B学期末試験（45%）、C提出物（40%）によって総合的に評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	主として講義形式で進めます。
(25)留意点・予備知識	・社会科の優れた授業を作るためには、普段から日常生活に目を配ることが大切です。また自ら地域に向いて、資料・教材を探し出すことが求められます。講義内容を踏まえながら、普段の生活や地域を見つめ直して、学習の素材やアイデアを探してみてください。
(26)オフィスアワー	小瑤：月曜日13:00～14:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	小瑤： f-kodama@hirosaki-u.ac.jp 篠塚： a-shino@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	34
(2)区分番号	34
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名 〔英文名〕	小学校算数科教育法 (Teaching Methodology of Mathematics Education for Elementary School Teachers)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（小コース）・特支（小コース）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 1・2時限
(10)担当教員 (所属)	中野 博之（教育学研究科）
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応する CP/DP	CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業とし ての具体的到達 目標	○算数で扱う教材の背景と子どもの実態を考慮しながら、算数の授業を考えなくてはならないことを理解すること（学び続ける力）
(15)授業の概 要	算数の具体的な教材について、子どもに学習させるねらいと教材の本質はどのようなことであるのかについて学びます。それとともに実際に授業を行う際に子どもがどのような考え方を示すのかを示しそれに対応するための考え方について学びます。
(16)授業の内 容予定	<p>授業計画 算数教育の目標・内容・指導計画・評価・学習指導法などについて、具体的な指導場面の事例を中心に総合的に学びます。その中で、数学的な見方や考え方を育てることの意味と意義を考えられるようにします。</p> <p>主な内容</p> <p>第1回：算数教育の目標について—数学的な見方考え方、算数的活動 学習指導要領に示された算数科の目標の理解と共に、その目標が変更されていることを知り、どのように目標が変わっても算数を教育する意義を教師自身が考えていくことが大切であることを理解する。</p> <p>第2回：自然数の学習指導 自然数の使われ方を把握すると共に、自然数が数学的にどのように考えられているのか、また、命数法、記数法の指導はどのようにあるべきなのかを考える。</p> <p>第3回：小数と分数の学習指導 小数、分数が数の表記方法であることを理解すると共に、その指導の困難点を理解し、実際の指導の在り方を考える。</p> <p>第4回：加法と減法の学習指導 加減法が数学的にどのように定義されるのかを知ると共に、加減の問題場面を具体的な問題作成を通して考える。</p> <p>第5回：乗法と除法の学習指導 乗除法が算数としてどのように定義されるのかを知ると共に、5年生で行う乗法の意味の拡張について具体例を通して考える。</p>

第6回：比例と割合の学習指導
 乗除の式に表される前提には比例の関係があることを理解すると共に、比例の関係を図的に示した数直線を通して具体的な問題作成を行い、割合を含めた乗除の場面を統一的に捉えることを理解する。

第7回：計算方法を考え出す学習指導
 乗除の筆算ができあがる過程を順に追うことで、筆算につながる発想は子どもが作り出せることを具体的な計算を通して理解する。また、分数同士のわり算の計算方法も既習事項を基につくり出せることを具体例を通して理解する。

第8回：量と測定の学習指導
 量とは何かをとらえた上で、その指導の順序、指導上の留意点、背景にある原理を理解する。

第9回：図形の学習指導
 小学校の図形学習のねらいが基本図形概念形成にあることを理解すると共に、学年を経ることで概念をどのように豊にしていけるかを理解する。

第10回：式・関数の学習指導
 関数の考え方が変数を捉えそれを変化させていくことであることを理解した上で、具体的な問題場面でどのように活用できるのかを問題解決を通して理解する。また、式についての基本的な事項を理解すると共に、式が考え方を表していることを具体的な問題の解決を通して理解する。

第11回：統計教材の学習指導
 統計についての数学的な基本事項の理解をして上で、小学校の各学年でどのような系統を経て学習させていくのかを捉える。その後、具体的な問題解決を通して「平均」についての扱いについて理解する。

第12回：授業構成と学習計画
 学校教育は意図的計画的に行われることを踏まえた上で、算数科が学習指導要領上どのような時間数で行われているのかを理解し、さらに年間単元計画、単元計画、各授業の計画の在り方を理解する。

第13回：評価のあり方
 教育評価は目標に基づいたものであること、子どものランクづけのためにあるのではなく教師が目標を達成させるための次の行動を考えるためであることを理解し、具体的な授業の場面での評価の在り方について考える。

第14回：学習指導案
 学習指導案の基本的な内容を踏まえた上で、授業のビデオを観て、その授業がどのような指導案によって行われているのかを、実際に指導案を作成することで考え、次回の模擬授業に備える。

第15回：指導案に基づいた模擬授業の実施
 提示された算数科の教材について、本日の展開案の略案を個人で作成し、それに基づいて模擬授業を行い学生同士で相互評価をし合う。(略案作成…15分、模擬授業実施(3人で1グループを編成し1人15分間ずつ模擬授業を行う)…45分、グループ毎で模擬授業の相互評価…20分、教員による総括…10分)

第16回 定期試験
 ※授業の進度によって変更することがあります

**(17)準備学習
 (予習・復習)
 等の内容**

必要な時に指示します。

**(18)学問分野
 1(主学問分野)**

教育学関連

**(18)学問分野
 2(副学問分野)**

代数学関連

**(18)学問分野
 3(副学問分野)**

幾何学関連

**(19)実務経験
 のある教員による
 授業科目につ
 いて**

実務教員

(20)教材・教科書	小学校学習指導要領解説 算数編（文部科学省） 「新編 算数科教育研究」（東洋館出版社）
(21)参考文献	松原元一著「算数教材の考え方教え方」（国土社）
(22)成績評価方法及び採点基準	授業での態度発言、試験、提出物などから総合的に判断されます。なお、テストでは自筆のノート及び「新編算数科教育研究」は持ち込み可です
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義の中に演習的な要素が入ります。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	初回講義時にお知らせします。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	初回講義時にお知らせします。
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	35
(2)区分番号	35
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名 〔英文名〕	小学校理科教育法 (Teaching Methodology of Science for Elementary School Teachers)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（小コース）・特支（小コース）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 7・8時限
(10)担当教員 (所属)	佐藤 崇之（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○小学校理科教育の目的を理解すること（見通す力） ○小学校理科教育の内容・方法を理解すること（解決する力） ○小学校理科教育の指導計画と評価を理解すること（学び続ける力）
(15)授業の概要	小学校の理科教育の目的、内容、方法、児童の自然認識、評価について、その概略を学びます。また、理科の授業において、安全面から留意しなければならない点についても解説します。さらに、実地指導講師の方から、青森県下の小学校の理科教育の現状についても学習します。
(16)授業の内容 予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 指導案の検討（1）：指導計画を中心に 3. 指導計画と指導案 4. 理科教育の意義と目標，安全 5. 生命領域の学習内容 6. 生命領域の教材と児童の認識 7. 指導案の検討（2）：自身の担当授業を中心に 8. エネルギー領域の学習内容 9. エネルギー領域の教材と児童の認識 10. 指導案の検討（3）：単元全体の流れを中心に 11. 青森県小学校教育の現状（実地指導講師） 12. 地球領域の学習内容（グローバル化対応） 13. 地球領域の教材と児童の認識 14. 粒子領域の学習内容 15. 粒子領域の教材と児童の認識 <p>※授業の進行状況等により内容が異なる場合がある。</p>
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	<p>[予習] 学習指導要領の関係領域についての予習や、指導案の準備が必要です。</p> <p>[復習] 授業で示された事象や指導案についての考察が必要です。</p>

(18)学問分野 1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある 教員による授業科目 について	-
(20)教材・教科書	教材や資料は担当教員により講義当日に配布されます。
(21)参考文献	特になし。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（小テスト、発表など）：60% 期末評価（報告書など）：40% 上記を合算して最終的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義を中心に行い、グループ活動による指導案の作成と発表を行います。
(25)留意点・予備知識	特になし。
(26)オフィスアワー	月曜日10：20～11：50
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	satot@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし。

教育学部

(1)整理番号	36
(2)区分番号	36
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	小学校音楽科教育法 (Curriculum and Instruction in Teaching Elementary Music)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（小コース）・特支（小コース）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日 3・4時限
(10)担当教員（所属）	今田 匡彦（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	<p>一般目標： ○音楽とは何か、そのために音楽教育はどうあるべきかを思考、言語化し、実践できる能力を身につけること ○そのための基盤として学習指導要領に示された目標や内容を理解すること</p> <p>到達目標： ○学習指導要領における音楽科の目標、内容を含む全体構造を理解していること（見通す力） ○音楽科の学習内容について指導上の留意点（各領域、分野の関連性及び生徒の創意工夫等）を理解していること（見通す力） ○クリエイティビティとコミュニケーションを基盤とした音楽の学習評価の考え方を理解していること（見通す力） ○音楽科の背景となるさまざまな音楽教育思想を理解し、教材研究に活用することができること（解決する力） ○科学や他の芸術、環境と音楽科との繋がりを探求し、学習指導への位置付けを考察することができること（解決する力） ○子どもの存在、認識、身体性等を視野に入れた授業実践の重要性を理解していること（見通す力；解決する力）</p>
(15)授業の概要	<p>1) サウンドスケープ、ユニヴァーサル・デザイン等の概念を通し、学習指導要領〈音楽科〉の内容を見通す。 2) 授業の具体的な到達目標に示された内容を授業内での表現・鑑賞活動実践を通して理解する。 3) 1) 2) を踏まえ、小学校の音楽科教育の諸問題を解決していく力を身に付ける。</p>
(16)授業の内容予定	<p>1) 音楽の各領域、分野：表現（歌唱、器楽、創作9、鑑賞について：ユニヴァーサル・デザインを踏まえて 2) サウンドウォーク（鑑賞と創意工夫） 3) 図形楽譜（鑑賞から創作への連関） 4) 紙を使って（身近な音素材による鑑賞、創作、器楽の連関） 5) 紙を使ってⅡ（創作及び器楽のActive Learningについて） 6) 声Ⅰ：名前を使って（身近な音素材による鑑賞、創作、歌唱の連関） 7) 声Ⅱ：声による作品づくり（創作及び歌唱のActive Learningについて） 8) 身体Ⅰ：リズム・エクステンジ（創意工夫とコミュニケー</p>

	<p>ションについて)</p> <p>9) 身体Ⅱ：日本の動き（ナンバと狂言）（日本の伝統芸能について）</p> <p>10) 舞踊と音楽：振り付け（鑑賞と身体性について）</p> <p>11) 西洋の音階：うたについて</p> <p>12) モードによる即興演奏について</p> <p>13) 鍵盤楽器のさまざまな可能性について：アメリカ実験音楽を参考に</p> <p>14) グループによる創作活動：シアター・ピースをつくる（インクルーシヴ教育を踏まえて）</p> <p>15) 発表</p> <p>これらをベースにその背景となる哲学、歴史などについても同時に考察していきます。尚、授業の進行状況に応じて内容を変更することがあります。</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	1週間に4時間（1日40分）の予習・復習が必要。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	芸術関連
(18)学問分野3(副学問分野)	思想関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	R. マリー・シェーファー&今田匡彦『音さがしの本』増補版（春秋社）
(21)参考文献	学習指導要領
(22)成績評価方法及び採点基準	グループ別による課題発表（パフォーマンス）によって評価します。各課題の達成度：60%、最終課題の達成度：40パーセント
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義及び演習
(25)留意点・予備知識	音楽の実技能力、知識等は必要ありません。
(26)オフィスアワー	メールにてアポイントを取って下さい。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	timada@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし。

教育学部

(1)整理番号	37
(2)区分番号	37
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	小学校図画工作教育法 (Arts and Crafts for Elementary School Teachers, Teaching Methodology)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等 (小コース) ・ 特支 (小コース) : 必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日 1・2時限
(10)担当教員 (所属)	Aクラス (学籍番号奇数) 蝦名 敦子 (教育学部) Bクラス (学籍番号偶数) 富田 晃 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○図画工作科の指導内容について理解すること (見通す力) ○授業を組み立て、学習指導案が作成できるようになること (解決する力)
(15)授業の概要	○図画工作科の学習指導要領の解説。 ○実践的に指導内容 (表現と鑑賞) に取り組む。 ○学習指導案の作成する。
(16)授業の内容予定	<p>< Aクラス ></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション (授業の進め方、概要) 2. 学習指導要領の改訂について、目標、新学習指導要領 3. 学習指導要領 分析1 (材料・用具について) 4. 学習指導要領 分析2 (子どもの実態把握から) 5. 学習指導要領 分析3 (題材論から) 6. 表現 (1) 造形遊びの実践的考察 7. 造形遊びの振り返りとその他の事例 8. 表現 (2) 立体の実践 実技制作 (発想・構想) 9. 実技制作 (創造的技能)、鑑賞 10. 表現 (3) 平面 (コラージュ: 「伝えたいこと」) の実践 (モチーフの収集と発想・構想) 11. 実技制作 (創造的技能) 12. 鑑賞 (1) 表現 (3) の振り返りと自分たちの作品鑑賞 13. 学習指導案の形式的理解 14. 学習指導案の作成 15. 学習指導案の提出と確認、評価、年間指導計画について <p>< Bクラス ></p> <ol style="list-style-type: none"> 第1回 小学校図画工作科の概要と指導要領 第2回 こどもの発達と道具 (はさみ、小刀、のこぎり) 第3回 こどもの発達と工作 (ねんど) 第4回 こどもの発達と工作 (木) 第5回 こどもの発達と工作 (自然物) 第6回 こどもの発達と絵画表現の変化 第7回 こどもの発達と図画 (鉛筆・パス) 第8回 こどもの発達と図画 (水彩・モダンテクニック) 第9回 対話型鑑賞 第10回 指導案について 第11回 共同制作について

	<p>第12回 造形遊びについて 第13回 造形遊び（実践） 第14回 指導案の作成 第15回 指導案の提出と確認</p> <p>授業の進捗によって変更もあります。</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	<p>授業の内容を押さえてください。 毎回の授業で取り上げられた内容を整理し、理解しておくようにしてください。（富田）</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	芸術関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	『小学校学習指導要領解説 図画工作編 平成29年6月』文部科学省
(21)参考文献	授業の際に適宜、紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>提出作品（制作過程、レポートを含む）、鑑賞レポート、学習指導案から総合的に評価します。（蝦名） 参加姿勢(25%)、作品(25%)、レポート(25%)、指導案(25%)を総合して評価します。（富田）</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式が基本ですが、演習も含まれます。
(25)留意点・予備知識	提出物は必ず提出するようにしてください。
(26)オフィスアワー	<p>木曜日14:30～15:30（蝦名） メールにてアポイントを取ってください。（富田）</p>
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<p>eatsuko@hirosaki-u.ac.jp atomita@hirosaki-u.ac.jp</p>
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	38
(2)区分番号	38
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	小学校体育科教育法 (Curriculum and Instruction of Physical Education for Elementary School Teachers)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等 (小コース) ・特支 (小コース) : 必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日 3・4時限
(10)担当教員 (所属)	清水 紀人 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業とし	○小学校学習指導要領ならびに学習指導要領解説 (体育編) の概要が理解できるとともに、学習指導計画の目的、ねらい、作成法等が理解できるようにすること

<p>ての 具 体 的 到 達 目 標</p>	
<p>(15) 授 業 の 概 要</p>	<p>小学校学習指導要領ならびに学習指導要領解説（体育編）を中心に各運動領域や保健領域に関わる内容、学習指導計画の作成方法、児童の発育・発達の特徴を踏まえた教授方法などについて解説し、体育授業や体育的活動の基礎について学習します。</p>
<p>(16) 授 業 の 内 容 予 定</p>	<p>1回目：オリエンテーション 2回目：総説、改定の趣旨、体育科の目標について 3回目：体育科の運動領域について 4回目～11回目：各運動領域の特性と内容について 12回目：体育科における保健について 13・14回目：指導計画の作成、指導案について 15回目：体育科における評価・評定について 16回目：まとめ・筆記試験</p>
<p>(17) 準 備 学 習 (予 習・ 復 習) 等 の 内 容</p>	<p>体育科の各運動領域を事前に調べ、その内容について予備知識を得るようにして下さい。</p>
<p>(18) 学 問 分 野 1(主 学 問 分 野)</p>	<p>教育学関連</p>
<p>(18) 学 問 分 野 2(副 学 問 分 野)</p>	<p>体育関連</p>
<p>(18) 学 問 分 野 3(副 学 問 分 野)</p>	<p>-</p>
<p>(19) 実 務 経 験 の あ る 教 員 に よ る 授 業 科 目 に つ い て</p>	<p>-</p>
<p>(20) 教</p>	<p>小学校学習指導要領解説体育編（文部科学省）と配布資料を使用します。</p>

材・教科書	
(21) 参考文献	特になし
(22) 成績評価方法及び採点基準	平常評価：20%（授業への参加度。授業に対するリアクションペーパーに基づくもので、単なる出席回数ではありません。） 達成評価（理解度の確認）：80%（筆記試験50%、レポート30%） 上記を合算して成績評価を行います。
(23) 授業形式	講義
(24) 授業形態・授業方法	基本は講義形式です。一部プレゼンテーション・グループ内活動を含みます。
(25) 留意点・予備知識	小学校学習指導要領解説「体育編」を必ず購入してください。小学校体育実技基礎との関わりを念頭に学習して下さい。 授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明をします。
(26) オフィスアワー	(木) 14:30~15:30
(27) Eメールアドレス・HPアドレス	nori@hirosaki-u.ac.jp 教育者総覧 http://db.jm.hirosaki-u.ac.jp/cybouz/db.exe?page=DBRecord&did=1988&vid=718&rid=2419&text=%90%B4%90%85%81%40%8B%49%90%6C&Head=&hid=&sid=n&rev=0&ssid=
(28) その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	39
(2)区分番号	39
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	小学校家庭科教育法 (Home Economics Teaching for Elementary School Teachers)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（小コース）・特支（小コース）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日 1・2時限
(10)担当教員（所属）	小野 恭子（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○小学校家庭科の学習内容を理解すること ○家庭科の特色や、学習指導と評価の実際を理解すること ○家庭科学習に必要な技能等を修得すること
(15)授業の概要	【小学校家庭科学習論】 家庭科教育の独自性や、小・中・高校の一貫性について理解し、家庭科の学習内容等を理解する。また、指導計画（特に指導案）等を作成することを通して、家庭科の授業づくりについて学ぶ。
(16)授業の内容予定	1. 家庭科教育の変遷 2. 小学校家庭科の授業づくり（授業の観察と指導案） 3. 小学校家庭科の授業づくり（模擬授業） 4. 教材づくりの基礎 5. 消費生活と環境・食領域の学びと教材 6. 地域や国際社会を意識した家庭科教育 7. 児童の実態把握 8. 家庭科における評価 9. 学習指導要領について1 10. 学習指導要領について2 11. 家庭科の指導方法等 12. 家庭科における技能評価 13. 家庭科教育の変遷 14. 住居領域・衣服領域教材研究 15. 小学校家庭科の実際、家庭科教育の課題 16. 試験
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	教材・教科書・指導要領をよく読むこと。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	社会学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	①「小学校家庭科教育法」(建帛社) ②小学校家庭科学習指導要領解説(文部省) ③小学校家庭科教科書(東京書籍、開隆堂) ④弘前大学教育実習手引
(21)参考文献	「家庭科教育」(一藝社) 授業力UP家庭科の授業(日本標準)
(22)成績評価方法及び採点基準	成績評価は最終試験(60%)・指導案(20%)・レポート(20%)等を含む成績を総合して行う。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義と一部演習。 (グループワークを取り入れ、意見交換や共同作業を行うことがある。)
(25)留意点・予備知識	「小学校家庭科基礎」の単位を修得していることが望ましい。
(26)オフィスアワー	月曜 12:00~12:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	kyokoono@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	なし

教育学部

(1)整理番号	40
(2)区分番号	40
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	小学校生活科教育法 (Life Environment Studies Teaching for Elementary School Teachers)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（小コース）・特支（小コース）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 9・10時限
(10)担当教員（所属）	齋藤 治（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○生活科の趣旨並びに学習指導要領の目標及び主な内容等の全体構造を理解することができること（理解する力、見通す力） ○生活科の学習指導案の構造を理解し、子供中心の豊かな生活科のための具体的な授業設計と学習指導案を作成することができること（考える力、構想し立案する力、振り返る力）
(15)授業の概要	(1)生活科の目指す理念及び特徴について、子供の学びの世界や成立の背景をもとに理解する。 (2)生活科の実践の組織的な展開を図るために、学習指導要領の目標及び内容等の全体構造を理解し、実践事例を通して生活科の授業の見方・考え方を養い、子供中心の豊かな学びの具体について学ぶ。 (3)子供中心の豊かな生活科の授業づくりを想定した授業設計と学習指導案を作成して、実践的指導力を養う。
(16)授業の内容予定	(1)本授業科目の趣旨と概要「生活科ってなあに？」 (2)生活科の理念と特徴「子どもの学びや目標、背景、効果から考える」 (3)生活科の構造「目標、学年目標、内容の構造」（何を、何のために、どのように学ぶの？、そしてどうなるの？） (4)生活科の内容の概要と具体例①「〇〇あそぼう」 (5)生活科の内容の概要と具体例②「〇〇たんけん」 (6)生活科の内容の概要と具体例③「〇〇だいすき・ともだち」「〇〇そだてよう」 (7)指導計画の作成①年間指導計画の作成（子供たちの一年間の生活） (8)指導計画の作成②単元計画の作成（子供の思いや願いを生かす単元の構想） (9)指導計画の作成③学習指導案の構造と三つの観（子供観、教材観、指導観） (10)指導計画の作成④本時の学習計画の作成（生活科の基本の学習過程と展開） (11)生活科の学習評価「子供を育てる生活科の学習評価」 (12)生活科の授業づくり①「〇〇あそぼう」の単元の指導計画と評価計画 (13)生活科の授業づくり②「〇〇あそぼう」の本時の展開（主な学習活動・内容と評価規準） (14)生活科の授業づくり③「〇〇たんけん」の本時の展開（主な学習活

	<p>動・内容と評価規準・支援等) (15)生活科の授業づくりのまとめ「これまでの振り返りと展望」(討論とレポート) ※授業の進行状況により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	必要なときに適宜指示します。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 生活科編 平成29年7月 文部科学省 東洋館出版社
(21)参考文献	授業で配布する資料にて適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	毎回の授業で課すミニツッペーパーや課題レポートの提出及び試験、授業への参加度などから総合的に評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・活動や体験 ・グループ討議、演習
(25)留意点・予備知識	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が小学生の頃に学んだ生活科の学習の様子を思い出しておきましょう。 ・ハサミ、カッター、セロテープ、ホッチキス等を用意してください。
(26)オフィスアワー	特になし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	特になし
(28)その他	窓口教員：勝川健三(教育学部)

教育学部

(1)整理番号	41
(2)区分番号	41
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英 文名〕	国語科教育法 (Japanese Language and Literature Teaching)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等 (中コース国語) ・ 特支 (中コース国語) : 必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 3・4時限
(10)担当教員 (所属)	鈴木 愛理 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具 体的到達目標	○国語教育の構造に関する基本的な知識について理解すること (見通す力)
(15)授業の概要	・国語教育に関わる話題をできるだけ広く取り上げながら、討議を通して、国語教育実践を行っていくための基礎的な知識および思考力の習得をめざす。
(16)授業の内容予定	第1回：オリエンテーション 序 第2回：言語生活を振り返るための教材例① 佐藤雅彦「じゃないですか禁止令」 第3回：言語生活を振り返るための教材例② 星野博美「割れたグラス」 第4回：言語生活を振り返るための教材例③ 西尾実「おじさん、寒いね」 第5回：国語教育目標論の成果と課題 第6回：構想力の本質と目標論的可能性 第7回：着想すること① —実態把握論— 第8回：着想すること② —言語生活の探究— 第9回：予期すること① —予期することの位置と意義— 第10回：予期すること② —アフォーダンス理論— 第11回：省察すること① —省察・自己評価— 第12回：省察すること② —振り返る学習過程— 第13回：希望すること① —ポートフォリオ評価— 第14回：希望すること② —対話性— 第15回：構想力を育む国語教育 ※都合により、内容や予定が変更になる可能性があります。
(17)準備学習 (予習・ 復習) 等の内容	[予習]教科書の該当箇所を熟読し、疑問に思ったことや考えたことなどをノートに書く。 [復習]授業で学んだことについて、よく整理しておくこと。
(18)学問分野1(主学 問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学 問分野)	-

(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 竜田徹『構想力を育む国語教育』溪水社、2014 ・ 山元隆春ほか編著『国語科重要用語事典』明治図書、2015
(21)参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文部科学省「中学校学習指導要領解説 国語編」、「高等学校学習指導要領解説 国語編」 ・ ジェニ・ポラック・デイ他（山元隆春訳）『本を読んで語り合うリテラチャー・サークル実践入門』溪水社、2013 ・ このほかにも適宜紹介しますので、自学自習に励んでください。
(22)成績評価方法及び採点基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平常点（授業への参加度。読書ノートの内容に基づく。単なる出席回数ではない。）：60% ・ 期末評価（レポートを課す）：40% 上記を合算して成績評価を行います。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義も行いますが、読書会を取り入れます。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	水曜日 13:00～14:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	esuzuki@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	42
(2)区分番号	42
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英 文名〕	国語科授業論 (Japanese Language and Literature Teaching Analysis)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等 (中コース国語) ・ 特支 (中コース国語) : 必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日 3・4時限
(10)担当教員 (所 属)	鈴木 愛理 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベ ル)	レベル2
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての 具体的到達目標	○中等教育における国語教育の理論と方法に関する基本的な知識を身につけること (見通す力) ○中等教育における国語科の教材について分析・考察し、それをもとに授業を構想し、学習指導案を作成することができること (解決する力)
(15)授業の概要	・ 中学校・高等学校の国語科教員として授業を担当するために必要な知識と技術について学ぶとともに、国語科授業を構想することを通して、国語科教育の理論と実践のあり方について理解を深める。
(16)授業の内容予 定	第1回：中等教育における国語科教育がめざすもの 第2回：中等教育の国語科における授業と評価 第3回：「読むこと」の学習指導 —物語・小説— 第4回：「読むこと」の学習指導 —中学校・詩— 第5回：「読むこと」の学習指導 —高等学校・詩— 第6回：「読むこと」の学習指導 —中学校・説明文— 第7回：「読むこと」の学習指導 —高校・評論文— 第8回：読書の指導 第9回：模擬授業および検討会① 中学校・小説 第10回：模擬授業および検討会② 高校・小説 第11回：模擬授業および検討会③ 中学校・詩 第12回：模擬授業および検討会④ 高校・詩 第13回：模擬授業および検討会⑤ 中学校・説明文 第14回：模擬授業および検討会⑥ 高校・評論文 第15回：まとめ ※都合により、内容や予定が変更になる可能性があります。
(17)準備学習 (予 習・復習) 等の内 容	[予習]教科書を熟読し、疑問に思ったことや考えたことなどをノートに書くこと。 [復習] 授業で学んだことを、よく整理するようにしてください。
(18)学問分野1(主 学問分野)	教育学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 山元隆春編著『教師教育講座 第12巻 中等国語教育』協同出版、2014 ・ 山元隆春ほか編著『国語科重要用語事典』明治図書、2015 ・ 古田尚行『国語の授業の作り方』文学通信、2018 ・ 文部科学省「中学校学習指導要領解説 国語編」、「高等学校学習指導要領解説 国語編」
(21)参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業時に適宜指示しますので、自学自習に励んでください。
(22)成績評価方法及び採点基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 模擬授業（板書、ワークシート等含む）：30% ・ 模擬授業検討会への参加：20% ・ 学習指導案：20% ・ 読書ノート：30%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義、討議、模擬授業などを組み合わせて行います。
(25)留意点・予備知識	特にありません。
(26)オフィスアワー	水曜日の13:00～14:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	esuzuki@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	43
(2)区分番号	43
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	国語科教材論 (Materials Developments in Japanese Language and Literature)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース国語）・特支（中コース国語）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日 3・4時限
(10)担当教員（所属）	田中 拓郎（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2～3
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○中等教育における国語教育の理論と方法に関する基礎的な知識を身につけること（見通す力） ○中等教育における国語科教材について分析・考察等を通して、学習指導案を作成し模擬授業を行うことができること（解決する力）
(15)授業の概要	・中学校、高等学校の国語科教員として授業を担当するために必要な知識と技術について学ぶとともに、教育実習にむけて学習指導案作成及び模擬授業を行い、国語科教育の理論と実践のあり方について理解を深めます。
(16)授業の内容予定	第1回 国語科の授業について 第2回 物語・小説の教材研究・授業構想の仕方(1) 第3回 物語・小説の教材研究・授業構想の仕方(2) 第4回 説明文・評論の教材研究・授業構想の仕方(1) 第5回 説明文・評論の教材研究・授業構想の仕方(2) 第6回 短詩型文学、古典（古文・漢文）の教材研究・授業構想の仕方 第7回 学習指導案の作成(1) 第8回 学習指導案の作成(2) 第9回 学習指導案の作成(3) 第10回 模擬授業(1) 第11回 模擬授業(2) 第12回 模擬授業(3) 第13回 模擬授業(4) 第14回 模擬授業(5) 第15回 模擬授業のまとめ ※授業の進行状況により、シラバスと実際の内容が異なることがありますが、その都度説明します。
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	・授業時に適宜指示しますので、自学自習に努めてください。
	教育学関連

(18)学問分野1(主 学問分野)	
(18)学問分野2(副 学問分野)	-
(18)学問分野3(副 学問分野)	-
(19)実務経験のある 教員による授業 科目について	-
(20)教材・教科書	『中学校学習指導要領解説 国語編』29年版 『高等学校学習指導要領解説 国語編』30年版
(21)参考文献	・授業時に適宜指示しますので、自学自習に努めてください。
(22)成績評価方法 及び採点基準	・学習指導案(40点) ・模擬授業(30点) ・模擬授業時の授業評価シート(30点)
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授 業方法	・講義、討議、模擬授業などを組み合わせて行います。
(25)留意点・予備 知識	特になし
(26)オフィスアワ ー	着任次第、決定する。
(27)Eメールアド レス・HPアドレス	着任次第、決定する。
(28)その他	特になし。

教育学部

(1)整理番号	44
(2)区分番号	44
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	国語科教育方法論 (Methodology in Japanese Language and Literature)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース国語）・特支（中コース国語）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日 3・4時限
(10)担当教員（所属）	田中 拓郎（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2～3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	○中等教育における国語教育の理論と方法に関する発展的な知識を身につけること（見通す力） ○国語科教育研究について分析・考察し、現代の国語教室における価値を論究できること（学び続ける力）
(15)授業の概要	・国語科授業の学習指導案作成及び模擬授業を通して、国語教育実践に役立つ発展的な知識及び思考力等の習得を図ります。
(16)授業の内容予定	第1回 教育実習やこれまでの国語学習を振り返り、国語教育に関する課題や疑問を見出す 第2回 取り上げたい問題に関する先行研究、先行実践を読む 第3回 取り上げたい問題に関する先行研究、先行実践を読む 第4回 学習指導案作成について留意点 (1) 第5回 学習指導案作成について留意点 (2) 第6回 学習指導案の作成 (1) 第7回 学習指導案の作成 (2) 第8回 学習指導案の作成 (3) 第9回 模擬授業(1) 第10回 模擬授業(2) 第11回 模擬授業(3) 第12回 模擬授業(4) 第13回 模擬授業(5) 第14回 模擬授業のまとめ 第15回 国語科授業の課題と目指す授業の方向性 ※授業の進行状況により、シラバスと実際の内容が異なる場合がありますが、その都度説明します。
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	・授業時に適宜指示しますので、自学自習に努めてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-

(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	「中学校学習指導要領解説 国語編」 「高等学校学習指導要領解説 国語編」
(21)参考文献	・ 授業時に適宜指示しますので、自学自習に努めてください。
(22)成績評価方法及び採点基準	・ 学習指導案 (40点) ・ 模擬授業 (30点) ・ 模擬授業時の授業評価シート (30点)
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	・ 講義、討議、模擬授業などを組み合わせて行います。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	着任次第、決定する
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	着任次第、決定する
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	45
(2)区分番号	45
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名 〔英文名〕	社会科教育法 (Curriculum and Instruction in Secondary Social Studies)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等 (中コース社会) ・ 特支 (中コース社会) : 必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 3・4時限
(10)担当教員 (所属)	小瑠 史朗 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての 具体的到達目標	○中学校社会科の目標・内容・方法への理解を深めるとともに、社会科授業を分析・開発する基礎的な力を養うこと (見通す力・解決していく力)
(15)授業の概要	次の3つのトピックを柱に、授業を進めます。 (1) 社会科の成立・歴史的展開を、各時期を代表する教育実践を取り上げ検討する。 (2) 1980年代以降に問われた教育課題と、それに対応した授業研究の動向を検討する。 (3) 学習指導要領に示された目標・内容構成を検討し、学習指導計画を立案する。
(16)授業の内容予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 中学校社会科の教科構造 3. 社会科の歴史Ⅰ－成立期の社会科と問題解決学習－ 4. 社会科の歴史Ⅱ－日生連の社会科研究と実践「水害と市政」－ 5. 社会科の歴史Ⅲ－高度経済成長期の社会科と発見・探求学習－ 6. 新しい社会科授業の模索Ⅰ－安井俊夫氏の歴史授業論－ 7. 新しい社会科授業の模索Ⅱ－モノを活用した社会科授業－ 8. 新しい社会科授業の模索Ⅲ－参加型学習論－ 9. 新しい社会科授業の模索Ⅳ－探求学習の発展－ 10. 教育改革の動向と現行学習指導要領の特質 11. 学習指導要領の目標と内容構成 12. 社会科における教材研究のあり方 13. 学習指導案の様式と書き方Ⅰ－単元指導計画の立案－ 14. 学習指導案の様式と書き方Ⅱ－本時の指導計画の立案－ 15. 社会科における評価法 16. まとめ
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	・ 授業づくりには多大な労力・時間が必要となります。授業時間外にも教材研究を進めてください。

(18)学問分野 1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある 教員による授業 科目について	-
(20)教材・教科書	文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』を準備してください。 その他、授業内で適宜、資料を配布します。
(21)参考文献	授業の進行に合わせて、適宜紹介します。
(22)成績評価方法 及び採点基準	①学期末試験(50%)、②提出物(35%)、③各回のミニレポート (15%)によって総合的に評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授 業方法	主として講義によって進めますが、適宜、グループワーク等を組み入れて いきます。
(25)留意点・予備 知識	魅力的な社会科授業を考案するためには、教員の課題意識が不可欠です。 普段から社会・教育の動向に関心を払い、問題意識を深めておいてくださ い。また自ら「社会」に出向いて視野を広げることも大切にしてください。
(26)オフィスアワ ー	月曜日13:00~14:00
(27)Eメールアド レス・HPアドレ ス	f-kodama@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	46
(2)区分番号	46
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	社会科授業論 (Practice in Social Studies)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース社会）・特支（中コース社会）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日 3・4時限
(10)担当教員（所属）	小瑤 史朗（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	○社会科授業の構成要素および各分野の学習内容領域への理解を深めること（見通す力） ○中学校社会科の教材研究と授業運営に関わる基礎的な技術を身につけること（解決していく力） ○社会科授業を観察・分析・評価する力を身につけること（学び続ける力）
(15)授業の概要	はじめに、社会科授業を成り立たせている諸要素について理解を深めるとともに、教材研究の進め方を考えていきます。その後、中学校社会科の学習内容領域に即してグループないし個人で教材研究に取り組み、その効果的な学習指導のあり方を模擬授業を通して实际的に学んでいきます。最後に、これらの一連の学びを通じた自身の成長と課題について省察していきます。
(16)授業の内容予定	1. ガイダンス 2. 社会科授業の構成要素 3. 基礎的な指導技術と各場面での指導のポイント 4. 社会科の学力と教材研究 5. 歴史的分野の学習指導 (1) 古代・中世史 6. 歴史的分野の学習指導 (2) 近世史 7. 歴史的分野の学習指導 (3) 近代史 8. 歴史的分野の学習指導 (4) 現代史 9. 地理的分野の学習指導 (1) 自然、人口 10. 地理的分野の学習指導 (2) 資源・産業、交通 11. 地理的分野の学習指導 (3) 世界地誌 12. 地理的分野の学習指導 (4) 日本地誌 13. 公民的分野の学習指導 (1) 政治 14. 公民的分野の学習指導 (2) 経済 15. 公民的分野の学習指導 (3) 国際 16. まとめ

(17)準備学習 (予習・復習)等の内容	本科目のなかで教材研究の時間を設けますが、不足する場合は各自で進めてください。 また他者の授業の参観で学んだことは、自分の授業に活かすよう心掛けてください。
(18)学問分野 1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	地理学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	歴史学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』を準備してください。 教材研究に際しては中学校の教科書・資料集を使用しますが、こちらで準備します。
(21)参考文献	教科書・資料集のだけで教材研究を進めるのは困難です。各自で関連文献を探し、教科書叙述の背景にある各学問の成果・動向に触れるようにしてください。的確な文献・データ・情報を入手することも、社会科教員に求められる必須の能力です。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常点と演習への取り組み、提出物によって総合的に評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	主として演習（模擬授業）を中心に進めていきます。
(25)留意点・予備知識	<ul style="list-style-type: none"> ・初回ガイダンスで分担と日程を決定します。必ず出席してください。 ・前期開設の「社会科教育法」を履修していることが望ましいです。前期に作成した学習指導案の修正も行います。 ・多くの受講生にとって初めて模擬授業です。失敗して当然ですが、極力、前の授業者が指摘されたことを繰り返さないように心掛けてください。 ・授業力は、他者の授業を観察・分析することによっても磨かれます。演習担当ではない回も積極的に参加してください。
(26)オフィスアワー	月曜日13:00～14:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	f-kodaka@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	47
(2)区分番号	47
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	社会科授業構成論I (Theory on Instructional Materials in Social Studies I)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース社会）・特支（中コース社会）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日 3・4時限
(10)担当教員（所属）	○小瑶 史朗（教育学部）・篠塚 明彦（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	○中学生の関心や発達特性を踏まえた授業を創造することができること（見通す力） ○教科書および資料集以外の文献やデータを活用して授業づくりを進めることができること（解決していく力） ○教科指導に関わる自己の成長と課題を把握すること（学び続ける力）
(15)授業の概要	社会科の発展的な授業づくりに取り組みます。Tuesday実習での授業観察を基盤にして、中学生の発達特性・社会認識を踏まえた授業づくりを進めます。また、最新の人文・社会諸科学の知見を積極的に活用して、教科書・資料集に依存しない授業を開発します。後半では、後期Tuesday実習に向けて地域学習に関する基礎的作業に取り組みます。
(16)授業の内容予定	1. オリエンテーション 2. 教材研究Ⅰ（学習内容の検討） 3. 教材研究Ⅱ（資料収集と指導計画の立案） 4. 教材研究Ⅲ（学習指導案の完成） 5. 模擬授業：歴史的分野Ⅰ アイヌ文化 6. 模擬授業：歴史的分野Ⅱ 日本国憲法制定史 7. 模擬授業：地理的分野Ⅰ 自然災害と防災 8. 模擬授業：地理的分野Ⅱ ネパール 9. 模擬授業：公民的分野Ⅰ 家族 10. 模擬授業：公民的分野Ⅱ エスニシティ 11. 模擬授業：公民的分野Ⅲ 政治参加 12. 模擬授業：公民的分野Ⅳ グローバル化 13. 社会科の地域学習と地域調査 14. 地域調査の計画づくり 15. フィールド調査 16. まとめ

(17)準備学習 (予習・復習)等の内容	Tuesday実習での授業観察の成果を取り入れるて授業づくりを進めるよう心掛けてください。 教科専門科目を担当されている先生方に助言をもらい、学問研究の成果を取り入れるよう心掛けてください。
(18)学問分野 1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	歴史学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	社会学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	中学校の教科書・資料集はこちらで準備します。
(21)参考文献	各自に割り当てられたテーマに関連する文献を、担当教員が紹介します。また、各自で必要となる文献・資料を収集してください。これらを活用しながら発展的な授業づくりを進めていきます。
(22)成績評価方法及び採点基準	演習への参加状況と提出物（学習指導案、レポート）によって総合的に評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	演習形式で進めます。
(25)留意点・予備知識	歴史学・地理学・政治学・社会学を担当している先生方にも積極的に助言をもらうよう心掛けてください。
(26)オフィスアワー	小瑠：月曜日 13～14時
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	小瑠： f-kodama@hirosaki-u.ac.jp 篠塚： a-shino@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	48
(2)区分番号	48
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	社会科授業構成論II (Theory on Instructional Materials in Social Studies II)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース社会）・特支（中コース社会）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日 3・4時限
(10)担当教員（所属）	篠塚 明彦（教育学部） 小瑠 史朗（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○中学校社会科の基礎的な教材研究力と指導技術を習得すること（見通す力） ○社会科授業を分析する力を習得するとともに、教科指導における自己の成長と課題を把握すること（解決していく力・学び続ける力）
(15)授業の概要	・中学校社会科の教材研究と指導計画の立案、授業の省察検討を、中学校Tuesday実習と関連付けながら行っていきます。 この授業では特に「津軽」に焦点化し、各分野の専門的知見をいかに社会科授業へ生かすか、生徒たちにとって意義ある学習は何かを、具体的な授業づくりを通じて学んでいきます。
(16)授業の内容予定	1. オリエンテーション・教材研究Ⅰ（指導内容の立案） 2. 教材研究Ⅱ（学習指導案の完成） 3. 模擬授業：津軽塗り 4. 模擬授業：嶽きみ 5. 模擬授業：ローカル鉄道 6. 模擬授業：地域医療 7. 模擬授業：学校統廃合 8. 模擬授業：東北の自然環境 9. 模擬授業：民次郎一揆 10. 模擬授業：菊池九郎 11. 模擬授業：陸軍第8師団 12. 模擬授業：まつり 13. 模擬授業：津軽三味線 14. 社会科の評価と試験問題 15. 振り返りとまとめ *3～7回は、中学校T実習と関連したテーマとなる。8～10回はその他の受講生（小学校実習、人文学部生）向けのテーマとなる。 *受講者数によっては、授業計画が変更することもある。
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	・各グループにテーマを割り振り、共同で教材開発と授業づくりを進めます。授業内で進まない場合は、班員で適宜、集まって作業を進めてください。

(18)学問分野1(主 学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副 学問分野)	-
(18)学問分野3(副 学問分野)	-
(19)実務経験のある 教員による授業科目 について	実務教員
(20)教材・教科書	文部科学省『中学校社会科学学習指導要領解説』
(21)参考文献	・グループごとに担当教員を訪問し、各資料の提供および指導案への助言を受けてください。
(22)成績評価方法及 び採点基準	・平常点、提出物、模擬授業によって総合的に評価する。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業 方法	・模擬授業を中心に演習形式で進めます。
(25)留意点・予備知 識	・他者と協同して授業づくりを進めることも、この授業の大切な狙いの一つです。グループ活動に積極的に参加してください。
(26)オフィスアワー	水曜日10-11時（篠塚） 月曜日13-14時（小瑤）
(27)Eメールアドレス ・HPアドレス	a-shino@hirosaki-u.ac.jp f-kodaka@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	49
(2)区分番号	49
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名 〔英文名〕	地理歴史科教育法 (Curriculum and Instruction in Teaching Geography and History)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 9・10時限
(10)担当教員(所属)	篠塚 明彦(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するC P/D P	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○高校地理歴史の目標・内容・方法への理解を深めるとともに、地理歴史科授業の教材研究や授業づくりについての基礎的な能力を身につけること (解決していく力・学び続ける力)
(15)授業の概要	まず地理歴史科の成立とその展開・課題を代表的な実践の検討も交えながら理解を深めます。その後、模擬授業とその後の省察を通じて指導計画・指導内容の検討といった授業づくりの実際について学んでいきます。
(16)授業の内容予 定	1. オリエンテーション、グループ分け 2. 地歴科の成立と学習指導要領の変遷 3. 過去の実践に学ぶ 4. 地歴科改革とその課題 5. 教科書の役割と授業づくり 6. 教材の選定と教材研究 7. 授業の導入と展開 8. 授業方法の実際 9. 模擬授業：世界史(1)アジア 10. 模擬授業：世界史(2)ヨーロッパ・アメリカ 11. 模擬授業：日本史(1)前近代 12. 模擬授業：日本史(2)近現代 13. 模擬授業：地理(1)系統地理 14. 模擬授業：地理(2)地誌 15. 振り返りとまとめ 受講者数によっては予定が変更になることがあります。
(17)準備学習(予 習・復習)等の内 容	・受講者間での意見交流の機会を多く設ける予定です。そこで指摘されたことを通じて、自身の授業づくりを改善するようにしてください。
(18)学問分野1(主 学問分野)	教育学関連
	-

(18)学問分野2(副学問分野)	
(18)学問分野3(副学問分野)	
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文部科学省『高等学校学習指導要領解説地理歴史科編』 ・ その他、授業内で適宜、資料を配布します。
(21)参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ 二谷貞夫他編『中等社会科ハンドブック』（学文社） ・ 授業の進行に合わせて適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常点と模擬授業への取り組み、提出物によって総合的に評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義と演習（グループ学習）によって進めていきます。
(25)留意点・予備知識	他の受講生の授業から学べる点、気付くことが多々ありますので、模擬授業担当ではない回も自身の授業と比較しながら積極的姿勢で臨んで下さい。
(26)オフィスアワー	水曜日 10-11時
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	a-shino@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	50
(2)区分番号	50
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英 文名〕	公民科教育法 (Curriculum and Instruction in Civics)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日 9・10時限
(10)担当教員(所 属)	篠塚 明彦(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベ ル)	レベル3
(13)対応するC P/D P	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○高校公民科の目標・内容・方法への理解を深めるとともに、公民科授業の教材研究や授業づくりについての基礎的な能力を身につけること(解決していく力・学び続ける力)
(15)授業の概要	まず公民科の成立とその展開・課題を代表的な実践の検討も交えながら理解を深めます。その後、模擬授業とその後の省察を通じて指導計画・指導内容の検討といった授業づくりの実際について学んでいきます。
(16)授業の内容予 定	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、グループ分け 2. 公民科の成立と学習指導要領の変遷 3. 過去の実践に学ぶ 4. 公民科の課題 5. 教科書の役割と授業づくり 6. 教材の選定と教材研究 7. 授業の導入と展開 8. 授業方法の実際 9. 模擬授業：現代社会(1)現代社会の諸課題 10. 模擬授業：現代社会(2)社会と個人 11. 模擬授業：政治経済(3)政治分野 12. 模擬授業：政治経済(4)経済分野 13. 模擬授業：倫理(1)青年期の課題 14. 模擬授業：倫理(2)現代と倫理 15. 振り返りとまとめ <p>受講者数によっては予定が変更になることがあります。</p>
(17)準備学習(予 習・復習)等の内 容	・受講者間での意見交流の機会を多く設ける予定です。そこで指摘されたことを通じて、自身の授業づくりを改善するようにしてください。
(18)学問分野1(主 学問分野)	教育学関連
	-

(18)学問分野2(副学問分野)	
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文部科学省『高等学校学習指導要領解説公民科編』 ・ その他、授業内で適宜、資料を配布します。
(21)参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ 二谷貞夫他編『中等社会科ハンドブック』（学文社） ・ その他、授業の進行に合わせて適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常点と模擬授業への取り組み、提出物によって総合的に評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義と演習（グループ学習）によって進めていきます。
(25)留意点・予備知識	・ 他の受講生の授業から学べる点、気付くことが多々ありますので、模擬授業担当ではない回も自身の授業と比較しながら積極的姿勢で臨んで下さい。
(26)オフィスアワー	水曜日 10-11時
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	a-shino@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	51
(2)区分番号	51
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英 文名〕	数学科教育法 (Mathematics Teaching)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース数学）・特支（中コース数学）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 3・4時限
(10)担当教員（所 属）	田中 義久（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベ ル）	レベル2
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての 具体的到達目標	○数学教育の目標を理解し、数学的な見方・考え方を育てることの意味 と意義を明確にとらえられること（見通す力）
(15)授業の概要	数学教育の目標を日本の教授要目や学習指導要領を通して理解し、数学 的な見方・考え方を育てることの意味と意義を具体的な数学的活動を通 して明確にとらえられるようにします。
(16)授業の内容予 定	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 数学的活動について</p> <p>第3回 数学教育の目的と数学科の目標</p> <p>第4回 証明に基づく定理の拡張</p> <p>第5回 数学をつくるという数学観と自立心の育成</p> <p>第6回 日本の数学教育の歴史①：数学教育の近代化</p> <p>第7回 日本の数学教育の歴史②：数学教育改造運動と数学教育再構成運 動期</p> <p>第8回 日本の数学教育の歴史③：生活単元学習から系統学習へ</p> <p>第9回 日本の数学教育の歴史④：数学教育の現代化から今日へ</p> <p>第10回 作業と思考①：立方体の切断</p> <p>第11回 作業と思考②：空間の切断</p> <p>第12回 数学的活動とその模式図</p> <p>第13回 数学的活動による「数学的な考え方」の育成</p> <p>第14回 「高い情緒・知的な喜び」を促すための教材研究</p> <p>第15回 「関数の考え」と擬変数</p> <p>第15回 テスト</p> <p>第16回 テスト返却と解説</p> <p>※学生の理解度等により、変更する場合があります。</p>
(17)準備学習（予 習・復習）等の内容	復習を中心に学習を進めるとともに、授業において見出された課題を自 己の課題として取り組むことが重要です。
	教育学関連

(18)学問分野1(主学問分野)	
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	・ 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説——数学編（文部科学省） ・ 小笠原喜康『新編 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書
(21)参考文献	参考文献一覧をプリントにして配布する予定です。
(22)成績評価方法及び採点基準	課題レポート（70%）、テスト（30%）により判断します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	授業の前半を講義型で実施し、授業の後半に問題解決型の授業を想定し、演習・発表・議論等を行います。
(25)留意点・予備知識	具体的な教材について考えることを中心に進めます。 授業の中で扱っている教材について自分なりの考えを深めておくことが必要です。 定規・コンパス・はさみ・セロハンテープを使用することがありますので用意しておいてください。
(26)オフィスアワー	金曜5コマ
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	yotanaka@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	52
(2)区分番号	52
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英 文名〕	数学科授業論 (Mathematics Teaching Analysis)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース数学）・特支（中コース数学）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日 3・4時限
(10)担当教員（所 属）	田中 義久（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベ ル）	レベル2
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○教材研究や数学的活動の経験を通してその中にある数学的な見方や考え方をとらえることや児童・生徒の反応を予想することの重要性を理解することができること（見通す力） ○数学授業における発問や机間巡視の重要性を理解することができること（学び続ける力）
(15)授業の概要	・レポート課題の解決を通して、授業における発問の主目的を理解したり、多様な解法のあることの面白さと一般化の難しさを理解する。 ・問題解決の授業や作業を伴う授業を通して、学習指導要領に示された数学的活動の意味を理解するとともに、関数の考えや拡張の考え、空間の想像力といった数学的な見方・考え方を理解する。
(16)授業の内容予 定	第1回 数学授業に対する考え方 第2回 数学科学習指導案の作成について 第3回 日本の授業の特徴－授業ビデオの鑑賞を通して－ 第4回 個人差に応じた学習指導 第5回 多様な方法によって理解を促す学習指導 第6回 空間観念について 第7回 作成指導案の共有化と議論 第8回 空間観念を育成することについて 第9回 模擬授業：小学校 第10回 模擬授業：中学校 第11回 模擬授業：高等学校 第12回 空間観念の育成における教具の活用 第13回 「式をよむ」ことを重視した学習指導 第14回 「新理論の開発」を促す学習指導 第15回 テスト 第16回 テスト返却と解説 ※受講生全員に模擬授業を実施してもらいます。 ※学生の理解度等により、変更する場合があります。
	復習を中心に学習を進めるとともに、授業において見出された課題を自己の課題として取り組むことが重要です。

(17)準備学習（予習・復習）等の内容	
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 数学編 ・ 小笠原喜康『新編 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書 ※その他、必要な場合は授業で指示します。
(21)参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ 和田義信『著作・講演集 4. 講演集考えることの教育』（東洋館出版社） ・ 松原元一『考えさせる授業 算数・数学』（東京書籍） ・ 杉山吉茂『中等科数学科教育学序説』（東洋館出版社）
(22)成績評価方法及び採点基準	課題レポート（70%）、テスト（30%）により判断します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	授業の前半を講義型で実施し、授業の後半に問題解決型の授業を想定し、演習・発表・議論等を行います。
(25)留意点・予備知識	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予習が必要な場合には、その都度、具体的な課題を提示します。 ・ 授業中に課された問題等の理解が不十分だった場合には、復習に十分な時間をかけるようにするようお願いします。
(26)オフィスアワー	金曜5コマ
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	yotanaka@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	53
(2)区分番号	53
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	数学科教材論 (Materials Developments in Mathematics Education)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等 (中コース数学) ・ 特支 (中コース数学) : 必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日 3・4時限
(10)担当教員 (所属)	田中 義久 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○考えさせる授業の構築のためには、教師の綿密な教材研究が必要であることを理解することができること (見通す力) ○考えさせる授業の設計のために必要な観察力や構成力を獲得することができること (学び続ける力)
(15)授業の概要	・考えさせる授業を構築するための工夫や改善方法を、具体的な教材研究を通して考えます。 ・模擬授業や集中実習を念頭におきながら、中学校や高等学校で扱う数学の内容を吟味し数学的な見方や考え方を検討します。
(16)授業の内容予定	第1回 ガイダンス：日本の数学授業の特徴 第2回 授業構成の要点①：授業の導入における問題提示 第3回 授業構成の要点②：形成的評価を中心に 第4回 教材研究①：数学的活動を促すための教材研究について 第5回 教材研究②：発見と証明 第6回 教材研究③：図形の論証指導 (ユークリッド原論) 第7回 教材研究④：図形の論証指導 (学校数学とユークリッド原論との対比) 第8回 教材研究⑤：図形の概念形成について 第9回 教材研究⑥：一次方程式に関する教科書の比較 第10回 教材研究⑦：一次関数から方程式に関する教科書分析 第11回 授業構成の要点③：机間巡視と意図的な指名 第12回 授業構成の要点④：板書の機能と役割 第13回 教材研究⑧：関数に関する教材研究 第14回 レポートの解説とテスト 第15回 テストの返却と解説
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	・予習が必要な場合には、その都度、具体的な課題を提示します。 ・授業時に配布された資料を基にして復習をするとともに、関連する書籍をよんで見識を広めたり深めたりすることが大切です。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	中学校学習指導要領（平成29年告知）解説 数学編 ※その他必要な場合は授業で指示します
(21)参考文献	配布したプリントに基づいて、適宜指示をします。
(22)成績評価方法及び採点基準	課題レポート（50%）、テスト（50%）によって判断します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	授業の前半を講義型で実施し、授業の後半に問題解決型の授業を想定し、演習・発表・議論等を行います。
(25)留意点・予備知識	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に課された問題等の理解が不十分だった場合には、復習に十分な時間をかけるようにするようにしてください。 ・「机間巡視」の実際とそれに基づく、比較検討場面の構想を行います。生徒のアイデア（想定）をメモするためのバインダーを準備しておくといいです。
(26)オフィスアワー	金曜5コマ
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	yotanaka@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理 番号	54
(2)区分 番号	54
(3)科目 種別	教育学部教職科目
(4)授業 科目名 〔英文 名〕	数学科教育方法論 (Methodology in Mathematics Education)
(5)対象 学年	3
(6)必 修・選択	初等中等（中コース数学）・特支（中コース数学）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜 日・時限	火曜日 3・4時限
(10)担当 教員（所 属）	○田中 義久（教育学部）・山本 稔（教育学部）
(11)地域 志向科目	-
(12)難易 度（レベ ル）	レベル3
(13)対応 するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業 としての 具体的到 達目標	○子どもの考え方を適切に評価して授業展開をすることの意義を知ること（見通す力） ○教材の発展的な扱いを志向した授業の展開計画を作ることができること（解決する力） ○教材の開発の方法を理解すること（学び続ける力）
(15)授業 の概要	「授業の評価」「子どもの評価」の意味と意義を再確認することが目標です。また教材の開発や指導法の工夫、発展のさせ方について理解しいろいろな教材を発展的に考えていく姿勢、態度を養うことがもう1つの目標です。「教育における評価活動」「授業の評価」の意味を考えます。評価というと、ある者（教師）が他の者（生徒）に成績をつけることと受け取られることが多いのですが、教育活動における評価の対象は授業です。授業を通して子どもを成長させることができたかどうかを、授業者が様々な視点から検討することです。その前提として、質の高い教材とその研究が必要となります。その意味で、教材の開発や指導法の工夫、発展のさせ

	<p>方について理解し、教師自身がいろいろな教材を発展的に考えていく姿勢、態度を養うことが欠かせません。そこで、数学的な見方・考え方を育てるためのいろいろな指導法の工夫、教材の開発や発展のさせ方などについて、具体的な教材研究を通して学びます。 (原則として「数学科教育法」「数学科授業論」「数学科教材論」を先に履修しているものとします。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 教育実習の振り返り 第2回 授業分析の方法について 第3回 学習指導と評価①－中学校の事例から－ 第4回 学習指導と評価②－高校の事例から－ 第5回 教材研究の深化①：見えない角の二等分線 第6回 教材研究の深化②：観覧車の問題 第7回 教材研究の深化③：17段目の秘密 第8回 学習指導と評価③－授業分析の観点－ 第9回 教材研究の深化④：数と式 第10回 教材研究の深化⑤：図形 第11回 教材研究の深化⑥：関数 第12回 教材研究の深化⑦：データの活用 第13回 発話分析に基づく授業改善発表① 第14回 発話分析に基づく授業改善発表② 第15回 発話分析に基づく授業改善発表③</p> <p>※授業の進行状況等により内容が異なる場合があります。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予習が必要な場合には、その都度、具体的な課題を提示します。 ・ 授業時に配布された資料を基にして復習をするとともに、関連する書籍をよんで見識を広めたり深めたりすることが重要です。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説：数学編
	清水美憲編著『授業を科学する－数学の授業への新しいアプローチ－』学文社

(21)参考 文献	
(22)成績 評価方法 及び採点 基準	発話分析レポート（50%）、教材研究レポート（50%）により判断します。
(23)授業 形式	講義
(24)授業 形態・授 業方法	授業の前半を講義型で実施し、授業の後半に問題解決型の授業を想定し、演習・発表・議論等を行います。
(25)留意 点・予備 知識	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3年次の集中実習を終了している学生を対象にしています。 ・ 3年次の集中実習において実践した授業を担当の先生の許可を得た上で撮影し、その授業のプロトコルを作成します。
(26)オフ イスアワ ー	金曜5コマ
(27)Eメ ールアド レス・ HPアド レス	yotanaka@hirosaki-u.ac.jp
(28)その 他	特になし

教育学部

(1)整理番号	55
(2)区分番号	55
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名 〔英文名〕	理科教育法I (Principle of Science Education I)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース理科）・特支（中コース理科）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 3・4時限
(10)担当教員 (所属)	佐藤 崇之（教育学部）
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル3
(13)対応する C P / D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業とし ての具体的到達 目標	○中学校・高等学校理科教育の目的を理解すること（見通す力） ○中学校・高等学校理科教育の内容・方法を理解すること（解決する力） ○中学校・高等学校理科教育の指導計画と評価を理解すること（学び続ける力）
(15)授業の概 要	中学校および高等学校の理科教育の目的、内容、方法、生徒の自然認識、評価について、その概略を学びます。また、理科の授業において、安全面から留意しなければならない点についても解説します。また、実地指導講師の方から、青森県下の中学校の理科教育の現状についても学習します。
(16)授業の内 容予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 中学校学習指導要領と中学校理科の内容 3. 高等学校学習指導要領と高等学校理科の内容 4. 理科教育の意義と目標 5. 指導計画と指導案(1)：指導計画を中心に 6. 指導計画と指導案(2)：指導案を中心に 7. 物理領域における授業構成と生徒の認識 8. 化学領域における授業構成と生徒の認識 9. 生物領域における授業構成と生徒の認識 10. 地学領域における授業構成と生徒の認識 11. 理科教育における安全の重要性 12. 理科教育における評価(1)－授業に関連した評価－ 13. 理科教育における評価(2)－全国的な評価の動向－ 14. 青森県中学校理科教育の現状と課題（実地指導講師による） 15. まとめ <p>※授業の進行状況等により内容が異なる場合がある。</p>
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	<p>[予習] 学習指導要領の関係領域の予習が必要です。</p> <p>[復習] 授業で取り扱った事象について、自分の場合はどのように取り組むのかを考察してください。</p>

(18)学問分野 1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験 のある教員によ る授業科目につ いて	-
(20)教材・教 科書	教材や資料は担当教員により講義当日に配布されます。
(21)参考文献	適宜、指示されます。
(22)成績評価 方法及び採点基 準	平常評価（小テスト含む）：100%
(23)授業形式	講義
(24)授業形 態・授業方法	講義形式で行います。授業回によっては、講義形式の中にグループ討論・発表を組み込みます。
(25)留意点・ 予備知識	特になし。
(26)オフィス アワー	月曜日10：20～11：50
(27)Eメールア ドレス・HPア ドレス	satot@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし。

教育学部

(1)整理番号	56
(2)区分番号	56
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英 文名〕	理科教育法II (Principle of Science Education II)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース理科）・特支（中コース理科）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	【前半】 火曜日 3・4時限 【後半】 集中
(10)担当教員（所 属）	○佐藤 崇之（教育学部），東 徹（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベ ル）	レベル3
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○中学校・高等学校理科教育について学問研究の視点から理解すること （見通す力） ○中学校・高等学校理科教育について周辺領域の観点から理解すること （解決する力） ○中学校・高等学校理科教育について授業の諸側面の課題から理解するこ と（学び続ける力）
(15)授業の概要	中学や高等学校における理科教育について、より広い視点から考察し、理 科教育を総合的に捉える力を養います。また、実地指導講師の方から、青 森県下の高等学校の理科教育の現状についても学習します。
(16)授業の内容予 定	1. ガイダンス 2. わが国における理科教育の発生と進展 3. 「科学論」と理科教育（1）：科学の論理と日常生活の論理 4. 「科学論」と理科教育（2）：制度としての科学 5. 理科教育における実験とものづくり 6. エネルギー教育と理科教育 7. 「科学史」と理科教育 8. 各国の理科教育の状況と教育政策 9. 国内における理科教育の動向と課題（1）：PISAとTIMSS 10. 国内における理科教育の動向と課題（2）：（1）から表出する教育政 策 11. 環境教育と理科教育（理論編） 12. 環境教育と理科教育（実践編） 13. 理科教育と防災教育 14. 青森県高等学校理科教育の現状と課題（実地指導講師による） 15. まとめ ※授業の進行状況等により内容が異なる場合がある。
(17)準備学習（予 習・復習）等の内 容	〔予習〕 学習指導要領の関係領域についての予習が必要です。 〔復習〕 授業で取り扱われた事象について、自分ならどう取り組むかを考 察してください。

(18)学問分野1(主 学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副 学問分野)	-
(18)学問分野3(副 学問分野)	-
(19)実務経験のある 教員による授業 科目について	-
(20)教材・教科書	教材や資料は担当教員により講義当日に配布されます。
(21)参考文献	特になし。
(22)成績評価方法 及び採点基準	平常評価（小テストを含む）：100%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授 業方法	講義形式で行います。授業回によっては講義形式にグループ討議・発表を 組み込みます。
(25)留意点・予備 知識	特になし。
(26)オフィスアワ ー	月曜日10：20～11：50
(27)Eメールアド レス・HPアドレス	satot@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし。

教育学部

(1)整理番号	57
(2)区分番号	57
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名 〔英文名〕	理科教材方法論I (Methodology and Teaching Materials of Science Education I)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース理科）・特支（中コース理科）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日 3・4時限
(10)担当教員 (所属)	佐藤崇之（教育学部）
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル3
(13)対応する C P / D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業とし ての具体的到達 目標	○理科授業における目的や指導計画との関連について理解すること（見通す力） ○理科授業の構成と教材との関連について理解し、授業案を策せすることすること（解決する力） ○理科授業についての協議をもとに、評価について考察し指導力を向上させること（学び続ける力）
(15)授業の概 要	理科の授業の設計および実施について、模擬授業を行うことを通して学びます。グループごとに1時間の授業を行うための指導案を作成し、他の学生を生徒役として、実際に授業を行います。その後、クラス全体で討論を行い、理科教材の取り上げ方やその活用方法について深めていきます。
(16)授業の内 容予定	1. ガイダンス、グループ決定、授業単元の確定 2. 指導案についての確認 3. 授業の構成と教材 4. グループで実施する模擬授業の内容の討議：科学的内容を中心に 5. グループで実施する模擬授業の内容の討議：教授法を中心に 6. 模擬授業案の概要発表：物理領域 7. 模擬授業案の概要発表：生物領域 8. 模擬授業案の概要発表：化学・地学領域 9. 模擬授業案の作成 10. 模擬授業の実施(1)：物理領域1 11. 模擬授業の実施(2)：物理領域2 12. 模擬授業の実施(3)：化学領域 13. 模擬授業の実施(4)：生物領域1 14. 模擬授業の実施(5)：生物領域2 15. 模擬授業の実施(6)：地学領域 ※授業の進行状況等により内容が異なる場合がある。
	[予習] 学習指導要領の関連領域や、模擬授業の準備が必要です。 [復習] 授業で取り扱われた事象や模擬授業についての考察を行ってください。

(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	
(18)学問分野 1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験 のある教員によ る授業科目につ いて	-
(20)教材・教 科書	教材や資料は担当教員により講義当日に配布されます。
(21)参考文献	特になし。
(22)成績評価 方法及び採点基 準	平常評価（授業への取り組み、模擬授業の実施など）：100%
(23)授業形式	講義
(24)授業形 態・授業方法	講義形式の中で、授業回によってはグループによる模擬授業に向けての討議を組み込みます。
(25)留意点・ 予備知識	特になし。
(26)オフィス アワー	月曜日10：20～11：50
(27)Eメールア ドレス・HPア ドレス	satot@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし。

教育学部

(1)整理番号	58
(2)区分番号	58
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	理科教材方法論II (Methodology and Teaching Materials of Science Education II)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース理科）・特支（中コース理科）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日 3・4時限
(10)担当教員（所属）	○佐藤 崇之（教育学部）・東 徹（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○教材と授業との関連について理解すること（見通す力） ○体験をもとにして教材の使用方法を理解すること（解決する力） ○教材と学問研究との関連について理解すること（学び続ける力）
(15)授業の概要	物理と生物の領域を中心に、理科のなかで活用される様々な教材から代表的なものをいくつか取り上げ、それらを様々な観点から検討し、理科教育における「教材」についての理解を深めます。
(16)授業の内容予定	1. ガイダンス 2. 教材・教具から見た力学（1） 3. 教材・教具から見た力学（2） 4. 教材・教具から見た熱 5. 教材・教具から見た光 6. 教材・教具から見た電気（1） 7. 教材・教具から見た電気（2） 8. 教材・教具から見た磁気 9. 小学校段階からみる生物教材1：実際編 10. 小学校段階からみる生物教材2：発展編 11. 中学校段階からみる生物教材1：実際編 12. 中学校段階からみる生物教材2：発展編 13. 高等学校段階からみる生物教材1：実際編 14. 高等学校段階からみる生物教材2：発展編 15. 総合的にみる生物教材 ※授業の進行状況等により内容が異なる場合がある。
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	〔予習〕学習指導要領の関連領域についての予習が必要です。 〔復習〕授業で取り扱われた事象について、自分はどう取り組むのかを考察してください。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-

(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教材や資料は担当教員により講義当日に配布されます。
(21)参考文献	特になし。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（小テスト、作成・提出物を含む）：100%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式の中に、教材に関する体験的な活動やグループ討議・発表を組み込みます。
(25)留意点・予備知識	特になし。
(26)オフィスアワー	月曜日10：20～11：50
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	satot@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし。

教育学部

(1)整理番号	59
(2)区分番号	59
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	音楽科教育法I (Curriculum and Instruction in Teaching Secondary Music I)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース音楽）・特支（中コース音楽）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 3・4時限
(10)担当教員（所属）	今田 匡彦（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	<p>一般目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ○音楽とは何か、何が音楽か、そのために音楽教育はどうあるべきかを自分の言葉で考え、実践できる能力を身につけること ○そのための基盤として学習指導要領に示された目標や内容を理解すること <p>到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習指導要領における音楽科の目標、内容を含む全体構造を理解していること（見通す力） ○音楽科の学習内容について指導上の留意点（各領域、分野の関連性及び生徒の創意工夫等）を理解していること（見通す力） ○クリエイティビティとコミュニケーションを基盤とした音楽の学習評価の考え方を理解していること（見通す力） ○音楽科の背景となるさまざまな音楽教育思想を理解し、教材研究に活用することができること（解決する力） ○科学や他の芸術、環境と音楽科との繋がりを探求し、学習指導への位置付けを考察することができること（解決する力）
(15)授業の概要	<p>1) サウンドスケープ思想を基盤として提唱されたサウンド・エデュケーションにより、原初の音楽と音楽教育の在り方を見通す。</p> <p>2) 創作を通して、表現・鑑賞領域の実践的融合方法を身に付け現在の音楽教育の諸問題を解決する。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回：言葉と音楽（音楽科における言語活動について）</p> <p>第2回：soundwalk（鑑賞領域の新たなアプローチ：創意工夫を踏まえて）</p> <p>第3回：graphic score（鑑賞と表現（創作分野との連関）</p> <p>第4回：paper project 1（身近な素材による鑑賞、創作、器楽の連関）</p> <p>第5回：音を創る（創作、器楽の有機性を基盤としたActive Learningについて）</p> <p>第6回：paper project（広場の音楽について）</p> <p>第7回：ミメシス（身近な素材による鑑賞、創作、歌唱の連関）</p> <p>第8回：voice project（創作、歌唱の有機性を基盤としたActive Learningについて）</p> <p>第9回：西洋の音階について（移動ドと固定ド）</p> <p>第10回：身体と音楽：sound exchange（協働について）</p> <p>第11回：音楽と振付（身体を通じた鑑賞活動について）</p> <p>第12回：〈中学校音楽科 新学習指導要領：第5節音楽〉での資</p>

	<p>質・能力の育成に関する3つの柱について</p> <p>第13回： インクルーシヴ教育と音楽科のuniversal designについて</p> <p>第14回： シアター・ピースを創る（協働、創意工夫、active learning、universal designのまとめ）</p> <p>第15回： 作品発表</p> <p>これらの項目について、哲学的、歴史的背景も踏まえつつ考えていきます。尚、授業の進行状況に応じて内容が変更されることがあります。</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	1週間に4時間（1日40分）の予習・復習が必要。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	芸術関連
(18)学問分野3(副学問分野)	思想関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	R. マリー・シェーファー&今田匡彦『音さがしの本』増補版（春秋社） 学習指導要領
(21)参考文献	ジョン・ペインター『音楽を創る可能性』（音楽之友社） 三浦雅士『身体の零度』（講談社選書メチエ） 三浦雅士『バレエ入門』（新書館） 今田匡彦『哲学音楽論：音楽教育とサウンドスケープ』（恒星社厚生閣）
(22)成績評価方法及び採点基準	グループごとによる課題発表により評価します（ターム・ペーパーを課すこともある）。 課題発表：100%（タームペーパーを貸す場合は、課題発表：70%；タームペーパー：30パーセント）。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義＋演習
(25)留意点・予備知識	音楽と他芸術、科学、環境等の関連について関心を持つ。
(26)オフィスアワー	メールにてアポイントを取って下さい
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	timada@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし。

教育学部

(1)整理番号	60
(2)区分番号	60
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英 文名〕	音楽科教育法II (Curriculum and Instruction in Teaching Secondary Music II)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース音楽）・特支（中コース音楽）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員（所 属）	宮本 由紀乃（非常勤講師）
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度（レベ ル）	レベル2
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての 具体的到達目標	○中学校音楽科における目標・内容の概要とその本質を理解すること（見通す力） ○「人間形成と発達段階に併せた音楽教育について理解し、身に付けさせたい力とその実践方法について探究すること（見通す力） ○関心・意欲・態度から思考場面の工夫、そして表現することのすばらしさを実感し、音楽科の授業をデザインすることができるようになること（解決する力）
(15)授業の概要	・中学校音楽科における目標・内容の概要とその本質を理解する（見通す力）。 ・人間形成と発達段階に併せた音楽教育について理解し、身に付けさせたい力とその実践方法について探究する（見通す力+解決する力）。 ・関心・意欲・態度から思考場面の工夫、そして表現することのすばらしさを実感し、音楽科の授業をデザインすることができるようになる（見通す力+解決する力）。
(16)授業の内容予 定	第1回 子どもが潜在的にもつ感性と学習活動で育んでいく感性について 第2回 発達段階による音楽の捉え方と、音楽を形づくっている要素の本質と役割 第3回 「聴く活動」「創る活動」の意義と実践 第4回 音楽の表現における技能①歌唱 第5回 日本の「声とうた」の系譜と特徴 第6回 中学校音楽科に必要な音楽理論① 移動ド唱法と固定ド唱法／音階・音名と音程 第7回 心を映す！音のアンサンブル 第8回 音楽鑑賞教育の在り方① 基本概念 第9回 日本の音楽教育の変遷～唱歌と童謡～ 第10回 音楽の表現における技能②器楽 第11回 中学校音楽科に必要な理論② 倍音・和音・音楽記号等 第12回 音楽鑑賞教育の在り方② 日本の伝統音楽 第13回 音楽の表現における技能③創作 第14回 中学校音楽科に必要な理論③歌唱教材に触れる 第15回 聴く・感じる・身体から生まれる音楽～表現のすばらしさ～

(17)準備学習（予習・復習）等の内容	次回までに読むべき資料を、毎回の講義にて配付します。その内容について考えることが予習となります。集中講義のため具体的な時間は設定しません。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	芸術関連
(18)学問分野3(副学問分野)	思想関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	教科書は使用しません。授業中、適宜プリントが配付されます。
(21)参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学習指導要領解説 音楽科 ・ 中学校学習指導要領解説 音楽編 ・ 高等学校学習指導要領解説芸術（音楽美術工芸書道）編 ・ 教育課程の編成に関する基礎的研究 報告書7（国立教育政策研究所） ・ 21世紀を生き抜く3+1の力 佐々木裕子（著） ・ サウンド・エデュケーション R・マリー・シェーファー（著）、鳥越けい子（翻訳）、若尾裕（翻訳）、今田匡彦（翻訳） 他多数
(22)成績評価方法及び採点基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平常評価（日常的レポート、講義でのディスカッション、） ・ 中間評価（中間レポート、中間発表（プレゼン））50% ・ 期末評価（最終レポート、最終発表（プレゼン））50%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義＋演習
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	集中講義なので設定しません。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	miyamotoy@edu-c.pref.aomori.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	61
(2)区分番号	61
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	音楽科教育法III (Curriculum and Instruction in Teaching Secondary Music III)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース音楽）・特支（中コース音楽）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日 3・4時限
(10)担当教員（所属）	清水 稔（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒を見取る力に必要な視点を身につけること（見通す力） ○互いに認め合い、協働して学びを深めるための方法や理論について理解すること（見通す力） ○授業を自ら考え、実践できるように音楽の本質的な機能についての理解を深めること（見通す力） ○授業を自ら考え、実践できるだけの技術を身につけること（解決する力） ○多様な価値を認め、その中で適切な評価ができるよう評価の方法について理解を深めること（解決する力）
(15)授業の概要	<p>音楽のカリキュラムをデザインし、授業を創造・実践するための知識と技術を身につけることが目的となります。</p> <p>そのために音楽の在り方について考えを深め、自ら理念を構築し、学校の内外を問わず主体的に判断できるよう理論を学び、議論を通して考察を深めます。</p> <p>また理念を生かした実践ができるよう、場面を想定した実践的な学習を行うことで、技術を身につけます。</p>
(16)授業の内容予定	<ul style="list-style-type: none"> 第1回：ガイダンス（音楽教育とは何か） 第2回：カリキュラムデザイン（学習指導要領と年間指導計画） 第3回：歌唱指導の方法（ソルフェージュと読譜） 第4回：歌唱指導の方法Ⅱ（合唱指導） 第5回：器楽の指導法（教具の扱いと活動の実際） 第6回：器楽の指導法（グループ学習と発表の在り方） 第7回：伝統楽器の指導法 第8回：創作の指導法（即興表現と創作） 第9回：創作の指導法（作品と評価） 第10回：聴くという行為 第11回：鑑賞の指導法（教材の選定と評価） 第12回：音楽科における評価と評定 第13回：DTMと授業におけるICTの活用（情報機器及び教材の活用） 第14回：指導案の作成と模擬授業 第15回：音楽科教育の課題と展望

(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業で取ったノートをもとめて、自分なりに学習したことから広げて、ノート作りをしましょう(3時間) 前もって授業内容について自分なりの考えを持って臨めるように授業の中で、次の内容について指示をするので、その部分のテキストを読んでおきましょう(1時間)。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	芸術関連
(18)学問分野3(副学問分野)	思想関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	最新中等科音楽教育法 [改訂版] 音楽之友社 (2011) ※授業で資料をプリントで配布します。
(21)参考文献	今田匡彦『哲学音楽論：音楽教育とサウンドスケープ』(恒星社厚生閣) 高木展朗『「これからの時代に求められる資質・能力の育成」とは一アクティブな学びを通して』(東洋館出版社) L. チョクシー 音楽教育メソッドの比較 コダーイ, ダルクローズ, オルフ, C・M (全音) Edwin Gordon "Learning Sequence in Music" (GIA Publications) 中学校音楽1、2・3上、2・3下 教育芸術社 中学校音楽1、2・3上、2・3下 教育出版
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への参加姿勢 (15%) 講義内での模擬授業や発表による評価 (70%) ノートとレポート (15%) 以上を総合して評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	学んだことをもとに、グループやペアでディスカッションしながら、継続的に模擬授業をすることを通して実践力を身につけていきます。お互いに批評をすることで、主体的に学んでいきます。
(25)留意点・予備知識	特にありません。
(26)オフィスアワー	E-Mailにてアポを取ってください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	m-shimizu@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特にありません。

教育学部

(1)整理番号	62
(2)区分番号	62
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	音楽科教育法IV (Curriculum and Instruction in Teaching Secondary Music IV)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース音楽）・特支（中コース音楽）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日 3・4時限
(10)担当教員（所属）	今田 匡彦（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3～4
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>一般目標： ○音楽とは何か、何が音楽か、そのために音楽教育はどうあるべきかを自分の言葉で考え、実践できる能力を身につけること ○そのための基盤として学習指導要領に示された音楽科の目標や内容を理解すること</p> <p>到達目標： ○生徒の存在、認識、身体性等を視野に入れた授業設計の重要性を理解すること（見通す力） ○生徒たちの協働による作品の価値を理解すること（見通す力） ○高度な技術を基盤としない生徒たちの創意工夫を理解すること（解決する力） ○外部に仮想の聴衆を想定しない音楽について理解すること（解決する力） ○音楽科と科学、他の芸術、環境などとの繋がりについて理解すること（解決する力；学び続ける力） ○エンターテインメント産業による商品化された音楽についてリテラシーを持つこと（学び続ける力）</p>
(15)授業の概要	○音楽とは何か、何が音楽か、そのために音楽教育はどうあるべきかを言語化する。 ○上記で言語化された内容を具体的に実践できる能力を身につける。
(16)授業の内容予定	1 模倣（鑑賞と創作の連関） 2 2つのミメシス（soundwalkとgraphic scoreについて；鑑賞から創作へ） 3 形式と内容（音楽のinside, とoutsideについて；教科書の鑑賞教材を題材にして） 4 様式について（〈ステージの音楽〉と〈広場の音楽〉について） 5 音楽と身体（音楽のuniversal design） 6 音楽療法からの学び（音楽とインクルーシヴ教育について） 7 身近な音素材としての〈声〉の可能性について；新たな創作・歌唱教材の構築 8 身近な音素材としての〈ピアノ〉の可能性1：新たな創作・器楽教材の構築

	<p>9 身近な音素材としての〈ピアノ〉の可能性2：モードジャズ、クラスター、内部弦奏法</p> <p>10 サウンド・エデュケーション：環境と音楽との連関</p> <p>11 日本の音とポストコロニアル</p> <p>12 現代音楽から学ぶ鑑賞と表現（創作を基盤とした歌唱、器楽への応用）について</p> <p>13 創作活動の基盤：〈まとまりのある創作表現〉〈音階や言葉などの特徴〉〈音のつながり方〉〈音素材の特徴〉〈音の重なり〉〈反復〉〈変化〉〈対象〉について</p> <p>14 音楽の〈構造や背景〉、〈多様性〉の理解、〈創意工夫〉〈協働〉について</p> <p>15 鑑賞と創作及びユニヴァーサル・デザインを基盤とした新たな音楽教育プログラムの構築（学習指導案発表） 但し、講義の進行状況に応じて内容が変更されることがあります。</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	1週間に4時間（1日40分）の予習・復習が必要。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	芸術関連
(18)学問分野3(副学問分野)	思想関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	<p>今田匡彦『哲学音楽論：音楽教育とサウンドスケープ』 R. マリー・シェーファー&今田匡彦『音さがしの本』増補版（春秋社） 中学校学習指導要領第5節音楽（平成29年3月31日公示）</p>
(21)参考文献	<p>音楽科教育法Ⅰでの文献を読んだことを前提としてのアドヴァンス文献です：</p> <p>水村美苗『日本語が亡びるとき』（筑摩書房） 川田順造『口頭伝承論』上下（平凡社ライブラリー） エドワード・サイード『音楽のエラボレーション』（みすず書房） R. マリー・シェーファー『世界の調律』（平凡社） スーザン・ソントグ『反解釈』（ちくま学芸文庫） 高橋悠治『音の静寂 静寂の音』（平凡社） ロラン・バルト『第三の意味』（ちくま学芸文庫）</p>
(22)成績評価方法及び採点基準	プレゼンテーション、パーティシペーション及びタームペーパーにより評価します。プレゼンテーション：80%；タームペーパー：20%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義＋演習
(25)留意点・予備知識	これまで音楽教育について学んできたことを、見通す力、解決する力、学び続ける力をキーワードに総括する。
(26)オフィスアワー	メールにてアポイントを取って下さい。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	timada@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	63
(2)区分番号	63
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	美術科教育法 (Curriculum and Instruction in Teaching Arts)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等 (中コース美術) ・ 特支 (中コース美術) : 必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日 3・4時限
(10)担当教員 (所属)	蝦名 敦子 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○中学校美術科の指導内容を理論的且つ実践的に理解すること (見通す力) ○学習指導案を作成できるようになること (解決する力)
(15)授業の概要	○美術科学習指導要領を解説しながら、指導内容の表現と鑑賞について実践的に取り組む。 ○学習指導案を作成して検討する。
(16)授業の内容予定	1. オリエンテーション (授業の概要) 2. 学習指導要領とは、美術科の目標 3. 学習指導要領分析 1 (中学校第 1 学年) 4. 学習指導要領分析 2 (中学校第 2・3 学年) 5. 小学校図画工作科との関連、美術の教科性 6. 表現の実践 実技制作 1 (モチーフの収集とエスキース) 7. 表現の実践 実技制作 2 (制作) 8. 表現の実践 実技制作 3 (制作と理論的考察) 9. 鑑賞 1 学生の作品鑑賞 10. 鑑賞 2 美術作品 11. 鑑賞授業の組み立て、実践例 12. 学習指導案について (指導案の考察) 13. 教科書、資料集の検討 14. 学習指導案の作成 15. 学習指導案の提出とチェック
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	毎回の授業内容を押さえてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	芸術関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	『中学校学習指導要領解説 美術編 (平成29年6月)』 文部科学省 『美術資料』 青森県中学校教育研究会美術部会他編、秀学

	社 開隆堂、日本文教出版の『美術』教科書
(21)参考文献	必要に応じて適宜、紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	作品・レポート（40%）、口頭発表（30%）、学習指導案（30%）から総合的に評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義が基本ですが、演習を含みます。
(25)留意点・予備知識	提出物は必ず提出するようにしてください。
(26)オフィスアワー	木曜日14:30～15:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	eatsuko@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	64
(2)区分番号	64
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	美術科授業研究 (Research of Arts Teaching)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース美術）・特支（中コース美術）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 3・4時限
(10)担当教員（所属）	富田 晃（教育学部）
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○中学校美術科の目標や内容を理解すること（見通す力） ○中学校の美術科教師として必要な、造形力・指導力の基礎をみにつけること（解決する力）
(15)授業の概要	○言葉と造形によるコミュニケーション ○美術館や史跡などの地域の探索 ○教材研究 ○美術教員としての基礎力をみにつける
(16)授業の内容予定	第1回 オリエンテーション 第2回 自己を伝えること 第3回 他者を理解すること 第4回 地域探索（地域の史跡） 第5回 スケッチ 第6回 彩色 第7回 ことば 第8回 仕上げ 第9回 鑑賞 教材づくり 第10回 地域探索（地域の美術館） 第11回 教材づくり（基礎編） 第12回 教材づくり（実践編） 第13回 教材づくり（応用編） 第14回 地域探索（文化施設） 第15回 授業の総括と理解度の確認 授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	毎回の授業で取り上げられた内容を整理し、理解しておくようにしてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	芸術関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-

(20)教材・教科書	必要に応じたプリントを配ります。
(21)参考文献	中学校学習指導要領
(22)成績評価方法及び採点基準	参加姿勢（1/3）、口頭発表（1/3）、作品（1/3）を総合して評価する。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義および演習
(25)留意点・予備知識	日ごろから美術と教育に関心をもっていてください。
(26)オフィスアワー	メールにてアポイントを取ってください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	atomita@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし。

教育学部

(1)整理番号	65
(2)区分番号	65
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	美術科教育法演習I (Curriculum and Instruction in Teaching Arts, Seminar I)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース美術）・特支（中コース美術）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日 3・4時限
(10)担当教員（所属）	蝦名 敦子（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	○中学校美術科の授業について、学習指導案を作成し、検討すること（解決する力） ○教材を準備をして、実践的に授業ができること（学び続ける力）
(15)授業の概要	○美術科教育法の内容を実践的に進める。学習指導案を検討し、教材を準備して、模擬授業をしながら、美術科の授業について考察する。 ○教育実習（Tuesday実習を含む）に備えて実践力を総合的に養う。
(16)授業の内容予定	1. オリエンテーション 2. 美術科の授業内容に関する実践的考察(表現) 3. 美術科の授業内容に関する実践的考察(制作) 4. 美術科の授業内容に関する実践的考察(鑑賞) 5. 美術科の授業内容に関する実践的考察(美術作品の鑑賞) 6. 学習指導案の検討 7. 学習指導案の作成 8. 参考作品の制作、教材準備 9. 模擬授業の発表(担当学生A)と検討 10. 模擬授業の発表(担当学生B)と検討 11. 模擬授業の発表(担当学生C)と検討 12. 模擬授業の発表(担当学生D)と検討 13. 模擬授業の総括 14. 年間カリキュラムについて(指導計画の作成にあたって) 15. 年間カリキュラムについて(内容の取り扱い)
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	模擬授業などの発表準備をしてもらいます。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	芸術関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
	-

(19)実務経験のある教員による授業科目について	
(20)教材・教科書	『中学校学習指導要領解説 美術編（平成29年6月）』、文部科学省『美術資料』青森県中学校教育研究会美術部会他編、秀学社
(21)参考文献	必要に応じて適宜、紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	模擬授業発表、検討（50%）、提出物（50%）から総合的に評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	模擬授業等の演習をしながら進めます。
(25)留意点・予備知識	美術科教育法の内容をよく押さえておくこと。
(26)オフィスアワー	木曜日（14:30～15:30）
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	eatsuko@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	66
(2)区分番号	66
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	美術科教育法演習II (Curriculum and Instruction in Teaching Arts, Seminar II)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース美術）・特支（中コース美術）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日 3・4時限
(10)担当教員（所属）	富田 晃（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○中学校美術科の授業を組み立てられるようになること（解決する力）
(15)授業の概要	○将来、実践してみたい中学校美術科の教材について指導案を作成。 ○将来、実践してみたい中学校美術科の教材についての模擬授業。
(16)授業の内容予定	<p>第1回 ガイダンス 第2回 学習指導要領の確認（表現分野） 第3回 指導案作成（表現A） 第4回 指導案作成（表現B） 第5回 指導案作成（表現C） 第6回 指導案作成（表現D） 第7回 模擬授業（表現A） 第8回 模擬授業（表現B） 第9回 模擬授業（表現C） 第10回 模擬授業（表現D） 第11回 学習指導要領の確認（鑑賞分野） 第12回 指導案作成（鑑賞） 第13回 模擬授業（鑑賞） 第14回 学習指導案の補正 第15回 授業の総括と理解度の確認</p> <p>授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	充実した模擬授業をおこなえるように十分な準備をしてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
	-

(19)実務経験のある教員による 授業科目について	
(20)教材・教科書	必要に応じてプリントを配ります。
(21)参考文献	中学校学習指導要領
(22)成績評価方法及び採点基準	参加姿勢(1/3)、準備(1/3)、実践内容(1/3)を総合して判断します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習・模擬授業
(25)留意点・予備知識	日ごろから美術と教育に関心をもってください。
(26)オフィスアワー	メールにてアポイントを取ってください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	atomita@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし。

教育学部

(1)整理番号	67
(2)区分番号	67
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名 〔英文名〕	体育科教育法 (Physical Education Teaching)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等 (中コース保健体育) ・ 特支 (中コース保健体育) : 必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 3・4時限
(10)担当教員 (所属)	上野 秀人 (教育学研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての 具体的到達目標	○中学校学習指導要領ならびに学習指導要領解説書 (保健体育編) の概要が理解できるとともに、学習指導計画の目的、ねらい、作成法等が理解できるようにすること
(15)授業の概要	中学校学習指導要領ならびに学習指導要領解説書 (保健体育編) を中心に各運動内容や保健との関連性、学習指導計画の作成方法、生徒の発育・発達の特性を踏まえた教授方法などについて解説し、保健体育授業や体育的活動の基礎について学習する。
(16)授業の内容 予定	1 オリエンテーション 2 学習指導要領の解説 1 改訂の趣旨 3 学習指導要領の解説 2 改訂の趣旨 4 学習指導要領総括と小テスト 5 教材化・手だての工夫 6 基礎基本の定着と発展的な学習 7 球技の授業づくり 1 各授業時間の構想 8 球技の授業づくり 2 単元の構想 9 評価 (指導と評価の一体化) 10 指導案の作り方解説と小テスト 11 授業計画づくり 1 年間計画の構想 12 その他の授業づくり 13 地域人材の活用法 14 体育と他の教育活動との関連 15 教育法規との関連性 16 テスト
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	(予習) 保健体育科の各領域内容を事前に調べ、その内容について予備知識を得るようにしてください。 (復習) 授業で学んだ知識・技能を保健体育の教育実践や他の教育活動に活かす方法・内容を検討してください。

(18)学問分野 1(主学問分野)	体育関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	スポーツ科学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	中学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）
(21)参考文献	高橋健夫「体育授業を観察評価する」大修館書店
(22)成績評価方法及び採点基準	知識80%（小テスト20%、大テスト40%、レポートによる評価20%）、態度20%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義・演習
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	水12:00-12:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ueno@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	68
(2)区分番号	68
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	保健科教育法 (Health Education Teaching)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース保健体育）・特支（中コース保健体育）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日 3・4時限
(10)担当教員（所属）	高橋 俊哉（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○学習指導要領の内容を理解するとともに、適切な教材づくりと授業運営ができること
(15)授業の概要	保健授業の内容、教材づくり、授業の実践方法を学びます。
(16)授業の内容予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教壇に立って、話をしてみよう 2. 保健で何を教えるのだろう？ 基本編 3. 保健で何を教えるのだろう？ 実践編 4. 教材づくりとは 基本編 5. 教材づくりとは 実践編 6. 発問を知ろう 7. 授業を効果的にする工夫 基本編 8. 授業を効果的にする工夫 実践編 9. 指導案とは 基本編 10. 指導案とは 実践編 11. 教材づくり グループワーク1 12. 教材づくり グループワーク2 13. 模擬授業1 14. 模擬授業2 15. 模擬授業3
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	各回の内容を次週までに理解しておくこと
(18)学問分野1(主学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	体育関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	なし
(21)参考文献	なし
(22)成績評価方法及び採点基準	レポート

(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義、実習、模擬授業
(25)留意点・予備知識	なし
(26)オフィスアワー	月12:00~13:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<u>toshiya@hirosaki-u.ac.jp</u>
(28)その他	なし

教育学部

(1)整理番号	69
(2)区分番号	69
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	体育科教育方法論 (Materials Developments in Physical Education Teaching)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等 (中コース保健体育) ・ 特支 (中コース保健体育) : 必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日 3・4時限
(10)担当教員 (所属)	清水 紀人 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2~3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業とし	○体育科教育における実践的な運動指導方法の基礎と教材のあり方について理解すること

<p>ての 具 体 的 到 達 目 標</p>	
<p>(15) 授 業 の 概 要</p>	<p>体育科教育における実践的な運動指導の基礎として不可欠な運動習得の理論を学習します。そして、指導形態の系統性・順次性や教材のあり方と場づくりなどの基礎についても学習します。</p>
<p>(16) 授 業 の 内 容 予 定</p>	<p>1回目：オリエンテーション 2回目：新しい運動学習 3回目：運動学習の意味と授業研究 4回目：運動学習に取り組む意欲 5回目：動きの構造・先取り・リズム 6回目：動きの系統性・違い・修正方法 7回目：動き方を覚えさせることの意味 8回目～11回目：覚えるための指導上のポイント 12回目：新しい動き方にどう取り組ませるか 13回目：子供の動きの可能性をどう引き出すか 14回目～16回目：学生による授業内容のまとめとプレゼンテーション</p>
<p>(17) 準 備 学 習 (予 習・ 復 習) 等 の 内 容</p>	<p>各講義ごとの内容に付いてまとめ、次の講義に備えるようにして下さい。</p>
<p>(18) 学 問 分 野 1(主 学 問 分 野)</p>	<p>教育学関連</p>
<p>(18) 学 問 分 野 2(副 学 問 分 野)</p>	<p>体育関連</p>
<p>(18) 学 問 分 野 3(副 学 問 分 野)</p>	<p>-</p>
<p>(19) 実 務 経 験 の あ る 教 員 に よ る 授 業 科 目 に つ い て</p>	<p>-</p>
	<p>教師のための運動学 運動指導の実践理論（大修館）を使用します。</p>

(20) 教材・ 教科 書	
(21) 参考 文献	特になし
(22) 成績 評価 方法 及び 採点 基準	平常評価：50%（プレゼンテーション）達成評価：50%（レポート） 上記を合算して成績評価を行います。
(23) 授業 形式	講義
(24) 授業 形 態・ 授業 方法	基本は講義形式です。一部、文献購読・実践（グループによるプレゼンテーション）を含みます。
(25) 留意 点・ 予備 知識	教師のための運動学 運動指導の実践理論（大修館）を必ず購入してください。 授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明をします。
(26) オフ イス アワ ー	（木）14:30～15:30
(27) E メー ルア ドレ ス・ HPア ドレ ス	nori@hirosaki-u.ac.jp 教育者総覧 http://db.jm.hirosaki-u.ac.jp/cybouz/db.exe? page=DBRecord&did=1988&vid=718&rid=2419&text=%90%B4%90%85%81%40%8B%49%90%6C&Head=&hid=&sid=n&rev=0&ssid=
(28) その 他	特になし

教育学部

(1)整理番号	70
(2)区分番号	70
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名 〔英文名〕	保健体育科実践I (Methodology in Physical Education Teaching, Seminar I)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース保健体育）・特支（中コース保健体育）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日 3・4時限
(10)担当教員（所属）	杉本 和那美（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○4年次に行われる研究教育実習やサポーター実習に反映させることができるための「課題解決力」を身につけること
(15)授業の概要	Tuesday実習並びに集中実習で実践された保健体育授業を振り返り、省察された事項を踏まえて学習指導案の作成方法やその内容を深めます。さらに年間指導計画を作成することにより、保健体育科の全体像を明確にします。
(16)授業の内容予 定	第1回：オリエンテーション 第2回：教育実習学習指導案と授業の検討（体づくり運動） 第3回：体づくり運動の授業の検討と学習指導案の作成 第4回：教育実習学習指導案と授業の検討（陸上競技） 第5回：陸上競技の授業の検討と学習指導案の作成 第6回：教育実習学習指導案と授業の検討（器械運動） 第7回：器械運動の授業の検討と学習指導案の作成 第8回：教育実習学習指導案と授業の検討（球技） 第9回：球技の授業の検討と学習指導案の作成 第10回：教育実習学習指導案と授業の検討（武道、ダンス） 第11回：武道、ダンスの授業の検討と学習指導案の作成 第12回：教育実習学習指導案と授業の検討（体育理論、保健分野） 第13回：体育授業及び体育的行事中の事故 第14回：年間指導計画作成の方法 第15回：年間指導計画の作成
(17)準備学習（予 習・復習）等の内 容	教育実習で指導教員から指摘されたことを整理しておいてください。 また、学校現場における年間指導計画を作成する際の架空対象学校の地域環境状況を調べておいてください。
(18)学問分野 1(主学問分野)	体育関連
	-

(18)学問分野 2(副学問分野)	
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある 教員による授業 科目について	-
(20)教材・教科書	小中学校学習指導要領解説体育編・保健体育編（文部科学省）、配布資料 を使用します。
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法 及び採点基準	平常評価（態度、発表等による評価：40%） 達成評価（レポート等による評価：60%） 上記を合算して成績評価を行います。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授 業方法	ディベート、プレゼンテーションを含む
(25)留意点・予備 知識	特になし
(26)オフィスアワ ー	木曜日 14時～15時
(27)Eメールアド レス・HPアドレ ス	kanami@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	71
(2)区分番号	71
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名 〔英文名〕	保健体育科実践II (Methodology in Physical Education Teaching, Seminar II)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員 (所属)	高橋 俊哉 (教育学部) ・ 益川 満治 (教育学部) ・ 杉本 和那美 (教育学部)
(11)地域志向 科目	地域志向科目
(12)難易度 (レベル)	レベル1
(13)対応する CP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業とし ての具体的到 達目標	○集中授業の実技アシスタントを通じて、現場での指導法や安全管理等を身につけること
(15)授業の概 要	スポーツ種目の指導実践として、小学専門体育実技(水泳・スキー)指導のTAを体験します。水泳・スキーのアシスタントについては、基本実技VI、水泳・スキーの授業で習得した知識・技術を基礎とし、実際に水泳・スキー指導のアシスタントを経験することにより、その指導法・安全管理等を学習します。
(16)授業の内 容予定	第 1 回 授業ガイダンス 第 2 回 水泳授業の企画・運営について 第 3 回 水泳授業の安全確保と救急処置について 第 4 回 水泳の基本技術の指導法 第 5 回 クロールの指導法 第 6 回 平泳ぎの指導法 第 7 回 背泳ぎの指導法 第 8 回 スタート・ターンの指導法 第 9 回 スキー授業企画・運営について 第 10 回 スキー用具の基礎知識と準備上の注意 第 11 回 スキーの基本技術 (歩行・登行・方向転換・制動) の指導法 第 12 回 スキーの基本技術 (歩行・登行・方向転換・制動) の指導法 第 13 回 スキーの基本技術 (プルーク・ボーゲン) の指導法 第 14 回 スキーの基本技術 (パラレルターン大回り) の指導法 第 15 回 スキーの基本技術 (パラレルターン中回り) の指導法
(17)準備学習 (予習・復 習) 等の内容	水泳、スキーについて練習しておくこと。
	体育関連

(18)学問分野 1(主学問分野)	
(18)学問分野 2(副学問分野)	スポーツ科学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	健康科学関連
(19)実務経験 のある教員に よる授業科目 について	-
(20)教材・教 科書	特にありません。
(21)参考文献	「スキー指導と検定」(全日本スキー連盟)
(22)成績評価 方法及び採点 基準	授業への取り組み方と授業後のレポート等により総合的に評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形 態・授業方法	水泳実技のアシスタント：7月中旬、学園町プールで行われる小学専門体育実技の集中授業(2日間)にて受講します。 スキー実技のアシスタント：1月中旬、ナクア白神スキー場で行われる小学専門体育実技の集中授業(2日間)にて受講します。
(25)留意点・ 予備知識	この授業には水泳、スキーの基本技術が必要です。水泳Ⅰ・Ⅱ、基本実技水泳・応用運動実技Ⅰ、スキーⅠ・Ⅱ、基本実技スキー・応用運動実技Ⅱの単位を修得済みが必須条件となります。また、スキーの授業においては、リフト代等が必要となります。詳細については、授業前に実施するガイダンスにて周知します。
(26)オフィス アワー	月12:00~13:00
(27)Eメール アドレス・HP アドレス	toshiya@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特にありません。

教育学部

(1)整理番号	72
(2)区分番号	72
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	保健科教育概論 (Introduction to Health Instruction)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 1・2時限
(10)担当教員(所属)	原 郁水(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○保健科教育の目標や内容および個別の学習内容、その留意点について理解し説明できること(見通す力)
(15)授業の概要	教科としての保健の授業を実施するために必要な、保健科の内容、目標、評価などについて講義および演習を行います。
(16)授業の内容予定	<p>第1回：保健科教育法の意義 第2回：保健科教育とは 第3回：保健科教育の歴史 第4回：学習指導要領の変遷と保健科教育 第5回：答申について 第6回：現在の学習指導要領 第7回：教育および保健科教育の目標 第8回：保健科教育の内容(中学校) 第9回：保健科教育の内容(高等学校、小学校) 第10回：知識・技能について 第11回：思考力、判断力、表現力について 第12回：学びに向かう力、人間性について 第13回：保健科教育の基礎理論 第14回：教育の方法 第15回：ICTの利用等を含めた授業方法、学習状況の確認(試験含む)と振り返り</p> <p>※授業の進行状況により、シラバスと実際の内容が異なることがあります。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	指定した内容について予め目を通しておく。(予習) 授業の内容を整理する。(復習)
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-

(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	<p>テキスト（初回で説明します）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校学習指導要領 ・ 中学校学習指導要領解説 保健体育編 ・ 高等学校学習指導要領 ・ 高等学校学習指導要領解説 保健体育編 ・ 保健体育科教科書（学研）
(21)参考文献	授業中に適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>平常評価（授業への参加度）：30%</p> <p>期末評価（試験）：70%</p> <p>上記を合算して最終的な成績評価を行う予定です。</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義および討議、発表
(25)留意点・予備知識	特にありません。
(26)オフィスアワー	水曜日 5・6時限
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ikumih@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特にありません。

教育学部

(1)整理番号	73
(2)区分番号	73
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	保健授業論 (Theory of Health Education Curriculum)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日 7・8時限
(10)担当教員(所属)	原 郁水(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○子供の実態を視野に入れた授業設計、情報機器及び教材の活用法を理解し説明できること(見通す力)
(15)授業の概要	授業方法や教材、授業設計、学習指導案について学び、具体的な授業を想定した学習指導案の作成および検討を行います。
(16)授業の内容予定	<p>第1回：保健の授業とは 第2回：保健科教育の方法 第3回：授業と教材 第4回：内容と教材(健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康) 第5回：内容と教材(障害の防止、健康と環境) 第6回：ICTを活用した教材 第7回：授業の実際と展開 第8回：学習指導案とは 第9回：学習指導案の作成(目標と単元観、児童観等) 第10回：学習指導案の作成(本時、評価、留意点等) 第11回：作成した指導案の検討(健康な生活と疾病の予防、心身の発達と心の健康) 第12回：作成した指導案の検討(障害の防止、健康と環境) 第13回：授業における教具 第14回：教具の検討 第15回：評価について、まとめ</p> <p>※授業の進行状況により、シラバスと実際の内容が異なることがあります。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	指定した内容について予め目を通しておく。(予習) 授業の内容を整理する。(復習)
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	健康科学関連
	-

(18)学問分野3(副学問分野)	
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	テキスト（初回で説明します） ・中学校学習指導要領 ・中学校学習指導要領解説 保健体育編 ・保健体育科教科書
(21)参考文献	授業中に適宜説明します。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（授業への参加度）：20% 中間評価（発表）：40% 期末評価（レポート）：40% 上記を合算して最終的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義および討議、発表
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	水曜日 5・6時限
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ikumih@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	74
(2)区分番号	74
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	保健教材論 (Theory of Course Material in Health Education)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日 5・6時限
(10)担当教員(所属)	原 郁水(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○教科としての保健の内容や目標、意義、方法などにかかわる事項を理解し、教材を作成することができること(見通す力) ○模擬授業を行い討論することができること(解決する力)
(15)授業の概要	これまでの授業を踏まえて保健教材について理解した上で、教材づくりと模擬授業、および授業の検討を行います。
(16)授業の内容予定	<p>第1回：保健科教育における情報機器及び教材の活用 第2回：保健科教育における発問の役割 第3回：授業に関する技術的側面(板書、ワークシート等) 第4回：授業に関する技術的側面(話し方、見方、聞き方等) 第5回：模擬授業とその検討(体の発育・発達、呼吸器循環器の発達) 第6回：模擬授業とその検討(生殖機能の成熟、性とどう向き合うか) 第7回：模擬授業とその検討(心の発達(知的・情意)、心の発達(社会性)) 第8回：模擬授業とその検討(自己形成、欲求不満・ストレス) 第9回：模擬授業とその検討(環境の変化と適応機能、活動に適した環境) 第10回：模擬授業とその検討(室内の空気の状態、水の役割と飲料水の確保) 第11回：模擬授業とその検討(生活排水の処理、ごみの処理) 第12回：模擬授業とその検討(環境の汚染と保全、傷害の原因と防止) 第13回：模擬授業とその検討(交通事故の現状と原因、交通事故の防止) 第14回：模擬授業とその検討(犯罪被害の防止、自然災害に備えて) 第15回：授業の見方、評価の仕方等、まとめ</p> <p>※授業の進行状況により、シラバスと実際の内容が異なることがあります。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	自分の担当回について準備を行う(予習) 毎回の授業について整理する(復習)
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	テキスト（初回で説明します） ・中学校学習指導要領 ・中学校学習指導要領解説 保健体育編 ・保健体育科教科書
(21)参考文献	適宜授業中に紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（授業への参加度）：20% 中間評価（模擬授業）：40% 期末評価（レポート）：40% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義、討議、模擬授業など
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	木曜日7・8時限
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ikumih@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	75
(2)区分番号	75
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	保健教育方法論 (Methodology of Teaching Health Education)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 3・4時限
(10)担当教員(所属)	原 郁水(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	<p>○授業者として選んだ題材の指導計画、教材、教育方法を工夫して1時間分の指導案を立てそれを基に模擬授業を行うことができること(見通す力)</p> <p>○授業改善の視点を持ち自分の意見を述べるができること(解決する力)</p> <p>○近年の実践研究の動向を知り、授業の向上に取り組むことができること(学び続ける力)</p>
(15)授業の概要	これまでの授業を踏まえて3年次の「保健」の教育実習を念頭に置いた模擬授業を行い、集団的に検討します。また、近年の実践研究について学習します。
(16)授業の内容予定	<p>第1回：保健科教育と模擬授業</p> <p>第2回：模擬授業とその検討(食生活と健康)</p> <p>第3回：模擬授業とその検討(休養・睡眠と健康)</p> <p>第4回：模擬授業とその検討(生活習慣病とその予防)</p> <p>第5回：模擬授業とその検討(喫煙と健康)</p> <p>第6回：模擬授業とその検討(飲酒と健康)</p> <p>第7回：模擬授業とその検討(薬物乱用と健康)</p> <p>第8回：模擬授業とその検討(喫煙・飲酒・薬物乱用のきっかけ)</p> <p>第9回：模擬授業とその検討(感染症とその予防)</p> <p>第10回：模擬授業とその検討(性感染症とその予防)</p> <p>第11回：模擬授業とその検討(保健・医療機関の利用)</p> <p>第12回：授業の実際</p> <p>第13回：集団的保健指導</p> <p>第14回：情報機器等を生かした授業</p> <p>第15回：保健科教育における近年の動向、まとめ</p> <p>※授業の進行状況により、シラバスと実際の内容が異なることがあります。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	自分の担当回について準備を行う。(予習) 毎回の授業について整理する。(復習)
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	テキスト（初回で説明します） ・中学校学習指導要領 ・中学校学習指導要領解説 保健体育編 ・保健体育科教科書
(21)参考文献	授業中に適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（授業への参加度）：20% 中間評価（模擬授業）：40% 期末評価（レポート）：40% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	主に模擬授業と討論
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	水曜日 5・6時限
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ikumih@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	76
(2)区分番号	76
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	技術科教育法I (Technology Education Teaching I)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース技術）・特支（中コース技術）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 3・4時限
(10)担当教員（所属）	上之園 哲也（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的な到達目標	○技術科教育の目的と内容が理解できること
(15)授業の概要	技術科の授業の実践事例を基に、技術科教育の目的と内容を理解し、授業実践に必要な基礎的・基本的知識を習得する。
(16)授業の内容予定	<p>第1回：技術科教育法Iの概要説明</p> <p>第2回：技術科教育の目的と役割</p> <p>第3回：技術科における教育課程編成と学習内容</p> <p>第4回：「材料と加工に関する技術」における題材の検討</p> <p>第5回：「材料と加工に関する技術」における製作題材及び情報機器を活用した教材（プロジェクタ投影教材）の検討</p> <p>第6回：「材料と加工に関する技術」における製作題材及び情報機器を活用した教材（プロジェクタ投影教材）の製作</p> <p>第7回：「エネルギー変換に関する技術」における題材の検討</p> <p>第8回：「エネルギー変換に関する技術」における教材事例の検討</p> <p>第9回：「エネルギー変換に関する技術」における事例教材の製作</p> <p>第10回：「生物育成に関する技術」における題材の検討</p> <p>第11回：「生物育成に関する技術」における教材事例の検討</p> <p>第12回：「情報に関する技術」における題材の検討</p> <p>第13回：「情報に関する技術」における情報機器を活用した教通信ネットワーク及びプログラミングの事例教材の検討</p> <p>第14回：「情報に関する技術」における情報機器を活用した教通信ネットワーク及びプログラミング事例教材の製作</p> <p>第15回：まとめと発表</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	<p>[予習] 題材製作の課題について事前学習が必要です。</p> <p>[復習] 題材検討の回は検討結果の整理・まとめが必要です。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-

(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	技術科教育概論：日本産業技術教育学会・技術教育分科会（編）、九州大学出版会 中学校学習指導要領解説 技術・家庭編 中学校技術・家庭科技術分野の教科書（東京書籍）
(21)参考文献	授業で適宜紹介する。
(22)成績評価方法及び採点基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ディスカッションでの発言（20%） ・検討した内容のレポート発表（30%） ・授業で行う確認小テストの状況（30%） ・授業への参加度（20%） 以上を基に総合的に評価する。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	グループによる協働的な学習、問題解決的な学習を中心に展開します。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	水曜日12:00～12:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	uenosono@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	77
(2)区分番号	77
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	技術科教育法II (Technology Education Teaching II)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース技術）・特支（中コース技術）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日 3・4時限
(10)担当教員（所属）	上之園 哲也（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2～3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的な到達目標	○技術科における教材の評価ができること ○技術科の授業の基礎的な実践力を習得すること
(15)授業の概要	技術科の教育目標に照らした教材の開発と分析を体験的に行うと共に、授業設計の基礎と実技指導の方法及び教授方法を習得する。
(16)授業の内容予定	第1回：技術科教育法IIの概要説明 第2回：技術科の学習の目標分析 第3回：技術科教材の設計要素 第4回：技術科教材の設計演習 第5回：技術科教材の製作 第6回：教材の分析と評価 第7回：技術科の授業の特徴と性格 第8回：技術科の学習理論と教授理論 第9回：技術科における基本的授業スキル 第10回：技術科の技能指導方法 第11回：技術科における情報機器（書画カメラ及びプロジェクタ）の活用を含む演示のあり方 第12回：技能指導の設計 第13回：技能指導の情報機器（書画カメラ及びプロジェクタ）を活用したマイクロティーチング 第14回：技能指導の情報機器（書画カメラ及びプロジェクタ）を活用したマイクロティーチングとリフレクション 第15回：まとめ
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	〔予習〕各回の内容についてテキストをもとにした事前学習が必要です。 〔復習〕マイクロティーチングの回は課題の設定と改善案に対する検討等が必要です。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
	-

(18)学問分野3(副学問分野)	
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	技術科教育概論：日本産業技術教育学会・技術教育分科会（編）、九州大学出版会 中学校学習指導要領解説 技術・家庭編 中学校技術・家庭科技術分野の教科書（東京書籍） その他、必要な書籍等は適宜紹介すると共に、資料を配付します。
(21)参考文献	適宜、授業で紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ディスカッションへの発言（20%） ・設計製作した教材に関するレポート（25%） ・演習でのマイクロティーチング（25%） ・授業で実施する確認小テストの状況（10%） ・授業への参加度（20%） 以上を基に総合的に評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	グループによる協働的な学習、問題解決的な学習を中心に展開します。
(25)留意点・予備知識	技術科教育法 I を履修しておいてください。
(26)オフィスアワー	水曜日 12：00～12:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	uenosono@hirsaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	78
(2)区分番号	78
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英 文名〕	技術科教育法III (Technology Education Teaching III)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース技術）・特支（中コース技術）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日 3・4時限
(10)担当教員（所 属）	上之園哲也（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベ ル）	レベル3
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての 具体的到達目標	○技術科の学習指導案が作成できること ○学習の評価基準の設定ができること ○技術科の教科経営を理解できること
(15)授業の概要	Tuesday実習及び集中実習と連携させながら、技術科の学習指導案の作成と評価基準の作成等を行う。その際、情報機器を活用してオンライン共有ファイルでグループでの共同作業演習を行う。
(16)授業の内容予 定	<p>第1回： 技術科教育法Ⅲの概要説明 第2回： 技術科の学習指導案のあり方 第3回から11回までは、情報機器（ノートPC）を活用したオンラインの共同作業を行う。 第3回： 技術科の学習指導案作成 題材設定 第4回： 技術科の学習指導案作成 授業展開 第5回： 技術科の学習指導案作成と評価 第6回： 技術科の評価規準と評価基準のあり方 第7回： 技術科の評価基準の作成演習 第8回： 技術科の評価基準の作成演習とまとめ 第9回： 技術科の学習の評価方法 第10回： 学習評価の演習 第11回： 学習評価の演習とまとめ 第12回： 技術科における安全指導 第13回： 技術科の教科経営のあり方 第14回： 技術科の条件整備 第15回： まとめと発表</p> <p>オンラインでの共同作業で用いるノートPCを持参してください。</p>
(17)準備学習（予 習・復習）等の内容	〔予習〕 各回の内容について課題を提示しますのでそれら事前学習が必要です。 〔復習〕 演習の回は課題の設定と改善案に対する検討等が必要です。
(18)学問分野1(主 学問分野)	教育学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	技術科教育概論：日本産業技術教育学会・技術教育分科会（編）、九州大学出版会 中学校学習指導要領解説 技術・家庭編 中学校技術・家庭科技術分野の教科書（東京書籍） その他、必要な書籍等は適宜紹介すると共に、資料を配付します。
(21)参考文献	適宜、授業で紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ディスカッションでの発言（20%） ・作成した学習指導案，評価基準表，レポート（40%） ・授業で実施する確認小テストの状況（20%） ・授業への参加度（20%） 以上を基に総合的に評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	グループによる協働的な学習、問題解決的な学習を中心に展開します。
(25)留意点・予備知識	技術科教育法Ⅰ及びⅡを履修しておいてください。
(26)オフィスアワー	水曜日 12：00～12：30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	uenosono@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	79
(2)区分番号	79
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名 〔英文名〕	技術科教育法Ⅳ (Technology Education Teaching Ⅳ)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース技術）・特支（中コース技術）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日 3・4時限目
(10)担当教員（所属）	上之園哲也（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル4
(13)対応するC P/D P	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○技術科における学習・授業理論を理解すること ○技術科の指導計画が作成できること
(15)授業の概要	教育実習での経験を踏まえて技術科教育の課題を明確化しつつ、技術科の指導計画の作成を通して授業実践力を養う。その際、情報機器を活用してオンライン共有ファイルでグループでの共同作業演習を行う。
(16)授業の内容予定	<p>第1回： 技術科教育法Ⅳの概要説明 第2回： 教育実習学習指導案と授業の検討 第3回： 教育実習学習指導案と授業の検討続き 第4回： 教育実習学習指導案と授業の検討とまとめ 第5回： 技術科教育と技術リテラシー 第6回： 技術科における問題解決的な学習 第7回： 技術科におけるオペレーション法 第8回： 技術科におけるプロジェクト法 第9回： 技術科教育の国際比較 第10回： 技術科の教育課程のあり方 第11回： 技術科の題材・教材設定あり方 第12回から14回までは、情報機器（ノートPC）を活用したオンラインの共同作業を行う。 第12回： 技術科の指導計画作成 第13回： 技術科の指導計画の発表 第14回： 技術科の指導計画の評価 第15回： まとめ</p> <p>指導計画の作成、発表ではノートPCを活用しますので、持参してください。</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	<p>〔予習〕 各回の内容について課題を提示しますのでそれら事前学習が必要です。 〔復習〕 演習の回は課題の設定と改善案に対する検討等が必要です。</p>
	教育学関連

(18)学問分野1(主 学問分野)	
(18)学問分野2(副 学問分野)	
(18)学問分野3(副 学問分野)	
(19)実務経験のある 教員による授業 科目について	実務教員
(20)教材・教科書	技術科教育概論：日本産業技術教育学会・技術教育分科会（編）、九州大学 出版会 中学校学習指導要領解説 技術・家庭編 中学校技術・家庭科技術分野の教科書（東京書籍） その他、必要な書籍等は適宜紹介すると共に、資料を配付します。
(21)参考文献	適宜、授業で紹介します。
(22)成績評価方法 及び採点基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ ディスカッションへの参加と検討した内容のレポート発表（30%） ・ 作成した学習指導案、指導計画（30%） ・ 授業で実施する確認小テストの状況（20%） ・ 授業への参加度（20%） 以上を基に総合的に評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授 業方法	グループによる協働的な学習、問題解決的な学習を中心に展開します。
(25)留意点・予備 知識	技術科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修しておいてください。
(26)オフィスアワ ー	水曜日 12：00～12:30
(27)Eメールアド レス・HPアドレス	uenosono@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	80
(2)区分番号	80
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	工業科教育法I (Industry Education Teaching I)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 5・6時限
(10)担当教員(所属)	上之園 哲也(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的な到達目標	○工業科教育の意義、目的、内容が理解できること
(15)授業の概要	工業高校の現状と課題を踏まえた上で、工業科の教育課程の概要を理解し、講義、演習を通して工業科の教師として資質を養う。
(16)授業の内容予定	第1回：工業科教育の意義と役割 第2回：工業科教育の目標と内容(概論) 第3回：工業科教育の現状と課題 第4回～第7回：工業科の学習内容、事項、項目について 第8回：工業教育の事例検討(教材) 第9回：工業教育の事例検討(情報機器及び教材(プロジェクタ、書画カメラ等)を活用した実験・実習) 第10回：工業教育の事例検討(インターンシップ) 第11回：工業科教育における教育課程の意義・目的・役割 第12回：工業科教育における教育課程の特徴と計画 第13回：工業科教育における教育課程の実践事例検討 第14回：工業教育の国際比較 第15回：まとめ
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	[予習] 各回の内容について課題を提示しますのでそれら事前学習が必要です。 [復習] 特にありません。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員

(20)教材・教科書	高等学校学習指導要領解説 工業編
(21)参考文献	適宜, 授業で紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ ディスカッションでの発言 (20%) ・ 検討した内容のレポート発表 (30%) ・ 小論文 (30%) ・ 授業への参加度 (20%) 以上を基に総合的に評価する。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	グループによる協働的な学習、問題解決的な学習を中心に展開します。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	水曜日 12:00~12:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	uenosono@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	81
(2)区分番号	81
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	工業科教育法II (Industry Education Teaching II)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 5・6時限
(10)担当教員(所属)	上之園 哲也(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2~3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○共通科目「工業技術基礎」の学習指導案の作成ができること ○共通科目「工業技術基礎」における実習指導の方法を知ること
(15)授業の概要	工業科教育法Iの深化を基に、共通科目「工業技術基礎」の模擬授業の演習を通して、工業科教育の指導法の基礎的な技能を習得する。
(16)授業の内容予定	<p>第1回：工業教育と技術リテラシー 第2回：工業科教育とキャリア教育 第3回：工業科教育における進路指導 第4回：学習と授業理論 第5回：工業科教育における授業設計の方法 第6回：工業科教育における教材・教具の開発の方法 第7回：「工業技術基礎」における実習内容の検討 第8回：「工業技術基礎」における学習指導案の作成 第9回：「工業技術基礎」における教具の開発・製作 (情報機器(プロジェクタ・書画カメラ)及び教材(プロジェクタ投影教材の作成)を含む) 第10回：模擬授業の実施 第11回：模擬授業のリフレクションと評価 第12回：学習指導案の再考と作成 第13回：模擬授業の再実施 第14回：模擬再授業のリフレクションと評価 第15回：工業科教育の展望</p> <p>指導案の作成、模擬授業ではノートPCを活用しますので、持参してください。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>[予習] 各回の内容について課題を提示しますのでそれら事前学習が必要です。 [復習] 演習の回は課題の設定と改善案に対する検討等が必要です。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
	-

(18)学問分野2(副学問分野)	
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	高等学校学習指導要領解説 工業編
(21)参考文献	適宜、授業で紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ディスカッションでの発言 (20%) ・検討した内容のレポート発表 (20%) ・小論文 (20%) ・模擬授業の内容、リフレクションへの参加状況 (20%) ・授業への参加度 (20%) 以上を基に総合的に評価する。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	グループによる協働的な学習、問題解決的な学習を中心に展開します。
(25)留意点・予備知識	工業科教育法 I を履修しておくこと。
(26)オフィスアワー	水曜日 12:00~12:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	uenosono@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	82
(2)区分番号	82
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	家庭科教育法I (Home Economic Education I)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース家庭科）・特支（中コース家庭科）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 3・4時限
(10)担当教員（所属）	加賀 恵子（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル1
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭科成立の歴史的経緯や学問的背景、教育的意義を理解し、自分なりの教科観をもつこと ○家庭科の教科特性や学習課題、学習指導要領における目標・内容等の基本的事項を理解すること ○家庭科の学習方法、教材研究について理解し、カリキュラムを構造的に分析できること
(15)授業の概要	中等家庭科の意義・教科特性、目標・内容、指導方法および評価方法について解説する。ディスカッションやワークショップなど、学生による主体的・実践的な活動を組み入れたアクティブラーニングを導入して授業を進める。また、ICTの活用や、教育現場の実態を踏まえた実地指導講師による授業紹介など、具体的・実践的な学習を取り入れる。
(16)授業の内容予定	<p>◆：予習課題 ●復習課題</p> <p>第1回 ガイダンス（授業の進め方に関する諸注意、課題、評価について理解する）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家庭科の教科書を概観する ○新聞を使ったコラージュで社会と生活の関わりを知る <p>第2回 家庭科成立の歴史的経緯及び教育的意義</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家庭科成立の歴史的経緯

	<p>第3回 ○家庭科の教育的意義のまとめ 家庭科の教科特性と育てたい能力</p> <p>第4回 ○指導案を読んで授業に対するイメージを作る 家庭科の教科目標と内容、評価 ○家庭科における問題解決学習とは ●ミ</p> <p>ミニレポート</p> <p>第5回 題材の学習計画と教材研究 ○「学びの構造図」を理解する</p> <p>第6回 子どもをとりまく生活課題と家庭科の学習題材（1）食生活領域</p> <p>第7回 食生活領域に関わる教材研究 ◆教</p> <p>教材研究レポート</p> <p>第8回 子どもをとりまく生活課題と家庭科の学習題材（2）衣生活領域</p> <p>第9回 衣生活領域に関わる教材研究 ◆教</p> <p>教材研究レポート</p> <p>第10回 子どもをとりまく生活課題と家庭科の学習題材（3）住生活領域</p> <p>第11回 住生活領域に関わる教材研究 ◆</p> <p>教材研究レポート</p> <p>第12回 子どもをとりまく生活課題と家庭科の学習題材（4）消費生活と環境</p> <p>第13回 消費生活と環境に関わる教材研究 ◆教材研究レポート</p> <p>第14回 子どもをとりまく生活課題と家庭科の学習題材（5）家族・家庭生活</p> <p>第15回 家族・家庭生活に関わる教材研究 ◆教材研究レポート ●振り返りのレポート</p> <p>※授業の進行状況等により内容が異なる場合があります。</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	<p>○1～5回の授業は、テキストの該当頁を予習しておくこと。 ○6回目以降は、2時間の授業を1ユニットとして展開する。 ・1時間目の授業にあった場合は、テキストの該当頁を予習しておくこと。 ・2時間目の授業に当たっては、教材研究の結果をレポート（◆予習課題）としてまとめること。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	社会学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	荒井紀子編著「生活主体を育む 探究する力をつける家庭科」ドメス出版(2015) 中学校技術・家庭科 家庭分野教科書（開隆堂出版、東京書籍、教育図書） 中学校学習指導要領解説「技術・家庭（家庭編）」
(21)参考文献	高等学校学習指導要領解説「家庭」
(22)成績評価方法及び採点基準	出席が満たない者は評価の対象から除外する。 1. ●復習課題：ミニレポート：20% 2. ◆予習課題：教材研究レポート：50% 3. ●復習課題：振り返りのレポート：30%
	講義

(23)授業形式	
(24)授業形態・授業方法	<p>講義に加えて以下の実習・演習も取り入れる。</p> <p>(1) 学生主体による学習形態の導入に関する工夫 ペアワーク、グループワーク、ジグソー法など</p> <p>(2) 学生が主体的に行う活動を導入する工夫 展示や作品の制作、調査、観察、実験、プレゼンテーションなど</p> <p>(3) 教員と学生の双方向性の確保、課題設定の工夫 レポート、演習など</p>
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	後日表示
(27)メールアドレス・HPアドレス	kkaga@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	実務経験（国公立中学校教員）経験のある教員が担当する。

教育学部

(1)整理番号	83
(2)区分番号	83
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英 文名〕	家庭科教育法II (Home Economic Education II)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース家庭科）・特支（中コース家庭科）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日 3・4時限
(10)担当教員（所 属）	小野 恭子（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベ ル）	レベル2
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具 体的到達目標	○学習指導案を作れるようになり、授業に必要な教材やめあてにそった ねらいを設定することができること ○これらの基礎的・基本的知識への理解を深めるために演習や実習を行 い、家庭科教育への理解を深めること ○新しい教材や授業展開に触れることで、授業設計の近年の動向を理解 すること
(15)授業の概要	小学校から高校までの家庭科の学習内容を理解し、それぞれの基礎的事 項に対する理解を深める。また模擬授業を進める中で、授業観察の仕方 や授業研究の方法について理解する。
(16)授業の内容予定	1 ガイダンス 2, 小・中・高校の学習指導要領・新学習指導要領の比較 3, 授業のシナリオを描く 4, 教材をつくる 5, 学び合いを保証する授業づくり 6, 子どもたちの実態を踏まえた授業づくり 7, 学習を評価する 8, 世界の中の家庭科 9, 模擬授業に向けた準備 1 10, 模擬授業に向けた準備 2 11, 模擬授業 1 12, 模擬授業 2 13, 模擬授業 3 14, 模擬授業の再検討とまとめ 15, 講義全体のまとめと学習状況の確認（試験含む）
(17)準備学習（予 習・復習）等の内容	次週の講義内容について、最低限でも教科書と学習指導要領を読み内容 を理解すること。 日頃から教材になりそうなものを探し、メモを取っておくこと。
(18)学問分野1(主 学問分野)	教育学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	社会学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	小学校・中学校・高等学校 家庭科学習指導要領解説 東洋館出版 小学校・中学校家庭科教科書 (東京書籍・開隆堂・実教出版) 家庭科教育 (一藝社)
(21)参考文献	必用に応じて紹介する。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業での話し合い(20%) 模擬授業の指導案(20%) テスト(60%) 等を総合して評価する。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	演習・講義
(25)留意点・予備知識	講義時間にも指導案作成や教材作成などの時間をとることがある。
(26)オフィスアワー	月曜 12:00~12:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	kyokoono@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	なし

教育学部

(1)整理番号	84
(2)区分番号	84
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	家庭科教育法III (Home Economic Education III)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース家庭科）・特支（中コース家庭科）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日 3・4時限
(10)担当教員（所属）	加賀 恵子（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○中学校・高等学校における家庭科教育の意義や役割を理解すること ○授業構成力の基礎を身につけるために、地域教材開発力からアプローチし、「地域教材」を用いた題材構想と授業開発を行うことができること ○生徒及び地域の実態をふまえた授業提案をすることができること
(15)授業の概要	中等段階における家庭科教育の指導内容、指導方法、評価方法の理解を深める。また、教材開発力及び授業構成力を身に付けるために、地域教材開発からアプローチする。生徒及び地域の実態を踏まえ、「地域教材」を用いた授業構想案・学習指導案・ワークシートを作成し、模擬授業で提案することを通して、実践的な指導に必要な力量の習得を図る。
(16)授業の内容予定	◆：予習課題 ●復習課題 第1回 ガイダンス（授業の進め方に関する諸注意、課題、評価について理解する。） ○家庭科における地域とは

	<p>第2回 家庭科における地域の学び（1）学習指導要領における目標と内容 ◆ 学習指導要領リサーチ</p> <p>第3回 家庭科における地域の学び（2）地域の視点で教科書を見る ◆ 教科書リサーチ</p> <p>第4回 家庭科における地域の学び（3）授業実践例に見る授業の検討 ◆ 授業分析レポート</p> <p>第5回 題材構想（1）フィールドワーク計画（仮説の設定） ◆ 題材構想案</p> <p>第6回 題材構想（2）フィールドワーク（仮説の検証）</p> <p>第7回 題材構想（3）フィールドワークまとめ（仮説の検証）</p> <p>第8回 題材構想（4）フィールドワーク報告（仮説の検証結果報告） ◆</p> <p>報告PPT</p> <p>第9回 「地域教材」を用いた題材の再構想案、学習指導案の作成 ◆ 再構想案</p> <p>第10回 授業実践のための教材・教具の作成</p> <p>第11回 「地域教材」を用いた題材の授業提案と模擬授業、ディスカッション （1）◆指導案検討</p> <p>第12回 「地域教材」を用いた題材の授業提案と模擬授業、ディスカッション （2）◆指導案検討</p> <p>第13回 「地域教材」を用いた題材の授業提案と模擬授業、ディスカッション （3）◆指導案検討</p> <p>第14回 「地域教材」を用いた題材の授業提案と模擬授業、ディスカッション （4）◆指導案検討</p> <p>第15回 授業の総括 ●振り返りレポート</p> <p>※授業の進行状況等により内容が異なる場合があります。</p>
(17)準備 学習（予 習・復習） 等の内容	○予習：予習課題（◆） をこなして授業に臨むこと。
(18)学問 分野1(主学 問分野)	社会学関連
(18)学問 分野2(副学 問分野)	教育学関連
(18)学問 分野3(副学 問分野)	-
(19)実務 経験のある 教員による 授業科目に ついて	実務教員
(20)教 材・教科書	中学校技術・家庭科 家庭分野教科書（開隆堂出版、東京書籍、教育図書） 中学校学習指導要領解説「技術・家庭（家庭編）」
(21)参考 文献	大竹美登利・日景弥生編「子どもと地域をつなぐ学び - 家庭科の可能性 - 」東京 学芸大学出版会 高等学校学習指導要領解説「家庭」
(22)成績 評価方法及 び採点基準	出席が満たない者は評価の対象から除外する。 1. ◆予習課題：70% 2. ●復習課題（振り返りのレポート）：30%
	講義

(23)授業形式	
(24)授業形態・授業方法	<p>講義に加えて以下の実習・演習も取り入れる。</p> <p>(1) 学生主体による学習形態の導入に関する工夫 ペアワーク、グループワークなど</p> <p>(2) 学生が主体的に行う活動を導入する工夫 フィールドワーク調査、プレゼンテーションなど</p> <p>(3) 教員と学生の双方向性の確保、課題設定の工夫 レポート、演習など</p>
(25)留意点・予備知識	<p>社会人としてのマナーを身に付けましょう。弘前大学の看板を背負って地域に学びます。事前のアポイントメント、訪問時に積極的に探求しようとする姿勢、交通ルールや公衆マナーの遵守等、気をつけてください。</p>
(26)オフィスアワー	後日表示
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	kkaga@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	実務経験（国公立中学校教員）経験のある教員が担当する。

教育学部

(1)整理番号	85
(2)区分番号	85
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	家庭科教育法Ⅳ (Home Economic Education Ⅳ)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース家庭科）・特支（中コース家庭科）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日 3・4時限
(10)担当教員（所属）	加賀 恵子（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル4
(13)対応するCP/DPP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	○中学校・高等学校における家庭科授業の事例を基に、基本的な授業分析の方法を理解すること ○集中実習の分析を通して、自身の授業実践に関する課題や改善方法を示すことができること
(15)授業の概要	中等段階における家庭科教育の指導内容、指導方法、評価方法の理解を深める。また、集中実習の分析・改善、模擬授業実践・評価活動を通して、実践的な指導に必要な力量の習得を図る。
(16)授業の内容予定	◆：予習課題 第1回 ガイダンス（授業の進め方に関する諸注意、課題、評価について理解する） 第2回 家庭科の授業の実際（1）実験・実習における学習評価 ◆逐語記

	<p>録 第3回 家庭科の授業の実際 (2) 実験・実習における子どもの実態 第4回 家庭科の授業の実際 (3) 問題解決的な安全教育の授業づく り 第5回 家庭科の授業の実際 (4) 授業構成力の視点から課題を抽出し、改善策を 考える。◆改善案 第6回 家庭科の授業の実際 (5) 教材研究力の視点から課題を抽出し、改善策を 考える。◆改善案 第7回 家庭科の授業の実際 (6) 授業展開力の視点から課題を抽出し、改善策を 考える。◆改善案 第8回 集中実習での授業の分析と再検討案の作 成 ◆授業分析 第9回 集中実習での授業の分析結果と再検討案の発 表 ◆PPT 第10回 模擬授業の準備 第11回 模擬授業、ディスカッション (1) 第12回 模擬授業、ディスカッション (2) 第13回 模擬授業、ディスカッション (3) 第14回 模擬授業、ディスカッション (4) 第15回 授業の総括 ※授業の進行状況等により内容が異なる場合があります。</p>
(17)準備 学習（予 習・復 習）等の 内容	○予習：予習課題（◆） をこなして授業に臨むこと。
(18)学問 分野1(主 学問分 野)	社会学関連
(18)学問 分野2(副 学問分 野)	教育学関連
(18)学問 分野3(副 学問分 野)	-
(19)実務 経験のある 教員によ る授業 科目につ いて	実務教員
(20)教 材・教科 書	適宜、プリントを配布する。
(21)参考 文献	高等学校家庭科教科書 高等学校学習指導要領解説「家庭」適宜紹介する。

(22)成績 評価方法 及び採点 基準	出席が満たない者は評価の対象から除外する。 1. 予習課題：40% 2. 授業提案（指導案、教材・教具等を含む）と評価：30% 3. 授業の振り返りレポート：30%
(23)授業 形式	講義
(24)授業 形態・授 業方法	講義に加えて以下の実習・演習も取り入れる。 （1）学生主体による学習形態の導入に関する工夫 ペアワーク、グループワークなど （2）学生が主体的に行う活動を導入する工夫 プレゼンテーションなど （3）教員と学生の双方向性の確保、課題設定の工夫 レポート、演習など
(25)留意 点・予備 知識	集中実習での授業経験の学びを整理し、報告できるようにしておくこと。
(26)オフ イスアワ ー	後日表示
(27)Eメ ールアド レス・ HPアド レス	kkaga@hirosaki-u.ac.jp
(28)その 他	実務経験（国公立中学校教員）経験のある教員が担当する。

教育学部

(1)整理番号	86
(2)区分番号	86
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	英語科教育法 (English Language Teaching)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース英語）・特支（中コース英語）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 3・4時限
(10)担当教員（所属）	野呂 徳治（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○英語教育の目的・目標・方法・内容について、その歴史的変遷を踏まえて理解を深める（見通す力）と共に、我が国における学校英語科教育の現状と課題について実践的理解を深め（解決する力）、これからの英語教育のあり方について探究する（学び続ける力）こと
(15)授業の概要	英語教育の目的・目標・方法・内容について、学習指導要領を参照しながら概観し、これまで提案された外国語教授法について、その歴史的変遷を踏まえて理解を深めると共に、外国語コミュニケーション能力とその育成のあり方について検討する。その上で、我が国における学校英語科教育の現状と課題、展望について実践的理解を深める。
(16)授業の内容予定	1回目：授業ガイダンス、英語教育の目的① 2回目：英語教育の目的② 3回目：学習指導要領にみる英語科の目標と内容① 4回目：学習指導要領にみる英語科の目標と内容② 5回目：外国語教授法① 6回目：外国語教授法② 7回目：外国語教授法③ 8回目：中間試験とこれまでの振り返り 9回目：外国語教授法④ 10回目：外国語教授法⑤ 11回目：原理・原則に基づく外国語の指導① 12回目：原理・原則に基づく外国語の指導② 13回目：外国語コミュニケーション能力とその育成① 14回目：外国語コミュニケーション能力とその育成② 15回目：英語科教育の現状と課題 16回目：期末試験 なお、授業の進行状況等により上記の授業内容が異なる場合がある。

(17)準備学習 (予習・復習)等の内容	外国語教育並びに我が国の学校英語科教育について参考資料等を参照しながら理解を深めるとともに、授業で課される小レポートや課題に取り組む。
(18)学問分野 1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	言語学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	望月昭彦（編著）「新学習指導要領にもとづく英語科教育法第3版」（大修館書店） 文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語・外国語活動編」（開隆館出版） 文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語編」（開隆堂） 文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 外国語編・英語編」（開隆堂）
(21)参考文献	授業時に適宜指示する。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業中の学習への取り組み、小レポート、課題、試験（中間試験・期末試験）等を基に総合的に評価する。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義
(25)留意点・予備知識	英語科における学習指導、授業のあり方について自分なりの問題意識を持ち、積極的に授業活動に取り組むこと。
(26)オフィスアワー	水曜日5・6時限
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	Eメールアドレス： norotoku@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特にありません。

教育学部

(1)整理番号	87
(2)区分番号	87
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	英語科授業論 (English Language Teaching Analysis)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース英語）・特支（中コース英語）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日 3・4時限
(10)担当教員（所属）	佐藤 剛（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力

(14) 授業としての具体的到達目標	<p>○学習指導要領の意義と意味を理解しそれを踏まえた学習指導案を作成すること（見通す力） ○作成した指導案をもとに、グループによる模擬授業実践を实践すること（解決する力） ○自分の授業実践とクラスメイトの模擬授業の観察から専門的な視点から授業分析をすること（解決する力）</p>
(15) 授業の概要	<p>○範読など英語教師にとって必要となるスキルを練習し、習得する ○英語科における授業設計、授業実践、授業分析の方法について実践的学ぶ ○一単元分の指導案を作成する ○指導案に基づき、グループでマイクロティーチングを行い、省察する</p>
(16) 授業の内容予定	<p>1回目：授業ガイダンス、英語教育の目的と目標 2回目：モデル授業の観察と検討 3回目：学習指導要領に見る英語科の目標と内容 4回目：四観点と単元の評価計画の立て方 5回目：授業設計（Warm-up） 6回目：授業設計（言語材料を扱うパート） 7回目：授業設計（教科書本文を扱うパート） 8回目：授業設計（応用・発展的な活動） 9回目：指導案作成（単元の目標と生徒の実態・教材観・指導観） 10回目：指導案作成（単元の指導計画） 11回目：指導案作成（グループによる検討） 12回目：マイクロティーチング（グループ1&2） 13回目：マイクロティーチング（グループ3&4） 14回目：マイクロティーチング（グループ5&6） 15回目：マイクロティーチング（グループ7&8）</p> <p>※授業の進行状況により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。</p>
(17) 準備学習（予習・復習）等の内容	<p>各回の授業について、以下の予習および復習を実施してください。（予習・復習は最低でも各1時間以上行う必要があります）</p> <p>予習 ・じゃれマガhttp://catchawave.jp/jm/に登録し、クラス全員の前で堂々と音読できるように練習してくること。（授業のはじめ10分を使用して、音読のチェックを行います） ・指定されたテキストの範囲を、「誰かに説明できるくらいの理解」まで読み込んでくること。</p> <p>復習 ・授業の感想を、その週の金曜日12:00までにメールで送付すること。 ・クラス全員の前で堂々とマイクロティーチングをすることができるように、教材の準備および練習をすること。</p>
(18) 学問分野1(主学問分野)	<p>教育学関連</p>
(18) 学問分野2(副学問分野)	<p>-</p>
(18) 学問分野3(副学問分野)	<p>-</p>
(19) 実務	<p>-</p>

<p>経験のある教員による授業科目について</p>	
<p>(20) 教材・教科書</p>	<p>本多敏幸（著）「若手英語教師のためのよい授業をつくる30章」（教育出版） 望月昭彦（編）「改訂版 新学習指導要領にもとづく英語科教育法」（大修館書店） 文部科学省「小学校学習指導要領解説 外国語活動編」（東洋館出版社） 文部科学省「中学校学習指導要領解説 外国語編」（開隆堂） 文部科学省「高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編」（開隆堂）</p>
<p>(21) 参考文献</p>	<p>授業中適宜紹介します。</p>
<p>(22) 成績評価方法及び採点基準</p>	<p>1. 平常評価：20%（授業への参加度、毎回の音読テストと授業の感想に基づく。単なる出席回数ではない） 2. 指導案：40% 3. マイクロティーチング：30% 4. Self Study：10%（研修会への参加、文献研修など授業外での学習） 上記を合算して成績評価を行います。</p>
<p>(23) 授業形式</p>	<p>講義</p>
<p>(24) 授業形態・授業方法</p>	<p>①教官による講義により理論的な理解を深める ②作成した指導案をペア・グループディカッションで検討したり、グループによるマイクロティーチングを行うことで、実践力の育成を図ること の2点が授業の中心になります。</p>
<p>(25) 留意点・予備知識</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ビデオで見る授業や、クラスメイトの模擬授業について理論的な視点からコメントやディスカッションができるように、主体的に授業に参加すること。 ・普段から多くの専門書をはじめ新聞・ネット・テレビなど「英語教育」に関する情報にアンテナを張り、その動向に関心を持つておくこと。 ・授業内外で紹介される研修会等に積極的に参加し、教員となるための資質向上に自主的に取り組むこと。 ・わからない・自信がないことはそのままにせず、その週のうちに質問に来るなどして解決すること。 ・指導案の作成には時間がかかります。早め早めの対応を心掛けるなど計画的に作業を進めること。
<p>(26) オフィスアワー</p>	<p>月曜日：12：40～14：10 金曜日：12：40～14：10</p>
<p>(27)E メールアドレス・HPアドレス</p>	<p>satotsuyo*hirosaki-u.ac.jp（*を@に置き換えてください）</p>

(28) その 他	http://db.im.hirosaki-u.ac.jp/cvbouz/db_exe? page=DBRecord&did=1988&vid=718&rid=2823&text=%8D%B2%93%A1%81%40%8D%84&Head=&hid=&sid=n&rev=0&ssid=
-----------------	--

教育学部

(1)整理番号	88
(2)区分番号	88
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	英語科教材論 (Materials Development in English Language Teaching)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース英語）・特支（中コース英語）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日 3・4時限
(10)担当教員（所属）	佐藤 剛（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力

(14) 授業としての具体的な到達目標	<p>○講義・討議を通して英語教材に関して、専門家としての視点を養うこと（見通す力）</p> <p>○教科書を効果的に活用する方法を理解し、クラスメイトを生徒に見立てた模擬授業で実践すること（解決する力）</p> <p>○教育理念やアプローチに基づく教材を考案し、ICTとオーセンティックの要素を含んだ自主教材を作成し、実際に授業場面で活用すること（解決する力）</p>
(15) 授業の概要	<p>○範読やオーラルイントロダクションなど教師にとって必要なスキルの獲得</p> <p>○教材としての教科書の効果的な活用方法の理論的な理解と、マイクロティーチングによる実践</p> <p>○ICTとオーセンティックな教材に対する理論的な理解と、自作教材の作成、それを活用したマイクロティーチングの実践</p>
(16) 授業の内容予定	<p>第1回 ガイダンス・教材論導入</p> <p>第2回 教科書使用法の理論的背景</p> <p>第3回 モデルとなる授業の観察と検討</p> <p>第4回 教科書の使用法の実際</p> <p>第5回 教科書の導入の実践とグループ協議（学生1人目～5人目）</p> <p>第6回 教科書の導入の実践とグループ協議（学生6人目～10人目）</p> <p>第7回 教科書の導入の実践とグループ協議（学生11人目～15人目）</p> <p>第8回 教材の作成（文法の導入・練習）</p> <p>第9回 ICTの活用の理論的背景・ICTの活用の実際</p> <p>第10回 オーセンティックな教材の活用の理論的背景</p> <p>第11回 教材作成（ICT・オーセンティックな教材の作成）</p> <p>第12回 作成した教材を用いた模擬授業とグループ協議（学生1人目～5人目）</p> <p>第13回 作成した教材を用いた模擬授業とグループ協議（学生6人目～10人目）</p> <p>第14回 作成した教材を用いた模擬授業とグループ協議（学生11人目～15人目）</p> <p>第15回 期末試験とまとめ</p> <p>※履修する学生の人数や授業の進行状況により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。</p>
(17) 準備学習（予習・復習）等の内容	<p>各回の授業について、以下の予習および復習を実施してください。（予習・復習は最低でも各1時間以上行う必要があります）</p> <p>予習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・じゃれマガhttp://catchawave.jp/im/に登録し、クラス全員の前で堂々と音読できるように練習してくること。（授業のはじめ10分を使用して、音読のチェックを行います） ・指定されたテキストの範囲を、「誰かに説明できるくらいの理解」まで読み込んでくること。 <p>復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の感想を、その週の金曜日12:00までにメールで送付すること。 ・クラス全員の前で堂々とマイクロティーチングをすることができるように、教材の準備および練習をすること。
(18) 学問分野 1(主学問分野)	教育学関連
(18) 学問分野 2(副学問分野)	-
(18) 学問分野 3(副学問分野)	-
	-

(19) 実務 経験 のある 教員に よる 授業 科目 につ いて	
(20) 教 材・ 教科 書	本多敏幸（著）「若手英語教師のためのよい授業をつくる30章」（教育出版） 望月昭彦（編）「改訂版 新学習指導要領にもとづく英語科教育法」（大修館書店） 文部科学省「小学校学習指導要領解説 外国語活動編」（東洋館出版社） 文部科学省「中学校学習指導要領解説 外国語編」（開隆堂） 文部科学省「高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編」（開隆堂）
(21) 参 考 文 献	授業中適宜紹介します。 授業で提示された教材やクラスメイトの作った教材を保存するためのUSBメモリーをこの授業専用を用意して下さい。
(22) 成 績 評 価 方 法 及 び 採 点 基 準	1. 平常評価：20%（授業への参加度、毎回の音読テストと授業の感想に基づく。単なる出席回数ではない） 2. 教科書を使ったマイクロティーチング：25% 3. ICTとオーセンティックの要素を含んだ自作教材の作成とマイクロティーチング：25% 4. 期末試験：20% 5. Self Study：10%（研修会への参加、文献研修など授業外での学習） 上記を合算して成績評価を行います。
(23) 授 業 形 式	講義
(24) 授 業 形 態・ 授 業 方 法	①教官による講義により理論的な理解を深める ②ペア・グループディカッションの形態で教材分析を行う ③学生が教師役となつてのマイクロティーチング の3点が授業の中心になります。
(25) 留 意 点・ 予 備 知 識	・教官から紹介される教材、クラスメイトが作成した自作教材について理論的な視点からコメントやディスカッションができるように、主体的に授業に参加すること。 ・普段から多くの専門書をはじめ新聞・ネット・テレビなど「英語教育」に関する情報にアンテナを張り、その動向に関心を持つておくこと。 ・授業内外で紹介される研修会等に積極的に参加し、教員となるための資質向上に自主的に取り組むこと。 ・わからない・自信がないことはそのままにせず、その週のうちに質問に来るなどして解決すること。 ・教材の作成とマイクロティーチングの準備には時間がかかります。早め早めの対応を心掛けるなど計画的に作業を進めること。
(26) オ フ イ ス ア ワ ー	月曜日：12：40～14：10 金曜日：12：40～14：10
(27)E メ ー ル ア ド レ ス・ HP ア	satotsuyo*hirosaki-u.ac.jp（*を@に置き換えてください）

ド ス	
(28) その 他	http://db.im.hirosaki-u.ac.jp/cybouz/db.exe? page=DBRecord&did=1988&vid=718&rid=2823&text=%8D%B2%93%A1%81%40%8D%84&Head=&hid=&sid=n&rev=0&ssid=

教育学部

(1)整理番号	89
(2)区分番号	89
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	英語科教育方法論 (Methodology in English Language Teaching)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース英語）・特支（中コース英語）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日 3・4時限
(10)担当教員（所属）	佐藤 剛（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力

(14) 授業としての 具体的到達目標	<p>○英語科におけるテスト作成を通して言語テスト理論の基礎並びに英語科におけるテスト及び学習評価のあり方について実践的理解を深めること（見通す力）</p> <p>○テスト細目規定の作成について理論的な理解を深め、それに基づいたテスト問題を作成すること（解決する力）</p> <p>○エクセルを操作し、データの処理の演習を通して、テストの基本的な概念とテストデータの処理の方法、今後研究や教員としての業務に必要な統計処理の基礎を身につけること（学び続ける力）</p>
(15) 授業の概要	<p>○言語テスト理論の基礎を概観し、英語科におけるテスト及び学習評価の方法について実践的に学ぶとともに、それらが抱える課題を検討する。</p> <p>○理論的な背景に即した、テスト細目規定及び定期テストを作成する。</p> <p>○授業用HPよりデータをダウンロードし、エクセルを使った平均値・標準偏差・偏差値など基本的な算出方法を実践する。またt検定、分散分析、相関係数など教員に必要な統計処理の演習を行う。</p>
(16) 授業の内容予定	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 エクセル演習（合計・平均・並べ替え）、テストの目的と種類</p> <p>第3回 エクセル演習（条件付き書式）、テストの妥当性・信頼性・実用性・波及効果</p> <p>第4回 エクセル演習（if関数）、テスト問題の検討とグループ協議</p> <p>第5回 エクセル演習（countif関数）、コミュニケーションテスト（リスニング）</p> <p>第6回 エクセル演習（ヒストグラム）、コミュニケーションテスト（リーディング）</p> <p>第7回 エクセル演習（vlookup関数による個票の作成）、コミュニケーションテスト（スピーキング）</p> <p>第8回 エクセル演習（先込み印刷による個票の作成）、コミュニケーションテスト（ライティング）</p> <p>第9回 これまでのまとめと中間テスト</p> <p>第10回 エクセル演習（分散・標準偏差・z得点）、コミュニケーションテスト（文法と単語）</p> <p>第11回 エクセル演習（基本統計量）、テストスペックの理論的理解と作成演習</p> <p>第12回 エクセル演習（t検定・分散分析・相関）、到達度テストの作成とグループ協議</p> <p>第13回 エクセル演習（テキストマイニングデンドログラム）、Can-doリストの理論的理解</p> <p>第14回 エクセル演習（テキストマイニング共起ネットワーク）、Can-doリストの作成とグループ協議</p> <p>第15回 英語科におけるテストと評価の課題及びまとめ</p> <p>※履修する学生の人数や授業の進行状況により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。</p>
(17) 準備学習 (予習・復習)等の内容	<p>各回の授業について、以下の予習および復習を実施してください。（予習・復習は最低でも各1時間以上行う必要があります）</p> <p>予習</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定されたテキストの範囲を、「誰かに説明できるくらいの理解」まで読み込んでくること。 <p>復習</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業で学習したデータ処理を各自で復習し、そのファイルを、その週の金曜日12:00までにメールに添付して送付すること。 授業で扱ったコミュニケーションテストの具体例を各自で作成し、その週の金曜日12:00までにメールに添付して送付すること。
(18) 学問分野 1(主学問分野)	教育学関連
(18) 学問分野 2(副学問分野)	-
(18) 学問分野 3(副学問分野)	-
	-

(19) 実務 経験 のある 教員に よる 授業 科目 につ いて	
(20) 教 材・ 教科 書	文部科学省「小学校学習指導要領解説 外国語活動編」(東洋館出版社) 文部科学省「中学校学習指導要領解説 外国語編」(開隆堂) 文部科学省「高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編」(開隆堂)
(21) 参 考 文 献	授業中適宜紹介します。
(22) 成 績 評 価 方 法 及 び 採 点 基 準	1. 平常評価：20% (授業への参加度、毎回の課題であるエクセルを使ったデータ処理に基づく。単なる出席回数ではない) 2. テスト細目規定：25% 3. テスト問題作成：25% 4. 試験：20% 5. Self Study：10% (研修会への参加、文献研修など授業外での学習) 上記を合算して成績評価を行います。
(23) 授 業 形 式	講義
(24) 授 業 形 態・ 授 業 方 法	①教官による講義により理論的な理解を深める ②ペア・グループディスカッションの形態でテスト項目分析を行う の2点が授業の中心になります。
(25) 留 意 点・ 予 備 知 識	・授業ではパソコンを使います。各自で持参してください。 ・英語科のテスト問題や評価方法について理論的な視点からコメントやディスカッションができるように、主体的に授業に参加すること。 ・普段から多くの専門書をはじめ新聞・ネット・テレビなど「英語教育」に関する情報にアンテナを張り、その動向に関心を持つておくこと。 ・授業内外で紹介される研修会等に積極的に参加し、教員となるための資質向上に自主的に取り組むこと。 ・わからない・自信がないことはそのままにせず、その週のうちに質問に来るなどして解決すること。 ・テスト細目規定とテスト問題の作成には時間がかかります。早め早めの対応を心掛けるなど計画的に作業を進めること。
(26) オ フ ィ ス ア ワ ー	月曜日：12：40～14：10 金曜日：12：40～14：10
(27)E メ ー ル ア ド レ ス ・ HP ア	satotsuyo*hirosaki-u.ac.jp (*を@に置き換えてください)

ド ス	
(28) その 他	http://db.im.hirosaki-u.ac.jp/cybouz/db.exe? page=DBRecord&did=1988&vid=718&rid=2823&text=%8D%B2%93%A1%81%40%8D%84&Head=&hid=&sid=n&rev=0&ssid=

教育学部

(1)整理番号	90
(2)区分番号	90
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	道徳の歴史と方法（初等・主免）（Method and History of Moral Education (Primary)）
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（小コース）・特支（小コース）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日 5・6時限
(10)担当教員（所属）	森本 洋介（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○学校における道徳教育の歴史の変遷を理解すること（CP・DP1 見通す力） ○初等教育における道徳教育を実践するためのさまざまな方法を活用できること（CP・DP1 見通す力）
(15)授業	道徳教育がどのような歴史的・社会的背景をもって成立し、現在どのような方法原理で実践されているのかを検討する。

の概要	
(16) 授業の内容予定	<p>第1回 ガイダンス 第2回 道徳と道徳教育 第3回 戦前の道徳教育 第4回 戦中・戦後直後の道徳教育 第5回 戦後の道徳教育 第6回 学習指導要領 特別の教科道徳のポイントと学習評価のあり方 第7回 学習指導要領 特別の教科道徳の目標・内容 第8回 道徳性の発達 第9回 道徳の時間の意義と指導計画 第10回 「道徳の時間」の指導①一般型 第11回 「道徳の時間」の指導②モラルディレンマ 第12回 「道徳の時間」をつくる①教材研究 第13回 「道徳の時間」をつくる②細案作成 第14回 「道徳の時間」をつくる③指導案検討（模擬授業含む） 第15回 試験及びまとめ</p>
(17) 準備学習（予習・復習）等の内容	<p>(17) 事前に該当回の教科書対応部分を読んでくること。授業後はその箇所について復習を行うこと。</p>
(18) 学問分野1(主学問分野)	<p>教育学関連</p>
(18) 学問分野2(副学問分野)	<p>-</p>
(18) 学問分野3(副学問分野)	<p>-</p>
(19) 実務経験のある教員による授業科目について	<p>-</p>
(20) 教材・教科書	<p>小寺正一／藤永芳純〔編〕（2016）『四訂 道徳教育を学ぶ人のために』世界思想社 小学校学習指導要領（平成29年3月告示）、小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳（平成29年6月告示）</p>
(21) 参考文献	<p>河野哲也（2011）『道徳を問いなおす』ちくま新書 松下良平（2011）『道徳教育はホントに道徳的か？』日本図書センター 文部科学省（2013）『私たちの道徳』（小学校1・2年、3・4年、5・6年、中学校） （http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/doutoku） その他適宜指示する。</p>
(22) 成績評価方法	<p>授業中に課す課題の提出（40%）および期末テスト（60%）</p>

及び 採点 基準	
(23) 授業 形式	講義
(24) 授業 形 態・ 授業 方法	基本的に教科書の解説を行う形で講義を行うが、適宜グループワークやグループディスカッションを行う。
(25) 留意 点・ 予備 知識	特になし。
(26) オフ イス アワ ー	金曜16:00-17:30
(27)E メー ルア ドレ ス・ HPア ドレ ス	morimoto@hirosaki-u.ac.jp(%を@に変換) http://db.im.hirosaki-u.ac.jp/cybouz/db_exe? page=DBRecord&did=1988&vid=718&rid=1653&head=&hid=&sid=&rev=1&ssid=&fvid=18701&text=%90%58%96%7B%81%40%97%6D%89%EE&cal=
(28) その 他	特になし

教育学部

(1)整理番号	91
(2)区分番号	91
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名 〔英文名〕	道徳の歴史と方法（中等・主免）（Method and History of Moral Education (Secondary)）
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース）・特支（中コース）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中 ただし、初回（4月12日）は金・3コマに教育学部2F大教室にておこなう。その後の日程については別途指示する。
(10)担当教員 （所属）	○森本 洋介（教育学部）・福島 裕敏（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての 具体的到達目標	○学校における道徳教育の歴史的変遷を理解すること ○初等教育における道徳教育を実践するためのさまざまな方法を活用できること
(15)授業の概要	道徳教育がどのような歴史的・社会的背景をもって成立し、現在どのような方法原理で実践されているのかを検討する（CP・DP1 見通す力）。
(16)授業の内容 予定	第1回 ガイダンス（森本・福島） 第2回 道徳と道徳教育（福島） 第3回 戦前の道徳教育（福島） 第4回 戦中・戦後直後の道徳教育（福島） 第5回 戦後の道徳教育（福島） 第6回 学習指導要領 特別の教科道徳のポイントと学習評価のあり方（福島） 第7回 学習指導要領 特別の教科道徳の目標・内容（福島） 第8回 道徳性の発達（福島） 第9回 道徳の時間の意義と指導計画（福島） 第10回 「道徳の時間」の指導①一般型（森本・福島） 第11回 「道徳の時間」の指導②モラルディレンマ（森本・福島） 第12回 「道徳の時間」をつくる①教材研究（森本・福島） 第13回 「道徳の時間」をつくる②細案作成（森本・福島） 第14回 「道徳の時間」をつくる③指導案検討（模擬授業含む）（森本・福島） 第15回 試験及びまとめ（森本・福島）
(17)準備学習 （予習・復習） 等の内容	事前学習WSをもとに該当回の教科書対応部分を読んでくること。授業後はその箇所について復習を行うこと。

(18)学問分野 1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	小寺正一／藤永芳純 [編] (2016) 『四訂 道徳教育を学ぶ人のために』 世界思想社 中学校学習指導要領 (平成29年3月告示)、中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳 (平成29年6月告示)
(21)参考文献	河野哲也 (2011) 『道徳を問いなおす』 ちくま新書 松下良平 (2011) 『道徳教育はホントに道徳的か?』 日本図書センター 文部科学省 (2013) 『私たちの道徳』 (小学校1・2年、3・4年、5・6年、中学校) (http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/doutoku) その他適宜指示する。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業中に課す課題の提出 (40%) および期末テスト (60%)
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	基本的に教科書の解説を行う形で講義を行うが、適宜グループワークやグループディスカッションを行う。
(25)留意点・予備知識	特になし。
(26)オフィスアワー	火 昼休み・3コマ
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	morimoto%hirosaki-u. ac. jp (%を@に変更) hirof%hirosaki-u. ac. jp (%を@に変更)
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	92
(2)区分番号	92
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	道徳の歴史と方法（初等・副免）（Method and History of Moral Education (Primary)）
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員（所属）	○森本 洋介（教育学部）・福島 裕敏（教育学部）・齋藤 厚・山田 真寿美（教育学部・教職キャリア支援コーディネーター）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2～3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○学校における道徳教育の歴史の変遷を理解すること ○道徳教育を実践するためのさまざまな方法を活用できること
(15)授業の概要	学校における道徳教育の在り方についての原理的・歴史的な理解について確認するとともに、学習指導要領について基本的理解の定着をはかるとともに、学校全体あるいは「特別の教科 道徳」における指導について実践的に学ぶ。
(16)授業の内容予定	第1・2回 道徳・道徳教育の歴史的展開（福島） 第3・4回 学習指導要領のポイント（森本） 第5・6回 学校教育全体でおこなう道徳教育（齋藤・山田） 第7・8回 学活でおこなう道徳教育（齋藤・山田） 第9・10回 「道徳」の授業をつくる①（齋藤・山田） 第11・12回 「道徳」の授業をつくる②（齋藤・山田） 第13・14回 これからの道徳教育（齋藤・山田） 第15回 まとめ（森本）
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	適宜指示するが、当該テーマに関わる主専「道徳の歴史と方法」時の資料・テキストなどを読み直すこと。また文献講読や各種実習において不十分な知識・技能の補充などをおこなうこと。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
	-

(18)学問分野 2(副学問分野)	
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	小寺正一／藤永芳純 [編] (2016) 『四訂 道徳教育を学ぶ人のために』 世界思想社 文部科学省「小学校学習指導要領」(2017年3月)、「小学校学習指導要領解説」(2017年6月) http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm
(21)参考文献	適宜指示する。とりあえずのものとして 河野哲也 (2011) 『道徳を問いなおす』 ちくま新書 松下良平 (2011) 『道徳教育はホントに道徳的か?』 日本図書センター 文部科学省 (2013) 『私たちの道徳』 (小学校1・2年、3・4年、5・6年、中学校) (http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/d)
(22)成績評価方法及び採点基準	以下をもとに最終的な評価をおこなう予定 演習への参加、小課題 : 50% 最終試験 : 50%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	グループによる演習を中心として、適宜講義などをおこなう。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	火 昼休み・3コマ
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	morimoto%hirosaki-u.ac.jp(%を@に変更) hirof%hirosaki-u.ac.jp(%を@に変更)
(28)その他	・日程については掲示を確認すること

教育学部

(1)整理番号	93
(2)区分番号	93
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	道徳の歴史と方法（中等・副免）（Method and History of Moral Education (Secondary)）
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員（所属）	○森本 洋介（教育学部）・福島 裕敏（教育学部）・角野 君代・山科 實（教育学部・教職キャリア支援コーディネーター）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2～3
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○学校における道徳教育の歴史の変遷を理解すること ○道徳教育を実践するためのさまざまな方法を活用できること
(15)授業の概要	学校における道徳教育の在り方についての原理的・歴史的な理解について確認するとともに、学習指導要領について基本的理解の定着をはかるとともに、学校全体あるいは「特別の教科 道徳」における指導について実践的に学ぶ。
(16)授業の内容予定	第1・2回 道徳・道徳教育の歴史的展開（福島） 第3・4回 学習指導要領のポイント（森本） 第5・6回 学校教育全体でおこなう道徳教育（角野・山科） 第7・8回 学活でおこなう道徳教育（角野・山科） 第9・10回 「道徳」の授業をつくる①（角野・山科） 第11・12回 「道徳」の授業をつくる②（角野・山科） 第13・14回 これからの道徳教育（角野・山科） 第15回 まとめ（森本）
(17)準備学	適宜指示するが、当該テーマに関わる主専「道徳の歴史と方法」時の資料・テキストなどを読み直すこと。また文献講読や各種実習において不十分な知識・技能の補充などをおこなうこと。

習（予習・復習）等の内容	
(18) 学問分野 1(主学問分野)	教育学関連
(18) 学問分野 2(副学問分野)	-
(18) 学問分野 3(副学問分野)	-
(19) 実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20) 教材・教科書	小寺正一／藤永芳純〔編〕(2016)『四訂 道徳教育を学ぶ人のために』世界思想社 文部科学省「中学校学習指導要領」(2017年3月)、「中学校学習指導要領解説」(2017年7月) http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2018/05/07/1387018_11_4.pdf
(21) 参考文献	適宜指示する。とりあえずのものとして 河野哲也(2011)『道徳を問いなおす』ちくま新書 松下良平(2011)『道徳教育はホントに道徳的か?』日本図書センター 文部科学省(2013)『私たちの道徳』(小学校1・2年、3・4年、5・6年、中学校) (http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/d)
(22) 成績評価方法及び採点基準	以下をもとに最終的な評価をおこなう予定 演習への参加、小課題 : 50% 最終試験 : 50%
(23) 授業形式	講義
(24) 授業形態・授業方法	グループによる演習を中心として、適宜講義などをおこなう。
(25) 留意点・予備知識	特になし
(26) オフィスアワー	火 昼休み・3コマ

(27)Eメール アドレス・ HPア ドレス	morimoto%hirosaki-u. ac. jp(%を@に変更) hirof%hirosaki-u. ac. jp(%を@に変更)
(28) その他	・日程については掲示を確認すること

教育学部

(1)整理番号	94
(2)区分番号	94
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	特別活動（初等）（Fundamentals of Extracurricular Activities (Primary)）
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（小コース）・特支（小コース）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日 3・4時限
(10)担当教員（所属）	山科實（教育学部・教職キャリア支援コーディネーター）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2～3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	<p>○学校・学級集団を支える特別活動における「個と集団の育成」の意義を掴むこと</p> <p>○全ての教育活動の母体となる集団形成への主体的な参加意欲の育成の在り方を学び、自己肯定感を高め合う人間関係づくりの実際を学ぶこと</p> <p>○特別活動を通して多様な生き方や価値観と触れ、進路選択や思春期の揺れを克服しながら自己実現に向かう逞しさを育成する手立てや指導の在り様を対話を通して深めること</p>
(15)授業の概要	<p>・今日的課題に向き合う特別活動の「今」と「これからにおける」意義と実践を学ぶ</p> <p>・全ての教育活動の母体となる集団を育てる特別活動を構造的に学び、主体的に対話を進める形式で共感的な人間関係を形成し、自己実現との重なりを省察する</p> <p>・特別活動を通じた生徒や保護者等との信頼関係づくりの実際を学ぶとともに、思春期の特性を捉えなおし、夢や希望に向かう逞しい生徒の育成に注ぐ情熱を確かめ合う</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回：ガイダンス：自尊感情が支える集団形成への意欲的参加</p> <p>第2回：学級目標が生み出す役割意識と協働感覚</p> <p>第3回：学級活動での話し合いを通じた共感的な人間関係づくり</p> <p>第4回：短学活や係活動が含む、小さな気づきと「みんなのため」という責任感</p> <p>第5回：互いの個性を受け止め合う承認と違いを受け止め合う場づくりの挿入</p> <p>第6回：児童の主体性と人間関係を育てる行事の創造</p> <p>第7回：多様な人との出会いを通じ、自分と向き合い、自分の歩みをキャリアデザイン的に描く試み</p> <p>第8回：他教科・道徳と通底する「思いやり」「違いの受容」と集団づくりの関係</p> <p>第9回：前半のまとめと中間レポート作成・提出：学生自身の自己実現と特別活動での学び</p> <p>第10回：学級づくり実践編①（いじめや不登校の起きにくい学級づくり）</p> <p>第11回：学級づくり実践編②（生活課題の解決に向かう児童会活動と</p>

	<p>学級活動) 第12回：学級づくり実践編③（多様な夢や具体目標を通じた自己実現） 第13回：集団づくりに関わる創作活動（班活動の実践） 第14回：集団づくりに関わる問いの発見（対話を通じた相互理解と関係づくりの実践） 第15回：集中質疑とまとめ、および特別活動の今日的な意義についての最終レポート作成</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	適宜指示する。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	授業で配布
(21)参考文献	文部科学省（2017）『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編』
(22)成績評価方法及び採点基準	以下を合計して評価する予定。 小レポート（毎時間の小考察文） 50% 中間レポート 20% 最終レポート 30%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義、Q&A、実践例や演習代に基づく意見交換・協議等
(25)留意点・予備知識	『受け取る・考える・発信する』を大切に
(26)オフィスアワー	教職支援室の勤務予定表の範囲内で対応する
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ky-sien1%hirosaki-u.ac.jp(%を@に変更)
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	95
(2)区分番号	95
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	特別活動（中等）（Fundamentals of Extracurricular Activities (Secondary)）
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース）・特支（中コース）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日 7・8時限
(10)担当教員（所属）	山科 實（教育学部・教職キャリア支援コーディネーター）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2～3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○学校・学級集団を支える特別活動における「個と集団の育成」の意義を掴むこと</p> <p>○全ての教育活動の母体となる集団形成への主体的な参加意欲の育成の在り方を学び、自己肯定感を高め合う人間関係づくりの実際を学ぶこと</p> <p>○特別活動を通して多様な生き方や価値観と触れ、進路選択や思春期の揺れを克服しながら自己実現に向かう逞しさを育成する手立てや指導の在り様を対話を通して深めること</p>
(15)授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・今日的課題に向き合う特別活動の「今」と「これからにおける」意義と実践を学ぶ ・全ての教育活動の母体となる集団を育てる特別活動を構造的に学び、主体的に対話を進める形式で共感的な人間関係を形成し、自己実現との重なりを省察する ・特別活動を通じた生徒や保護者等との信頼関係づくりの実際を学ぶとともに、思春期の特性を捉えなおし、夢や希望に向かう逞しい生徒の育成に注ぐ情熱を確かめ合う
(16)授業の内容予定	<p>第1回：ガイダンス：個と集団を育む『承認』と『葛藤』</p> <p>第2回：集団育成の指針となる学級目標づくりとその活用方法と指導を含めた検証活動</p> <p>第3回：学級活動での協議や対話の設定と役割意識が生み出す責任感と関係性</p> <p>第4回：短学活の中に学級目標と連動するテーマ性を持たせる日常の集団づくり</p> <p>第5回：発想や気づきを相互承認し合う場の挿入と「一体感」の中で育つ個性と協調心</p> <p>第6回：行事における生徒の主体性の育成と協働を通じた自己肯定感の向上</p> <p>第7回：進路指導における、生徒が描くキャリアデザインの進め方</p> <p>第8回：他教科・道徳と通底する『思いやり』『お互い様』『違いの尊重』と集団づくり</p> <p>第9回：前半のまとめと中間レポート作成・提出：学生自身の自己実現と特別活動での学び</p> <p>第10回：学級づくり実践編①（いじめや不登校の起きにくい学級づく</p>

	り) 第11回：学級づくり実践編②（生活課題に向かう生徒会活動と学級活動） 第12回：学級づくり実践編③（進路選択の意義と夢の多様性の指導の実際） 第13回：集団づくりに関わる創作活動（班活動の実際） 第14回：集団づくりに関わる問いの発見（対話を通じた相互理解と関係づくりの実際） 第15回：集中質疑とまとめ、および特別活動の今日的な意義についての最終レポート作成
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	適宜指示する。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	授業で配布
(21)参考文献	文部科学省（2017）『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編』
(22)成績評価方法及び採点基準	以下を合計して評価する予定。 小レポート（毎時間の小考察文） 50% 中間レポート 20% 最終レポート 30%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義、Q&A、実践例や演習代に基づく意見交換・協議等
(25)留意点・予備知識	『受け取る・考える・発信する』を大切に
(26)オフィスアワー	教職支援室の勤務予定表の範囲内で対応する
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ky-sien1%hirosaki-u.ac.jp(%を@に変更)
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	96
(2)区分番号	96
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	教育方法論（中等）（Educational Methods (Secondary)）
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース）・特支（中コース）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 3・4時限
(10)担当教員（所属）	森本 洋介（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○基本的な教育技術の習得、情報機器を活用した授業づくり、主体的・対話的で深い学びの理論の理解と実践、パフォーマンス評価等の学習評価について理解すること（見通す力） ○教育方法に関する基礎的な理解を構築すること（解決する力）
(15)授業	本授業は、学習者の学びに対する意欲を引き出すための授業方法について、経験的に学ぶことを目的としている。つまり、授業で取り扱う学習項目よりも、むしろ自分たちがどのような授業を受けているのかを、方法論的に意識化できるようにすることに重点を置いている。また最近の新しい教育内容に現場がどのように対応していくのかについても考える。

の概要	
(16) 授業の内容予定	<p>授業計画</p> <p>第1回： オリエンテーション</p> <p>第2回： 教職課程における学びの振り返り</p> <p>第3回： 教育技術の基本（教材、教授行為、学習形態）</p> <p>第4回： 主体的・対話的で深い学びの原理</p> <p>第5回： 主体的・対話的で深い学びの実践①問題解決型学習（問題提起編）</p> <p>第6回： 主体的・対話的で深い学びの実践②問題解決型学習（解決編）</p> <p>第7回： 主体的・対話的で深い学びの実践③テキスト分析</p> <p>第8回： 主体的・対話的で深い学びの実践④背景分析</p> <p>第9回： 学習評価に関する理論</p> <p>第10回： 指導と評価の一体化（パフォーマンス評価）</p> <p>第11回： ルーブリックをつくる</p> <p>第12回： パフォーマンス課題の設計（設計編）</p> <p>第13回： パフォーマンス課題の設計（検討編）</p> <p>第14回： 主体的・対話的で深い学びの実践⑤ワールドカフェ</p> <p>第15回： 教育方法論に関する総合的な演習とテスト</p>
(17) 準備学習（予習・復習）等の内容	<p>事前に該当回の教科書対応部分を読んでおくこと。授業後はその箇所について復習を行うこと。</p>
(18) 学問分野1(主学問分野)	<p>教育学関連</p>
(18) 学問分野2(副学問分野)	<p>-</p>
(18) 学問分野3(副学問分野)	<p>-</p>
(19) 実務経験のある教員による授業科目について	<p>-</p>
(20) 教材・教科書	<p>ルネ・ホップス著：森本洋介、和田正人監訳『デジタル時代のメディア・リテラシー教育：中高生の日常のメディアと授業の融合』東京学芸大学出版社、2015年</p>
(21) 参考文献	<p>適宜指示する。</p>
(22) 成績評価	<p>授業中に課す課題の提出（40%）および期末テスト（60%）</p>

方法及び採点基準	
(23) 授業形式	講義
(24) 授業形態・授業方法	基本的に教科書の解説を行う形で講義を行うが、適宜グループワークやグループディスカッションを行う。
(25) 留意点・予備知識	特になし。
(26) オフィスアワー	金曜16:00-17:30
(27) メールアドレス・HPアドレス	morimoto%hirosaki-u. ac. jp(%を@に変換) http://db.jm.hirosaki-u.ac.jp/cybouz/db.exe?page=DBRecord&did=1988&vid=718&rid=1653&head=&hid=&sid=&rev=1&ssid=&fvid=18701&text=%90%58%96%7B%81%40%97%6D%89%EE&cal=
(28) その他	特になし。

教育学部

(1)整理番号	97
(2)区分番号	97
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名 〔英文名〕	教育方法論（初等）（Educational Methods（Primary））
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（小コース）・特支（小コース）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 1・2時限
(10)担当教員 （所属）	宮崎 充治（教育学部）
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 （レベル）	レベル2
(13)対応する C P / D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業とし ての具体的到 達目標	○アクティビティの実践を通じて、基本的な教育技術を習得すること ○情報機器を活用した授業づくりを理解すること ○「主体的・対話的で深い学び」を支える学習理論を理解すること ○パフォーマンス評価等の学習評価方法を理解すること
(15)授業の概 要	本授業においては、子どもたちの学習意欲を引き出す教育方法を学生が体験的に学ぶことによって理論と実践を往還できる実践者を形成することを目的としている。授業においては、参加獲得型の教育方法を紹介するとともに、それを体験し、その運用を考察し、その背景となる理論を学ぶ。
(16)授業の内 容予定	第1回：オリエンテーション 第2回：学習におけるレディネスの形成。学習集団を形成していくための方法 第3回：教授－学習行為① 教師の言葉 第4回：教授－学習行為② 教師の身体技法 第5回：授業分析の方法と教師の成長 第6回：省察の方法① 教授行為を実践的に行い、省察を実践的に学び検討する。 第7回：省察の方法② 省察論の系譜 第8回：学習の理論の系譜① 認識の発達と学習 第9回：学習の理論の系譜② 経験学習の理論 第10回：学習の理論の系譜③ 学力論の国際的動向 第11回：プロジェクト型学習の理論と実践① リサーチワーク 第12回：プロジェクト型学習の理論と実践② ICT・演劇的手法 第13回：学習評価の方法 第14回：カリキュラムデザインの方法及び、指導案の作成方法 第15回：まとめ
(17)準備学習 （予習・復 習）等の内容	各回のコメントペーパーを授業後に提出することを求める。 その他、模擬授業の準備等を行うことがある。

(18)学問分野 1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験 のある教員に よる授業科目 について	実務教員
(20)教材・教 科書	Next 教科書 「教育の方法・技術論」 (2019) (弘文堂)
(21)参考文献	獲得型教育研究会編著『学びを変えるドラマの手法』(2010)『学びへのウォーミングアップ』(2011)『教育プレゼンテーション』(2015) (いずれも旬報社)
(22)成績評価 方法及び採点 基準	授業での演習、討議に参加し、コメントペーパーを提出すること。(70%) 最終レポート(30% 提出は必須)
(23)授業形式	講義
(24)授業形 態・授業方法	毎回の授業では実際に教育方法を体験し、その理論的な根拠を学ぶことを繰り返す。毎回の授業ではコメントペーパーによる省察を求める。
(25)留意点・ 予備知識	授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明することとする。
(26)オフィス アワー	木曜日 3. 4時限
(27)Eメールア ドレス・HPア ドレス	michi.miyazaki [at] hirosaki-u.ac.jp atを@に置き換えて利用してください。
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	98
(2)区分番号	98
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	幼稚園教育課程論 (General Preschool Education)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等 (小・幼児サブコース) : 必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日 7・8時限
(10)担当教員 (所属)	野崎 茉莉 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○幼稚園教育要領における教育課程の考え方を理解すること(見通す力) ○現代のさまざまな幼児教育のあり方を理解すること(見通す力) ○指導計画の基本的な知識を習得し、立案・評価ができるようになること(解決する力)
(15)授業の概要	保育内容の充実と質の向上のために、計画の立案と評価を適切に行うことは重要である。 本講義では、「幼稚園教育要領」に示された内容について理解し、教育課程・指導計画の基本について学ぶ。合わせて、保育所・認定子ども園の教育課程についても学ぶ。 さらに、保育の指導計画を具体的に立ててみることを通じて、幼稚園教諭・保育士として現場で必要とされる力の基礎を養う。
(16)授業の内容予定	1. オリエンテーション 2. 幼児教育と教育課程(1) 教育課程の意義 3. 幼児教育と教育課程(2) 幼児期の発達の特性の概観 4. 幼児教育と教育課程(3) 5領域とは 5. 幼児教育と教育課程(4) 環境を通じた保育を考える 6. 幼稚園教育要領の変遷(1) 幼稚園教育要領の改訂の変遷とその背景 7. 幼稚園教育要領の変遷(2) 新幼稚園教育要領における理論 8. 幼稚園教育要領の変遷(3) 新幼稚園教育要領における内容 9. さまざまな幼児教育 10. 幼稚園における指導計画(1) 指導計画の考え方の基本 11. 幼稚園における指導計画(2) 長期的な指導計画と短期的な指導計画 12. 幼稚園における指導計画(3) 【演習】部分的な指導計画の作成 13. 幼稚園における指導計画(4) 【演習】一日の指導計画の作成 14. 保育の記録と評価 15. 保育士の専門性 16. 試験 *進捗状況に応じて、授業の内容は適宜変更する可能性がある。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習: 授業内容予定を参考に、過去に「幼稚園教育基礎論Ⅰ・Ⅱ」等で学んだ内容との関連について考える。 復習: 配布資料に目を通し、授業内容をふり返る。授業内容に基づい

	て、柔軟な発想で課題(指導計画の立案)に取り組む。 * 予習・復習は、最低でも各1時間程度行う必要がある。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	文部科学省「幼稚園教育要領解説 <平成30年3月>」フレーベル館, 2018
(21)参考文献	授業内で適宜紹介する。
(22)成績評価方法及び採点基準	①試験(60%) ②課題への取り組み(30%) ③授業への参加態度(10%)
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義と演習及びディスカッション
(25)留意点・予備知識	幼稚園教諭一種免許取得のための必修科目である。 幼児教育サブコースの必修科目である。 指導計画を作成する演習の回を欠席すると大きな減点対象となるので注意すること。
(26)オフィスアワー	木曜 16:00-17:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	nozaki@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	99
(2)区分番号	99
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	幼稚園教育基礎論I (Fundamentals of Preschool Education I)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 7・8時限
(10)担当教員(所属)	武内 裕明 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○幼児教育の歴史をふまえて現在の幼児教育や幼児教育実践を説明・評価できるとともに、その意義を説明できること(見通す力) ○幼稚園教育の現在に至るまでの思想と歴史、主要な思想家や実践家の思想の特徴を把握することで、理論を踏まえた教育課程を構想する基礎を築くこと(解決する力)
(15)授業の概要	幼児期に最適な教育とはどのようなものかという問題に唯一絶対の正解はありません。それは、幼児の教育も社会状況や歴史、子ども観や必要とされる能力観などの文脈によって規定されているためです。そして、現在の幼児教育がどのように行われるべきかは、これまでの幼児教育が尊重してきた原則によっても規定されています。そのため、望ましい実践を構想するためには、過去の幼児教育観の変遷とそのような教育観の社会的背景の理解が不可欠です。そこで、本授業では現在の幼稚園教育がどのように形成されてきたのかを歴史的に概観します。それぞれの教育思想には現代の教育を考える典型的な見方も現れており、本授業を通して幼児教育に関する見方を整理して、現代に応用できることを期待します。

(16)授業 の内容予 定	<p>この講義では、現代にいたるまでの幼児教育の歴史と思想に関して、典型的で重要な議論を取り上げて、歴史を見通し、理論を踏まえた幼児教育の教育課程を作成する基礎を築くことをめざしています。授業は、毎回異なるテーマを扱い、そのテーマに関する小課題を課すこととなります。授業予定は人数や進度、理解度等に応じてシラバスの内容から変更されることがあります。</p> <p>I. 幼児教育の歴史的展開</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児教育の展開と社会的背景 2. 西洋の幼児教育史概説 3. 日本の幼児教育史概説（戦前まで） 4. 日本の幼児教育史概説（戦後の展開） 5. 子ども期論争について <p>II. 幼児教育思想と教育課程の発展</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. ルソー『エミール』にみる子どもの発見 7. フレーベル以前の幼児教育思想・施設前史 8. フレーベルと幼稚園 9. フレーベル主義批判と進歩主義教育運動 10. エレン・ケイの幼児教育思想 11. モンテッソーリの幼児教育思想 12. 倉橋惣三の幼児教育思想 13. 平井信義の自由保育思想 14. 自由保育派の実践とカリキュラム論 15. 現代の教育改革と教育課程の編成原理 16. 期末試験
(17)準備 学習（予 習・復 習）等の 内容	<p>[予習] 事前に指定する資料を読んでおくことが必要です [復習] 基本的に授業から2日後までに、小課題に関するコメントペーパーを提出する必要があります（授業日が臨時で変わる際には指示をします）</p>
(18)学問 分野1(主 学問分野)	教育学関連
(18)学問 分野2(副 学問分野)	思想関連
(18)学問 分野3(副 学問分野)	社会学関連
(19)実務 経験のあ る教員に よる授業 科目につ いて	-
(20)教 材・教科 書	教科書は使用されません。授業中、適宜プリントが配布されます。
(21)参考 文献	<p>アリエス 杉山光信 他訳『<子供>の誕生』みすず書房、1980 太田素子、浅井幸子 編『保育と家庭教育の誕生』藤原書店、2012 乙訓稔『西洋近代幼児教育思想史』東信堂、2005 乙訓稔『西洋現代幼児教育思想史』東信堂、2009</p>

	柴田純『日本幼児史』吉川弘文館、2013 その他授業期間中に適宜示します。
(22)成績 評価方法 及び採点 基準	小課題（40%） 試験（60%）で評価します。 小課題では授業内容の理解を問うとともに、適切な考察のもとに自分の意見を説明できているかが問われます。 単に個人的感想ではなく、それぞれの教育者の教育思想に関する歴史的・社会的文脈の説明が求められます。 試験は授業内容と授業に関連する追加の文章などを提示しての応用的課題のどちらにも出題します。
(23)授業 形式	講義
(24)授業 形態・授 業方法	主に講義によって進めますが、必要に応じて討議等が取り入れられる場合があります 小課題の内容を匿名でフィードバックすることで、復習と理解状況に応じた補足を行ないます
(25)留意 点・予備 知識	幼稚園教諭一種免許状取得のための必修科目です。 日本語訳された原典に当たることも多いので、資料は読み込んで考え方を理解しておいてください。 追加の学習があるとさらに理解が深まるので、文献の推薦などが必要であれば質問してください
(26)オフ イスア ワー	前期木曜 7・8時限 時間外でも都合のつく範囲で対応しますので、相談してください
(27)Eメ ールアド レス・HP アドレス	Email : hiloakit@hirosaki-u.ac.jp
(28)その 他	答案は採点終了後（2-3週間後）を目途に返却します。

教育学部

(1)整理番号	100
(2)区分番号	100
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	幼稚園教育基礎論II (Fundamentals of Preschool Education II)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 5・6時限
(10)担当教員(所属)	野崎 茉莉(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	○子どもは他者とどのように関わりながら発達するのか理解すること(見通す力) ○乳幼児教育の実践において必要とされる発達援助の視点について理解すること(見通す力) ○子どもをめぐる現代の社会問題について、幼児教育・幼児心理学の視点から考察できること(学び続ける力)
(15)授業の概要	子どもは、乳児期から幼児期にかけての時期に社会関係を広げ、他者とのコミュニケーション能力を著しく発達させる。 本講義では、事例や最新の研究成果を交えながら、子どもにおける他者との関わりについて学ぶ。 さらに、その知識を生かし、乳幼児教育の実践における発達援助、及び、子どもをめぐる現代の社会問題について考察する。
(16)授業の内容予定	1. オリエンテーション 2. 乳児期から児童期にかけての心の理解の発達(1) 心への気づき 3. 乳児期から児童期にかけての心の理解の発達(2) 自分を知る 4. 乳児期から児童期にかけての心の理解の発達(3) 他者の心を知る 5. 子どものコミュニケーション(1) うそとあざむき 6. 子どものコミュニケーション(2) 助ける・攻撃する 7. 子どものコミュニケーション(3) 道徳性の発達 8. 乳幼児教育の実践(1) 乳幼児教育の基本を知る 9. 乳幼児教育の実践(2) 基本的生活習慣の獲得と発達援助 10. 乳幼児教育の実践(3) 主体性の形成と発達援助 11. 乳幼児教育の実践(4) 発達の課題に応じた援助 12. 子どもをめぐる現代社会の課題(1) 待機児童と3歳児神話 13. 子どもをめぐる現代社会の課題(2) 保育の質とは 14. 子どもをめぐる現代社会の課題(3) 児童虐待 15. 子どもをめぐる現代社会の課題(4) 子どもの貧困 16. 試験 *進捗状況に応じて、授業の内容は適宜変更する可能性がある。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習: シラバスの内容予定に関連するような子どもに関する報道に目を留めて考察する。 復習: 配布資料に目を通し、授業内容をふり返る。 *予習・復習は、最低でも各1時間程度行う必要がある。
(18)学問分野1(主学問分野)	心理学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特に指定しない。
(21)参考文献	林 創「子どもの社会的な心の発達——コミュニケーションのめばえと深まり」金子書房, 2016 井戸ゆかり(編)「保育の心理学Ⅱ——演習で学ぶ、子ども理解と具体的援助」萌文書林, 2012
(22)成績評価方法及び採点基準	①試験(70%) ②授業内で適宜提出を求めるリアクションペーパー(20%) ③授業への参加態度(10%)
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義中心、必要に応じてディスカッションを行う
(25)留意点・予備知識	幼稚園教諭一種免許取得のための必修科目である
(26)オフィスアワー	木曜 16:00-17:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	nozaki@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	101
(2)区分番号	101
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	保育内容指導法I（健康）（Curriculum for Preschool Education I（Health））
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（小・幼児サブコース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日 3・4時限（一部集中）
(10)担当教員（所属）	鈴木 寛康（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○健康の概念および子どもの心身の発育・発達について理解し説明することができること（見通す力） ○領域「健康」のねらいと具体的内容について理解し説明することができること（見通す力） ○安全についての指導・援助の方法について理解し説明することができること（見通す力・解決する力） ○学生間で協調して運動遊びに関する指導案を作成し実施することができること（解決する力）
(15)授業の概要	健康は、生きる力の礎となるものであり、幼児期のみならず人生を通して日々生き生きと生活し、生きる喜びを満喫するために誰もが願うものです。幼児期は、健康な心と体の基礎をつくる時期ですが、子どもを取り巻く現状と課題を鑑みると保育者が展開する領域「健康」にかかわる保育内容の重要性は増していると考えられます。そこで本科目では、まず健康の概念と子どもの心身の発育・発達について解説し、基礎的理解を深めます。次に、領域「健康」のねらいと内容へと進み、生活習慣の形成、安全教育の内容、運動遊びの展開について理解を深めます。最後に、運動遊びについての指導案の作成、活動の実施を通して実践力を養っていきます。

<p>(16)授業 の内容予定</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの健康 2. 形態の発育、生理機能の発達 3. 運動機能の発達 4. 心の発達、発育・発達の全体像 5. 小テスト（1回目・20分）、領域「健康」のねらいと内容 6. 基本的生活習慣の形成と指導・援助 7. 安全生活の指導 8. 乳幼児の運動遊び 9. 運動遊びと保育者の関わり 10. 小テスト（2回目・20分）、運動遊びの指導案作成 11. 指導案に基づく模擬授業の実践 12. 模擬授業の振り返り 13. 指導案の修正 14. 修正指導案に基づく模擬授業の実践 15. 模擬授業の振り返りとまとめ
<p>(17)準備 学習（予 習・復習） 等の内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ シラバスに記載された各回の授業の内容予定を参考とし、教科書の該当箇所を授業実施時まで予習し、授業実施後に復習を行なってください。（予習、復習は、最低でも各1時間程度行う必要があります。） ・ 各回の授業終了後に、復習点、次回の予習点についてお知らせします。
<p>(18)学問 分野1(主 学問分野)</p>	<p>教育学関連</p>
<p>(18)学問 分野2(副 学問分野)</p>	<p>体育関連</p>
<p>(18)学問 分野3(副 学問分野)</p>	<p>スポーツ科学関連</p>
<p>(19)実務 経験のある 教員による 授業科目に ついて</p>	<p>-</p>
<p>(20)教 材・教科書</p>	<p>新保育内容シリーズ【新訂】子どもと健康, 菊池秀範, 石井美晴 編, 萌文書林.</p>
<p>(21)参考 文献</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事例で学ぶ保育内容 領域健康, 無藤隆 監修, 倉持清美 編者代表, 萌文書林. ・ 保育者を目指す学生のための「保育内容・健康」実践教本, 村上哲朗, 山里哲史, 現代図書. ・ コンパス 幼児の体育ー動きを通して心を育むー, 前橋明 編著, 建帛社.
<p>(22)成績 評価方法及 び採点基準</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受講態度30% <ul style="list-style-type: none"> ・ 積極的に記録を取り学ぼうとする姿勢 ・ 積極的に発言し参加しようとする姿勢 ・ 仲間の発言に傾聴し学ぼうとする姿勢 ・ 小テスト20% <ul style="list-style-type: none"> ・ 計2回実施する（各20分） ・ 提出物10% <ul style="list-style-type: none"> ・ 計2回指導案の提出を求める。 ・ 模擬保育実践40% <ul style="list-style-type: none"> ・ 仲間と協調して準備、改善に臨む姿勢 ・ 具体的かつ達成可能なねらいの設定 ・ ねらいと活動内容の整合性 ・ ねらいの達成に向けた工夫 ・ 保育者としての表現力

(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義・グループ学習・模擬授業
(25)留意点・予備知識	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業に際しては、長髪は束ね、アクセサリ類は外すなど、身だしなみと安全管理に留意すること。 ・教育実習での学びを参考にできるように、実習の記録などをあらかじめ振り返りをしておくこと。
(26)オフイスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	なし

教育学部

(1)整理番号	102
(2)区分番号	102
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名 〔英文名〕	保育内容指導法II（人間関係）（Curriculum for Preschool Education II （Human Relationships））
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（小・幼児サブコース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 1・2時限
(10)担当教員 （所属）	高橋 多恵子（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての 具体的到達目標	○幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解すること（見通す力） ○幼児の発達や学びの家庭を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につけていること（解決する力）
(15)授業の概要	幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について、幼児の姿と保育実践とを関連させて理解を深めます。そのうえで、幼児の発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身につけます。
(16)授業の内容 予定	1：幼稚園教育要領における領域「人間関係」の全体像をつかむ 2：保育者との信頼関係と園生活における安定感を形成する援助の在り方 3：自立心を育む援助 4：友だちとの遊びを通して、自他の気持ちに気付く援助の在り方 5：自他の気持ちの違いに気付き、自分の気持ちを調整する力を育む援助の在り方 6：子どもの葛藤と援助 7：ルールのある遊びの援助 8：個と集団の育ちを考える 9：協同的な遊びの中で育ち合う長期的な保育展開を考える（情報機器及び教材の活用） 10：園生活における行事のねらいと活動内容を考える（教材の活用） 11：幼小の交流活動を考える（情報機器の活用） 12：「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」から幼小接続期を考える 13：幼児期に経験させたい地域の人との関わりを考える（教材の活用） 14：子どもの経験を育ちへ根付かせる長期的な計画と保育者の援助を考える（教材の活用） 15：領域「人間関係」をめぐる現代的諸問題・まとめ 第7・9～14回は模擬保育実践を含む。

(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	予習：日常的に幼児教育や子どもに関する報道に目を留めて考える習慣を持つ。 復習：配布資料に目を通し、授業内容をふり返る。
(18)学問分野 1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある 教員による授業科目 について	実務教員
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 文部科学省 「幼稚園教育要領解説」
(22)成績評価方法 及び採点基準	受講態度（40%）、課題・演習内容（40%）、レポート（20%）
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・ 授業方法	実践やグループワークを行います。
(25)留意点・予 備知識	なし
(26)オフィスア ワー	なし
(27)Eメールア ドレス・HPアド レス	takahashi@aomori-akenohoshi.ac.jp
(28)その他	なし

教育学部

(1)整理番号	103
(2)区分番号	103
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名 〔英文名〕	保育内容指導法III（環境・言葉）（Curriculum for Preschool Education III (Environment, Language)）
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（小・幼児サブコース）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 3・4時限
(10)担当教員 （所属）	高橋 多恵子（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての 具体的到達目標	○乳幼児期の発達におけるさまざまな環境の意義や役割についてわかること（見通す力） ○子どもの「環境とかかわる力」や保育方法について理解し、実践につなげることができること（解決する力） ○乳幼児期のことばの発達、また、それを支える保育者の役割や保育方法を理解すること（見通す力） ○領域「言葉」に関する理解を、実践につなげることができること（解決する力）
(15)授業の概要	幼稚園教育要領に示された領域「環境」・「言葉」のねらい及び内容について、幼児の姿と保育実践とを関連させて理解を深める。そのうえで、幼児の発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身につける。
(16)授業の内容 予定	1：保育内容「環境」と保育 2：子どもの「環境とかかわる力」の発達を支えているもの 3：子どもの「環境とかかわる力」をどう理解するか 4：領域「環境」と保育方法 5：領域「環境」と保育の実際 6：領域「環境」と実践上の留意点 7：領域「環境」の変遷 8：保育内容「言葉」と保育 9：乳幼児期のことばの発達を支えているもの 10：乳幼児のことばの発達をどう理解するか 11：領域「言葉」と保育方法 12：領域「言葉」と保育の実際 13：領域「言葉」と実践上の留意点 14：領域「言葉」の変遷 15：まとめ
	予習：日常的に幼児教育や子どもに関する報道に目を留めて考える習慣を持つ。 復習：配布資料に目を通し、授業内容をふり返る。

(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	
(18)学問分野 1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験の ある教員による 授業科目につい て	実務教員
(20)教材・教科 書	特になし
(21)参考文献	幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 文部科学省 「幼稚園教育要領解説」
(22)成績評価方 法及び採点基準	受講態度 (40%)、課題・演習内容 (40%)、レポート (20%)
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・ 授業方法	実践やグループワークを行います。
(25)留意点・予 備知識	なし
(26)オフィスア ワー	なし
(27)Eメールア ドレス・HPアド レス	takahashi@aomori-akenohoshi.ac.jp
(28)その他	なし

教育学部

(1)整理番号	104
(2)区分番号	104
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	保育内容指導法Ⅳ（表現）（Curriculum for Preschool Education Ⅳ（Expression））
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（小・幼児サブコース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員（所属）	首藤 晃（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○子どもの発達と造形表現について理解を深めること（見通す力） ○造形の基礎的な知識や技術を習得すること（解決する力） ○造形表現の良さや楽しさを実感し、感性を豊かにすること（見通す力）
(15)授業の概要	保育における造形活動について、特に基礎的な技法を中心とした制作や教材の研究を行います
(16)授業の内容予定	この授業では、保育における造形活動の中でも特に基礎的な技法を中心とした制作を行います。さまざまな素材や表現方法について制作を通して理解し、基礎的な造形力を習得します。また、表現することの良さや楽しさを実感し、感性を育むことを目指します。まず、子どもの発達段階に見られる造形的な傾向や、クレヨンの性質について、ある程度理解したうえで、クレヨンによる絵画制作に取り組みます。作品制作や教材研究等の課題は保育現場における応用性を重視して設定しています

	<p>が、各課題のテーマをよく考え、自分自身の感性を開くことと、子どもの表現や保育者の役割を常に意識しながら取り組んでください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの発達と造形表現 2 クレヨンによる絵画制作 3 描画技法①にじみ～ドリッピング 4 描画技法②デカルコマニー～マーブリング 5 平面構成①構想 6 平面構成②制作 7 平面構成③まとめ 8 版による表現 9 風船張子 10 保育の構想①指導案の作成 11 保育の構想②模擬保育 12 保育の構想③振り返り 13 立体造形②構想 14 立体造形③制作 15 立体造形④まとめ
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>〔予習〕 課題内容を把握し道具等の必要な準備を行う。 〔復習〕 自分や他者の作品を見て感想を持つ。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	『新造形表現 実技編』 (三晃書房)
(22)成績評価方法及び採点基準	課題70% 受講態度30% (忘れ物、課題提出の遅れは減点します)
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	教員による説明や実演と参考作品や資料などから課題の内容を理解し、学生各自が創意工夫しながら課題に取り組んでください。教員からのアドバイスを受け、より良い内容になるようさらに工夫してください。

(25)留意 点・予備知 識	材料・道具等が必要（授業内で連絡します）
(26)オフ イスアワー	なし
(27)Eメー ルアドレ ス・HPア ドレス	なし
(28)その 他	特になし

教育学部

(1)整理番号	105
(2)区分番号	105
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名 〔英文名〕	保育内容指導法V（表現）（Curriculum for Preschool Education V （Expression））
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（小・幼児サブコース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 3・4時限
(10)担当教員（所属）	菅野 美津子（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するC P/D P	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○保育における音楽にとって重要な弾き歌いの演奏技能を身につけること（解決する力） ○実際に保育の現場で応用できるスキルを身につけること（学び続ける力）
(15)授業の概要	楽譜を読むための基礎知識の復習をするとともに、「子供の歌」の弾き歌いを練習します。基本的には個別指導という形をとります。
(16)授業の内容予定	テキストの中から、平易な曲から進めていきます。子供の頃からよく知っている歌、知らない曲の中にも優れた歌は沢山あります。個別指導という形はとりますが、他の人の演奏も聴いて学んでほしいと思います。 第1回 ガイダンス 第2回 季節の歌（春1） p. 27～p. 29楽譜の基礎知識の説明 第3回 季節の歌（春2） p. 27～p. 29コードを知る。 第4回 季節の歌（夏1） p. 30～p. 32コードをつける練習 第5回 季節の歌（夏2） 楽典の復習 第6回 季節の歌（秋1） p. 33～p. 37楽典の復習 第7回 季節の歌（秋1） 毎日の歌p. 7～p. 9 第8回 季節の歌（冬） p. 38～p. 39 第9回 保育士試験に向けてのバイエルの習得（86～100） 第10回 行事の歌p. 11～p. 26 第11回 いろいろな歌p. 73～106（昔から歌い継がれて世代を超えて歌われる歌） 第12回 からだ遊び歌p. 52～p. 70 第13回 身体表現（歩く・走る・飛ぶ）のための音楽「楽しい歌とリズムあそび」（教育芸術社） 第14回 手話を使い歌う（目の前の人と手話でコミュニケーションをとりながら歌える歌「世界中のこどもたちが」「切手のないおくりもの」 第15回 実技試験 講評とふりかえり
	[予習] 毎回課題を出すので、そのための各自の練習は必要です。 [復習] 又指導されたところを復習することによって、一層の上達が見込

(17)準備学習（予習・復習）等の内容	まれます。 教室にはキーボードを数台備えてあるので、空いているときには使用することができます。
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	「心を育む子供の歌」（教育芸術社）
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（授業への参加の積極性ならびに毎週の練習量）40% 期末評価（実技試験）60%
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	個別指導、全体合唱、プリント問題を解く。
(25)留意点・予備知識	各自能力の差を問題にするのではなく、授業に向けての練習を評価します。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	fp722453@wj8.so-net.ne.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理 番号	106
(2)区分 番号	106
(3)科目 種別	教育学部教職科目
(4)授業 科目名 〔英文 名〕	幼稚園教育方法論 (Preschool Methodology)
(5)対象 学年	2
(6)必 修・選択	初等中等（小・幼児サブコース）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜 日・時限	木曜日 3・4時限
(10)担当 教員（所 属）	武内 裕明（教育学部）
(11)地域 志向科目	-
(12)難易 度（レベ ル）	レベル2
(13)対応 するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業 としての 具体的到 達目標	○現代の学校教育改革全体を見据えて、幼児教育の方法論と初等教育との接続が構 想できること（見通す力） ○幼児教育の原則的な方法論における教育や意図的な働きかけの重要性を理解し、 指導を計画できること（解決する力） ○環境と幼児の主體的な遊びを通じた学びという、幼児教育の独特の方法論を尊重 した教育方法を目ざし続けていけること（学び続ける力）
(15)授業 の概要	幼児期の教育の方法は、他の学校段階とは大きく異なるものです。それは、幼児の 発達が方法を規定し、長期的な見通しのなかで徐々に望ましい姿へと近づくことを めざしていく方法が、時間内で明確な目標達成を目指す小学校以降と大きく異なる ためです。また、人間として生きていく基盤となる主体性を育むためにも、この時 期の教育は幼児の具体的な体験を通して困難に立ち向かっていく心情や意欲、態度 を育むというねらいに合致した方法である必要があります。幼児期の教育は、幼児 の発達を見取ることから始まる個人ごとにことなるねらいをもったものとなりま す。本授業では、幼児教育の方法の原則や、方法を裏付ける理論と技術、指導計画

	と評価、情報機器の活用を含め教材の作製や活用について学ぶなかで、幼稚園教諭として必要な教育方法の基礎を確立することをめざします。
(16)授業の内容予定	<p>この講義では、毎回のテーマを定めて幼稚園教育の方法に関する基本的な理論や枠組みを学び、実際の保育の方法との関連させて、さまざまな手段をどのように教育に用いるかを検討します。また、それらを踏まえて指導計画を構想してもらいます。授業の一部ではディスカッションを活用し、真正な学習を試みます。授業予定は人数や進度、理解度等に応じてシラバスの内容から変更されることがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 環境を通じた保育 2. 発達・生活と保育 3. 資質・能力の育成と保育方法 4. 遊びにおける学び 5. 幼児理解に基づいた評価とは 6. 行動主義の学習理論 7. 行動主義の指導への応用 8. 構成主義の保育方法 9. 自由保育の保育方法 10. 保育実践から学ぶ保育方法：子どもへの働きかけについて 11. 食育 12. 家庭・地域との連携と地域資源の教材化 13. 幼児教育における教材研究：壁面装飾を事例とした教材研究 14. 幼児教育における情報機器の利活用 15. 主体的・対話的で深い学びを実現する教育の構想 16. 期末試験
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	<p>[予習] 事前に指定する資料を読んでおくことが必要です [復習] 基本的に授業から2日後までに、小課題に関するコメントペーパーを提出する必要があります（授業日が臨時で変わる際には指示をします）</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	社会学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書は使用されません。授業中、適宜プリントが配布されます。
(21)参考文献	<p>ガードナー、松村暢隆 訳『MI:個性を生かす多重知能の理論』新曜社、2001 子どもと保育総合研究所 編『子どもを「人間としてみる」ということ』ミネルヴァ書房、2013 鯨岡峻『関係の中で人は生きる』ミネルヴァ書房、2016 レイヴ、ウエンガー、佐伯胖 訳『状況に埋め込まれた学習』産業図書、1993</p>

	高山静子『環境構成の理論と実践』エイデル研究所、2014 シヨーン、柳沢昌一 他訳『省察的实践とは何か』鳳書房、2007
(22)成績 評価方法 及び採点 基準	小課題（40%） 期末試験（60%） で評価します。 小課題は授業内容の理解を問うとともに、自分の意見を適切な考察のもとに説明できているかを問います。 試験は授業内容に関する基礎的な理解を問うとともに、授業で取り扱った内容に関する応用的課題も用います。
(23)授業 形式	講義
(24)授業 形態・授 業方法	講義を中心として、討議等も行います 小課題の内容を匿名でフィードバックすることで、復習と理解状況に応じた補足を行ないます
(25)留意 点・予備 知識	幼稚園教諭の免許状取得のための必修科目です。 一種・二種を問わず履修が必要になります。
(26)オフ イスアワ ー	木7・8時限 時間外でも都合のつく範囲で対応しますので、相談してください。
(27)Eメ ールアド レス・HP アドレス	Email : hiloakit@hirosaki-u.ac.jp
(28)その 他	答えは採点終了後（2-3週間後）を目途に返却します。

教育学部

(1)整理番号	107
(2)区分番号	107
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	生徒指導心理学（初等）（Psychology of Student Guidance (Primary)）
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（小コース）・特支（小コース）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日 7・8時限
(10)担当教員（所属）	吉中 淳（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○児童をどう理解しどう関わるか、その理論的背景を知ること（見通す力） ○学校不適應の子どもたちを理解し指導する基礎的な視点を獲得すること（解決していく力）
(15)授業の概要	児童の適応・自己実現・社会性の伸張を図る教育活動である生徒指導の理論と方法を、児童期の全人的発達に関する理論と、学校不適應の予防・克服の具体例などをもとに論じます。さらに生徒指導活動の最終目標の1つである進路先での適応について、生き方・在り方の指導・援助の骨格を考察します。
(16)授業の内容予定	<p>授業計画</p> <p>第1回：生徒指導の位置づけ</p> <p>第2回：各教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導</p> <p>第3回：集団指導と個別指導</p> <p>第4回：教育相談・キャリア教育との関係</p> <p>第5回：自己存在感を育む</p> <p>第6回：生活習慣の確立</p> <p>第7回：規範意識の醸成</p> <p>第8回：中間試験と解説</p> <p>第9回：体罰と校則</p> <p>第10回：いじめと暴力</p> <p>第11回：不登校</p> <p>第12回：生徒指導の今日的課題</p> <p>第13回：校務分掌の在り方</p> <p>第14回：年間指導計画に基づく組織的取り組み</p> <p>第15回：関係機関との連携</p> <p>第16回：期末試験</p> <p>※授業の進行状況等により、各回の内容が変更になる場合があります。</p>

(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業内容はすべて、教員志望者としての自分自身のあり方と実習で関わる児童生徒の日々の行動を理解する鍵になるので、授業内容をよく復習し、自らの体験と照合し、自己分析と省察をおこなってください。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	心理学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	資料を配付します。テキストは使用しません。
(21)参考文献	小野直広編 新教育心理学体系③ 「生徒指導」1993年刊 中央法規出版 仙崎武編 「入門 生徒指導・相談」 2000年刊 福村出版
(22)成績評価方法及び採点基準	中間試験と期末試験を行います。授業内容の概要を理解したかどうかを、論理的思考力が必須の問題によって評価します。また、中間試験では結果をフィードバックする予定です。中間試験は第8回を予定していますが、授業の進行状況によって変わります。中間試験を受けないと単位取得はほぼ不可能です。中間試験の結果によっては別途、レポート課題を課されることがあります。 中間試験および追加レポート： 40% 期末試験： 60%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	大教室でパワーポイントを使用した講義形式で行います。
(25)留意点・予備知識	中学校・高校の免許を取ろうとする人は、生徒指導心理学(中等)の方を履修してください。
(26)オフィスアワー	吉中のオフィスアワー 木曜日 12:00~13:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	吉中のメールアドレス yosinaka@hirosak-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	108
(2)区分番号	108
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名 〔英文名〕	生徒指導心理学（中等）（Psychology of Student Guidance (Secondary)）
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース）・特支（中コース）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 9・10時限
(10)担当教員 （所属）	田名場 忍（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2～3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての 具体的到達目標	○生徒の理解と指導について、その理論的背景を理解すること ○学校不適応、非行、ならびにいじめの指導について基礎的な視点を獲得すること
(15)授業の概要	生徒指導は、発達の視点もふまえて個々の生徒の適応・自己実現・社会性の伸張を図る教育活動です。生徒の理解と指導の方法について、心理的発達等に関する理論を基礎に、不登校を中心とした学校不適応、非行、ならびにいじめの予防や指導について考察します。
(16)授業の内容 予定	第1回 ガイダンス、生徒指導の定義 第2回 生徒指導の目標、生徒指導の沿革 第3回 生徒指導の現状 第4回 生徒指導の基礎理論（1）：自己に関する理論、自己実現 第5回 生徒指導の基礎理論（2）：自我同一性 第6回 生徒指導の基礎理論（3）：発達の理論 第7回 生徒指導の基礎理論（4）：発達課題、道徳性の発達 第8回 生徒指導における生徒理解と対応 第9回 生徒指導各論（1）：非行少年 第10回 生徒指導各論（1）：非行少年の指導 第11回 生徒指導各論（2）：いじめ 第12回 生徒指導各論（2）：いじめの指導 第13回 生徒指導各論（3）：不登校 第14回 生徒指導各論（3）：不登校の指導 第15回 学習状況の確認（試験含む）と振り返り
(17)準備学習 （予習・復習） 等の内容	授業内容はすべて、教員志望者としての自分自身のあり方と実習で関わる生徒の日々の行動を理解する鍵になります。授業内容と自らの体験を折に触れ照合し、自己分析と省察をおこなってください。
	心理学関連

(18)学問分野 1(主学問分野)	
(18)学問分野 2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	適宜資料を配布します。
(21)参考文献	「新教育心理学体系③ 生徒指導」小野直広編（中央法規出版） 「入門 生徒指導・相談」仙崎武編（福村出版）
(22)成績評価方法及び採点基準	最終試験によって評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式で実施します。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	田名場オフィスアワー：前後期ともに水曜日9:00～10:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	田名場eメールアドレス： etanaba@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	109
(2)区分番号	109
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	カウンセリング基礎論（初等）（Fundamentals of Educational Counseling (Primary)）
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（小コース）・特支（小コース）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員（所属）	安達 知郎（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○教育相談の意義、理論を理解するとともに、教育相談の基礎となるカウンセリングの理論の理解、技法を習得すること
(15)授業の概要	教育相談、カウンセリングに関する講義及び実習
(16)授業の内容予定	<p>第1回： ガイダンス、カウンセリングの定義、専門性 第2回： 教育相談とアサーション・トレーニング 第3回： アサーション・トレーニング（カウンセリング諸派）の歴史 第4回： アサーション・トレーニングの概要（3つの話し方、心理的支援の概要） 第5回： 子どもの権利擁護としてのアサーション 第6回： 教師の権利擁護としてのアサーション 第7回： 認知上のアサーション（論理療法） 第8回： スキルトレーニング（行動療法）の理論 第9回： 日常会話の実習 第10回： 頼む・断るの実習 第11回： いじめへの対応（DESC法実習） 第12回： 問題行動を示す子どもへの対応（DESC法実習） 第13回： 怒りへの対処 第14回： 学校における相談事例の実際 第15回： 児童に見られる医学的問題、協働・連携</p> <p>* 授業の内容、進度は状況によって変更になる場合があります。</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	自らのこれまでの体験を授業内容に合わせふりかえる
(18)学問分野1(主学問分野)	心理学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-

(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	適宜、授業中に配布します
(21)参考文献	<p>小学校学習指導要領 平木典子（2009）『改訂版アサーション・トレーニング—さわやかなく自己表現—のために』 金子書房 園田雅代・沢崎俊之・中釜洋子（2002）『教師のためのアサーション』 金子書房 平木典子・土沼雅子・沢崎達夫（2002）『カウンセラーのためのアサーション』 金子書房</p>
(22)成績評価方法及び採点基準	実習における参加態度（80%）、レポート（20%）
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義および演習
(25)留意点・予備知識	特にありません。
(26)オフィスアワー	水曜日 12：00～12：30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	adachi あつとまーく hirosaki-u. ac. jp
(28)その他	特にありません。

教育学部

(1)整理番号	110
(2)区分番号	110
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名 〔英文名〕	カウンセリング基礎論（中等）（Fundamentals of Educational Counseling （Secondary））
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース）・特支（中コース）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員 （所属）	○吉中 淳（教育学部）・松田 侑子（教育学部）・小玉 有子（非常勤講師） ・長野 賢司（非常勤講師）・立原 聖子（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての 具体的到達目標	○生徒理解の基本的視点を理解すること（見通す力） ○生徒の自己実現・適応・メンタルヘルスを促す技法を修得すること（解決する力） ○理論に裏打ちされた実践力をつけること（解決する力）
(15)授業の概要	教育相談やカウンセリングの基礎となる考え方と人間関係の理論等を講じます。また、教育現場でそれぞれの技法を実践してきた非常勤講師3名が、自らの実践技法や事例理解の方法を伝えます。
(16)授業の内容 予定	○集中講義で実施します。 第1回：オリエンテーション（担当：吉中） 第2回：学校における教育相談の意義と課題（担当：吉中） 第3回：組織的教育相談の必要性（担当：吉中） 第4回：教育相談に関する基礎的理論（担当：松田） 第5回：いじめ・不登校と教育相談（担当：松田） 第6回：教育相談の基礎的概念（担当：長野） 第7回：子どもにとっての問題行動の意味（担当：長野） 第8回：学校教育におけるカウンセリングマインド（担当：長野） 第9回：学校不適應の理解と対応（担当：小玉） 第10回：年間計画作成、児童生徒・保護者面談の進め方（担当：小玉） 第11回：支援計画作成演習（事例検討）（担当：小

	玉) 第12回：チーム支援、学校内外の資源の活用 (担当：小玉) 玉) 第13回：子どもの発するシグナルの把握 (担当：立原) 原) 第14回：カウンセリングの基礎的技法 (担当：立原) 原) 第15回：傾聴スキルトレーニング (担当：立原) 原) ※順番や内容を変更する場合があります。
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	講義内容の復習と、演習体験の熟成に努めてください。
(18)学問分野 1(主学問分野)	心理学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	健康科学関連
(19)実務経験のある 教員による 授業科目につ いて	実務教員
(20)教材・教科 書	テキストは使用しません。適宜資料を配布します。
(21)参考文献	石隈利紀 学校心理学—教師・スクールカウンセラー・保護者のチームによる心理教育的援助サービス— 2004年刊 誠信書房 上地安昭 学校教師のカウンセリング基本訓練—先生と生徒のコミュニケーション入門 1990年刊 北大路書房 桑原知子 教室で生かすカウンセリング・マインド—教師の立場でできるカウンセリングとは 1999年刊 日本評論社
(22)成績評価方 法及び採点基準	評価は、学部教員と非常勤講師とが各回に提示する課題の成績を、担当時間数に応じ按分して総合的に行います(100%)。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・ 授業方法	土曜日に大教室で集中講義を行います。1日、3~4コマ。 1ヶ月に1回ないし2回程度。
(25)留意点・予 備知識	非常勤講師のスケジュールに合わせて日程調整がなされます。調整結果はできる限り早く掲示しますので、掲示に注意してください。 例年、講義の日程や開始時刻を間違える学生が後を絶たないのでくれぐれも注意してください。
(26)オフィスア ワー	吉中のオフィスアワー：木曜日12:00~13:00
(27)Eメールア ドレス・HPアド レス	吉中のメールアドレス yosinaka@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特にありません。

教育学部

(1)整理番号	111
(2)区分番号	111
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名 〔英文名〕	カウンセリング基礎論（中等）（Fundamentals of Educational Counseling （Secondary））
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	養護教諭養成課程：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員 （所属）	○吉中 淳（教育学部）・松田 侑子（教育学部）・小玉 有子（非常勤講師） ・長野 賢司（非常勤講師）・立原 聖子（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての 具体的到達目標	○生徒理解の基本的視点を理解すること（見通す力） ○生徒の自己実現・適応・メンタルヘルスを促す技法を修得すること（解決する力） ○理論に裏打ちされた実践力をつけること（解決する力）
(15)授業の概要	教育相談やカウンセリングの基礎となる考え方と人間関係の理論等を講じます。また、教育現場でそれぞれの技法を実践してきた非常勤講師3名が、自らの実践技法や事例理解の方法を伝えます。
(16)授業の内容 予定	○集中講義で実施します。 第1回：オリエンテーション（担当：吉中） 第2回：学校における教育相談の意義と課題（担当：吉中） 第3回：組織的教育相談の必要性（担当：吉中） 第4回：教育相談に関する基礎的理論（担当：松田） 第5回：いじめ・不登校と教育相談（担当：松田） 第6回：教育相談の基礎的概念（担当：長野） 第7回：子どもにとっての問題行動の意味（担当：長野） 第8回：学校教育におけるカウンセリングマインド（担当：長野） 第9回：学校不適応の理解と対応（担当：小玉） 第10回：年間計画作成、児童生徒・保護者面談の進め方（担当：小玉） 第11回：支援計画作成演習（事例検討）（担当：小

	玉) 第12回：チーム支援、学校内外の資源の活用 (担当：小玉) 第13回：子どもの発するシグナルの把握 (担当：立原) 第14回：カウンセリングの基礎的技法 (担当：立原) 第15回：傾聴スキルトレーニング (担当：立原) ※順番や内容を変更する場合があります。	
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	講義内容の復習と、演習体験の熟成に努めてください。	
(18)学問分野 1(主学問分野)	心理学関連	
(18)学問分野 2(副学問分野)	教育学関連	
(18)学問分野 3(副学問分野)	健康科学関連	
(19)実務経験のある 教員による授業科目 について	実務教員	
(20)教材・教科書	テキストは使用しません。適宜資料を配布します。	
(21)参考文献	石隈利紀 学校心理学—教師・スクールカウンセラー・保護者のチームによる心理教育的援助サービス— 2004年刊 誠信書房 上地安昭 学校教師のカウンセリング基本訓練—先生と生徒のコミュニケーション入門 1990年刊 北大路書房 桑原知子 教室で生かすカウンセリング・マインド—教師の立場でできるカウンセリングとは 1999年刊 日本評論社	
(22)成績評価方法 及び採点基準	評価は、学部教員と非常勤講師とが各回に提示する課題の成績を、担当時間数に応じ按分して総合的に行います(100%)。	
(23)授業形式	講義	
(24)授業形態・ 授業方法	土曜日に大教室で集中講義を行います。1日、3~4コマ。 1ヶ月に1回ないし2回程度。	
(25)留意点・予 備知識	非常勤講師のスケジュールに合わせて日程調整がなされます。調整結果はできる限り早く掲示しますので、掲示に注意してください。 例年、講義の日程や開始時刻を間違える学生が後を絶たないのでくれぐれも注意してください。	
(26)オフィスア ワー	吉中のオフィスアワー：木曜日12:00~13:00	
(27)Eメールア ドレス・HPアド レス	吉中のメールアドレス yosinaka@hirosaki-u.ac.jp	
(28)その他	特にありません。	

教育学部

(1)整理番号	112
(2)区分番号	112
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	幼児理解と教育相談 (Principles of Child Guidance)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（小・幼児サブコース）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 7・8時限
(10)担当教員（所属）	野寄 茉莉(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○幼い子どもの発達段階における特徴や配慮が必要な子どもの特徴について理解すること（見通す力） ○教育相談の基礎的な知識を学び、保育者が行う教育相談の役割と特徴について理解すること（見通す力） ○幼児教育の現場で起きるさまざまな問題に対処できる教育相談の技術を習得すること（解決する力）
(15)授業の概要	幼児教育の現場で起きるさまざまな問題に適切に対応するためには、幼児の発達をしっかりと理解していることが必要である。また、保育者には、子ども・保護者の双方に教育相談を行うことが求められる。本講義では、幼い子どもの発達の理解と教育相談の基本を併せて学ぶ。さらに、事例を検討するグループワークを通じて、保育者としての教育相談に必要とされる基礎的な力を養う。
(16)授業の内容予定	1. オリエンテーション 2. 保育者による教育相談 3. 教育相談の基本的な方法 4. 子ども理解の理論 5. 乳幼児期の子どもの発達理解 6. 発達障害と統合保育 7. 気になる子ども 8. グループワーク(1) 気になる子どもについての教育相談 9. 子どものSOSの理解と援助 10. グループワーク(2) 子どもどうしの関係性の問題についての教育相談 11. 保護者のSOSの理解と援助 12. グループワーク(3) 保護者がかかえる問題についての教育相談 13. 教育相談における専門家との連携 14. 保育者のメンタルヘルス 15. まとめ * 進捗状況に応じて、授業の内容は適宜変更する可能性がある。

(17)準備学習（予習・復習）等の内容	<p>幼児と触れ合う機会や自分自身の経験を通じて、子どもの言動の背景について深く考察するようにする。</p> <p>配布資料・参考文献に目を通し、授業内容をふり返る。</p> <p>* 予習・復習は、最低でも各1時間程度行う必要がある。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	心理学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特に指定しない
(21)参考文献	<p>青木久子・間藤 侑・河邊貴子「子ども理解とカウンセリングマインド——保育臨床の視点から」萌文書林, 2001</p> <p>小田 豊・秋田喜代美「子どもの理解と保育・教育相談」みらい, 2008</p>
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>①講義内容に関する最終レポート(45%)</p> <p>②グループワークへの取り組み(45%)</p> <p>③授業への参加態度(10%)</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	<p>講義・演習・グループワークを行う。</p> <p>ディスカッションへの積極的な参加を求める。</p>
(25)留意点・予備知識	<p>特段の事情なくグループワークに2/3回以上欠席した場合は、不合格とする。</p> <p>幼稚園教諭一種免許取得のための必修科目である。</p> <p>幼児教育サブコースの必修科目である。</p>
(26)オフィスアワー	木曜16:00-17:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	nozaki@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	113
(2)区分番号	113
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	学校生活体験実習I (Experience and Support Practice of School Life in Student and Teacher I)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所属)	教育実習部門教員(教育実践総合センター)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○学校・教員の仕事をトータルに理解すること
(15)授業の概要	附属小学校または附属中学校で行われている授業、学級活動、休み時間、特別活動等の観察、参加および支援
(16)授業の内容予定	1. 学校行事への参加・支援 2. 上級学生の教育実習の参観 3. 各自の提供できる技能をもって学校生活に参加すること 4. 現職教員の体験的な講話を聴くこと 5. 学生や教員との省察検討会
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	ガイダンスに参加し、必要な準備を行う。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教育実習手引および配布資料
(21)参考文献	必要に応じて指示する
(22)成績評価方法及び採点基準	以下の評価項目で総合的に評価する。 小学校では観察・参加、学校理解、児童理解、実習態度、記録その他の提出 中学校では観察・参加、学校理解、生徒理解、実習態度、記録その他の提出
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	附属学校での観察実習
	掲示を見落とさないこと。体調管理を心がけること。

(25)留意点・予備知識	
(26)オフィスアワー	実習担当教員
(27)Eメールアドレス・HP アドレス	実習担当教員
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	114
(2)区分番号	114
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	学校生活体験実習II (Experience and Support Practice of School Life in Student and Teacher II)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所属)	教育実習部門教員(教育実践総合センター)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○特別支援学校または幼稚園での教員の仕事をトータルに理解すること ○子どもの生活の様子を理解すること
(15)授業の概要	附属特別支援学校または附属幼稚園で行われている授業、学級活動、休み時間、特別活動等の観察、参加および支援
(16)授業の内容予定	1. 学校行事への参加・支援 2. 各自の提供できる技能をもって学校生活に参加すること 3. 現職教員の体験的な講話を聴くこと 4. 学生や教員との省察検討会
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	ガイダンスに参加し、必要な準備を行う。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教育実習手引および配布資料
(21)参考文献	必要に応じて指示する
(22)成績評価方法及び採点基準	以下の評価項目で総合的に評価する。 幼児または児童生徒の理解、教師理解、実習態度、記録その他の提出
(23)授業形式	実習
	附属学校園での観察実習

(24)授業形態・授業方法	
(25)留意点・予備知識	掲示を見落とさないこと。体調管理を心がけること。
(26)オフィスアワー	実習担当教員
(27)Eメールアドレス・HP アドレス	実習担当教員
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	115
(2)区分番号	115
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	教育実習（小学校）（Teaching Practicum on Elementary School）
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（小コース）・特支（小コース）：必修
(7)単位	4
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員（所属）	教育実習部門教員（教育実践総合センター）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○子どもの理解、専門的な指導技術の修得、教育理論の現場への適用と再構成および教員の仕事についての理解を深めること
(15)授業の概要	4～6月および10～12月の火曜日の午後に行う長期継続的なTuesday実習と、8～9月に行う集中実習からなり、附属小学校および教育学部で行う。
(16)授業の内容予定	Tuesday実習は4～6月および10～12月の火曜日の午後に、附属小学校で観察、授業、研究協議を繰り返す。 なお、4月の前期ガイダンスと6月の中間報告会、10月の後期ガイダンス、指導案作成と12月の全体報告会は教育学部で実施する。 集中実習は8～9月に附属小学校で以下の内容で行う。 1. 学校経営に関する実習 2. 学級経営に関する実習 3. 教育課程と指導計画に関する実習 4. 教科および道徳の指導に関する実習 5. 特別活動の指導に関する実習 6. 生徒指導に関する実習 7. その他の実習
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	ガイダンスに参加し、必要な準備を行う。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
	実務教員

(19)実務経験のある教員による授業科目について	
(20)教材・教科書	教育実習手引および配布資料
(21)参考文献	必要に応じて指示する
(22)成績評価方法及び採点基準	評価項目は以下の8つでそれぞれ5段階で評価し、これらを総合して評価する。 1. 研究的姿勢、2. 教材研究、3. 指導計画の立案、4. 指導の実際、5. 学級での活動、6. 児童との関わり、7. 勤務態度、8. 提出物のまとめ方
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	附属小学校での集中実習
(25)留意点・予備知識	掲示に注意すること。体調管理に注意すること。
(26)オフィスアワー	実習担当教員
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	実習担当教員
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	116
(2)区分番号	116
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	教育実習（小学校）（Teaching Practicum on Elementary School）
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員（所属）	教育実習部門教員（教育実践総合センター）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○子どもの理解、専門的な指導技術の修得、教育理論の現場への適用と再構成および教員の仕事についての理解を深めること
(15)授業の概要	附属小学校で行う集中実習
(16)授業の内容予定	以下の内容で行う。 1. 学校経営に関する実習 2. 学級経営に関する実習 3. 教育課程と指導計画に関する実習 4. 教科および道徳の指導に関する実習 5. 特別活動の指導に関する実習 6. 生徒指導に関する実習 7. その他の実習
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	ガイダンスに参加し、必要な準備を行う。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	教育実習手引および配布資料
(21)参考文献	必要に応じて指示する

(22)成績評価方法及び採点基準	評価項目は以下の8つでそれぞれ5段階で評価し、これらを総合して評価する。 1. 研究的姿勢、 2. 教材研究、 3. 指導計画の立案、 4. 指導の実際、 5. 学級での活動、 6. 児童との関わり、 7. 勤務態度、 8. 提出物のまとめ方
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	附属小学校での集中実習
(25)留意点・予備知識	掲示を見落とさないこと。体調管理を心がけること。
(26)オフィスアワー	実習担当教員
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	実習担当教員
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	117
(2)区分番号	117
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	教育実習（中学校）（Teaching Practicum on Junior High School）
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース）・特支（中コース）：必修
(7)単位	4
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員（所属）	教育実習部門教員（教育実践総合センター）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○子どもの理解、専門的な指導技術の修得、教育理論の現場への適用と再構成および教員の仕事についての理解を深めること
(15)授業の概要	4～7月および10～12月の火曜日の午後に行う長期継続的なTuesday実習と、8～9月に行う集中実習からなり、附属中学校で行う。
(16)授業の内容予定	Tuesday実習は4～7月および10～12月の火曜日の午後、附属中学校で観察、授業、研究協議を繰り返す。 集中実習は8～9月に附属中学校で以下の内容で行う。 1. 学校経営に関する実習 2. 学級経営に関する実習 3. 教育課程と指導計画に関する実習 4. 教科および道徳の指導に関する実習 5. 特別活動の指導に関する実習 6. 生徒指導に関する実習 7. その他の実習
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	ガイダンスに参加し、必要な準備を行う。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	教育実習手引および配布資料
	必要に応じて指示する

(21)参考文献	
(22)成績評価方法及び採点基準	評価項目は以下の8つでそれぞれ5段階で評価し、これらを総合して評価する。 1. 研究的姿勢、2. 教材研究、3. 指導計画の立案、4. 指導の実際、5. 学級での活動、6. 生徒との関わり、7. 勤務態度、8. 提出物のまとめ方
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	附属中学校での集中実習
(25)留意点・予備知識	掲示を見落とさないこと。体調管理を心がけること。
(26)オフィスアワー	実習担当教員
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	実習担当教員
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	118
(2)区分番号	118
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	教育実習（中学校）（Teaching Practicum on Junior High School）
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員（所属）	教育実習部門教員（教育実践総合センター）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○子どもの理解、専門的な指導技術の修得、教育理論の現場への適用と再構成および教員の仕事についての理解を深めること
(15)授業の概要	附属小学校で行う集中実習
(16)授業の内容予定	以下の内容で行う。 1. 学校経営に関する実習 2. 学級経営に関する実習 3. 教育課程と指導計画に関する実習 4. 教科および道徳の指導に関する実習 5. 特別活動の指導に関する実習 6. 生徒指導に関する実習 7. その他の実習
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	ガイダンスに参加し、必要な準備を行う。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	教育実習手引および配布資料
(21)参考文献	必要に応じて指示する
(22)成績評価方法及び採点基準	評価項目は以下の8つでそれぞれ5段階で評価し、これらを総合して評価する。 1. 研究的姿勢, 2. 教材研究, 3. 指導計画の立案, 4. 指導の実際, 5. 学級での活動, 6. 生徒との関わり, 7. 勤務態度, 8. 提出

(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	附属中学校での集中実習
(25)留意点・予備知識	掲示を見落とさないこと。体調管理を心がけること。
(26)オフィスアワー	実習担当教員
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	実習担当教員
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	119
(2)区分番号	119
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	教育実習（中学校・保健実習）（Teaching Practicum (Junior High School, Health Education)）
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	4
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員（所属）	○原 郁水（教育学部）・太田 誠耕（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○児童生徒及び教育現場について理解を深め、教育理論を現場に適用し再構成するとともに、教科「保健」の指導技術を向上させること（見通す力） ○教職への理解を深め、教職への適性を確認し、教員としての自覚、使命感を持つこと（解決する力）
(15)授業の概要	教職科目、専門科目、保健教育関連理論等の大学で学んだ理論、観察実習、参加・体験実習で得られた知見を基に、実習校での学習指導、生徒指導、学級経営等にあたる。 実習は附属中学校で1週間、母校・協力校で2週間、附属特別支援学校で1週間、計4週間行う。
(16)授業の内容予定	以下の内容で行う 1. 学校経営に関する実習 2. 学級経営に関する実習 3. 教育課程と指導計画に関する実習 4. 教科及び道徳の指導に関する実習 5. 特別活動の指導に関する実習 6. 生徒指導に関する実習 7. 学校保健, 学校安全, 学校給食, 図書館・視聴覚教育等その他の実習
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	1. 健康管理をしっかりと行い、体調を整えて実習に望むこと。 2. 感染症の予防のために必要な予防接種を受けること。 3. 規則正しい生活をし、遅刻や欠席がないようにする。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	健康科学関連
	-

(18)学問分野3(副学問分野)	
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教育実習手引、教科書「中学保健体育」他
(21)参考文献	「保健」指導案（テーマ別）作成に必要な雑誌や本など。
(22)成績評価方法及び採点基準	評価項目は以下の8つでそれぞれ5段階で評価し、これらを総合して評価する。 1. 研究的姿勢、2. 教材研究、3. 指導計画の立案、4. 指導の実際、5. 学級での活動、6. 生徒との関わり、7. 勤務態度、8. 提出
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	実習
(25)留意点・予備知識	出席と実習記録の提出は重視されるので留意すること。
(26)オフィスアワー	前期 水曜日 5・6時限 後期 木曜日 7・8時限
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ikumih@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	120
(2)区分番号	120
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	教育実習（幼稚園）（Teaching Practicum (Kindergarten)）
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員（所属）	教育実習部門教員（教育実践総合センター）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○子どもの理解、専門的な指導技術の修得、教育理論の現場への適用と再構成および教員の仕事についての理解を深めること
(15)授業の概要	附属幼稚園で行う集中実習
(16)授業の内容予定	<p>以下の内容を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級及び園全体の活動に関する実習 ・教育課程と指導計画に関する実習 ・環境構成に関する実習 ・幼児理解と援助に関する実習 ・附属幼稚園教員、学部教員との保育の振り返り <p>実習期間中に、配属クラスでの部分保育及び一日研究保育を実施する。</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	ガイダンスに参加し、必要な準備を行う。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教育実習手引および配布資料
	必要に応じて指示する

(21)参考文献	
(22)成績評価方法及び採点基準	評価項目は以下の8つでそれぞれ5段階で評価し、これらを総合して評価する。 1. 研究的姿勢、2. 環境構成、3. 指導計画の立案、4. 援助の実際、5. 幼児理解、6. 評価と反省、7. 勤務態度、8. 提出物のまとめ方
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	附属幼稚園での集中実習
(25)留意点・予備知識	掲示を見落とさないこと。体調管理を心がけること。
(26)オフィスアワー	実習担当教員
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	実習担当教員
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	121
(2)区分番号	121
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	教育実習（工業）（Teaching Practicum (Industry)）
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員（所属）	教育実習部門教員（教育実践総合センター）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○生徒の理解、専門的な指導技術の修得、教育理論の現場への適用と再構成および教員の仕事についての理解を深めること
(15)授業の概要	教職科目、専門科目等の大学で学んだ理論、観察実習、参加・体験実習で得られた知見を基に、実習校での学習指導、生徒指導、学級経営等に当る。
(16)授業の内容予定	1. 学校経営に関する実習 2. 学級経営に関する実習 3. 教育課程と指導計画に関する実習 4. 教科の指導に関する実習 5. 特別活動の指導に関する実習 6. 生徒指導に関する実習
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	ガイダンスに参加し、必要な準備を行う。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教育実習手引および配布資料
(21)参考文献	必要に応じて指示する

(22)成績評価方法及び採点基準	評価項目は以下の8つでそれぞれ5段階で評価し、これらを総合して評価する。 1. 研究的姿勢、 2. 教材研究、 3. 指導計画の立案、 4. 指導の実際、 5. 学級での活動、 6. 生徒との関わり、 7. 勤務態度、 8. 提出物のまとめ方
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	協力校(工業高校)での集中実習
(25)留意点・予備知識	掲示を見落とさないこと。体調管理を心がけること。
(26)オフィスアワー	実習担当教員
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	実習担当教員
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	122
(2)区分番号	122
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名 〔英文名〕	養護実習 (School Health Teaching Practice)
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	養護教諭養成課程：必修
(7)単位	4
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	4月～5月までの期間に、実習協力校(小学校)に訪問する。
(10)担当教員 (所属)	新谷 ますみ (教育学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度 (レベル)	レベル4
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○大学で学んだ養護活動の原理・原則を、実際の教育の現場の現実的な諸条件を考慮しつつ、実習での経験や学びを統合し、実地研究しながら、実践的指導力の基礎や教師としての望ましい態度を獲得すること
(15)授業の概要	協力校及び附属小学校にて、養護実習を行う。 また、その活動や考察したことを記録として実習日誌にまとめる。
(16)授業の内容 予定	各配属された実習校にて行う。 1) 学校教育活動全般について ①学校行事への参加 等 2) 学級配属実習 ①学活 ②給食 ③清掃 等 3) 養護活動実習 ①保健室経営 ②救急処置活動 ③健康診断に計画, 実施, 事後措置 ④保健指導 (集団, 個別) 等 詳細は、ガイダンスなどで周知する
(17)準備学習 (予習・復習) 等 の内容	これまでの講義・演習で学んだことを総合して復習しておくこと。 特に、健康診断の実施に携わることが多いので、「児童生徒健康診断マニュアル」を復習しておく。
(18)学問分野 1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	看護学関連

(18)学問分野 3(副学問分野)	心理学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	日本学校保健会「児童生徒健康診断マニュアル」 第一法規「学校保健実務必携」
(21)参考文献	事前指導の中で適宜紹介する。
(22)成績評価方法及び採点基準	弘前大学教育学部実習の規準(評価のしおり)に基づく。 実習への参加態度、実習日誌等について指導養護教諭による評価。
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	実習協力校(小学校)に出向き、養護教諭の指導を受けながら、講話・観察・参加・実習を行う。
(25)留意点・予備知識	指導養護教諭からの事前指導や各校の学校運営要綱等を読み、教育課程について周知しておく。
(26)オフィスアワー	前期:木曜日13:00~14:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	a_masumi1998@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	養護実習事前・事後指導を必ず履修する。 その後、教職実践演習(養護教諭)も必ず履修する。

教育学部

(1)整理番号	123
(2)区分番号	123
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	事前事後指導（小学校）（Guidance before Practicum, Guidance after Practicum (Elementary School)）
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（小コース）・特支（小コース）：必修
(7)単位	1
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員（所属）	教育実習部門教員（教育実践総合センター）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3～4
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○小学校の教育活動全体を理解すること ○各教科、道徳及び特別活動などの実践的授業展開に関して必要な基礎的予備的知識・技能を身につけること
(15)授業の概要	事前指導においては、附属小学校の教員を中心とした実習担当教員の講話と指導案の作成を行う。 事後指導においては、グループでの省察検討。
(16)授業の内容予定	事前指導（主に附属小学校の実習主任や実習部が担当） 第1回 教育実習総論 第2回 教育実習の基本事項、児童の発達特性と指導上の留意点 第3回 現場で望まれる教師とは、外国語活動について 第4回 教育実習オリエンテーション 第5回 国語科・社会科の授業について 第6回 算数科・理科の授業について 第7回 家庭科・道徳科の授業について 第8回 図工科・体育科の授業について 第9回 生活科・音楽科の授業について 第10回 指導案検討会1回目 第11回 指導案検討会2回目 事後指導 3年次主専攻教育実習の総括 （Tuesday実習全体報告会に引き続き開催）
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	実習資料、実習日誌、省察カードの整理。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	教育実習手引および配布資料 実習日誌、省察カード

(21)参考文献	必要に応じて指示する
(22)成績評価方法及び採点基準	学習態度、省察検討への参加で評価する。
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	講義と演習
(25)留意点・予備知識	掲示を見落とさないこと
(26)オフィスアワー	実習担当教員
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	実習担当教員
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	124
(2)区分番号	124
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	事前事後指導（小学校）（Guidance before Practicum, Guidance after Practicum (Elementary School)）
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員（所属）	教育実習部門教員（教育実践総合センター）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3～4
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○小学校の教育活動全体を理解すること ○各教科、道徳及び特別活動などの実践的授業展開に関して必要な基礎的予備的知識・技能を身につけること
(15)授業の概要	事前指導においては、附属小学校の教員を中心とした実習担当教員の講話と指導案の作成。 事後指導においては、グループでの省察検討。
(16)授業の内容予定	事前指導 第1回 教育実習の基本事項、児童の発達特性と指導上の留意点 第2回 現場で望まれる教師とは、外国語活動の授業について 第3回 国語科・社会科の授業について 第4回 算数科・理科の授業について 第5回 家庭科・道徳科の授業について 第6回 図工科・体育科の授業について 第7回 生活科・音楽科の授業について 第8回 教育実習オリエンテーション、指導案検討会 事後指導 副専攻教育実習の総括
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	実習資料、実習日誌、省察カードの整理。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教育実習手引および配布資料 実習日誌、省察カード
(21)参考文献	必要に応じて指示する
	学習態度、省察検討への参加で評価する。

(22)成績評価方法及び採点基準	
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	講義と演習
(25)留意点・予備知識	掲示を見落とさないこと
(26)オフィスアワー	実習担当教員
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	実習担当教員
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	125
(2)区分番号	125
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	事前事後指導（中学校）（Guidance before Practicum, Guidance after Practicum (Junior High School)）
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース）・特支（中コース）：必修
(7)単位	1
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員（所属）	教育実習部門教員（教育実践総合センター）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3～4
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○中学校の教育活動全体を理解すること ○各教科、道徳及び特別活動などの実践的授業展開に関して必要な基礎的予備的知識・技能を身につけること
(15)授業の概要	事前指導においては、実習担当教員の講話と指導案の作成。 事後指導においては、グループでの省察検討。
(16)授業の内容予定	事前指導においては、実習担当教員の講話と指導案の作成。 事後指導においては、グループでの省察検討。
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	実習資料、実習日誌、省察カードの整理。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	教育実習手引および配布資料 実習日誌、省察カード
(21)参考文献	必要に応じて指示する
(22)成績評価方法及び採点基準	学習態度、省察検討への参加で評価する。
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	講義と演習
(25)留意点・予備知識	掲示を見落とさないこと
(26)オフィスアワー	実習担当教員
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	実習担当教員

(28)その他

特になし

教育学部

(1)整理番号	126
(2)区分番号	126
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	事前事後指導（中学校）（Guidance before Practicum, Guidance after Practicum (Junior High School)）
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員（所属）	教育実習部門教員（教育実践総合センター）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3～4
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○中学校の教育活動全体を理解すること ○各教科、道徳及び特別活動などの実践的授業展開に関して必要な基礎的予備的知識・技能を身につけること
(15)授業の概要	事前指導においては、実習担当教員の講話と指導案の作成。 事後指導においては、グループでの省察検討。
(16)授業の内容予定	事前指導においては、実習担当教員の講話と指導案の作成。 事後指導においては、グループでの省察検討。
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	実習資料、実習日誌、省察カードの整理。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	教育実習手引および配布資料 実習日誌、省察カード
(21)参考文献	必要に応じて指示する。
(22)成績評価方法及び採点基準	学習態度、省察検討への参加で評価する。
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	講義と演習
(25)留意点・予備知識	掲示を見落とさないこと
(26)オフィスアワー	実習担当教員
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	実習担当教員

(28)その他

特になし

教育学部

(1)整理番号	127
(2)区分番号	127
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	事前事後指導（中学校・保健）（Guidance before Practicum, Guidance after Practicum (Junior High School, Health Education)）
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員（所属）	○原 郁水（教育学部）・太田 誠耕（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○実習校の基本的な教育活動について理解すること（見通す力） ○各教科、道徳及び特別活動などの実践的授業展開に必要な基礎的予備的知識・技能を身につけ、改善することができこと（解決する力）
(15)授業の概要	事前指導では、大学及び附属中学校でのオリエンテーション、及び指導案を事前に作成等を通して、実習に備える。 事後指導は実習終了後（附属中学校、協力校、特別支援学校）にそれぞれの実習についての発表と討議を行う。
(16)授業の内容予定	<p>【大学での事前指導】（7回程度）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習総論 2. 中学校教育と学校経営 3. 特別指導 4. 学校保健活動 5. 生徒指導 6. 中学校の教育課程と校務分掌 7. 道徳指導 8. 指導案について 9. その他 <p>【附属中学校でのオリエンテーション】（2回程度）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童生徒の実態をや中学校活動全体の基本的理解。 <p>【附属特別支援学校でのオリエンテーション】（2回程度）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童生徒の実態をや特別支援学校の活動の基本的理解。 <p>【母校、協力校（高校を含む）でのオリエンテーション】 実習校による</p> <p>【大学での事後指導】（3回程度）</p> <p>3回の反省ゼミナール毎にレポートを作成し全員分を綴じた資料を基に発表し討議を行う。</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	<p>【予習】 実習に行く準備をそれぞれ進めること</p> <p>【復習】 学んだこと等について整理すること</p>
	教育学関連

(18)学問分野1(主学問分野)	
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教育実習手引、教科書「中学校・高等学校保健体育」
(21)参考文献	指導案作成に必要なテーマ別の本、資料を各自探す。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への参加度（出席等）と提出物を中心に評価されます。
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	講義、演習
(25)留意点・予備知識	「教育実習の手引き」を十分に読んでおくこと。
(26)オフィスアワー	前期 水曜日 5・6時限 後期 木曜日 7・8時限
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ikumih@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	128
(2)区分番号	128
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	事前事後指導（幼稚園）（Guidance before Practicum, Guidance after Practicum (Kindergarten)）
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員（所属）	教育実習部門教員（教育実践総合センター）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3～4
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○幼稚園の教育活動全体を理解すること ○実践的授業展開に関して必要な基礎的予備的知識・技能を身につけること
(15)授業の概要	事前指導においては、実習担当教員の講話と指導案の作成。 事後指導においては、グループでの省察検討。
(16)授業の内容予定	事前指導においては、実習担当教員の講話と指導案の作成。 事後指導においては、グループでの省察検討。
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	実習資料、実習日誌、省察カードの整理。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教育実習手引および配布資料 実習日誌、省察カード
(21)参考文献	必要に応じて指示する。
(22)成績評価方法及び採点基準	学習態度、省察検討への参加で評価する。
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	講義と演習
(25)留意点・予備知識	掲示を見落とさないこと。
(26)オフィスアワー	実習担当教員
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	実習担当教員

(28)その他

特になし

教育学部

(1)整理番号	129
(2)区分番号	129
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	事前事後指導（工業）（Guidance before Practicum, Guidance after Practicum (Industry)）
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員（所属）	教育実習部門教員（教育実践総合センター）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3～4
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○実習校の教育活動全体を理解すること ○各教科、道徳及び特別活動などの実践的授業展開に関して必要な基礎的予備的知識・技能を身につけること
(15)授業の概要	事前指導においては、実習担当教員の講話と指導案の作成。 事後指導においては、グループでの省察検討。
(16)授業の内容予定	事前指導においては、実習担当教員の講話と指導案の作成。 事後指導においては、グループでの省察検討。
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	実習資料、実習日誌、省察カードの整理。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教育実習手引および配布資料 実習日誌、省察カード
(21)参考文献	必要に応じて指示する。
(22)成績評価方法及び採点基準	学習態度、省察検討への参加で評価する。
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	講義と演習
(25)留意点・予備知識	掲示を見落とさないこと。
(26)オフィスアワー	実習担当教員
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	実習担当教員

(28)その他

特になし

教育学部

(1)整理番号	130
(2)区分番号	130
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名 〔英文名〕	事前事後指導（養護実習）（Guidance before Practicum, Guidance after Practicum (School Nurse Teacher)）
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	養護教諭養成課程：必修
(7)単位	1
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員 (所属)	○新谷 ますみ（教育学部）・太田 誠耕（教育学部）
(11)地域志向 科目	地域志向科目
(12)難易度 (レベル)	レベル4
(13)対応する CP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業とし ての具体的到達 目標	(1)学校教育に関して ○実習校の特性を踏まえてどのような教育計画で、学校保健活動がどのように展開されているかを説明できること ○教育目標を達成するための教職員の連携を例示できること ○学校保健組織活動について説明できること
(15)授業の概 要	実習生が指導養護教諭のもとで具体的な教育活動を経験し、大学の授業では経験することのできない養護活動の実際について学ぶ。実際の教育の現場の現実的な諸条件を考慮しつつ、大学で学んだ養護活動の原理・原則を実習での経験や学びと統合し、実地研究を行う活動である。 この実習を通して、実践的指導力の基礎や教師としての望ましい態度を獲得できるようにする。
(16)授業の内 容予定	(1)学校教育の理解・・・学校の特性、教育計画、組織などを含む学校教育全般について管理職より講話 (2)養護活動実習・・・健康診断計画・実施、日常の養護活動、保健室経営、健康課題の把握と対応、児童保健委員会活動などについて指導養護教諭より助言指導を受けながら活動する。 (3)学級配属実習・・・学級担任の役割、学級経営における保健管理・保健指導の理解、学級担任の助言指導を受けながら健康観察や給食・清掃・保健指導に携わる。
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	これまでの学びのうち、特に健康診断方法、救急処置、保健教育について予習しておく。
(18)学問分野 1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	看護学関連

(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験 のある教員によ る授業科目につ いて	実務教員
(20)教材・教 科書	学校保健実務必携(第一法規)
(21)参考文献	授業の中で適宜紹介
(22)成績評価 方法及び採点基 準	事前指導・・・実習への明確な課題意識をもち、目標を設定する目標シートの作成(30%) 事後指導・・・実習中に感じたこと学んだことを資料として作成し、それに基づいて省察したレポート作成(30%) 事前・事後を通じて、養護活動の中にある養護の原理を踏まえて省察し、討議に積極的に参加していること。(40%)
(23)授業形式	実習
(24)授業形 態・授業方法	グループワーク、ディスカッション、発表 外部の非常勤講師(養護教諭経験者)を招いて、助言を得る
(25)留意点・ 予備知識	これまでの養護学他専門科目の知識をもっていることが必要なので、復習してから臨むこと。
(26)オフィス アワー	前期:木曜日13:00~14:00 後期:金曜日10:00~11:00
(27)Eメールア ドレス・HPア ドレス	a_masumi1998@hirasaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	131
(2)区分番号	131
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	研究教育実習（小学校）（Teaching Practicum in Elementary Education）
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員（所属）	教育実習部門教員（教育実践総合センター）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル4
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	○子どもの理解、専門的な指導技術の修得、教育理論の現場への適用と再構成および教員の仕事についての理解を深めること
(15)授業の概要	実習校の指導教員の指導のもと、観察実習、参加実習を経て、教育活動を展開する。
(16)授業の内容予定	概ね以下の内容で、具体的には各実習校で計画する。 1. 学校経営に関する実習 2. 学級経営に関する実習 3. 教育課程と指導計画に関する実習 4. 教科および道徳の指導に関する実習 5. 特別活動の指導に関する実習 6. 生徒指導に関する実習 7. その他の実習
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	ガイダンスに参加し、必要な準備を行う。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	教育実習手引および配布資料
(21)参考文献	必要に応じて指示する。

(22)成績評価方法及び採点基準	評価項目は以下の8つでそれぞれ5段階で評価し、これらを総合して評価する。 1. 研究的姿勢、 2. 教材研究、 3. 指導計画の立案、 4. 指導の実際、 5. 学級での活動、 6. 児童との関わり、 7. 勤務態度、 8. 提出物のまとめ方
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	協力校での集中実習
(25)留意点・予備知識	掲示を見落とさないこと。体調管理を心がけること。
(26)オフィスアワー	実習担当教員
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	実習担当教員
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	132
(2)区分番号	132
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	研究教育実習（中学校）（Teaching Practicum in Secondary Education）
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員（所属）	教育実習部門教員（教育実践総合センター）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル4
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○子どもの理解、専門的な指導技術の修得、教育理論の現場への適用と再構成および教員の仕事についての理解を深めること
(15)授業の概要	実習校の指導教員の指導のもと、観察実習、参加実習を経て、教育活動を展開する。
(16)授業の内容予定	概ね以下の内容で、具体的には各実習校で計画する。 1. 学校経営に関する実習 2. 学級経営に関する実習 3. 教育課程と指導計画に関する実習 4. 教科および道徳の指導に関する実習 5. 特別活動の指導に関する実習 6. 生徒指導に関する実習 7. その他の実習
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	ガイダンスに参加し、必要な準備を行う。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	教育実習手引および配布資料
(21)参考文献	必要に応じて指示する。

(22)成績評価方法及び採点基準	評価項目は以下の8つでそれぞれ5段階で評価し、これらを総合して評価する。 1. 研究的姿勢、 2. 教材研究、 3. 指導計画の立案、 4. 指導の実際、 5. 学級での活動、 6. 生徒との関わり、 7. 勤務態度、 8. 提出物のまとめ方
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	協力校での集中実習
(25)留意点・予備知識	掲示を見落とさないこと。体調管理を心がけること。
(26)オフィスアワー	実習担当教員
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	実習担当教員
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	133
(2)区分番号	133
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	学校教育支援実習 (Practicum in Educational Support)
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	選択
(7)単位	4
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所属)	教育実習部門教員(教育実践総合センター)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル4
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	○子どもの理解、専門的な指導技術の修得、教育理論の現場への適用と再構成および教員の仕事についての理解を深めること
(15)授業の概要	1年間(5~12月)を通して、協力校で学校教育活動支援を行う。
(16)授業の内容予定	1. 学習指導、学級指導、学校・学年行事の指導などの教育支援活動 2. 軽度発達障害児への支援 3. 不登校傾向の児童生徒への支援 4. 授業準備・採点補助 5. その他
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	ガイダンスに参加し、必要な準備を行う。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教育実習手引および配布資料
(21)参考文献	必要に応じて指示する。
(22)成績評価方法及び採点基準	実習校からの聞き取りも考慮し、以下の評価項目で総合的に評価する。 1. 活動回数(20日以上) 2. 活動への取り組み 3. 省察カード

	4. 省察検討会
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	協力校で行う通年20日間の実習
(25)留意点・予備知識	掲示に注意すること。体調管理に注意すること。
(26)オフィスアワー	実習担当教員
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	実習担当教員
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	134
(2)区分番号	134
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	学校教育支援実習（養護教諭）（Practicum in Educational Support for School Nursing）
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	10月～2月までの間に養護実習で行った学校で行う。日時については各校の指導養護教諭と打ち合わせの上決定する。
(10)担当教員（所属）	○新谷 ますみ（教育学部），太田 誠耕（教育学部）
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度（レベル）	レベル4
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	<p>養護実習後、更に子供の学校生活全体、学校の教育方針や組織運営について理解を深め、養護教諭と共に保健室対応に携わりながら学ぶこと。</p> <p>○子供を継続的に観察し、健康の保持増進の力を身に付けさせる保健指導ができること</p> <p>○保健室での実践的な養護活動を通して、養護教諭と児童生徒の適切な関わりを理解できること</p> <p>○養護教諭と他の教職員や関連機関との連携の意義を理解し、説明できること</p>
(15)授業の概要	養護実習の内容から発展させた養護活動を行い、その後、自身の活動の省察会を行う。
(16)授業の内容予定	10月～2月までの間に10回程度実習校を訪問して活動する。省察会は、実習に行った学生で課題を設定し、討議を行う。省察レポートを作成する。
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	養護実習で作成したポートフォリオを使用する。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	看護学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	心理学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	養護学関連授業で使用したの図書や資料を適宜省察会で紹介する。

(21)参考文献	養護学関連授業で使用したの図書を適宜省察会で紹介する。
(22)成績評価方法及び採点基準	実習校での活動40%、省察レポート40%、省察会の討議・発表20%
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	実習協力校(小学校)での実習各自、省察レポート作成し、それをもとにグループワーク、ディスカッションなどの演習を行う。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	後期:金曜日10:00~11:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	a_masumi1998@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	135
(2)区分番号	135
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名 〔英文名〕	教職実践演習（基礎演習・教諭）（Seminar for Teaching Practice, Basic）
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員 （所属）	附属教育実践総合センター教職実践演習部門教員（教育学部） 角野 君代（教育学部・教職キャリア支援コーディネーター） 齋藤 厚（教育学部・教職キャリア支援コーディネーター） 山科 實（教育学部・教職キャリア支援コーディネーター） 山田 真寿美（教育学部・教職キャリア支援コーディネーター）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○3年次教育実習の経験等を踏まえ、自らの履修履歴・課題を確認しながら、自らの教員像を明らかにすること
(15)授業の概要	3年次教育実習の事後指導を踏まえ、自己の履修履歴・課題を確認し、4年次に向けて教職論、教職キャリア形成の基礎づくりを行うことを目的としている。またこの科目は4年前期の「教職実践演習」、4年後期の「教職実践発展演習」へと繋がるものである。
(16)授業の内容 予定	第1・2回 自分を見つめる（教職観の再考）（角野君代・齋藤厚・山科實・山田真寿美・教職実践演習部門教員） 第3・4回 自分と向き合う（教員としての資質能力の考察）（角野君代・齋藤厚・山科實・山田真寿美・教職実践演習部門教員） 第5・6回 自分を関わらせる（現代的教育課題の探究）（角野君代・齋藤厚・山科實・山田真寿美・教職実践演習部門教員） 第7・8回 自分を表す（目指す教員像の考察）（角野君代・齋藤厚・山科實・山田真寿美・教職実践演習部門教員）
(17)準備学習 （予習・復習） 等の内容	・事前学習を前提に演習をおこなう。 ・各回の省察のためのWS作成を求める。
(18)学問分野 1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-

(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	『受講の手引き』（初回授業時配布）
(21)参考文献	別途指示する。
(22)成績評価方法及び採点基準	以下にもとづき最終的な成績評価を行う予定。 ・演習への参加（含む事前WS）：40% ・省察WS：40% ・ポートフォリオ：20%
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	小グループによる演習を中心とする。
(25)留意点・予備知識	ガイダンスを12月下旬に開催する予定。詳細については、各自掲示板などにて確認されたい。
(26)オフィスアワー	木曜日 3・4時限
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ikumih%hirosaki-u. ac. jp（%を@に変更）
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	136
(2)区分番号	136
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名 〔英文名〕	教職実践演習（教諭）（Seminar for Teaching Practice）
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	学校教育教員養成課程：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員 （所属）	附属教育実践総合センター教職実践演習部門教員 教育学部実践教授（附属小学校長・附属中学校長・附属特別支援学校長・附属幼稚園副園長）
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 （レベル）	レベル3～4
(13)対応する CP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業とし ての具体的到 達目標	○教員として最小限必要な「学習指導」「生活指導」「学級（HR）経営等」 「組織・協働」等に関する知識・技能の習得を図ること ○教員になる上での自己課題を明確にし、自己目標を設定して取り組み、不足 する知識・技能を補完・向上すること
(15)授業の概 要	本科目は、教員免許状取得希望者に対して、免許授与に値する教員としての最 小限必要な知識・技能の習得を確認・補完・向上することを目的とする。ま た、3年次教育実習を踏まえて、これまでの自らの学びの到達点と課題を明ら かにし、教員としての専門性向上を図っていく「教員発展科目」の一つとして 位置づくものである。
(16)授業の内 容予定	第1回 ガイダンス（教職実践演習部門教員） 第2・3回 めざす教員像（教職実践演習部門教員） 第4・5回 学級経営（実践教授（附属小学校長）） 第6・7回 学習指導（実践教授（附属幼稚園副園長）） 第8・9・10回 教科・領域指導（教職実践演習部門教員） 第11・12回 生徒指導（実践教授（附属中学校長）） 第13・14回 組織協働（実践教授（附属特別支援学校長）） 第15回 自己点検・まとめ（教職実践演習部門教員）
(17)準備学習 （予習・復 習）等の内容	・各回、演習のための事前WSの作成を求める。 ・各回の省察のためのWS作成を求める。
(18)学問分野 1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-

(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験 のある教員に よる授業科目 について	実務教員
(20)教材・教 科書	初回に「受講の手引き」を配布する。また必要に応じプリントなどを配布する。
(21)参考文献	適宜指示する。
(22)成績評価 方法及び採点 基準	下記により最終的な成績評価をおこなう予定。 ・演習への参加：40% ・小論文：45% ・ポートフォリオ：15%
(23)授業形式	演習
(24)授業形 態・授業方法	講義－演習－全体会という形式でおこなう。ただし、学生主体による演習が中心である。
(25)留意点・ 予備知識	日程については、ガイダンス時に提示する。
(26)オフィス アワー	火 昼休み・3コマ
(27)Eメール アドレス・HP アドレス	hirof%hirosaki-u.ac.jp (%を@に変更)
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	137
(2)区分番号	137
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名 〔英文名〕	教職実践演習（発展演習・教諭）（Seminar for Teaching Practice, Advance）
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員 （所属）	附属教育実践総合センター教職実践演習部門教員（教育学部） 古川 郁生（教育学研究科） 敦川 真樹（教育学研究科） 成田 頼昭（教育学研究科） 吉原 寛（教育学研究科） 中谷 保美（教育学研究科） 教育学部実践教授（教育学部）
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 （レベル）	レベル4
(13)対応する CP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業とし ての具体的到達 目標	○カリキュラムマネジメント、いじめ・不登校、通常学級における特別支援教育、保護者対応・リスクマネジメントなどの現代的教育課題について理解を深めること ○教職実践演習、研究教育実習、後期学校サポーター実習を踏まえて、また4月からの教職生活を視野に入れて、課題を設定し、それを追究すること ○4年次全体を通じた教員としての専門性の到達点と課題を明らかにすること
(15)授業の概 要	本科目は、3年次教育実習を踏まえて、これまでの自らの学びの到達点と課題を明らかにし、教員としての専門性向上を図っていく「教員発展科目」の一つとして位置づくものである。「教職実践基礎演習」「教職実践演習」を踏まえて、教員としての専門性をさらなる向上を図っていく機会とする。また教職大学院との接続科目としての位置づけをもつものでもある。
(16)授業の内 容予定	第1回 課題追究のテーマ設定（教職実践演習部門教員） 第2・3回 カリキュラムマネジメント（成田頼昭） 第4・5回 いじめ・不登校問題（吉原寛） 第6・7回 通常学級における特別支援教育（敦川真樹） 第8・9回 学級経営（古川郁生） 第10・11回 保護者対応・リスクマネジメント（中谷保美） 第12～14回 課題追究発表（実践教授） 第15回 自己課題（教職実践演習部門教員）
(17)準備学習 （予習・復習） 等の内容	・事前学習については適宜指示する。 ・各回の省察のためのWS作成を求める。
	教育学関連

(18)学問分野 1(主学問分野)	
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験 のある教員によ る授業科目につ いて	実務教員
(20)教材・教 科書	プリントなどは適宜配布する。
(21)参考文献	適宜指示する。
(22)成績評価 方法及び採点基 準	下記を合算して最終的な成績評価をおこなう。 ・演習への参加度：40% ・ポートフォリオ：60% (省察シート、最終レポートを含む)
(23)授業形式	演習
(24)授業形 態・授業方法	・小グループによる演習を基本とする。
(25)留意点・ 予備知識	・日程については、教職実践演習において案内する。 ・学校サポーター実習履修生は受講することが望ましい。
(26)オフィス アワー	木曜日 3・4時限
(27)Eメールア ドレス・HPア ドレス	ikumih%hirosaki-u. ac. jp (%を@に変更)
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	138
(2)区分番号	138
(3)科目種別	教育学部教職科目
(4)授業科目名 〔英文名〕	教職実践演習（養護教諭）（Seminar for Teaching Practice (School Nurse Teacher)）
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	養護教諭養成課程：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員 （所属）	○新谷 ますみ（教育学部）・太田 誠耕（教育学部）・実地指導講師
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度（レベル）	レベル3～4
(13)対応するC P/D/P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○養護教諭（教員）としての使命や職務についての基本的な理解に基づき、自発的、積極的に自己の職責を果たそうとする資質・能力を身につけること ○養護教諭として必要な「保健室来室者への対応」「保健指導」「保健室経営」等の養護活動について、専門的知識と技能を統合し、有機的に活用した養護実践力を身につけること ○養護教諭を目指す上での自己の課題を明確にし、自己目標を設定して取り組み、その解決に向けて必要な知識・技能を身につけること
(15)授業の概要	履修履歴（これまでに学んだ知識や技能）、養護実習の事後指導を踏まえ、「具体的な対応や課題解決」について、役割演技、K・J法を用いて討議し、検討しながら学習する演習形式で学ぶ。 ①養護実践に必要な考え方（養護教諭観・子ども観・健康観・教育観）の基礎を培う。 ②実践の展開のあり方を身につける。 ③自己の具体的な学習課題を発見し、解決策をはかる。 ・具体的なテーマの例 【健康課題解決のための保健指導】（健康課題の把握、解決に向けた保健指導の立案、実施、評価） 【加害、被害が生じた救急処置活動など、保護者の理解を特に必要とする養護活動】（教員との共通認識を図り、協力、連携した職務遂行・保護者との良好な人間関係づくり、コミュニケーション能力） 【友人関係でトラブルをおこし身体症状を起こすなど、特に児童生徒同士の関係性における課題を抱えた健康相談活動】（子どもとの信頼関係、子ども同士の関係性の把握、発達段階を考慮した対応、保健室経営） 【日常における複数の来室者への同時進行による対応など、多様な保健来訪者への対応】 ●テーマに沿った検討事例は、養護実習で体験した事例や、仮想に設定した事例を活用し、さらに、仮想の学校（学校規模・教職員数・学校や地域の実態・児童生徒の健康課題など）も想定して行う。 ●2～13回は、テーマ毎に、3時間分を連続して集中授業で行うこともある。主な流れは（1）テーマに関連する事例について役割演技・観察（記

	録)を行う。(2)その後、事例検討・討論を行い学習を深める。(3)自己の課題と目標を明確にする(討論、K・J法、ポートフォリオ)。
(16)授業の内容 予定	<p>第1回：ガイダンス 授業の到達目標や学習内容を理解し、これまでの学びや養護実習、養護学概論や養護実習事前指導で確認した「理想とする養護教諭像」を振り返り、現在の自己の課題・理想とする養護教諭像・目標を設定する)</p> <p>第2回【健康課題解決のための保健指導～実態の把握と情報収集～】</p> <p>第3回【健康課題解決のための保健指導～ニーズの共通化と指導目標の設定～】</p> <p>第4回【健康課題解決のための保健指導～指導展開とその評価～】</p> <p>第5回【保護者の理解を必要とする養護活動～課題解決のための協働とは何か～】</p> <p>第6回【保護者の理解を必要とする養護活動～保護者のニーズの把握とその方法～】</p> <p>第7回【保護者の理解を特に必要とする養護活動～保護者との連携で行う養護活動の展開とその評価～】</p> <p>第8回【特に児童生徒同士の関係性における課題を抱えた健康相談活動～児童生徒の人間関係構築の能力とその支援～】</p> <p>第9回【特に児童生徒同士の関係性における課題を抱えた健康相談活動～児童生徒の発達段階を考慮した関係構築の支援～】</p> <p>第10回【特に児童生徒同士の関係性における課題を抱えた健康相談活動～児童生徒相互の人間関係構築への働きかけ～】</p> <p>第11回【多様な保健室来訪者への対応～何となく来室への対応～】</p> <p>第12回【多様な保健室来訪者への対応～発達に課題を有する児童生徒の実態把握～】</p> <p>第13回【多様な保健室来訪者への対応～発達に課題を有する児童生徒への働きかけ～】</p> <p>第14回【自己の課題と目標についての自己評価と、課題の確認、解決策】</p> <p>第15回【まとめ】自己の課題解決策のレポートの発表を通して、その定着を深めるとともに、他者の発表から学ぶ。</p>
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	養護実習・及び養護実習事後指導の学習内容の復習をしておく。
(18)学問分野 1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	看護学関連
(19)実務経験のある 教員による 授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	必要に応じて、適宜プリントを配布
(21)参考文献	授業の中で適宜紹介
(22)成績評価方法 及び採点基準	<p>①養護教諭(教員)としての使命や職務についての基本的な理解に基づき、自発的、積極的に自己の職責を果たそうとする資質・能力について、観察・ポートフォリオから総合的に評価。</p> <p>②養護教諭として必要な養護実践力及び自己目標の設定、解決に向けての取り組みについて、取り組み状況、レポート、ポートフォリオ等で総合的に評価。</p>
(23)授業形式	演習

(24)授業形態・ 授業方法	討議やロールプレイを通じた課題解決学習を行なう 現場の養護教諭の先生をまじえての討議も行なう
(25)留意点・予 備知識	養護実習を含めた大学におけるこれまでの学びをもとに、特に主体的に学ぶ 授業であるので、自己の課題を明確に出来るよう心がけること
(26)オフィスア ワー	各教員の単独授業を参照
(27)Eメールア ドレス・HPアド レス	各教員の単独授業を参照
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	139
(2)区分番号	139
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	小学校国語基礎（書写を含む）（Fundamentals of Japanese Language and Literature for Elementary School Teachers (Included Calligraphy)）
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等（小コース）・特支（小コース）：必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日 7・8時限
(10)担当教員（所属）	○鈴木 愛理（教育学部）・田中 拓郎（教育学部）・山田 史生（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル1
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○国語教育で扱う内容について幅広い知見を得ることにより、国語教育について考えることができるようになること（解決する力）
(15)授業の概要	国語教育学を通して国語教育の意義について考究していきます。
(16)授業の内容予定	第1回 オリエンテーション 第2～5回 国語教育研究と国語教育（鈴木） 第6～10回 古典（漢文学）と国語教育（山田） 第11～15回 国語教育現場と国語教育（田中） ※オムニバス形式の授業です。 ※順番や内容などは、都合により変更される場合があります。
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	担当教員から、授業などを通じて適宜指示をします。 毎回の授業で取り上げられることについて、よく理解し、整理するようにしてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	文学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	平成29年版『小学校学習指導要領解説 国語編』
(21)参考文献	授業で適宜紹介します。

(22)成績評価方法及び採点基準	各教員の課す課題（それぞれ評価全体の3分の1）の評価を合算して成績評価を行います。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	講義に討議を加えます。
(25)留意点・予備知識	自分が受けてきた国語（科）教育や、その中で抱いた疑問・違和感などについて、よく思い出しておくといよいでしょう。
(26)オフィスアワー	水曜日 13:00～14:00（鈴木）
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	esuzuki@hirosaki-u.ac.jp （鈴木）
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	140
(2)区分番号	140
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	小学校国語講義 (Lecture of Japanese Language and Literature for Elementary School Teachers)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（小コース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日 5・6時限
(10)担当教員（所属）	○鈴木 愛理（教育学部）・田中 拓郎（教育学部）・吉田 比呂子（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2～3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○国語の授業における方法や内容についての理解や思考を深め、国語の授業について具体的に考えることができること（解決する力）
(15)授業の概要	・教材（作品）や授業方法等を提示し、その可能性について具体的に考えます。
(16)授業の内容予定	第1回 ガイダンス 第2～5回 国語教育学の立場から—文学を中心に—（鈴木） 第6～10回 古典文学の立場から（吉田） 第11～15回 国語教育学の立場から—説明文を中心に—（田中） ※オムニバス形式の授業です。 ※内容や順番は、都合により変更される場合があります。
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	担当教員から、授業などを通じて適宜指示をします。 毎回の授業で取り上げられることについて、よく理解し、整理するようにしてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	文学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	授業で適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	各教員の課す課題（それぞれ評価全体の3分の1）を合算して成績評価を行います。

(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式に必要な応じて討議を加えます。
(25)留意点・予備知識	国語教育における課題意識を具体的にもっておくこと。
(26)オフィスアワー	水曜日 13:00～14:00 (鈴木)
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	esuzuki@hirosaki-u.ac.jp (鈴木)
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	141
(2)区分番号	141
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	小学校社会基礎 (Fundamentals of Social Studies for Elementary School Teachers)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等 (小コース) ・ 特支 (小コース) : 必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 3・4時限
(10)担当教員 (所属)	○小岩 直人 (教育学部) ・ 高瀬 雅弘 (教育学部) ・ 大谷 伸治 (教育学部) ・ 蒔田 純 (教育学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての 具体的到達目標	○小学校社会科のカリキュラム編成の特質をふまえて、教科内容への理解を深めること (見通す力) ○人文・社会諸科学の知見から、授業づくりに求められる社会認識の基礎と基本を身につけること (見通す力)
(15)授業の概要	本授業では、小学校社会科のカリキュラム編成の特質に対する十分な理解の上に立って、歴史学、地理学、憲法学、社会学、政治学のそれぞれの知見から、教科内容への理解を深め、小学校社会科の授業づくりに求められる社会認識の基礎と基本を身につけていきます。
(16)授業の内容 予定	第1回：オリエンテーション 第2回：歴史学の視点から小学校社会科の内容を捉える① 原始・古代史学習の内容と方法 (大谷) 第3回：歴史学の視点から小学校社会科の内容を捉える② 中近世史学習の内容と方法 (大谷) 第4回：歴史学の視点から小学校社会科の内容を捉える③ 近現代史学習の内容と方法 (大谷) 第5回：地理学の視点から小学校社会科の内容を捉える① 身近な地形環境の学び方 (小岩) 第6回：地理学の視点から小学校社会科の内容を捉える② 身近な気候環境の学び方 (小岩) 第7回：地理学の視点から小学校社会科の内容を捉える③ 地理学的な視点を活かした地域学習 (小岩) 第8回：憲法学の視点から小学校社会科の内容を捉える 憲法 (史) 学習の内容と方法 (大谷) 第9回：社会学の視点から小学校社会科の内容を捉える① データを活用した社会の読み方 (高瀬) 第10回：社会学の視点から小学校社会科の内容を捉える② メディア社会の捉え方 (高瀬) 第11回：社会学の視点から小学校社会科の内容を捉える③ メディアリテラシーの構築 (高瀬) 第12回：政治学の視点から小学校社会科の内容を捉える① 議院内閣制と大

	<p>統領制（蒔田） 第13回：政治学の視点から小学校社会科の内容を捉える② 多数代表と比例代表（蒔田） 第14回：政治学の視点から小学校社会科の内容を捉える③ 政党・政治家と世論・利益集団（蒔田） 第15回：理解度の確認と授業内容の総括</p>
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	あらかじめ小学校社会科教科書の該当分野に目を通しておくこと。学習内容と小学校学習指導要領とを対比すること。
(18)学問分野 1(主学問分野)	歴史学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	地理学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	政治学関連
(19)実務経験のある 教員による 授業科目について	-
(20)教材・教科書	特定の教科書は用いず、各授業者作成の資料をその都度配付します。憲法学パートの中間レポート課題図書として、高見勝利編『あたらしい憲法のはなし 他二篇』（岩波現代文庫、2013年）を指定します。
(21)参考文献	文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』日本文教出版、2018年。
(22)成績評価方法 及び採点基準	4人の担当教員すべてが出題する理解度の確認（期末評価）に基づき行われます（25点×4人）。この期末評価には、小課題の提出等の平常評価も加味されます。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・ 授業方法	講義形式を基本としますが、一部グループ討論といった演習形式を含みます。
(25)留意点・予 備知識	・評価は4人の担当教員の採点の合算によって行われるので、すべての内容をきちんと学習・理解するよう努めてください。
(26)オフィスア ワー	第1回オリエンテーションの際に提示します。
(27)Eメールア ドレス・HPアド レス	第1回オリエンテーションの際に提示します。
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	142
(2)区分番号	142
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	小学校社会講義 (Lecture of Social Studies for Elementary School Teachers)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（小コース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日 5・6時限
(10)担当教員 (所属)	○小岩 直人（教育学部）・高瀬 雅弘（教育学部）・大谷 伸治（教育学部）・蒔田 純（教育学部）
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての 具体的到達目標	○小学校社会科の授業づくりのための、実践的な側面からの取り組みを重視した人文・社会諸分野の基礎的知識を身につけること（見通す力） ○地域社会・地域教材との関わりを意識した小学校社会科授業づくりに向けた理解を深めること（見通す力）
(15)授業の概要	本授業では、歴史学、地理学、社会学、政治学の各分野において、小学校社会科の授業づくりに求められる実践的な側面からの基礎的知識を身につけ、発展的な取り組みに繋げていきます。授業は各分野ごとに講義と演習・フィールドワークから構成されます。
(16)授業の内容 予定	第1回：オリエンテーション 第2回：小学校社会科と歴史学（1）講義 戦争史学習の内容と方法（大谷） 第3回：小学校社会科と歴史学（2）実践的学習① ビデオ視聴と内容の検討（「桃太郎 海の新兵」）（大谷） 第4回：小学校社会科と歴史学（3）実践的学習② 戦争史学習に基づく指導案づくり（大谷） 第5回：小学校社会科と地理学（1）講義 異なる地域スケールでの地域学習（小岩） 第6回：小学校社会科と地理学（2）実践的学習① 地域の変化を学ぶ手法—地理院地図の活用方法—（小岩） 第7回：小学校社会科と地理学（3）実践的学習② 日本の自然と産業を自然地理学の視点から考察する（小岩） 第8回：小学校社会科における映像資料の活用（高瀬） 第9回：小学校社会科と社会学（1）講義 地域社会へのアプローチ（高瀬） 第10回：小学校社会科と社会学（2）実践的学習① 聞き取り調査の作法（高瀬） 第11回：小学校社会科と社会学（3）実践的学習② 聞き取りの実践（高瀬） 第12回：小学校社会科と政治学（1）講義 なぜ投票に行かなければならないか（蒔田）

	<p>第13回：小学校社会科と政治学（2）実践的学習① どのように意思決定を行うか（蒔田）</p> <p>第14回：小学校社会科と政治学（3）実践的学習② 国民と政治をつなぐものとは（蒔田）</p> <p>第15回：理解度の確認と授業内容の総括</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	あらかじめ小学校社会科教科書の関連分野に目を通しておくこと。学習内容と小学校学習指導要領とを対比すること。
(18)学問分野1(主学問分野)	歴史学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	地理学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	政治学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特定の教科書は用いず、各授業者作成の資料をその都度配付します。
(21)参考文献	文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』日本文教出版、2018年。
(22)成績評価方法及び採点基準	4人の担当教員すべてが出題する理解度の確認（期末評価）に基づき行われます（25点×4人）。この期末評価には、小課題の提出等の平常評価も加味されます。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	各分野の初回は講義形式、2・3回目は演習形式（調査、討論など）で行います。
(25)留意点・予備知識	<ul style="list-style-type: none"> ・評価は4人の担当教員の採点の合算によって行われるので、すべての内容をきちんと学習・理解するよう努めてください。 ・学外でフィールドワークを行うこともあるので、時間厳守で出席するようにしてください。
(26)オフィスアワー	第1回オリエンテーションの際に提示します。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	第1回オリエンテーションの際に提示します。
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	143
(2)区分番号	143
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	小学校算数基礎 (Fundamentals of Mathematics for Elementary School Teachers)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等（小コース）・特支（小コース）：必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日 5・6時限
(10)担当教員 (所属)	田中 義久（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル1
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての 具体的到達目標	○小学校教員として算数の授業を行うために必要な基礎的な知識，考え方を身につけること
(15)授業の概要	九九表からきまりを見つける活動，図形を敷き詰める活動，三角形，四角形，円の面積を求める活動などの数学的活動を通して，基礎的な知識や技能を身につけるといふ算数科における学習過程を理解できるようにします。
(16)授業の内容 予定	授業計画 第1回 九九表からきまりを見つける 第2回 見つけたきまりを検証する(小学生レベル) 第3回 倍数の見つけ方 第4回 約数と倍数についての問題を解く 第5回 見つけたきまりを検証する(中高生レベル) 第6回 三角形の敷き詰め 第7回 凸型四角形の敷き詰め 第8回 凹型四角形の敷き詰め 第9回 多角形の敷き詰めの数学的な背景 第10回 正多角形の敷き詰めの数学的な背景 第11回 エッシャー型の敷き詰め 第12回 平行四辺形の面積を求める 第13回 三角形，台形の面積を求める 第14回 円の面積を求める(1cmを数える) 第15回 円の面積を求める(二等辺三角形の敷き詰め) 第16回 テスト ※授業の進行状況等によって内容が異なる場合があります。
(17)準備学習 (予習・復習)等 の内容	講義の後、理解が不十分であった箇所を復習するとよいです。 機会をみつけて、図書館等で小学校の算数の教科書に目を通すとよいです。

(18)学問分野 1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	小学校学習指導要領（平成29年7月）解説：算数編
(21)参考文献	適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	提出物（20%）、テスト（80%）に基づき、学習感想等の授業での積極性を加味して判断する。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	毎回演習を取り入れ、演習で作成したものを提出します。
(25)留意点・予備知識	<ul style="list-style-type: none"> ・筆記用具、ノートのほかに、コンパス、はさみ、定規、のり、分度器を用意してください。 ・小学校では、学習感想をかくことが多く、振り返りや自己評価に有効です。本授業においても学習感想をかく時間を設けますので、積極的にかくことを進めます。
(26)オフィスアワー	金曜5コマ
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	yotanaka@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	144
(2)区分番号	144
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	小学校算数演習 (Seminar of Mathematics for Elementary School Teachers)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（小コース）：選択必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日 1・2時限
(10)担当教員 (所属)	中野 博之(教育学研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○生活体験実習や小学校算数科教育法，Tuesday実習の観察活動等から教育実習等で算数の授業を行うために必要な基礎的な知識，考え方について課題を明らかにし，それを解決するための方法を身につけること
(15)授業の概要	生活体験実習や小学校算数科教育法，Tuesday実習の観察活動等から明らかになった算数科についての各自の課題を取り上げ，それを解決し教育実習等で算数科の授業を行うためにどのようにしていけばよいのかのを個人活動やグループ討議，模擬授業等を行いながら考えて行く。
(16)授業の内容予定	授業計画 第1回 教材研究とはどのようなことなのかについて 第2回～第3回 問題解決型の授業について(討議と模擬授業) 第4回～第5回 1年生の算数科の授業実践について(教科書の見方と模擬授業) 第6回～第7回 2年生の算数科の授業実践について(教科書の見方と模擬授業) 第8回～第9回 3年生の算数科の授業実践について(教科書の見方と模擬授業) 第10回～第11回 4年生の算数科の授業実践について(教科書の見方と模擬授業) 第12回～第13回 5年生の算数科の授業実践について(教科書の見方と模擬授業) 第14回～第15回 6年生の算数科の授業実践について(教科書の見方と模擬授業) 第16回 テスト 進行状況によって変更することがあります
(17)準備学習 (予習・復習)等の内容	附属小学校での教育実習において算数科で指導する単元を知っておくとよいでしょう。授業の後，小学校の算数科の教科書に目を通しておけばよいでしょう

(18)学問分野 1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	代数学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	幾何学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	小学校学習指導要領解説 算数編（文部科学省） 「新編 算数科教育研究」（学芸図書）
(21)参考文献	必要があるときに連絡をします。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業での態度発言、試験、提出物などから総合的に判断されます。なお、テストでは自筆のノート及び「新編算数科教育研究」は持ち込み可です。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	教科書から授業を行う際の課題を見つけそれについての発表と学生同士の質疑を中心に進めて行きます。
(25)留意点・予備知識	基本的に附属小での教育実習で算数の授業を行うことに不安を感じている学生、及び、算数・数学を苦手とする学生のための授業です（算数・数学専修の学生は他の発展科目B（理科実験、家庭科実験実習）を履修することを進めます）。
(26)オフィスアワー	初回講義時にお知らせします。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	初回講義時にお知らせします。
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	145
(2)区分番号	145
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	小学校理科基礎 (Fundamentals of Natural Science for Elementary School Teachers)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等（小コース）・特支（小コース）：必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日 9・10時限
(10)担当教員（所属）	○山本 逸郎（教育学部）・佐藤 松夫（教育学部）・長南 幸安（教育学部）・大高 明史（教育学部）・岩井 草介（教育学部）・鎌田 耕太郎（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○小学校理科に関連する物理分野・化学分野・生物分野・地学分野の基礎的事項を理解し、将来児童を指導するための力を身につけること
(15)授業の概要	小学校理科基礎 小学校理科に関連する物理分野・化学分野・生物分野・地学分野の基礎的事項を、演習や簡単な実験・実習も取り入れながら学んでいく。 この授業だけで、小学校理科に関するすべてを学ぶことは到底できないので、自ら興味を抱き幅広く学ぶきっかけとし、将来児童への指導のための力を養うこと。 自分の言葉で、子ども達に分かりやすく説明できる力を評価する。
(16)授業の内容予定	第1回目の始め ガイダンス 物理分野4回（山本逸郎・佐藤松夫） 1回目 振り子の運動 2回目 電気の利用 3回目 物質の成り立ち 4回目 未定 化学分野4回（長南幸安） 1回目 酸とアルカリ・酸化と還元 2回目 物質の三態 3回目 物質の溶解 4回目 試験及び解説 生物分野4回（大高明史・岩井草介） 1回目 動物の体のつくり 2回目 植物の体のつくり 3回目 人体のしくみ 4回目 未定 地学分野2回（鎌田耕太郎） 1回目 流れる水のはたらきと地層，化石

	2回目 火山, 地震と自然災害 順番はガイダンス時に提示する。内容も変更する場合がある。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習が必要な場合は、授業の中で指示します。 復習は、毎回、1時間以上してください。 また、レポート課題を出した場合は、時間をかけてレポートの作成に取り組んでください。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	小学校学習指導要領解説理科編(文部科学省) 基本的にはプリントを配布してテキストとして使用するが、必要な場合、ガイダンスで指示する。
(21)参考文献	随時、授業の中で提示する。
(22)成績評価方法及び採点基準	化学分野は試験を実施する。 物理、生物、地学分野は、レポートを提出させる。 試験結果・レポートの内容・授業に取り組む姿勢等で総合的に評価する。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	講義・演習
(25)留意点・予備知識	なし
(26)オフィスアワー	山本：月から金の12時から12時半まで
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	山本： itsuro@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	なし

教育学部

(1)整理番号	146
(2)区分番号	146
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	小学校理科・家庭科実験 (Natural Science and Home economics for Elementary School Teachers, Laboratory Work)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（小コース）：必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日 3・4時限
(10)担当教員（所 属）	○山本 逸郎（教育学部）・長南 幸安（教育学部）・大高 明史（教育学部）・岩井 草介（教育学部）・安川 あけみ（教育学部）・小野 恭子（教育学部）・鎌田 耕太郎（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベ ル）	レベル2～3
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○小学校で理科と家庭科を教える際に必要となる基本的な実験・実習技術を習得し、将来児童を指導するための力を身につけること
(15)授業の概要	小学校理科・家庭科実験 理科の4分野（物理・化学・生物・地学）と家庭科の3分野（被服・食物・住居）に関する基本的な実験・実習技術を学ぶ。 たとえグループ実験を行っても、全員が基本的な実験・実習技術に関する作業を実際に行えるような授業の内容にしている。 受講生全体が3グループに分かれ、各グループ単位で合計15の実験・実習テーマに取り組む。
(16)授業の内容予 定	第1回目 全体ガイダンス 第2回目から第16回目 実験・実習 理科・物理分野3回（山本逸郎） 実験1. 気体検知管の使い方—酸素濃度と二酸化濃度の測定 実験2. 水の沸騰—水の沸点が100℃にならない理由 実験3. 手回し発電機とコンデンサーを使った実験 理科・化学分野3回（長南幸安） 実験1. 酸とアルカリ（紫キャベツ水溶液）—マッチ、ガスバーナー、ガラス器具、薬品の扱い方 実験2. ものの溶け方・気体の発生—シュリーレン現象、ガラス管・ゴム栓の加工、マイクロスケール実験 実験3. プログラミング教育 理科・生物分野3回（大高明史、岩井草介） 実験1. いきなりスケッチ—身の回りの生物 実験2. ルーペと解剖顕微鏡の使い方—身の回りの生物の構造 実験3. 顕微鏡の使い方と池の小さな生物の観察 理科・地学分野1回（鎌田耕太郎） 実験1. 大地のなりたち—堆積岩や火山灰

	<p>家庭科・被服分野，調理分野，住居分野5回（安川あけみ，小野恭子）</p> <p>実習1. 手縫いの手法—縫製用具の使い方</p> <p>実習2. ミシン縫いの手法—フェルトのネームプレートの作製</p> <p>実習3. 住まいを快適にする工夫</p> <p>実習4. 米飯の調理</p> <p>実習5. みそ汁の調理</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	<p>予習：必要な場合は、全体ガイダンスの際や事前に掲示で指示する。</p> <p>復習：原則として、毎回、実験レポートを提出する。 時間をかけて実験レポートの作成に取り組んでください。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	<p>小学校学習指導要領解説 理科編および家庭科編（共に、文部科学省）</p> <p>小学校の理科と家庭科の教科書を持っている学生は、持参すること。</p> <p>基本的にはプリントを配布してテキストとして使用する。</p>
(21)参考文献	随時、授業の中で提示する。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>原則として、毎回、実験レポートを提出。</p> <p>実験によっては、実技試験（口頭試問）または提出物（製作したもの）で評価を行う。</p> <p>レポート・試験・提出物の内容、授業に取り組む姿勢等で総合的に評価する。</p> <p>ただし、15回の実験・実習を行い、かつ、それらの実験レポート（提出物）を提出した学生に単位を与える。</p>
(23)授業形式	実験
(24)授業形態・授業方法	<p>実験・実習。</p> <p>3グループに分かれて実施。</p>
(25)留意点・予備知識	<p>小学校理科基礎・小学校家庭科基礎を受講しておくこと。</p> <p>3グループに分かれても、1グループ30人前後となり既に実験室の定員オーバー状態です。</p> <p>従って、小コース以外の学生（特支の小コースも含む）は受講できませんので、注意してください。</p>
(26)オフィスアワー	山本：月から金の12時から12時半まで
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	山本： itsuro@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	なし

教育学部

(1)整理番号	147
(2)区分番号	147
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	小学校音楽基礎 (Introduction to Teaching Elementary Music)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（小コース）・特支（小コース）：必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	①火曜日 1・2時限 ②火曜日 7・8時限 ③木曜日 1・2時限 ④木曜日 5・6時限 いずれか1コマ（初回は木5/6）
(10)担当教員（所属）	○朝山 奈津子（教育学部） ①宮本 香織（非常勤講師） ②古川 佳子（非常勤講師） ③菅野 美津子（非常勤講師） ④清水 稔（教育学部）・菅野 美津子（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○音楽に関する基礎知識を身につけること（見通す力） ○ピアノ演奏の練習方法が分かるようになること（解決する力、学び続ける力） ○唱歌「ふるさと」をピアノ弾き歌いで演奏できるようになること（見通す力）
(15)授業の概要	小学校学習指導要領に示された音楽用語や楽譜の読み書きと、鍵盤楽器伴奏による弾き歌いを学ぶ。
(16)授業の内容予定	※第2回以降の内容は各クラスの受講生の技能レベルによる。以下はあくまで一例なので、ほとんどの内容が変更される可能性がある。 第1回 (4/11木曜日 5・6時限、1階大教室) ガイダンス、クラス分け 第2回 音楽経験レベル確認、クラス確定 第3回 五線譜の読み方 第4回 五線譜の書き方 第5回 記号の読み方と意味 第6回 鍵盤の動かし方 第7回 楽譜を読みながら右手を動かす 第8回 楽譜を読みながら左手を動かす 第9回 楽譜を読みながら両手を動かす 第10回 楽譜を覚えて弾く 第11回 左手を弾きながら歌う

	第12回 両手で弾きながら歌う 第13回 楽曲と歌詞の内容や構造を考える 第14回 楽曲と歌詞の内容や構造を演奏に反映させる 第15回 人前で演奏する場合の特別な状況を考える 第16回 演奏試験と講評
(17)準備学習 (予習・復習)等の内容	毎週の授業に備え、各自で楽器の練習を毎日10分以上行うこと。練習場所や楽器が確保できない場合は教員に相談すること。
(18)学問分野 1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	芸術関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	課題、資料は授業時に適宜配布する。
(21)参考文献	各担当教員が授業時に指示。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業時の取り組みの積極性（10%）、毎日の練習への積極性（75%）、期末筆記・実技試験（15%）から判断する。
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	講義、全体指導、個人指導。
(25)留意点・予備知識	各自、五線紙とB以上の濃さの鉛筆を用意すること。
(26)オフィスアワー	事前に電子メールで連絡の上、随時可。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	世話教員：朝山奈津子（音楽学研究室） asayaman@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	<ul style="list-style-type: none"> ・初回は全員、4月11日（木）5/6時限、1階大教室です。 ・クラス分けを行うので、遅刻しないよう出席して下さい。クラスは原則として音楽経験のレベル別です。履修者が選ぶことはできませんが、開講時限に必修授業（学部越境型地域指向科目含む）が重複する場合のみ、配慮します。 ・各自で履修カードを準備し、裏面に次の事項について回答を書いておいて下さい。 <p>*****</p>

1. 下記の開講時限に重複する必修授業がある場合は、授業名

火 1/2 :

火 7/8 :

木 1/2 :

木 5/6 :

2. 音楽経験

・五線譜は： 読める／読めるが大譜表は苦手／読めない

・鍵盤楽器は： 週に1度以上演奏する／今は弾かないが習っていたことがある／まったく初めて

・初回に出席できない場合は、上記の事項への回答を明記して、必ず4月7日（日）までに、音楽学研究室（音楽棟2階）のポストへ履修カードを提出して下さい。なお、初回の欠席理由は、必修授業の重複および急病以外には認められません。無断欠席した場合は履修を認めないことがあります。急病等の場合は回復次第すみやかに世話教員へ連絡して下さい。

教育学部

(1)整理番号	148
(2)区分番号	148
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	小学校音楽講義 (Music in Elementary Education)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（小コース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日 5・6時限
(10)担当教員（所属）	清水 稔（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒を見取る力に必要な視点を身につけること（見通す力） ○互いに認め合い、協働して学びを深めるための方法や理論について理解すること（見通す力） ○授業を自ら考え、実践できるように音楽の本質的な機能についての理解を深めること（解決する力） ○授業を自ら考え、実践できるだけの技術を身につけること（解決する力） ○多様な価値を認め、その中で適切な評価ができるよう評価の方法について理解を深める（解決する力）
(15)授業の概要	音楽のカリキュラムをデザインし、授業を創造・実践するための知識と技術を身につけることが目的となります。そのために音楽の在り方について考えを深め、自ら理念を構築し、学校の内外を問わず主体的に判断できるよう理論を学び、議論を通して考察を深めます。また理念を生かした実践ができるよう、場面を想定した実践的な学習を行うことで、技術を身につけます。
(16)授業の内容予定	<ul style="list-style-type: none"> 第1回：音楽教育の意義 第2回：指導要領とカリキュラム 第3回：指導の方法（拍子とリズム） 第4回：指導の方法（音階とハンドサイン） 第5回：アメリカ・ハンガリーの小学校における授業 第6回：グループによる協働的な学習 第7回：協働的な学習を用いた授業の展開 第8回：教具の扱い方と器楽指導 第9回：器楽指導の実際 第10回：合唱活動の運営と指導法（導入） 第11回：合唱活動の運営と指導法（発展） 第12回：音楽科における評価と評定 第13回：ICTの活用と鑑賞

	第14回：小学校における音楽科と教師の役割 第15回：これからの学校教育における音楽教育
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業で取ったノートをまとめて、自分なりに学習したことから広げて、ノート作りをしましょう(3時間) 。また、前もって授業内容について自分なりの考えを持って臨めるように授業の中で、次の内容について指示をするので、その部分のテキストを読んでおきましょう(1時間)。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	芸術関連
(18)学問分野3(副学問分野)	思想関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	最新初等科音楽教育法 [改訂版] 音楽之友社 (2018)
(21)参考文献	今田匡彦『哲学音楽論：音楽教育とサウンドスケープ』(恒星社厚生閣) 高木展朗『「これからの時代に求められる資質・能力の育成」とは—アクティブな学びを通して』(東洋館出版社) L. チョクシー 音楽教育メソッドの比較 コダーイ, ダルクローズ, オルフ, C・M (全音) Edwin Gordon "Learning Sequence in music" 小学校音楽 1~6 教育芸術社 小学校音楽 1~6 教育出版
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への参加姿勢 (15%) 講義内での模擬授業や発表による評価 (70%) ノート内容とレポート (15%)
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義と演習 授業は、模擬授業等を通して、実践的に学びます。また、グループで実際に活動を体験することで指導の理念を実感を通して学ぶとともに、協議を通して考察を主体的に深めます。
(25)留意点・予備知識	特にありません。ピアノや楽器等に苦手意識の在る方でも大丈夫です。
(26)オフィスアワー	E-Mailにてアポを取ってください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	m-shimizu@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特にありません。

教育学部

(1)整理番号	149
(2)区分番号	149
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	小学校音楽実技 (Teaching Elementary Music Through Performance)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（小コース）：選択必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 5・6時限
(10)担当教員（所属）	菅野 美津子（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校歌唱教材について、適切に教材研究を行うことができること（学び続ける力） ○小学校歌唱教材の範唱、伴奏を適切に行うことができること（解決する力） ○校歌唱教材以外の合唱曲にも親しみ、合唱の指導・伴奏をすることができること（解決する力）
(15)授業の概要	<p>小学校音楽の授業作りに必要な知識・技術の向上を目指します。</p> <p>その中でも特にこの講義では、歌唱教材の扱い方を重点的に取り上げます。</p> <p>曲に応じた伴奏の弾き方、和音による伴奏の弾き方を身につけます。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 楽譜を読むために必要な知識</p> <p>第3回 和音・コード奏の説明及び連習</p> <p>第4回 和音・コード奏の練習、低学年の歌唱教材についての演習</p> <p>第5回 低学年の歌唱教材についての演習</p> <p>第6回 中学年の歌唱教材についての演習、世界の愛唱歌の演習（導入）</p> <p>第7回 中学年の歌唱教材についての演習、世界の愛唱歌の演習（発展）</p> <p>第8回 中間ミニテスト</p> <p>第9回 高学年の歌唱教材についての演習（導入）</p> <p>第10回 高学年の歌唱教材についての演習（発展）</p> <p>第11回 ボディー・ボイスパーカッションの体験</p> <p>第12回 卒業・旅立ちの歌の演習（導入）</p> <p>第13回 卒業・旅立ちの歌の演習（発展）</p> <p>第14回 講義の総括</p> <p>第15回 実技試験と講評</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	復習・予習のために毎日練習することは望ましい。1週間で各2時間程度の練習が必要です。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	芸術関連

(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	『新音楽の授業づくり』教育芸術社、2011年。
(21)参考文献	講義の中で随時紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（普段の授業の予習量、積極性）20% 中間評価（中間テスト）30% 期末評価（期末試験）50%
(23)授業形式	実技
(24)授業形態・授業方法	講義、全体指導、個人指導
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	世話教員へ予め電子メール等で申し込むこと。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	世話教員：朝山（音楽学研究室） asayaman@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	150
(2)区分番号	150
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	小学校図画工作基礎 (Arts and Crafts for Elementary School Teachers, Basic)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（小コース）・特支（小コース）：必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 5・6時限
(10)担当教員（所属）	○富田 晃（教育学部）・佐藤 光輝（教育学部）・石川 善朗（教育学部）・塚本 悦雄（教育学部）・岩井 康頼（非常勤）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○校図画工作科の授業が展開できるように、絵や立体表現の造形の基礎力を習得すること（解決する力）
(15)授業の概要	○学籍番号の奇数をAクラス、偶数をBクラスに分け、それぞれ平面と立体の両方の課題について取り組みます。 ○Aクラス：前半岩井(平面)「人物クロッキーと樹木をテーマにした水彩画」、後半石川(立体)「紐状物体による対比イメージの立体構成と紙による自立立体構成」 ○Bクラス：前半佐藤(平面)「シンメトリー 形と色の美しさ」、後半塚本(立体)「触れるオブジェの制作」
(16)授業の内容予定	<p><Aクラス(奇数)場所：1F大教室></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 全体でオリエンテーション(富田) ② (岩井)「美術」についての概要、制作Ⅰ「人物クロッキー」 ③ 絵画「水彩画についての基本技法」概要 ④ 制作：基礎Ⅱ「水彩画—テーマは樹木」 ⑤ 制作：基礎Ⅱ「樹木のスケッチ」 ⑥ 制作：基礎Ⅱ「樹木のスケッチ及び着彩」 ⑦ 「樹木」水彩の完成・提出 ⑧ 鑑賞 ⑨ (石川) 作業ガイダンス、作品のイメージを各自で決定。 ⑩ 紐状物体で作品制作(作品のテーマは前回決定したもの) ⑪ 紐状物体で作品制作(完成) ⑫ 紙による光と影を利用した自立立体作品の制作(アイデアスケッチ) ⑬ 紙による光と影を利用した自立立体作品の制作(図面を紙に転写) ⑭ 紙による光と影を利用した自立立体作品の制作(組み立て、完成) ⑮ 全員で作品鑑賞 <p><Bクラス(偶数)場所：中教室></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 全体でオリエンテーション(富田) ② (佐藤)形の美しさについて(授業内容紹介、参考作品紹介、資料鑑賞) ③ デカルコマニー

	<p>④ 切り紙 ⑤ 色の美しさについて(混色/配色) ⑥ 課題作品制作(形の作成) ⑦ 課題作品制作(着彩) ⑧ 課題作品講評(作品鑑賞、講評、作品展示) ⑨ (塚本)立体造形についての講義、授業内容の説明、アイデアスケッチ ⑩ 粘土での造形作業 * 芯材が必要な場合は各自で用意 ⑪ ひび割れなどの修正 ⑫ 形を仕上げる・彫刻刀、棒ヤスリなどを使用 ⑬ 表面を磨く・紙ヤスリ、粗目から細目へ ⑭ 仕上げ、提出 ⑮ 講評 授業の進捗状況によっては変更もあります。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	毎回の授業で取り上げられた内容を整理し、理解しておくようにしてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	(岩井)鉛筆、水彩用具(不透明・透明どちらでも可)一式、筆は15号前後の太めのものを用意、持参してください。 (塚本)必要になる用具は、こちらで準備します。 (佐藤)水彩用筆、マット水彩絵具(1回目授業で紹介します)。
(21)参考文献	必要に応じてプリントを配ります。
(22)成績評価方法及び採点基準	Aクラス、Bクラスごとに2名の担当教官の成績評価の合算で評価を出します。
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	制作活動が中心になります。
(25)留意点・予備知識	(塚本)教材費として500円が必要です。第2回目の授業で徴収します。 (佐藤)材料費(画用紙、色紙、その他)として100円を徴収します。
(26)オフィスアワー	メールにてアポイントを取ってください。(まとめ役: 冨田)
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	atomita@hirosaki-u.ac.jp (冨田)
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	151
(2)区分番号	151
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	小学校図画工作演習 (Seminar of Arts and Crafts for Elementary School Teachers)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（小コース）：選択必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 5・6時限
(10)担当教員 (所属)	○富田 晃（教育学部）・石川 喜朗（教育学部）
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル3
(13)対応する CP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業とし ての具体的到達 目標	○小学校図画工作科の指導に必要な実技力を身につけること（解決する力）
(15)授業の概 要	○を二分し、前半は、Aグループは課題Ⅰ（富田担当）を、Bグループは課題Ⅱ（石川担当）を行い、後半は交代する。 ○Ⅰ（富田担当）では一つの木の塊を、ノコギリ、糸ノコギリ、小刀、ノミ、彫刻刀、金づちなどによって加工し、スプーン、皿などの小品をつくることによって、各種基本工具の使用法を学ぶとともに、創造的な能力を身につけます。 ○Ⅱ（石川担当）では各種工作材料の種類を解説し、どのような加工方法があるかを考察します。次に、接着剤の種類とその使用方法を解説し、授業での運用方法を考察します。そのあとは実際に紙を用いて立体物を制作し、その加工方法を検討します。最後に制作物を全員で鑑賞し検討します。
(16)授業の内 容予定	第1回 ガイダンス Aグループ 第2回 課題Ⅰ 木の知識 第3回 課題Ⅰ アイデアスケッチ 第4回 課題Ⅰ 木取り 第5回 課題Ⅰ 加工1 第6回 課題Ⅰ 加工2 第7回 課題Ⅰ 加工3 第8回 課題Ⅰ 鑑賞 第9回 課題Ⅱ 工作材料について 第10回 課題Ⅱ 接着剤について 第11回 課題Ⅱ 紙の扱い方とアイデアスケッチ 第12回 課題Ⅱ 紙の加工切断 第13回 課題Ⅱ 紙の加工構成 第14回 課題Ⅱ 紙の加工接着

	<p>第15回 課題Ⅱ 鑑賞</p> <p>Bグループ</p> <p>第2回 課題Ⅱ 工作材料について</p> <p>第3回 課題Ⅱ 接着剤について</p> <p>第4回 課題Ⅱ 紙の扱い方とアイデアスケッチ</p> <p>第5回 課題Ⅱ 紙の加工切断</p> <p>第6回 課題Ⅱ 紙の加工構成</p> <p>第7回 課題Ⅱ 紙の加工接着</p> <p>第8回 課題Ⅱ 鑑賞</p> <p>第9回 課題Ⅰ 木の知識</p> <p>第10回 課題Ⅰ アイデアスケッチ</p> <p>第11回 課題Ⅰ 木取り</p> <p>第12回 課題Ⅰ 加工1</p> <p>第13回 課題Ⅰ 加工2</p> <p>第14回 課題Ⅰ 加工3</p> <p>第15回 課題Ⅰ 鑑賞</p> <p>授業の進捗状況によっては変更もありうる。</p>
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	毎回の授業で取り上げられた内容を整理し、理解、習得しておくようにしてください。
(18)学問分野 1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	芸術関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験 のある教員によ る授業科目につ いて	実務教員
(20)教材・教 科書	必要に応じプリントを配ります。
(21)参考文献	特になし。
(22)成績評価 方法及び採点基 準	課題Ⅰ 参加姿勢(25%)、技能習得度(25%)、提出作品(25%)、レポート(25%)を総合して 評価する。
(23)授業形式	演習
(24)授業形 態・授業方法	演習および制作
(25)留意点・ 予備知識	製作に適した服装をしてください。
(26)オフィス アワー	メールにてアポイントを取ってください。(富田)
	atomita@hirosaki-u.ac.jp (富田) hirozen@hirosaki-u.ac.jp (石川)

(27)Eメールアドレス・HPアドレス	
(28)その他	特になし。

教育学部

(1)整理番号	152
(2)区分番号	152
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	小学校図画工作講義 (Arts and Crafts for Elementary School Teachers, Lecture)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（小コース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日 5・6時限
(10)担当教員（所属）	○蝦名 敦子（教育学部）・出 佳奈子（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○図画工作で指導するために必要な美術史、題材・教材化の目的や方法について実践しながら理解を深めること（解決する力） ○図画工作の教科性について発展的に考えられるようになること（学び続ける力）
(15)授業の概要	○2つの内容から構成されている。1. 美術史（出）、2. 新学習指導要領と図画工作の教科性（蝦名）で、それぞれ7回ずつの内容になる。
(16)授業の内容予定	1. （蝦名・出）オリエンテーション、授業の進め方、評価について 2. （出）美術史（近代以前の美術作品を観る） 3. 美術史（近現代の美術作品を観る） 4. 美術史（日本の美術作品を観る） 5. 美術作品の記述（肖像画の比較） 6. 美術作品の記述（空間表現の比較） 7. 様式と内容 8. 総括（日本と世界の美術／文化遺産） 9. （蝦名）新学習指導要領について（1）改訂の方針と内容 10. 新学習指導要領について（2）社会に開かれた教育 11. 表現－造形遊び、子どもの造形空間把握の特性 12. 材料、教材化の視点－同一材料から、造形遊び、絵や立体、工作へ 13. 技能の視点－絵や立体、工作 14. 鑑賞の視点－地域の文化財 15. 小学校の特性と図画工作の教科性、総括
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	各回の授業内容を押さえてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	芸術関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-

(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	適宜、指示があります。
(21)参考文献	適宜、紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への参加態度と各課題（50%）から総合的に判断します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義が基本ですが、一部演習も含まれます。
(25)留意点・予備知識	毎回の内容を押さえてください。
(26)オフィスアワー	木曜日（14:30～15:30）
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	蝦名 eatsuko@hirosaki-u.ac.jp 出 idek_48@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	153
(2)区分番号	153
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	小学校体育実技基礎 (Fundamentals of Physical Education for Elementary School Teachers)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（小コース）・特支（小コース）：必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日 9・10時限
(10)担当教員（所属）	○清水 紀人（教育学部）・高橋 俊哉（教育学部）・益川 満治（教育学部）・杉本 和那美（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業とし	○小学校学習指導要領解説（体育編）に示されている運動領域の内容について、児童に示範ができる程度の技術を身につけること

<p>ての 具 体 的 到 達 目 標</p>	
<p>(15) 授業 の概 要</p>	<p>「器械運動・体づくり運動」「ボール運動」「陸上運動」「水泳」を中心に学習します。また指導方法についても言及します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・器械運動：マット運動・跳び箱運動に必要な基礎的運動感覚の体得と技術の習得（清水） ・ボール運動：ボールゲームに必要な基礎的運動感覚の体得と技術の習得（益川） ・陸上運動：陸上運動に必要な基礎的運動感覚の体得と技術の習得（杉本） ・水泳運動：水泳運動に必要な基礎的運動感覚の体得と技術の習得（高橋）
<p>(16) 授業 の内 容予 定</p>	<p>○器械運動・体づくり運動の基礎 第1回：器械運動のための基礎感覚を確認する（体づくり運動を含む） 第2回：マット運動の基礎技を学ぶ「Ⅰ」 第3回：マット運動の基礎技を学ぶ「Ⅱ」 第4回：跳び箱運動の基礎技を学ぶ「Ⅰ」 第5回：跳び箱運動の基礎技を学ぶ「Ⅱ」</p> <p>○ボール運動（ボールゲーム）の基礎 第1回：ボールゲームの考え方（ゲームの構造を考える） 第2回：型から考える（ボール移動ゲームとは？） 第3回：型から考える（傾向と対策） 第4回：型から考える（分業への誘い） 第5回：型から考える（技術の習得とは？）</p> <p>○陸上運動の基礎 第1回：短距離走の技術を学ぶ 第2回：リレーのバトンパス技術を学ぶ 第3回：ハードル走の技術を学ぶ 第4回：走り幅跳びの技術を学ぶ 第5回：走り高跳びの技術を学ぶ</p> <p>○水泳運動の基礎 クロール並びに平泳ぎを中心にその泳法を学ぶ</p>
<p>(17) 準備 学習 (予 習・ 復 習) 等の 内容</p>	<p>学習した運動課題やできない運動課題を練習するようにして下さい。</p>
<p>(18) 学問 分野 1(主 学問 分野)</p>	<p>体育関連</p>
<p>(18) 学問 分野 2(副 学問 分野)</p>	<p>-</p>
<p>(18) 学問 分野 3(副 学問 分野)</p>	<p>-</p>
<p>(19) 実務</p>	<p>-</p>

経験のある教員による授業科目について	
(20) 教材・教科書	特になし
(21) 参考文献	特になし
(22) 成績評価方法及び採点基準	平常評価（運動の理解度）：20％ 達成評価（実技の完成度）：80％ 4種目全てが60点以上で合格です。1種目でも60点を下回った場合は、再履修となります。
(23) 授業形式	実技
(24) 授業形態・授業方法	各種目により授業形態が異なりますが、基本的にはグループを編成し、実施する事になります。
(25) 留意点・予備知識	第1体育館、第2体育館、文京町グラウンド、学園町プールでの授業となります。 授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明をします。
(26) オフィスアワー	(木) 14:30～15:30
(27) メールアドレス・HPアドレス	nori@hirosaki-u.ac.jp 教育者総覧 http://db.im.hirosaki-u.ac.jp/cybouz/db.exe? page=DBRecord&did=1988&vid=718&rid=2419&text=%90%B4%90%85%81%40%8B%49%90%6C&Head=&hid=&sid=n&rev=0&ssid=
(28) その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	154
(2)区分番号	154
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	小学校体育講義 (Lecture of Physical Education for Elementary School Teachers)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（小コース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日 5・6時限
(10)担当教員（所属）	○高橋 俊哉（教育学部）・杉本 和那美（教育学部）・益川満治（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○小学校体育の理論を習得すること
(15)授業の概要	<p>(1) 子どもの心身の発達と健康について学びます。</p> <p>(2) 発育発達期の身体的特徴を踏まえた指導について学びます。</p> <p>(3) ボールゲームの理論と構造について学びます。</p>
(16)授業の内容予定	<p>○：（高橋）</p> <p>第1回 心身の発達</p> <p>第2回 発達上の諸問題</p> <p>第3回 子供をめぐる健康問題精神の発達</p> <p>第4回 小学校の保健教育</p> <p>第5回 保健の授業づくり</p> <p>○発育発達と運動指導：杉本</p> <p>第1回 発育発達期の身体的特徴</p> <p>第2回 発育発達に応じた指導（概要）</p> <p>第3回 発達の段階を踏まえた指導のポイント（低学年）</p> <p>第4回 発達の段階を踏まえた指導のポイント（中学年）</p> <p>第5回 発達の段階を踏まえた指導のポイント（高学年）</p> <p>○ボールゲームの理論と構造：益川</p> <p>第1回 ボールゲームの理論と構造 ①運動有能感</p> <p>第2回 ボールゲームの理論と構造 ②ゲーム構造論から考える</p> <p>第3回 ボールゲームの理論と構造 ③型の類型とは？</p> <p>第4回 ボールゲームの理論と構造 ④授業実践</p> <p>第5回 総合演習～新しい授業の提案</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	<p>予習：小学校学習指導要領 体育編を読んでおくこと</p> <p>復習：各授業で行った内容を整理すること</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	体育関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-

(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特になし。必要に応じてプリントを配布する。
(21)参考文献	小学校学習指導要領解説編, 東洋館出版
(22)成績評価方法及び採点基準	3人の担当者全体の平均点が60点以上で合格です。1種目でも60点を下回った場合は、再履修となります。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義
(25)留意点・予備知識	講義担当者の順番が変更になる場合があります。変更する場合は、事前に連絡します。
(26)オフィスアワー	月12:00~13:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	toshiva@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	155
(2)区分番号	155
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	小学校体育実技 (Practical Skill of Physical Education for Elementary School Teachers)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等 (小コース) : 選択必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 5・6時限
(10)担当教員 (所属)	○清水 紀人 (教育学部) ・高橋 俊哉 (教育学部) ・益川 満治 (教育学部) ・杉本 和那美 (教育学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度 (レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業とし	○小学校体育実技基礎の実技授業を踏まえて、小学校での体育授業を展開する上で必要な、より高度な技術や戦術を身につけること

<p>ての 具 体 的 到 達 目 標</p>	
<p>(15) 授 業 の 概 要</p>	<p>器械運動を行う際の補助技術、ボールゲームの考え方・指導方法、陸上運動の技術と指導方法ならびにスキーの基礎技術を教授します。</p>
<p>(16) 授 業 の 内 容 予 定</p>	<p>* 前期の正規時間帯での授業と冬季休暇中に行われるスキー実習に分かれて行われます。授業時間帯での授業内容は以下の通りです。スキーについては、別途説明会を行います。</p> <p>○ 器械運動と補助（清水） 1回目：マット運動の補助Ⅰ 2回目：マット運動の補助Ⅱ 3回目：跳び箱運動の補助 4回目：鉄棒運動の補助 5回目：総復習と見極めテスト</p> <p>○ ボールゲームの指導方法（益川） 1回目：ガイダンス、グローバル化対応、ボールゲームとは？ 2回目：ボール遊び～ボールゲームへ 3回目：ゲームの指導方法1 戦術学習とは？ 4回目：ゲームを指導方法2 深い学びへの誘い 5回目：ゲームを指導方法3 総合演習（見極めテストを含む）</p> <p>○ 陸上運動の技術と指導方法（杉本） 1回目：短距離走の技術と指導方法 2回目：リレーのバトンパス技術と指導方法（見極めテストを含む） 3回目：ハードル走の技術と指導方法（見極めテストを含む） 4回目：走り幅跳びの技術と指導方法（見極めテストを含む） 5回目：走り高跳びの技術と指導方法（見極めテストを含む）</p> <p>○ スキー（高橋） 1. スキー滑走技術を学ぶ</p>
<p>(17) 準 備 学 習 （ 予 習 ・ 復 習 ） 等 の 内 容</p>	<p>これまでの実技授業を振り返って、練習と身体作りをしておくこと。</p>
<p>(18) 学 問 分 野 1(主 学 問 分 野)</p>	<p>体育関連</p>
<p>(18) 学 問 分 野 2(副 学 問 分 野)</p>	<p>スポーツ科学関連</p>
<p>(18) 学 問 分 野 3(副 学 問 分 野)</p>	<p>-</p>
<p>-</p>	<p>-</p>

(19) 実務 経験 のある 教員に よる 授業 科目 につ いて	
(20) 教 材・ 教科 書	特になし
(21) 参 考 文 献	特になし
(22) 成 績 評 価 方 法 及 び 採 点 基 準	各先生の実技見極めテストの得点60点以上とスキー場での実技テスト60点以上を平均して評価します。
(23) 授 業 形 式	実技
(24) 授 業 形 態・ 授 業 方 法	実技 ※後期のスキー授業は、スキー場にて集中授業で行います。
(25) 留 意 点・ 予 備 知 識	第1体育館、第2体育館、文京町グラウンド、近隣のスキー場での授業となります。 欠席は、各先生の授業で2回以下であり、なおかつ、合計が5回以下でなければ出席日数不足となり、単位が出ないので注意すること。
(26) オ フ ィ ス ア ワ ー	(木) 14:30~15:30
(27) E メ ー ル ア ド レ ス・ HP ア ド レ ス	nori@hirosaki-u.ac.jp 教育者総覧 http://db.jm.hirosaki-u.ac.jp/cybouz/db.exe? page=DBRecord&did=1988&vid=718&rid=2419&text=%90%B4%90%85%81%40%8B%49%90%6C&Head=&hid=&sid=n&rev=0&ssid=
	特になし

(28)
その
他

教育学部

(1)整理番号	156
(2)区分番号	156
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	小学校家庭科基礎 (Fundamentals of Home Economics for Elementary School Teachers)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等（小コース）・特支（小コース）：必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 3・4時限
(10)担当教員 (所属)	小野 恭子（教育学部）
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル1
(13)対応する C P / D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業とし ての具体的到達 目標	○小学校教員として、児童に家庭科を授業する際に必要な学習内容及び教材研究・授業づくりを理解すること
(15)授業の概 要	講義の中心は、小学校家庭科の授業をする際に必要となる学習内容について理解をすることである。また、これらの基礎的基本的な知識への理解を深めるために、演習を行い、家庭生活におけるさまざまな事象についてその原因と解決方法を考え、さらに教材化する能力を習得する。
(16)授業の内 容予定	講義順は未定であるが、15回を以下の内容で構成する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 家庭科教育の歴史 2. 小学生の生活経験と実態 3. 家族と家庭生活 について（現代家族の変遷） 4. 家族と家庭生活について（家族領域教材について） 5. 食生活について（食生活の変遷） 6. 食生活について（食生活に関する教材について） 7. 衣生活について（作品制作に関する教材） 8. 消費生活について 9. 消費生活と環境について 10. 住環境について 11. 住生活について 12. 持続可能な社会について 13. 世界とのつながりについて 14. 現代社会の課題と家庭科に求められる事柄 1 15. 現代社会の課題と家庭科に求められる事柄 2 16. 最終試験
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	教科書に指定している「小学校学習指導要領解説 家庭編」および「小学校の家庭科教科書」を事前に熟読しておくこと。 授業内容を振り返り、重要点を整理しておくこと。 社会問題に興味関心を持ち、その問題に対しての課題解決方法を考える。

(18)学問分野 1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	社会学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験 のある教員によ る授業科目につ いて	実務教員
(20)教材・教 科書	初等家庭科の研究（萌文書林） 小学校学習指導要領解説 家庭編（文部省） 小学校家庭科教科書 わたしたちの家庭科（開隆堂） 新しい家庭（東京書籍）
(21)参考文献	その都度紹介する。
(22)成績評価 方法及び採点基 準	試験（60％）・演習（10％）・レポート（30％）等で総合的に評価する。
(23)授業形式	演習
(24)授業形 態・授業方法	講義および演習。
(25)留意点・ 予備知識	「小学校家庭科教育法」よりも前に受講しておくことが望ましい。 演習では、グループワーク・ディスカッションを行うので積極的に参加すること。
(26)オフィス アワー	月曜 12：00～12：30
(27)Eメールア ドレス・HPア ドレス	kyokoono@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	裁縫道具などを使うことがあるので事前に準備をしておくこと。

教育学部

(1)整理番号	158
(2)区分番号	158
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	小学校専門生活 (Fundamentals of Life Environment Studies for Elementary School Teachers)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（小コース）・特支（小コース）：必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日 7・8時限
(10)担当教員 (所属)	○勝川 健三（教育学部）・増田 貴人（教育学部）・小瑠 史朗（教育学部）・篠塚 明彦（教育学部）・石川 善朗（教育学部）・清水 紀人（教育学部）・佐藤 崇之（教育学部）・長南 幸安（教育学部）・宮崎 充治（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○小学校の生活科を指導する際に必要となる基礎的知見を身につけること
(15)授業の概要	生活科の理念および小学校低学年の発達特性、身近な自然、社会、人間生活の営みの仕組みとその知恵を学び、同時に津軽の伝統工芸の体験実習を行います。
(16)授業の内容 予定	1 4/11 ガイダンス 勝川健三 2 4/18 生活科の理念 宮崎充治 3 4/25 身近な食材から食料・環境問題を考える（グローバル化対応） 勝川健三 4 5/9 小学校低学年の発達特性 増田貴人 5 5/16 自然をみる 佐藤崇之 6 5/23 植物の栽培と観察 勝川健三 7 5/30 生活科とものづくり 長南幸安 8 6/6 伝統工芸：全国を中心に 石川善朗 9 6/13 伝統工芸：青森県の工芸 石川善朗 10 6/20 生活科と社会科1 篠塚明彦 11 6/27 生活科と社会科2 小瑠史朗 12 7/4 民芸品 製作体験 津軽藩ねふた村講師+勝川 13 7/11 子どもの遊びとその創造 清水紀人 14 7/25 体験実習報告会（PowerPoint発表） 勝川健三 15 8/1 同上 勝川健三
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	復習を怠らないようにしてください。

(18)学問分野 1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による 授業科目について	-
(20)教材・教科書	必要に応じてプリント等配布します。
(21)参考文献	適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	総括レポート(80%)・体験実習報告会(20%)に加え授業への参加・取り組み状況を総合的に評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・ 授業方法	講義に加え民工芸品の製作体験とその成果をグループごとにまとめて発表します。
(25)留意点・予備知識	オムニバス形式のため欠席しないこと。
(26)オフィスアワー	窓口教員：勝川健三 月～金 12:00-12:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	kenzo_k#hirosaki-u.ac.jp (#を@に変更してください)
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	159
(2)区分番号	159
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	小学校英語基礎 (Fundamentals of English for Elementary School Teachers)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等 (小コース) ・ 特支 (小コース) : 必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 1・2時限
(10)担当教員 (所属)	○野呂 徳治 (教育学部) ・ 佐藤 剛 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○小学校英語教育について実践的理解を深めること
(15)授業の概要	小学校における英語教育の理論的基盤を概観 (見通す力) した上で、カリキュラム開発、教材作成、指導法などについて、実践事例の検討及び演習を通して実践的に学び (解決する)、小学校英語教育の意義と課題について理解を深める (学び続ける力)。
(16)授業の内容 予定	第1回 (野呂・佐藤) 授業ガイダンス, 小学校における英語教育の位置づけ 第2回 (野呂) 第二言語習得からみた早期外国語教育① 第3回 (野呂) 第二言語習得からみた早期外国語教育② 第4回 (野呂) 小学校「外国語活動」「外国語」の目標 第5回 (野呂) 小学校「外国語活動」「外国語」の内容と方法 第6回 (野呂) 小学校「外国語活動」「外国語」の評価① 第7回 (野呂) 小学校「外国語活動」「外国語」の評価② 第8回 (野呂) 中間試験とこれまでの振り返り 第9回 (丹藤) 小学校英語教育の実践 (教材・教科書) 第10回 (佐藤) 小学校英語教育の実践 (言語活動の紹介) 第11回 (佐藤) 小学校英語教育の実践 (「聞く」活動の演習) 第12回 (佐藤) 小学校英語教育の実践 (「話す」活動の演習) 第13回 (佐藤) 小学校英語教育の実践 (「読む・書く」活動の演習) 第14回 (佐藤) 小学校英語教育の実践 (授業ビデオの観察と協議) 第15回 (野呂・佐藤) 小学校英語教育の課題と展望 (授業の進行状況により内容が異なる場合がある。)
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	小学校における英語教育について参考資料等を参照しながら理解を深めるとともに、授業で課される小レポートや課題に取り組む。

(18)学問分野 1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語・外国語活動編」（開隆館出版社） その他、最初の授業時に指示する。
(21)参考文献	授業時に適宜指示する。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業中の学習への取り組み、課題、試験（中間試験）などを基に総合的に評価する。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	講義・演習
(25)留意点・予備知識	小学校における英語教育のあり方について問題意識を持って授業に参加することが求められる。
(26)オフィスアワー	水曜日5・6時限（野呂）
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	Eメールアドレス： norotoku@hirosaki-u.ac.jp （野呂）、 satotsuyo@hirosaki-u.ac.jp （佐藤）
(28)その他	後半のうち1回は、小学校で指導経験のある講師の先生から、現在の小学校外国語の現状について紹介いただく予定です。

教育学部

(1)整理番号	160
(2)区分番号	160
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	小学校英語演習 (Seminar of English Language for Elementary School Teachers)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（小コース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日 3・4時限
(10)担当教員（所属）	○Anthony Rausch (Faculty of Education) Kondo Ryoichi (Faculty of Education) Tsuchiya Yoko (Faculty of Education)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	The course has three areas of content and objectives: 1. The first objective is to ensure that students are capable of using and teaching the language of Elementary School English courses. (CP・DP 3 学び続ける力) 2. The second objective is to provide for students an introduction to English Linguistics that is appropriate for Elementary School English. (見通す力) 3. The third objective is to provide for students an introduction to Literature in English that is appropriate for Elementary School English. (見通す力)
(15)授業の概要	The course will be taught by three different instructors, each using his or her own approach. That said, the outline of the course will cover what the instructor feels is appropriate in the area for future elementary school English instruction.
(16)授業の内容予定	The content of the course is highly dynamic and dependent of what the instructor sees as relevant for the set of learners. In the case of the first objective, the main content will be the language of the Ministry of Education produced course materials (presently Let's Try and We Can). For

	the linguistics and literature parts of the course, the content will be thematically and levelly adjusted to the students' background in those areas.
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	Students are expected to review each class and prepare for tests.
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	The materials will be introduced by the instructors as needed.
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	Grading will be based on three exams undertaken by each instructor - one for each objective area - considered cumulatively.
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	The course will be lecture format.
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	Office hours for the three instructors will be everyday: 11:50 to 12:40.
(27)メールアドレス・HPアドレス	lead instructor: Rausch: asrausch@hirosaki-u.ac.jp

(28)その他 特になし

教育学部

(1)整理番号	161
(2)区分番号	161
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	教育科学演習 (Introduction of Educational Science)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	教育科学サブコース：必修
(7)単位	2
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	前期は原則水曜日 9・10時限
(10)担当教員(所 属)	○松本 大(教育学部)・宮崎 充治(教育学部)・福島 裕敏(教育学部)・森本 洋介(教育学部)・桐村 豪文(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベ ル)	レベル2
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての 具体的到達目標	○教育科学に関する基礎的な事項について理解すること ○教育科学に関するテーマに関する情報収集を行うことができるようになること ○実際の教育現場に対して教育科学的な思考・観察ができるようになること
(15)授業の概要	授業の前半では教育科学に関する文献を輪読する。発表担当者は担当テーマに関する参考文献を整理し発表を行う。授業後半はむつ市内の小学校と高校にて観察や教育実践を行う予定である。
(16)授業の内容予 定	第1回 オリエンテーション 第2回 文献収集の方法 第3回 参考文献の検討 第4回 文献発表(早期教育) 第5回 文献発表(学力低下) 第6回 文献発表(いじめ) 第7回 文献発表(個性尊重) 第8回 フィールドワーク事前指導 第9回 文献発表(格差) 第10回 文献発表(教師の仕事) 第11~14回 フィールドワーク 第15回 フィールドワーク事後指導
(17)準備学習(予 習・復習)等の内容	(1) 文献発表の授業では、事前にテキストの該当箇所を読んでくる。 (2) フィールドワークにおいては、事前にむつ市や下北地区の地域課題・教育課題について情報収集を行うほか、事後には振り返りを行うことが求められる。
(18)学問分野1(主 学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副 学問分野)	-

(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	田中耕治ほか『教育をよみとくー教育学的探究のすすめー』有斐閣、2017年。
(21)参考文献	適宜紹介する
(22)成績評価方法及び採点基準	・文献発表 (50%) ・ディスカッションやフィールドワークへの参加度 (50%)
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	基本的に演習形式で行う
(25)留意点・予備知識	日程等の詳細についてはオリエンテーションのときに通知するので第1回の授業には必ず出席するとともに、授業やフィールドワーク時に別の予定を入れないようにすること。
(26)オフィスアワー	(松本) 木曜 12:00-13:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(松本) dai%hirosaki-u. ac. jp(%を@に変換)
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	162
(2)区分番号	162
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	社会調査法 (Social Research in Education)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	教育科学サブコース：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	集中（木9・10時限を基本とする）
(10)担当教員（所属）	福島 裕敏（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2～3
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○社会調査のデザイン、データ収集、データ分析の基本的知識・技能を身につけること ○具体的な教育・学校問題について調査すること ○得られた知見をもとにその解決・改善について考えようとする事
(15)授業の概要	教育・学校を対象とした調査を実施することを目的とし、そのために必要な社会調査のデザイン、データ収集、データ分析の方法などについて学ぶ。
(16)授業の内容予定	第1回 ガイダンス 第2回 社会調査とは？ 第3回 社会調査のプロセス 第4回 調査課題の設定①（ブレインストーミング） 第5回 調査課題の設定②（先行研究の分析） 第6回 調査方法・対象の選定 第7回 プレ調査の企画 第8回 プレ調査の実施 第9回 プレ調査の分析 第10回 調査の企画 第11回 調査の実施 第12回 データの整理 第13回 データの分析 第14回 調査のまとめ 第15回 調査結果報告
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	各回に向けた事前作業および授業後の各自による修正
(18)学問分野1(主学問分野)	社会学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	教育学関連
	-

(18)学問分野3(副学問分野)	
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特になし。
(21)参考文献	随時示唆する。
(22)成績評価方法及び採点基準	以下をもとに、最終的な評価をおこなう予定 ・演習への参加度(含む事前準備) 50% ・最終報告書 50%
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	学生によるグループ作業を主とするが必要に応じて随時指導助言をおこなう。
(25)留意点・予備知識	・時間外の作業が必要となる。 ・必要に応じて現地調査などをおこなう。
(26)オフィスアワー	火 昼休み・3コマ
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	hirof%hirosaki-u.ac.jp (%を@に変更)
(28)その他	特になし。

教育学部

(1)整理番号	163
(2)区分番号	163
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	教育方法特殊講義 (Advanced Studies: Educational Methods)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	教育科学サブコース：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日 3・4時限
(10)担当教員(所属)	森本 洋介 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するC/P/D/P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○前期の「教育方法演習」で学習した内容を深めるため、自分たちの学習活動を振り返ることができるようになること (CP・DP1 見通す力、CP・DP2 解決する力) ○学習内容を活かしながら、参加者自身で授業設計 (指導案作成) を行うこと (CP・DP1 見通す力、CP・DP2 解決する力) ○学習目標、学習内容、学習者の評価、使用する教材を意識できるようになること (CP・DP3 学び続ける力)
(15)授業の概要	主に3つの活動によって授業を構成する。 ①フィールドトリップ ②デジタル・ストーリーテリング課題 ③映像制作と振り返り
	第1回 オリエンテーション・発表者分担 第2回 フィールドトリップの説明、計画を練る

(16) 授業の 内容予 定	第3回 フィールドトリップ（大学周辺） 第4回 フィールドトリップ発表準備 第5回 フィールドトリップ発表 第6回 デジタル・ストーリーテリング課題 課題提示 第7回 デジタル・ストーリーテリング課題に取り組む 第8回 デジタル・ストーリーテリング課題発表：第1グループ 第9回 デジタル・ストーリーテリング課題発表：第2グループ 第10回 映像制作趣旨説明、企画を練る 第11回 制作活動（撮影） 第12回 制作活動（撮影） 第13回 制作活動（編集） 第14回 映像作品上映、分析と振り返り 第15回 総括議論 ※授業の進行状況や受講者数により、内容を変更する可能性がある
(17) 準備学 習（予 習・復 習）等 の内容	「教育方法演習」の内容を復習して授業に臨むこと。
(18) 学問分 野 1(主 学問分 野)	教育学関連
(18) 学問分 野 2(副 学問分 野)	-
(18) 学問分 野 3(副 学問分 野)	-
(19) 実務経 験のある 教員に よる授 業科目 につ いて	-
(20) 教材・ 教科書	特になし。適宜資料を配布する。
(21) 参考文 献	特になし。適宜資料を配布する。
(22) 成績評 価方法 及び採 点基準	授業概要①の発表およびレポート（40点）、授業概要②の発表およびデータの提出（20点）、授業概要③の発表およびレポート（40点）

(23) 授業形式	講義
(24) 授業形態・授業方法	主に受講者が小集団で能動的に活動することにより、授業を進める。そのため、授業に来るだけでなく、意欲的に参加することが求められる。
(25) 留意点・予備知識	「教育方法演習」の単位を取得していることが望ましい。 授業時間外にも作業が必要となる場合がある。 デジタルカメラやスマートフォンを授業で使用する可能性がある。Windows Movie Makerを使用できる環境をつくっておくこと。
(26) オフィスアワー	金曜16:00-17:30
(27) メールアドレス・HPアドレス	morimoto%hirosaki-u. ac. jp(%を@に変換) http://db.jm.hirosaki-u.ac.jp/cybouz/db.exe? page=DBRecord&did=1988&vid=718&rid=2392&text=%90%58%96%7B+%97%6D%89%EE&Head=&hid=&sid=n&rev=0&ssid=
(28) その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	164
(2)区分番号	164
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	教育方法演習 (Seminar on Educational Method)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	教育科学サブコース：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 3・4時限
(10)担当教員(所属)	森本 洋介 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力

(14) 授業 とし ての 具 体 的 到 達 目 標	○デジタル時代のリテラシーのあり方について学習すること（CP・DP1 見通す力） ○自分がこれまでに受けてきた「教育方法」や「教育課程」を相対化して考えられるようになること（CP・DP2 解決する力）
(15) 授業 の概 要	本授業は、学習者の学びに対する意欲を引き出すための授業方法について、経験的に学ぶことを目的としている。つまり、授業で取り扱う学習項目よりも、むしろ自分たちがどのような授業を受けているのかを、方法論的に意識化できるようにすることに重点を置いている。また最近の新しい教育内容に現場がどのように対応していくのかについてもカリキュラム編成の視点から考える。
(16) 授業 の内 容予 定	第1回 オリエンテーション 第2回 一般的なメディア・リテラシー教育の概要 第3回 多様な教育方法（アクティブラーニング含む） 第4回 1. デジタル時代のメディア・リテラシー 第5回 2. デジタル時代のメディア・リテラシーを教える動機 第6回 3. 学校外の文化と授業をつなげる 第7回 4. メディアとポップカルチャーについて問いを投げかける 第8回 5. メディアをつくる 第9回 6. すべては社会とつながっている 第10回 7. 幼い学習者のためのメディア・リテラシー 第11回 8. 作家とオーディエンス 第12回 9. 実践を変える 第13回 動画についてオンライン教材で学ぶ（説明） 第14回 動画についてオンライン教材で学ぶ（作業） 第15回 まとめ
(17) 準備 学習 （予 習・ 復 習） 等 の 内 容	テキストの該当箇所を事前に読んでくるとともに、授業後は再度その箇所を読み直すこと。
(18) 学問 分野 1(主 学問 分野)	教育学関連
(18) 学問 分野 2(副 学問 分野)	言語学関連
(18) 学問 分野 3(副 学問 分野)	-
(19) 実務 経験 のあ	-

る教員による授業科目について	
(20) 教材・教科書	ルネ・ホップス、デビット・クーパー・ムーア著；森本洋介監訳(2016)『メディア・リテラシー教育と出会う：児童がデジタルメディアとポップカルチャーに向き合うために』弘前大学出版会
(21) 参考文献	適宜指示する。
(22) 成績評価方法及び採点基準	授業内で行う活動（50%）と小レポート（50%）
(23) 授業形式	演習
(24) 授業形態・授業方法	問題解決学習、テキスト分析、協働学習、グループ議論および全体議論、講義等の授業方法を適宜組み合わせ、授業を進める。
(25) 留意点・予備知識	グループ活動が主体となるため、遅刻・欠席は厳禁となる。遅刻・欠席をした場合は成績に大きく影響する。
(26) オフィスアワー	金曜16:00-17:30
(27) Eメールアドレス・HPアドレス	morimoto%hirosaki-u.ac.jp(%を@に変換) http://db.im.hirosaki-u.ac.jp/cybouz/db.exe?page=DBRecord&did=1988&vid=718&rid=2392&text=%90%58%96%7B+%97%6D%89%EE&Head=&hid=&sid=n&rev=0&ssid=
(28) その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	165
(2)区分番号	165
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	教育史特殊講義 (History of Education, Special Course)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	教育科学サブコース：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 1・2時限
(10)担当教員(所 属)	福島 裕敏(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベ ル)	レベル1~3
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○教育社会学に関する基本的知識・方法を理解すること ○上記の知識・方法をもとに現代的教育課題を考察すること
(15)授業の概要	教育社会学とは教育の社会性を明らかにする学問である。本講義では、 教育社会学についての基本的知識・方法を、教師－生徒関係、家族、階 層など具体的なテーマにもとづきながら学ぶ。
(16)授業の内容予 定	扱う予定のテーマは下記の通り。 第1回 ガイダンス 第2回 教職と教育社会学 第3回 学校 第4回 学校知識 第5回 教師－生徒関係 第6回 教員 第7回 若者・青年 第8回 教育システムと生産システム 第9回 階層・階級 第10回 国家 第11回 教育改革 第12回 個人発表 第13回 個人発表 第14回 個人発表 第15回 まとめ
(17)準備学習(予 習・復習)等の内容	テキストの事前講読、それにもとづくコメントの提出、事後の自己課題 追究
(18)学問分野1(主 学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副 学問分野)	社会学関連

(18)学問分野3(副学問分野)	歴史学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	久富善之・長谷川裕編著 (2019) 『教育社会学 (教師教育テキストシリーズ)』学文社
(21)参考文献	適宜指示する。
(22)成績評価方法及び採点基準	下記にもとづき最終的な評価をおこなう予定。 事前学習WS : 30% 発表 : 20% 最終レポート : 50%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	演習を基本とし、適宜講義をおこなう。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	火 昼休み・3コマ
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	hirof%hirosaki-u. ac. jp (%を@に変更)
(28)その他	他サブコースの学生の履修も歓迎する。

教育学部

(1)整理番号	166
(2)区分番号	166
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	教育史演習 (History of Education, Seminar)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	教育科学サブコース：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日 1・2時限
(10)担当教員(所 属)	福島 裕敏(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベ ル)	レベル3
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○教員の社会的使命について、社会・歴史的視点から理解・考察することができること
(15)授業の概要	社会の大きな変化の中で、教育、教員、学校の在り方が大きく問われてきている。そのような状況下において、あらためて「教育」「教員」「学校」の意義と役割について、社会・歴史的文脈の中で考える。
(16)授業の内容予 定	各自の関心を踏まえて内容についても相談するつもりだが、とりあえず下記のテーマを考えている。 第1回 オリエンテーション 第2回 教師と教員 第3回 現代教員を取り巻く磁場 第4回 <大人-子ども>関係の変容と教員 第5回 市民性育成と教員 第6回 子ども・親・地域の生活と教員 第7回 カリキュラムと教員 第8回 再創造者としての教員 第9回 教員文化の諸相 第10回 教員像の変遷 第11回 現代教育改革と教員 第12回 個人発表① 第13回 個人発表② 第14回 個人発表③ 第15回 まとめ
(17)準備学習(予 習・復習)等の内 容	指定文献に対するコメントと論点提出を毎回求める。
(18)学問分野1(主 学問分野)	教育学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	社会学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	歴史学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	講読予定の文献は下記のとおり 小玉重夫(2013)『学力幻想』ちくま新書
(21)参考文献	適宜指示するが、とりあえず下記のとおり 油布佐和子編(2009)『リーディングス日本の教育と社会⑮教師という仕事』日本図書センター(図書館所蔵) 久富善之(2017)『日本の教師、その12章』新日本出版社
(22)成績評価方法及び採点基準	事前学習WS : 30% 発表 : 20% 最終レポート : 50%
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	学生グループによる発表・議論を中心とし、適宜講義をおこなう。
(25)留意点・予備知識	演習形式でおこなうため、周到的な準備と主体的な参加を強く望む。 「人間教育論Ⅰ」「教育の社会制度論Ⅰ～Ⅲ」「西洋の子どもと学校史」「教育史特論」、その他教育科学専修の必修選択科目全般。
(26)オフィスアワー	火 昼休み・3コマ
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	hirof%hirosaki-u.ac.jp(%を@に変更)
(28)その他	他サブコースの学生の履修も歓迎する。

教育学部

(1)整理番号	167
(2)区分番号	167
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	現代教育政策論 (Current Educational Policies)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	教育科学サブコース：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 7・8時限
(10)担当教員 (所属)	桐村 豪文 (教育学部)
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル3
(13)対応する CP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業とし ての具体的到達 目標	○教育政策の効果について、理論的に考えることができること ○エビデンスに基づき、効果のある施策を自ら選択する姿勢を身につけることができること
(15)授業の概 要	昨今、教育政策はエビデンスに基づくことが求められるようになってきた。つまり、実効性が保証されない政策には予算がつけられないのである。では、どのような政策が実効性が保証された、エビデンスに基づく政策といえるのだろうか。本授業では、この課題について一緒に学習したいと思う。
(16)授業の内 容予定	第1回 イン트로ダクション 第2回 昨今の教育政策をめぐる動向 第3回 インセンティブの効果 第4回 少人数学級の効果 第5回 教員政策の効果 第6回 学習者要因の影響の検討(1) 第7回 学習者要因の影響の検討(2) 第8回 家庭要因の影響の検討(1) 第9回 家庭要因の影響の検討(2) 第10回 学校要因の影響の検討(1) 第11回 学校要因の影響の検討(2) 第12回 教師要因の影響の検討(1) 第13回 教師要因の影響の検討(2) 第14回 指導方法要因の影響の検討(1) 第15回 指導方法要因の影響の検討(2)
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	【予習】教科書の指定する箇所を次回までに読解し、その内容に対するコメント(疑問、意見、わからない点など)を次回授業までにオンラインで提出する。
	教育学関連

(18)学問分野 1(主学問分野)	
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験 のある教員によ る授業科目につ いて	-
(20)教材・教 科書	ジョン・ハッティ (2018) 『教育の効果』 図書文化
(21)参考文献	中室牧子 (2015) 『「学力」の経済学』 Discover
(22)成績評価 方法及び採点基 準	平常評価 (コメントの提出、発表) : 50% 期末レポート : 50%
(23)授業形式	講義
(24)授業形 態・授業方法	○教科書の指定する箇所を次回までに読解し、その内容に対するコメント (疑問、意見、わからない点など) を次回授業までにオンラインで提出する。 ○発表担当者が作成したレジュメをもとに発表する。 ○発表担当者が提示する論点、また事前に提出してもらったコメントを踏まえ議論し、理解を深める。
(25)留意点・ 予備知識	特になし
(26)オフィス アワー	火曜日13時~15時
(27)Eメールア ドレス・HPア ドレス	kirimura%hirosaki-u.ac.jp (%を@に変更)
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	168
(2)区分番号	168
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	学校経営法規演習 (Educational Laws and School Management)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	教育科学サブコース：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日 7・8時限
(10)担当教員(所属)	桐村 豪文(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○学校経営にかかわる法規について、基本的事項について理解することができること ○学校経営について、法規の観点から多角的に思考することができること
(15)授業の概要	モンスターペアレント、ヘリコプターペアレントに代表される保護者の存在を前に、また一方では学校、家庭、地域社会の連携が求められる。そのような中において、今後の学校経営には、信頼関係の構築という声かけだけでは問題が解決するとは限らない。権利・義務という法的視点からも学校経営を理解する必要がある。この授業では、そのような観点から、学校法規・学校経営を学習する。
(16)授業の内容予定	第1回 オリエンテーション 第2回 学校教育の法化現象 第3回 学校教育と子ども・保護者の権利 第4回 教育権論争と学習指導要領の法的拘束力 第5回 学校教育における平等と法 第6回 学校教育における信教の自由・政教分離と法 第7回 学校事故と法(1) 第8回 学校事故と法(2) 第9回 学校における体罰と法 第10回 児童・生徒の懲戒と法 第11回 いじめ問題と法 第12回 学校と児童虐待防止法 第13回 教員の非違行為と法(1) 第14回 教員の非違行為と法(2) 第15回 学校・法・社会
	【予習】教科書の指定する箇所を次回までに読解し、その内容に対するコメント(疑問、意見、わからない点など)を次回授業までにオンラインで提出する。

(17)準備学習（予習・復習）等の内容	
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	法学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	坂田仰（2016）『学校と法—「権利」と「公共性」の衝突』放送大学
(21)参考文献	窪田眞二・小川友次（2019）『学校の法律がこれ1冊でわかる 教育法規便覧 2019年版』学陽書房
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（コメントの提出、発表）：50% 期末レポート：50%
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	○教科書の指定する箇所を次回までに読解し、その内容に対するコメント（疑問、意見、わからない点など）を次回授業までにオンラインで提出する。 ○発表担当者が作成したレジュメをもとに発表する。 ○発表担当者が提示する論点、また事前に提出してもらったコメントを踏まえ議論し、理解を深める。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	火曜日13時～15時
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	kirimura%hirosaki-u. ac. jp（%を@に変更）
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	169
(2)区分番号	169
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	教育社会学特殊講義 (Sociology of Education, Special Course)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	教育科学サブコース：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日 5・6時限
(10)担当教員 (所属)	宮崎 充治 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2~3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○アクティビティを駆使したワークショップ型の授業を体験し、その技法、そこでのグループワークの組織の仕方を理解すること ○教師としての省察の深め方を身につけること
(15)授業の概要	アクティビティ、とりわけ、演劇的な手法を教育現場に生かすことによって、子どもたちの発言、表現を促す方法を体験を通して学ぶ。また、それを担う教師自身の身体性についての気づきをうながし、省察によって深める方法とその理論について学んでいく。
(16)授業の内容 予定	第1回 オリエンテーション アイスブレイキングの技法 第2回 アイスブレイキングの技法2 第3回 授業デザイン① 対話型授業の成立の前提を考える。 第4回 オープンクエスションの技法 1 第5回 オープンクエスションの技法 2 第6回 ファシリテーション技術をみがく。 第7回 ドラマの技法 1 身体で表現する 第8回 ドラマの技法 2 フィクションをつかう。 第9回 ドラマの技法 3 演ずる。 第10回 授業デザイン② 演劇的手法を使った授業の可能性を考える。 第11回 絵本を使って、一時間の授業をつくる。 第12回 調べ学習のプレゼンテーションと身体表現 第13回 授業デザイン③ グループ学習の組織の仕方 第14回 教師としてのリフレクションを深める。 第15回 まとめ
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	毎回の授業の後、小レポートを課す。 授業前にグループ前に、アクティビティのファシリテーションの練習をすることがある。

(18)学問分野 1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある 教員による授業科目 について	実務教員
(20)教材・教科書	適宜配布する。
(21)参考文献	渡部淳+獲得型教育研究会編『学びへのウォーミングアップ』、『学びを変えるドラマの技法』
(22)成績評価方法及び採点基準	毎回の小レポートとアクティビティへの参加度。(80%) および、最終レポートによる考察で評価する。(20%)
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	様々なタイプのアクティビティを、実際に体験する。体験したことをその場で討議し、また事後でのふりかえりとして、小レポート作成を行う。
(25)留意点・予備知識	授業中、動いたり、床にすわったりすることがあります。多少汚れてもいい服装できてください。授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明する。
(26)オフィスアワー	木曜16:00-17:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	michi.miyazaki [at] hirosaki-u.ac.jp atを@に置き換えて利用してください。
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	170
(2)区分番号	170
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	教育社会学演習 (Sociology of Education, Seminar)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	教育科学サブコース：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 5・6時限
(10)担当教員(所 属)	宮崎 充治(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベ ル)	レベル2~3
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○演劇および演劇的な教育実践に学び、その意義、方法について検討すること ○実際に演劇的手法や演劇活動を通して、授業、行事、クラス経営で活用できる実践力の基礎を身につけること
(15)授業の概要	本講義においては、演劇と教育をめぐる二つの局面について、それぞれ、実践事例と理論から学び、また、実際に体験していただくことによって、それらを実践していく方法の基礎を学ぶ。 一つの局面は、上演を前提とせず、普段の授業やクラス作りにおいて活用できる演劇的手法による教育(ドラマ教育)についての実践事例、理論、方法である。 もう一つは、演劇や行事などでの表現活動として上演を前提とする演劇の教育についての実践事例、理論、方法である。 これら二つについて、実際に体験をし、事例を検討し、その背景となる理論を学ぶ。
(16)授業の内容予 定	第1回：オリエンテーション ドラマ教育とシアター教育 第2回：表現の場をつくる① アイスブレイクのファシリテーション技術 第3回：表現の場をつくる② 身体表現の方法 第4回：ドラマ教育の手法① フリーズフレーム 第5回：ドラマ教育の手法② ホットシーティング 第6回：ドラマ教育を授業に生かす① 第7回：ドラマ教育を授業に生かす② 第8回：中学校におけるクラス作りとクラスの演劇 第9回：高校における演劇科の教育実践 第10回：小学校における演劇指導 第11回：表現の場をつくる③ Yes Andの関係をつくる。 第12回：クラス劇づくりの実践① 第13回：クラス劇づくりの実践② 第14回：クラス劇づくりの実践③ 第15回：まとめ

(17)準備学習(予習・復習)等の内容	ファシリテーション技術を学ぶために、事前にアクティビティを学び、それを受講者相互に実践をしてもらうことがある。 劇作りでは、その準備、役等を実際に行うことがある。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	プリントで用意する。
(21)参考文献	渡部淳+獲得型教育研究会編『学びへのウォーミングアップ』、『学びを変えるドラマの技法』 絹川友梨『インプロゲーム』
(22)成績評価方法及び採点基準	授業での発表、また、毎回のコメントシート(60%) 最終の劇づくりへの参加(20%) 最終レポート(20%)
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	文献購読と適宜、講義を行う。 また、実際の体験やファシリテーションを行う。
(25)留意点・予備知識	授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明することとする。
(26)オフィスアワー	木曜日 7・8時限目
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	michi.miyazaki[at]hirosaki-u.ac.jp [at]は@に変更してください。
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	171
(2)区分番号	171
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	社会教育特殊講義 (Special Lecture on Adult and Community Education)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	教育科学サブコース：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日 9・10時限
(10)担当教員 (所属)	松本 大 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての 具体的到達目標	○貧困・社会的排除の社会問題を理解したうえで、それらの問題を解決するための教育的アプローチについて考察できること ○社会教育や成人教育という「学校教育以外の教育の可能性」を理解・考察できること
(15)授業の概要	「貧困・社会的排除と社会教育」を主題とする。貧困や社会的排除の意味や実態を理解したうえで、社会教育・成人教育に何ができるのかを考察する。前半は貧困・社会的排除に関する講義を行う。後半は文献講読を行い、貧困・社会的排除をめぐる社会教育実践の可能性を考察する。
(16)授業の内容 予定	第1回：オリエンテーション 第2回：貧困の現状 第3回：貧困の概念 第4回：社会的排除と潜在能力 第5回：学習支援と社会教育 第6回：子ども食堂と社会教育 第7回：就労支援と社会教育 第8回：中間まとめ 第9回：テキスト発表 (第1章と第2章) 第10回：テキスト発表 (第3章と第4章) 第11回：テキスト発表 (第5章と第6章) 第12回：テキスト発表 (第7章と第8章) 第13回：テキスト発表 (第9章と第10章) 第14回：テキスト発表 (第11章と第12章) 第15回：まとめ 授業の進行状況等により内容が異なる場合がある
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	(1) 発表担当者はレジュメを作成すること。それ以外の者はテキストを精読してこること。 (2) 新聞や書籍などで社会教育実践について自ら情報収集し、社会教育の事例に関する「引き出し」を増やすよう心がけること。

(18)学問分野 1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	上田幸夫・辻浩編著『現代の貧困と社会教育-地域に根ざす生涯学習-』国土社、2009年。
(21)参考文献	授業中に適宜紹介する。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への参加度（20%）、発表内容（40%）、最終レポート（40%）
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	前半は講義。後半は文献講読。
(25)留意点・予備知識	(1) 前年度までに生涯学習論を履修していることが望ましい。 (2) 子どもや学校教育についてはほとんど扱わない。 (3) 社会教育主事任用資格取得にかかわる必修科目である。
(26)オフィスアワー	木曜12時～13時
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	dai% hirosaki-u. ac. jp（%を@に変更）
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	172
(2)区分番号	172
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	社会教育演習 (Seminar on Adult and Community Education)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	教育科学サブコース：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 7・8時限
(10)担当教員(所属)	松本 大(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○公民館の歴史や理念を理解したうえで、これからのあり方や課題を考察できること ○社会教育や成人教育という「学校教育以外の教育の可能性」を理解・考察できること
(15)授業の概要	文献講読をとおして公民館について考察する。
(16)授業の内容予定	第1回：ガイダンス 第2回：テキスト①発表 (Ⅰ) 第3回：テキスト①発表 (Ⅱ-1、Ⅱ-2) 第4回：テキスト①発表 (Ⅱ-3、Ⅱ-4) 第5回：テキスト①発表 (Ⅱ-5、Ⅱ-6) 第6回：テキスト①発表 (Ⅱ-7、Ⅲ-1) 第7回：テキスト①発表 (Ⅲ-2) 第8回：テキスト②発表 (序章) 第9回：テキスト②発表 (第1章、第2章) 第10回：テキスト②発表 (第3章、第4章) 第11回：テキスト②発表 (第5章、第6章) 第12回：テキスト②発表 (第7章、第8章) 第13回：テキスト②発表 (第9章、終章) 第14回：全体のディスカッション 第15回：まとめ 授業の進行状況等により内容が異なる場合がある。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(1)発表担当者はレジュメを作成すること。それ以外の者はテキストを精読してくること。 (2)新聞や書籍などで社会教育実践について自ら情報収集し、社会教育の事例に関する「引き出し」を増やすよう心がけること。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-

(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	小林文人編『これからの公民館-新しい時代への挑戦-』国土社、1999年。 佐藤一子『「学びの公共空間」としての公民館-九条俳句訴訟が問いかけるもの-』岩波書店、2018年。
(21)参考文献	授業中に適宜紹介する。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への参加度（20%）、発表内容（40%）、最終レポート（40%）
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	文献講読
(25)留意点・予備知識	(1) 生涯学習論、社会教育特殊講義を履修していることが望ましい。 (2) 子どもや学校教育についてはほとんど扱わない。 (3) 社会教育主事任用資格取得にかかわる選択科目であるが、資格取得希望者はなるべく履修することが望ましい。
(26)オフィスアワー	木曜12時～13時
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	dai% hirosaki-u. ac. jp（%を@に変更）
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	174
(2)区分番号	174
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	心理学概論I (Introductory Psychology I)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	発達心理サブコース：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 7・8時限
(10)担当教員 (所属)	吉中 淳 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル1
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての 具体的到達目標	○心理学を学ぶ者ならば必ず知らなければならない重要テーマや心理学の研究法の基本的な考え方について、概要を理解すること (見通す力)
(15)授業の概要	心理学は教育心理学・発達心理学・人格心理学・社会心理学・臨床心理学など、いくつかの領域に区分されるが、特定領域だけの理解に偏るとかえって全体の理解を妨げる可能性がある。本講義では心理学の主要領域の、基礎的内容について幅広く学習する。
(16)授業の内容 予定	<p>第1回 ガイダンス 第2回 心理学と哲学 第3回 内観法とその限界 第4回 個性記述と法則定立 第5回 感覚・知覚 第6回 ゲシュタルト心理学 第7回 古典的学習心理学 第8回 学習心理学の教育への応用 第9回 古典的な記憶の研究 第10回 フロイトの精神分析 第11回 感情の構造 第12回 感情発生メカニズム 第13回 動機づけ 第14回 気質・性格・パーソナリティ 第15回 パーソナリティの把握 第16回 試験</p> <p>※授業の内容は変更することがあります。</p>
	重要人物の理論や関連するテクニカルタームについてはよく復習をしておいてください。

(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	
(18)学問分野 1(主学問分野)	心理学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある 教員による授業科目 について	-
(20)教材・教科書	授業中に教材を配布します。
(21)参考文献	授業中に適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採 点基準	授業内容を断片的にではなく、統合的に理解できているかどうかを確認するための期末試験で評価します(100%)。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義
(25)留意点・予備知識	比較的多く板書するので、それに基づいた復習をしっかりと行っていただきたいと思います。 また、関連する文献などを自力でも当たってみてほしいと思います。
(26)オフィスアワー	吉中のオフィスアワー：前後期ともに木曜日12:00~13:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	吉中のメールアドレス yosinaka@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特にありません。

教育学部

(1)整理番号	175
(2)区分番号	175
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	心理学概論II (Introductory Psychology II)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	発達心理サブコース：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 7・8時限
(10)担当教員 (所属)	吉中 淳 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル1
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての 具体的到達目標	○心理学を学ぶ者ならば必ず知らなければならない重要テーマや心理学の研究法の基本的な考え方について、概要を理解すること (見通す力)
(15)授業の概要	心理学は教育心理学・発達心理学・人格心理学・社会心理学・臨床心理学など、いくつかの領域に区分されるが、特定領域だけの理解に偏るとかえって全体の理解を妨げる可能性がある。本講義では心理学の主要領域の、基礎的内容について幅広く学習する。
(16)授業の内容 予定	第1回 ガイダンス 第2回 社会と個人 第3回 自我と自己 第4回 遺伝環境論争 第5回 知能 第6回 言語の発達 第7回 思考と創造性 第8回 バイアスと意思決定 第9回 同調と服従 第10回 集団力学 第11回 コミュニケーション 第12回 攻撃行動・援助行動 第13回 ロジャースと自己実現 第14回 様々な心理療法 第15回 心理学に対する異議 第16回 試験 ※授業の内容は変更することがあります。
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	重要人物の理論や関連するテクニカルタームについてはよく復習をしておい てください。

(18)学問分野 1(主学問分野)	心理学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	授業中に教材を配布します。
(21)参考文献	授業中に適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業内容を断片的にではなく、統合的に理解できているかどうかを確認するための期末試験で評価します(100%)。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義
(25)留意点・予備知識	比較的多く板書するので、それに基づいた復習をしっかりと行っていただきたいと思います。 また、関連する文献などを自力でも当たってみてほしいと思います。
(26)オフィスアワー	吉中のオフィスアワー：前後期ともに木曜日12:00~13:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	吉中のメールアドレス yosinaka@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特にありません。

教育学部

(1)整理番号	176
(2)区分番号	176
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	心理測定と統計 (Psychological Measurement and Statistics)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	発達心理サブコース：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日 7・8時限
(10)担当教員 (所属)	竹内 史宗 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル1
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての 具体的到達目標	○基礎的な心理統計的な考え方ができること (見通す力) ○統計的な検定のロジックとその意味について理解すること (見通す力) ○測定データの記述統計的な分析を行えること (解決する力)
(15)授業の概要	心理測定・統計の意義と技法 1) 心理学的研究における測定の理解, 2) 論文やレポート作成上, 必要とされる統計的な諸種の手法に習熟することを目標とする。例題を用いて初歩的な統計的検定とその結果の利用の仕方について演習を含めて講義する。
(16)授業の内容 予定	第1回 統計学とは 第2回 代表値 第3回 散布度 第4回 母集団と標本抽出 第5回 統計的仮説の検定 第6回 平均値の差の検定 (対応のない) 第7回 平均値の差の検定 (対応のある) 第8回 カイ二乗検定① 第9回 カイ二乗検定② 第10回 実験計画法と分散分析 第11回 論文を書いてみよう 第12回 助言と講評 第13回 分散分析② 第14回 分散分析③ 第15回 分散分析④ ※授業の進行状況等により内容が異なる場合がある
(17)準備学習 (予習・復習) 等 の内容	授業で実習した統計法を実際に練習して復習し、間違いなくできるようにすること。
	心理学関連

(18)学問分野 1(主学問分野)	
(18)学問分野 2(副学問分野)	応用数学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	授業中に資料、演習プリント、復習プリントを配布する。
(21)参考文献	適宜紹介する。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への参加度，期末試験などで評価する。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	例題を用いた演習を含めて講義が実施される。
(25)留意点・予備知識	平方根を開く程度の計算のできる電卓等を持参。
(26)オフィスアワー	世話教員 吉中のオフィスアワー 木曜日 12:00-13:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	世話教員 吉中のメールアドレス yosinaka@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし。

教育学部

(1)整理番号	177
(2)区分番号	177
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	心理学基礎実習（2年前）（psychological experiments and assessment）
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	発達心理サブコース：必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 5・6時限
(10)担当教員 （所属）	○田名場 忍（教育学部）・吉中 淳（教育学部）・安達 知郎（教育学部）・松田 侑子（教育学部）・新任教員（教育学部）
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 （レベル）	レベル2～3
(13)対応する CP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業とし ての具体的到 達目標	○代表的心理検査に関して、その理論的背景を理解すること ○心理検査実施、レポート作成の基礎を身につけること
(15)授業の概 要	性格検査（質問紙法・投影法・作業検査法）・知能検査について、教育臨床や心理臨床で用いられる代表的心理検査について、人間理解と援助に重要となるその内容や手続きを体験的に学びます。お互いに被検査者となり、あるいは自身を被検査者にしたデータを用い、結果の整理・分析と考察を行います。
(16)授業の内 容予定	第1回 ガイダンス 第2回 内田クレペリンの実施と解説 第3回 内田クレペリンの解釈 第4回 MMP I の実施 第5回 MMP I の解説 第6回 MMP I の解釈 第7回 知能検査総論 第8回 ウェックスラー法知能検査の実施 第9回 ウェックスラー法知能検査の解説 第10回 職業適性検査の実施 第11回 職業興味検査の実施 第12回 職業適性検査・職業興味検査の解説 第13回 ロールシャハの実施 第14回 ロールシャハの解説 第15回 ロールシャハの解釈 扱う検査・技法の順番が入れ替わることがあります。
(17)準備学習 （予習・復 習）等の内容	授業時間中に検査を実施し終えることは不可能です。各自、被検者と検査時間を確保して検査を実施し、検査ごとに、検査記録と詳細な考察・解釈レポートを提出すること。

(18)学問分野 1(主学問分野)	心理学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験 のある教員に よる授業科目 について	-
(20)教材・教 科書	各検査ごとに指示します。
(21)参考文献	各検査の担当教員より適宜紹介されます。参考文献は、図書館よりも、心理学教室・各担当教員研究室が豊富です。
(22)成績評価 方法及び採点 基準	各検査ごとにレポートを課し、その総合成績で評価します。
(23)授業形式	実験
(24)授業形 態・授業方法	授業時間に各心理検査の実習と解説を行います。
(25)留意点・ 予備知識	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年次に発達心理学専門科目を広く履修していること、および、この科目の受講と平行して発達心理学専門科目を深く学習することが必要です。 ・ 自分自身に誠実に向き合い、客観的に分析する力が必要です。 ・ 検査および検査結果の守秘を義務づけます。
(26)オフィス アワー	田名場オフィスアワー：前後期ともに水曜日9:00～10:00
(27)Eメール アドレス・HP アドレス	田名場eメールアドレス： etanaba@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	178
(2)区分番号	178
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	心理学基礎実習（2年後）（psychological experiments and assessment）
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	発達心理サブコース：必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日 3・4時限
(10)担当教員（所属）	○吉中 淳（教育学部）・田名場 忍（教育学部）・安達 知郎（教育学部）・松田 侑子（教育学部）・新任教員（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2～3
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての 具体的到達目標	○実験のしかたやレポートの書き方の基礎を身につけること（解決していく力） ○取り上げたテーマについて、実験に根ざした具体的な内容を学ぶこと（見通す力）
(15)授業の概要	初級心理学実験演習 知覚、記憶、学習、動機づけ、社会的印象など基礎心理学の諸領域における代表的ないくつかのテーマについて、実験演習を行います。複数名の教員がテーマを分担し指導します。
(16)授業の内容予定	第1回 ガイダンス 第2回 幾何学的錯視 第3回 同上実験実施 第4回 プライミング 第5回 同上実験実施 第6回 運動学習 第7回 同上実験実施 第8回 系列学習 第9回 同上実験実施 第10回 概念学習 第11回 同上実験実施 第12回 印象形成 第13回 同上実験実施 第14回 社会的態度尺度 第15回 同上実験実施 ※実験の内容や順番を変更することがあります。
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	単に実験を行ってレポートを書くだけでなく、テーマに取り上げられた心理学的概念に関する基礎知識を学習するとともに、データ分析の方法をしっかり身につけるようにしてください。
	心理学関連

(18)学問分野 1(主学問分野)	
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある 教員による授業 科目について	-
(20)教材・教科書	各テーマの担当教員より配布されます。
(21)参考文献	各テーマの担当教員より適宜紹介されます。
(22)成績評価方法 及び採点基準	テーマごとにレポートを課し、その総合成績で評価します。
(23)授業形式	実験
(24)授業形態・授 業方法	授業時間に実験についての解説を行います。通常、実験は当該授業日あるいは翌週までに終了し、受講者はその後1～2週間以内にレポートを提出します。レポートは最終評価までの間、都度添削の上返却されます。
(25)留意点・予備 知識	○事前に発達心理サブコース専門科目を広く履修していること、および、この科目の受講と平行して発達心理サブコース専門科目を深く学習することが必要です。 ○自分自身に誠実に向き合い、客観的に分析する力が必要です。
(26)オフィスア ワー	吉中のオフィスアワー：前後期ともに木曜日12:00～13:00
(27)Eメールアド レス・HPアドレ ス	吉中のEメールアドレス： yosinaka@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特にありません。

教育学部

(1)整理番号	179
(2)区分番号	179
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	心理学課題実験（3年前）（Independent Research in Psychology）
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	発達心理サブコース：必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 7・8時限
(10)担当教員（所 属）	○吉中 淳（教育学部）・田名場 忍（教育学部）・安達 知郎（教育学部） ・松田 侑子（教育学部）・新任教員（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベ ル）	レベル3~4
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具 体的到達目標	○心理学の専門論文を理解すること（見通す力） ○心理学の専門論文を作る基礎的能力とスキルを身につけること（解決 する力） ○自分の関心領域を明確にし、関連する専門論文を見つけ、研究計画を 立てること（学び続ける力）
(15)授業の概要	上級心理学実験実習 心理学の諸領域から各自テーマを選び、比較的小規模の実験や調査等を 含む個人研究を行う。
(16)授業の内容予定	第1回 研究進捗状況確認と発表日程確認 第2回 研究構想発表 第3回 研究構想発表 第4回 研究構想発表 第5回 研究構想発表 第6回 研究計画発表 第7回 研究計画発表 第8回 研究計画発表 第9回 研究中間発表 第10回 研究中間発表 第11回 研究中間発表 第12回 研究中間発表 第13回 研究結果発表 第14回 研究結果発表 第15回 研究結果発表
(17)準備学習（予 習・復習）等の内容	〔予習〕 テーマとして取り上げた心理学的概念に関する知識を文献等により深く学習するとともに、データ分析の方法及び考察の進め方をしっかり身につけることが望ましい。 〔復習〕 授業中に受けた指摘の意味を理解すること。また、他の学生の研究テーマ、分析手法、それに対する教員らの指摘で自分の研究の参考になりそうなことを復習すること。
	心理学関連

(18)学問分野1(主 学問分野)	
(18)学問分野2(副 学問分野)	-
(18)学問分野3(副 学問分野)	-
(19)実務経験のある 教員による授業科目 について	-
(20)教材・教科書	使用しません。
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及 び採点基準	研究計画発表，中間報告，結果発表，及び，提出された論文で評価する (90%)。 授業時間中における，他学生の発表に対する質問や批判の回数と深さも 評価対象となる(10%)。
(23)授業形式	実験
(24)授業形態・授業 方法	研究の計画，遂行にあたっては，1名の教員から適宜個人指導を受ける が，授業時間には，研究計画発表，中間報告，結果発表を行う。その上 で論文提出が義務づけられている。
(25)留意点・予備知 識	心理学実験または心理学基礎実習を履修していなければならない。
(26)オフィスアワー	吉中のオフィスアワー 前後期とも木曜日12:00~13:00
(27)Eメールアドレス ・HPアドレス	吉中のメールアドレス yosinaka@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	180
(2)区分番号	180
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	心理学課題実験（3年後）（Independent Research in Psychology）
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	発達心理サブコース：必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日 7・8時限
(10)担当教員（所 属）	○吉中 淳（教育学部）・田名場 忍（教育学部）・安達 知郎（教育学部）・松田 侑子（教育学部）・新任教員（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベ ル）	レベル3~4
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具 体的到達目標	○心理学の専門論文を理解すること（見通す力） ○心理学の専門論文を作る基礎的能力とスキルを身につけること（解決する力） ○自分の関心領域を明確にし、関連する専門論文を見つけ、研究計画を立てること（学び続ける力）
(15)授業の概要	上級心理学実験実習 心理学の諸領域から各自テーマを選び、比較的小規模の実験や調査等を含む個人研究を行う。
(16)授業の内容予定	第1回 研究進捗状況確認と発表日程確認 第2回 研究構想発表 第3回 研究構想発表 第4回 研究構想発表 第5回 研究構想発表 第6回 研究計画発表 第7回 研究計画発表 第8回 研究計画発表 第9回 研究中間発表 第10回 研究中間発表 第11回 研究中間発表 第12回 研究中間発表 第13回 研究結果発表 第14回 研究結果発表 第15回 研究結果発表
(17)準備学習（予 習・復習）等の内容	〔予習〕テーマとして取り上げた心理学的概念に関する知識を文献等により深く学習するとともに、データ分析の方法及び考察の進め方をしっかり身につけることが望ましい。 〔復習〕授業中に受けた指摘の意味を理解すること。また、他の学生の研究テーマ、分析手法、それに対する教員らの指摘で自分の研究の参考になりそうなことを復習すること。
	心理学関連

(18)学問分野1(主 学問分野)	
(18)学問分野2(副 学問分野)	-
(18)学問分野3(副 学問分野)	-
(19)実務経験のある 教員による授業科目 について	-
(20)教材・教科書	使用しません。
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及 び採点基準	研究計画発表，中間報告，結果発表，及び，提出された論文で評価する (90%)。 授業時間中における，他学生の発表に対する質問や批判の回数と深さも 評価対象となる(10%)。
(23)授業形式	実験
(24)授業形態・授業 方法	研究の計画、遂行にあたっては、1名の教員から適宜個人指導を受ける が、授業時間には、研究計画発表、中間報告、結果発表を行う。その上 で論文提出が義務づけられている。
(25)留意点・予備知 識	心理学実験または心理学基礎実習を履修していなければならない。
(26)オフィスアワー	吉中のオフィスアワー 前後期とも木曜日12:00~13:00
(27)Eメールアドレス ・HPアドレス	吉中のメールアドレス yosinaka@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	181
(2)区分番号	181
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	心理学演習（2年）（General Psychology, Primary Seminar）
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	発達心理サブコース：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日 1・2時限
(10)担当教員 （所属）	田名場 忍（教育学部）
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 （レベル）	レベル2～3
(13)対応する CP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業とし ての具体的到達 目標	○英語文献の読み方の基礎を身につけるとともに、取り上げた領域における 見方・考え方を理解すること
(15)授業の概 要	心理学について理解を深め、自らも心理学研究を行っていく上では、英語文 献の読み方を身につけることが必要となる。この授業では、海外の心理学著 書・論文を輪読することを通じて、英語文献になじむとともに、取り上げた 領域の見方・考え方及び心理学研究の基礎について学ぶ。
(16)授業の内 容予定	第1回 ガイダンス、テキストの概観 第2回 担当教員予備的講義 第3回 洋書輪読（基礎） 第4回 洋書輪読（導入） 第5回 洋書輪読（展開） 第6回 洋書輪読（発展） 第7回 洋書輪読（まとめ） 第8回 中間討議および関連する研究の学習 第9回 中間討議および関連する研究の学習 第10回 洋書輪読（基礎） 第11回 洋書輪読（導入） 第12回 洋書輪読（展開） 第13回 洋書輪読（発展） 第14回 洋書輪読（まとめ） 第15回 全体のまとめ ※授業の進行状況等により、各回の内容が変更される場合がある。
(17)準備学習 （予習・復習） 等の内容	毎回必ずテキストの英文和訳の予習をするとともに、授業で扱われた内容に ついて、しっかり復習をすること。

(18)学問分野 1(主学問分野)	心理学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験 のある教員によ る授業科目につ いて	-
(20)教材・教 科書	授業中にプリントを配布する。
(21)参考文献	授業中に適宜紹介する予定である。
(22)成績評価 方法及び採点基 準	文献の内容把握、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加、レポートなどの提出物等から総合的に評価する。
(23)授業形式	演習
(24)授業形 態・授業方法	演習形式で英語文献の輪読をするとともに、扱う内容の具体的理解のために、関連する研究について学ぶ部分を含む。
(25)留意点・ 予備知識	毎時間英語の辞書を持参すること。また可能な限り心理学辞典(英語表記、欧文事項索引のあるものがよい)を持参することが望ましい。
(26)オフィス アワー	田名場オフィスアワー：前後期ともに水曜日9:00~10:00
(27)Eメールア ドレス・HPア ドレス	田名場eメールアドレス： etanaba@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	182
(2)区分番号	182
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	心理学演習（3年）（General Psychology, Primary Seminar）
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	発達心理サブコース：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日 1・2時限
(10)担当教員 （所属）	田名場 忍（教育学部）
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 （レベル）	レベル2～3
(13)対応する CP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業とし ての具体的到達 目標	○英語文献の読み方の基礎を身につけるとともに、取り上げた領域における 見方・考え方を理解すること
(15)授業の概 要	心理学について理解を深め、自らも心理学研究を行っていく上では、英語文 献の読み方を身につけることが必要となる。この授業では、海外の心理学著 書・論文を輪読することを通じて、英語文献になじむとともに、取り上げた 領域の見方・考え方及び心理学研究の基礎について学ぶ。
(16)授業の内 容予定	第1回 ガイダンス、テキストの概観 第2回 担当教員予備的講義 第3回 洋書輪読（基礎） 第4回 洋書輪読（導入） 第5回 洋書輪読（展開） 第6回 洋書輪読（発展） 第7回 洋書輪読（まとめ） 第8回 中間討議および関連する研究の学習 第9回 中間討議および関連する研究の学習 第10回 洋書輪読（基礎） 第11回 洋書輪読（導入） 第12回 洋書輪読（展開） 第13回 洋書輪読（発展） 第14回 洋書輪読（まとめ） 第15回 全体のまとめ ※授業の進行状況等により、各回の内容が変更される場合がある。
(17)準備学習 （予習・復習） 等の内容	毎回必ずテキストの英文和訳の予習をするとともに、授業で扱われた内容に ついて、しっかり復習をすること。

(18)学問分野 1(主学問分野)	心理学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験 のある教員によ る授業科目につ いて	-
(20)教材・教 科書	授業中にプリントを配布する。
(21)参考文献	授業中に適宜紹介する予定である。
(22)成績評価 方法及び採点基 準	文献の内容把握、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加、レポートなどの提出物等から総合的に評価する。
(23)授業形式	演習
(24)授業形 態・授業方法	演習形式で英語文献の輪読をするとともに、扱う内容の具体的理解のために、関連する研究について学ぶ部分を含む。
(25)留意点・ 予備知識	毎時間英語の辞書を持参すること。また可能な限り心理学辞典(英語表記、欧文事項索引のあるものがよい)を持参することが望ましい。
(26)オフィス アワー	田名場オフィスアワー：前後期ともに水曜日9:00~10:00
(27)Eメールア ドレス・HPア ドレス	田名場eメールアドレス： etanaba@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	183
(2)区分番号	183
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	心理学演習（4年）（General Psychology, Primary Seminar）
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	発達心理サブコース：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日 1・2時限
(10)担当教員 （所属）	田名場 忍（教育学部）
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 （レベル）	レベル2～3
(13)対応する CP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業とし ての具体的到達 目標	○英語文献の読み方の基礎を身につけるとともに、取り上げた領域における 見方・考え方を理解すること
(15)授業の概 要	心理学について理解を深め、自らも心理学研究を行っていく上では、英語文 献の読み方を身につけることが必要となる。この授業では、海外の心理学著 書・論文を輪読することを通じて、英語文献になじむとともに、取り上げた 領域の見方・考え方及び心理学研究の基礎について学ぶ。
(16)授業の内 容予定	第1回 ガイダンス、テキストの概観 第2回 担当教員予備的講義 第3回 洋書輪読（基礎） 第4回 洋書輪読（導入） 第5回 洋書輪読（展開） 第6回 洋書輪読（発展） 第7回 洋書輪読（まとめ） 第8回 中間討議および関連する研究の学習 第9回 中間討議および関連する研究の学習 第10回 洋書輪読（基礎） 第11回 洋書輪読（導入） 第12回 洋書輪読（展開） 第13回 洋書輪読（発展） 第14回 洋書輪読（まとめ） 第15回 全体のまとめ ※授業の進行状況等により、各回の内容が変更される場合がある。
(17)準備学習 （予習・復習） 等の内容	毎回必ずテキストの英文和訳の予習をするとともに、授業で扱われた内容に ついて、しっかり復習をすること。

(18)学問分野 1(主学問分野)	心理学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験 のある教員によ る授業科目につ いて	-
(20)教材・教 科書	授業中にプリントを配布する。
(21)参考文献	授業中に適宜紹介する予定である。
(22)成績評価 方法及び採点基 準	文献の内容把握、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加、レポートなどの提出物等から総合的に評価する。
(23)授業形式	演習
(24)授業形 態・授業方法	演習形式で英語文献の輪読をするとともに、扱う内容の具体的理解のために、関連する研究について学ぶ部分を含む。
(25)留意点・ 予備知識	毎時間英語の辞書を持参すること。また可能な限り心理学辞典(英語表記、欧文事項索引のあるものがよい)を持参することが望ましい。
(26)オフィス アワー	田名場オフィスアワー：前後期ともに水曜日9:00～10:00
(27)Eメールア ドレス・HPア ドレス	田名場eメールアドレス： etanaba@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	184
(2)区分番号	184
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	社会心理学 (Social Psychology)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 3・4時限
(10)担当教員(所属)	田名場 忍(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2~3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的な到達目標	○講義内容の理解に基づいて、自分や周囲の人々の意識や行動を検討できる力を身につけること
(15)授業の概要	人は周囲の人々や出来事をどのようにとらえていくのだろうか、人は周囲の人々からどのような影響を受けて行動していくのだろうか、適切なリーダーシップはどのような観点から考えていけばいいのだろうか。この講義では、こうした日常のさまざまな疑問に沿いながら、リーダーシップの基礎となる社会的認知の研究から出発し、対人行動、集団の研究を経て、リーダーシップ研究に迫っていく。
(16)授業の内容予定	<p>第1回 ガイダンス、他者を知る：印象形成・暗黙の人格観・ステレオタイプ</p> <p>第2回 人の行動や関係・出来事を知る(1)社会的知覚・帰属理論</p> <p>第3回 人の行動や関係・出来事を知る(2)バランス理論・認知的不協和理論</p> <p>第4回 人を動かすもの(1)：社会的動機づけ・要求水準</p> <p>第5回 人を動かすもの(2)：自己ハンディキャップ化・達成動機と成功恐怖</p> <p>第6回 他者を好きになる：近接性・身体的魅力・態度の類似性・好意の返報性</p> <p>第7回 他者とやりとりをする：言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション</p> <p>第8回 他者の気持ちを変える：説得・態度変容・心理的リアクタンス理論・接種理論</p> <p>第9回 集団をつくる：集団・集団の形成</p> <p>第10回 集団の中での行動(他者がいることの影響)(1)：社会的促進・社会的手抜き</p> <p>第11回 集団の中での行動(他者がいることの影響)(2)：集団分極化・集団規範</p> <p>第12回 集団成員を動かす(1)：リーダーとフォロアー</p> <p>第13回 集団成員を動かす(2)：リーダーシップ特性理論・PM理論</p>

	第14回 集団成員を動かす(3) : 状況即応モデル・S L理論 第15回 学習状況の確認(試験含む)と振り返り
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業時に適宜指示する。
(18)学問分野1(主学問分野)	心理学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	社会学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	教育学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	授業時にプリントを配布する。
(21)参考文献	潮村・福島編著 2007 社会心理学概説 北大路書房
(22)成績評価方法及び採点基準	期末試験を行い、成績評価する。 成績評価にあたっては、講義内容の理解に基づいて自分や周囲の人々の行動を検討できる力をどの程度身につけたかを重視する。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式で実施します。
(25)留意点・予備知識	生涯教育課程の「リーダーシップ心理学」に読み替えることができる。
(26)オフィスアワー	田名場オフィスアワー：前後期ともに水曜日9:00～10:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	田名場eメールアドレス： etanaba@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	185
(2)区分番号	185
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	教育心理学 (Educational Psychology)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 3・4時限
(10)担当教員(所属)	吉崎 聡子 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○講義内容を通して、教育について多面的に考察できるようになること
(15)授業の概要	教育心理学とは「教育という事象を理論的実証的に明らかにし、教育の改善に資するための学問(日本教育心理学会、2003)」です。この講義ではこれまでに自身が受けてきた教育を振り返り、その内容について理論的実証的に検証するためのベースとなる学習のメカニズム、人間の発達、学級集団の心理、教師や親の支援などについて学びます。
(16)授業の内容予定	第1回 ガイダンス 教育心理学とは 第2回 学習の原理 第3回 記憶と忘却 第4回 動機づけ 第5回 教授法 第6回 教育評価 第7回 発達に関する基礎理論 第8回 認知の発達 第9回 社会性の発達 第10回 生涯発達と教育 第11回 発達障害の諸相 第12回 子どもたちへの支援 第13回 学級集団と子ども 第14回 教師と子どもの人間関係 第15回 社会と学校組織と教育 第16回 試験

(17)準備学習 (予習・復習)等の内容	講義内容の復習に力を入れて下さい。日常の中で教育についての疑問を持つように心がけて下さい。
(18)学問分野 1(主学問分野)	心理学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	授業中に資料を配付します。
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価(授業への参加と内容理解のミニテスト)30%、期末評価(期末筆記試験)70%とし、これらを総合して、最終的な成績評価を行います。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式ですが、受講者同士でのディスカッションを行うこともあります。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	火曜日12:00~13:00
(27)Eメール アドレス・HP アドレス	kotosa@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	187
(2)区分番号	187
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	臨床心理学 (Clinical Psychology)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員 (所属)	安達 知郎 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○心理支援のひとつであるカウンセリング理論の概要を学修するとともに、カウンセリングの基礎的技法を習得すること
(15)授業の概要	カウンセリング理論の講義、および、カウンセリングの基礎的技法の実習を行います。
(16)授業の内容予定	<p>第1回 カウンセリングの基礎理論① (カウンセリングの専門性)</p> <p>第2回 カウンセリングの基礎理論② (諸理論の特徴、布置)</p> <p>第3回 DVD (学校教育とカウンセリング。教師、SC)、カウンセリングの基礎技法① (マイクロカウンセリング)</p> <p>第4回 他職種連携 (論文説明)、DVD (家族療法。中釜先生)</p> <p>第5回 他職種連携RP① (打ち合わせ10分。1グループ分 (1グループ: RP15分、振り返り用紙記入5分、検討20分))</p> <p>第6回 他職種連携RP②2グループ分</p> <p>第7回 カウンセリングの基礎技法 (PCA)</p> <p>第8回 DVD (ロジャーズ)、シェアリング、傾聴訓練</p> <p>第9回 イヌネコ法説明、個人RP (ロールプレイ) (デモ。30分)</p> <p>第10回 個人RP体験①</p> <p>第11回 個人RP検討①</p> <p>第12回 個人RP検討②</p> <p>第13回 個人RP検討③</p> <p>第14回 個人RP検討④</p> <p>第15回 個人RP検討⑤</p> <p>* 授業の内容、進度は状況によって変更になる場合があります。</p>
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	自らのこれまでの体験を授業内容に合わせふりかえる
(18)学問分野1(主学問分野)	心理学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
	-

(18)学問分野3(副学問分野)	
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	適宜、授業中に配布します。
(21)参考文献	適宜、授業中に紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業態度(80%)、レポート(20%)
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義、および演習
(25)留意点・予備知識	特にありません。
(26)オフィスアワー	水曜日 12:00~12:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	adachi あつとまーく hirosaki-u. ac. jp
(28)その他	本授業は平成30年度、開講予定だった科目です。2年生は来年度開講予定の「臨床心理学」を受講してください。

教育学部

(1)整理番号	188
(2)区分番号	188
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	幼児教育学 (Preschool Education)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 7・8時限
(10)担当教員(所属)	武内 裕明 (教育学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○現代の幼児教育で注目されている多様な問題やトピックに関して、適切な知識を背景として論理的に説明できること (見通す力) ○幼児教育を多面的に把握し、その重要性を説明できること (見通す力) ○根拠に基づいて地域の幼児教育の課題を分析し、建設的な対応策を提案できること (解決する力)
(15)授業の概要	<p>現在の幼児教育では、単に教育目標の達成を目指すばかりでなく、地域の課題や学びの文脈等を踏まえて構想されなければならない、単一の明快な答えのない複雑な状況に対処することが必要とされています。そのような能力は、保育者の重要な専門性の一部をなしています。幼児教育の現代の論争点を踏まえてそれを解決できる専門性を獲得することを目的として、本授業では主要な問題に関して知識を背景に適切なアプローチを考案できるようになることをめざします。本授業では、主として現代の幼児教育において注目されているトピックや主要な問題を概観します。また青森県や県内の具体的な地域のデータを事例に、幼児教育の変化を予想し、グループで今後の課題に対する対応策を検討します。</p>

(16)授業の内容予定	<p>この講義では、毎回現代の幼児教育に関連する幅広いトピックを取り扱って基本的な理解を築きます。また、後半では、青森県の具体的な地域に焦点化して、グループで将来の変化を予想し、対応策を検討します。授業予定は人数や進度、理解度等に応じてシラバスの内容から変更されることがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主体としての幼児の「発見」 2. 幼児理解 3. 保育の質と保育者の専門性 4. 保育における計画と評価 5. S I C S の観点をを用いた評価演習 6. 幼小連携・接続の現状と課題 7. 障害幼児の保育 8. 子育て支援 9. 多文化保育 10. 世界の幼児教育 11. 世界の幼児教育の事例 12. 青森県の子育て環境 13. 青森県の事例から見る認定こども園 14. データから考える地域の幼児教育の今後と課題と対応策の検討 15. グループワークの発表とディスカッション 16. 期末試験
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	<p>〔予習〕事前に指定する資料を読むことが必要です。グループワークでは、各自が分担した内容を調査してくる必要があります。</p> <p>〔復習〕基本的に授業から2日後までに、小課題に関するコメントペーパーを提出する必要があります（授業日が臨時で変わる際には指示をします）。関連する参考文献も読むことが推奨されます。グループワークでは、授業で持ち寄った情報を基に資料を作成し、追加の情報収集が必要になります。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	社会学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書は使用されません。授業中、適宜プリントが配布されます。
(21)参考文献	<p>エドワーズ 他、佐藤学 他訳『子どもたちの100の言葉』世織書房、2001 松田茂樹『何が育児を支えるのか』勁草書房、2008 佐々木弘子、鳴門教育大学学校教育学部附属幼稚園『なめらかな幼小の連携教育』チャイルド本社、2004 白井千晶、岡野晶子 編著『子育て支援制度と現場』新泉社、2009 諏訪きぬ 監修『保育における感情労働』北大路書房、2011</p>
	<p>小課題（30%） グループワーク（20%）</p>

(22)成績 評価方法 及び採点 基準	試験（50％）で評価します。 小課題は授業内容の理解を問うとともに、自分の意見を適切な考察のもとに説明できているかを問います。 グループワークでは、作業への貢献や発表内容、議論などを総合的に考慮します。 試験では授業内容の基礎的な理解を問うだけでなく、関連する内容を扱う応用的課題も出題します。
(23)授業 形式	講義
(24)授業 形態・授 業方法	講義とグループワークで進めます。
(25)留意 点・予備 知識	幼稚園教諭一種免許状取得のための必修科目です。
(26)オフ イスア ワ ー	木7・8時限 時間外でも都合のつく範囲で対応しますので、相談してください。
(27)Eメ ールアド レス・HP アドレス	Email : hiloakit@hirosaki-u.ac.jp
(28)その 他	試験の答えは採点后（2-3週間後）に返却します。

教育学部

(1)整理番号	189
(2)区分番号	189
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	幼児教育学演習 (Seminar on Preschool Education)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 5・6時限
(10)担当教員(所属)	武内 裕明 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○幼児教育の現代的な教育に関する問題に関して、特定のテーマを定め、協働して必要な調査が行えること (解決する力) ○幼児教育学において要求される水準で、文献を根拠に基づいて批判的に検討することができること (解決する力) ○幼児教育に関する調査内容を目的に即して発表し、他者の意見を基に修正できること (学び続ける力)
(15)授業の概要	<p>近年社会的に強調されているグループで正解のない課題に対応していく力を養うために、授業は演習形式で行います。教員からのガイダンスや概論の後に、幼児教育に関連する調査したいテーマを選んでグループを作り、テーマに基づいて発表を行い、批判的に検討することを重視してディスカッションを行います。レビューとディスカッションを行いながら共同で学びを深めていき、同じテーマに関してさらに内容を充実させて再度発表し、議論します。複数のグループが同一の問題に取り組むことで、それぞれの調査の独創性を明確にするとともにより高い質の内容にすることをめざします。</p>

(16)授業 の内容予定	<p>この授業では、現在の幼児教育に関連するテーマを設定し、共同で同じテーマに取り組み発表と質疑を行う形で授業を進めます。下の例は4グループ体制で2回の発表を行う例ですが、グループ数やテーマ等によって変更されるもので、あくまで参考例です。今年度は、現代の幼児教育を理解するために、現代の幼児教育と過去の幼児教育を観点を定めて比較してもらいます。比較対象としておおよそ昭和後半以降の幼児教育雑誌を使用することにします。過去の実践や議論に触れることで、幼児教育の不易と流行、強調点の違いなどを実感しつつ、現在の幼児教育への理解を深めてもらいたいと思います。</p> <p>第1回：ガイダンスー活動内容の説明ー・調査発表の様式と留意点 第2回：戦後の幼児教育と現代の幼児教育 第3回：グループ決定と方針の策定・発表打ち合わせ（教員への疑問点等の確認含む） 第4回：発表打ち合わせ・準備作業 第5回：幼児教育観について：調査報告とディスカッション（グループ1） 第6回：幼児教育の論争点について：調査報告とディスカッション（グループ2） 第7回：保育内容の指導について：調査報告とディスカッション（グループ3） 第8回：幼児の指導形態について：調査報告とディスカッション（グループ4） 第9回：第2回発表に向けた方針の調整 第10回：第2回発表に向けた資料収集と準備 第11回：幼児教育の目的に関する議論について（第2回発表とディスカッション）グループ1 第12回：子どもの権利について（第2回発表とディスカッション）グループ2 第13回：保育におけるコンテンツと指導計画について（第2回発表とディスカッション）グループ3 第14回：幼児の指導方法について（第2回発表とディスカッション）グループ4 第15回：50年の幼児教育の変化から（まとめ） 定期試験 なし</p>
(17)準備 学習（予 習・復習） 等の内容	<p>〔予習〕テーマ・グループ決定以前には、指定の資料を読むことや、関心を定めるために関係する領域について調査することが求められます。発表準備期間以降は、グループのテーマに関連する文献を収集し、読み、グループ活動に向けて整理してることが求められます。また、他のグループの発表資料は、基本的に発表の前の週の授業で配布することを義務づけるので、その内容を読み、必要な準備を行なうことで、質の高い議論を行なえるようにしてください</p> <p>〔復習〕テーマ・グループ決定以前は、授業を受けて関心のある分野を追加で調査してテーマ決定に必要な情報を収集してください。テーマ・グループ決定以降は、時間外で共同のテーマについて検討を行ない、発表資料を作成する作業を行なってください。また、示された参考文献を読むことが望まれます。</p>
(18)学問 分野1(主 学問分野)	教育学関連
(18)学問 分野2(副 学問分野)	社会学関連
(18)学問 分野3(副 学問分野)	-
(19)実務 経験のある 教員による 授業科目に ついて	-
(20)教 材・教科書	教科書は使用されません。授業中、適宜プリントが配布されます。

(21)参考文献	『幼稚園教育要領』2017 松下佳代編著『＜新しい能力＞は教育を変えるか』ミネルヴァ書房、2010 その他、適宜紹介します
(22)成績 評価方法及び 採点基準	個別の発表（40%）、議論への貢献（30%）と全体課題に対する最終レポート（30%）で評価します。 レポートは、授業で示すルーブリックによって評価します。 引用等は基礎的な事項であるため、適切な引用ルールに従わない発表・レポートは評価の対象外になります。 議論への貢献は、まずは質疑を行うことによって評価します。その上で、内容の的確さや、議論での重要性を考慮して評価します。発表者側の的確な対応は、発表の水準に対する評価に反映します。ディスカッションでは、どのような証拠に基づいて議論を構築しているか、また質疑を行っているかが重視されます。
(23)授業 形式	演習
(24)授業 形態・授業 方法	基本的にはグループ単位で調査を行ない、発表と討議を行います。必要な情報提供については講義も用います。
(25)留意 点・予備知 識	幼稚園教諭一種免許状取得のための必修科目です。 授業は大学3年生として求められる調査能力を水準とするため、一定程度の水準の報告がされない場合には教員による講評は厳しいものになります。 引用などの基本的な大学で必要とされる約束事項はすでに基礎ゼミナール等を通じて学んでいることを前提とします。
(26)オフ イスアワー	木7・8時限 時間外でも都合のつく範囲で対応しますので、相談してください。
(27)Eメー ルアドレ ス・HPア ドレス	Email : hiloakit@hirosaki-u.ac.jp
(28)その 他	「文献に書いてある＝正しい」という判断を行わないように注意してください。 情報は玉石混淆であり、妥当な情報を吟味して提示する責任は調査者にあります。 出版された内容であっても、どのような根拠に基づいているのかは自分で確認して評価する習慣をつけてください。理解する習慣をつけるためにも、学んだ内容の言い換えを推奨します。 レポートは評価後（2-3週間後）返却します。

教育学部

(1)整理番号	190
(2)区分番号	190
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	幼児心理学 (Preschool Psychology)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日 7・8時限
(10)担当教員 (所属)	野崎 茉莉(教育学部)
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応する CP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業とし ての具体的到 達目標	○幼い子どもの発達の全体像を詳しくイメージできること(見通す力) ○子どもの心の発達に関する重要な理論・考え方を理解すること(見通す力)
(15)授業の概 要	本講義では、学校教員・幼稚園教諭・保育士として必要とされる幼児心理学・発達心理学に関する基本的な知識が習得できるよう、運動・認知・言語・社会性の発達などについて幅広く学ぶ。それに加えて、心の発達を理解するために重要な理論(研究方法・発達の原理・個人差のとらえ方など)についても学ぶ。
(16)授業の内 容予定	1. オリエンテーション 2. 発達心理学とは 3. 生涯発達の視点 4. 胎児期・周産期 5. 感覚・運動の発達 6. 認知の発達 7. 言語の発達 8. 感情の発達 9. 自己・他者理解の発達 10. 道徳性の発達 11. 学習の理論 12. 動機づけの理論 13. 発達における個人差(1) 遺伝と環境 14. 発達における個人差(2) 障害と支援 15. まとめと試験 *進捗状況に応じて、授業の内容は適宜変更する可能性がある。
(17)準備学習 (予習・復 習)等の内容	予習：シラバスの内容予定に関連するような子どもに関する報道に目を留めて考察する。 復習：幅広い内容について取り扱うため、その都度、基本的用語・重要人物に

	<p>ついて、配布資料に基づいて復習する。 * 予習・復習は、最低でも各1時間程度行う必要がある。</p>
(18)学問分野 1(主学問分野)	心理学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験 のある教員に よる授業科目 について	-
(20)教材・教 科書	開一夫・齋藤慈子(編) 「ベーシック発達心理学」2018, 東京大学出版会
(21)参考文献	授業内で適宜紹介する。
(22)成績評価 方法及び採点 基準	<p>①試験(70%) ②授業内で適宜提出を求めるリアクションペーパー(20%) ③授業への参加態度(10%)</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形 態・授業方法	講義中心、必要に応じてディスカッションを行う。
(25)留意点・ 予備知識	幼稚園教諭一種免許取得のための必修科目である。
(26)オフィス アワー	木曜 16:00-17:00
(27)Eメール アドレス・HP アドレス	nozaki@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	191
(2)区分番号	191
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	幼児心理学演習 (Seminar on Preschool Psychology)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日 3・4時限
(10)担当教員(所属)	野崎 茉莉(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○研究論文の基本スタイル、幼児心理学の研究の進め方や分析方法について理解すること(見通す力) ○卒業研究に向けての意欲を高め、先行研究を参考に自分なりの研究計画を考えることができること(解決する力) ○これまでに得た乳幼児教育の知識を生かして、子育てをめぐる現代の課題について考察することができること(学び続ける力)
(15)授業の概要	幼児心理学分野の研究論文を読むことを通じて、研究論文の基本的スタイル、研究の進め方、を学ぶ。自分で先行研究を検索し、研究計画の立案にも取り組む。 また、子育てをめぐる近年どのような課題が生じているのか調べ、その背景について考察する。
(16)授業の内容予定	1. 授業説明・グループ分け 2. 論文購読①(1) 背景と目的とは 3. 論文購読①(2) 方法とは 4. 論文購読①(3) 基本的な統計の理解 5. 論文購読①(4) 考察とは 6. 文献検索の方法について 7. 論文購読②(1) 図表の読み取り 8. 論文購読②(2) ポイントの復習 9. 論文購読②(3) 要約を書いてみる 10. 研究計画を考える(1) グループで論文を読む 11. 研究計画を考える(2) グループで研究計画を考える 12. グループ発表① 研究計画 13. 子育てをめぐる現代の課題(1) 事例紹介・テーマ決め 14. 子育てをめぐる現代の課題(2) 発表準備 15. グループ発表② 子育てをめぐる現代の課題 *進捗状況に応じて、授業の内容は適宜変更する可能性がある。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習：指定した文献を事前によく読み込む。 発表会では、パワーポイントやワードを用いてわかりやすい資料を作成する。授業時間外にグループでの作業が必要となる場合がある。 復習：新しく学んだことをよくふり返り、自分で研究論文を検索して

	<p>読んでみる。 * 予習・復習は、最低でも各1時間程度行う必要がある。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	心理学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特に指定しない。
(21)参考文献	<p>松井 豊「改訂新版 心理学論文の書き方——卒業論文や修士論文を書くために」河出書房, 2010 西口利文・松浦 均(編)「心理学実験法・レポートの書き方 心理学基礎演習Vol.1」ナカニシヤ出版, 2008</p>
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>①最終レポート(60%) ②グループでの演習への取り組み(10%) ③発表への取り組み(30%)</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	<p>グループに分かれて演習問題を解きながら論文を読む。 グループごとに研究計画を考えてパワーポイントを使って発表する。</p>
(25)留意点・予備知識	<p>幼稚園教諭一種免許取得のための必修科目である。 幼児心理学の基礎知識を持っていることを前提とするため、「幼児心理学」等の関連科目を履修済みであることが望ましい。</p>
(26)オフィスアワー	木曜16:00-17:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	nozaki@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	192
(2)区分番号	192
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	日本語学I (Japanese Linguistics I)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等（小・国語サブコース）・初等中等（中コース国語）・特支（中コース国語）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 7・8時限
(10)担当教員（所属）	今村 かほる（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル1～2
(13)対応するC P/D/P	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての 具体的到達目標	○母語としての日本語を、世界の言語の中に位置付け、その特徴を理解すること（見通す力） ○表現の技術として日本語表現の基礎を身につけること（見通す力）
(15)授業の概要	世界の言語の中で、現代日本語の音声・音韻、語彙、文法的特徴について明らかにし、理解する。また、日本語の社会との関りや、その社会で生きていくための基本的な能力としてのツールとしての言語・日本語について学ぶ。
(16)授業の内容予定	第1回 世界の中の日本語1 言語の特徴 第2回 世界の中の日本語2 類型論・比較言語学 第3回 世界の中の日本語3 日本語と国語 第4回 日本語の音声・音韻1 音声器官と音声 第5回 日本語の音声・音韻2 音韻 音節と拍 第6回 日本語の音声・音韻3 アクセント、イントネーション 第7回 日本語の文字・表記 カタカナとひらがな 音声との対応 第8回 日本語の語彙1 語彙とは何か 第9回 日本語の語彙2 現代語の語彙 第10回 日本語の文法1 文法学説 第11回 日本語の文法2 待遇表現 第12回 日本語の地域差 第13回 社会の中の日本語 第14回 国語教育と日本語 第15回 コミュニケーション技術としての日本語 第16回 試験
(17)準備学習（予 習・復習）等の内 容	図書館やweb利用の調べ学習が必要。
	言語学関連

(18)学問分野1(主 学問分野)	
(18)学問分野2(副 学問分野)	-
(18)学問分野3(副 学問分野)	-
(19)実務経験のある 教員による授業 科目について	-
(20)教材・教科書	沖森卓也他著『図解日本語』三省堂
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法 及び採点基準	試験70%、および講義中の質問に対する回答・小課題30%。講義の理解を することはもちろん、教科書や講義時の例文以外の用例を示し、説明でき ることが必要。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授 業方法	試験70%、および講義中の質問に対する回答・小課題30%。 講義の理解をすることはもちろん、教科書や講義時の例文以外の用例を示 し、説明できることが必要。
(25)留意点・予備 知識	特になし
(26)オフィスアワ ー	なし
(27)Eメールアド レス・HPアドレス	なし
(28)その他	学習者の理解度により必要に応じて、講義の進度を調整する。その場合 は、講義時にコメントする。

教育学部

(1)整理番号	193
(2)区分番号	193
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	日本語学II (Japanese Linguistics II)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等（小・国語サブコース）・初等中等（中コース国語）・特支（中コース国語）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員（所属）	平井 吾門（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル1
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○日本語の諸相について、歴史的な観点を導入して考察することの意義を理解すること（見通す力） ○具体的事象について歴史的な視点をを用いて説明できるようになること（解決する力）
(15)授業の概要	日本語の持つ様々な特徴について、歴史的な側面からアプローチして解説します。 また、後半では国語学史について扱い、知識及び思考枠組みの定着を図ります。
(16)授業の内容予定	第1回 日本語史総論 第2回 音韻の変遷（古代） 第3回 音韻の変遷（近代） 第4回 文字史 第5回 漢字音の変遷 第6回 表記史 第7回 文体史 第8回 語彙史 第9回 文法史①助詞の変遷 第10回 文法史②動詞活用の変遷 第11回 学史①韻学史 第12回 学史②仮名遣い研究 第13回 学史③本居宣長 第14回 学史④宣長以後 第15回 試験 第16回 まとめ
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	予習として、日本語学Iで学んだ内容で講義内容に対応する箇所をよく復習しておきましょう。 また、日本語の歴史に関する参考文献を積極的に読んで復習とし、教科書及び講義内容を異なる側面から理解するように努めましょう。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	文学関連

(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	沖森卓也・木村義之・陳力衛・山本真吾『図解日本語』三省堂、2006年
(21)参考文献	沖森卓也・肥爪周二・山本真吾・陳力衛『日本語史概説』朝倉書店、2011年 木田章義（編）『国語史を学ぶ人のために』世界思想社、2013年
(22)成績評価方法及び採点基準	平常点（コメントペーパー）40%と筆記試験60%で評価します。基礎知識の定着と論述力を問います。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	予習前提で講義を行いますが、適宜受講者に意見を求める場合があります。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	194
(2)区分番号	194
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	日本語学演習I (Japanese Linguistics, Seminar I)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース国語）・特支（中コース国語）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 5・6時限
(10)担当教員（所属）	郡 千寿子（教育学部）（理事・副学長）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的な到達目標	○課題に対して問題点を見つけ、その調査方法を検討し、解決への見通しを立てられるようになること（見通す力）
(15)授業の概要	日本語学という学問領域における基礎を土台として、言語学観点から社会や言語について考察を加えられるよう、自主的で実践的な授業である。 文法や語彙、文字表記論といったテーマ別に課題発見と解決手法を体験する。
(16)授業の内容予定	『日本国語大辞典1巻～13巻』『角川古語大事典第1巻～5巻』等の基本的辞書を使用して、それぞれ割り当てられた担当箇所を読み解いてゆく。 演習のため、受講者は、課題の発見から解決までの道筋を体験しつつ、辞書の使用についての基礎知識を学ぶ。
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	日本語学、日本語史の教科書を予習しておくこと。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	文学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	歴史学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	授業ごとにプリント配布。

(21)参考文献	金田一晴彦「日本語上・下」岩波新書 中村明「日本語案内」ちくま新書
(22)成績評価方法及び採点基準	発表と討論への参加 50% レポート課題 50%
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	学生主体の発表と討論
(25)留意点・予備知識	日本語学I・日本語学IIを受講していることが望ましい。
(26)オフィスアワー	水曜 12時～12時40分
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	chizuko@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	200
(2)区分番号	200
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	日本文学I (Japanese Literature I)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等（小・国語サブコース）・初等中等（中コース国語）・特支（中 コース国語）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日 3・4時限
(10)担当教員（所 属）	吉田 比呂子（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベ ル）	レベル1～2
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての 具体的到達目標	○日本文学・古典文学を研究対象として取り扱う基本的な方法と視点を身 につけること（見通す力） ○浦島子の話の要素、異郷訪問、異類婚姻、神婚、変身等の要素が過去から 現在に到るまで好まれ、その形や価値を変えながらも人々に支持されて きた意味や原因を考察すること（解決する力）
(15)授業の概要	丹後国風土記逸文の浦島子の話を中心に講義を進める。 7回程度の講義の後、学生諸君のレポート作成を中心とした形で個別相談 の時間を設ける。必要に応じて口頭試問や相談の時間を挟みながら進め る。
(16)授業の内容予 定	1. ガイダンス 2. 国語国文学という学問について 3. 日本語学・日本文学になった理由 4. 浦島子から浦島太郎になった理由 5. かぐや姫と乙姫の正体 6. 昔話のパロディー化 7. 教科書に載る浦島太郎 8. 研究の方法 9. 資料の作成と取り扱い方 10. 問題意識と価値観 11. 研究史を調べる意味 12. 仮説と証明 13. レポートと論文 14. レポート作成 15. レポート作成 講義の進行状況等により、シラバスと実際の内容が異なる場合には、その 都度説明します。
(17)準備学習（予 習・復習）等の内容	受け身ではない姿勢が必要です。自己の問題意識の傾向、癖を確認しなが ら自己のレポートの問題を設定できるようにしてください。また、知識を 運用する各自の方法を見出して下さい。

(18)学問分野1(主学問分野)	文学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	言語学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	歴史学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	資料は配付します。
(21)参考文献	風土記、日本書紀、万葉集
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価20%、中間評価（課題レポート）20%、期末評価最終レポート60%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	①問題意識と価値観の確認 ②文献、資料を取り扱う基本的な手法を身に付ける。
(25)留意点・予備知識	自己で問題を探し、レポート作成できるようになること。
(26)オフィスアワー	火曜日10時から11時、水曜日8時20から40分
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	yosida@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	201
(2)区分番号	201
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	日本文学II (Japanese Literature II)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等（小・国語サブコース）・初等中等（中コース国語）・特支 （中コース国語）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員（所 属）	仁平 政人（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベ ル）	レベル1～2
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○「文学」というジャンルについて理解を深めること（見通す力） ○テキストを分析する基本的な方法を身に着けること（解決する力） ○多様な作家の作品に触れ、近現代文学に対する知識と関心を培うこと （学び続ける力）
(15)授業の概要	様々な作家の短編小説を取り上げて、詳細な読解を行います。そのこと を通して、近現代文学についての理解を深めるとともに、文学・文化の 問題にアプローチする方法について学んでいきます。
(16)授業の内容予 定	1 ガイダンス 2 読みのレッスン1 夏目漱石「夢十夜」第一夜 3 読みのレッスン2 夏目漱石「夢十夜」第三夜 4 分析の視点：物語論の基礎 5 志賀直哉「小僧の神様」を読む 6～7 江戸川乱歩「二銭銅貨」を読む 8 分析の視点：「読者」とは誰か？ 9～10 芥川龍之介「羅生門」の生成—小説はいかに生れるか— 11 太宰治「走れメロス」を読む—翻案・パロディの問題— 12～13 太宰治「ヴィヨンの妻」を読む 14 津島佑子「指」を読む 15 まとめ
(17)準備学習（予 習・復習）等の内容	授業内で、受講者自身に作品に対する分析を行ってまいります。そのた め、必ず事前に作品を精読してから授業に臨むようにして下さい。
(18)学問分野1(主 学問分野)	文学関連
(18)学問分野2(副 学問分野)	-
	-

(18)学問分野3(副学問分野)	
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教材はプリントで配布します。
(21)参考文献	授業中に紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常点（授業内の取り組み、コメントペーパー） 40% 最終レポート 60%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式で、短編小説およびテキスト分析についての解説を行います。また、授業内で適宜問題を提示し、受講者自身に考察（小説の分析）を行ってまいります。
(25)留意点・予備知識	なし
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	202
(2)区分番号	202
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	日本文学講読I (Readings in Japanese Literature I)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース国語）・特支（中コース国語）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 9・10時限
(10)担当教員（所 属）	吉田 比呂子（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベ ル）	レベル1～2
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての 具体的到達目標	○問題意識を持ち仮説を立てて、これを具体的に証明する方法を試行錯誤し、論理を構築すること（見通す力） ○その論理を研究方法へと具体的に機能させることを体験すること（解決する力）
(15)授業の概要	日本の古典文学、語学の研究論文を読み、論文の論理の組み立て方、論述方法と研究の方法を検討し、研究対象と研究方法の関係を読み取る。論文を書くための基本的姿勢と方法を検討する。
(16)授業の内容予 定	<p>個々人の問題意識に近似している先行論文を3点選び、各自で3点の論文の批判、評価を行う。 また、自己の問題意識を明確にする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 論文とは何か 3. 論文批判をすることの意味 4. 論文を書くために必要なこと 5. 卒業論文と自己の問題意識 6. 論文批判と個別相談 7. 論文批判と個別相談 8. 論文批判と個別相談 9. 論文批判と個別相談 10. 研究史から分かること 11. 研究史の使い方と個別相談 12. 研究史の検討と個別相談 13. レポート作成と個別相談 14. レポート作成と個別相談 15. レポート作成とまとめ 16. レポート作成 <p>授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容が異なる場合には、その都度説明します。</p> <p>自己の研究対象の性格や特徴や研究方法について考察する。</p>

(17)準備学習（予習・復習）等の内容	
(18)学問分野1(主学問分野)	文学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	言語学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	考古学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	適宜資料は配付します。
(21)参考文献	個々人と相談の上、紹介する。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価20%、中間評価（課題レポート）20%、期末評価最終レポート60%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義と個別相談とレポート作成を中心とする。
(25)留意点・予備知識	自己の問題意識を明確にする。
(26)オフィスアワー	火曜日10時から11時、水曜日8時20から40分
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	yosida@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	203
(2)区分番号	203
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	日本文学講読II (Readings in Japanese Literature II)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース国語）・特支（中コース国語）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	不定期開催
(10)担当教員（所属）	仁平 政人（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての 具体的到達目標	○「文学」というジャンルについて理解を深めること（見通す力） ○テキストを分析する方法を実践的に身に着けること（解決する力）
(15)授業の概要	○芥川龍之介の初期から晩年に至るまでの、代表的な作品の読解を行います。歴史小説・現代小説・童話と多様なジャンルにわたる作品を、先行研究も手がかりにしながら精読し、それぞれの特性や面白さを考えていきます。 毎週担当者を2人ずつ割り当てて、作品について発表を行い、それにもとづいて全体で自由に討論を行います。
(16)授業の内容予定	1 ガイダンス1 2 ガイダンス2 読解のレッスン—「鼻」 3 「芋粥」 4 「蜘蛛の糸」 5 「地獄変」 6 「奉教人の死」 7 「杜子春」 8 「秋」 9 「舞踏会」 10 「南京の基督」 11 「藪の中」 12 「トロッコ」 13 「雛」 14 「一塊の土」 15 芥川龍之介の晩年 —「歯車」
(17)準備学習（予 習・復習）等の内 容	受講者は自分が担当する作品について、基本情報と研究史を調査し、また自身で分析を行ってレジュメにまとめる。 また、発表担当回以外も、討論に積極的に参加できるよう事前に作品の精読を行うこと。
(18)学問分野1(主 学問分野)	文学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	芥川龍之介『羅生門 蜘蛛の糸 杜子春 外十八篇』（文春文庫）
(21)参考文献	授業中に紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常点（討論への参加） 30% 授業内の発表 40% 期末レポート 30% 上記を総合して評価を行う。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	毎回担当者を割り当て、作品についての発表を行い、それにもとづいて全体で自由に討論を行う。
(25)留意点・予備知識	なし
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	なし

教育学部

(1)整理番号	204
(2)区分番号	204
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	日本文学演習I (Japanese Literature, Seminar I)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース国語サブコース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 3・4時限
(10)担当教員（所 属）	吉田 比呂子（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベ ル）	レベル2～3
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具 体的到達目標	○国語学・国文学・日本語学・日本文学という学問分野の形成の中で如何に古典文学が研究され、読まれてきたか、位置づけられてきたのか、 ということを考えること（見通す力） ○研究の方法論やその目的を見直すことができること（解決する力）
(15)授業の概要	高等学校や中学校の国語や古典の教科書、国語便覧の中で使用されている用語（学術用語）の性格を検討する。
(16)授業の内容予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 国語学と国文学 3. 日本語学と日本文学 4. 学術用語は何時、誰によって作られたのか 5. 学術用語の概念形成と価値観の変化 6. 学術用語の何が問題なのか 7. 学術用語の歴史と問題点 8. 学術用語の歴史と価値観の変遷 9. レポート作成と個別相談 10. レポート作成と個別相談 11. レポート作成と個別相談 12. レポート作成と個別相談 13. レポート作成のための相談 14. レポート作成のための相談 15. レポート作成 16. レポート作成 <p>授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容が異なる場合には、その都度説明します。</p>
(17)準備学習（予 習・復習）等の内容	文献資料から問題を読み取り、整理し、学術用語の背景や歴史や問題の性質を検討する。
(18)学問分野1(主 学問分野)	文学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	言語学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	歴史学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	適宜資料は配付します。
(21)参考文献	個々に適宜紹介する。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価20% 中間評価（課題レポート）20% 期末評価（最終レポート）60%
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	調べて蓄積した情報から問題点を整理して読み取り、レポート作成に繋げて行くことを目的としている。
(25)留意点・予備知識	自主的に自立的に講義や演習に関わること
(26)オフィスアワー	火曜日10時から11時、水曜日8時20から40分
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	yosida@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	205
(2)区分番号	205
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	日本文学演習II (Japanese Literature, Seminar II)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース国語サブコース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日1・2時限
(10)担当教員 (所属)	吉田比呂子（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2～3
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての 具体的到達目標	○明治という近代化の中で文学研究、語学研究、文学観、言語観が形成される過程の中で様々な意図や価値観が働いており、そこに働いていたと考えられる意図や価値観を近代化の現象から推理する力を身につけること（見通す力） ○このような19世紀帝国主義の環境の中で創り出された学術用語、教科書用語について考察すること（解決する力）
(15)授業の概要	明治の国文学に対する考え方、価値観の形成過程と問題点を明らかにして、考察する。
(16)授業の内容 予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 近世国文学から近代国文学へ 3. 輸入された文学観 4. 日本文学史の誕生 5. 明治の万葉集観 6. 明治の記紀は歴史だった 7. 日本神話の誕生 8. 国家の価値観と文学観 9. 国文学から引き継がれた国文学国語学の価値観 10. 言文一致運動の本当の意味 11. 討論と相談 12. 討論と相談 13. 討論と相談 14. レポート作成 15. レポート作成 16. レポート作成 <p>授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容が異なる場合には、その都度説明します。</p>
	論文作成やレポート作成のために必要な文献の質を検討することと資料化の方法を身につけること

(17)準備学習 (予習・復習)等 の内容	
(18)学問分野 1(主学問分野)	文学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	言語学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	歴史学関連
(19)実務経験の ある教員による授 業科目について	-
(20)教材・教科 書	適宜紹介する。
(21)参考文献	適宜紹介する。
(22)成績評価方 法及び採点基準	平常評価20%中間評価（課題レポート）20%期末評価最終レポート60%
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・ 授業方法	文献資料から問題を見つけ出し、仮説を立ててこれを証明するための方法を考える。
(25)留意点・予 備知識	受け身ではない姿勢を期待する。
(26)オフィスア ワー	火曜日10時から11時、水曜日8時20から40分
(27)Eメールアド レス・HPアドレ ス	yosida@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	208
(2)区分番号	208
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	日本文学特論I (Japanese Literature, Special Course I)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース国語サブコース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 5・6時限
(10)担当教員（所属）	吉田 比呂子（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2～3
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての 具体的到達目標	○卒業論文の作成に向けて日本文学、日本語学、国語科教育の関係論文を読み比べて、それぞれの学問分野の問題意識やその傾向や研究手法について考えること（見通す力） ○論文批判を手がかりとして自身の卒業論文、研究の方法論を作り上げるための考察を行うこと（解決する力）
(15)授業の概要	学生諸君の個々人の関心を持っている研究分野の論文を3編選び、個々の論文の問題設定と仮説と研究手法の関係を検討する。これらの検討によって自己の卒業論文の作成の切っ掛けにして貰うことが目的である。
(16)授業の内容予定	論文批判を中心とした討論と演習。 1. ガイダンス 2. 各自の卒業論文に関する展望 3. 各自の卒業論文に関する展望 4. 各自の卒業論文に関する展望 5. 各自の卒業論文に関する展望 6. まとめと討論 7. 研究史と文献リスト作成 8. 研究史と文献リスト作成 9. 研究史と文献リスト作成 10. レポート作成の準備 11. レポート作成のための相談 12. レポート作成のための相談 13. レポート作成 14. レポート作成 15. レポート作成 16. レポート作成 授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容が異なる場合には、その都度説明します。
	卒業論文の作成のための基礎的作業を身に付けること。

(17)準備学習（予習・復習）等の内容	
(18)学問分野1(主学問分野)	文学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	言語学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	歴史学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	適宜紹介する。
(21)参考文献	適宜紹介する。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価20%中間評価（課題レポート）20%期末評価最終レポート60%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	受け身ではない姿勢を期待する。
(25)留意点・予備知識	自ら問題を設定出来るようになること。
(26)オフィスアワー	火曜日10時から11時、水曜日8時20から40分
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	yosida@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	210
(2)区分番号	210
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	日本文学史I (History of Japanese Literature I)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース国語サブコース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 1・2時限
(10)担当教員（所属）	吉田 比呂子（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2～3
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○丹後国風土記逸文の奈具の社と浦島子の話を中心に古代の価値観や発想から見えてくる神仙思想の受容を考えること（見通す力） ○古代の価値観や発想が如何に変化して後世の人々に受容されるようになったのか、変化することが伝統の本質であることを考えること（解決する力）
(15)授業の概要	基本的な古典文学、文献の取り扱い方を身に付けることと文献の情報の質を見極められるようになること
(16)授業の内容予定	前半は奈具の社と浦島子に関する文献についての基本を押さえるための講義を行う。後半は資料作成とレポート作成を中心に行う、討論、相談 1. ガイダンス 2. 日本文学と国文学という学問分野について 3. 日本文学史が創り出された時代 4. 伝統という価値観の形成 5. 伝承されるという価値観の形成 6. 貴種流離譚という学術用語は何時作られたのか 7. 教訓という価値観の形成 8. 説話や昔話に盛り込まれた価値観とは何か 9. 古典文学の価値とは何か 10. 文献研究と実証主義 11. レポート作成の方法 12. レポート作成と個別相談 13. レポート作成と個別相談 14. レポート作成と個別相談 15. レポート作成 16. レポート作成 授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容が異なる場合には、その都度説明します。
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	文献資料の取り扱い方と整理の仕方を身に付けること。辞書類の資料としての性格を知り、取り扱い方を身に付けること
(18)学問分野1(主学問分野)	文学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	言語学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	歴史学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	資料は配付します。
(21)参考文献	風土記・日本書紀・万葉集
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価20%中間評価（課題レポート）20%期末評価最終レポート60%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	問題意識と価値観の確認
(25)留意点・予備知識	問題設定と仮説の関係を考察する。
(26)オフィスアワー	火曜日10時から11時、水曜日8時20から40分
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	yosida@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	212
(2)区分番号	212
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	漢文学I (Chinese Literature I)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等（小・国語サブコース）・初等中等（中コース国語）・特支 （中コース国語）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 5・6時限
(10)担当教員（所 属）	山田 史生（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベ ル）	レベル1～2
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具 体的到達目標	○漢詩（寒山詩）を原文（漢語）を訓読（日本語化）および翻訳（英 語）で読みながら「表記文字として漢字を採用した日本語の特質」につ いて考えることができること（見通す力） ○「寒山詩」そのものを鑑賞することができること（見通す力）
(15)授業の概要	毎時間、一首の寒山詩を熟読します。まずは訓読し、ついで現代語訳 し、さらに英訳を読むことをとおして「漢語・日本語・英語」という三 言語の差異をも味わいます。
(16)授業の内容予定	第1回 授業の進め方のガイダンス 第2回 「凡読我詩者」を読む 第3回 「重巖我卜居」を読む 第4回 「可笑寒山道」「」を読む 第5回 「欲得安身处」を読む 第6回 「吾心似秋月」を読む 第7回 「山中何太冷」を読む 第8回 「城中娥眉女」を読む 第9回 「俊傑馬上郎」を読む 第10回 「欲向东巖去」を読む 第11回 「巖前独静坐」を読む 第12回 「吾家好隠淪」を読む 第13回 「琴書須自随」を読む 第14回 「弟兄同五郡」を読む 第15回 「一為書劍客」を読む ※授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容とが異なる場合があ りますが、その都度説明します。
(17)準備学習（予 習・復習）等の内容	授業時に適宜指示します。
(18)学問分野1(主 学問分野)	文学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	プリントを配布します。
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への参加度（50%） 最終レポート（50%）
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	基本的に講読形式（漢詩およびその英訳）。 随時、講義をはさみます。
(25)留意点・予備知識	漢和辞典・英和辞典（電子辞書も可）は必携です。
(26)オフィスアワー	火曜日 3・4時限
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	fumio@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	213
(2)区分番号	213
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	漢文学講読I (Reading in Chinese Literature I)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース国語）・特支（中コース国語）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 1・2時限
(10)担当教員（所 属）	山田 史生（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベ ル）	レベル2～3
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具 体的到達目標	○漢詩（寒山詩）を原文（漢語）を訓読（日本語化）および翻訳（英語）で読みながら「表記文字として漢字を採用した日本語の特質」について考えることができること（見通す力） ○「寒山詩」そのものを鑑賞することができること（見通す力）
(15)授業の概要	毎時間、一首の寒山詩を熟読します。まずは訓読し、ついで現代語訳し、さらに英訳を読むことをとおして「漢語・日本語・英語」という三言語の差異をも味わいます。
(16)授業の内容予定	<p>第1回 授業の進め方のガイダンス</p> <p>第2回 「莊子説送終」を読む</p> <p>第3回 「人間寒山道」を読む</p> <p>第4回 「天生百尺樹」を読む</p> <p>第5回 「驅馬度荒城」を読む</p> <p>第6回 「鸚鵡宅西国」を読む</p> <p>第7回 「玉堂掛珠簾」を読む</p> <p>第8回 「父母統経多」を読む</p> <p>第9回 「家住緑巖下」を読む</p> <p>第10回 「四時無止息」を読む</p> <p>第11回 「歳去換愁年」を読む</p> <p>第12回 「手筆太縦横」を読む</p> <p>第13回 「粵自居寒山」を読む</p> <p>第14回 「有一餐霞子」を読む</p> <p>第15回 「妾家邯鄲住」を読む</p> <p>※授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容が異なることがあります。その都度説明します。</p>
(17)準備学習（予 習・復習）等の内容	授業時に適宜指示します。
(18)学問分野1(主 学問分野)	文学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	プリントを配布します。
(21)参考文献	特になし。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への参加度（50%） 最終レポート（50%）
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	基本的に講読形式（漢詩およびその英訳）。 随時、講義をはさみます。
(25)留意点・予備知識	漢和辞典・英和辞典（電子辞書も可）は必携です。
(26)オフィスアワー	火曜日 3・4時限
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	fumio@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	214
(2)区分番号	214
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	漢文学演習I (Chinese Literature, Seminar I)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース国語サブコース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日 1・2時限
(10)担当教員（所 属）	山田 史生（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベ ル）	レベル2～3
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての 具体的到達目標	○漢詩（寒山詩）を原文（漢語）を訓読（日本語化）および翻訳（英語）で読みながら「表記文字として漢字を採用した日本語の特質」について考えることができること（解決していく力） ○「寒山詩」そのものを鑑賞し、読み解くことができること（解決する力）
(15)授業の概要	毎時間、一首の寒山詩を熟読します。 まずは訓読し、ついで現代語訳し、さらに英訳を読むことをとおして「漢語・日本語・英語」という三言語の差異をも味わいます。
(16)授業の内容予 定	第1回 授業の進め方のガイダンス 第2回 「快漕三翼舟」を読む 第3回 「智者君抛我」を読む 第4回 「茅棟野人居」を読む 第5回 「登陟寒山道」を読む 第6回 「六極常嬰困」を読む 第7回 「白雲高嵯峨」を読む 第8回 「杳杳寒山道」を読む 第9回 「少年何所愁」を読む 第10回 「聞道愁難遣」を読む 第11回 「両亀乗犢車」を読む 第12回 「三月蠶猶小」を読む 第13回 「東家一老婆」を読む 第14回 「富兒多鞅掌」を読む 第15回 「余曾昔觀聰明士」を読む ※授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容とが異なる場合がありますが、その都度説明します。
(17)準備学習（予 習・復習）等の内容	授業時に適宜指示します。
	文学関連

(18)学問分野1(主学問分野)	
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	プリントを配布します。
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への参加度 (50%) 最終レポート (50%)
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	基本的に講読形式 (漢詩およびその英訳) 随時、講義をはさみます。
(25)留意点・予備知識	基本的に講読形式 (漢詩およびその英訳) 随時、講義をはさみます。
(26)オフィスアワー	火曜日 3・4時限
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	fumio@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	215
(2)区分番号	215
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	漢文学特論I (Chinese Literature, Special Course I)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース国語サブコース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日 3・4時限
(10)担当教員（所 属）	山田 史生（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベ ル）	レベル2～3
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具 体的到達目標	○漢詩（寒山詩）を原文（漢語）を訓読（日本語化）および翻訳（英 語）で読みながら「表記文字として漢字を採用した日本語の特質」につ いて考えることができること（見通す力） ○「寒山詩」そのものを鑑賞することができること（見通す力）
(15)授業の概要	毎時間、一首の寒山詩を熟読します。まずは訓読し、ついで現代語訳 し、さらに英訳を読むことをとおして「漢語・日本語・英語」という三 言語の差異をも味わいます。
(16)授業の内容予定	第1回 授業の進め方のガイダンス 第2回 「白鶴銜苦桃」を読む 第3回 「慣居幽隱處」を読む 第4回 「生前太愚痴」を読む 第5回 「燦々盧家女」を読む 第6回 「低眼鄒公妻」を読む 第7回 「独臥重巖下」を読む 第8回 「夫物有所用」を読む 第9回 「誰家長不死」を読む 第10回 「留馬珊瑚鞭」を読む 第11回 「竟日常如醉」を読む 第12回 「一向寒山坐」を読む 第13回 「相喚採芙蓉」を読む 第14回 「垂柳暗如煙」を読む 第15回 「有酒相招飲」を読む ※授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容が異なる場合があり ますが、その都度説明します。
(17)準備学習（予 習・復習）等の内容	授業時に適宜指示します。
(18)学問分野1(主 学問分野)	文学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	プリントを配布します。
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への参加度（50%） 最終レポート（50%）
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	基本的に講読形式（漢詩およびその英訳） 随時、講義をはさみます。
(25)留意点・予備知識	漢和辞典・英和辞典（電子辞書も可）は必携です。
(26)オフィスアワー	火曜日 3・4時限
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	fumio@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	216
(2)区分番号	216
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	書道I (Calligraphy I)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（小・国語サブコース）・初等中等（中コース国語）・特支（中 コース国語）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日 9・10時限
(10)担当教員（所 属）	中嶋 久美（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベ ル）	レベル1～2
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての 具体的到達目標	○小・中学校の国語科書写で必要な知識や技能を習得すること（見通す 力） ○指導上の課題をみつけ、実践的な指導力を身につけること（解決する 力）
(15)授業の概要	小・中学校の書写教材を想定した毛筆課題に取り組み実技力の向上を図 る。 学年別漢字配当表に示される漢字を中心に、硬筆教材を用いて造形原理を 学ぶ。 書写教育に関する基本的内容を押える。
(16)授業の内容予 定	第1回 ガイダンス・用具用材の性質と扱い方・楷書の基本点画、書写教 育の概要 第2～3回 楷書の基本点画 2～14硬筆課題 第4～5回 字形 第6回 筆順と字形 第7回 ひらがなの基本点画と字形 第8回 漢字と平仮名の調和 第9～13回 行書の基本 第14回 授業実践例、授業計画 第15回 まとめおよび確認テスト ※都合により、内容や予定が変更になる可能性があります。
(17)準備学習（予 習・復習）等の内 容	授業で学んだことを振り返り、各自で毛筆の練習に励んでください。
(18)学問分野1(主 学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副 学問分野)	-

(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（授業への参加度。授業を受けての実技力や文字造形に対する知識、理解力の向上を目指すため、毛筆・硬筆課題の実技力、ポイント理解、取り組み姿勢、授業での作品などを総合的に評価。）：70% 確認テスト：30% 上記を合算して成績評価を行います。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義・演習（毛筆による実技を中心に展開）
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	217
(2)区分番号	217
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	書道演習I (Calligraphy, Seminar I)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日 9・10時限
(10)担当教員(所属)	中嶋 久美(非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル1~2
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○中学校の国語科書写で必要な知識や技能を習得すること(見通す力) ○実践的指導力を身につけること(解決する力) ○古典に触れ書や文字へのより深い関心を得ること(学び続ける力)
(15)授業の概要	中学校の書写教材を想定した毛筆課題に取り組み実技力の向上を図る。 中学校国語科書写から高等学校芸術科書道への関連を視野に古典学習を通して文字への理解を得、書写教材を把握する力を養う。
(16)授業の内容予 定	第1回 ガイダンス・用語用材の性質と扱い方・書写教育の概要・楷書の基本 第2~4回 書道史の概要・古典(楷書)学習に基づいた書写の学習内容 に対する理解と技能の習得 第5~7回 書道史の概要・古典(行書)学習に基づいた書写の学習内容 に対する理解と技能の習得 第8回 硬筆学習を通して書写の学習内容に対する理解と技能の習得 第9回 仮名の基本と成り立ち、古典(仮名)学習に基づいた書写の学習 内容に対する理解と技能の習得 第10回 自運、和歌、散らし書き、漢字と仮名の調和 第11回 自運、手紙文と宛名書き 第12回 身の回りの多様な文字、行書と草書の古典 第13回 身の回りの多様な文字、篆書と隷書の古典 第14回 自運、好きな言葉、意味に応じた表現 第15回 授業実践例、授業計画 ※都合により、内容や予定が変更になる可能性があります。
(17)準備学習(予 習・復習)等の内 容	授業を振り返り、各自で毛筆の練習に励んでください。
(18)学問分野1(主 学問分野)	教育学関連
	-

(18)学問分野2(副学問分野)	
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	平常点（授業への参加度。授業を受けて実技力や文字造形に関する知識、理解の向上を目指すため出席が評価の前提となり、その上で毛筆課題の実技力、ポイント理解、取り組み姿勢等、総合的に評価する）：100%
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	講義・演習（毛筆による実技を中心に展開）
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	218
(2)区分番号	218
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	日本史 (Japanese History)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等 (小・社会サブコース) ・初等中等 (中コース社会) ・特支 (中コース社会) : 必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 7・8時限
(10)担当教員 (所属)	大谷 伸治 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目 標	○常識や固定観念に縛られず、史資料にもとづいた歴史科学的・論理的な思考力を身につけること (見通す力) ○歴史学の成果をふまえた教材化の視点と方法を身につけること (解決していく力) ○歴史を学ぶ意味について考えること (学び続ける力)
(15)授業の概要	歴史学界では日々新しい成果が提示されています。高校まで学んできた、あるいは一般に流布している日本史の「常識」は、近年の歴史学界では改められていることも多くあります。 この授業では、小中学校で習う内容をテーマに取り上げ、いま知っておくべき新たな研究成果を学びます。そして、小学校・中学校・高等学校での歴史授業を念頭に、歴史学の成果をどのように教材化すればよいかを考え、試案を作ることができるようになることを目指します。 そのためには、この授業は基本的に講義形式ではありますが、受講者一人一人が自分なりに考えをもちながら、史資料を読み解くこと、つまり歴史学の営みとそのおもしろさを体感することが大切です。 そうして、歴史の授業づくりに必要な日本史に関する知識・理解を深めるとともに、国際社会に生きる公民として不可欠な歴史を冷静に見る眼を身につけることを目指します。
(16)授業の内容 予定	第1回 ガイダンス～歴史学とは？～ 第2回 「日本」とは？ (1) 第3回 「日本」とは？ (2) ※中間レポート1提出 第4回 ペリー来航 第5回 日清戦争 (1) ※中間レポート2提出 第6回 日清戦争 (2) 第7回 日中戦争 ※中間レポート3提出 第8回 兵士の社会史 第9回 戦争とプロパガンダ ※中間レポート4提出 第10回 沖縄戦 第11回 さまざまな「終戦」 ※中間レポート5提出 第12回 沖縄と米軍基地

	<p>第13回 指導案作成 第14回 指導案修正 第15回 模擬授業 ※授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。</p>
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	<p>[予習] 計画的に課題図書を読み、中間レポート(5回)を作成する。計画的に教科書を読み、板書ノートを作成する。指導案作成にむけて、教材研究をおこなう。 [復習] 自分の歴史認識の変容・深化の過程を記録しておく。</p>
(18)学問分野 1(主学問分野)	歴史学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	考古学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	政治学関連
(19)実務経験のある教員による 授業科目について	-
(20)教材・教科書	<p>○中間レポート課題図書 中公新書編集部編『日本史の論点』(中公新書、2018年)880円+税 ○必修教材 学び舎中学校歴史教科書『ともに学ぶ人間の歴史』762円(非課税) ○選択教材 [小学校コース] 小学校教科書・東京書籍『新編 新しい社会6上』411円(非課税) [中学校コース] 中学校教科書・東京書籍『新編 新しい社会 歴史』762円(非課税)</p>
(21)参考文献	授業の中で適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>[平常評価] 授業への参加度(リアクションペーパーによる)15% [中間評価] 中間レポート25%(5%×5回) [期末評価] 期末レポート20%、指導案20%、板書ノート20% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。 授業は皆出席が原則です。やむなく欠席する場合は事前に連絡し、事後にプリントを取りに来ること。</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・ 授業方法	<p>主に講義形式によって進めます。題材に応じて、グループワークをおこなうこともあります。 授業の最後にその日の講義の内容についての質問・感想を書いたリアクションペーパーを提出してもらい、次回の授業の際に紹介・回答するという方法をとります。</p>
(25)留意点・予備知識	<p>○予備知識の有無は問いません。 ○授業中は、ノートやメモを取りながら聴いてください。前回のプリントを見直すことがあるので、各回での配布物は毎回持ってきてください。 ○講義中の途中入退室や私語、飲食は厳禁です。受講のマナーを守ることができない学生の履修は固くお断りします。</p>
(26)オフィスアワー	水曜日5・6時限。在室時にはいつ来ても構いません。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	s-ohtani@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	219
(2)区分番号	219
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	日本史特殊講義I (Special Lecture on Japanese History I)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース社会サブコース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 1・2時限
(10)担当教員 (所属)	大谷 伸治（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2～3
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○大日本帝国憲法体制の矛盾と戦前の立憲主義をめぐる議論を理解すること（見通す力） ○日本国憲法がどのように成立したかを理解すること（見通す力） ○現在の憲法をめぐる問題について歴史的視点から考えながら、歴史や公民の授業をつくることができること（解決していく力） ○憲法史を学ぶ意味について考えること（学び続ける力）
(15)授業の概要	この授業のテーマは「日本憲法思想史」です。日本国憲法は国民の名で制定された民定憲法です。にもかかわらず、現在の日本の歴史教育・憲法教育では、日本政府の憲法改正案は大日本帝国憲法の若干の修正にとどまったことから、マッカーサーが作らせたGHQ草案を「押しつけ」られたという経緯は扱いますが、それ以外の詳しい経緯を学ぶ機会はありません。そうしたことから、1950年代から現在まで続く憲法改正論争の中で、「押しつけ」憲法論はいまだに一定の影響力をもっています。日本国憲法がGHQ草案をもとにしていることは事実ですが、GHQ草案に日本人の考えが影響を与

	え、GHQ草案手交後には日本人の手で数々の修正が加わりました。また意外に思うかもしれませんが、戦前の国体論もその土台となっています。憲法は主権者である私たち国民の人権を保障する最高法規です。保障された人権を活かすには、制定された経緯やそれを支えている思想を理解することが不可欠です。これは、戦後を支えてきた民主主義の原点を再考することに他なりません。この授業では、現在の憲法をめぐる問題を考える手がかりのひとつとして、日本国憲法の成立をめぐる、従来の政治史的アプローチだけでなく、戦前からの思想史的なアプローチもとりながら、くわしく学んでいきます。
(16)授業の内容 予定	第1回 ガイダンス ～憲法とは何か？～ 第2回 国体とデモクラシーは相反するものか？ 第3回 自由民権運動の憲法案 第4回 『あたらしい憲法のはなし』 ※中間レポート1提出 第5回 憲法学と国体 (1) 穂積憲法学 第6回 憲法学と国体 (2) 美濃部憲法学 第7回 憲法学と国体 (3) 美濃部憲法学の問題点 第8回 矢部貞治の憲法改正案と国体論 (1) 第9回 矢部貞治の憲法改正案と国体論 (2) 第10回 矢部貞治の憲法改正案と国体論 (3) ※中間レポート2提出 第11回 「団子坂研究会」の非武装中立論 第12回 憲法研究会の「憲法改正要綱」 第13回 指導案作成 第14回 指導案修正 第15回 指導案交流 ※授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。
(17)準備学習 (予習・復習)等の内容	[予習] 予習課題に取り組む。分かった点や疑問に思った点を整理しておく。指導案作成にむけて、教材研究をおこなう。 [復習] 自分の憲法や民主主義に関わる認識の変容・深化の過程を記録しておく。
(18)学問分野 1(主学問分野)	歴史学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	法学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	政治学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	○中間レポート課題図書 高見勝利編『あたらしい憲法のはなし 他二篇』（岩波現代文庫、2013年）本体740円＋税 長谷部恭男解説『日本国憲法』（岩波文庫、2019年）本体680円＋税

	<p>○選択教材</p> <p>[小学校コース] 小学校教科書・東京書籍『新編 新しい社会 6下』296円（非課税）</p> <p>[中学校コース] 中学校教科書・東京書籍『新編 新しい社会 公民』762円（非課税）</p>
(21)参考文献	<p>(1) 古関彰一『日本国憲法の誕生 増補改訂版』（岩波現代文庫、2017年）</p> <p>(2) 川口暁弘『ふたつの憲法と日本人』（吉川弘文館、2017年）</p> <p>(3) 長谷部恭男『憲法と平和を問いなおす』（ちくま新書、2004年）</p> <p>その他は、授業のなかで適宜紹介します。</p>
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>[平常評価] 授業への参加度（リアクションペーパーによる）&予習課題30%</p> <p>[中間評価] 中間レポート20%（10%×2回）</p> <p>[期末評価] 期末レポート25%、指導案25%</p> <p>上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。</p> <p>授業は皆出席が原則です。やむなく欠席する場合は事前に連絡し、事後にプリントを取りに来ること。</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	<p>反転学習で進めます。1週前に、次回のテーマに関する課題ないし資料を配布します。各自、課題に取り組んだり資料を読んだりして、分かった点と疑問に思った点、議論したい点を整理しておいてください。それをもとに講義を進めます。したがって、講義と演習を織り交ぜた授業形態となります。</p>
(25)留意点・予備知識	<p>○予備知識の有無は問いません。</p> <p>○反転学習で進めますので、予習課題にしっかり取り組んでください。</p> <p>○授業中は、ノートやメモを取りながら聴いてください。前回のプリントを見直すことがあるので、各回での配布物は毎回持ってきてください。</p> <p>○講義中の途中入退室や私語、飲食は厳禁です。受講のマナーを守ることができない学生の履修は固くお断りします。</p>
(26)オフィスアワー	水曜日5・6時限。在室時にはいつ来ても構いません。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	s-ohtani@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	220
(2)区分番号	220
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	日本史特殊講義II (Special Lecture on Japanese History II)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース社会サブコース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 3・4時限
(10)担当教員 (所属)	大谷 伸治（教育学部）
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2～3
(13)対応する CP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業とし ての具体的到達 目標	○「日本」の国号の来歴や意味、国民国家形成の歴史を理解すること（見通す力） ○一国的・国民国家史的な歴史観を相対化する教材化の視点と方法を身につけること（解決していく力） ○地域史を学ぶ意味について考えること（学び続ける力）
(15)授業の概 要	この授業のテーマは「「日本」を問いなおす」です。歴史学と民俗学の日本論に関する文献を講読し、「日本」の国号の来歴や意味、国民国家形成の歴史を概観します。 学校の歴史の授業・教科書は、一国的・国民国家史的な歴史叙述となっています。画一的な「ひとつの日本」というイメージを子どもたちにもたせるものとなっています。しかし本来、歴史像は地域によって様々です。「いくつもの日本」が存在します。 新学習指導要領では、日本列島内の地域的差異について考察させ、複眼的で豊かな歴史認識の基礎を身に付けられるよう指導計画を作成すべきとされました。しかし、政権所在地を中心としたカリキュラムは変わっていません。地域史の教材化の事例を積み重ね、議論を深めていくことが必要です。 この授業では優れた歴史学・民俗学の研究に学びながら、一国的・国民国家史的な歴史観を相対化する地域史の教材化の視点・方法を考えていきます。
(16)授業の内 容予定	第1回 ガイダンス 第2回 「日本」とは何か (1) 「日本論」の現在 第3回 「日本」とは何か (2) アジア大陸東辺の懸け橋—日本列島の実像 第3回 「日本」とは何か (3) 「倭国」から「日本国」へ、その国制 第5回 「日本」とは何か (4) 「日本国」と列島諸地域の差異 第6回 「日本」とは何か (5) 「日本・日本人意識」の形成 第7回 「日本」とは何か (6) 「瑞穂国日本」の虚像 第8回 「日本」とは何か (7) 「日本論」の展望 第9回 「日本」国号の由来と歴史 (1) 「日本」の登場／古代帝国における「日本」 第10回 「日本」国号の由来と歴史 (2) 古代中国における「倭」と「日本」 ／『日本書紀』講書のなかの「日本」

	<p>第11回 「日本」国号の由来と歴史 (3) 「日本」と「やまと」／「日本」の変奏</p> <p>第12回 「日本」国号の由来と歴史 (4) 近代における「日本」</p> <p>第13回 東西／南北考 (1) 箕作りのムラから／一国民俗学を越えて</p> <p>第14回 東西／南北考 (2) 東と西を掘る／地域のはじまり</p> <p>第15回 東西／南北考 (3) 穢れの民族史／東北学、南北の地平へ</p> <p>※授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。</p>
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	<p>[予習] 文献の該当箇所を読んでおく。報告担当者は、内容を要約したレジュメを作成する。</p> <p>[復習] 関連した参考文献を読み、教材研究をおこなう。</p>
(18)学問分野 1(主学問分野)	歴史学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	民俗学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験 のある教員によ る授業科目につ いて	-
(20)教材・教 科書	<p>(1) 網野善彦『「日本」とは何か』（講談社学術文庫、2008年）</p> <p>(2) 神野志隆光『「日本」国号の由来と歴史』（講談社学術文庫、2016年）</p> <p>(3) 赤坂憲雄『東西／南北考』（岩波新書、2000年）</p>
(21)参考文献	授業の中で適宜紹介していきます。
(22)成績評価 方法及び採点基 準	<p>[平常評価] 授業への参加度25%</p> <p>[中間評価] レジュメ50%</p> <p>[期末評価] 期末レポート25%</p> <p>上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。</p> <p>授業は皆出席が原則です。やむなく欠席する場合は事前に連絡すること。</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形 態・授業方法	反転学習で進めます。報告担当者は要約を報告するとともに、興味をもった点や疑問をもった点から議論したいテーマを問題提起します。受講者全員で意見交換し、地域史の教材化について考えていきます。したがって実質上は、演習形式となります。
(25)留意点・ 予備知識	<p>○初回に、報告の担当日を決めます。受講希望者は必ず出席してください。</p> <p>○予備知識の有無は問いません。歴史に苦手意識のある方、地域史の教材化の視点・方法が分からない方、歓迎します。</p>
(26)オフィス アワー	水曜日5・6時限。在室時にはいつ来ても構いません。
(27)Eメールア ドレス・HPア ドレス	s-ohtani@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	223
(2)区分番号	223
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	日本史基礎演習 (Introductory Seminar in Japanese History)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員 (所属)	○大谷 伸治 (教育学部)・篠塚 明彦 (教育学部)・小瑠 史朗 (教育学部)・小岩 直人 (教育学部)・蒔田 純 (教育学部)・高瀬 雅弘 (教育学部)
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応する CP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業とし ての具体的到達 目標	○自ら立てた地域に関わる歴史学的課題を、フィールドでの調査を積極的に行いながら明らかにすることができるようになること (見通す力) ○フィールドワークを通して得た知見を、社会科教育実践に活用できる能力を身につけること (解決していく力)
(15)授業の概 要	青森県または北海道・北東北地域の特定の地区をフィールドに、社会科教育に関わる諸学問分野のアプローチ方法を学習したうえで、グループ別の調査実習を行う。 演習の前半は、担当教員が専門分野からの地域(社会)史へのアプローチに関する講義を行う。後半は、グループ別に分かれて調査実習(宿泊をとまなう現地調査・プレゼンテーション)を行う。 調査の企画からレポート・プレゼンテーションの作成までを行い、得られた知見がどのような形で社会科教育実践に活用できるのかを考察する。 また、実習の成果については、地域または学内においてプレゼンテーションを実施し、自治体職員、教育関係者、地域住民と共有し、それらに基づいた議論を展開する予定である。
(16)授業の内 容予定	第1回 オリエンテーション 第2回 歴史学と地域史(大谷) 第3回 社会科教育と地域史(篠塚・小瑠) 第4回 地理学と地域史(小岩) 第5回 政治学と地域史(蒔田) 第6回 社会学と地域史(高瀬) 第7～10回 グループに分かれての現地調査 第11・12回 データの整理・分析 第13・14回 プレゼンテーション準備 第15回 プレゼンテーション(成果の発表と共有)とディスカッション ※教員名が示されていない回はすべての教員が担当する。
	参考書(とくに『地域調査ことはじめ』)を入手し、読んでおくこと。また新聞等の地域に関するニュースや情報に定期的に触れるようにすること。

(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	
(18)学問分野 1(主学問分野)	歴史学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	地理学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	教育学関連
(19)実務経験 のある教員によ る授業科目につ いて	-
(20)教材・教 科書	特定の教科書は使用しない。グループごとに対象地域に関する資料が適宜配布される。
(21)参考文献	・梶田真・仁平尊明・加藤政洋編『地域調査ことはじめ—あるく・みる・かく—』ナカニシヤ出版、2007年。 その他の文献については各回の授業でプリント等を通じて紹介する。
(22)成績評価 方法及び採点基 準	授業への参加度（評価全体の20%。準備作業への取り組みなどに基づいて評価する）、プレゼンテーション（同40%。適切に課題を抽出し、わかりやすく提示できているか）、期末レポート（同40%。フィールドワークを通して得た知見に基づき、論理的な考察ができているか）を合算して評価する。
(23)授業形式	演習
(24)授業形 態・授業方法	講義と現地調査、パワーポイントによるプレゼンテーションなどからなる演習形式で行う。
(25)留意点・ 予備知識	・履修にあたっては、授業の性格上、アルバイトや部活動等の私的な都合よりも優先されるものであることを十分に理解すること。 ・グループによる作業をともなうため、他者と協力して取り組む姿勢が受講者には求められる。 ・現地調査にかかる交通費・宿泊費等は原則自己負担となるので予め承知しておくこと。
(26)オフィス アワー	第1回オリエンテーションの際に提示する。
(27)Eメールア ドレス・HPア ドレス	第1回オリエンテーションの際に提示する。
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	224
(2)区分番号	224
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	東洋史 (Oriental History)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等 (小・社会サブコース) : 選択必修 初等中等 (中コース社会) ・特支 (中コース社会) : 必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 5・6時限
(10)担当教員 (所属)	荷見 守義 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具 体的到達目標	○中国史について、近世を中心に、時間の流れ・事件の展開過程を、 時間軸に沿って理解すること ○中国史について、近世を中心に、史実の構造を分析できる判断力を 修得すること
(15)授業の概要	○中国近世(明・清代)を題材として、政治・外交・軍事など統治者側 からの視点に、社会生活・文化などの視点を加味して、歴史像を組み 立てて行く。 ○中国の歴史の流れとして把握することで、因果関係から史実の構造 を理解する。
(16)授業の内容予定	第1回 13世紀世界システムとはなにか 第2回 14世紀の危機 第3回 王朝交代と乱の諸相 第4回 朱元璋の登場 第5回 皇帝専政とは 第6回 永楽帝の登場 第7回 永楽帝の政治 (リアクションペーパー) 第8回 鄭和の世界 第9回 中華と遊牧世界Ⅰ 第10回 中華と遊牧世界Ⅱ 第11回 貨幣の歴史学 第12回 租税の歴史学 第13回 法治と人治 第14回 裁判の歴史学 (リアクションペーパー) 第15回 天空の玉座～皇帝と国王の象徴学～ 第16回 期末試験
(17)準備学習 (予習・ 復習) 等の内容	[予習] 前回までの内容を把握しておいてください。 [復習] 配布プリントを読み返しておいてください。
(18)学問分野1(主学問 分野)	歴史学関連
	考古学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	
(18)学問分野3(副学問分野)	思想関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	配布プリントに基づいて授業を行います。
(21)参考文献	『中国歴史研究入門』（名古屋大学出版会） 『アジア歴史事典』（平凡社）
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（リアクションペーパー）：30% 期末評価（試験）：70% 上記を合算して最終的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式
(25)留意点・予備知識	配布プリントと授業内容をしっかり復習して下さい。
(26)オフィスアワー	月曜11:50~12:40
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	asumim (at) hirosaki-u. ac. jp (at) を@に変換して下さい。
(28)その他	人文社会科学部「中国史」と同時開講科目。

教育学部

(1)整理番号	225
(2)区分番号	225
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	西洋史 (European History)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等 (小・社会サブコース) : 選択必修 初等中等 (中コース社会) ・特支 (中コース社会) : 必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員 (所 属)	田中 良英 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベ ル)	レベル2~3
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての 具体的到達目標	○近年の近世史研究によるヨーロッパ社会像について理解すること (見通す力)
(15)授業の概要	○「初期近代」や「近世」と呼ばれる16~18世紀のヨーロッパを対象に、各地域に生じた事件の歴史的意義について考察する ○それぞれの地域の特徴に着目する一方で、近年の西洋史学の成果をもとに、近世ヨーロッパに共通する時代的特徴を理解する上で重要な概念・枠組を紹介する
(16)授業の内容予 定	第1回 ガイダンス 第2回 神聖ローマ帝国の国制 第3回 長期的過程としての宗教改革 第4回 フランス王国における社团的編成 第5回 君主儀礼による統合的機能 第6回 「イギリス革命」 第7回 財政=軍事国家論 第8回 「バルト海帝国」スウェーデン 第9回 大北方戦争によるロシア帝国の成立 第10回 「礫岩国家」としてのブランデンブルク=プロイセン 第11回 「ドイツ二元主義」 第12回 近世国家の改革を支える諸思想 第13回 啓蒙絶対主義の実像 第14回 ポーランド分割に見える近世王権と議会の関係 第15回 期末試験 (60分) と総括 (19世紀史への展望) ※授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。
(17)準備学習 (予 習・復習) 等の内容	[予習] 大学入試科目に世界史を選択していないなど世界史の知識が曖昧な方は、準備として、高等学校の教科書や概説書などで、近世ヨーロッパに関する大まかなイメージを持つておく必要があります。 [復習] 関心の生じた地域・事件については、授業時に紹介した文献などを通じて、さらに理解を深める必要があります。

(18)学問分野1(主 学問分野)	歴史学関連
(18)学問分野2(副 学問分野)	-
(18)学問分野3(副 学問分野)	-
(19)実務経験のあ る教員による授業科 目について	-
(20)教材・教科書	教科書は使用されません。授業時、適宜レジュメと資料プリントが配布 されます。
(21)参考文献	南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵編『新しく学ぶ西洋の歴史—アジアから考 える』（2016）ミネルヴァ書房（附属図書館本館2階に開架されていま す）。 他の参考文献については授業時に適宜紹介する予定です。
(22)成績評価方法 及び採点基準	平常評価（5回の小レポート）：50% 期末評価（期末試験）：50% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授 業方法	パワーポイントを用いつつ、基本的に講義形式で進めます。
(25)留意点・予備 知識	特になし
(26)オフィスアワ ー	なし
(27)Eメールアドレ ス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	226
(2)区分番号	226
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	西洋史特殊講義I (Topics of European History I)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース社会サブコース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員（所属）	浅岡 善治（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2～3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	○西洋における歴史的思惟の展開過程を、その背景と共に理解すること（見通す力） ○過去の具体的な事象を扱う上での「歴史的」視座と思考様式を獲得すること（学び続ける力）
(15)授業の概要	人間が過去を「歴史的に」理解しようとする試みは、しばしば「現在と過去の対話」と形容される。実際、これまでの優れた歴史研究の成果は、同時代を強く意識した「歴史家 (historian)」たちによって、彼らを取り巻く現実との鋭い緊張関係の中から生み出されてきた。本講義では、ヨーロッパを中心に、古代から現代までの「歴史的思考」の系譜をその背景と共にたどり、歴史研究の意味とその現代的課題について考える。
(16)授業の内容予定	1. はじめに —— 歴史とは何か 2. 「歴史叙述」の誕生 3. ギリシアからローマへ 4. キリスト教と歴史過程 5. 紀年法と時代区分 6. 「近世」の歴史思想 7. 啓蒙主義とロマン主義 8. ヘーゲルの歴史哲学 9. 「近代歴史学」の成立 10. マルクスと唯物史観 11. 歴史学とアジアの「近代」(1) 12. 歴史学とアジアの「近代」(2) 13. 20世紀における歴史学の「危機」(1) 14. 20世紀における歴史学の「危機」(2) 15. 歴史的思惟と現代（総括と試験）

(17)準備学習（予習・復習）等の内容	「特論」ながら内容は平易を旨とするが、受講者が何らかの事由により本来備えるべき基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的努力が求められる。
(18)学問分野1(主学問分野)	歴史学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	思想関連
(18)学問分野3(副学問分野)	政治学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特定の教科書は使用しない。資史料等はプリント形態で配布する。
(21)参考文献	総合的なものとして、E・H・カー『歴史とは何か』清水幾太郎訳、岩波新書、1962年；溪内謙『現代史を学ぶ』岩波新書、1995年；小田中直樹『歴史学ってなんだ？』PHP新書、2004年；ジョン・H・アーノルド『1冊でわかる 歴史』新広記訳、岩波書店、2003年。 ほか、個別的なものに関しては講義の進行にあわせて随時紹介していく。
(22)成績評価方法及び採点基準	「平常点（小レポートなど）」（40%）および最終の筆記試験（60%）によって、総合的に判断する。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	基本的に講義形態を進めるが、各回末の質問、感想などのやり取りを通じて一定の「双方向性」を確保する。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	230
(2)区分番号	230
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	歴史学演習I (日本史) (Seminar in Japanese History I)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員 (所属)	大谷 伸治 (教育学部)
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応する C P / D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学 び続ける力
(14)授業とし ての具体的到達 目標	○古文書に親しみ、基礎的な判読能力を身につけること (見通す力) ○歴史学の概説書を読み、最新の研究成果や歴史学の研究方法・歴史叙述の 方法をつかむこと (解決していく力) ○レジュメの作成方法やプレゼンテーション能力を身につけること (解決し ていく力) ○歴史学の成果を活かした教材化のあり方を考えること (学び続ける力)
(15)授業の概 要	毎回の授業を2部構成とし、前半を古文書解読 (10~15分)、後半を文献講読 とします。 ○古文書解読 テキスト (文書のコピー) を配布し、音読形式で、歴史学を研究するうえで 欠かせない一次史料 (古文書) を判読する力を涵養します。 ○文献講読 歴史学の概説書 (新書) を読み、歴史学の研究方法や歴史叙述の方法を学び ます。 本演習は、学生にとって初めての演習であることと地理学演習との連携を図 るといふねらいから、史学概論にあたる新書と日本災害史に関する通史を講 読します。3冊目 (第10~15回) は学生との相談で決定しますが、百姓一揆に 関する新書を挙げておきます。
(16)授業の内 容予定	※毎回、前半 (10~15分) は古文書解読 第1回 ガイダンス 第2回 歴史学ってなんだ? (1) 史実を明らかにできるか 第3回 歴史学ってなんだ? (2) 歴史学は社会の役に立つか 第4回 歴史学ってなんだ? (3) 歴史家は何をしているか 第5回 日本震災史 (1) 古代・中世 第6回 日本震災史 (2) 近世1——18世紀初頭の多発災害—— 第7回 日本震災史 (3) 近世2——飢饉と救済—— 第8回 日本震災史 (4) 幕末——内憂外患の危機—— 第9回 日本震災史 (5) 近代——国家と災害—— 第10回 百姓一揆 (1) 近世日本はどんな社会だったか 第11回 百姓一揆 (2) 百姓一揆像の転換

	<p>第12回 百姓一揆 (3) 百姓一揆を読む 第13回 百姓一揆 (4) 百姓一揆物語はなぜ生まれたか 第14回 百姓一揆 (5) 『太平記評判秘伝理尽鈔』がひらいた世界 第15回 古文書解読テスト 百姓一揆 (6) 百姓一揆物語とは何だったのか ※授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。</p>
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	<p>[予習] 文献の該当箇所を読んでおく。報告担当者は、内容を要約したレジユメを作成する。 [復習] 古文書を独力で読めるようにする。最終日の古文書解読テストは、授業内で読んだ文書から出題します。</p>
(18)学問分野 1(主学問分野)	歴史学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	地理学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験 のある教員によ る授業科目につ いて	-
(20)教材・教 科書	<p>(1) 小田中直樹『歴史学ってなんだ?』(PHP新書、2004年) (2) 北原糸子『日本震災史』(ちくま新書、2016年) (3) 若尾政希『百姓一揆』(岩波新書、2018年)</p>
(21)参考文献	授業の中で適宜紹介していきます。
(22)成績評価 方法及び採点基 準	<p>[平常評価] 授業への参加度40% [中間評価] レジユメ30% [期末評価] 古文書解読テスト30% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。 授業は皆出席が原則です。やむなく欠席する場合は事前に連絡すること。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形 態・授業方法	演習形式で進めます。報告担当者は内容要約を報告するとともに、興味をもった点や疑問をもった点から議論したいテーマを問題提起します。受講者全員で意見交換し、理解を深めます。
(25)留意点・ 予備知識	<p>○初回に、報告の担当日を決めます。受講希望者は必ず出席してください。 ○予備知識は問いません。「歴史を勉強する(暗記する)」ことと「歴史を研究する(書く)」ことはまったくの別物です。歴史に苦手意識のある方も歓迎します。常識や固定観念に縛られず、既成概念に疑問をもち、あくなき探究心で、共に歴史を追究し続けるゼミナリストを求めます。</p>
(26)オフィス アワー	水曜日5・6時限。在室時にはいつ来ても構いません。
(27)Eメールア ドレス・HPア ドレス	s-ohtani@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	231
(2)区分番号	231
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	歴史学演習II（日本史）（Seminar in Japanese History II）
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員 （所属）	大谷 伸治（教育学部）
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 （レベル）	レベル2～3
(13)対応する C P / D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学 び続ける力
(14)授業とし ての具体的到達 目標	○古文書に親しみ、基礎的な判読能力を身につけること（見通す力） ○歴史学の概説書を読み、最新の研究成果や歴史学の研究方法・歴史叙述の 方法をつかむこと（解決していく力） ○レジュメの作成方法やプレゼンテーション能力を身につけること（解決し ていく力） ○歴史学の成果を活かした教材化のあり方を考えること（学び続ける力）
(15)授業の概 要	毎回の授業を2部構成とし、前半を古文書解読（10～15分）、後半を文献講読 とします。 ○古文書解読 テキスト（文書のコピー）を配布し、音読形式で、歴史学を研究するうえで 欠かせない一次史料（古文書）を判読する力を涵養します。 ○文献講読 歴史学の概説書（新書）を読み、歴史学の研究方法や歴史叙述の方法を学び ます。 本演習では、2022年度から高校で導入される「歴史総合」における授業づく りについて考えることをねらい、史学概論として近現代日本史の研究史に関 する新書を講読します。2冊目以降は受講者と相談して決めますが、ここでは 近代史に関わる新書を挙げておきます。
(16)授業の内 容予定	※毎回、前半（10～15分）は古文書解読 第1回 ガイダンス 第2回 近現代日本史と歴史学（1）近現代日本史の三つのパラダイム／明治 維新Ⅰ——開国 第3回 近現代日本史と歴史学（2）明治維新Ⅱ——討幕／Ⅲ——維新政権 第4回 近現代日本史と歴史学（3）自由民権運動の時代／大日本帝国論 第5回 近現代日本史と歴史学（4）日清・日露戦争の時代／大正デモクラシ 一期 第6回 近現代日本史と歴史学（5）アジア・太平洋戦争の時代／戦後社会論 第7回 日本近代史（1）改革1857～1863 第8回 日本近代史（2）革命1863～1871 第9回 日本近代史（3）建設1871～1880

	<p>第10回 日本近代史 (4) 運用1880～1893 第11回 日本近代史 (5) 再編1894～1924 第12回 日本近代史 (6) 危機1925～1937 第13回 日本軍兵士 (1) 死にゆく兵士たち——絶望的抗戦期の実態Ⅰ 第14回 日本軍兵士 (2) 身体から見た戦争——絶望的抗戦期の実態Ⅱ 第15回 古文書解読テスト 日本軍兵士 (3) 無残な死、その歴史的背景 ※授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。</p>
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	<p>[予習] 文献の該当箇所を読んでおく。報告担当者は、内容を要約したレジュメを作成する。 [復習] 古文書を独力で読めるようにする。最終日の古文書解読テストは、授業内で読んだ文書から出題します。</p>
(18)学問分野 1(主学問分野)	歴史学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験 のある教員によ る授業科目につ いて	-
(20)教材・教 科書	<p>(1) 成田龍一『近現代日本史と歴史学』（中公新書、2012年） (2) 坂野潤治『日本近代史』（ちくま新書、2012年） (3) 吉田裕『日本軍兵士』（中公新書、2017年）</p>
(21)参考文献	授業の中で適宜紹介していきます。
(22)成績評価 方法及び採点基 準	<p>[平常評価] 授業への参加度40% [中間評価] レジュメ30% [期末評価] 古文書解読テスト30% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。 授業は皆出席が原則です。やむなく欠席する場合は事前に連絡すること。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形 態・授業方法	演習形式で進めます。報告担当者は内容要約を報告するとともに、興味をもった点や疑問をもった点から議論したいテーマを問題提起します。受講者全員で意見交換し、理解を深めます。
(25)留意点・ 予備知識	<p>○初回に、報告の担当日を決めます。受講希望者は必ず出席してください。 ○予備知識は問いません。「歴史を勉強する（暗記する）」ことと「歴史を研究する（書く）」ことはまったくの別物です。歴史に苦手意識のある方も歓迎します。常識や固定観念に縛られず、既成概念に疑問をもち、あくなき探究心で、共に歴史を追究し続けるゼミナリストを求めます。</p>
(26)オフィス アワー	水曜日5・6時限。在室時にはいつ来ても構いません。
(27)Eメールア ドレス・HPア ドレス	s-ohtani@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	232
(2)区分番号	232
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	歴史学演習III（日本史）（Seminar in Japanese History III）
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員 （所属）	大谷 伸治（教育学部）
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 （レベル）	レベル2～3
(13)対応する C P / D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学 び続ける力
(14)授業とし ての具体的到達 目標	○古文書に親しみ、基礎的な判読能力を身につけること（見通す力） ○歴史学の概説書を読み、最新の研究成果や歴史学の研究方法・歴史叙述の 方法をつかむこと（解決していく力） ○レジュメの作成方法やプレゼンテーション能力を身につけること（解決し ていく力） ○歴史学の成果を活かした教材化のあり方を考えること（学び続ける力）
(15)授業の概 要	毎回の授業を2部構成とし、前半を古文書解読（10～15分）、後半を文献講読 とします。 ○古文書解読 テキスト（文書のコピー）を配布し、音読形式で、歴史学を研究するうえで 欠かせない一次史料（古文書）を判読する力を涵養します。 ○文献講読 歴史学の概説書（新書）を読み、歴史学の研究方法や歴史叙述の方法を学び ます。 購読する本は受講者と相談して決定しますが、ここでは中近世移行期に関す る概説書を挙げておきます。
(16)授業の内 容予定	※毎回、前半（10～15分）は古文書解読 第1回 ガイダンス 第2回 兵農分離はあったのか（1）兵農分離の多面性をさぐる 第3回 兵農分離はあったのか（2）兵農分離は軍を強くするのか 第4回 兵農分離はあったのか（3）戦場に行くのはどのような身分の人なの か 第5回 兵農分離はあったのか（4）「身分法令」と人掃令はなにを目指した のか 第6回 兵農分離はあったのか（5）身分の分離と検地・刀狩りの関係 第7回 兵農分離はあったのか（6）居住地を分離させる法・政策はあったの か 第8回 兵農分離はあったのか（7）近世的居住形態はどのようにして生まれ たのか 第9回 兵農分離はあったのか（8）武士は領地支配を否定されたのか

	<p>第10回 戦国大名と分国法 (1) 結城正勝と「結城氏新法度」</p> <p>第11回 戦国大名と分国法 (2) 伊達植宗と「塵芥集」</p> <p>第12回 戦国大名と分国法 (3) 六角承禎・義治と「六角氏式目」</p> <p>第13回 戦国大名と分国法 (4) 今川氏親・義元と「今川かな目録」</p> <p>第14回 戦国大名と分国法 (5) 武田晴信と「甲州法度之次第」</p> <p>第15回 古文書解読テスト 戦国大名と分国法 (6) 戦国大名の憂鬱</p> <p>※授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。</p>
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	<p>〔予習〕 文献の該当箇所を読んでおく。報告担当者は、内容を要約したレジュメを作成する。</p> <p>〔復習〕 古文書を独力で読めるようにする。最終日の古文書解読テストは、授業内で読んだ文書から出題します。</p>
(18)学問分野 1(主学問分野)	歴史学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験 のある教員によ る授業科目につ いて	-
(20)教材・教 科書	<p>(1) 平井上総『兵農分離はあったのか』（平凡社、2017年）</p> <p>(2) 清水克行『戦国大名と分国法』（岩波新書、2018年）</p>
(21)参考文献	授業の中で適宜紹介していきます。
(22)成績評価 方法及び採点基 準	<p>〔平常評価〕 授業への参加度40%</p> <p>〔中間評価〕 レジュメ30%</p> <p>〔期末評価〕 古文書解読テスト30%</p> <p>上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。</p> <p>授業は皆出席が原則です。やむなく欠席する場合は事前に連絡すること。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形 態・授業方法	演習形式で進めます。報告担当者は要約を報告するとともに、興味をもった点や疑問をもった点から議論したいテーマを問題提起します。受講者全員で意見交換し、理解を深めます。
(25)留意点・ 予備知識	<p>○初回に、報告の担当日を決めます。受講希望者は必ず出席してください。</p> <p>○予備知識は問いません。「歴史を勉強する（暗記する）」ことと「歴史を研究する（書く）」ことはまったくの別物です。歴史に苦手意識のある方も歓迎します。常識や固定観念に縛られず、既成概念に疑問をもち、あくなき探究心で、共に歴史を追究し続けるゼミナリステンを求めます。</p>
(26)オフィス アワー	水曜日5・6時限。在室時にはいつ来ても構いません。
(27)Eメールア ドレス・HPア ドレス	s-ohtani@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	233
(2)区分番号	233
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	歴史学演習IV（日本史）（Seminar in Japanese History IV）
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員 （所属）	大谷 伸治（教育学部）
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 （レベル）	レベル2～3
(13)対応する C P / D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学 び続ける力
(14)授業とし ての具体的到達 目標	○古文書に親しみ、基礎的な判読能力を身につけること（見通す力） ○歴史学の概説書を読み、最新の研究成果や歴史学の研究方法・歴史叙述の 方法をつかむこと（解決していく力） ○レジュメの作成方法やプレゼンテーション能力を身につけること（解決し ていく力） ○歴史学の成果を活かした教材化のあり方を考えること（学び続ける力）
(15)授業の概 要	毎回の授業を2部構成とし、前半を古文書解読（10～15分）、後半を文献講読 とします。 ○古文書解読 テキスト（文書のコピー）を配布し、音読形式で、歴史学を研究するうえで 欠かせない一次史料（古文書）を判読する力を涵養します。 ○文献講読 歴史学の概説書（新書）を読み、歴史学の研究方法や歴史叙述の方法を学び ます。 購読する本は受講者と相談して決定しますが、ここでは幕末・維新史に関す る概説書を挙げておきます。
(16)授業の内 容予定	※毎回、前半（10～15分）は古文書解読 第1回 ガイダンス 第2回 井上勲『王政復古』（1）王政復古・前史 第3回 井上勲『王政復古』（2）慶応三年の政治社会 第4回 井上勲『王政復古』（3）慶応三年の春、そして夏へ 第5回 井上勲『王政復古』（4）慶応三年の夏 第6回 井上勲『王政復古』（5）慶応三年の秋 第7回 井上勲『王政復古』（6）慶応三年の冬 第8回 井上勲『王政復古』（7）王政復古の日 第9回 久住真也『王政復古』（1）将軍と天皇の交錯 第10回 久住真也『王政復古』（2）宮中参内の政治学 第11回 久住真也『王政復古』（3）天皇という革命 第12回 井上勝生『幕末・維新』（1）江戸湾の外交 第13回 井上勝生『幕末・維新』（2）尊攘・討幕の時代

	第14回 井上勝生『幕末・維新』(3) 開港と日本社会 第15回 古文書解読テスト 井上勝生『幕末・維新』(4) 近代国家の誕生 ※授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	[予習] 文献の該当箇所を読んでおく。報告担当者は、内容を要約したレジュメを作成する。 [復習] 古文書を独力で読めるようにする。最終日の古文書解読テストは、授業内で読んだ文書から出題します。
(18)学問分野 1(主学問分野)	歴史学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験 のある教員によ る授業科目につ いて	-
(20)教材・教 科書	(1) 井上勲『王政復古』(中公新書、1991年) (2) 久住真也『王政復古』(講談社現代新書、2018年) (3) 井上勝生『幕末・維新』(岩波新書、2006年)
(21)参考文献	授業の中で適宜紹介していきます。
(22)成績評価 方法及び採点基 準	[平常評価] 授業への参加度40% [中間評価] レジュメ30% [期末評価] 古文書解読テスト30% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。 授業は皆出席が原則です。やむなく欠席する場合は事前に連絡すること。
(23)授業形式	演習
(24)授業形 態・授業方法	演習形式で進めます。報告担当者は要約を報告するとともに、興味をもった点や疑問をもった点から議論したいテーマを問題提起します。受講者全員で意見交換し、理解を深めます。
(25)留意点・ 予備知識	○初回に、報告の担当日を決めます。受講希望者は必ず出席してください。 ○予備知識は問いません。「歴史を勉強する(暗記する)」ことと「歴史を研究する(書く)」ことはまったくの別物です。歴史に苦手意識のある方も歓迎します。常識や固定観念に縛られず、既成概念に疑問をもち、あくなき探究心で、共に歴史を追究し続けるゼミナリストを求めます。
(26)オフィス アワー	水曜日5・6時限。在室時にはいつ来ても構いません。
(27)Eメールア ドレス・HPア ドレス	s-ohtani@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	238
(2)区分番号	238
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	地理学概論 (Introduction to Geography)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等 (小・社会サブコース) : 選択必修 初等中等 (中コース社会) ・特支 (中コース社会) : 必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日、7・8時限
(10)担当教員 (所 属)	小岩 直人 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベ ル)	レベル1
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具 体的到達目標	○地理学の基礎事項を学び、地理学的な視野で物事を考察できるようになること (見通す力)
(15)授業の概要	地理学は地表に生起する自然・人文現象の地域的差異を総合的に分析し理解する学問です。本講義では地理学の諸分野の研究成果を紹介するとともに、地理学全般の基礎事項を学びます。
(16)授業の内容予定	具体的な授業内容 1. ガイダンス 2. 地理学とは 3. 気候因子と気候要素 4. ケッペンの気候区分 5. ケッペンの気候区分を動気候学的にみると 6. 日本の気候 7. 気候と農業 8. 農業地域区分 9. 環境問題を地理学的に考える。①地球温暖化 10. 環境問題を地理学的に考える。②ヒマラヤの環境問題 11. 第四紀と氷河時代 12. 海面変動と地形発達 13. リアス海岸の形成 14. 地理学と防災 15. まとめと試験
(17)準備学習 (予 習・復習) 等の内容	講義において理解できなかった内容、用語等の復習を中心に行ってください。また、講義で紹介された次週のテーマに関する予習をすることも必要となります。
(18)学問分野1(主 学問分野)	地理学関連
	地球惑星科学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	高等学校レベルの地図帳を必ず用意すること。
(21)参考文献	授業時にプリント配布。講義時に紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	小テスト（20%）、試験あるいはレポート（80%）
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義を中心としますが、地理学に関する室内作業、グループ活動をすることもあります。
(25)留意点・予備知識	高校で地理Bを選択していない学生にも理解できるような講義をします。
(26)オフィスアワー	水曜日10:20～11:50
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	koiwa@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	239
(2)区分番号	239
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	地誌学 (Regional Geography)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等 (小・社会サブコース) : 選択必修 初等中等 (中コース社会) ・特支 (中コース社会) : 必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日、9・10時限
(10)担当教員 (所属)	小岩 直人 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的な到達目標	○自然地理学的な視点、および人文地理学的な観点から、地域を捉え、それらの相互関係を考えることができるようになること (見通す力)
(15)授業の概要	○世界および日本の諸地域における自然環境の特徴とその成り立ち、それらと結びついた人間生活、産業等について、動態地誌的な観点から解説を行います。
(16)授業の内容予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 地誌学とは？ 3. 世界地誌①ヨーロッパ地誌－スイスの自然－ 4. 世界地誌①ヨーロッパ地誌－スイスの人文－ 5. 世界地誌②東南アジア地誌 6. 世界地誌②東南アジア地誌－タイ－ 7. 世界地誌③オセアニア地誌－オーストラリアの自然と歴史－ 8. 世界地誌③オセアニア地誌－オーストラリアの人々の暮らしと産業－ 9. 日本地誌①日本の自然環境 10. 日本地誌②北海道地方 11. 日本地誌③東北地方 12. 日本地誌④中部・北陸地方 13. 日本地誌⑤近畿地方 14. 日本地誌⑥南西諸島 15. まとめと試験
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	講義において理解できなかった内容、用語等の復習を中心に行う。また、講義で紹介された次週のテーマに関する予習をすることが必要となります。
(18)学問分野1(主学問分野)	地理学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
	-

(18)学問分野3(副学問分野)	
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	高等学校レベルの地図帳を必ず用意してください。
(21)参考文献	講義時に紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	小テスト、試験、あるいはレポートによります。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	小テスト（20%）、試験あるいはレポート（30%）によります。
(25)留意点・予備知識	地理学概論を履修済み、または履修中であるとより深い理解を助けます。
(26)オフィスアワー	水曜日10:20～11:50
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	koiwa@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	240
(2)区分番号	240
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	地図学 (Cartography)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等（中コース社会）・特支（中コース社会）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 7・8時限
(10)担当教員（所属）	後藤 雄二（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル1
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的な到達目標	○講義を通じて地図に親しみ、その「読み方」を身につけること（見通す力）
(15)授業の概要	○地図に関する「1. 地図の歴史」「2. 地図の作成法」「3. 地形図の読図」「4. 主題図の内容」の内容について説明します。
(16)授業の内容予定	第1回. 地図とは 第2回. 世界の地図の歴史 第3回. 日本の地図の歴史 第4回. 近代地図の歴史 第5回. 地形図の作成法 第6回. 一般図 第7回. 地形図の記号 第8回. 等高線 第9回. 地形図の読図（弘前） 第10回. 地形図の読図（山地） 第11回. 地形図の読図（台地） 第12回. 地形図の読図（扇状地） 第13回. 地形図の読図（海岸） 第14回. 主題図 第15回. 統計地図 第16回. 試験 ※授業の進行状況等により内容が異なる場合があります
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	前回までの授業内容を十分に復習しておくこと
(18)学問分野1(主学問分野)	地理学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-

(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	プリントを配布します。
(21)参考文献	授業の中で紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	期末試験を主な判断材料とします。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義
(25)留意点・予備知識	なし
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	なし

教育学部

(1)整理番号	241
(2)区分番号	241
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	人文地理学I (Human Geography I)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース社会サブコース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日 7・8時限
(10)担当教員（所属）	後藤 雄二（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的な到達目標	○人文地理学的な見方・考え方ができるようになること（見通す力）
(15)授業の概要	○人文地理学の基礎概念と理論を理解し、それに基づいて地域に生起する人文地理的諸現象を分析・説明することを学びます。
(16)授業の内容予定	<p>第1回. ガイダンス 第2回. 地理学とスケール 第3回. 人口地理学(マクロ・スケール) 第4回. 人口地理学(メソ・スケール) 第5回. 人口地理学(ミクロ・スケール) 第6回. 村落地理学(マクロ・スケール) 第7回. 村落地理学(ミクロ・スケール) 第8回. 都市地理学(マクロ・スケール) 第9回. 都市地理学(メソ・スケール) 第10回. 都市地理学(ミクロ・スケール) 第11回. 農業地理学(マクロ・スケール) 第12回. 農業地理学(メソ・スケール) 第13回. 農業地理学(ミクロ・スケール) 第14回. 工業地理学(メソ・スケール) 第15回. 工業地理学(ミクロ・スケール) 第16回. 試験</p> <p>※授業の進行状況等により内容が異なる場合があります。</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	テキストを読むこと
(18)学問分野1(主学問分野)	地理学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
	-

(19)実務経験のある教員による授業科目について	
(20)教材・教科書	浮田典良「地理学入門 一改訂版一第3刷」原書房、2015年。 プリントも配布します
(21)参考文献	授業の中で紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	期末試験を主な判断材料とします。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式 テキストの内容を主とし、資料も配付して説明します。
(25)留意点・予備知識	中学校か高等学校で使用した（または、同程度の）地図帳を持参してください。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	なし

教育学部

(1)整理番号	243
(2)区分番号	243
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	自然地理学I (Physical Geography I)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース社会サブコース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日 1・2時限
(10)担当教員（所属）	小岩 直人（教育学部）
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○身近に存在する地形が、地球規模での環境変化によって形成されてきたことを説明できるようになること（見通す力）
(15)授業の概要	人間が生活を営む自然的基盤となっている地形は、地球規模での環境変化に対応して形成されていると考えられています。 本講義ではおもに ○東北地方に分布する身近な地形を取り上げ、その特徴・分布・成因などについて画像資料等を活用しながら解説します。 ○さらに地形環境と人間生活との関連についてもふれる予定です。
(16)授業の内容予定	1. ガイダンス 2. 第四紀とは？ 3. 世界の大地形 4. 日本の地形配列とプレートテクトニクス 5. 山地の地形 6. 火山活動による地形 7. 青森県内の火山 8. 第四紀の気候変化と地形発達 9. 河川が形成する地形①台地 9. 河川が形成する地形② 低地 10. 海面変動と地殻変動がつくる海成段丘 11. 海成段丘から読み取る日本の地殻変動 12. 日本の地震 13. 活断層と地震災害 14. 地形学と防災 15. まとめと試験
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	講義において理解できなかった内容、用語等の復習を中心に行ってください。また、講義で紹介された次週のテーマに関する予習をすることが必要となります。
(18)学問分野1(主学問分野)	地理学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	地球惑星科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	防災工学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	高等学校レベルの地図帳を必ず用意すること。授業時にプリント配布。
(21)参考文献	講義時に紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	小テスト（20%）、試験またはレポート（80%）
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義，一部，演習を含みます。
(25)留意点・予備知識	地理学概論を受講していると、より深い理解を助けます。
(26)オフィスアワー	水曜日10:20～11:50
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	koiwa@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	なし

教育学部

(1)整理番号	245
(2)区分番号	245
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	人文地理学基礎演習 (Introductory Seminar in Human Geography)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員 (所属)	○小岩 直人 (教育学部)・篠塚 明彦 (教育学部)・小瑠 史朗 (教育学部)・大谷 伸治 (教育学部)・蒔田 純 (教育学部)・高瀬 雅弘 (教育学部)
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル3
(13)対応する CP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業とし ての具体的到達 目標	○自ら立てた地域社会・地域政策に関わる人文地理学的課題を、フィールドでの調査を積極的に行いながら明らかにすることができるようになること (見通す力) ○フィールドワークを通して得た知見を、社会科教育実践に活用できる能力を身につけること (解決していく力)
(15)授業の概 要	青森県または北海道・北東北地域の特定の地区をフィールドに、社会科教育に関わる諸学問分野のアプローチ方法を学習したうえで、グループ別の調査実習を行う。 演習の前半は、担当教員が専門分野からの地域社会・地域政策へのアプローチに関する講義を行う。後半は、グループ別に分かれて調査実習(宿泊をとともなう現地調査・プレゼンテーション)を行う。 調査の企画からレポート・プレゼンテーションの作成までを行い、得られた知見がどのような形で社会科教育実践に活用できるのかを考察する。 また、実習の成果については、地域または学内においてプレゼンテーションを実施し、自治体職員、教育関係者、地域住民と共有し、それらに基づいた議論を展開する予定である。
(16)授業の内 容予定	第1回 オリエンテーション 第2回 歴史学と地域社会・地域政策 (大谷) 第3回 社会科教育と地域社会・地域政策 (篠塚・小瑠) 第4回 地理学と地域社会・地域政策 (小岩) 第5回 政治学と地域社会・地域政策 (蒔田) 第6回 社会学と地域社会・地域政策 (高瀬) 第7～10回 グループに分かれての現地調査 第11・12回 データの整理・分析 第13・14回 プレゼンテーション準備 第15回 プレゼンテーション (成果の発表と共有) とディスカッション ※教員名が示されていない回はすべての教員が担当する。
	参考書 (とくに『地域調査ことはじめ』) を入手し、読んでおくこと。また新聞等の地域に関するニュースや情報に定期的に触れるようにすること。

(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	
(18)学問分野 1(主学問分野)	地理学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	政治学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	社会学関連
(19)実務経験 のある教員によ る授業科目につ いて	-
(20)教材・教 科書	特定の教科書は使用しない。グループごとに対象地域に関する資料が適宜配布される。
(21)参考文献	・梶田真・仁平尊明・加藤政洋編『地域調査ことはじめ—あるく・みる・かく—』ナカニシヤ出版、2007年。 その他の文献については各回の授業でプリント等を通じて紹介する。
(22)成績評価 方法及び採点基 準	授業への参加度（評価全体の20%。準備作業への取り組みなどに基づいて評価する）、プレゼンテーション（同40%。適切に課題を抽出し、わかりやすく提示できているか）、期末レポート（同40%。フィールドワークを通して得た知見に基づき、論理的な考察ができているか）を合算して評価する。
(23)授業形式	演習
(24)授業形 態・授業方法	講義と現地調査、パワーポイントによるプレゼンテーションなどからなる演習形式で行う。
(25)留意点・ 予備知識	・履修にあたっては、授業の性格上、アルバイトや部活動等の私的な都合よりも優先されるものであることを十分に理解すること。 ・グループによる作業をともなうため、他者と協力して取り組む姿勢が受講者には求められる。 ・現地調査にかかる交通費・宿泊費等は原則自己負担となるので予め承知しておくこと。
(26)オフィス アワー	第1回オリエンテーションの際に提示する。
(27)Eメールア ドレス・HPア ドレス	第1回オリエンテーションの際に提示する。
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	246
(2)区分番号	246
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	自然地理学基礎演習 (Introductory Seminar in Physical Geography)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日 1・2時限
(10)担当教員(所属)	小岩 直人(教育学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○自然地理学的な検討するための地理技能を身につけ、任意の地域における地形について各自が自然地理的に説明することができる能力を養うこと(見通す力)
(15)授業の概要	自然地理学調査の基礎となる、地形図判読、空中写真を用いた地形判読、GIS(地理情報システム)を活用した地形分析に関する基礎的な能力を養う演習を行います。
(16)授業の内容予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 地形図判読の基礎 原理 3. 空中写真判読 台地1 河成段丘 4. 空中写真判読 台地2 海成段丘 5. 空中写真判読 低地 6. ボーリングコア観察 ①記載 7. ボーリングコア観察 ②粒度組成変化 8. ボーリングコア観察 ③粒度分析の基礎 9. ボーリングコア観察 ④粒度分析実施 10. ボーリングコア観察 ⑤火山灰の分析 11. GISの基本 12. GISの操作 13. GISを用いた標高分布図作成 14. GISを用いた地形解析 15. まとめ
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業時間内での作業時間では限りがあることから、演習前、および演習後は各自が課題を持ち帰って学習をする必要があります。
(18)学問分野1(主学問分野)	地理学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	地球惑星科学関連

(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特に指定しません。
(21)参考文献	演習時に紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	各演習で作成した地図・地形分類図等の成果（40%）、およびレポート（60%）をもとに評価を行います。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習および実習
(25)留意点・予備知識	地理学概論、自然地理学 I を履修済み、または履修中であることが望ましいです。
(26)オフィスアワー	水曜日10:20~11:50
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	koiwa@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	なし

教育学部

(1)整理番号	247
(2)区分番号	247
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	地理学巡検I (Geographical Excursion I)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中（夏期休業中）
(10)担当教員（所 属）	小岩 直人（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベ ル）	レベル2～3
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての 具体的到達目標	○地理的な地域調査法を修得し、中学校社会の教員として地理的な地域学 習を指導するための能力を養うこと（見通す力）
(15)授業の概要	本実習は、地理学における実地調査法を体得するため、地域での現地調査 を行うものです。今年度は北海道渡日高地方および十勝平野周辺における 自然地理学巡検を予定しています。
(16)授業の内容予 定	1. 事前調査 2. 日高山脈の地形調査（海成段丘、河成段丘、臨海沖積低地） 3. 日高地方の自然と産業 4. 十勝平野の地形（海成段丘と河成段丘－火山灰に着目して－） 5. 十勝平野の農業と観光 6. 調査成果のまとめ 7. 成果発表会
(17)準備学習（予 習・復習）等の内容	巡検実施にあたり事前調査をする予定であり、空中写真判読，地形図判読 などの課題を提示します。
(18)学問分野1(主 学問分野)	地理学関連
(18)学問分野2(副 学問分野)	-
(18)学問分野3(副 学問分野)	-
(19)実務経験のあ る教員による授業科 目について	-

(20)教材・教科書	事前調査時に紹介予定です。
(21)参考文献	事前調査時に紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	実習内容（40%）・レポート（60%）によって評価します。
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	野外実習
(25)留意点・予備知識	地理学巡検Ⅱとの合同授業。夏季休業中の集中授業となるが、事前・事後に巡検に関する調査発表会も行う予定です。交通費および宿泊費は各自負担となります。日程については後日掲示します。
(26)オフィスアワー	水曜日 3・4 時限
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	koiwa@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	なし

教育学部

(1)整理番号	248
(2)区分番号	248
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	地理学巡検II (Geographical Excursion II)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中（夏期休業中）
(10)担当教員（所 属）	小岩 直人（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベ ル）	レベル2～3
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての 具体的到達目標	○地理的な地域調査法を修得し、中学校社会の教員として地理的な地域学 習を指導するための能力を身につけること（見通す力）
(15)授業の概要	本実習は、地理学における実地調査法を体得するため、地域での現地調査 を行うものです。今年度は北海道渡日高地方および十勝平野周辺における 自然地理学巡検を予定しています。
(16)授業の内容予 定	1. 事前調査 2. 日高山脈の地形調査（海成段丘，河成段丘，臨海沖積低地） 3. 日高地方の自然と産業 4. 十勝平野の地形（海成段丘と河成段丘－火山灰に着目して－） 5. 十勝平野の農業と観光 6. 調査成果のまとめ 7. 成果発表会
(17)準備学習（予 習・復習）等の内 容	巡検実施にあたり事前調査をする予定であり、空中写真判読、地形図判読 などの課題を提示します。
(18)学問分野1(主 学問分野)	地理学関連
(18)学問分野2(副 学問分野)	-
(18)学問分野3(副 学問分野)	-
	-

(19)実務経験のある教員による授業科目について	
(20)教材・教科書	事前調査時に紹介予定です。
(21)参考文献	事前調査時に紹介予定です。
(22)成績評価方法及び採点基準	実習内容（40%）・レポート（60%）によって評価します。
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	野外実習
(25)留意点・予備知識	地理学巡検 I との合同授業。夏季休業中の集中授業となりますが、事前・事後に巡検に関する調査発表会も行う予定です。交通費および宿泊費は各自負担となります。日程については後日掲示します。
(26)オフィスアワー	水曜日10:20~11:50
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	koiwa@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	地理学巡検 I と合同で実施します。

教育学部

(1)整理番号	253
(2)区分番号	253
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	地理学演習I（自然地理学）（Geography, Seminar I）
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 3・4時限
(10)担当教員（所 属）	小岩 直人（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベ ル）	レベル2
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具 体的到達目標	○地理学の論文内容を客観的に正しく解説できるようになること（見通す力） ○紹介した論文のみならず、関連した文献にも目を通し、その研究の位置づけを理解することができること（見通す力）
(15)授業の概要	○自然地理学に関する文献を、受講者が自分で選び出し、解釈・説明、討論を行います。
(16)授業の内容予定	1. ガイダンス 2. 地理学の文献の検索方法 3. 地理学の論文の読み方1 4. 地理学の論文の読み方2 5～14 文献講読 15. まとめ
(17)準備学習（予 習・復習）等の内容	1週間前に配布される論文を熟読し、疑問点等を調べ内容の理解を高め ておくこと、演習後には紹介された論文内容の整理、関連する文献に目 を通すことが必要となります。
(18)学問分野1(主学 問分野)	地理学関連
(18)学問分野2(副学 問分野)	地球惑星科学関連
(18)学問分野3(副学 問分野)	-
(19)実務経験のある 教員による授業科目 について	-
(20)教材・教科書	特に指定しません。

(21)参考文献	演習時に紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業の参加状況（20%）・発表内容および質疑応答（80%）
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習および実習
(25)留意点・予備知識	地理学演習Ⅲと同時開講になります。
(26)オフィスアワー	水曜日10:20～11:50
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	koiwa@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	なし

教育学部

(1)整理番号	254
(2)区分番号	254
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	地理学演習II（自然地理学）（Geography, Seminar II）
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 3・4時限
(10)担当教員（所 属）	小岩 直人（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベ ル）	レベル2
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具 体的到達目標	○地理学の論文内容を客観的に正しく解説できるようになること（見通す力） ○紹介した論文のみならず、関連した文献にも目を通し、その研究の位置づけを理解することができること（学び続ける力）
(15)授業の概要	○自然地理学に関する文献を、受講者が自分で選び出し、解釈・説明、討論を行います。
(16)授業の内容予定	1. ガイダンス 2. 地理学の文献の検索方法 3. 地理学の論文の読み方1 4. 地理学の論文の読み方2 5～14 文献講読 15. まとめ
(17)準備学習（予 習・復習）等の内容	1週間前に配布される論文を熟読し、疑問点等を調べ内容の理解を高め ておくこと、演習後には紹介された論文内容の整理、関連する文献に目 を通すことが必要となります。
(18)学問分野1(主学 問分野)	地理学関連
(18)学問分野2(副学 問分野)	-
(18)学問分野3(副学 問分野)	-
(19)実務経験のある 教員による授業科目 について	-
(20)教材・教科書	特に指定しません。

(21)参考文献	講義中に紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業の参加状況（20%）・発表内容および質疑応答（80%）
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	論文講読になります。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	水曜日10:20～11:50
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	koiwa@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	なし

教育学部

(1)整理番号	255
(2)区分番号	255
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	地理学演習III（自然地理学）（Geography, Seminar III）
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 3・4時限
(10)担当教員（所属）	小岩 直人（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○地理学の論文内容を客観的に正しく解説できるようになること（見通す力） ○紹介した論文のみならず、関連した文献にも目を通し、その研究の位置づけを理解することができること（学び続ける力）
(15)授業の概要	○自然地理学に関する文献を、受講者が自分で選び出し、解釈・説明、討論を行います。 ○発表者の選択した論文について参加者がコメントをします。
(16)授業の内容予定	1. ガイダンス 2. 地理学の文献の検索方法 3. 地理学の論文の読み方1 4. 地理学の論文の読み方2 5～14 文献講読 15. まとめ
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	1週間前に配布される論文を熟読し、疑問点等を調べ内容の理解を高めしておくこと、演習後には紹介された論文内容の整理、関連する文献に目を通すことが必要となります。
(18)学問分野1(主学問分野)	地理学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-

(20)教材・教科書	特に指定しません。
(21)参考文献	講義時に紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業の参加状況（20%）・発表内容および質疑応答（80%）
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	論文講読になります。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	水曜日10:20~11:50
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	koiwa@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	なし

教育学部

(1)整理番号	256
(2)区分番号	256
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	地理学演習Ⅳ（自然地理学）（Geography, SeminarⅣ）
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 3・4時限
(10)担当教員（所属）	小岩 直人（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○地理学の論文内容を客観的に正しく解説できるようになること（見通す力） ○紹介した論文のみならず、関連した文献にも目を通し、その研究の位置づけを理解することができること（学び続ける力）
(15)授業の概要	○自然地理学に関する文献を、受講者が自分で選び出し、解釈・説明、討論を行います。 ○発表者の選択した論文について参加者がコメントをします。
(16)授業の内容予定	1. ガイダンス 2. 地理学の文献の検索方法 3. 地理学の論文の読み方1 4. 地理学の論文の読み方2 5～14 文献講読 15. まとめ
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	1週間前に配布される論文を熟読し、疑問点等を調べ内容の理解を高めしておくこと、演習後には紹介された論文内容の整理、関連する文献に目を通すことが必要となります。
(18)学問分野1(主学問分野)	地理学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-

(20)教材・教科書	特にありません
(21)参考文献	講義時に紹介します
(22)成績評価方法及び採点基準	授業の参加状況（20%）・発表内容および質疑応答（80%）
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	論文講読になります。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	水曜日 10:20~11:50
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	koiwa@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	なし

教育学部

(1)整理番号	257
(2)区分番号	257
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	法学概論 (Introductory Lecture on Law)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等 (小・社会サブコース) ・初等中等 (中コース社会) ・特支 (中コース社会) : 選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 3・4時限
(10)担当教員 (所属)	宮崎 秀一 (非常勤講師)
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2~3
(13)対応する C P / D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業とし ての具体的到 達目標	○日常の具体的事象を法的角度から構成し、紛争事例の解決に必要な法規を適用し解釈できるようになること
(15)授業の概 要	<p>テーマ「市民生活における法の役割を考える」</p> <p>法は、個々の市民、国家、行政機関、企業その他のあらゆる社会的存在の行動規範として機能しています。この授業では、民法、刑法その他基本的な法を中心に、身近な事例を通じて現代社会における法の機能を理解します。また、法が形成され実現される動態に注目し、市民生活と法規との関係性についても考察します。</p>
(16)授業の内 容予定	<p>①法の本質と機能</p> <p>②法の分類</p> <p>③犯罪と法 (1)</p> <p>④ 同 (2)</p> <p>⑤ 同 (3)</p> <p>⑥不法行為責任 (1)</p> <p>⑦ 同 (2)</p> <p>⑧ 同 (3)</p> <p>⑨日常生活と契約 (1)</p> <p>⑩ 同 (2)</p> <p>⑪ 同 (3)</p> <p>⑫家族と法 (1)</p> <p>⑬ 同 (2)</p> <p>⑭ 同 (3)</p> <p>⑮まとめ</p>

(17)準備学習 (予習・復習)等の内容	(予習) 毎回、教科書と六法を用い、前回の授業内容を振り返って授業に望んでください。 (復習) 各回の授業内容に関連する法的事象・事件について、新聞、インターネット等で検索し再確認する。
(18)学問分野 1(主学問分野)	法学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書は未定（授業開始前に掲示等でお知らせします。） 副教材＝小型六法（有斐閣『ポケット六法』など）を毎回持参して下さい。
(21)参考文献	授業の中で随時紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	①平常点（小レポート・小テストなど）40% ②期末試験（筆記試験）60% の総合評価によります。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	発問・応答形式を部分的にとりいれます。
(25)留意点・予備知識	中学校社会科公民・高校現代社会・高校政治経済の教科書における法や政治機構に関する記述は予備知識としてフォローしておいて下さい。
(26)オフィスアワー	質問等は授業終了後にしてください。
(27)Eメール アドレス・HP アドレス	なし
(28)その他	特にありません。

教育学部

(1)整理番号	258
(2)区分番号	258
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	法学特殊講義 (Special Lecture on Law)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース社会サブコース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日 3・4時限
(10)担当教員（所属）	宮崎 秀一（非常勤）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2～3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	<p>○子どもを取り巻く3つのテーマ、「少年非行」「面会交流」「児童虐待」に関する問題状況を、ゲストスピーカーの講義を聴いて理解すること</p> <p>○問題状況の理解を踏まえて、どのようにすればその問題が解決できるかを考えることができること</p> <p>○グループディスカッションやプレゼンテーションを通じて、自分の考えたことを分かりやすく他者に伝えることができるようになること</p> <p>○他人の意見を聞いてその主張内容を理解した上で、建設的な質問・意見を伝えることができること</p>
(15)授業の概要	<p>授業の副題は「子どもと法律」です。</p> <p>近年、子どもを取り巻く様々な社会問題が生じています。その中には、法律が深くかかわる問題も少なくはありません。この講義では、数ある子どもと法律に関する問題の中から「少年非行」「面会交流」「児童虐待」を選び、家庭裁判所の調査官から現状分析や法的問題などを、実務経験を踏まえながら解説していただき、その内容について、グループや履修者全員で議論をしていきます。</p> <p>3つの小テーマごとに、家庭裁判所の裁判官・調査官の方の貴重な講話を聞くことができます。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 「子どもと法律」総論</p> <p>第3回～第6回 少年非行</p> <p>第7回～第10回 面会交流</p> <p>第11回～第14回 児童虐待</p> <p>第15回 まとめ</p>
	<p>（予習）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師によっては、関連法規に事前に目を通してきてもらうことがあります。 ・最近の話題を取り上げることがありますので、子どもをめぐる法律問題の新

(17)準備学習 (予習・復習)等の内容	<p>聞記事やテレビのニュースには目を通すようにしてください。 (復習) ・第1回の授業時に参考文献の一覧を配布しますので、興味を持った分野に関しては積極的に本を読んでみてください。</p>
(18)学問分野 1(主学問分野)	法学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特に使用しません。必要に応じてレジュメ等が配布されます。
(21)参考文献	初回の授業時に、参考文献等の一覧が配布します。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>期末テストは行いません。 授業内の ①レポート(60%) ②グループディスカッションの態度とグループのプレゼンテーション(20%) ③質疑応答・意見交換の発言(20%) で総合的に評価します。</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	<p>この科目は、3つのテーマについてそれぞれ4回の授業で構成されます。 1回目は、家庭裁判所の調査官をゲストスピーカーとしてお招きし、各テーマについて実務的な観点からお話をいただきます。青森県内で実際に生じた問題や青森県の傾向なども踏まえた説明をしていただく予定です。その講義の最後の15分程を使って、講義を聴いて考えたことをまとめてもらいます。 2回目の授業では、前回の授業でまとめてもらったレポートをもとに、グループに分かれてディスカッションをしてもらいます。 3回目の授業では、前回のディスカッションの内容などを踏まえてグループごとに報告の準備をしてもらいます。 4回目は、グループディスカッションでまとめられた意見を、グループごとに報告してもらいます。それぞれのグループの意見をもとに、全体で質疑応答・意見交換を行います。 *一部変更になる場合があります。その場合には、第1回講義の際に説明します。</p>
(25)留意点・予備知識	<p>・授業のコンセプトとしては、実務家の講義の中から今ある問題を履修者全員で抽出し、その問題に関してそれぞれの考え方をもち寄って、様々な観点から考えてよりよい制度を考えていこうというものです。履修者の知識に大きな差はないですし、どんな意見を言っても恥ずかしくないので、ディスカッション等のある授業を敬遠している学生も、気軽に参加してください。 ・外部から講師を招いて講義をお聴きするので、大学生として(弘大生とし</p>

	て) 恥ずかしくない態度で臨んでください。 ・基本的に予備知識は不要です。この講義を受けて興味が湧けば、講義後にその分野の新聞記事を調べたり、本を読んだりして理解を深めてください。
(26)オフィス アワー	なし
(27)Eメール アドレス・ HPアドレス	なし
(28)その他	人文社会科学部と合同開講になります。 同学部の担当教員は平野潔先生です。

教育学部

(1)整理番号	259
(2)区分番号	259
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	国際法 (Essentials of International Law)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース社会サブコース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日 3・4時限
(10)担当教員 (所属)	小野 昇平（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○国際社会と国内社会の構造の違いに起因する国際法の特徴を捉えること（見通す力） ○様々な国際法上の問題について自分の言葉で適切に説明できるようになること（解決する力）
(15)授業の概要	この講義では、国際社会のルールである国際法について、国内法との違いを踏まえながらその基本的性格を説明し、そのうえで、国際法の諸分野についての具体的な説明を行い、現代の国際社会において生じている様々な問題に対して法的な視点から考えるための素地を涵養する。
(16)授業の内容 予定	第一回：国際社会と国内社会の違い—分権的な国際法秩序の特徴 第二回：国際法とは何か：条約、国際慣習法、法の一般原則など 第三回：「国家」の成立要件、国家承認、国家管轄権について 第四回：国家機関—主権免除、外交・領事特権と免除 第五回：国際法と国内法—国際法と国内法はどのような関係にあるのか 第六回：条約法—条約の解釈、無効・終了原因、留保などについて 第七回：陸の国際法—領域主権、領域権原、境界画定について 第八回：海の国際法（海洋法） 第九回：国際組織—国連の役割とその現代的課題について 第十回：国際紛争の平和的解決—特に国際司法裁判所について 第十一回：国際法と武力の行使—武力不行使原則とその例外について 第十二回：国際経済法—WTOについて 第十三回：国際環境法・開発に関する国際法 第十四回：国際人権法 第十五回：軍縮・軍備管理に関する国際法
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	予習：次回の講義で扱う分野についての主要条約に目を通しておく 復習：毎回の講義の最後に提示する問題について国際法の観点からの説明を考えておく。
	法学関連

(18)学問分野 1(主学問分野)	
(18)学問分野 2(副学問分野)	政治学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	芹田健太郎（編集代表）『コンパクト学習条約集（第2版）』（信山社、2014年）
(21)参考文献	中谷和弘他（編）『国際法[第三版]』（有斐閣アルマ、2017年）、杉原高嶺、酒井啓亘（編）『国際法基本判例50 [第二版]』（三省堂、2014年）
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>期末評価：学期末レポート100%</p> <p>* 評価の観点</p> <p>講義で説明した国際法の内容を正しく説明できている。…70% （説明が必要十分であれば70点）</p> <p>国際法の内容を説明する際に、関連する条約や判例を適切に参照している。…30%（関連条約や判例を網羅的に参照していれば30点）</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式によります。配布資料には必要最小限の要点だけを示し、その他は口頭で補足する。
(25)留意点・予備知識	高等学校卒業程度の政治経済についての知識を必要とします。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	shohei-o@tojo.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	260
(2)区分番号	260
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	政治学概論 (Introductory Lecture on Politics)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等 (小・社会サブコース) ・初等中等 (中コース社会) ・特支 (中コース社会) : 選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日 3・4時限
(10)担当教員 (所属)	蒔田 純 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	<p>○「主権者教育」を適切に行なうための基礎知識として、政治学の基本的な概念・考え方を理解し、その概要や特徴、相違等について正しく説明できること (見通す力)</p> <p>○上記に基づいて、現実の具体的な政治事象について、その内容を、関係する諸要素間の因果関係を明らかにしながら、論理的に考察できること (見通す力)</p> <p>○「仮説」→「検証」という科学的アプローチの意味を正しく理解し、物事を考える際に採るべき基礎的な思考方法を身につけること (解決していく力)</p>
(15)授業の概要	<p>次期学習指導要領 (小学校は2020年度、中学校は2021年度より全面実施) においては、小学校・中学校ともに、主権者として社会や政治に対する関わり方を教える「主権者教育」の充実が図られることとなり、「国民としての政治への関わり方について自分の考えをまとめる (小:社会)」「民主政治の推進と公正な世論の形成や国民の政治参加との関連についての考察 (中:社会)」等、教科の中で為すべき具体的な取り組みが明記されるに至った。</p> <p>この授業においては、政治に関する基本的な仕組みを理解した上で、政治事象について自ら考え、分析するための基礎を身につけることを目的とする。政治とは何か、政治学とは何か、という政治学を学ぶ上で基礎となる問題について理解を得るため、毎回、政治に関する基本的概念を取り上げ、分かりやすく解説していく。その際は、現実の政治行政の動きや実例を交え、できるだけ受講者が具体的にイメージしながら学べるような講義としたい。</p>

(16)授業の内容予定	第1回 オリエンテーション、政治とは何か 第2回 政治権力 第3回 国家 第4回 民主主義、自由主義 第5回 代表制と選挙 第6回 権力分立と政治制度 第7回 政党制 第8回 議会 第9回 官僚制 第10回 行政国家 第11回 政策形成過程 第12回 圧力団体 第13回 世論とマスコミ 第14回 地方政治 第15回 まとめ、政治の役割
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	毎回、次回講義についてのレジュメを配布するので、参考文献や関連資料に目を通し、自分なりの問題意識を持っておいてもらいたい。講義終了後は積極的に質問してもらいたい。その他、受講者には、新聞、ニュース等で実際に起こっている具体的なトピックについて常に敏感にアンテナを張り、その内容や問題点等について考えてほしい。
(18)学問分野1(主学問分野)	政治学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	思想関連
(18)学問分野3(副学問分野)	歴史学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特定の教科書は使用しない。
(21)参考文献	伊藤光利・田中愛治・真淵勝『政治過程論』有斐閣、2000年 加茂利男・大西仁・石田徹・伊藤恭彦『現代政治学 第3版』有斐閣、2007年 北山俊哉・真淵勝・久米郁男『新版 はじめて出会う政治学—フリー・ライダーを超えて』有斐閣、2003年 建林正彦・曾我謙悟・待鳥聡史『比較政治制度論』有斐閣、2008年 村松岐夫・辻中豊・伊藤光利『日本の政治』有斐閣、2001年
(22)成績評価方法及び採点基準	・レポートの点数：評価全体の50% （授業内容を理解したうえで、政治事象について因果関係を明らかにしながら論理的に説明できるかどうか） ・平常点：同50% （小課題の提出、リアクションペーパーを通じた主体的な授業への参加）
(23)授業形式	講義
	講義形式。各回、ポイントをまとめたレジュメを用いて講義を行う。授業の最後にその日の講義内容についてのリアクションペーパーを提出してもらう。また、授業中の質問を歓迎する。一つの質問をきっかけに教室中に議論が起こるような、参加型の学習空間としたい。

(24)授業形態・授業方法	なお、どこかで時間をとり、近隣の議会見学や議員・官僚等との意見交換など、現実政治に直に触れる機会をつくりたい。
(25)留意点・予備知識	講義中の途中入退室や私語は授業進行の妨げとなるので、教室内でのマナーを守れない学生の履修は固くお断りする。
(26)オフィスアワー	月曜7・8限
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	jun.makita@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	261
(2)区分番号	261
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	国際政治学 (Essentials of International Politics)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース社会サブコース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 3・4時限
(10)担当教員（所属）	蒔田 純（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	<p>○国際政治・国際関係の基本的な概念・考え方を理解し、その概要や特徴、相違等について正しく説明できること（見通す力）</p> <p>○上記に基づいて、過去および現在の国際政治事象について、その内容を、関係する諸要素間の因果関係を明らかにしながら、論理的に考察できること（見通す力）</p> <p>○「仮説」→「検証」という科学的アプローチの意味を正しく理解し、物事を考える際に採るべき基礎的な思考方法を身につけること（解決していく力）</p>
(15)授業の概要	<p>中学校学習指導要領「社会」においては、国際関係に関する理解や他国を尊重することの大切さへの自覚等が目標として掲げられ、それを受けて、地理的分野における各地域の課題解決への姿勢、歴史的分野における国際社会の歴史的成り立ちへの理解、公民的分野における国際社会の公民としての資質の涵養等、国際政治・国際関係に関わる事項が多数言及されている。</p> <p>この授業においては、国際政治に関する基本的な概念を理解した上で、国際政治事象について自ら考え、分析するための基礎を身につけることを目的とする。授業前半では、国際政治学の基本的な理論・考え方について押さえた上で、それを用いた世界史の再理解を行い、後半ではそれを踏まえて、国際政治を形成する主要なトピックについて具体的に説明を行なう。現実の国際政治の動きや実例を交え、できるだけ受講者が具体的にイメージしながら学べるような講義としたい。</p>

(16)授業の内容予定	第1回 オリエンテーション、国際政治とは 第2回 パワーと国益（リアリズム）、相互依存とレジーム（リベラリズム） 第3回 従属論（マルクス主義）、規範と構造（コンストラクティヴィズム） 第4回 国際政治経済と文化 第5回 歴史的経緯①ウエストファリア体制～長い18世紀～ウィーン体制 第6回 歴史的経緯②ヴィスマルク体制～第一次世界大戦～ヴェルサイユ体制 第7回 歴史的経緯③世界恐慌～第二次世界大戦～戦後復興 第8回 歴史的経緯④冷戦～冷戦終結～多様化の時代 第9回 政治体制と対外政策決定過程 第10回 国連と地域主義 第11回 核と新しい戦争 第12回 開発援助と平和構築 第13回 人権・民主主義・環境・エネルギー 第14回 グローバリゼーションと脱国家主体 第15回 まとめ、国際政治の展望
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	毎回、次回講義についてのレジュメを配布するので、参考文献や関連資料に目を通し、自分なりの問題意識を持っておいてもらいたい。講義終了後は積極的に質問してもらいたい。その他、受講者には、新聞、ニュース等で実際に起こっている具体的なトピックについて常に敏感にアンテナを張り、その内容や問題点等について考えてほしい。
(18)学問分野1(主学問分野)	政治学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	思想関連
(18)学問分野3(副学問分野)	歴史学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特定の教科書は使用しない。
(21)参考文献	大芝亮『国際政治学入門』ミネルヴァ書房、2008年 佐道明広・古川浩司・小坂田裕子・小山佳枝『資料で学ぶ国際関係 第2版』法律文化社、2015年 野林健・大芝亮・納家政嗣・山田敦・長尾悟『国際政治経済学・入門 第3版』有斐閣、2007年 村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将『新版 国際政治学をつかむ』有斐閣、2015年
(22)成績評価方法及び採点基準	・レポートの点数：評価全体の50% （授業内容を理解したうえで、国際政治事象について因果関係を明らかにしながら論理的に説明できるかどうか） ・平常点：同50% （小課題の提出、リアクションペーパーを通じた主体的な授業への参加）
(23)授業形式	講義
	講義形式。各回、ポイントをまとめたレジュメを用いて講義を行う。授業の最後にその日の講義内容についてのリアクションペーパーを提出してもらおう。また、授業中の質問を歓迎する。一つの質問をきっかけに教室中に議論が起こるよう

(24)授業形態・授業方法	な、参加型の学習空間としたい。 なお、どこかで時間をとり、外務省・国際機関・大使館・国際NPO等の職員との意見交換など、現実の国際政治に直に触れる機会をつくりたい。
(25)留意点・予備知識	講義中の途中入退室や私語は授業進行の妨げとなるので、教室内でのマナーを守れない学生の履修は固くお断りする。
(26)オフィスアワー	月曜7・8限
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	jun.makita@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	262
(2)区分番号	262
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	社会学I (Sociology I)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（小・社会サブコース）：選択必修 初等中等（中コース社会）・特支（中コース社会）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日 5・6時限
(10)担当教員（所属）	高瀬 雅弘（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2～3
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的な到達目標	○社会学の基本的な概念や考え方を理解すること（見通す力） ○「社会問題」について、社会学の視点に基づいた分析・解釈ができるようになること（見通す力）
(15)授業の概要	<p>社会学とは現代社会における人々のさまざまな相互作用を「観察」し、それがどのようになされているのかを「記述」し、なぜそのようになされているのかを「説明」し、それは今後どのように推移するのかを「予測」することを目的とした学問です。</p> <p>私たちはすでに社会の多くのことがらについて経験的に知っています。しかしそれらの多くは慣れた日常的経験として当たり前のものであって、その自明性を疑うということはあまりないでしょう。しかも社会というものはただ漫然と眺めているだけではなかなかみえにくいものでもあります。上述のような観察→記述→説明→予測というプロセスには、社会に対する「問い」をもつことと、一定の方法論とが必要となります。つまり社会学は批判的に社会を理解するためのひとつの道具となるものです。</p> <p>本講義では、受講者がそうした道具＝社会学の感覚とことばを身につけ、それらを駆使して社会を認識し、解釈できるようになることを目指します。</p>

(16)授業の内容予定	第1回 オリエンテーション：社会学への招待 第2回 社会と「私」 第3回 社会集団 第4回 家族（1） 家族分析の基礎概念 第5回 家族（2） 近代家族の曲がり角 第6回 地域社会（1） 概念としての地域 第7回 地域社会（2） ボランティア・NPO・まちづくり 第8回 都市（1） 近代都市 第9回 都市（2） 郊外の変容 第10回 消費社会 第11回 情報社会（1） メディア・リテラシー 第12回 情報社会（2） 情報社会と新たな監視 第13回 現代社会（1） 国境を越える 第14回 現代社会（2） 排除型社会 第15回 授業の総括と理解度の確認
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	授業で取り上げられる社会学の諸概念について、テキストを熟読し、その意味内容を整理・理解するようにしてください。予習と復習の成果は理解度の確認において評価します。
(18)学問分野1(主学問分野)	社会学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	宮島喬編，2003，『岩波小辞典 社会学』岩波書店。
(21)参考文献	・Giddens, Anthony, 2006, SOCIOLOGY Fifth Edition, Cambridge: Polity Press. (=2009, 松尾精文・小幡正敏・西岡八郎・立松隆介・藤井達也・内田健訳『社会学（第5版）』而立書房。） ・浅野智彦編著，2010，『考える力が身につく社会学入門』中経出版。 ・岩本茂樹，2015，『自分を知るための社会学入門』中央公論新社。 ・長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志，2007，『社会学』有斐閣。
(22)成績評価方法及び採点基準	・理解度の確認の点数：評価全体の60% （授業の内容を理解し、自分自身の問題意識に基づいた考察ができているかどうか、社会学の重要概念についてテキストを通して自習し、理解できているかどうか） ・中間レポートの点数：評価全体の20% （社会的なものの見方や考え方をを用いて身の回りの事象について考察できているかどうか） ・授業への参加度：同20% （リアクションペーパーの質問やコメントを通して、主体的に授業に参加できているかどうか）
	講義

(23)授業形式	
(24)授業形態・授業方法	講義形式。ただし教師から学生への一方向的な知識の伝達といった授業は考えていません。授業の最後にその日の講義内容についての質問・感想を書いたメモを提出してもらい、次回の授業に際に回答するという方法をとります。
(25)留意点・予備知識	講義中の途中入退室や私語は授業進行の妨げとなるので、教室内でのマナーを守れない学生の履修は固くお断りします。なお、履修希望者は必ず第1回のオリエンテーションに参加してください。
(26)オフィスアワー	水曜日 12:00~12:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	第1回オリエンテーションの際に提示します。
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	263
(2)区分番号	263
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	社会学II (Sociology II)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース社会サブコース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日 3・4時限
(10)担当教員（所属）	高瀬 雅弘（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2～3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	○社会調査における計量的な手法（質問紙法）について、基本的な手順や遵守すべき事項を理解すること（見通す力） ○統計ソフトを用いた社会調査データの基本的な分析手法を習得すること（学び続ける力）
(15)授業の概要	ある社会事象について知ろうとするとき、その対象の特徴や性格をきちんとした方法論をもって把握することで、より精緻な理解が可能となります。そのために自然科学の分野では、実験器具や設備を用いたデータの収集がなされます。同様に社会科学の分野では、しばしば社会調査という方法を用いてデータの収集を行います。 この授業では、社会調査の方法のうち、計量的な手法、具体的には質問紙法（アンケート）を取り上げ、その基本的な手順と分析のしかたを学び、調査を実施するにあたって必要な設計と方法を、実際に作業を行うことで身につけることを目的とします。これらを通じて社会調査士の資格取得に必要な調査設計と実施方法の理解を目指します（授業科目「【B】調査設計と実施方法に関する科目」に対応）。
(16)授業の内容予定	第1回 オリエンテーション／社会調査とは何か 第2回 社会調査の種類 第3回 仮説の構成 第4回 調査目的と調査方法 第5回 調査対象と標本 第6回 サンプリングの考え方 第7回 サンプリングの諸方法 第8回 調査票の作成（1） 質問文の作成 第9回 調査票の作成（2） 回答方式と選択肢 第10回 調査の実施 第11回 データの整理とチェック 第12回 基礎統計量

	<p>第13回 調査結果の分析方法（1） 単純集計とクロス表分析 第14回 調査結果の分析方法（2） 統計的検定とエラボレーション 第15回 授業内容の総括と理解度の確認</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	毎回の授業は前回の内容を前提として進めますので、レジュメ・ノートを整理し、振り返りを行ってください。適宜参考書を入手し、自ら学習を行ってください。
(18)学問分野1(主学問分野)	社会学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特定の教科書は使用しません。
(21)参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋・永野武編著, 2013, 『新・社会調査へのアプローチ——論理と方法』ミネルヴァ書房. ・小林修一・久保田滋・西野理子・西澤晃彦編著, 2005, 『テキスト社会調査』梓出版社. ・盛山和夫, 2004, 『社会調査法入門』有斐閣ブックス. ・谷岡一郎, 2000, 『「社会調査」のウソーリサーチ・リテラシーのすすめ』文春新書. ・西野理子, 2008, 『社会をはかるためのツール—社会調査入門—』学文社. ・森岡清志編著, 2007, 『ガイドブック社会調査（第2版）』日本評論社.
(22)成績評価方法及び採点基準	<ul style="list-style-type: none"> ・中間レポートの点数：評価全体の30% （授業内容を理解したうえで、調査したいことを的確に捉える調査票のモデルが作成できているかどうか） ・理解度の確認：同50% （学習した知識をふまえ、社会調査を実践するに十分な資質を確立できているかどうか） ・平常点：同20% （小課題の提出をきちんと行っているかどうか）
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	基本的に講義形式で行います。ただし可能な作業については実際に授業中に行います。また統計ソフトを用いて実際に基礎的なデータ分析を行います。
(25)留意点・予備知識	<ul style="list-style-type: none"> ・履修希望者は必ず第1回のオリエンテーションに参加してください。 ・講義中の途中入退室や私語は授業進行の妨げとなるので、教室内でのマナーを守れない学生の履修は固くお断りします。
(26)オフィスアワー	木曜日12：00～12：30
	第1回オリエンテーションの際に提示します。

(27)Eメール アドレス・ HPアドレス	
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	264
(2)区分番号	264
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	社会学特殊講義 (Special Lecture on Sociology)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 5・6時限
(10)担当教員(所属)	高瀬 雅弘 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的な到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○社会調査に関する基本的な知識・方法を身につけること (見通す力) ○データを通じて社会を読み解く力を身につけること (見通す力) ○社会調査データを用いて社会を解釈・説明できるようになること (見通す力)
(15)授業の概要	<p>あるものごとについて知ろうとするとき、その特徴や性格といったものをきちんと把握すればするほど、より精緻な分析が可能となります。そのために自然科学の分野では、実験器具や設備を用いたデータの収集がなされます。同様に社会科学の分野では、しばしば社会調査という方法を用いてデータの収集を行います。しかしながら、ただデータを揃えれば社会がわかるというわけではありません。自らの問題意識に基づいてデータを収集し、収集したデータを使って社会について考え、その結果を示すという一連のプロセスを経てはじめてひとつの社会調査ができあがることとなります。</p> <p>この授業では、このような社会調査に必要なとされる知識・技術を学び、各自の関心に基づいた社会調査を行うために必要な技法を、具体的な実践を通じて身に</p>

	つけることを目指します（社会調査士の資格取得に必要な授業科目「【A】社会調査の基本的事項に関する科目」に対応）。
(16)授業 の内容予定	第1回 オリエンテーション 第2回 社会調査とは何か 第3回 社会調査の歴史 第4回 社会調査の倫理とリサーチ・リテラシーとは 第5回 社会調査の種類（1） データへのアクセスと読み取り 第6回 社会調査の種類（2） 社会調査の分類 第7回 社会調査の手順（1） 調査の設計・企画 第8回 社会調査の手順（2） 情報収集と既存データの活用 第9回 社会調査の手順（3） 質的調査の実施 第10回 社会調査の手順（4） 量的調査の実施 第11回 データ処理の方法 第12回 データ分析の方法 第13回 報告書のまとめ方 第14回 グループ・プレゼンテーション 第15回 授業内容の総括と理解度の確認
(17)準備 学習（予 習・復習） 等の内容	毎回の授業は前回の内容を前提として進めるので、レジュメ・ノートを整理し、振り返りを行ってください。適宜参考書を入手し、自ら学習を行ってください。
(18)学問 分野1(主学 問分野)	社会学関連
(18)学問 分野2(副学 問分野)	-
(18)学問 分野3(副学 問分野)	-
(19)実務 経験のある 教員による 授業科目に ついて	-
(20)教 材・教科書	特定の教科書は使用しません。
(21)参考 文献	・石川淳志・佐藤健二・山田一成，1998，『見えないものを見る力』八千代出版。 ・大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋・永野武編著，2013，『新・社会調査へのアプローチ——論理と方法 [第2版]』ミネルヴァ書房。 ・小林修一・久保田滋・西野理子・西澤晃彦編著，2005，『テキスト社会調査』梓出版社。 ・森岡清志編著，2007，『ガイドブック社会調査 [第2版]』日本評論社。 ・梶田真・仁平尊明・加藤政洋編，2007，『地域調査ことはじめ——あるく・みる・かく』ナカニシヤ出版。 ・嶋崎尚子，2008，『社会をとらえるためのルール——社会調査入門』学文社。
(22)成績 評価方法及 び採点基準	・理解度の確認：評価全体の50% （講義内容について、理解ができているかどうか） ・グループプレゼンテーションの評価：同30% （他者にわかりやすく伝えようとする工夫ができているかどうか、信頼性のあるデータに基づいた議論が展開できているかどうか）

	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点：同20% (グループワークへの参加や小課題の提出をきちんと行えているかどうか)
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式と演習形式を併用します。グループワークによるデータの収集・分析とそれに基づく報告を行います。
(25)留意点・予備知識	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回何らかの課題や作業があるので、積極的な授業参加を期待します。またグループワークなどを取り入れるので、他者と協調する姿勢も求められます。 ・講義中の途中入退室や私語は授業進行の妨げとなるので、教室内でのマナーを守れない学生の履修は固くお断りします。 ・履修希望者は必ず第1回のオリエンテーションに参加してください。
(26)オフィスアワー	木曜日12：00～12：30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	第1回オリエンテーションの際に提示します。
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	265
(2)区分番号	265
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	経済学I (Economics I)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等 (小・社会サブコース) : 選択必修 初等中等 (中コース社会) ・特支 (中コース社会) : 必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 5・6時限
(10)担当教員(所属)	秋葉 まり子 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○授業全体を通してミクロ経済学における基礎的な知識と基本的な考え方を習得し、現実の経済の動きに対する洞察力を養い、様々な経済事象の背景を理論に基づいて理解し、問題解決につなげられるようになること (見通す力、解決する力)
(15)授業の概要	ミクロ経済学は、経済学のほとんど全ての領域において分析の基礎を提供する極めて重要な分野です。ここでは、競争市場という環境の下で経済主体が自分の目的を最大化する行動の定式化を、そして、最大化行動の結果—均衡—を評価することを学ぶこととなります。さらに、競争市場の仮定を少しずつ外して不完全競争を扱いますが、そこでは、政府の役割、情報の不完全性、インセンティブ、公害による外部性等が主なトピックとなります。こうした理論的な側面を解説するだけでなく、現実の経済問題に対する見方や考え方についても随時説明するように心掛けたいと思っています。

(16)授業 の内容予 定	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス <ol style="list-style-type: none"> I 市場の理論 <ol style="list-style-type: none"> (1) 基礎用語 (2) 需要曲線と供給曲線、市場均衡 (3) 均衡分析の初歩 (4) 均衡分析の応用 2. II 家計の理論 <ol style="list-style-type: none"> (1) 無差別曲線、予算制約線と最適消費点 (2) 価格効果とスルツキー分解 3. III 生産の理論 <ol style="list-style-type: none"> (1) 生産可能性曲線、等利潤線、利潤最大化点 4. IV 余剰 <ol style="list-style-type: none"> (1) 消費者余剰、生産者余剰、社会的余剰 (2) 応用1 (3) 応用2 5. V 費用の理論 <ol style="list-style-type: none"> (1) 費用曲線 (2) 損益分岐点と企業閉鎖点 6. IV 市場の失敗と政府の役割 <ol style="list-style-type: none"> (1) 市場の失敗 (2) 政府の役割 7. 期末テストと振り返り <p>※進み具合で授業内容は多少前後します。</p>
(17)準備 学習（予 習・復 習）等の 内容	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスに記載された各回の授業の内容予定を参考とし、教科書の該当箇所を授業実施時までには予習すること。 ・課題等で復習をすること。
(18)学問 分野1(主 学問分野)	<p>経済学関連</p>
(18)学問 分野2(副 学問分野)	<p>-</p>
(18)学問 分野3(副 学問分野)	<p>-</p>
(19)実務 経験のあ る教員に よる授業 科目につ いて	<p>-</p>
(20)教 材・教科 書	<p>谷・吉田『グラフィックミクロ経済学』新世社。配布資料。</p>
(21)参考 文献	<p>伊藤元重『ミクロ経済学』日本評論社。 西村和雄『ミクロ経済学入門』岩波書店。他</p>
	<p>授業参加度と課題提出（50%）、期末テスト（50%）により評価します。</p>

(22)成績 評価方法 及び採点 基準	
(23)授業 形式	講義
(24)授業 形態・授 業方法	PPやDVDを用いた講義形式の授業
(25)留意 点・予備 知識	経済学Ⅱを併せて履修してください。
(26)オフ イスアワ ー	なし
(27)Eメ ールアド レス・HP アドレス	akibam@alpha.ocn.ne.jp
(28)その 他	特になし

教育学部

(1)整理番号	266
(2)区分番号	266
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	経済学II (Economics II)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース社会サブコース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 7・8時限
(10)担当教員（所属）	秋葉 まり子（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○マクロ経済学の基本的な理論や専門用語を理解するとともに、各人が現代的課題に関する問題発見能力を養い、洞察力、分析力を身につけること（見通す力、解決する力）
(15)授業の概要	<p>一国全体の経済活動に焦点を当てた「マクロ経済学」入門を講義します。マクロ経済学は経済全体を循環構造として捉え、国民所得、利子率や物価水準がどのように決定されるかを捉えようとする理論体系です。私達の日々の生活は、様々なレベルでマクロ経済の動きと密接に関わっていますが、複雑な経済の現象を読み解くには、経済学の諸理論をきちんと理解しなければなりません。本授業では、学生達が現実の経済の動きに関心を持って捉えること、経済学の理論を丁寧に把握していくことのバランスを考慮しながら進めていきます。</p>
	<p>1. ガイダンス I 国民経済計算の仕組み：経済活動を量的に把握する</p>

(16)授業 の内容予定	<ul style="list-style-type: none"> 2. (1) GDPとは何か (2) 産業連関表とGDP (3) 三面等価の原則 (4) GDPとGNP 3. (5) 名目値と実質値、GDPデフレーターと計算 4. (6) GDPに関する計算と作図 5. II GDPの短期的変動：景気循環 <ul style="list-style-type: none"> (1) 景気循環とそれを促す要因 (2) 景気の良し悪しを判断する方法 6. (3) 景気対策と日本銀行の役割No. 1 7. 景気対策と日本銀行の役割No. 2 8. (4) 物価と失業率の関係 9. III GDPの長期的変動：経済成長 <ul style="list-style-type: none"> (1) 成長要因分析 (2) 日本の経済成長No. 1 11. 日本の経済成長No. 2 12. (3) アジアの国々の経済成長 13. IV 消費と貯蓄の理論 <ul style="list-style-type: none"> (1) 家計の貯蓄と消費について (2) 貯蓄率の変化 15. 期末テストと振り返り <p>※進み具合で授業内容は多少前後します。</p>
(17)準備 学習（予 習・復習） 等の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 配布されるシラバスに記載された各回の授業の内容予定を参考とし、該当箇所を授業実施時までには予習すること。 ・ 課題等で復習をすること。
(18)学問 分野1(主 学問分野)	<p>経済学関連</p>
(18)学問 分野2(副 学問分野)	<p>-</p>
(18)学問 分野3(副 学問分野)	<p>-</p>
(19)実務 経験のある 教員による 授業科目に ついて	<p>-</p>
(20)教 材・教科書	<p>講義用レジメを配布します。</p>
(21)参考 文献	<ul style="list-style-type: none"> 1. 宮川・滝澤『グラフィックマクロ経済学』新世社 2. 中村勝克『基本講義マクロ経済学』新世社 3. 大野健一『途上国ニッポンの歩み』有斐閣。
(22)成績 評価方法及 び採点基準	<p>授業参加度と課題提出（50%）、期末テスト（50%）により評価します。</p>
(23)授業 形式	<p>講義</p>

(24)授業形態・授業方法	PPやDVDを用いた講義形式の授業
(25)留意点・予備知識	経済学 I を併せて履修しておいてください。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	akibam@alpha.ocn.ne.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	267
(2)区分番号	267
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	国際経済学 (International Economics)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース社会サブコース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 7・8時限
(10)担当教員（所属）	秋葉 まり子（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○国家間の経済取引に関する様々なテーマについて、習得しておくべき基礎理論を理解できるようにすること ○さらに、国際経済学の基礎を応用して現実の経済問題を明確に捉えたり、背後にある前提条件を明らかにして、問題解決につなげられるような能力を身につけること（見通す力、解決する力）
(15)授業の概要	国際経済学とは、国家を基本単位として、複数の国家にまたがる財、サービス、資金、労働の移動や取引、またそれらがどう経済発展につながるのかについて経済学的に考察する分野です。この講義では、それらの基本的な仕組みを理解するとともに、グローバル化の流れの中でどう変化してきているのかを取り上げます。
(16)授業の内容予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス <ol style="list-style-type: none"> I グローバリゼーション <ol style="list-style-type: none"> (1) グローバリゼーションとは (2) 国際化からグローバル化へ (3) グローバリゼーションの背景 (4) グローバリゼーションの基本原則 (5) 反グローバル化 II 貿易の基礎理論と貿易政策 <ol style="list-style-type: none"> (1) 自由貿易 (2) 保護貿易と管理貿易 (3) 途上国と先進国の貿易政策 (4) WTOとFTA III 国際資本移動 <ol style="list-style-type: none"> (1) 国際収支 (2) 外国為替 (3) 資本の流れ (4) 海外直接投資

	<p>10. IV 資本の自由化と制度化 (1) 米国の自由主義と金融危機 11. (2) 中国の金融自由化と制度化問題 12. (3) 日本の金融ビッグバンとシステム変化 13. V 地域経済統合 (1) EUの統合 14. (2) アジアの地域経済統合 15. 期末テストと振り返り</p> <p>※進み具合で授業内容は多少前後します。</p>
(17)準備学習 (予習・復習)等の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ シラバスに記載された各回の授業の内容予定を参考とし、該当箇所を授業実施時まで予習すること。 ・ 課題等で復習をすること。
(18)学問分野 1(主学問分野)	経済学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	講義用レジメを配布します。
(21)参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ 秋山憲治『貿易政策と国際経済関係』同文館出版、2018年。 ・ 澤田康幸『国際経済学』新世社、2016年。 ・ 村本 孜『グローバル化と地域経済統合』、蒼天社出版、2004年。 ・ 黒岩郁雄『東アジア統合の経済学』日本評論社、2014年。 ・ 秋葉まり子『EU統合の流れの中で東欧はどう変わったか:政治と経済のミクロ分析』弘前大学出版会、2010年。 ・ 秋葉まり子『グローバル化の中のアジア』弘前大学出版会、2013年。 ・ 戸谷哲朗『金融ビッグバンの政治経済学』東洋経済新報社、2003年。 ・ 中兼和津次『開発経済学と現代中国』名古屋大学出版会、2012年。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への参加度と課題提出(50%)、期末テスト(50%)で評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	PPとDVDを用いた講義形式
(25)留意点・予備知識	経済学Ⅰ・Ⅱを予め、あるいは併せて履修してください。
(26)オフィスアワー	なし

(27)Eメール アドレス・ HPアドレス	akibam@alpha.ocn.ne.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	268
(2)区分番号	268
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	哲学I (Philosophy I)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（小・社会サブコース）・初等中等（中コース社会）・特支（中コース社会）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 5・6時限
(10)担当教員（所属）	横地 徳広（人文社会科学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2～4
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	この講義で受講生のみなさんは、現象学に関する諸テキストを読み解きながら、私と君、彼女／彼の共同存在を多種多様な事象のうちに見出します。自己他者関係のこうした哲学的考察こそ、〈倫理学〉の根源的な場であること、このことを具体的に理解することが目指されます。
(15)授業の概要	今年度の授業では、「現象学小史」のもとで西洋倫理学の主要概念が説明され、この概念を手がかりに19世紀末から20世紀までの思潮がたどられます。こうした確認をするなかで受講生のみなさんは、現象学の問いをみずから問うことを通じて、さまざまな自己他者関係にかんする哲学的思考を身につけることができます。また、哲学的思考の成長を記録するため、毎回コメント・ペーパーの論述と提出が求められます。
(16)授業の内容予定	<p>そのつどの講義で学ばれる概念は、たとえば、（1）現象〔学〕、（2）論理、（3）言語、（4）世界、（5）存在……といったものです。哲学史上のこうした哲学的概念が文学や諸科学との交流のなかで19世紀転換期ヨーロッパの息吹をすいこみ、現象学的独自性を19世紀末から20世紀までの100年にわたって育んでいく様子を受講生のみなさんは確かめます。複数回の講義にわたって同一概念の検討が行なわれます。基本的な授業計画は以下です。予定が変更される場合は、事前にお知らせがあります。</p> <p>1 ガイダンス 2～4 現象学の展開（ブレンターノ、フッサール、ヴィトゲンシュタイン、ハイデガー） 5～7 現象学の意味（ハイデガー、フッサール、ヘーゲル、ランベルト） 8 DVD講義 現象学小史にかかわる西欧の文化状況 9～11 現象学と言語（ブレンターノ、フッサール、ハイ</p>

	<p>デガール、ヴィトゲンシュタイン) 12~14 現象学運動の諸相 (シェーラー、メルロ=ポンティ、レヴィナス、アレント) 15 まとめ</p> <p>映像資料を用いた講義が行われるさい、連続授業になることがあります。 授業予定の詳細は、プリントが配布されます。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>講義内容には連続性があるので、受講生のみなさんは配布資料をもとにして、図書館で学習内容の拡張と深化を試み、次回講義の予習とすることができます。 また、講義中に記したコメント・ペーパーを講義後に加筆および修正することで復習を行なうことが可能です。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	思想関連
(18)学問分野2(副学問分野)	文学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	歴史学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	適宜、プリントが配布されます。
(21)参考文献	<p>木田元ほか編『現象学事典』(弘文堂)、フェルディナント・フェルマン『現象学と表現主義』(講談社学術文庫)、スティーヴン・トゥールミン、アラン・ジャンク『ヴィトゲンシュタインのウィーン』(平凡社ライブラリー)、ジョージ・スタイナー『マルティン・ハイデガー』(岩波現代文庫)。※人文414研究室あるいは図書館にあります。</p>
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>平常評価(コメント点):100%(ただし、全15回中10回以上の出席が必要) 特別評価(優秀なコメントや発言に加点):+α</p> <p>受講生のみなさんは講義中に配布プリントの論述欄にコメントを記し、これが出席確認と評価対象となります。 哲学的に深い思索が示されているコメントや発言には加点が行なわれます。 コメントがきちんと記されていないペーパーにはコメント点が与えられません。 コメントや発言への評価は、原則として加点法によります。 上記を合算して最終的な成績評価が行なわれる予定です。介護実習などによる公欠は、その証明書コピーを提出することで部分点が与えられます。 講義を欠席した学生は、追加レポートの提出によって部分点を獲得できます。</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義を聞いて考えたことをコメント・ペーパーに書く形式です。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	<p>オフィスアワーは在室時です。 西洋倫理思想史研究室(人文414)まで。必ずメールで面会予約をとってください。</p>
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	メールアドレスは人文414に掲示されます。
(28)その他	人文社会科学部開講科目との読替科目です。

教育学部

(1)整理番号	269
(2)区分番号	269
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	哲学II (Philosophy II)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース社会サブコース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日 5・6時限
(10)担当教員（所属）	横地 徳広（人文社会科学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2～4
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>魂の不死や神の存在、世界の始まりを人間が理性的に考えるさい、理性の本性に従うと、誤りに陥る……。</p> <p>そうカントは指摘しました。また、プラトンが『ソピステス』篇において明らかにしたのは、 〈在らぬものが在る〉と騙るソフィストが駆使するロゴスの仕組みでした。</p> <p>哲学は古来、虚構を現実にしりかえ、虚偽を真実と騙ることのトリックを考察してきたと言えます。</p> <p>こうした哲学史をふまつつ、受講生のみなさんは映画という虚構を通じて哲学しながら、虚構それ自体を哲学する力を養います。これが本講義の目標です。</p>
(15)授業の概要	<p>現実が虚構と連携して広げる「リベラル優生学やディープ・エコロジーの欺瞞」を見抜き、人類10万年の〈進化史的アプリアリ〉を保持する仕方を探ります。</p> <p>このとき、「弱いAI（人工知能）」、「強いAI」の区別を手がかりに、ソフトウェア、ハードウェア、ウェットウェアの「弱いAlife（人工生命）」と「強いAlife」を考察し、これとの対比を通じて、人工物ではない生命体独自の存在と価値を考えます。</p>
(16)授業の内容予定	<p>授業予定は、以下のとおりです。変更の場合は授業で事前に知らせます。</p> <p>1 ガイダンス 2、3 生命と知能とは何か 4、5 DVD講義：『風の谷のナウシカ』と「隠蔽」にかんする科学哲学的考察 6、7 ディープ・エコロジー、リベラル優生学、マッドサイエンスの関係 8、9 DVD講義：『ブレードランナー2049』と「誘導」にかんする政治哲学的考察 10、11 バイオテクノロジーとサイバネティクス</p>

	<p>12、13 DVD講義：『エクス・マキナ』と「警告」にかんする倫理的考察 14 弱い人工性、強い人工性 15 まとめ</p> <p>映像資料を用いた講義が行われるさい、連続授業になることがあります。 授業予定の詳細は、プリントが配布されます。</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	指定テキストを授業前、授業後に読むことが予習・復習となります。
(18)学問分野1(主学問分野)	思想関連
(18)学問分野2(副学問分野)	ブレインサイエンス関連
(18)学問分野3(副学問分野)	学際・新領域
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	横地徳広ほか編著『映画で考える生命環境倫理学』（勁草書房、2019年）
(21)参考文献	適宜、プリントが配布されます。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>平常評価（コメント点）：100%（ただし、全15回中10回以上の出席が必要） 特別評価（優秀なコメントや発言に加点）：+α</p> <p>受講生のみなさんは講義中に配布プリントの論述欄にコメントを記し、これが出席確認と評価対象となります。哲学的に深い思索が示されているコメントや発言には加点が行なわれます。コメントがきちんと記されていないペーパーにはコメント点が与えられません。 コメントや発言への評価は、原則として加点法によります。上記を合算して最終的な成績評価が行なわれる予定です。介護実習などによる公欠は、その証明書コピーを提出することで部分点が与えられます。講義を欠席した学生は、追加レポートの提出によって部分点を獲得できます。</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義を聞いて考えたことをコメント・ペーパーに書く形式です。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	オフィスアワーは在室時です。 西洋倫理思想史研究室（人文414）まで。必ずメールで面会予約をとってください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	メールアドレスは人文414に掲示されます。
(28)その他	人文社会科学部開講科目との読替科目です。

教育学部

(1)整理番号	276
(2)区分番号	276
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	公民演習I (社会学) (Civics, Seminar I)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中講義
(10)担当教員(所属)	高瀬 雅弘 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○社会調査の一方法としての生活史調査の方法を理解し、実践すること（見通す力） ○建物や街並み保存における諸課題について理解すること（解決していく力）
(15)授業の概要	<p>歴史的風致維持向上計画に基づき「歴史まちづくり」を進めている山形県鶴岡市における近代建築・近代和風建築の所有者・管理者・利用者を対象に、(1)建物の現状、(2)仕事の内容、(3)建物の経歴、(4)街の変化・街並みの変化、(5)歴史的風致維持向上計画の受け止め方、(6)保存のための苦勞・必要な支援、(7)建物の今後、といった項目についての聞き取り調査を実施し、現在注目を集めている街並みや風景の維持・保存・継承をめぐる現状を把握し、今後の課題について考察することが、この調査実習の大きな目的です。</p> <p>近代建築を中心とした歴史的建造物の現状についての基礎的な学習を行い、他の都市をフィールドとした先行研究、自治体などによる取り組みの状況を把握し、十分な予備知識をもったうえで、(1)調査の立案、(2)調査対象者との連絡、(3)現地での聞き取り調査（準備作業も含む）、(4)テープ起こし作業、フィールドノーツの整理、(5)データ整理と分析、(6)報告書の執筆、(7)対象者への礼状書き、といった一連の社会調査のプロセスについて学習します。</p> <p>前期の本実習では、上記のうち(1)～(3)までの作業を中心に行います（後期開講の「公民演習Ⅱ（社会学）」と合わせて授業科目「【G】社会調査の実習を中心とする科目」に対応）。</p>

(16)授業の内容予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 聞き取り調査に関する方法論の学習（第1～4回）： テキストに基づき、インタビューの収集・分析方法を学ぶ 2. 近代建築、歴史まちづくりに関する文献購読（第5～9回）： 先行研究の購読およびフィールドに関する統計資料の収集を行う 3. 聞き取り調査の企画・立案（第10～11回）： 問題意識の確認、調査項目の検討を行う 4. 調査協力者・対象者との連絡（第12回）： 調査実施に向けてのあいさつとプレ調査を実施する 5. 聞き取り調査（第13～15回）： 対象者への聞き取りおよび参与観察を行う
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	<p>文献を購読する回については、全員が該当箇所を読んだうえで、印象に残った点、調査項目の作成に活かしたい点などをA4用紙1枚程度にまとめるようにしてください。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	社会学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	歴史学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	民俗学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	初回オリエンテーションの際に指示します。
(21)参考文献	授業の際に紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>学習内容の理解度（テキストをきちんと購読し、内容を理解できているか。評価全体の50%）と授業・作業への参加度（ディスカッションや準備作業に意欲的に取り組んでいるか。同50%）によって評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習（文献購読とそれに基づくディスカッションなど）および実習（現地調査に向けた準備作業の実践）形式で行います。
(25)留意点・予備知識	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間割上は集中講義ですが、前半の演習部分は通常の授業時間のなかで行います。 ・ 授業時間外にも作業を行うことがあるので、予め承知しておいてください。 ・ 4月に第1回オリエンテーションの案内を掲示しますので、そちらをご確認ください。履修希望者は必ずオリエンテーションに参加してください。
	木曜日12：00～12：30

(26)オフィスアワー	
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	第1回オリエンテーションの際に提示します。
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	277
(2)区分番号	277
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	公民演習II（社会学）（Civics, Seminar II）
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	集中講義
(10)担当教員（所属）	高瀬 雅弘（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○社会調査の一方法としての生活史調査の方法を理解し、実践すること（見通す力） ○建物や街並み保存における諸課題について理解したうえで、今後のあり方を構想できること（解決していく力）
(15)授業の概要	<p>歴史的風致維持向上計画に基づき「歴史まちづくり」を進めている山形県鶴岡市における近代建築・近代和風建築の所有者・管理者・利用者を対象に、(1)建物の現状、(2)仕事の内容、(3)建物の経歴、(4)街の変化・街並みの変化、(5)歴史的風致維持向上計画の受け止め方、(6)保存のための苦勞・必要な支援、(7)建物の今後、といった項目についての聞き取り調査を実施し、現在注目を集めている街並みや風景の維持・保存・継承をめぐる現状を把握し、今後の課題について考察することが、この調査実習の大きな目的です。</p> <p>近代建築を中心とした歴史的建造物の現状についての基礎的な学習を行い、他の都市をフィールドとした先行研究、自治体などによる取り組みの状況を把握し、十分な予備知識をもったうえで、(1)調査の立案、(2)調査対象者との連絡、(3)現地での聞き取り調査（準備作業も含む）、(4)テープ起こし作業、フィールドノーツの整理、(5)データ整理と分析、(6)報告書の執筆、(7)対象者への礼状書き、といった一連の社会調査のプロセスについて学習します。</p> <p>後期の本実習では、上記のうち(4)～(7)までの作業を中心に行います。（前期開講の「公民演習Ⅰ（社会学）」と合わせて授業科目「【G】社会調査の実習を中心とする科目」に対応）。</p>

(16)授業の内容予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 聞き取り調査（第1～5回）： 対象者への聞き取りおよび参与観察を行う 2. 聞き取り調査のテープ起こし作業（第6～8回）： 録音したテープの書き起こしとフィールドノーツの整理を行い、あいまいな固有名詞等を文献などから確定する 3. データの整理と分析（第9～11回）： 各自の研究課題に沿って、データ分析を行う 4. 報告書作成（第12～15回）： 分析した結果をまとめ、報告書を作成する
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	<p>データの整理と分析にあたっては、前期で学習した内容を復習し、作業に活かせるようにしてください。報告書作成にあたっては、関連する歴史書・先行研究の収集と購読に努めるようにしてください。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	社会学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	歴史学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	民俗学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	授業の際に指示します。
(21)参考文献	授業の際に紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>作業への参加度（ディスカッションや準備作業に意欲的に取り組んでいるか。評価全体の50%）と報告書原稿の内容（聞き取り調査の内容と、資料分析を重層的に組み合わせた記述ができていないか。同50%）によって評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習（報告書の計画とそれに基づくディスカッションなど）および実習（現地調査とデータの分析）形式で行います。
(25)留意点・予備知識	<ul style="list-style-type: none"> ・前期に「公民演習Ⅰ（社会学）」を履修していることを履修の条件とします。 ・授業時間外にも作業を行うことがあるので、予め承知しておいてください。 ・演習部分については通常の授業時間内に行うことがあります。
(26)オフィスアワー	木曜日12：00～12：30

(27)Eメールアドレス・HPアドレス	オリエンテーションの際に提示します。
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	278
(2)区分番号	278
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	公民演習III (社会学) (Civics, Seminar III)
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中講義
(10)担当教員(所 属)	高瀬 雅弘(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベ ル)	レベル4
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○社会を批判的・反省的に捉えるとはどういうことかを理解すること(見通す力) ○自分の主張したいことを相手に説得的に伝えるためには、どのような方法が必要かを理解すること(学び続ける力)
(15)授業の概要	社会学的な視点から社会を分析するにはどのような方法が必要とされるのでしょうか。社会学的な研究方法への理解を深めたいと、各自の問題意識に基づいて社会分析を実践できるようになることを目標とします。 副次的な課題として、読書(批判的に読む)→収集(データ・資料を集める)→分析(考える)→報告(書く、話す、見せる)という社会研究の実際のプロセスに取り組みます。 前期の本演習では、社会学的な方法に基づく具体的な研究方法をテキストに即して学ぶとともに、自身の関心に沿った研究計画を立て、それに沿った情報収集や整理といった実践を行います。
(16)授業の内容予 定	第1回 オリエンテーション 第2回 研究テーマを考える 第3回 文献を探す 第4回 研究発表① 問いを提示する 第5回 資料分析の方法 第6回 フィールドワークの企画 第7回 論文を書く作法① 論文とは何か 第8回 論文を書く作法② パソコンで書くということ 第9回 研究発表② 方法とデータを示す 第10回 研究方法① 歴史を押さえる 第11回 研究方法② 内容を分析する 第12回 研究方法③ 調査を行う 第13回 研究方法④ インターネットを利用する 第14回 研究方法⑤ 数字を読み解く 第15回 研究発表③ 概要をわかりやすく伝える
	テキストを熟読し、次回の授業までに学習した内容・方法を反復練習するようにしてください。

(17)準備学習（予習・復習）等の内容	
(18)学問分野1(主学問分野)	社会学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	上野千鶴子，2018，『情報生産者になる』ちくま新書.
(21)参考文献	佐藤健二，2014，『論文の書きかた』弘文堂. その他の文献については授業中に適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	<ul style="list-style-type: none"> ・文献報告の内容：評価全体の40% (要点を捉え、聴き手にわかりやすい要約とコメントが提示できているかどうか) ・研究報告の内容：同30% (問題関心を提示したうえで、データに基づく説得的な議論が展開できているかどうか) ・議論への参加度：同20% (他者の報告に耳を傾け、その内容を向上させるための積極的な意見を提示できているかどうか)
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	文献購読、研究発表、情報収集の実践などからなる演習形式で行います。
(25)留意点・予備知識	<ul style="list-style-type: none"> ・自身が「よい報告」「よいレポート」をまとめることだけがこの授業の目的ではありません。他者の報告に耳を傾け、積極的に批判・助言をする姿勢が受講者には求められます。 ・文献購読の部分については通常の授業時間内に行うことがあります。 ・第1回授業の際にスケジュールの詳細について説明・打ち合わせを行いますので、履修希望者は必ず出席するようにしてください。
(26)オフィスアワー	木曜日12：00～12：30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	第1回オリエンテーションの際に提示します。
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	279
(2)区分番号	279
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	公民演習IV（社会学）（Civics, Seminar IV）
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	集中講義
(10)担当教員（所 属）	高瀬 雅弘（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベ ル）	レベル4
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○社会を批判的・反省的に捉えるとはどういうことかを理解すること（見通す力） ○自分の主張したいことを相手に説得的に伝えるためには、どのような方法が必要かを理解すること（学び続ける力）
(15)授業の概要	<p>社会学的な視点から社会を分析するにはどのような方法が必要とされるのでしょうか。社会学的な研究方法への理解を深めたいと、各自の問題意識に基づいて社会分析を実践できるようになることを目標とします。</p> <p>副次的な課題として、読書（批判的に読む）→収集（データ・資料を集める）→分析（考える）→報告（書く、話す、見せる）という社会研究の実際のプロセスに取り組みます。</p> <p>後期の本演習では、インターネットから入手できる各種統計データを用いて、それらをExcelで加工し、図表として表現するための技法を実践を通して学習します。</p>
(16)授業の内容予 定	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 地域分析と統計</p> <p>第3回 図表づくりの基本的作法</p> <p>第4回 図表に基づいた研究発表① インターネットから入手可能なグラフデータを用いて</p> <p>第5回 Excelの基本操作</p> <p>第6回 棒グラフ・折れ線グラフの作成法</p> <p>第7回 散布図・表の作成法</p> <p>第8回 図表に基づいた研究発表② 官庁統計データを用いて</p> <p>第9回 各種グラフの作成法</p> <p>第10・11回 基本的な図表作成の実践</p> <p>第12・13回 応用的な図表作成の実践</p> <p>第14回 図表を活かした論文の執筆</p> <p>第15回 図表に基づいた研究発表③ 自らの関心に基づいて作成したグラフを用いて</p>
	テキストを熟読し、次回の授業までに学習した内容・方法を反復練習するようにしてください。

(17)準備学習（予習・復習）等の内容	
(18)学問分野1(主学問分野)	社会学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	半澤誠司・武者忠彦・近藤章夫・濱田博之編, 2015, 『地域分析ハンドブック—Excelによる図表づくりの工具箱』ナカニシヤ出版.
(21)参考文献	授業中に適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究報告の内容：同50% （問題関心を提示したうえで、データに基づく説得的な議論が展開できているかどうか） ・ 議論への参加度：同50% （他者の報告に耳を傾け、その内容を向上させるための積極的な意見を提示できているかどうか）
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	パソコンを用いた演習形式で行います。各自ノートパソコンを用意してください。
(25)留意点・予備知識	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前期開講の「公民演習Ⅲ（社会学）」を履修済みの学生のみ本演習の受講を認めます（本演習のみの受講は不可）。 ・ 自身が「よい報告」「よいレポート」をまとめることだけがこの授業の目的ではありません。他者の報告に耳を傾け、積極的に批判・助言をする姿勢が受講者には求められます。 ・ 一部授業については通常の授業時間内に行うことがあります。 ・ 第1回授業の際にスケジュールの詳細について説明・打ち合わせを行いますので、履修希望者は必ず出席するようにしてください。
(26)オフィスアワー	木曜日12：00～12：30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	第1回オリエンテーションの際に提示します。
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	284
(2)区分番号	284
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	公民演習I (政治学) (Civics, Seminar I)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員 (所属)	蒔田 純 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル1~4
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	<p>○「シティズンシップ教育」の概要について把握し、その上で、海外および日本国内における具体的事例について整理・検討することができること（見通す力）</p> <p>○その上で、「シティズンシップ教育」の中における「主権者教育」の位置づけについて正しく理解し、それに関する具体的事例について整理・検討することができること（見通す力）</p> <p>○これらを踏まえて、「シティズンシップ教育」「主権者教育」に関する実践的活動を主体的能動的に行うことができること（解決していく力）</p>
(15)授業の概要	<p>次期学習指導要領（小学校は2020年度、中学校は2021年度より全面実施）においては、小学校・中学校ともに、主権者として社会や政治に対する関わり方を教える「主権者教育」の充実が図られることとなり、「国民としての政治への関わり方について自分の考えをまとめる（小：社会）」「民主政治の推進と公正な世論の形成や国民の政治参加との関連についての考察（中：社会）」等、教科の中で為すべき具体的な取り組みが明記されるに至った。</p> <p>「主権者教育」は、広く社会との関わり方を学習することを目的とする「シティズンシップ教育」の中で特に政治的側面に焦点を当てたものと言え、これを正しく理解し、実践していくには、「シティズンシップ教育」の全体像、及び、そこにおける「主権者教育」の位置付けをつかむ必要がある。</p> <p>授業前半では、「シティズンシップ教育」に焦点を当て、その概要を解説した後、海外・国内の事例について受講生自らに調査・発表してもらう。</p> <p>またそれを踏まえて、後半では、「主権者教育」にフォーカスし、その内容や事</p>

	例についての説明の後、「選挙での模擬投票」「自治体への政策提言」等の実践的活動を受講生自らに企画・実施してもらう。
(16)授業の内容予定	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 「シティズンシップ教育」の概要</p> <p>第3回 「シティズンシップ教育」の事例</p> <p>第4回 事例の調べ方、資料収集の仕方</p> <p>第5回 グループワーク①（シティズンシップ教育の事例研究）</p> <p>第6回 グループワーク②（シティズンシップ教育の事例研究）</p> <p>第7回 事例研究発表、フィードバック</p> <p>第8回 「主権者教育」の概要</p> <p>第9回 「主権者教育」の事例</p> <p>第10回 プロジェクトの企画立案、進め方</p> <p>第11回 グループワーク③（主権者教育の実践的活動）</p> <p>第12回 グループワーク④（主権者教育の実践的活動）</p> <p>第13回 グループワーク⑤（主権者教育の実践的活動）</p> <p>第14回 実践的活動の発表、フィードバック</p> <p>第15回 まとめ</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	「シティズンシップ教育」「主権者教育」は社会的な関心が高まりつつある分野で、関連する書籍、新聞・雑誌記事は増えているので、色々な文献・資料に当たって、多様な事例・考え方に触れておくとよい。
(18)学問分野1(主学問分野)	政治学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	法学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特定の教科書は使用しない。
(21)参考文献	<p>唐木清志・岡田泰孝・杉浦真理・川中大輔『シティズンシップ教育で創る学校の未来』東洋館出版社、2015年</p> <p>全国民主主義教育研究会『主権者教育のすすめ—未来をひらく社会科の授業』同時代社、2014年</p> <p>杉浦真理『シティズンシップ教育のすすめ—市民を育てる社会科・公民科授業論』法律文化社、2013年</p> <p>鈴木崇弘・風巻浩・中林美恵子・上野真城子・成田喜一郎『シチズン・リテラシ—社会をよりよくするために私たちにできること』教育出版、2005年</p> <p>『未来を拓く模擬選挙』編集委員会『未来を拓く模擬選挙』悠光堂、2013年</p>
(22)成績評価方法及び採点基準	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク発表の内容：評価全体の50%（内容の理解度、論理性、新規性、分かりやすさ等） ・授業、グループワークへの貢献度：同50%（質問・意見を通して授業に積極的に参加できたか、主体性・協調性をもってグループワークに参加できたか）
	演習

(23)授業形式	
(24)授業形態・授業方法	簡単な講義も行なうが、グループワークを授業の中核とする。
(25)留意点・予備知識	主体性・協調性をもってグループワークに取り組むことのできる学生の受講を歓迎する。
(26)オフィスアワー	月曜7・8限
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	jun.makita@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	285
(2)区分番号	285
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	公民演習II（政治学）（Civics, Seminar II）
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員（所属）	蒔田 純（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル1～4
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○「シティズンシップ教育」「主権者教育」の概要について理解することができること（見通す力） ○その上で、「シティズンシップ教育」「主権者教育」に関する実践的活動を主体的能動的に行うことができること（解決していく力）
(15)授業の概要	次期学習指導要領（小学校は2020年度、中学校は2021年度より全面実施）においては、小学校・中学校ともに、主権者として社会や政治に対する関わり方を教える「主権者教育」の充実が図られることとなり、「国民としての政治への関わり方について自分の考えをまとめる（小：社会）」「民主政治の推進と公正な世論の形成や国民の政治参加との関連についての考察（中：社会）」等、教科の中で為すべき具体的な取り組みが明記されるに至った。 「主権者教育」は、広く社会との関わり方を学習することを目的とする「シティズンシップ教育」の中で特に政治的側面に焦点を当てたものと言え、これを正しく理解し、実践していくには、「シティズンシップ教育」の全体像、及び、そこにおける「主権者教育」の位置付けをつかむ必要がある。 この授業では、「なぜ、国民が政治に関わることが必要か」「いかに国民の代表を選ぶか」等をテーマとした子供向けのストーリー（お話、芝居）を学生自らが創作し、それを、一定の表現手段（演劇・紙芝居等）によって発表することを中心とする。 出来上がった作品は、近隣の小学校にお邪魔して、実際に小学生たちに見てもらうことを検討したい。

(16)授業の内容予定	第1回 オリエンテーション 第2回 現在の政治に関する教育について 第3回 子供に教えるべき「政治」とは 第4回 ストーリーの作り方 第5回 表現手段（演劇、紙芝居等）について 第6回 グループワーク①（テーマ設定、ストーリー検討） 第7回 グループワーク②（役割分担、各パート作業） 第8回 グループワーク③（各パート作業） 第9回 中間報告 第10回 グループワーク④（各パート作業） 第11回 グループワーク⑤（練習） 第12回 グループワーク⑥（練習） 第13回 発表会 第14回 発表会（できれば近隣小学校訪問） 第15回 まとめ
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	「シティズンシップ教育」「主権者教育」は社会的な関心が高まりつつある分野で、関連する書籍、新聞・雑誌記事は増えているので、色々な文献・資料に当たって、多様な事例・考え方に触れておくとよい。
(18)学問分野1(主学問分野)	政治学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	法学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特定の教科書は使用しない。
(21)参考文献	唐木清志・岡田泰孝・杉浦真理・川中大輔『シティズンシップ教育で創る学校の未来』東洋館出版社、2015年 全国民主主義教育研究会『主権者教育のすすめ—未来をひらく社会科の授業』同時代社、2014年 杉浦真理『シティズンシップ教育のすすめ—市民を育てる社会科・公民科授業論』法律文化社、2013年 鈴木崇弘・風巻浩・中林美恵子・上野真城子・成田喜一郎『シチズン・リテラシー—社会をよりよくするために私たちにできること』教育出版、2005年 『未来を拓く模擬選挙』編集委員会『未来を拓く模擬選挙』悠光堂、2013年など
(22)成績評価方法及び採点基準	・グループワーク発表の内容：評価全体の50% （内容の理解度、論理性、新規性、分かりやすさ等） ・授業、グループワークへの貢献度：同50% （質問・意見を通して授業に積極的に参加できたか、主体性・協調性をもってグループワークに参加できたか）
(23)授業形式	演習

(24)授業形態・授業方法	簡単な講義も行なうが、グループワークを授業の中核とする。
(25)留意点・予備知識	主体性・協調性をもってグループワークに取り組むことのできる学生の受講を歓迎する。
(26)オフィスアワー	月曜7・8限
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	jun.makita@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	286
(2)区分番号	286
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	公民演習III（政治学）（Civics, Seminar III）
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員（所属）	蒔田 純（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル1～4
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	<p>○「シティズンシップ教育」の概要について把握し、その上で、海外および日本国内における具体的事例について整理・検討することができること（見通す力）</p> <p>○その上で、「シティズンシップ教育」の中における「主権者教育」の位置づけについて正しく理解し、それに関する具体的事例について整理・検討することができること（見通す力）</p> <p>○これらを踏まえて、「シティズンシップ教育」「主権者教育」に関する実践的活動を主体的能動的に行うことができること（解決していく力）</p>
(15)授業の概要	<p>次期学習指導要領（小学校は2020年度、中学校は2021年度より全面実施）においては、小学校・中学校ともに、主権者として社会や政治に対する関わり方を教える「主権者教育」の充実が図られることとなり、「国民としての政治への関わり方について自分の考えをまとめる（小：社会）」「民主政治の推進と公正な世論の形成や国民の政治参加との関連についての考察（中：社会）」等、教科の中で為すべき具体的な取り組みが明記されるに至った。</p> <p>「主権者教育」は、広く社会との関わり方を学習することを目的とする「シティズンシップ教育」の中で特に政治的側面に焦点を当てたものと言え、これを正しく理解し、実践していくには、「シティズンシップ教育」の全体像、及び、そこにおける「主権者教育」の位置付けをつかむ必要がある。</p> <p>授業前半では、「シティズンシップ教育」に焦点を当て、その概要を解説した後、海外・国内の事例について受講生自らに調査・発表してもらう。</p> <p>またそれを踏まえて、後半では、「主権者教育」にフォーカスし、その内容や事</p>

	例についての説明の後、「選挙での模擬投票」「自治体への政策提言」等の実践的活動を受講生自らに企画・実施してもらう。
(16)授業の内容予定	第1回 オリエンテーション 第2回 「シティズンシップ教育」の概要 第3回 「シティズンシップ教育」の事例 第4回 事例の調べ方、資料収集の仕方 第5回 グループワーク①（シティズンシップ教育の事例研究） 第6回 グループワーク②（シティズンシップ教育の事例研究） 第7回 事例研究発表、フィードバック 第8回 「主権者教育」の概要 第9回 「主権者教育」の事例 第10回 プロジェクトの企画立案、進め方 第11回 グループワーク③（主権者教育の実践的活動） 第12回 グループワーク④（主権者教育の実践的活動） 第13回 グループワーク⑤（主権者教育の実践的活動） 第14回 実践的活動の発表、フィードバック 第15回 まとめ
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	「シティズンシップ教育」「主権者教育」は社会的な関心が高まりつつある分野で、関連する書籍、新聞・雑誌記事は増えているので、色々な文献・資料に当たって、多様な事例・考え方に触れておくとよい。
(18)学問分野1(主学問分野)	政治学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	法学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特定の教科書は使用しない。
(21)参考文献	唐木清志・岡田泰孝・杉浦真理・川中大輔『シティズンシップ教育で創る学校の未来』東洋館出版社、2015年 全国民主主義教育研究会『主権者教育のすすめ—未来をひらく社会科の授業』同時代社、2014年 杉浦真理『シティズンシップ教育のすすめ—市民を育てる社会科・公民科授業論』法律文化社、2013年 鈴木崇弘・風巻浩・中林美恵子・上野真城子・成田喜一郎『シチズン・リテラシー—社会をよりよくするために私たちにできること』教育出版、2005年 『未来を拓く模擬選挙』編集委員会『未来を拓く模擬選挙』悠光堂、2013年など
(22)成績評価方法及び採点基準	・グループワーク発表の内容：評価全体の50% （内容の理解度、論理性、新規性、分かりやすさ等） ・授業、グループワークへの貢献度：同50% （質問・意見を通して授業に積極的に参加できたか、主体性・協調性をもってグループワークに参加できたか）
	演習

(23)授業形式	
(24)授業形態・授業方法	簡単な講義も行なうが、グループワークを授業の中核とする。
(25)留意点・予備知識	主体性・協調性をもってグループワークに取り組むことのできる学生の受講を歓迎する。
(26)オフィスアワー	月曜7・8限
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	jun.makita@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	287
(2)区分番号	287
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	公民演習IV（政治学）（Civics, Seminar IV）
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員（所属）	蒔田 純（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル1～4
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○「シティズンシップ教育」「主権者教育」の概要について理解することができること（見通す力） ○その上で、「シティズンシップ教育」「主権者教育」に関する実践的活動を主体的能動的に行うことができること（解決していく力）
(15)授業の概要	次期学習指導要領（小学校は2020年度、中学校は2021年度より全面実施）においては、小学校・中学校ともに、主権者として社会や政治に対する関わり方を教える「主権者教育」の充実が図られることとなり、「国民としての政治への関わり方について自分の考えをまとめる（小：社会）」「民主政治の推進と公正な世論の形成や国民の政治参加との関連についての考察（中：社会）」等、教科の中で為すべき具体的な取り組みが明記されるに至った。 「主権者教育」は、広く社会との関わり方を学習することを目的とする「シティズンシップ教育」の中で特に政治的側面に焦点を当てたものと言え、これを正しく理解し、実践していくには、「シティズンシップ教育」の全体像、及び、そこにおける「主権者教育」の位置付けをつかむ必要がある。 この授業では、「なぜ、国民が政治に関わることが必要か」「いかに国民の代表を選ぶか」等をテーマとした子供向けのストーリー（お話、芝居）を学生自らが創作し、それを、一定の表現手段（演劇・紙芝居等）によって発表することを中心とする。 出来上がった作品は、近隣の小学校にお邪魔して、実際に小学生たちに見てもらうことを検討したい。

(16)授業の内容予定	第1回 オリエンテーション 第2回 現在の政治に関する教育について 第3回 子供に教えるべき「政治」とは 第4回 ストーリーの作り方 第5回 表現手段（演劇、紙芝居等）について 第6回 グループワーク①（テーマ設定、ストーリー検討） 第7回 グループワーク②（役割分担、各パート作業） 第8回 グループワーク③（各パート作業） 第9回 中間報告 第10回 グループワーク④（各パート作業） 第11回 グループワーク⑤（練習） 第12回 グループワーク⑥（練習） 第13回 発表会 第14回 発表会（できれば近隣小学校訪問） 第15回 まとめ
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	「シティズンシップ教育」「主権者教育」は社会的な関心が高まりつつある分野で、関連する書籍、新聞・雑誌記事は増えているので、色々な文献・資料に当たって、多様な事例・考え方に触れておくとよい。
(18)学問分野1(主学問分野)	政治学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	法学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特定の教科書は使用しない。
(21)参考文献	唐木清志・岡田泰孝・杉浦真理・川中大輔『シティズンシップ教育で創る学校の未来』東洋館出版社、2015年 全国民主主義教育研究会『主権者教育のすすめ—未来をひらく社会科の授業』同時代社、2014年 杉浦真理『シティズンシップ教育のすすめ—市民を育てる社会科・公民科授業論』法律文化社、2013年 鈴木崇弘・風巻浩・中林美恵子・上野真城子・成田喜一郎『シチズン・リテラシー—社会をよりよくするために私たちにできること』教育出版、2005年 『未来を拓く模擬選挙』編集委員会『未来を拓く模擬選挙』悠光堂、2013年など
(22)成績評価方法及び採点基準	・グループワーク発表の内容：評価全体の50% （内容の理解度、論理性、新規性、分かりやすさ等） ・授業、グループワークへの貢献度：同50% （質問・意見を通して授業に積極的に参加できたか、主体性・協調性をもってグループワークに参加できたか）
(23)授業形式	演習

(24)授業形態・授業方法	簡単な講義も行なうが、グループワークを授業の中核とする。
(25)留意点・予備知識	主体性・協調性をもってグループワークに取り組むことのできる学生の受講を歓迎する。
(26)オフィスアワー	月曜7・8限
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	jun.makita@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	288
(2)区分番号	288
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	社会科教育演習I (A) (Teaching Methodology of Social Studies, Seminar I)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日 5・6時限目
(10)担当教員(所属)	篠塚 明彦(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○社会科・地歴科・公民科教育の基礎となる「社会認識」「歴史認識」への理解を深めることができること(見通す力) ○社会科・地歴科・公民科を学校で学ぶ意味について考えることができるようになること(学び続ける力)
(15)授業の概要	・文献講読を通じて、社会科・地歴科・公民科教育の基礎となる「社会認識」「歴史認識」についての理解を深めます。 ・「社会認識」「歴史認識」への理解をもとに社会科・地歴科・公民科を学ぶ意義について意見交換を行い自身の考えを深めていきます。
(16)授業の内容予定	1. オリエンテーション～社会認識と歴史認識 2. 『社会認識の歩み』(1)～生活現実と社会科学 3. 『社会認識の歩み』(2)～「方法論」とメソドロジー 4. 『社会認識の歩み』(3)～社会科学の言葉 5. 『社会認識の歩み』(4)～運命へのチャレンジ 6. 『社会認識の歩み』(5)～国家の政策 7. 『社会認識の歩み』(6)～歴史の発掘 8. 『歴史とは何か』(1)～歴史科と事実 9. 『歴史とは何か』(2)～社会と個人 10. 『歴史とは何か』(3)～歴史と科学と道徳 11. 『歴史とは何か』(4)～歴史における因果関係 12. 『歴史とは何か』(5)～進歩としての歴史 13. 『歴史とは何か』(6)～広がる地平 14. 総合討議(1)社会認識と社会科授業 15. 総合討議(2)歴史認識と社会科授業
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	受講者による報告をベースに授業を進めますので、毎回の課題に積極的に取り組んで授業に臨んで下さい。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
	-

(18)学問分野3(副学問分野)	
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	内田義彦『社会認識の歩み』岩波書店 E・Hカー『歴史とは何か』岩波書店
(21)参考文献	授業の中で適宜紹介していきます。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常点・提出物・報告等を総合的に判断して評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	受講者による報告とディスカッションにより授業を進めていきます。
(25)留意点・予備知識	常に社会科・地歴科・公民科を学ぶ意義とはなにかということを念頭において授業に臨んで下さい。
(26)オフィスアワー	水曜日 10-11時
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	a-shino@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	289
(2)区分番号	289
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	社会科教育演習II (A) (Teaching Methodology of Social Studies, Seminar II)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日 5・6時限
(10)担当教員 (所属)	小瑶 史朗 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○教科書の比較分析を通じて教科内容への理解を深めるとともに、各自が理想とする社会科学力・授業のあり方を考究すること (解決していく力・学び続ける力)
(15)授業の概要	3冊の歴史教科書の比較分析を通じて、それぞれの教科書の特色を明らかにします。そのうえで、自分が教師として教える場合、どの教科書を、どのような理由で使用し、どのような力を育てたいのかを提案してもらいます。その提案をもとに議論を深めていきます。
(16)授業の内容 予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 教科書制度とは 3. 教科書の比較分析 I 4. 教科書の比較分析 II 5. 報告とディスカッション (1) 古代史 A 6. 報告とディスカッション (2) 古代史 B 7. 報告とディスカッション (3) 中世史 A 8. 報告とディスカッション (4) 中世史 B 9. 報告とディスカッション (5) 近世史 A 10. 報告とディスカッション (6) 近世史 B 11. 報告とディスカッション (7) 近代史 A 12. 報告とディスカッション (8) 近代史 B 13. 報告とディスカッション (9) 現代史 A 14. 報告とディスカッション (10) 現代史 B 15. まとめ
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	割り当てられたテーマについて、各自で教科書の比較分析を進め、考察を深めてください。 教科書で扱われている歴史事象についても、歴史学研究の成果に触れるよう努めてください。
	教育学関連

(18)学問分野 1(主学問分野)	
(18)学問分野 2(副学問分野)	歴史学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	政治学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	分析する教科書はこちらで準備します。
(21)参考文献	授業内で適宜、紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	演習・議論への参加状況、報告内容、レポートによって総合的に評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	主として演習形式で進めます。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	月曜日13～14時
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	f-kodama@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	290
(2)区分番号	290
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	社会科教育演習III (A) (Teaching Methodology of Social Studies, Seminar III)
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 7・8時間目
(10)担当教員(所属)	小瑶 史朗(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○子ども理解、教科指導、教育政策、教職論などの諸側面から学校教育現場への理解を深めること(解決していく力・学び続ける力)
(15)授業の概要	民間教育団体が発行している教育雑誌の記事を素材にして報告と議論を重ね、教育実習で獲得した実践的知見や課題意識を深めていきます。 各回の報告担当者が各自の関心に基づいて雑誌記事をレビュー・考察し、それを基に参加者間で議論を深めます。
(16)授業の内容予定	本年度は教育科学研究会『教育』のなかから各自が関心を持った記事を選定して議論します。 受講者の人数・関心によってスケジュールが変更する可能性があります。概ね以下の授業内容を予定しています。 1. ガイダンス 2. レジューメ作成方法と文献選定 3. 文献の解読(Ⅰ) 4. 文献の解読(Ⅱ) 5. 報告とディスカッション1: 学力 6. 報告とディスカッション2: 授業 7. 報告とディスカッション3: 教職 8. 報告とディスカッション4: 教育改革 9. 報告とディスカッションⅠ: 教科書 10. 報告とディスカッション5: 子ども・若者 11. 報告とディスカッション6: 地域教育 12. 報告とディスカッション7: 平和・国際理解 13. 報告とディスカッション8: シティズンシップ 14. 報告とディスカッション9: 包摂/排除 15. まとめ
	割り当てられたテーマについて、各自でレジューメを作成してください。

(17)準備学習(予習・復習)等の内容	レジュメの構成については授業内で指示します。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	社会学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	思想関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教育科学研究会『教育』の過去2年分を使用する予定です。こちらで準備しますので購入する必要はありません。
(21)参考文献	授業内で紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	演習・議論への参加状況、報告内容、レポートを総合して評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習形式で進めていきます。受講者数にもよりますが、1テーマにつき2名の報告者を立て、それぞれの考察・ディスカッションテーマをもとに議論を進めます。各回ともコメントーターと司会を割り当てる予定です。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	月曜日 13時～14時
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	f-kodama@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	291
(2)区分番号	291
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	社会科教育演習Ⅳ(A) (Teaching Methodology of Social Studies, Seminar IV)
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日 7・8時限目
(10)担当教員(所属)	篠塚 明彦(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○実践記録の講読と分析を通じて、社会科・地歴科・公民科の授業のあり方について考えを深めることができること(解決していく力) ○自身が目指すべき社会科授業像を描くことができるようになること(学び続ける力)
(15)授業の概要	小・中・高の優れた授業実践について分析し、討議することを通じて社会科・地歴科・公民科の授業がいかにあるべきなのかということについて深めていきます。
(16)授業の内容予定	1. オリエンテーション～優れた実践とはなにか 2. 小学校の実践を読む(1)～江口武正実践 3. 小学校の実践を読む(2)～鈴木正気実践 4. 小学校の実践を読む(3)～山本典人実践 5. 小学校の実践を読む(4)～草分京子実践 6. 中学校の実践を読む(1)～本多公栄実践 7. 中学校の実践を読む(2)～田中裕一実践 8. 中学校の実践を読む(3)～安井俊夫実践 9. 中学校の実践を読む(4)～平井敦子実践 10. 高校の実践を読む(1)～大津和子実践 11. 高校の実践を読む(2)～加藤公明実践 12. 高校の実践を読む(3)～井ノ口貴史実践 13. 総合討論(1)～小学校社会科の目指すもの 14. 総合討論(2)～中学校社会科の目指すもの 15. 総合討論(3)～地歴科・公民科の目指すもの
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	受講者による報告をベースに授業を進めますので、毎回の課題に積極的に取り組んで授業に臨んで下さい。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-

(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	授業の中で指示します。
(21)参考文献	授業の中で適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常点・提出物・報告等を総合的に判断して評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	受講者による報告を中心に討議を進めていきます。
(25)留意点・予備知識	授業で取り上げる実践の他にも各自で積極的に多くの実践に触れるようにして下さい。
(26)オフィスアワー	水曜日 10-11時
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	a-shino@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	296
(2)区分番号	296
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	線形代数概論 (Introduction to Linear Algebra)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等 (小・数学サブコース)、初等中等 (中コース数学)・特支 (中コース数学) : 必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日 3・4時限
(10)担当教員 (所属)	上山 健太 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル1
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての の具体的到達目標	○ベクトル空間、線形写像、行列の対角化を理解すること (見通す力)
(15)授業の概要	「数学基礎A」では行列の基本性質と、それをを用いて具体的に連立一次方程式を解くことを学習してきました。この講義では、それらを抽象化したベクトル空間の概念を理解するとともに、応用上有益である行列の対角化について学習します。
(16)授業の内容 予定	<p>第1回：ベクトル空間の定義と例 第2回：線形結合、線形独立、線形従属 第3回：部分空間 第4回：基底と次元 第5回：線形写像の定義と例 第6回：像と核、線形同型 第7回：線形写像の行列表現 第8回：前半部分の振り返りと中間テスト 第9回：固有値、固有ベクトル 第10回：固有空間の基底と次元 第11回：対角化可能判定 第12回：行列の三角化 第13回：内積と計量ベクトル空間 第14回：正規直交基底とシュミットの直交化法 第15回：対称行列の対角化 第16回：振り返りと期末テスト</p> <p>受講者の反応によって内容、進度が変更になる可能性があります。変更する場合には、その都度説明します。</p>
	毎回の講義の内容を復習し、自分で納得するまで考えてください。特に、手を動かして具体的な例を計算することで理論への理解が深まります。また、前回の講義でどのようなことを学習したか覚えている状態で講義に参

(17)準備学習 (予習・復習)等 の内容	加するようにしてください。 復習しても理解できなかった点はできる限り早く質問に来るなどして、溜めないようにしてください。
(18)学問分野 1(主学問分野)	代数学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある 教員による授業科目 について	-
(20)教材・教科書	浅芝秀人『基礎課程 線形代数』(2013)培風館
(21)参考文献	二木昭人『基礎講義 線形代数学』(1999)培風館
(22)成績評価方法及び 採点基準	中間テスト(50%)、期末テスト(50%)により成績評価します。 但し、受講者の反応によって、レポートを課す場合があります。レポートを課した場合は、中間テスト(45%)、期末テスト(45%)、レポート(10%)で成績評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・ 授業方法	板書で講義を行います。
(25)留意点・予備 知識	「数学基礎A」と「論理・集合・写像」を履修していること。(行列、論理、集合、写像の基礎的な知識を必要とします。)
(26)オフィスアワー	月曜日16:00~18:00、教育学部棟3-65
(27)Eメールアドレス・ HPアドレス	Eメールアドレス: k-ueyama@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	297
(2)区分番号	297
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	数論入門 (Introduction to Number Theory)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース数学）・特支（中コース数学）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日 7・8時限
(10)担当教員 (所属)	上山 健太（教育学部）
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応する CP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業とし ての具体的到 達目標	○初等整数論の基礎的な命題を理解すること（見通す力） ○剰余類を通して、抽象的な代数学の考え方に慣れ親しむこと（見通す力）
(15)授業の概 要	整数は非常に身近なものであり、美しい性質を持ちます。その一端に触れることで、その人を豊かにするとともに、現象を掘り下げて深く考える力をつけることができます。これより、整数分野は教育数学にとって重要な分野となっています。それらを理解するため、この講義では初等整数論について学びます。 他方、この講義は以後に学ぶ代数系の考え方の源泉にあたるものであり、かつ重要な例となるものです。
(16)授業の内 容予定	第1回：約数、倍数 第2回：最大公約数、最小公倍数 第3回：算術の基本定理 第4回：ユークリッドの互除法 第5回：合同式と剰余類 第6回：合同式の計算 第7回：一次不定方程式 第8回：一次不定方程式の解法 第9回：前半部分の振り返りと中間テスト 第10回：一次合同式 第11回：オイラー関数と既約剰余類 第11回：オイラーの定理とフェルマーの小定理 第12回：位数 第13回：原始根とその存在性 第14回：ウィルソンの定理 第15回：有名な定理と未解決問題 第16回：振り返りと期末テスト

	受講者の反応によって内容、進度が変更になる可能性があります。変更する場合には、その都度説明します。
(17)準備学習 (予習・復習)等の内容	毎回の講義の内容を復習し、自分で納得するまで考えてください。特に、手を動かして具体的な例を計算することで理論への理解が深まります。また、前回の講義でどのようなことを学習したか覚えている状態で講義に参加するようにしてください。復習しても理解できなかった点はできる限り早く質問に来るなどして、溜めないようにしてください。
(18)学問分野 1(主学問分野)	代数学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験 のある教員に よる授業科目 について	-
(20)教材・教科書	楫元『工科系のための初等整数論入門』（2000）培風館
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価 方法及び採点 基準	中間テスト（45%）、期末テスト（45%）、レポート（10%）により成績評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	板書で講義を行います。
(25)留意点・ 予備知識	予備知識はありません。後期以降の代数学関連の講義では、この講義の内容は既知とされます。
(26)オフィス アワー	月曜日16:00～18:00、教育学部棟3-65
(27)Eメール アドレス・HP アドレス	Eメールアドレス: k-ueyama@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	298
(2)区分番号	298
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	群論入門 (Introduction to Group Theory)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等 (中コース数学) ・ 特支 (中コース数学) : 必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 3・4時限
(10)担当教員 (所属)	上山 健太 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○群論の基礎的知識として、部分群、対称群、正規部分群、準同型定理、及びそれらの応用について理解すること (見通す力)
(15)授業の概要	抽象代数学の典型的な例として、群・環・体がありますが、この講義ではそのうち最も公理の少ない群について学びます。群は、現象の中に対称性を見出すために重要なもので、数理の様々なところに現れます。この講義を通して、その一端を紹介します。
(16)授業の内容予定	<p>第1回：群の定義 第2回：群の例 第3回：群の基本的性質 第4回：部分群 第5回：巡回群 第6回：対称群 第7回：対称群の応用 第8回：前半部分の振り返りと中間テスト 第9回：交代群と二面体群 第10回：ラグランジュの定理 第11回：正規部分群 第12回：剰余群 第13回：準同型写像 第14回：準同型写像の性質 第15回：準同型定理 第16回：振り返りと期末テスト</p> <p>受講者の反応によって内容、進度の変更になる可能性があります。変更する場合には、その都度説明します。</p>
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	<p>毎回の講義の内容を復習し、自分で納得するまで考えてください。特に、手を動かして具体的な例を計算することで理論への理解が深まります。</p> <p>また、前回の講義でどのようなことを学習したか覚えている状態で講義に参加するようにしてください。</p> <p>復習しても理解できなかった点はできる限り早く質問に来るなどして、溜めないようにしてください。</p>
	代数学関連

(18)学問分野1(主学問分野)	
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	指定はしませんが、以後の学習のためにも、自分にとって分かりやすい群論の本を一冊持っておくことをお勧めします。
(21)参考文献	参考書として、 渡辺豊『群論の基礎・基本』(2013) 牧野書店 永尾汎『群論の基礎』(2004) 朝倉書店 倉田吉喜『代数学』(1992) 近代科学社 雪江明彦『代数学1 群論入門』(2010) 日本評論社 をあげておきます。自分にとって分かりやすい本を参考にしてください。
(22)成績評価方法及び採点基準	中間テスト(40%)、期末テスト(40%)、レポート(20%)により成績評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	板書で講義を行います。
(25)留意点・予備知識	論理、集合、写像、線形代数、初等整数論の基礎的な知識は必要です。
(26)オフィスアワー	月曜日16:00~18:00、教育学部棟3-65
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	Eメールアドレス: k-ueyama@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	301
(2)区分番号	301
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	代数学III (Algebra III)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース数学サブコース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 9・10時限
(10)担当教員（所属）	上山 健太（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○環と体についての基本的な命題を理解し、抽象的な代数学の考え方を身につけること（見通す力） ○自立して専門的な代数学を学んでいくために必要な知識を会得すること（学び続ける力）
(15)授業の概要	「角の3等分は定規とコンパスで作図できない」ということは、体という代数系を用いて証明できます。また、環は最先端の代数学でも重要な役割を担います。 この講義では、そのような考え方を理解するため、環論と体論の基本的な知識を学びます。
(16)授業の内容予定	第1回：環、体の定義と例 第2回：整域 第3回：ユークリッド整域 第4回：イデアル 第5回：単項イデアル整域 第6回：剰余環 第7回：素イデアルと極大イデアル 第8回：前半部分の振り返りと中間テスト 第9回：多項式の既約判定法 第10回：体上のベクトル空間の復習 第11回：体の拡大 第12回：拡大次数と代数的数 第13回：拡大次数公式 第14回：作図可能性 第15回：作図不能問題 第16回：振り返りと期末テスト 受講者の反応によって内容、進度が変更になる可能性があります。変更する場合には、その都度説明します。
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	毎回の講義の内容を復習し、自分で納得するまで考えてください。特に、手を動かして具体的な例を計算することで理論への理解が深まります。

	また、前回の講義でどのようなことを学習したか覚えている状態で講義に参加するようにしてください。 復習しても理解できなかった点はできる限り早く質問に来るなどして、溜めないようにしてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	代数学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特定の教科書は使用しません。
(21)参考文献	代数学関連の自分にとって分かりやすい本を適宜参考にしてください。
(22)成績評価方法及び採点基準	中間テスト(45%)、期末テスト(45%)、レポート(10%)により成績評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	板書で講義を行います。
(25)留意点・予備知識	論理、集合、写像、線形代数、初等整数論、群論の基礎的な知識は必要です。
(26)オフィスアワー	月曜日16:00~18:00、教育学部棟3-65
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	Eメールアドレス: k-ueyama@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	303
(2)区分番号	303
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	変換と幾何学 (Geometrical Transformation)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（小・数学サブコース）、初等中等（中コース数学）・特支（中コース数学）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 1・2時限
(10)担当教員（所属）	山本 稔（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的な到達目標	○座標平面、空間内の一次、二次方程式で表された図形とその変換を線型代数を用いて理解すること（見通す力）
(15)授業の概要	合同変換、アフィン変換を用いることにより、座標空間内の一次、二次の方程式で表された図形が理解できることを解説する。また射影空間、射影変換を用いるとより見通しが良く理解できることを解説する。
(16)授業の内容予定	進行状況に応じて受講者と相談しながら内容を増減させることがある。 1回：平面上の斜交、直交座標 2回：空間上の斜交、直交座標 3回：平面、空間上の座標変換 4回：平面、空間上の合同変換 5回：平面、空間上のアフィン変換 6回：平面上の一次方程式で表される図形 7回：空間上の一次方程式で表される図形、中間試験 8回：二次曲線（楕円、双曲線） 9回：二次曲線（放物線） 10回：二次曲面（楕円面、双曲面） 11回：二次曲面（二次錐面、双曲放物面） 12回：二次曲面（柱面） 13回：射影平面 14回：射影変換 15回：射影空間と射影変換 16回：期末試験
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	復習：計算練習を各自で行うこと。ノートは必ず見直し、書き間違い・写し間違いと思われる点や疑問点は質問すること。
(18)学問分野1(主学問分野)	幾何学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-

(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	本部均『解析幾何学』（共立出版） 竹内伸子、泉屋周一、村山光孝『座標幾何学』（日科技連） 西山亨『射影幾何学の考え方』（共立出版） 伊原信一郎、河田敬義『線型空間、アフィン幾何』（岩波書店）
(22)成績評価方法及び採点基準	中間テスト50% 期末テスト（15回の講義終了後に行う）50% 上記を合算し、必要に応じてレポート課題の評価による補正を行い、最終的な成績評価を行う予定。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	担当教員による講義の形ですすめる。
(25)留意点・予備知識	「数学基礎A」「論理・集合・写像」「線形代数概論」を履修していること。
(26)オフィスアワー	研究室にいるときはいつでも
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	minomoto@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	304
(2)区分番号	304
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	位相数学入門 (Introduction to General Topology)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース数学サブコース）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日 1・2時限
(10)担当教員（所 属）	山本 稔（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベ ル）	レベル3
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具 体的到達目標	○点同士の「つながり方」を抽象化した位相空間と位相空間の間の連続写像について理解し、連結性やコンパクト性など位相空間の性質を理解すること（見通す力）
(15)授業の概要	集合に位相構造を入れることで点同士のつながり方、写像が連続であることという概念が得られることを解説する。 また部分空間、直積空間、商空間など位相空間から新たな位相空間を作る方法、連結性やコンパクト性といった位相空間の性質について解説する。
(16)授業の内容予定	進行状況に応じて受講者と相談しながら内容を増減させることがある。 1回：位相空間の定義 2回：位相空間の部分集合 3回：位相の生成 4回：開基 5回：連続写像 6回：誘導位相 7回：部分空間、中間試験 8回：直積空間 9回：商空間 10回：コンパクト空間 11回：ハウスドルフ空間 12回：連結空間 13回：弧状連結空間 14回：パンケーキ問題 15回：空間に作用する群 16回：期末試験
(17)準備学習（予 習・復習）等の内容	復習：例を作るなど演習を各自で行い、証明を理解すること。 ノートは必ず見直し、書き間違い・写し間違いと思われる点や疑問点は質問すること。
(18)学問分野1(主学 問分野)	幾何学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	クゼ・コスニオフスキ『トポロジー入門』（東京大学出版会） 大田春外『はじめての集合と位相』（日本評論社） J. R. Munkres『Topology』（Pearson Edu. Int.） 鎌田正良『集合と位相』（近代科学社） 内田伏一『集合と位相』（裳華房）
(22)成績評価方法及び採点基準	中間テスト50% 期末テスト（15回の講義終了後に行う）50% 上記を合算し、必要に応じてレポート課題の評価による補正を行い、最終的な成績評価を行う予定。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	担当教員による講義の形ですすめる。
(25)留意点・予備知識	「数学基礎A」「数学基礎B」「論理・集合・写像」「微分積分概論」「線形代数概論」「変換と幾何学」「数論入門」「群論入門」「偏微分・重積分」を履修していること。
(26)オフィスアワー	研究室にいるときはいつでも。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	minomoto@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	305
(2)区分番号	305
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	幾何学I (Geometry I)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（小・数学サブコース）、初等中等（中コース数学）・特支 （中コース数学）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日 5・6時限
(10)担当教員（所 属）	山本 稔（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベ ル）	レベル3
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具 体的到達目標	○空間内の曲面の形状を、計量や曲率などを用いて理解すること（見通 す力）
(15)授業の概要	空間内に埋め込まれた曲面を合同変換で分類することを目標とする。 分類の指標として第1基本形式、第2基本形式といった2次形式やガウス曲 率や平均曲率といった量が重要であることを解説する。
(16)授業の内容予定	進行状況に応じて受講者と相談しながら内容を増減させることがある。 1回：ユークリッド空間内の多様体の定義 2回：ユークリッド空間内の多様体の接空間 3回：曲面の例 4回：第1基本形式 5回：回転面 6回：ガウス写像 7回：第二基本形式 8回：ワインガルテンの公式、中間試験 9回：主曲率、主方向 10回：空間曲線、平面曲線 11回：曲率線 12回：線織面 13回：焦曲面 14回：ガウスの定理 15回：共変微分 16回：期末試験
(17)準備学習（予 習・復習）等の内容	復習：計算練習を各自で行うこと。ノートは必ず見直し、書き間違い・ 写し間違いと思われる点や疑問点は質問すること。
(18)学問分野1(主学 問分野)	幾何学関連
	-

(18)学問分野2(副学問分野)	
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特になし。
(21)参考文献	中岡稔『位相数学入門』（朝倉書店） 伊藤光弘『曲面の幾何学』（遊星社） スピヴァック『多変数解析学』（東京図書） 杉浦光夫『解析入門I、II』（東京大学出版会） 梅原・山田『曲線と曲面』（裳華房）
(22)成績評価方法及び採点基準	中間テスト50% 期末テスト（15回の講義終了後に行う）50% 上記を合算し、必要に応じてレポート課題の評価による補正を行い、最終的な成績評価を行う予定。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	担当教員による講義の形ですすめる。
(25)留意点・予備知識	「数学基礎A」「数学基礎B」「論理・集合・写像」「微分積分概論」「線形代数概論」「変換と幾何学」「数論入門」「群論入門」「偏微分・重積分」を履修していること。 「位相数学」を同時履修していること。
(26)オフィスアワー	研究室にいるときはいつでも。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	minomoto@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし。

教育学部

(1)整理番号	307
(2)区分番号	307
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	幾何学III (Geometry III)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース数学サブコース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日 1・2時限
(10)担当教員 (所属)	山本 稔（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○ユークリッド空間内の多様体を可微分多様体に一般化することで、ユークリッド空間上の微分積分が可微分多様体上の微分積分に拡張されることを理解すること（見通す力） ○幾何学をこの先学ぶ上で基本的な対象となる、可微分多様体とその間の可微分写像について理解すること（学び続ける力）
(15)授業の概要	可微分多様体の定義と可微分多様体間の写像について解説する。 可微分写像の特異点や可微分多様体上の微分形式から可微分多様体の情報が得られることを解説する。
(16)授業の内容 予定	進行状況に応じて受講者と相談しながら内容を増減させることがある。 1回：可微分多様体の定義 2回：可微分写像の定義 3回：接空間 4回：写像の微分 5回：逆写像定理 6回：はめ込みと埋め込み 7回：1の分割、中間試験 8回：サードの定理 9回：正則点、特異点 10回：横断性定理 11回：ベクトル場 12回：積分曲線 13回：微分形式 14回：外微分 15回：ストークスの定理 16回：期末試験
(17)準備学習 (予習・復習)等 の内容	復習：例を作るなど演習を各自で行い、証明を理解すること。 ノートは必ず見直し、書き間違い・写し間違いと思われる点や疑問点は質問すること。

(18)学問分野 1(主学問分野)	幾何学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特になし。
(21)参考文献	松本幸夫『多様体の基礎』（東京大学出版会） 泉屋・佐野・佐伯・佐久間『幾何学と特異点I』（共立出版） スピヴァック『多変数解析学』（東京図書） 畠山洋二『多様体入門』（森北出版） J. M. Lee『Introduction to smooth manifolds』（Springer）
(22)成績評価方法及び採点基準	中間テスト50% 期末テスト（15回の講義終了後に行う）50% 上記を合算し、必要に応じてレポート課題の評価による補正を行い、最終的な成績評価を行う予定。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	担当教員による講義の形ですすめる。
(25)留意点・予備知識	「数学基礎A」「数学基礎B」「論理・集合・写像」「微分積分概論」「線形代数概論」「変換と幾何学」「数論入門」「群論入門」「偏微分・重積分」「位相数学」「幾何学I」（または「幾何学II」）を履修していること。
(26)オフィスアワー	研究室にいるときはいつでも。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	minomoto@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし。

教育学部

(1)整理番号	309
(2)区分番号	309
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	論理・集合・写像 (Set Theory)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等（小・数学サブコース）、初等中等（中コース数学）・特支（中コース数学）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 3・4時限
(10)担当教員 (所属)	吉川 和宏（教育学部）
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル1
(13)対応する CP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての 具体的到達目標	○論理・集合の基礎知識を身につけること（見通す力） ○論理・集合の方法により数学的対象を記述できること（見通す力）
(15)授業の概要	大学で現代数学を学ぶ場合、理論の説明において言語の役割を果たす論理・集合の基礎知識を身につけることは必要不可欠です。この講義では、主に命題論理および集合論の初歩的部分について解説します。また図だけでは説明が難しい抽象的な事柄、数学的対象を命題論理や集合論の記号を用いて記述できるようになることを目指します。
(16)授業の内容 予定	まず命題論理における記号とその使い方を説明します。次に集合論において基礎的事項である写像や関係を説明した後、個数の概念の一般化にあたる濃度について解説します。各回、大まかに以下のテーマに沿って講義を行う予定です。 第1回 命題論理の初歩 第2回 命題論理の規則 第3回 集合と集合の表し方 第4回 集合の演算 第5回 任意と存在 第6回 関係と写像 第7回 単射と全射 第8回 直積と関係 第9回 同値関係 第10回 順序関係 第11回 集合族 第12回 ベキ集合と商集合 第13回 有限集合と要素の個数 第14回 可算無限集合 第15回 非可算無限集合

	<p>第16回 期末試験</p> <p>授業の進行状況等により、内容が変更になる場合があります。</p>
(17)準備学習 (予習・復習)等の内容	<p>[予習] シラバスに記載された各回のテーマに連する数学の専門用語の定義を調べてください。</p> <p>[復習] 授業内もしくは教科書・参考書等に出題される演習問題を各自で解くことが必要です。</p>
(18)学問分野 1(主学問分野)	解析学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	<p>鈴木登志雄著 『例題で学ぶ集合と論理』 (2016) 森北出版株式会社</p> <p>※指定の教科書を購入していない受講者に対して、なるべく支障がないように授業を行います。授業時間外学修のために集合・位相の入門書を何か一冊は所持しておくことを薦めます。</p>
(21)参考文献	<p>赤撮也著 『集合論入門』 (2014) ちくま学芸文庫</p> <p>松坂和夫著 『集合・位相入門』 (1968) 岩波書店</p>
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>平常評価 (演習・レポートなど) : 40%</p> <p>期末評価 (期末試験) : 60%</p> <p>上記を合算して成績評価を行う予定です。</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	主に黒板を使用して解説する講義を行います。また講義後に演習問題もしくはレポート課題を出すこともあります。
(25)留意点・予備知識	高校数学の基礎知識があることが望ましい。
(26)オフィスアワー	木曜12:00~15:00
(27)Eメール アドレス・HP アドレス	初回講義内でお知らせします。
(28)その他	特になし。

教育学部

(1)整理番号	310
(2)区分番号	310
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	微分積分概論 (Introduction to Calculus)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等（小・数学サブコース）、初等中等（中コース数学）・特支（中コース数学）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 5・6時限
(10)担当教員（所属）	吉川 和宏（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル1
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的な到達目標	○微分と積分に関する基本的な計算ができること（見通す力） ○微分積分学の厳密な理論に慣れること（見通す力）
(15)授業の概要	微分積分学は、理工学は言うに及ばず経済学などの分野でも広く使われているため、より多くの現代の学問を理解する上で必要な知識です。この講義では、1変数の微分積分について解説します。また微分積分学の ε - δ （イプシロン-デルタ）論法を用いた厳密な理論に触れることで論理的思考力を養い、同時に理論や意味の理解に基づいた微分積分の計算ができるようになることを目指します。
(16)授業の内容予定	各回、大まかに以下のテーマに沿って講義を行う予定です。それぞれの定義、定理およびその証明について解説します。 第1回 数列の極限 第2回 下限と上限 第3回 数の連続性 第4回 関数の極限 第5回 連続関数 第6回 微分 第7回 微分の計算 第8回 平均値の定理 第9回 テイラーの定理 第10回 微分の応用 第11回 積分 第12回 微分積分学の基本定理 第13回 不定積分の計算 第14回 定積分の計算

	第15回 広義積分 第16回 期末試験 授業の進行状況等により、内容が変更になる場合があります。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	[予習] シラバスに記載された各回のテーマに関連する数学の専門用語の定義を調べてください。 [復習] 授業内もしくは教科書・参考書等に出題される演習問題を各自で解くことが必要です。
(18)学問分野1(主学問分野)	解析学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	難波誠著 『微分積分学』 (1996) 裳華房
(21)参考文献	高木貞治著 『定本解析概論』 (2010) 岩波書店 杉浦光夫、清水秀男、金子晃、岡本和夫著 『解析演習』 (1989) 東京大学出版会
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価(演習・レポートなど) : 40% 期末評価(期末試験) : 60% 上記を合算して成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	主に黒板を使用して解説する講義を行います。また講義後に演習問題もしくはレポート課題を出すこともあります。
(25)留意点・予備知識	高校数学の基礎知識があることに加えて「論理・集合・写像」の講義を履修していることが望ましい。
(26)オフィスアワー	金曜12:00~15:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	初回講義内でお知らせします。
(28)その他	特になし。

教育学部

(1)整理番号	311
(2)区分番号	311
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	偏微分・重積分 (Advanced Calculus)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース数学サブコース）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日 7・8時限
(10)担当教員（所属）	山本 稔（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的な到達目標	○一変数関数で学んだ微分積分を見直すことで、写像の微分と極値、多変数関数の積分と体積について理解すること（見通す力）
(15)授業の概要	「微分積分概論」「線形代数概論」「変換と幾何学」で学んだことを元に、写像の微分、多変数関数の積分について解説する。講義を通して一変数関数の微積分と同じ点、異なる点を解説する。
(16)授業の内容予定	進行状況に応じて受講者と相談しながら内容を増減させることがある。 1回：ユークリッド空間の位相 2回：連続写像 3回：方向微分 4回：偏微分、高階偏導関数 5回：写像の微分 6回：合成写像の微分 7回：テイラーの定理と極値 8回：逆関数定理、陰関数定理、中間試験 9回：積分の定義 10回：累次積分 11回：有界集合上の積分 12回：零集合と可積分条件 13回：変数変換 14回：広義重積分 15回：立体の体積、積分記号下での微分 16回：期末試験
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	復習：計算練習を各自で行うこと。ノートは必ず見直し、書き間違い・写し間違いと思われる点や疑問点は質問すること。
(18)学問分野1(主学問分野)	解析学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
	-

(18)学問分野3(副学問分野)	
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特になし。
(21)参考文献	杉浦光夫『解析入門I、II』（東京大学出版会） スピヴァック『多変数解析学』（東京図書） 一松信『解析学序説上・下』（裳華房）
(22)成績評価方法及び採点基準	中間テスト50% 期末テスト（15回の講義終了後に行う）50% 上記を合算し、必要に応じてレポート課題の評価による補正を行い最終的な成績評価を行う予定。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	担当教員による講義の形ですすめる。
(25)留意点・予備知識	「数学基礎A」「数学基礎B」「論理・集合・写像」「微分積分概論」「線形代数概論」「変換と幾何学」を履修していること。 「数学演習C」を同時履修していることが望ましい。
(26)オフィスアワー	研究室にいるときはいつでも。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	minomoto@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし。

教育学部

(1)整理番号	314
(2)区分番号	314
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	解析学III (Analysis III)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース数学サブコース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日 3・4時限
(10)担当教員 (所属)	伊藤 成治（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○複素関数の微分・積分の考え方を理解し、基礎的な計算ができるようになること（見通す力） ○基本事項をおろそかにせず、丁寧に積み上げることの重要性を体得すること（学び続ける力）
(15)授業の概要	複素関数の微分・積分を扱います。実変数を複素変数に変えるだけですが、複素関数は実関数にない多くの不思議な性質をもっています。それらの性質を調べるとともに、応用として留数の原理にもとづく実関数の定積分の計算方法を紹介します。
(16)授業の内容 予定	第1回：ガイダンス 第2回：複素数 第3回：n乗根 第4回：数列、級数、関数 第5回：正則関数、コーシー・リーマンの方程式 第6回：基本的な正則関数 第7回：第2回から第6回の振り返りと到達度確認テスト 第8回：複素変数の関数の積分 第9回：コーシーの定理 第10回：コーシーの積分表示 第11回：テイラー展開、ローラン展開 第12回：極、留数 第13回：実定積分の計算 第14回：等角写像 第15回：第8回から第14回の振り返りと到達度確認テスト 授業の進行状況等により、内容が変更になる場合があります。
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	毎回の講義の内容を復習し、必ず関連する問題を解いてください。

(18)学問分野 1(主学問分野)	解析学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	矢野健太郎・石原繁著『基礎解析学コース 複素解析』（裳華房）
(21)参考文献	ガイダンスで紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	到達度確認テストの結果で評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	板書で行います。
(25)留意点・予備知識	「論理・集合・写像」、「微分積分概論」または「極限と連続」、「線形代数概論」または「線形数学」、「偏微分・重積分」を履修していること。
(26)オフィスアワー	ガイダンスでお知らせします。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	sitoh@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし。

教育学部

(1)整理番号	316
(2)区分番号	316
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	確率・統計入門 (Introduction to Probability Theory and Statistics)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等 (小・数学サブコース)、初等中等 (中コース数学) ・特支 (中コース数学) : 必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 7・8時限
(10)担当教員 (所属)	吉川 和宏 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的な到達目標	○確率論の基礎知識を身につけること (見通す力) ○確率論および統計学に関する基本的な計算ができること (見通す力)
(15)授業の概要	確率論は、偶発的現象に関わる様々な問題を解析するための数学的方法であり、統計学における推測の理論を学ぶ上で必要です。この講義では、まず主に確率論の基礎概念について解説します。私たちが経験的に確率と考えているものが真の確率に近いという統計的認識を数学的に正当化して理解することを目指します。加えて確率論および統計学に関する基本的な計算力を養い、期待値や分散などを求めることができることも目標としています。
(16)授業の内容予定	<p>組合せ理論を手法とする古典的確率論から始めて、測度論に基づいた近代確率論を紹介した後、大数の法則および中心極限定理について解説します。また一方で二項分布や正規分布などの確率・統計において重要な確率分布もいくつか紹介し、それらの期待値や分散を計算する演習を行います。各回、大まかに以下のテーマに沿って講義を行う予定です。</p> <p>第1回 確率の定義 第2回 条件付確率 第3回 独立性 第4回 確率変数と分布関数 第5回 期待値と分散 第6回 積率母関数 第7回 離散分布 (二項分布) 第8回 離散分布 (ポアソン分布と幾何分布) 第9回 連続分布 (一様分布と指数分布)</p>

	<p>第10回 連続分布（正規分布） 第11回 多次元の確率分布 第12回 多項分布と多次元正規分布 第13回 大数の法則 第14回 中心極限定理 第15回 期末テスト（45分）とふりかえり</p> <p>授業の進行状況等により、内容が変更になる場合があります。</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	<p>[予習] シラバスに記載された各回のテーマに関連する数学の専門用語の定義を調べてください。 [復習] 授業内もしくは教科書・参考書等に出題される演習問題を各自で解くことが必要です。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	応用数学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	松本裕行、宮原孝夫共著 『数理統計入門』（1990）学術図書出版社
(21)参考文献	西尾真喜子著『確率論』（1978）実教出版 東京大学教養学部統計学教室編『統計学入門』（1991）東京大学出版会
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（演習・レポートなど）：60% 期末評価（期末テスト）：40% 上記を合算して成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	主に黒板を使用して解説する講義を行います。また講義後になるべく演習時間を設けます。授業の進行状況等により、レポート課題を出すこともあります。
(25)留意点・予備知識	「論理・集合・写像」、「微分積分概論」、「線形代数概論」の講義を履修していることが望ましい。
(26)オフィスアワー	木曜12：00～15：00
	初回講義内でお知らせします。

(27)Eメールアドレス・HPアドレス	
(28)その他	特になし。

教育学部

(1)整理番号	317
(2)区分番号	317
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	統計学 (Statistics)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース数学サブコース）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日 5・6時限
(10)担当教員（所属）	吉川 和宏（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的な到達目標	○統計的推測の基本的な考え方を理解すること（見通す力） ○基本的な推定および検定を行うことができること（見通す力）
(15)授業の概要	統計学は、現象のデータを収集して法則性を分析する方法を扱う学問であり、幅広い分野で利用されます。この講義では、主に数理統計について解説します。データの一部（標本）からデータの全体（母集団）の特徴を表す量（母数）を推測する推定の理論と、母集団もしくは母数に対して仮定された命題を標本の有意性に基づいて検証する仮説検定の理論を理解して扱うことができることを目指します。
(16)授業の内容予定	推定の理論における点推定と区間推定、仮説検定の理論における母平均・母比率に関する検定とカイ二乗検定、および回帰分析について解説と演習を行います。各回、大まかに以下のテーマに沿って講義を行う予定です。 第1回 標本調査と統計量 第2回 カイ二乗分布、F分布、t分布 第3回 点推定1：不偏推定量 第4回 点推定2：最尤推定量 第5回 区間推定1：母平均 第6回 区間推定2：母比率、母分散 第7回 検定の考え方 第8回 母平均に関する検定 第9回 母比率に関する検定 第10回 カイ二乗検定 第11回 分散分析 第12回 回帰モデル 第13回 回帰係数の推定

	<p>第14回 回帰係数の検定 第15回 期末テスト（45分）とふりかえり</p> <p>授業の進行状況等により、内容が変更になる場合があります。</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	<p>[予習] シラバスに記載された各回のテーマに関連する数学の専門用語の定義を調べてください。 [復習] 授業内もしくは教科書・参考書等に出題される演習問題を各自で解くことが必要です。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	応用数学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	松本裕行、宮原孝夫共著『数理統計入門』（1990）学術図書出版社
(21)参考文献	東京大学教養学部統計学教室編『統計学入門』（1991）東京大学出版会
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>平常評価（演習・レポートなど）：60% 期末評価（期末テスト）：40% 上記を合算して成績評価を行う予定です。</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	主に黒板を使用して解説する講義を行います。また講義後になるべく演習時間を設けます。講義の進行状況等により、レポート課題を出すこともあります。
(25)留意点・予備知識	「確率・統計入門」の講義を履修していることが望ましい。
(26)オフィスアワー	金曜12：00～15：30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	初回講義内でお知らせします。
(28)その他	特になし。

教育学部

(1)整理番号	318
(2)区分番号	318
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	応用数学I (Applied Mathematics I)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（小・数学サブコース）、初等中等（中コース数学）・特支（中コース数学）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 7・8時限
(10)担当教員（所属）	津田谷 公利（理工学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての 具体的到達目標	○基本的な微分方程式の解法を理解すること（見通す力） ○基本的な微分方程式の解法を習得すること（解決する力）
(15)授業の概要	自然現象や社会現象を記述する数学モデルとして、多くの微分方程式が知られています。本授業では、これらの微分方程式を理解する上で第一歩となる初等的な微分方程式とその解法について学びます。
(16)授業の内容予定	<p>第1回 序論 第2回 変数分離型方程式 第3回 同次形、線形1階方程式 第4回 ベルヌーイ型方程式、リッカチ型方程式 第5回 完全微分型 第6回 積分因子、包絡線 第7回 線形2階方程式、斉次方程式 第8回 非斉次方程式 第9回 中間試験(45分)、自由振動 第10回 強制振動 第11回 連立線形微分方程式 第12回 線形代数の復習(演習) 第13回 連立微分方程式の一般解の求め方 第14回 連立微分方程式が現れる数学モデル 第15回 期末試験(60分)、全体のまとめ</p> <p>授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	シラバスに記載された各回の授業の内容予定を参考とし、教科書の該当箇所を授業実施時まで予習し、授業実施後に復習を行ってください(予習・復習は、最低でも各1時間程度行う必要があります)。教科書の練習問題、レポート問題に取り組むなど、特に復習に力を入れてください。
	解析学関連

(18)学問分野 1(主学問分野)	
(18)学問分野 2(副学問分野)	応用数学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	幾何学関連
(19)実務経験のある 教員による授業 科目について	-
(20)教材・教科書	最初の授業で指示します。
(21)参考文献	長瀬道弘著 『微分方程式』 (1993) 裳華房
(22)成績評価方法 及び採点基準	中間試験、期末試験、小テスト、レポート、演習の結果を合わせて最終的な成績評価を行う予定です。 詳細は最初の授業で説明します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授 業方法	主に講義で授業を進めていき、演習を随時行います。
(25)留意点・予備 知識	微分積分学および線形代数学で学んだ内容を理解していることを前提とします。
(26)オフィスア ワ ー	月曜日17:30-18:30
(27)Eメールアド レス・HPアドレ ス	HP: http://www.st.hirosaki-u.ac.jp/~tsutaya/
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	320
(2)区分番号	320
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	応用数学III (Applied Mathematics III)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（小・数学サブコース）、初等中等（中コース数学）・特支（中コース数学）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日 9・10時限
(10)担当教員（所属）	吉川 和宏（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○確率過程に関する基本的な計算ができること（見通す力） ○自立して専門的な確率論・統計学を学んでいくために必要な知識を身につけること（学び続ける力）
(15)授業の概要	この講義では、確率過程について解説します。確率過程とは、時間の経過とともにランダムに変化する現象を数学的に定式化したものです。待ち行列の人数や株価など日常的に関わるものから微粒子の運動など自然科学に表れるものまで様々な現象を定式化した確率過程とその計算方法を学ぶことにより、確率論・統計学を各専門分野へ応用する方法を習得することを目指しています。
(16)授業の内容予定	初歩的な確率過程、離散時間のマルコフ連鎖やマルチンゲールから始めて、最後にブラウン運動等の連続時間の例をとりあげます。また講義を通じて、出来る限り多くの具体例や計算例を紹介します。各回、大まかに以下のテーマに沿って講義を行う予定です。 第1回 確率論の復習（確率とその独立性） 第2回 確率論の復習（確率変数と分布） 第3回 確率論の復習（期待値とモーメント） 第4回 マルコフ連鎖（定義と例） 第5回 マルコフ連鎖（状態の分類） 第6回 マルコフ連鎖（極限の挙動） 第7回 条件付期待値 第8回 マルチンゲール（定義と例） 第9回 マルチンゲール（任意停止定理） 第10回 マルチンゲール（応用） 第11回 ポアソン過程（定義と例） 第12回 ポアソン過程（構成） 第13回 複合ポアソン過程と確率モデル

	<p>第14回 ブラウン運動（定義と性質） 第15回 ブラウン運動（構成）</p> <p>授業の進行状況等により、内容が変更になる場合があります。</p>
(17)準備学習 (予習・復習)等の内容	<p>[予習] 前回までのノートに目を通し、数学の専門用語の定義を再確認してください。</p> <p>[復習] 講義内容をノートにまとめて整理してください。また授業中に出题した問題およびレポート課題に対して、参考文献を読む、インターネットで調べるなどして積極的に取り組むことも必要です。</p>
(18)学問分野 1(主学問分野)	応用数学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書は特に指定しません。授業中、適宜プリントを配布します。
(21)参考文献	<p>西尾真喜子著 『確率論』 (1978) 実教出版</p> <p>D. ウィリアムズ著；赤堀次郎、原啓介、山田俊雄共訳 『マルチンゲールによる確率論』 (2004) 培風館</p> <p>R. デュレット著；今野紀雄、中村和敬、曾雌隆洋、馬霞訳 『確率過程の基礎』 (2012) 丸善出版</p>
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（演習・レポートなど）：100%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	主に黒板を使用して解説する講義を行います。また不定期にレポート課題を出します。
(25)留意点・予備知識	「論理・集合・写像」、「確率・統計入門」、「統計学」の講義を履修していることが望ましい。
(26)オフィスアワー	金曜12：00～15：30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	初回講義内でお知らせします。
(28)その他	特になし。

教育学部

(1)整理番号	322
(2)区分番号	322
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	情報数学 (Numerical Calculation)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等 (小・数学サブコース) ・初等中等 (中コース数学) ・特支 (中コース数学) : 必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 7・8時限
(10)担当教員 (所属)	○田中 義久 (教育学部) ・上山 健太 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル1
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○LaTeXやGeogebraを使いこなせるようになること (見通す力)
(15)授業の概要	<p>LaTeXは数式を含んだ文章を綺麗に書くためのソフトです。Geogebraは、基本作図の方法に基づいていますが、アニメーション機能があり、連続的に作図を繰り返すことができます。LaTeXやGeogebraを使えるようになることで、紙と鉛筆では手に負えない面倒な処理・計算・可視化をコンピュータで行うことができるようになります。</p> <p>このようなことは、自身の素養になるという意識を持つとともに、教師の演示のための道具としての活用だけでなく生徒の探求の道具としての活用につながるという意識を持つことが大切です。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 LaTeXによる数学文章作成 (1) LaTeXで文章を書く (上山)</p> <p>第2回 LaTeXによる数学文章作成 (2) 簡単な数式を書く (上山)</p> <p>第3回 LaTeXによる数学文章作成 (3) 複雑な数式を書く (上山)</p> <p>第4回 LaTeXによる数学文章作成 (4) テスト作成 (上山)</p> <p>第5回 LaTeXによる数学文章作成 (5) 解答作成 (上山)</p> <p>第6回 Geogebraによる包絡線の作図 (田中)</p> <p>第7回 Geogebraによる作図と数学的な探求 (田中)</p> <p>第8回 Geogebraによる三角形の五心の作図 (田中)</p> <p>第9回 Geogebraによる三角形の五心に関する数学的な探求 (1) (田中)</p> <p>第10回 Geogebraによる軌跡：二次関数の係数変化 (田中)</p> <p>第11回 Geogebraによる軌跡の描写と数学的な探求 (田中)</p> <p>第12回 Geogebraによる観覧車の軌跡 (田中)</p> <p>第13回 Geogebraによる観覧車の軌跡に関する数学的な探求 (田中)</p> <p>第14回 Geogebraによる軌跡：3次元 (田中)</p> <p>第15回 Geogebraによる空間上の軌跡と数学的な探求 (田中)</p>

	受講者の反応によって内容、進度に変更になる可能性があります。変更する場合には、その都度説明します。
(17)準備学習 (予習・復習)等の内容	それまでに説明された内容について十分理解し、応用できる状態まで復習してから、講義に臨むよう心がけてください。
(18)学問分野 1(主学問分野)	情報科学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	幾何学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	特に指定しません。
(21)参考文献	LaTeX、Geogebraはインターネットで検索すると、多くの参考文献を見つけることができますので、必要であれば参照してください。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への参加度（30%）、レポート（70%）により成績評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義した内容を基に、実際にコンピュータを操作してもらうという形で進めます。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	上山：月曜日16:00～18:00、教育学部棟3-65 田中：金曜日16:00～17:30、教育学部棟3-1
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	Eメールアドレス（上山）： k-ueyama@hirosaki-u.ac.jp Eメールアドレス（田中）： yotanaka@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	323
(2)区分番号	323
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	数学基礎A (Fundamentals of Mathematics A)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日 3・4時限
(10)担当教員(所 属)	上山 健太(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベ ル)	レベル1
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具 体的到達目標	○行列の演算、連立一次方程式の解法、行列式の計算、対角化など、行列やベクトルに関する基礎的な計算ができるようになること(見通す力)
(15)授業の概要	線形代数は、自然や社会における線形現象を数理的に解析する上で土台となるものです。この講義では、線形代数への導入として、行列やベクトルの計算の基礎を学習します。
(16)授業の内容予定	<p>第1回：ガイダンス 第2回：行列の和、差、定数倍 第3回：行列の積 第4回：行列の積の性質 第5回：テスト(1)と連立一次方程式 第6回：行基本変形 第7回：連立一次方程式の掃き出し法 第8回：連立一次方程式の掃き出し法の応用 第9回：テスト(2)と行列式 第10回：行列式の計算 第11回：行列式の性質 第12回：行列式の応用 第13回：テスト(3)とベクトルの一次独立 第14回：固有値と固有ベクトル 第15回：対角化 第16回：振り返りとテスト(4)</p> <p>受講者の反応によって内容、進度が変更になる可能性があります。変更する場合には、その都度説明します。</p>
(17)準備学習(予 習・復習)等の内容	毎回の講義の内容を復習し、自分で納得するまで考えてください。特に、手を動かして具体的な例を計算することで理論への理解が深まります。また、前回の講義でどのようなことを学習したか覚えている状態で講義に参加するようにしてください。

	復習しても理解できなかった点はできる限り早く質問に来るなどして、溜めないようにしてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	代数学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	浅芝秀人『基礎課程 線形代数』(2013) 培風館
(21)参考文献	二木昭人『基礎講義 線形代数学』(1999) 培風館
(22)成績評価方法及び採点基準	4回のテスト(各25%)により成績評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	板書で講義を行います。
(25)留意点・予備知識	<p>高校数学の知識をほとんど仮定しません。文系の学生にとっても内容が理解できる講義にするつもりです。その代わりに、この講義内で習ったことをしっかり復習してください。</p> <p>今後、教育学部の数学の講義を履修する予定の方は必ず受講してください。この講義の知識が前提となります。</p>
(26)オフィスアワー	月曜日16:00~18:00、教育学部棟3-65
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	Eメールアドレス: k-uevama@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	324
(2)区分番号	324
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	数学基礎B (Fundamentals of Mathematics B)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日 5・6時限
(10)担当教員(所属)	伊藤 成治(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル1
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○1変数関数の微分・積分の考え方を理解し、基礎的な計算ができるようになること(見通す力)
(15)授業の概要	高等学校で学んだ微分積分学の延長として、1変数関数の微分・積分の具体的な計算方法を学びます。
(16)授業の内容予定	第1回: ガイダンス 第2回: 数列の極限、関数の極限 第3回: 初等関数について 第4回: 導関数とその計算、高次導関数 第5回: 平均値の定理とその応用 第6回: 不定形の極限とロピタルの定理 第7回: テイラーの定理、関数のテイラー展開 第8回: 第2回から第7回の振返りと到達度確認テスト 第9回: 定積分の定義、不定積分と原始関数 第10回: 初等関数の原始関数 第11回: 広義積分、定積分の近似値 第12回: 積分の応用(面積) 第13回: 積分の応用(曲線の長さ) 第14回: 積分の応用(回転体の体積と回転面の面積) 第15回: 第9回から第14回の振返りと到達度確認テスト 授業の進行状況等により、内容が変更になる場合があります。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	毎回の講義の内容を復習し、必ず関連する問題を解いてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	解析学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	中村哲男・今井秀雄・清水悟著『基礎微分積分学Ⅰ 1変数の微積分』(共立出版)
(21)参考文献	ガイダンスで紹介します。

(22)成績評価方法及び採点基準	到達度確認テストの結果で評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	板書で行います。
(25)留意点・予備知識	教育学部の数学の講義を履修する予定の方は必ず受講してください。この講義の知識が前提となります。
(26)オフィスアワー	ガイダンスでお知らせします。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	sitoh@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし。

教育学部

(1)整理番号	325
(2)区分番号	325
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	数学演習 A (Mathematics Seminar A)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 5・6時限
(10)担当教員(所属)	石戸谷 公直(非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル1
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○線形代数概論で学んだことに対し、計算や証明ができるようになること(解決する力)
(15)授業の概要	問題を解いたり、具体例を作ってみることで、線形代数概論で学んだ内容を理解してもらう。
(16)授業の内容予定	第1回 ガイダンス 第2回 ベクトルの和・差・実数倍、ベクトルの成分 第3回 ベクトルの1次独立と1次従属、ベクトルの内積と外積 第4回 行列の和・差・実数倍、行列の積 第5回 逆行列、行列の基本変形と逆行列、行列の多項式 第6回 行列式の展開 第7回 逆行列と行列式、クラメールの公式 第8回 連立1次方程式の逆行列を用いた解法 第9回 連立1次方程式の掃き出し法を用いた解法 第10回 階段行列と階数 第11回 連立1次方程式の解の存在と階数 第12回 合成変換と逆変換 第13回 いろいろな1次変換 第14回 固有値と固有ベクトル 第15回 行列の対角化、期末試験 ただし授業の進行状況等により内容が異なる場合があります。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習：線形代数概論で学んだことを見直してきてください。 復習：レポート問題は十分時間をかけて取り組んでください。
(18)学問分野1(主学問分野)	代数学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特になし。

(21)参考文献	適宜、授業の中で紹介する。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（毎行われる確認テストの成績）50% 期末評価（15回目に行う試験の成績）50% 上記を合算して成績評価を行う。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	主に授業時間中に配布する問題を解いて、黒板で発表してもらう形で進める。
(25)留意点・予備知識	「数学基礎A」「論理・集合・写像」を履修していること。 「線形数学概論」を同時履修していること。
(26)オフィスアワー	なし。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし。
(28)その他	特になし。

教育学部

(1)整理番号	326
(2)区分番号	326
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	数学演習B (Mathematics Seminar B)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 7・8時限
(10)担当教員(所属)	石戸谷 公直(非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○微分積分概論で学んだことに対し、計算や証明ができるようになること(解決する力)
(15)授業の概要	問題を解いたり、具体例を作ってみることで、微分積分概論で学んだ内容を理解してもらう。
(16)授業の内容予定	第1回 ガイダンス 第2回 導関数の定義 第3回 基本的な関数の導関数 第4回 平均値の定理、不定形の極限 第5回 多項式近似 第6回 級数展開 第7回 平面曲線 第8回 定積分の定義と性質 第9回 置換積分法、部分積分法 第10回 有理関数の積分 第11回 無理関数の積分 第12回 初等超越関数の積分 第13回 広義積分 第14回 定積分の応用 第15回 振り返り なお、授業の進行状況等により内容が異なる場合があります。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習：微分積分概論で学んだことを見直してきてください。 復習：レポート問題は十分時間をかけて取り組んでください。
(18)学問分野1(主学問分野)	解析学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特になし。
(21)参考文献	適宜、授業の中で紹介する。

(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（毎行われる確認テストの成績）50% 期末評価（15回目に行う試験の成績）50% 上記を合算して成績評価を行う。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	主に授業時間中に配布する問題を解いて黒板で発表してもら う形で進める。
(25)留意点・予備知識	「数学基礎B」「論理・集合・写像」「微分積分概論」を履修 していること。
(26)オフィスアワー	なし。
(27)Eメールアドレス・HPアド レス	なし。
(28)その他	特になし。

教育学部

(1)整理番号	327
(2)区分番号	327
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	数学演習C (Mathematics Seminar C)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 7・8時限
(10)担当教員(所属)	石戸谷 公直(非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○偏微分・重積分で学んだことに対し、計算や証明ができるようになること(解決する力)
(15)授業の概要	問題を解いたり、具体例を作ってみることで、偏微分・重積分で学んだ内容を理解してもらう。
(16)授業の内容予定	<p>第1回 ガイダンス 第2回 ユークリッド空間の位相、連続関数 第3回 偏導関数 第3回 高階偏導関数 第4回 全微分 第5回 合成関数の微分 第6回 極値 第7回 逆関数定理と陰関数定理 第8回 条件付き極値問題 第9回 積分の定義と性質 第10回 累次積分 第11回 変数変換 第12回 広義積分 第13回 立体の体積、積分記号下での微分積分 第14回 線積分、面積分 第15回 平面曲線、包絡線</p> <p>なお授業の進行状況等により内容が異なる場合があります。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習: 偏微分・重積分で学んだことを見直してきてください。 復習: レポート問題は十分時間をかけて取り組んでください。
(18)学問分野1(主学問分野)	解析学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
	-

(19)実務経験のある教員による授業科目について	
(20)教材・教科書	特になし。
(21)参考文献	適宜、授業の中で紹介する。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（毎回行われる確認テストの成績）50% 期末評価（15回目に行う試験の成績）50% 上記を合算して成績評価を行う。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	主に授業時間中に配布する問題を解いて、黒板で発表してもらう形で進める。
(25)留意点・予備知識	「数学基礎A」「数学基礎B」「論理・集合・写像」「微分積分概論」「線形代数概論」「変換と幾何学」を履修していること。 「偏微分・重積分」を同時履修していること。
(26)オフィスアワー	なし。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし。
(28)その他	特になし。

教育学部

(1)整理番号	328
(2)区分番号	328
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	基礎物理学I (Fundamentals of Physics I)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等（小・理科サブコース）、初等中等（中コース理科）・特支（中コース理科）：必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 5・6時限
(10)担当教員（所属）	山本 逸郎（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル1～2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○力学に関する物理量や基本法則を使って、さまざまな運動を考察できるようになること
(15)授業の概要	力学 I 質点系の力学に関する内容を学ぶ。 講義・演習・演示実験を通して物理量や法則を理解し、式のもつ物理的意味を考えていく。
(16)授業の内容予定	力学 I（質点の運動）8回 1回目 ガイダンス、速度と加速度、等速直線運動、等加速度直線運動 2回目 自由落下、垂直投げ上げ、水平投射、斜方投射 3回目 力のつりあい（合力・分解）、重さと質量 4回目 ニュートンの運動の3法則 5回目 摩擦力、抵抗力（空気抵抗、粘性抵抗）、浮力とアルキメデスの原理 6回目 仕事とエネルギー、仕事の原理、力学的エネルギー保存則 7回目 運動量と力積、運動量保存則、反発係数 8回目 試験及び解説 授業の進行状況等により内容が変わる場合がある。
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	予習：教科書の次の内容に関する箇所を読んでおくこと。 復習：授業内容に関する教科書の問題を解けるようにする。 予習・復習は、最低でも各1時間以上行う必要がある。
(18)学問分野1(主学問分野)	エネルギー学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	高校の物理学の教科書を用意すること。

(21)参考文献	山下芳樹編：「物理の学び」徹底理解 力学・熱力学・波動編 (ミネルヴァ書房、2,800円+税)
(22)成績評価方法及び採点基準	試験結果：100%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義・演習
(25)留意点・予備知識	前半の基礎化学 I に引き続いて開講
(26)オフィスアワー	月から金の12時から12時半まで
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	itsuro@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	なし

教育学部

(1)整理番号	329
(2)区分番号	329
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	基礎物理学II (Fundamentals of Physics II)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等（中コース理科）・特支（中コース理科）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日 3・4時限
(10)担当教員（所属）	○山本 逸郎（教育学部）・佐藤 松夫（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル1～2
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	○電磁気学及び波動に関する物理量や基本法則を使って、電気や波・音・光に関するさまざまな現象を考察できるようになること
(15)授業の概要	電磁気学 I と波動 電磁気学及び波動に関する物理学の内容を習得する。 講義・演習・演示実験を通して物理量や法則を理解し、式のもつ物理的意味を考えていく。
(16)授業の内容予定	電磁気学 I（担当：佐藤松夫）8回 1回目 マクスウェル方程式 2回目 静電場条件 3回目 電場 4回目 ガウスの法則 5回目 クーロンの法則 6回目 電位 7回目 静電容量、コンデンサー 8回目 電流と抵抗、直流回路、試験 波動（担当：山本逸郎）8回 1回目 ガイダンス、波を表す物理量、縦波と横波、波の独立性と重ね合わせの原理、定常波、固定端と自由端 2回目 波の干渉、波の回折、ホイヘンスの原理 3回目 音の物理量、音の3要素、音の反射と屈折、音の干渉とうなり 4回目 弦の振動、気柱の振動、共振・共鳴、ドップラー効果 5回目 光速、光の反射と屈折、全反射、光のスペクトル、光の散乱、偏光 6回目 凸レンズと凹レンズ、凹面鏡と凸面鏡 7回目 ヤングの実験、回折格子、薄膜による干渉 8回目 試験及び解説 授業の進行状況等により内容が変わる場合がある。
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	（山本担当分） 予習：教科書の次の内容に関する箇所を読んでおくこと。 復習：授業内容に関する教科書の問題を解けるようにする。 予習・復習は、最低でも各1時間以上行う必要がある。

	(佐藤担当分) 予習は必要なし。 復習に力を入れ、次回の授業にあいまいな事項や疑問点を持ち越さないようにする。宿題をする以外に復習には最低でも2時間以上をかけること。
(18)学問分野1(主学問分野)	エネルギー学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	高校の物理学の教科書を用意すること。
(21)参考文献	(佐藤担当分) バーガー、オルソン「電磁気学I」 砂川重信「理論電磁気学」 (山本担当分) 山下芳樹編：「物理の学び」徹底理解 力学・熱力学・波動編（ミネルヴァ書房、2,800円＋税） 他は、授業の中で提示する。
(22)成績評価方法及び採点基準	試験結果：100%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義・演習
(25)留意点・予備知識	基礎物理学Iを履修しておくこと。
(26)オフィスアワー	月から金の12時から12時半まで
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	山本： itsuro@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	なし

教育学部

(1)整理番号	330
(2)区分番号	330
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	基礎物理学実験 (Laboratory Work in Elemental Physics)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（小・理科サブコース）、初等中等（中コース理科）・特支（中コース理科）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	【午前クラス】木曜日 1-4時限 【午後クラス】木曜日 5-8時限
(10)担当教員（所属）	○山本 逸郎（教育学部）・佐藤 松夫（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2~3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○単に実験の物理学的内容を理解するだけでなく、教師の視点で実験を考察できる能力を習得すること
(15)授業の概要	基礎物理学実験 物理学（力学、電磁気学、波・音・光）に関する種々の基礎的な実験を行う。 単に実験の物理学的内容を理解するだけでなく、教師の視点で実験を考察できる能力の育成を目指す。
(16)授業の内容予定	基礎物理学実験 ○力学に関する実験4回 1回目 自由落下 2回目 運動の法則 3回目 運動量保存則 4回目 単振り子 ○熱力学に関する実験1回 5回目 比熱 ○波・音・光に関する実験3回 6回目 弦の振動 7回目 気柱の共鳴 8回目 レンズの性質 ○電磁気に関する実験4回 9回目 等電位と電気力線 10回目 白熱電球の特性 11回目 電池の起電力と内部抵抗 12回目 RC回路（コンデンサーの充放電） ○物理シミュレーション1回 13回目 Maximaによる数式処理 ○その他 14回目 未定 15回目 未定 順番および実験テーマは変わる場合がある。
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	予習：次回の実験テーマのテキストを読んでおくだけでなく、関係する物理の内容も勉強しておく。 復習：毎回、実験レポートを提出。必要に応じて実験レポート

	の再提出もある。 予習には1時間以上、実験レポートの作成には最低でも半日以上かけること。
(18)学問分野1(主学問分野)	エネルギー学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	実験テキストを配布する。 高校の物理学の教科書を用意すること。
(21)参考文献	授業の中で提示する。
(22)成績評価方法及び採点基準	実験に取り組む姿勢・実験レポートの内容等で総合的に評価する。 ただし、全ての実験を全て行い、かつ、それらの実験レポートを提出した学生に単位を付与する。
(23)授業形式	実験
(24)授業形態・授業方法	実験。 原則として二人で1グループを構成する。
(25)留意点・予備知識	基礎物理学Ⅰ・基礎物理学Ⅱ・物理学概論Ⅰを履修しておくこと。 事前にガイダンスを行い、午前・午後のクラス分けをする。
(26)オフィスアワー	月から金の12時から12時半まで
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	山本： itsuro@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	なし

教育学部

(1)整理番号	331
(2)区分番号	331
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	物理学概論I (General Physics I)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース理科サブコース物理分野）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 5・6時限
(10)担当教員（所属）	○佐藤 松夫（教育学部）・山本 逸郎（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2～3
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○電磁気学及び力学に関する物理量や基本法則を使って、電磁気や力学に関するさまざまな現象を考察できるようになること
(15)授業の概要	電磁気学Ⅱと力学Ⅱ 電磁気学及び力学に関する物理学の内容を習得する。 講義・演習・演示実験を通して物理量や法則を理解し、式のもつ物理的意味を考えていく。
(16)授業の内容予定	電磁気学Ⅱ（担当：佐藤松夫）8回 1回目 ガイダンス、静磁場の方程式 2回目 ストークスの定理、アンペールの法則 3回目 ゲージ固定、ビオサバールの法則 4回目 電磁石 5回目 準定常電流、ファラデーの法則 6回目 交流回路 7回目 電磁波 8回目 試験 力学Ⅱ（担当：山本逸郎）8回 1回目 ガイダンス、向心力と慣性力 2回目 振り子・調和振動 3回目 剛体の重心と安定 4回目 剛体の慣性モーメント 5回目 トルクと回転運動エネルギー 6回目 転がり運動 7回目 ケプラーの法則と万有引力 8回目 試験及び解説 授業の進行状況等により内容が変わる場合がある。
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	（佐藤担当分） 予習は必要なし。 復習に力を入れ、次回の授業にあいまいな事項や疑問点を持ち越さないようにする。宿題をする以外に復習には最低でも2時間以上をかけること。 （山本担当分）

	<p>予習：教科書の次の内容に関する箇所を読んでおくこと。 復習：授業内容に関する教科書の問題を解けるようにする。 予習・復習は、最低でも各1時間以上行う必要がある。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	エネルギー学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	高校の物理学の教科書を用意すること。
(21)参考文献	<p>(佐藤担当分) バーガー、オルソン「電磁気学I」 砂川重信「理論電磁気学」 (山本担当分) 山下芳樹編：「物理の学び」徹底理解 力学・熱力学・波動編（ミネルヴァ書房、2,800円＋税）</p> <p>他は、授業の中で提示する。</p>
(22)成績評価方法及び採点基準	試験結果：100%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義・演習
(25)留意点・予備知識	基礎物理学Ⅰ・基礎物理学Ⅱを履修しておくこと。
(26)オフィスアワー	月から金の12時から12時半まで
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	山本： itsuro@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	なし

教育学部

(1)整理番号	332
(2)区分番号	332
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	物理学概論II (General Physics II)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日 5・6時限
(10)担当教員(所属)	佐藤松夫(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	○現代物理学の基礎である統計力学、量子力学の初歩を習得し、基礎法則とそこから導かれる物理的意味を理解すること
(15)授業の概要	現代物理学の基礎(統計力学、量子力学)について講義を行う。また、現代物理学の最前線の素粒子論、超弦理論についても概説する。 1) 素粒子論、超弦理論の概説 2) 統計力学の基礎、温度、エントロピー、カノニカル分布 3) プランク分布・仮説、光電効果の説明、ポーア・ゾンマーフェルトの量子化条件、ド・ブロイ波 4) シュレーディンガー方程式 5) 1次元系の解、トンネル効果 6) 3次元系の解、水素原子
(16)授業の内容予定	授業計画 第1回: 素粒子論、超弦理論の概説 第2回: 統計力学の基礎 第3回: 温度、エントロピー、カノニカル分布 第4回: プランク分布・仮説 第5回: 光電効果の説明、ポーア・ゾンマーフェルトの量子化条件、ド・ブロイ波 第6回: 自由粒子のシュレーディンガー方程式 第7回: シュレーディンガー方程式 第8回: シュレーディンガー方程式の一般的性質 第9回: 不確定性関係 第10回: 古典極限 第11回: 1次元系の解 第12回: トンネル効果 第13回: 3次元系の解 第14回: 水素原子 第15回: 電子軌道 定期試験
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習は必要なし。 宿題をする以外に復習に力を入れ、次回の授業にあいまいな事項や疑問点を持ち越さないようにする。

(18)学問分野1(主学問分野)	素粒子関連
(18)学問分野2(副学問分野)	宇宙物理学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	原子核関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	長岡洋介 「統計力学」 猪木慶治、川合光 「量子力学I」
(22)成績評価方法及び採点基準	試験80%、授業に取り組む姿勢・レポート等20%。 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義。授業内容に関するレポートを適宜提出。
(25)留意点・予備知識	力学、電磁気学を習得していることが望ましい。
(26)オフィスアワー	月から金の12時から12時30分
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	授業で指示する。
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	333
(2)区分番号	333
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	物理学実験 (Laboratory Work in Physics)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース理科）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員（所属）	○山本 逸郎（教育学部）・佐藤 松夫（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	○卒論に向けた物理学の基本的実験技術及び考察能力を習得すること
(15)授業の概要	物理学実験 基礎物理学ⅠⅡ・基礎物理学実験・物理学概論ⅠⅡで学んだ内容をベースに、さらに進んだ内容の物理学に関する実験に取り組む。
(16)授業の内容予定	1つの実験テーマに一ヶ月・二ヶ月かけて取り組む。 具体的な内容は、実際に担当する教員と相談して決める。 物理学Ⅰと内容を連動させる場合もある。
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	予習：必要な場合は、授業の中で指示する。 復習：実験テーマ毎に実験レポートを提出。 予習・復習は、十分な時間をかけて取り組むこと。
(18)学問分野1(主学問分野)	エネルギー学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	授業の中で提示する。
(21)参考文献	授業の中で提示する。
(22)成績評価方法及び採点基準	実験に取り組む姿勢・実験レポートの内容・発表の内容等で総合的に評価する。

(23)授業形式	実験
(24)授業形態・授業方法	実験
(25)留意点・予備知識	基礎物理学ⅠⅡ・基礎物理学実験・物理学概論ⅠⅡ・物理学Ⅰを履修しておくこと。 2人の担当教員が別々に開講するので、物理に所属する学生は自分の指導教員の分を受講すること。それ以外の学生は、予め希望する教員に相談すること。 時間割上は集中で開講するが、原則、授業期間内の学生の空きコマに実施する。
(26)オフィスアワー	月から金の12時から12時半まで
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	山本： itsuro@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	なし

教育学部

(1)整理番号	334
(2)区分番号	334
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	物理学実験法 (Experimental Physics, Methodology)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース理科サブコース物理分野）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員（所属）	○山本 逸郎（教育学部）・佐藤 松夫（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○卒論に向けた物理学の基本的実験技術及び考察能力を習得すること
(15)授業の概要	物理学実験法 基礎物理学ⅠⅡ・基礎物理学実験・物理学概論ⅠⅡで学んだ内容をベースに、さらに進んだ内容の物理学に関する実験に取り組む。
(16)授業の内容予定	1つの実験テーマに一ヶ月・二ヶ月かけて取り組む。 具体的な内容は、実際に担当する教員と相談して決める。 物理学Ⅱと内容を連動させる場合もある。
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	予習：必要な場合は、授業の中で指示する。 復習：実験テーマ毎に実験レポートを提出。 予習・復習は、十分な時間をかけて取り組むこと。
(18)学問分野1(主学問分野)	エネルギー学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	授業の中で提示する。
(21)参考文献	授業の中で提示する。
(22)成績評価方法及び採点基準	実験に取り組む姿勢・実験レポートの内容・発表の内容等で総合的に評価する。

(23)授業形式	実験
(24)授業形態・授業方法	実験
(25)留意点・予備知識	基礎物理学ⅠⅡ・基礎物理学実験・物理学概論ⅠⅡ・物理学実験・物理学ⅠⅡを履修しておくこと。 2人の担当教員が別々に開講するので、物理に所属する学生は自分の指導教員の分を受講すること。それ以外の学生は、予め希望する教員に相談すること。 時間割上は集中で開講するが、原則、授業期間内の学生の空きコマに実施する。
(26)オフィスアワー	月から金の12時から12時半まで
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	山本： itsuro@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	なし

教育学部

(1)整理番号	335
(2)区分番号	335
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	物理学I (Physics I)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所属)	○山本 逸郎・佐藤 松夫(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○卒論に向けて必要な物理学の学力を習得すること
(15)授業の概要	物理学 I 基礎物理学 I II・基礎物理学実験・物理学概論 I IIの内容を踏まえ、さらに専門的に発展させた物理学を学ぶ。
(16)授業の内容予定	具体的な内容は、実際に担当する教員と相談して決定する。 物理学実験と内容を連動させる場合もある。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習：次の回の内容をしっかりと予習してくる。 予習には、数時間かけて取り組むこと。
(18)学問分野1(主学問分野)	エネルギー学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	授業の中で提示する。
(21)参考文献	授業の中で提示する。
	予習の内容・授業に取り組む姿勢等で総合的に評価する。

(22)成績評価方法及び採点基準	
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	ゼミ・演習
(25)留意点・予備知識	基礎物理学ⅠⅡ・基礎物理学実験・物理学概論ⅠⅡ・物理学実験を履修しておくこと。 2人の担当教員が別々に開講するので、物理コースに所属する学生は自分の指導教員を受講すること。それ以外の学生は、予め希望する教員に相談すること。 時間割上は集中で開講するが、原則、授業期間内の学生の空きコマに実施する。
(26)オフィスアワー	月から金の12時から12時半まで
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	山本： itsuro@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	なし

教育学部

(1)整理番号	336
(2)区分番号	336
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	物理学II (Physics II)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所属)	○山本 逸郎・佐藤 松夫(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・ DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具 体的到達目標	○卒論に向けて必要な物理学の学力を習得すること
(15)授業の概要	物理学Ⅱ 基礎物理学ⅠⅡ・基礎物理学実験・物理学概論ⅠⅡの内容を踏ま え、さらに専門的に発展させた物理学を学ぶ。
(16)授業の内容予定	具体的な内容は実際に担当する教員と相談して決定する。 物理学実験法と内容を連動させる場合もある。
(17)準備学習(予習・ 復習)等の内容	予習: 次の回の内容をしっかりと予習してくること。 予習には、数時間かけて取り組むこと。
(18)学問分野1(主学 問分野)	エネルギー学関連
(18)学問分野2(副学 問分野)	-
(18)学問分野3(副学 問分野)	-
(19)実務経験のある教 員による授業科目につ いて	-
(20)教材・教科書	授業の中で提示する。
(21)参考文献	授業の中で提示する。
(22)成績評価方法及び 採点基準	予習の内容・授業に取り組む姿勢等で総合的に評価する。
(23)授業形式	講義

(24)授業形態・授業方法	ゼミ・演習
(25)留意点・予備知識	基礎物理学ⅠⅡ・基礎物理学実験・物理学概論ⅠⅡ・物理学Ⅰ・物理学実験・物理学実験法を履修しておくこと。 2人の担当教員が別々に開講するので、物理に所属する学生は自分の指導教員の分を受講すること。それ以外の学生は、予め希望する教員に相談すること。 時間割上は集中で開講するが、原則、授業期間内の学生の空きコマに実施する。
(26)オフィスアワー	月から金の12時から12時半まで
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	山本： itsuro@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	なし

教育学部

(1)整理番号	337
(2)区分番号	337
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	基礎化学I (Fundamentals of Chemistry I)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等（小・理科サブコース）、初等中等（中コース理科）・特支（中コース理科）：必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時間	月曜日 5・6時限
(10)担当教員（所属）	長南 幸安（教育学部）
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○原子の性質を電子配置と関連付けて考えられ、周期律(表)の成り立ちを理解すること（見通す力） ○児童・生徒に対して説明できるようになること（解決する力）
(15)授業の概要	無機化学の基礎 中学校理科粒子分野（旧 1分野）・高校化学基礎・化学（旧 化学I・II）における原子・分子・元素・周期表に関する化学的事項について、生徒に正確に理解させることが出来る基本的な知識の修得。
(16)授業の内容予定	原子の性質は原子内の電子の配置と振る舞いによって決まるということを理解し、この電子配置と周期律(表)との関係を学ぶ。また原子が結合し、分子となった場合のその構造と性質に与えている電子配置の影響について理解する。 講義テーマ （1）原子の構造（ボーア模型・量子数・原子軌道・電子配置・パウリの禁制原理・フントの規則・有効核電荷・遮蔽効果・イオン化エネルギー・電子親和力・電気陰性度） （2）周期律と周期表 講義予定内容 第1回 原子の構造モデル 第2回 量子数・パウリの禁制原理・フントの規則 第3回 有効核電荷・遮蔽効果 第4回 イオン化エネルギー 第5回 電子親和力

	第6回 電気陰性度 第7回 周期律 第8回 試験 (1回～7回)
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習：次回の講義テーマのテキスト内容を読み、ある程度自分なりに理解しておくこと。(90分) 復習：講義で学んだテーマについて教科書掲載の例題・演習問題を解き、理解の確認を行うこと。(90分)
(18)学問分野1(主学問分野)	無機・錯体化学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	「基本無機化学 第3版」荻野博他著(東京化学同人)
(21)参考文献	導入書として 「はじめて学ぶ大学の無機化学」三吉克彦著(化学同人) 「基礎無機化学」花田禎一著(サイエンス社) 「フレンドリー無機化学」小村照寿著(三共出版) より深く勉強したい人は 「基礎無機化学」コットン・ウィルキンソン・ガウス著；中原勝巖訳(培風館)
(22)成績評価方法及び採点基準	期末試験を主な判断材料とするが、授業への取り組み方・レポートなども参考とする。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式
(25)留意点・予備知識	化学概論II(無機化学と有機化学の基礎)・化学II(有機化学の基礎)・基礎化学II(物理化学の基礎)・化学概論I(物理化学の基礎)を受講することで中高校化学における無機化学・有機化学・物理化学分野の基礎を完全に修得できるシステムになっている。特に高校教員を目指す学生は上記4講義も受講すること。
(26)オフィスアワー	月～金 8:00～8:30

(27)Eメールアドレス・HPアドレス	E-mail: cho@hirosaki-u.ac.jp HPアドレス: http://siva.cc.hirosaki-u.ac.jp/rika/kagaku/chonan/index.html
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	338
(2)区分番号	338
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	基礎化学II (Fundamentals of Chemistry II)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等（中コース理科）・特支（中コース理科）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日 3・4時限
(10)担当教員（所属）	島田 透（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○気体・液体・固体の性質と化学熱力学について理解し、化学の基本的なこれらの原理・法則を児童・生徒に対して説明できるようになること（見通す力）
(15)授業の概要	物理化学の基礎 中学校理科・高校化学における物質の変化、物質の構造と状態に関する化学的事項について、生徒に正確に理解させることができる基本的な知識の修得
(16)授業の内容予定	<p>気体・液体・固体の性質と化学熱力学(エネルギー)について学び、化学の基本的な概念や原理・法則を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 気体 その性質と振舞い 2. 液体、固体と相変化 3. 化学熱力学 <p>第1回 ガイダンス 第2回 気体の圧力、気体の性質 第3回 分子の運動 第4回 実在気体 第5回 分子間力 第6回 液体の構造 第7回 固体の構造 第8回 系と内部エネルギー 第9回 エンタルピー 第10回 化学反応とエンタルピー 第11回 燃焼のエネルギー 第12回 熱力学的エントロピー 第13回 統計学的エントロピー 第14回 系と外界 第15回 ギブズエネルギー</p> <p>* 授業の進行状況や理解度等により内容が異なる場合がある。</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	予習：次回の講義範囲の教科書を読むことと、その範囲に含まれる問題演習を行うこと。 復習：講義終了後に、講義内容を再確認すること。

(18)学問分野1(主学問分野)	物理化学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	分析化学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	「アトキンス 一般化学（上）」渡辺 正 訳（東京化学同人）
(21)参考文献	より深く勉強したい人は 「アトキンス 物理化学(上・下)」P.W. Atkins著（東京化学同人） 「アトキンス 物理化学要論」P.W. Atkins著（東京化学同人） 「マッカーリ・サイモン 物理化学(下)」D.A. McQuarrie、J.D. Simon著（東京化学同人）
(22)成績評価方法及び採点基準	期末試験を主な判断材料とするが、授業への取り組み方・小テスト・レポートなども参考とする。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式
(25)留意点・予備知識	高校までの基本的な微分・積分、対数の基本的な知識は絶対に必要。
(26)オフィスアワー	適宜（メールにて確認のこと）
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	E-mail: tshimada@hirosaki-u. ac. jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	339
(2)区分番号	339
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	基礎化学実験 (Laboratory Work in Elemental Chemistry)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等（小・理科サブコース）、初等中等（中コース理科）・特支（中コース理科）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 3・4・5・6時限
(10)担当教員 (所属)	○長南 幸安（教育学部）・島田 透（教育学部）
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル3
(13)対応する CP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業とし ての具体的到達 目標	○実験器具や試薬の基礎的な取扱法を習得すること（解決していく力） ○基本的な理科実験教材が実施できるようになること（学び続ける力）
(15)授業の概 要	化学に関わる基礎的な実験 将来教師となった時に必要な化学実験に関わる基礎的な技術や教材を習得し、 実際に学校で実験のテーマ設定や実践が行えるような基礎学力を身に付ける。
(16)授業の内 容予定	前半は 物理化学系（島田）、後半は有機化学・無機化学系（長南）の順序 （予定）で基礎的な実験を行う。 有機化学・無機化学系実験テーマ（長南） 以下は予定テーマ 1) ガイダンス 2) ニトロ化反応 3) 金属錯体の合成I 4) 金属錯体の合成II 5) 放射線教育 6) 無機陽イオンの定性分析I 7) 無機陽イオンの定性分析II 8) 無機陽イオンの定性分析-未知試料 物理化学系実験テーマ（島田） 9) ガイダンス・分子モデリングについて 10) モデリングソフトの基本操作、分子構造と双極子モーメント 11) 立体配座の安定性、求電子のおよび求核的反応性 12) 振動計算 13) 凝固点降下の測定（束一的性質） 14) 医薬品の合成と赤外吸収スペクトルによる同定 15) 反応速度定数と活性化エネルギーの決定

(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	予習：次の回の実験テキストに目を通すだけでなく、実験結果を考察する際に必要となる事項（例えば、ねらい、方法、実験操作、注意事項など）を実験ノートにまとめておくこと。（30分） 復習：実験結果をまとめて、考察し、実験レポートとして提出する。（90分）
(18)学問分野 1(主学問分野)	物理化学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	分析化学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	有機化学関連
(19)実務経験 のある教員によ る授業科目につ いて	実務教員
(20)教材・教 科書	有機化学・無機化学系部分の実験書は 「基礎化学実験 第3版」東京大学教養学部化学部会編（東京化学同人） 物理化学系部分の実験書は、1回目のガイダンスで配布する。 実験ノートとして RESEARCH LAB（コクヨ・ノ-LBB205S）を使用する。 共通の実験手引書として 「イラストで見る化学実験の基礎知識 第3版」飯田隆他編（丸善）
(21)参考文献	実験書に記載されている文献
(22)成績評価 方法及び採点基 準	実験への取り組み方（実験操作・器具の取扱い方など）・レポート・実験ノートなどを総合的に評価
(23)授業形式	実験
(24)授業形 態・授業方法	オムニバス形式・一部集中演習
(25)留意点・ 予備知識	受講に際して、理科専修所属学生以外は「基礎化学I」を既得していることが必要である。 将来教師となった時に必要な、化学実験に関わる基礎的な技術や教材を習得し、実際に学校で実験のテーマ設定や実践が行えるような基礎学力を身に付ける。 そのためには、小・中・高校で行ってきた誰がやっても同じ結果や値が失敗なく出る実験ではなく、将来自分で実験などを企画できるように考察と工夫が必要な実験であることに注意すること。 実験ノートを準備すること。実験ノートは実験終了後に提出。 白衣（作業着）と保護眼鏡（保護ゴーグル）を各自用意すること。 10～12はCALL教室で行うため集中授業となる可能性が高い。 14および15は実験装置の関係で、受講生を2グループに分けて行う。このため、実施順番が逆になるグループがある。
(26)オフィス アワー	長南 月～金 8：00～8：30 島田 火 12：00～13：00

<p>(27)Eメールアドレス・HPアドレス</p>	<p>長南 E-mail: cho@hirosaki-u.ac.jp HPアドレス: http://siva.cc.hirosaki-u.ac.jp/rika/kagaku/chonan/index.html</p> <p>島田 E-mail: tshimada@hirosaki-u.ac.jp</p>
<p>(28)その他</p>	<p>放射線教育に関しては、民間の専門家をゲスト講師として招く。教育学部生涯教育課程地域生活専攻1年次必修の「地域自然環境基礎実験」の振り替え科目です。未習得の学生は受講してください。この場合、登録のコード番号は、「基礎化学実験」のコード番号ではなく「地域自然環境基礎実験」のコード番号で入力すること。詳細は教育学部の掲示板・ANETで確認して下さい。</p>

教育学部

(1)整理番号	340
(2)区分番号	340
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	化学概論I (General Chemistry I)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース理科サブコース化学分野）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日 3・4時限
(10)担当教員（所属）	島田 透（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○平衡、電気化学、化学反応速度論について理解し、化学の基本的なこれらの原理・法則を児童・生徒に対して説明できるようになること（見通す力）
(15)授業の概要	物理化学の基礎 中学校理科・高校化学における平衡、電池、電解質水溶液、反応の進み方、反応の速度に関する化学的事項について、生徒に正確に理解させることができる基本的な知識の修得
(16)授業の内容予定	化学平衡、電気化学、反応速度論について学び、化学の基本的な概念や原理・法則を理解する。 1. 物理平衡 2. 化学平衡 3. 水溶液内平衡（酸と塩基） 4. イオン平衡 5. 電気化学
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	予習：次回行う講義内容をテキストで確認し、問題演習を行うこと。 復習：講義終了後に、講義内容を再確認すること。
(18)学問分野1(主学問分野)	物理化学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	分析化学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-

(20)教材・教科書	「アトキンス 一般化学(下)」渡辺 正 訳(東京化学同人)
(21)参考文献	より深く勉強したい人は 「アトキンス 物理化学(上・下)」P.W. Atkins著(東京化学同人) 「アトキンス 物理化学要論」P.W. Atkins著(東京化学同人) 「マッカーリ・サイモン 物理化学(下)」D.A. McQuarrie、J.D. Simon 著(東京化学同人)
(22)成績評価方法及び採点基準	期末試験を主な判断材料とするが、授業への取り組み方・小テスト・レポートなども参考とする。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式
(25)留意点・予備知識	基礎化学Ⅱの知識は必要である。
(26)オフィスアワー	適宜(メールにて確認のこと)
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	E-mail: tshimada@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	341
(2)区分番号	341
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	化学概論II (General Chemistry II)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース理科）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日 1・2時限
(10)担当教員（所属）	長南 幸安（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○化学結合・無機化合物・有機化合物に関して理解する（見通す力） ○化学の基本的なこれらの原理・法則を児童・生徒に対して説明できるようになること（解決する力）
(15)授業の概要	無機化学および有機化学の基礎 中学校理科粒子分野（旧1分野）・高校化学基礎・化学（旧化学I・II）における化学結合・無機化合物・有機化合物に関する化学的事項について、生徒に正確に理解させることができる基本的な知識の修得
(16)授業の内容予定	化学結合・無機化合物・有機化合物について学び、化学の基本的な概念や原理・法則を理解する。 講義テーマ （1）化学結合（イオン結合・イオン半径・共有結合・混成軌道・電子対反発則・分子軌道・双極子・金属結合） （2）無機化学（典型元素・遷移元素・金属錯体など） （3）有機化学（官能基・脂肪族・芳香族・構造異性体・立体異性体など） 第1回 共有結合・オクテット則 第2回 分子軌道 第3回 同核二原子分子 第4回 異核二原子分子 第5回 電子対反発則 第6回 金属結合 第7回 イオン結合・イオン半径 第8回 中間テスト（1回～7回）＋まとめ

	第9回 金属錯体の構造 第10回 金属錯体の反応 第11回 脂肪族の命名法 第12回 芳香族の命名法 第13回 構造異性体 第14回 立体異性体 (幾何) 第15回 立体異性体 (光学) 第16回 期末テスト (9回～15回)
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	予習：次回行う講義内容をテキストで確認しておくこと。小テストの内容を学習すること。(90分) 復習：講義終了後に、講義内容を再確認すること。(90分)
(18)学問分野1(主学問分野)	無機・錯体化学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	有機化学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	無機化学に関して 「基本無機化学 第3版」荻野博他著 (東京化学同人) (1年次「基礎化学I」で使用したテキスト)
(21)参考文献	導入書として 「はじめて学ぶ大学の無機化学」三吉克彦著 (化学同人) 「基礎無機化学」花田禎一著 (サイエンス社) 「フレンドリー無機化学」小村照寿著 (三共出版) より深く勉強したい人は 「基礎無機化学」コットン・ウィルキンソン・ガウス著；中原勝儼訳 (培風館)
(22)成績評価方法及び採点基準	毎回行う小テスト40点・中間テスト30点・期末試験30点で評価する。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式
(25)留意点・予備知識	受講には 化学概論Iを履修していることが必要である。 基礎化学I (無機化学の基礎) ・化学II (有機化学の基礎) ・基礎化学II (物理化学の基礎) ・化学概論I (物理化学の基礎)を受講することで中高校化学におけ

	る無機化学・有機化学・物理化学分野の基礎を完全に修得できるシステムになっている。特に高校教員を目指す学生は上記4講義も受講すること。
(26)オフィスアワー	月～金 8:00～8:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	E-mail: cho@hirosaki-u.ac.jp HPアドレス: http://siva.cc.hirosaki-u.ac.jp/rika/kagaku/chonan/index.html
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	342
(2)区分番号	342
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	化学実験 (Laboratory Work in Chemistry)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日 7・8・9・10時限
(10)担当教員 (所属)	○長南 幸安 (教育学部) ・ 島田 透 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル4
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○応用的な化学実験技術の習得すること (解決していく力)
(15)授業の概要	応用化学実験
(16)授業の内容予定	<p>応用化学実験。実験内容は受講者のレベルに合わせて変更調整するため、詳細は受講者と相談して決定する。</p> <p>第1回 ガイダンス・実験テーマの決定 第2回～14回 実験 (具体的な内容やスケジュールはガイダンス時に履修希望者の能力・興味・関心等を鑑みて、履修希望者と協議の上、決定) 第15回 事後指導</p>
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	<p>予習：次の回の実験テキストに目を通すだけでなく、実験結果を考察する際に必要となる事項 (例えば、ねらい、方法、実験操作、注意事項など) を実験ノートにまとめておくこと。(90分)</p> <p>復習：実験結果をまとめて、考察し、実験レポートとして提出する。(90分)</p>
(18)学問分野 1(主学問分野)	物理化学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	分析化学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	有機化学関連

(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	実験書などは追って配付する。
(21)参考文献	イラストで見る化学実験の基礎知識」飯田隆他編（丸善） 実験書に記載されている文献
(22)成績評価方法及び採点基準	実験への取り組み方・レポート・実験ノートなどを総合的に評価
(23)授業形式	実験
(24)授業形態・授業方法	オムニバス形式
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	島田 火 12:00~13:00 長南 月~金 8:00~8:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	島田 E-mail: tshimada@hirosaki-u.ac.jp 長南 E-mail: cho@hirosaki-u.ac.jp HPアドレス: http://siva.cc.hirosaki-u.ac.jp/rika/kagaku/chonan/index.html
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	343
(2)区分番号	343
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	化学実験法I (Experimental Chemistry, Methodology I)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース理科サブコース化学分野）：必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 5・6時限
(10)担当教員 (所属)	○長南 幸安（教育学部）・島田 透（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル4
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○中学校における化学教材について、基礎的な知識を習得すること（解決していく力） ○実際に中学校で実践できる程度の力を持つこと（学び続ける力）
(15)授業の概要	化学実験の実践指導法 化学実験の教材を学び、予備実験を行い、生徒指導の実践の場として「基礎化学実験」の準備および実験指導を行う。
(16)授業の内容 予定	実験書に従って実験を行うだけでなく、自分が「基礎化学実験」の授業において、指導する立場で実験の準備、実験方法の工夫・改善などを行う。 前半は物理化学系、後半は有機化学・無機化学系の基礎的な実験を行う。 ガイダンス時に実験の内容とスケジュールを協議して決定する。 第1回 ガイダンス 第2回～14回 実験（具体的な内容やスケジュールはガイダンス時に履修希望者の能力・興味・関心等を鑑みて、履修希望者と協議の上、決定） 第15回 事後指導
(17)準備学習 (予習・復習)等 の内容	予習：次の回の実験テキストに目を通すだけでなく、実験指導時に必要となる事項（例えば、ねらい、方法、実験操作、注意事項など）を確認しておくこと。（90分） 復習：実験指導内容を考察すること。（90分）
(18)学問分野 1(主学問分野)	物理化学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	分析化学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	有機化学関連

(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	追って配付する
(21)参考文献	イラストで見る化学実験の基礎知識」飯田隆他編（丸善） 実験書に記載されている文献
(22)成績評価方法及び採点基準	実験への取り組み方・レポート・実験ノートなどを総合的に評価
(23)授業形式	実験
(24)授業形態・授業方法	「基礎化学実験」の準備・予備実験および指導法の確立
(25)留意点・予備知識	「基礎化学実験」における各実験の目的・方法を十分に理解し、考察についても指導できるようにする。 「基礎化学実験」を出来れば履修しておくことが望ましい。
(26)オフィスアワー	長南 月～金 8:00～8:30 島田 火 12:00～13:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	長南 E-mail: cho@hirosaki-u.ac.jp HPアドレス: http://siva.cc.hirosaki-u.ac.jp/rika/kagaku/chonan/index.html 島田 E-mail: tshimada@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	344
(2)区分番号	344
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	化学実験法II (Experimental Chemistry, Methodology II)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース理科サブコース化学分野）：必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 7・8時限
(10)担当教員 (所属)	○長南 幸安（教育学部）・島田 透（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル4
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○高等学校における化学教材について、基礎的な知識を習得すること（解決していく力） ○実際に高等学校で実践できる程度の力を持つこと（学び続ける力）
(15)授業の概要	化学実験の実践指導法 化学実験の教材を学び、予備実験を行い、生徒指導の実践の場として「基礎化学実験」の準備および実験指導を行う。
(16)授業の内容 予定	実験書に従って実験を行うだけでなく、自分が「基礎化学実験」の授業において、指導する立場で実験の準備、実験方法の工夫・改善などを行う。 前半は物理化学系、後半は有機化学・無機化学系の基礎的な実験を行う。 ガイダンス時に実験の内容とスケジュールを協議して決定する。 第1回 ガイダンス 第2回～14回 実験（具体的な内容やスケジュールはガイダンス時に履修希望者の能力・興味・関心等を鑑みて、履修希望者と協議の上、決定） 第15回 事後指導
(17)準備学習 (予習・復習)等 の内容	予習：次の回の実験テキストに目を通すだけでなく、実験指導時に必要となる事項（例えば、ねらい、方法、実験操作、注意事項など）を確認しておくこと。（90分） 復習：実験指導内容を考察すること。（90分）
(18)学問分野 1(主学問分野)	物理化学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	分析化学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	有機化学関連

(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	追って配付
(21)参考文献	イラストで見る化学実験の基礎知識」飯田隆他編（丸善） 実験書に記載されている文献
(22)成績評価方法及び採点基準	実験への取り組み方・レポート・実験ノートなどを総合的に評価
(23)授業形式	実験
(24)授業形態・授業方法	「基礎化学実験」の準備・予備実験および指導法の確立
(25)留意点・予備知識	「基礎化学実験」における各実験の目的・方法を十分に理解し、考察についても指導できるようにする。 「基礎化学実験」を出来れば履修しておくことが望ましい。
(26)オフィスアワー	長南 月～金 8:00～8:30 島田 火 12:00～13:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	長南 E-mail: cho@hirosaki-u.ac.jp HPアドレス: http://siva.cc.hirosaki-u.ac.jp/rika/kagaku/chonan/index.html 島田 E-mail: tshimada@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	345
(2)区分番号	345
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	化学I (Chemistry I)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 1・2時限
(10)担当教員(所属)	島田 透(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的な到達目標	○分光学を理解することで、原子・分子の構造や性質を、児童・生徒に対してより深く説明できるようになること(見通す力)
(15)授業の概要	物理化学の発展(量子化学の基礎) 中学校理科・高校化学・物理における原子・分子の構造と性質に関する化学的事項について、生徒に深く理解させることができる発展的な知識の修得
(16)授業の内容予定	さまざまな分光手法の原理と、それらによりどのような情報が得られるかを理解する。(必要に応じて、量子化学の基本事項についても適宜取り扱う。) 第1回 ガイダンス、分光学とは 第2回 水素原子の発光スペクトル 第3回 多電子原子の発光スペクトル 第4回 電子吸収スペクトル 第5回 分子の発光スペクトル 第6回 ラマン散乱スペクトルと分子振動 第7回 ラマン散乱スペクトルと分子の形 第8回 赤外吸収スペクトルと分子振動 第9回 赤外吸収スペクトルの応用 第10回 赤外吸収スペクトルと分子間相互作用 第11回 振動回転スペクトル 第12回 回転スペクトルと分子の形 第13回 回転スペクトルと核スピン 第14回 電子スピン共鳴スペクトル 第15回 核磁気共鳴スペクトル * 授業の進行状況等により内容が異なる場合がある
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	復習: 講義終了後に、講義内容を再確認すること。
(18)学問分野1(主学問分野)	物理化学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	分析化学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	なし
(21)参考文献	本講義で必要となる量子化学の基本知識を学ぶものとして「量子化学 基本の考え方16章」中田宗隆著（東京化学同人）
(22)成績評価方法及び採点基準	期末レポートと授業への取り組み方により評価する。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式（受講者数によっては一部演習形式）
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	適宜（メールで問い合わせること）。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	E-mail: tshimada@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	346
(2)区分番号	346
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	化学II (Chemistry II)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日 1・2時限
(10)担当教員(所属)	長南 幸安 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル4
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的な到達目標	○有機化合物における電子の偏りや局在・非局在について理解すること（見通す力） ○酸・塩基の定義と強弱を決める因子について理解すること（見通す力）
(15)授業の概要	有機化学の基礎である有機電子論（化学結合様式・分極・I効果・R効果・共鳴）を学び、酸・塩基を具体的な例として取り上げ理解を深める。有機電子論を通じたものの考え方を学ぶ。
(16)授業の内容予定	第1回 ガイダンス 第2回 共鳴・R効果（M効果） 第3回 分極・I効果 第4回 反応中間体（カルボカチオン） 第5回 反応中間体（カルボアニオン） 第6回 求核置換反応（SN1） 第7回 求核置換反応（SN2） 第8回 中間試験（1回～7回）＋まとめ 第9回 求核的付加反応 第10回 求電子的付加反応 第11回 脱離反応（E2） 第12回 脱離反応（E1） 第13回 芳香族置換反応（求電子的） 第14回 芳香族置換反応（求核的） 第15回 合成高分子 第16回 期末試験（9回～15回）

(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習：講義内容をテキストで確認しておくこと。(90分) 復習：講義終了後に、講義内容を再確認すること。(90分)
(18)学問分野1(主学問分野)	有機化学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	追って通知する
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	試験を主な判断材料とするが、授業への取り組み方なども参考とする。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式
(25)留意点・予備知識	基礎化学I(無機化学の基礎)・化学概論II(無機化学と有機化学の基礎)・基礎化学II(物理化学の基礎)・化学概論I(物理化学の基礎)を受講することで中高校化学における無機化学・有機化学・物理化学分野の基礎を完全に修得できるシステムになっている。特に高校教員を目指す学生は上記4講義も受講すること
(26)オフィスアワー	月～金 8:00～8:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	E-mail: cho@hirosaki-u.ac.jp HPアドレス: http://siva.cc.hirosaki-u.ac.jp/rika/kagaku/chonan/index.html
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	347
(2)区分番号	347
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	基礎生物学I (Fundamentals of Biology I)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等（小・理科サブコース）、初等中等（中コース理科）・特支（中コース理科）：必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜 7・8時限
(10)担当教員（所属）	大高 明史（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	○小学校と中学校の教科書に登場する主要な生物群について、体作りの基本を理解すること（見通す力） ○生物を教材として利用する際の視点を持つこと（学び続ける力）
(15)授業の概要	小学校と中学校の教科書に登場する主要な生物群について、体作りの基本を説明できるようになる。大学で生物学を深く学ぶための基礎知識を身につける。
(16)授業の内容予定	第1回 形を読む：比較形態学の方法 第2回 被子植物のかたち（花の進化） 第3回 被子植物のかたち（花と果実の関係） 第4回 節足動物のかたち 第5回 脊椎動物のからち 1. 脊椎動物の起源 第6回 脊椎動物のかたち 2. 魚類と四足動物 第7回 ヘテロクローニーとヒトの進化
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	参考文献などを使って、あらかじめ講義内容の概要を把握しておくこと。
(18)学問分野1(主学問分野)	細胞レベルから個体レベルの生物学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	個体レベルから集団レベルの生物学と人類学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	テキストは指定しない。プリント教材を配付する。
	キャンベル生物学、丸善

(21)参考文献	
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（授業への参加度や質疑応答のレベル。全体の20%） レポート（全体の40%） 試験（全体の40%） 上を合算して成績評価を行います。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式、一部観察や演習を含む。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	月曜日 9・10時限
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ohataka@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	348
(2)区分番号	348
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	基礎生物学II (Fundamentals of Biology II)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等（中コース理科）・特支（中コース理科）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 5・6時限
(10)担当教員 (所属)	岩井 草介（教育学部）
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル1～3
(13)対応する CP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業とし ての具体的到達 目標	○細胞・タンパク質・遺伝現象など、分子生物学・生化学の土台となる知識を習得すること（見通す力） ○分子生物学の基礎的な概念を習得すること（見通す力） ○代謝・生殖・発生・進化などの基本的な生命現象を理解すること（見通す力）
(15)授業の概 要	この講義では、まず細胞・タンパク質・遺伝現象など、分子生物学・生化学の土台となる知識を学んでから、遺伝情報の伝達と発現を中心に、分子生物学の基本的な概念を学びます。さらにそれらの知識に基づいて、生物のエネルギー獲得法や生殖・発生・進化などのさまざまな生命現象を学びます。
(16)授業の内 容予定	1. ガイダンス、生物とは（イントロダクション） 2. 細胞 3. タンパク質と酵素 4. 遺伝情報(1) 遺伝子の発見 5. 遺伝情報(2) DNAと複製 6. 遺伝情報(3) 転写・翻訳 7. 遺伝情報(4) 発現制御・遺伝子の変異 8. 生物とエネルギー(1) 呼吸 9. 生物とエネルギー(2) 光合成 10. 細胞分裂と生殖 11. 発生 12. 進化(1) 証拠・しくみ 13. 進化(2) 系統 14. 演習 15. 試験と解説 授業の進行状況によっては、内容は変更されることがあります。
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	[予習] 高校の生物教科書や図表などの該当する箇所を読んでおく。 [復習] 参考文献を用いて、不明の点については理解を完全にする。また興味を持った内容についてはさらに知識を深める。

(18)学問分野 1(主学問分野)	分子レベルから細胞レベルの生物学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	個体レベルから集団レベルの生物学と人類学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	生体の構造と機能関連
(19)実務経験 のある教員によ る授業科目につ いて	-
(20)教材・教 科書	教科書は特になし。毎回プリントを配布する。
(21)参考文献	「ニューステージ新生物図表」(浜島書店)、Reece他「キャンベル生物学」(丸善)、Alberts他「細胞の分子生物学」(ニュートンプレス)、Lodish他「分子細胞生物学」(東京化学同人)など、他にも授業中に適宜紹介する(図書館で閲覧可能)
(22)成績評価 方法及び採点基 準	平常評価(授業への参加度、講義に対する意見・感想など):20% 期末評価(期末試験):80% 上記を合算して最終的な評価を行います。
(23)授業形式	講義
(24)授業形 態・授業方法	配付資料を説明しながら講義を進める。随時プロジェクタを用いる。
(25)留意点・ 予備知識	特になし
(26)オフィス アワー	水曜日14:00~16:00
(27)Eメールア ドレス・HPア ドレス	iwai-so@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	349
(2)区分番号	349
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	基礎生物学実験 (Laboratory Work in Elemental Biology)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等 (小・理科サブコース) ・初等中等 (中コース理科) ・特支 (中コース理科) : 必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日 7・8・9・10時限
(10)担当教員 (所属)	岩井草介 (教育学部) ・大高明史 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル1~3
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具 体的到達目標	○基礎的な生物学習で行われる観察・実験に習熟すること (見通す力) ○生物観察・実験の授業での扱い方についての研究能力を身につけること (解決していく力)
(15)授業の概要	基礎的な生物学習の中で取り扱われる生物を主な材料として、その生物学的特性の基本を理解し、実験の留意点について実際の観察・実験を通して学習する。
(16)授業の内容予定	1. ガイダンス (岩井・大高) /刺激と反応 (岩井) 2. 顕微鏡の原理と操作 (岩井) 3. レーウエンフックの単レンズ顕微鏡による生物観察 (大高) 4. 真核細胞の観察 (植物・動物・藻類) (岩井) 5. 細胞分裂の観察/菌類と細菌の観察 (岩井) 6. 酵素のはたらき/アルコール発酵 (岩井) 7. 植物の運動と生殖 (原形質流動・花粉管の観察) (岩井) 8. 光合成 (デンプンの検出・色素の分離) (岩井) 9. 校庭の植物観察 (春編) (大高) 10. 植物の腊葉標本の作製 (大高) 11. 葉と茎の組織観察 (大高) 12. 唾腺染色体の観察 (大高) 13. カエルの初期発生 (大高) 14. 動物の解剖 (大高) 15. 池のプランクトンの観察 (大高・岩井) 授業の進行状況、天候、材料の入手状況等により、順番や内容は変更されることがあります。
(17)準備学習 (予習・ 復習) 等の内容	[予習] 高校の生物教科書や図表などの該当する箇所を読んでおく。 [復習] 毎回の実験でレポートの提出が求められます。レポート作成の際は以下の点に必ず取り組むこと。 ・各実験で扱われた生物学上の原理や重要用語に習熟する。 ・各実験の授業での扱い方について考察する。 ・実験の結果が予想と異なっていた場合は、その理由を考察する。
(18)学問分野1(主学問 分野)	細胞レベルから個体レベルの生物学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	分子レベルから細胞レベルの生物学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	個体レベルから集団レベルの生物学と人類学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	必携参考書（準教科書）として、以下を指定する。 「ニューステージ新生物図表」（浜島書店） また適宜、プリントを配布する。
(21)参考文献	授業中、適宜指示する。
(22)成績評価方法及び採点基準	毎回レポートの提出を求め、それらの総合的な評価によって評価する。実験への参加態度を加味する。 実験レポート：80% 授業への参加態度：20%
(23)授業形式	実験
(24)授業形態・授業方法	室内での実験を中心とします。野外での観察・採集がある場合もあります。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	岩井草介：水曜日14:00～16:00 大高明史：月曜日16:00～18:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	iwai-so@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	350
(2)区分番号	350
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	生物学概論I (General Biology I)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース理科サブコース生物分野）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 3・4時限
(10)担当教員（所属）	大高明史（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての 具体的到達目標	○ 生物界に見られる多様性を、系統進化の観点から説明できること（見通す力） ○ 生物間相互作用の仕組みとそ働きを説明できること（見通す力）
(15)授業の概要	地球上に生息する生物は長い時間をかけた進化の産物である。この授業では生物の多様性を理解する枠組みとして進化理論と系統分類学を学ぶとともに、生物群集の多様性を生み出した生物間相互作用について学習する。
(16)授業の内容予定	第1回 校庭の植物観察（秋編） 第2回 種とは何か 第3回 生物の種数 第4回 生物の大分類の変遷 第5回 自然淘汰による進化 第6回 自然淘汰を伴わない進化 第7回 生物の命名法 第8回 系統樹の推定法 第9回 系統と分類 第10回 生物多様性のものさし 第11回 生物の生活型 第12回 食物連鎖と生態系ピラミッド 第13回 共生と寄生 第14回 生物間のケミカルコミュニケーション 第15回 生物多様性の保全
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	参考文献などを使って、あらかじめ講義内容の概要を把握しておくこと。
(18)学問分野 1(主学問分野)	細胞レベルから個体レベルの生物学関連
	個体レベルから集団レベルの生物学と人類学関連

(18)学問分野 2(副学問分野)	
(18)学問分野 3(副学問分野)	分子レベルから細胞レベルの生物学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	テキストは指定しない。プリント教材を配付する。
(21)参考文献	『キャンベル生物学』（丸善出版） 長谷川真理子『進化とはなんだろうか（岩波ジュニア新書）』（岩波書店） 鷲谷いづみ『<生物多様性>入門（岩波ブックレット）』（岩波書店）
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（授業への参加度や質疑応答のレベル、全体の20%） レポート（全体の40%） 試験（全体の40%） 上を合算して成績評価を行います。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式、一部観察や演習を含む。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	月曜日 9・10時限
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ohtaka@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	351
(2)区分番号	351
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	生物学概論II (General Biology II)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース理科）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 3・4時限
(10)担当教員 (所属)	岩井 草介（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2～3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての 具体的到達目標	○さまざまな生命現象を分子や細胞のレベルで理解すること（見通す力）
(15)授業の概要	この講義では、さまざまなレベルの興味深い生命現象について、遺伝子やタンパク質などの生体分子、あるいは細胞をもとに説明します。
(16)授業の内容 予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 放射線とその人体への影響 2. 原核生物とウイルス 3. 遺伝学から分子生物学へー研究の歴史 4. 真核生物の遺伝子 5. タンパク質の一生 6. バイオテクノロジーー遺伝子組換え技術を中心に 7. 消化系・呼吸系・循環系 8. 免疫系 9. 神経系(1)ニューロンと興奮 10. 神経系(2)受容器 11. 神経系(3)記憶・学習・行動 12. 生体運動ー筋収縮・繊毛運動を中心に 13. 個体群と群集 14. 進化(1)血縁選択・性選択 15. 進化(2)分子進化 授業の進行状況によっては、内容は変更されることがあります。
(17)準備学習 (予習・復習)等 の内容	[予習] 高校の生物教科書や図表などの該当する箇所を読んでおく。 [復習] 参考文献を用いて、不明の点については理解を完全にする。また興味を持った内容についてはさらに知識を深める。
(18)学問分野 1(主学問分野)	細胞レベルから個体レベルの生物学関連

(18)学問分野 2(副学問分野)	分子レベルから細胞レベルの生物学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	個体レベルから集団レベルの生物学と人類学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書は特になし。毎回プリントを配布する。
(21)参考文献	「ニューステージ新生物図表」(浜島書店)、Reece他「キャンベル生物学」(丸善)、Alberts他「細胞の分子生物学」(ニュートンプレス)、Lodish他「分子細胞生物学」(東京化学同人)など(図書館で閲覧可能)、また副読本を適宜紹介する。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価(授業への参加度、講義に対する意見・感想など):20% 期末評価(期末レポート):80% 上記を合算して最終的な評価を行います。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	配付資料を説明しながら講義を進める。随時プロジェクタを用いる。
(25)留意点・予備知識	本科目を履修するには、高校生物または教育学部「基礎生物学II」などを既に履修していることが望ましい。
(26)オフィスアワー	水曜日 14:00~16:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	iwai-so@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	352
(2)区分番号	352
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	野外実習I (Field Work in Biology I)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所 属)	大高 明史(教育学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベ ル)	レベル3
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての 具体的到達目標	○湖沼の環境と生物群集の関係を理解すること(見通す力) ○野外における生物調査の方法や危険の回避法を習得すること(解決する力)
(15)授業の概要	白神山地・津軽十二湖湖沼群の数湖沼を対象にして、湖内環境の観測とプランクトン類の採集を行います。実験室で湖水の分析とプランクトン類の観察を行い、湖水環境とプランクトン類の関係を考察します。
(16)授業の内容予 定	第1回～第5回 津軽十二湖湖沼群の現地調査(湖沼観測とプランクトン採集) 第6回～第10回 データ分析とプランクトン観察 第11回～第15回 発表とレポート作成 内容は天候などにより変更することがあります。
(17)準備学習(予 習・復習)等の内 容	教科書を事前に読んで、調査湖沼の概要を理解して実習に臨むこと。
(18)学問分野1(主 学問分野)	個体レベルから集団レベルの生物学と人類学関連
(18)学問分野2(副 学問分野)	細胞レベルから個体レベルの生物学関連
(18)学問分野3(副 学問分野)	環境保全対策関連
(19)実務経験のあ る教員による授業 科目について	-
	大高明文『ブナの森の湖沼群』(2012・弘前大学出版会)

(20)教材・教科書	
(21)参考文献	花里孝幸『ミジンコはすごい！（岩波ジュニア新書532）』（2006・岩波書店）
(22)成績評価方法及び採点基準	実習時の取り組みと、レポートや発表の内容から総合的に判断します。
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	野外実習と室内実験
(25)留意点・予備知識	履修希望者は、履修登録前に、個別に大高へ連絡してください。 雨具や長靴など、野外調査に適した服装と装備が必要です。 学生傷害保険に加入のこと。
(26)オフィスアワー	月曜日 9・10時限
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ohataka@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	353
(2)区分番号	353
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	生物学実験 (Laboratory Work in Biology)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日 7・8時限
(10)担当教員(所属)	○大高 明史(教育学部)・岩井 草介(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○実験で使用する生物の特徴を理解すること(見通す力) ○顕微鏡や実験器具類の操作法を理解すること(見通す力) ○生物観察の方法を習得すること(学び続ける力)
(15)授業の概要	動物や植物、微生物などを使った実験について、実験を行う生物の基本的特性を理解し、実験上の留意点について実際の観察・実験を通して学習する。
(16)授業の内容予定	1. ガイダンス 2. 遺伝子(1)大腸菌のプラスミドDNA抽出(岩井) 3. 遺伝子(2)DNAの電気泳動(岩井) 4. 遺伝子(3)大腸菌の形質転換(岩井) 5. 土壌微生物の培養と観察(岩井) 6. 植物と共生(シロツメクサの根粒菌と菌根菌の観察)(岩井) 7. 藻類と光合成(アオミドロ・クラミドモナスの観察)(岩井) 8. 原生動物の細胞と生理(ミドリゾウリムシの観察)(岩井) 9. 植生調査の方法(大高) 10. 昆虫採集の方法(大高) 11. 動物の組織切片の作成(上皮組織)(大高) 12. 動物の組織切片の作成(結合組織)(大高) 13. 動物の組織切片の作成(筋組織)(大高) 14. 動物の組織切片の作成(精巣)(大高) 15. 動物の組織切片の作成(腎臓)(大高) 以上の内容は変更されることがあります。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	実験・観察を行う生物の形態や生理の特性の概要を、参考文献などを使ってあらかじめ把握しておくこと。
(18)学問分野1(主学問分野)	分子レベルから細胞レベルの生物学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	細胞レベルから個体レベルの生物学関連
	個体レベルから集団レベルの生物学と人類学関連

(18)学問分野3(副学問分野)	
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	テキストは指定しない。
(21)参考文献	プリント教材を配付する。
(22)成績評価方法及び採点基準	実験ごとにレポートを求め、それらの総合的な評価によって判定する。
(23)授業形式	実験
(24)授業形態・授業方法	実験が主体となるが、講義や文献講読も交える。
(25)留意点・予備知識	内容に関する理解を深めるために、「生物学実験法I(3年次前期・木曜9・10限)」と連動して行う。このため、「生物学実験法I」と同時に履修すること。
(26)オフィスアワー	火曜 9・10限
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ohataka@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	時間が余分にかかることがあります。

教育学部

(1)整理番号	354
(2)区分番号	354
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	生物学実験法I (Experimental Biology, Methodology I)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース理科サブコース生物分野）：必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜 9・10時限
(10)担当教員（所属）	○大高 明史（教育学部）・岩井 草介（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○実験で使用する生物の特徴を理解すること（見通す力） ○顕微鏡や実験器具類の操作法を理解すること（見通す力） ○生物観察の方法を習得すること（学び続ける力）
(15)授業の概要	さまざまな生物について、その生物学的特性を理解するとともに、観察・実験の計画立案、準備、実施について体験的に学習する。
(16)授業の内容予定	1. ガイダンス 2. 遺伝子(1)大腸菌のプラスミドDNA抽出（岩井） 3. 遺伝子(2)DNAの電気泳動（岩井） 4. 遺伝子(3)大腸菌の形質転換（岩井） 5. 土壌微生物の培養と観察（岩井） 6. 植物と共生（シロツメクサの根粒菌と菌根菌の観察）（岩井） 7. 藻類と光合成（アオミドロ・クラミドモナスの観察）（岩井） 8. 原生動物の細胞と生理（ミドリゾウリムシの観察）（岩井） 9. 植生調査の方法（大高） 10. 昆虫採集の方法（大高） 11. 動物の組織切片の作成（上皮組織）（大高） 12. 動物の組織切片の作成（結合組織）（大高） 13. 動物の組織切片の作成（筋組織）（大高） 14. 動物の組織切片の作成（精巣）（大高） 15. 動物の組織切片の作成（腎臓）（大高） 以上の内容は実施例であり、変更されることがあります。
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	実験・観察を行う生物の形態や生理の特性の概要を、参考文献などを使ってあらかじめ把握しておくこと。
(18)学問分野1(主学問分野)	分子レベルから細胞レベルの生物学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	細胞レベルから個体レベルの生物学関連

(18)学問分野3(副学問分野)	個体レベルから集団レベルの生物学と人類学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	テキストは指定しない。プリント教材を配付する。
(21)参考文献	授業中に紹介する。
(22)成績評価方法及び採点基準	実験ごとにレポートを求め、それらの総合的な評価によって判定する。
(23)授業形式	実験
(24)授業形態・授業方法	実験が主体となるが、講義や文献講読も交える。
(25)留意点・予備知識	内容に関する理解を深めるために、「生物学実験法I（3年次前期・木曜9・10限）」と連動して行う。このため、「生物学実験法I」と同時に履修すること。
(26)オフィスアワー	月曜 9・10限
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ohataka@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	355
(2)区分番号	355
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	生物学実験法II (Experimental Biology, Methodology II)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース理科サブコース生物分野）：必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 5・6時限
(10)担当教員（所属）	○大高 明史（教育学部）・岩井 草介（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	○生物の特性に応じた実験や観察を行うことができるようになること（学び続ける力） ○実験や観察の結果を適切にまとめ、考察ができるようになること（解決していく力）
(15)授業の概要	動物や植物、微生物を使った実験・観察を行う。また結果のまとめ方や解析の手法について、具体的な実験観察を通して学ぶ。
(16)授業の内容予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. ニワトリの心臓の解剖・ヒトの心音の検出（岩井） 3. ダンゴムシの行動（岩井） 4. 酵素のはたらき（カタラーゼ）（岩井） 5. PCRによる遺伝子の検出(1)ヒトDNAの抽出とPCR（岩井） 6. PCRによる遺伝子の検出(2)PCR産物の電気泳動（岩井） 7. 筋肉の電気刺激・精子の観察（ホタテガイ）（岩井） 8. グリセリン筋の収縮（ホタテガイ）（岩井） 9. プランクトンの観察（大高） 10. 河川底生動物の分類（1）（大高） 11. 河川底生動物の分類（2）（大高） 12. 軟体動物の解剖（大高） 13. 環形動物の解剖（大高） 14. 節足動物の解剖（大高） 15. 脊椎動物の解剖（大高） <p>以上の内容は実施例であり、変更されることがあります。</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	実験・観察を行う生物の特性について、文献などを使ってあらかじめ把握しておくこと。
(18)学問分野1(主学問分野)	分子レベルから細胞レベルの生物学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	細胞レベルから個体レベルの生物学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	個体レベルから集団レベルの生物学と人類学関連
	-

(19)実務経験のある教員による授業科目について	
(20)教材・教科書	特に指定しない。
(21)参考文献	授業中に紹介する。
(22)成績評価方法及び採点基準	実験ごとにレポートを求め、それらの総合的な評価によって判定する。
(23)授業形式	実験
(24)授業形態・授業方法	実験と演習が主体となる。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	月曜日 9・10時限
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ohataka@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	時間が余分にかかることがあります。

教育学部

(1)整理番号	356
(2)区分番号	356
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	生物学I (Biology I)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜 5・6時限
(10)担当教員(所属)	大高 明史(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○生物学の未履修の分野について理解を深めること(見通す力) ○生物学における疑問の解決法を知ること(解決していく力)
(15)授業の概要	教科書(ケイン基礎生物学)を使って、これまでに学習していない生物学の諸分野について理解をはかる。同時に関連する文献を収集して理解を深める。
(16)授業の内容予定	第1回目 ガイダンス 受講者の学習履歴を勘案して扱う章を決める。以下は暫定案。 第2回目 ケイン基礎生物学 第1章 生命と自然科学 小テスト 第3回目 同 第1章 生命と自然科学 小テスト 第4回目 同 第3章 生物の分類群 小テスト 第5回目 同 第4章 生命体を作る物質 小テスト 第6回目 同 第7章 エネルギーと酵素 小テスト 第7回目 同 第9章 細胞分裂 小テスト 第8回目 同 第11章 染色体とヒトの遺伝学 小テスト 第9回目 同 第14章 遺伝子発現の制御 小テスト 第10回目 同 第15章 DNAテクノロジー 小テスト 第11回目 同 第16章 進化の仕組み 小テスト 第12回目 同 第17章 集団の進化 小テスト 第13回目 同 第18章 適応と種分化 小テスト 第14回目 同 第20章 生物間の相互作用 小テスト 第15回目 同 第25章 地球規模の変化 小テスト 第16回目 総合討論
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	次週に扱う章について、教科書をあらかじめ読んで内容を把握する。また、学習した章については、章末問題を解けるようにする。
(18)学問分野1(主学問分野)	分子レベルから細胞レベルの生物学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	細胞レベルから個体レベルの生物学関連
	個体レベルから集団レベルの生物学と人類学関連

(18)学問分野3(副学問分野)	
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	ケイン基礎生物学、東京科学同人
(21)参考文献	授業中に指示する。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業中の質疑応答のレベルと毎回の小テストで判定する。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	質疑応答が主体となる演習形式
(25)留意点・予備知識	履修者のこれまでの履修状況を勘案して内容を変更する。
(26)オフィスアワー	月曜日 9・10時限
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ohataka@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	357
(2)区分番号	357
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	野外実習II (Field Work in Biology II)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所属)	大高 明史(教育学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○水生生物の種類や生態を学ぶこと(見通す力) ○野外における生物調査の方法を習得すること(解決する力) ○野外での危険の回避法を習得すること(解決する力)
(15)授業の概要	河川、池沼、海洋にでの水生生物の調査と観察を通して、生物群集の多様性を理解する。
(16)授業の内容予定	野外調査と室内での観察からなる。 1. 河川生物の採集と観察(5回) 2. 池沼生物の採集と観察(5回) 3. 海洋生物の採集と観察(5回)
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	調査を行う場所の特性について、あらかじめ調べておくこと。 どのような生物が採集されるか予想し、採集道具を用意すること。
(18)学問分野1(主学問分野)	個体レベルから集団レベルの生物学と人類学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	水圏応用科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	細胞レベルから個体レベルの生物学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特に指定しない。
(21)参考文献	実習時に指示する。
(22)成績評価方法及び採点基準	実習時の取り組みと、レポートや発表の内容から総合的に判断します。
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	野外での実習と実験室での観察。
(25)留意点・予備知識	履修希望者は、履修登録前に、個別に大高へ連絡してください。 実習場所は履修希望者と相談のうえで決定します。 学生傷害保険に加入のこと。 野外での活動に適した服装と装備が必要です。

(26)オフィスアワー	月曜日9・10時限
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ohataka@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	358
(2)区分番号	358
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	野外実習III (Field Work in Biology III)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所 属)	大高 明史(教育学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベ ル)	レベル3
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具 体的到達目標	○調査によって植物群集の構造を把握すること(見通す力) ○調査場所間でデータを比較し特徴をまとめること(解決する力) ○野外での危険の回避法の習得すること(解決する力)
(15)授業の概要	異なる山での植生調査によって、それぞれの植物群集の特徴を把握するとともに、植生の成立を環境要因と関連させて理解します。
(16)授業の内容予定	現地での植生調査(同定作業を含む)と室内でのまとめを繰り返します。 岩木山(4回分) 八甲田山(4回分) 白神山地(4回分) まとめと考察(3回分)
(17)準備学習(予 習・復習)等の内容	実習を行う場所や対象生物は前もって連絡します。予定されている地域や生物の特徴について、ガイドブックや図鑑類などを用いてある程度の知識を得ておくことが必要です。
(18)学問分野1(主学 問分野)	個体レベルから集団レベルの生物学と人類学関連
(18)学問分野2(副学 問分野)	森林圏科学関連
(18)学問分野3(副学 問分野)	細胞レベルから個体レベルの生物学関連
(19)実務経験のある 教員による授業科目 について	-
(20)教材・教科書	特に指定しない。

(21)参考文献	実習時に指示する。図鑑類を含む。
(22)成績評価方法及び採点基準	実習時の取り組みと、レポートや発表の内容から総合的に判断します。
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	野外における観察実習が主体となります。
(25)留意点・予備知識	履修希望者は、履修登録前に、個別に大高へ連絡すること。雨具や長靴など、野外調査に適した服装と装備が必要になる。学生傷害保険に加入のこと。
(26)オフィスアワー	月曜日9・10時限
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ohataka@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	359
(2)区分番号	359
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	基礎地学I (Fundamentals of Earth Science I)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等（小・理科サブコース），初等中等（中コース理科）・特支（中コース理科）：必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 7・8時限
(10)担当教員 (所属)	鎌田 耕太郎（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル1～2
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての 具体的到達目標	○中学校理科免許や高校理科免許を取得する上で基礎となる、中学校・高等学校理科地学領域の初歩的な知識を習得すること（見通す力）
(15)授業の概要	宇宙の中での地球、太陽系の中での水惑星としての地球について概観する。地球誕生を反映した地球の内部構造や、内部物質の移動に関わるブルームやプレート運動に至る仕組みについて学習し、水が豊富で生命を育む環境について理解を深める。
(16)授業の内容 予定	1. 地球の誕生と惑星地質学 2. 付加体の形成の仕組みとその特徴 3. 堆積作用と地層の形成 4. 生物進化と化石（古生物） 5. 大型脊椎動物化石 6. 火山噴火と火山災害 7. 気候変動と自然環境の変遷 8. まとめ 授業の進行状況などにより、内容は変更されることがあります。
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	宇宙や太陽系の中における地球という惑星の基本的特徴について学習するので、身の回りの環境への関心を深め、地球史や気候変動について図書館等での関連図書を参考とした学習を勧めます。
(18)学問分野 1(主学問分野)	地球惑星科学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-

(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書は使用されません。授業中に適宜プリントが配布されます。
(21)参考文献	参考文献は必要に応じて講義の中で紹介されます。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（授業への参加度、レポートなど）：20% 期末評価（期末試験）：80% 上記を合算して最終的な評価を行います。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	パワーポイントによる説明を主とし、参考資料としてプリントを配布します。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	理科教育講座講座委員の教員に問い合わせること。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	理科教育講座講座委員の教員に問い合わせること。
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	360
(2)区分番号	360
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	基礎地学II (Fundamentals of Earth Science II)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等（中コース理科）・特支（中コース理科）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 1・2時限
(10)担当教員（所属）	○大高 明史（教育学部）・鎌田 耕太郎（非常勤講師）・佐藤 松夫（教育学部）・石田 祐宣（理工学部）・小菅 正裕（理工学部）・佐々木 実（理工学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2～3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○中学校理科免許や高校理科免許を取得する上で必要な中学校・高等学校理科地学領域各分野の基礎的な知識を習得すること（見通す力）
(15)授業の概要	中学校・高等学校理科地学領域を構成する天文、気象、地震、火山、岩石・鉱物、地質・古生物分野について、基礎を学ぶ。
(16)授業の内容予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 岩石(1) (鎌田) 2. 岩石(2) (鎌田) 3. 鉱物(1) (鎌田) 4. 鉱物(2) (鎌田) 5. 地質(1) (鎌田) 6. 地質(2) (鎌田) 7. 古生物(1) (鎌田) 8. 古生物(2) (鎌田) 9. 天文 (佐藤) 10. 気象(1) (石田) 11. 気象(2) (石田) 12. 地震(1) (小菅) 13. 地震(2) (小菅) 14. 火山(1) (佐々木) 15. 火山(2) (佐々木) 授業の進行状況や担当教員の他業務などによって、順番や内容は変更されることがあります。
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	高校地学を履修していない学生は参考書等で地学全般を予習しておくこと。その他は授業で指示する。
(18)学問分野1(主学問分野)	地球惑星科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	天文学関連

(18)学問分野3(副学問分野)	防災工学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	授業で指示する。
(21)参考文献	授業で紹介する。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への参加度、レポート、ミニ試験などを合算して最終的な評価を行います。 授業の進行状況などにより、評価方法は変更されることがあります。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	主に講義形式で行う。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	月曜日 9・10時限
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ohataka@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	361
(2)区分番号	361
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	基礎地学実験 (Laboratory Work in Elemental Earth Science)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（小・理科サブコース）・初等中等（中コース理科）・特支（中コース理科）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員（所属）	鎌田 耕太郎（非常勤講師）
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度（レベル）	レベル1～3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○地学に関する調査や実験を実施するための方法や技術の基礎を習得すること（見通す力、解決する力）
(15)授業の概要	地形図と地質図の活用や図学、ルートマップ及び地質柱状図の作成、空中写真判読、火山の登山ルート沿いの岩石や地形の観察、堆積構造に関する実験、天体観測などを行う。
(16)授業の内容予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 地形図のしくみ 3. 地形図の使い方 4. 地質図のしくみ 5. 地質図の見方と使い方 6. 空中写真判読の方法 7. 地形面形成解析 8. 火山の野外調査(地形) 9. 火山の野外調査(岩石) 10. 火山の野外調査(テフラ) 11. 堆積構造に関する実験 12. 地形の観察（環境教育演習と合同） 13. 植物・動物の観察（環境教育演習と合同） 14. 地質・岩石の観察（環境教育演習と合同） 15. 天体観測 <p>授業の進行状況や天候などによって、内容や順番は変更されることがあります。</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	<p>[予習] 日頃から新聞やテレビによる地球科学分野の報道に注意し、関心を持つこと。青森県内外の地層や岩石、鉱物、化石の情報を調べておくこと。</p> <p>[復習] テーマごとにレポートの提出が求められます。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	地球惑星科学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	天文学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書は使用されません。授業中に必要な資料が配布されます。
(21)参考文献	狩野謙一「野外地質調査の基礎」(古今書院) 青森県地学教育研究会「青森の自然をたずねて」(築地書館)
(22)成績評価方法及び採点基準	授業での取り組みの姿勢、テーマごとに提出するレポートの内容、実験に際して行われる質疑応答の内容などを合算して最終的な評価を行います。
(23)授業形式	実験
(24)授業形態・授業方法	室内実験および野外実習 野外実習の一部は、環境教育演習と合同で行われます。
(25)留意点・予備知識	基礎地学ⅠやⅡ、地学概論ⅠやⅡと合わせて履修することが望ましい。
(26)オフィスアワー	理科教育講座講座委員の教員に問い合わせること。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	理科教育講座講座委員の教員に問い合わせること。
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	362
(2)区分番号	362
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	地学概論I (General Earth Science I)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース理科サブコース地学分野）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 1・2時限
(10)担当教員（所 属）	柴 正敏（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベ ル）	レベル2~3
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての 具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○鉱物や岩石を分類する方法を理解できること（見通す力） ○鉱物や岩石の産出状況（産状）や成因について理解し、説明できること（見通す力） ○鉱物や岩石の成因を基礎に、地球内部のダイナミックな活動が理解できること（見通す力）
(15)授業の概要	<p>鉱物学及び岩石学の基礎を学びます。鉱物や岩石の成因（でき方）を調べると、地球の固体部分（地圏）の活動を理解することができます。また、これらの知識は、地質系の他の科目を勉強するときにも大変役立ちます。</p>
(16)授業の内容予 定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 鉱物(1)結晶と鉱物、鉱物の分類 2. 鉱物(2) 鉱物の形、鉱物の対称性、鉱物の内部構造、熱力学と鉱物の安定性 3. 造岩鉱物(1) 4. 造岩鉱物(2) 5. 岩石(1) 6. 岩石(2) 7. 中間試験と解説 8. 火成岩(1) 火成岩とは何か、火成岩の分類 9. 火成岩(2) マグマが発生する場所、マグマの多様性を生じさせる原因、岩石系列 10. 堆積岩(1) 堆積岩とは何か、堆積岩の分類 11. 堆積岩(2) 碎屑物の運搬と堆積、堆積岩はどこで形成されるか 12. 変成岩(1) 変成岩とは何か、変成岩の分類 13. 変成岩(2) 変成作用はどこで起こっているか、広域変成作用の3つの型 14. まとめ—鉱物学・岩石学の知識を基礎に、地球の活動を考える 15. 期末試験と解説 <p>授業の進行状況によっては、内容は変更されることがあります。</p>
(17)準備学習（予 習・復習）等の内 容	<p>毎回、講義の始まりに前回の講義の復習を行い、講義の終わりには復習と次回の講義で勉強する内容を示し、予習・復習を促します。</p>

(18)学問分野1(主 学問分野)	地球惑星科学関連
(18)学問分野2(副 学問分野)	-
(18)学問分野3(副 学問分野)	-
(19)実務経験のある 教員による授業 科目について	-
(20)教材・教科書	教科書は使用されません。適宜プリントを配付します。
(21)参考文献	周藤賢治・小山内康人：記載岩石学、共立出版、2002. 周藤賢治・小山内康人：解析岩石学、共立出版、2002. 内田悦生：岩石・鉱物のための熱力学、共立出版、2012.
(22)成績評価方法 及び採点基準	平常評価（授業への参加度など）：20% 中間評価（中間試験）：20% 期末評価（期末試験）：80% 上記を合算して最終的な評価を行います。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授 業方法	講義形式です。岩石の組織を示すときは、プロジェクターを用います。
(25)留意点・予備 知識	特になし
(26)オフィスアワ ー	理科教育講座講座委員の教員に問い合わせること。
(27)Eメールアド レス・HPアドレス	理科教育講座講座委員の教員に問い合わせること。
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	363
(2)区分番号	363
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	地学概論II (General Earth Science II)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース理科）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 3・4時限
(10)担当教員（所属）	鎌田 耕太郎（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2～3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○中学校・高等学校理科地学領域を構成する地質学や古生物学分野の基本概念について習熟し、授業実践や教材化への橋渡しできるようになること（見通す力）
(15)授業の概要	1年次で履修した「基礎地学I」「基礎地学II」を土台として、地球科学の基礎概念の習得の上に立って地質・古生物分野の基本概念について学ぶ。
(16)授業の内容予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 地球史の中の気候変動 3. 考古遺跡と地質学 4. 最古の魚竜化石とタフォノミー 5. 恐竜化石の分類と進化 6. 化石にみる古生態 7. 島弧域の火山噴火と噴火災害 8. 地形形成と地層形成（蛇行河川の例） 9. 干潟の堆積相と生痕化石 10. 碎屑粒子とベッドフォーム 11. フルターの法則とビーチプロファイル 12. カルデラ火山とラハール 13. 堆積物重力流と砂泥互層の形成 14. 堆積相と海水準変動 15. 古生物の分類 16. 期末試験 <p>授業の進行状況などによっては、内容は変更されることがあります。</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	大学図書館所蔵の地質学や古生物学、火山学に関する分野の参考書で予習復習すること。
(18)学問分野1(主学問分野)	地球惑星科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
	-

(18)学問分野3(副学問分野)	
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書は使用されません。授業で関連する資料を配布します。
(21)参考文献	授業で紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	期末試験やレポートなどを合算して最終的な評価を行います。授業の進行状況などにより、評価方法は変更されることがあります。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	パワーポイントを使用した説明を主とします。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	理科教育講座講座委員の教員に問い合わせること。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	理科教育講座講座委員の教員に問い合わせること。
(28)その他	特になし。

教育学部

(1)整理番号	371
(2)区分番号	371
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	ソルフェージュIA (Solfage IA)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等（小・音楽サブコース）・初等中等（中コース音楽）・特支（中コース音楽）：必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日 3・4時限
(10)担当教員（所属）	宮本 香織（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル1～2
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具 体的到達目標	○基礎的な視唱、聴音ができること（見通す力） ○楽譜を正確に読み取ることができること（解決する力） ○音楽の実践に必要な総合的な能力を身につけること（学び続ける力）
(15)授業の概要	ソルフェージュ演習を通じて、音楽実践の基礎を身につけることを目指します。
(16)授業の内容予定	<p>第1回 ソルフェージュとは</p> <p>第2回 リズム1 [リズム打ち・リズム読み]</p> <p>第3回 リズム2 [拍を打つ]</p> <p>第4回 読譜1 [読譜の基礎練習]</p> <p>第5回 読譜2 [旋律]</p> <p>第6回 読譜3 [重唱]</p> <p>第7回 視唱1 [音程の基礎練習]</p> <p>第8回 視唱2 [単旋律]</p> <p>第9回 視唱3 [単旋律]</p> <p>第10回 視唱4 [伴奏付課題]</p> <p>第11回 聴音1 [記譜の基礎]</p> <p>第12回 聴音2 [単旋律]</p> <p>第13回 聴音3 [単旋律]</p> <p>第14回 表現1 [実作品を通じての総合課題]</p> <p>第15回 表現2 [実作品を通じての総合課題]</p> <p>第16回 期末試験</p> <p>※授業内容は進捗状況により変更することがあります。</p>
(17)準備学習（予習・ 復習）等の内容	授業内に示した課題を1日10分以上、よく練習して、次の授業に臨んで下さい。
(18)学問分野1(主学問 分野)	芸術関連
	-

(18)学問分野2(副学問分野)	
(18)学問分野3(副学問分野)	
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	授業内で指示します。
(21)参考文献	授業内で指示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業内での課題への取り組み姿勢と習得度に鑑み評価します。また、期末試験を行います。 (平常評価40% 期末評価60%)
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	講義、全体指導、個人指導
(25)留意点・予備知識	音楽の基本を学び、基礎を身に着ける授業です。積極的な授業への参加が求められます。
(26)オフィスアワー	世話教員へ電子メールで予め申し込むこと。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	世話教員：朝山奈津子（音楽学研究室） asavaman@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	372
(2)区分番号	372
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	ソルフェージュIB (Solfage IB)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等（中コース音楽）・特支（中コース音楽）：必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 7・8時限
(10)担当教員（所属）	宮本 香織（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	○基礎的な視唱、聴音ができること（見通す力） ○楽譜を正確に読み取ることができること（解決する力） ○音楽の実践に必要な総合的な能力を身につけること（学び続ける力）
(15)授業の概要	ソルフェージュ演習を通じて、音楽実践の基礎を身につけることを目指します。
(16)授業の内容予定	<p>第1回 リズム1〔リズム打ち・リズム読み〕</p> <p>第2回 読譜1〔旋律〕</p> <p>第3回 視唱1〔単旋律〕</p> <p>第4回 聴音1〔単旋律〕</p> <p>第5回 リズム2〔リズムアンサンブル〕</p> <p>第6回 読譜2〔重唱〕</p> <p>第7回 視唱2〔重唱〕</p> <p>第8回 聴音2〔二声体〕</p> <p>第9回 読譜3〔伴奏付課題〕</p> <p>第10回 視唱3〔伴奏付課題〕</p> <p>第11回 聴音3〔記憶唱〕</p> <p>第12回 聴音4〔記憶奏〕</p> <p>第13回 伴奏付け</p> <p>第14回 表現1〔実作品を通じての総合課題〕</p> <p>第15回 表現2〔実作品を通じての総合課題〕</p> <p>第16回 期末試験</p> <p>※授業内容は進捗状況により変更することがあります。</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	授業内に示した課題を1日10分以上、よく練習して、次の授業に臨んで下さい。
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-

(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	授業内で指示します。
(21)参考文献	授業内で指示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業内での課題への取り組み姿勢と習得度に鑑み評価します。また、期末試験を行います。 (平常評価40% 期末評価60%)
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	講義、全体指導、個人指導
(25)留意点・予備知識	音楽の基本を学び、基礎を身につける授業です。積極的な授業への参加が求められます。
(26)オフィスアワー	世話教員へ予め電子メール等で申し込むこと。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	世話教員：朝山奈津子（音楽学研究室） asayaman@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	373
(2)区分番号	373
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	ソルフェージュIIA (Solfage IIA)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース音楽サブコース）：必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中講義
(10)担当教員（所 属）	近藤 里美（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベ ル）	レベル2
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての 具体的到達目標	○音楽療法の基盤となる様々な考えを理解すること（見通す力） ○子ども、成人、高齢者領域での音楽の療法的役割について理解すること（解決する力）
(15)授業の概要	1) 音楽療法の理解を深めるために、これまでの知識大系の学習することで、音楽教育について見通す力を身に付ける。 2) 音楽の体験学習を通じてヒトと音楽の繋がりを学習し、音楽教育の諸問題を解決する力を身に付ける。 3) 子ども、成人、高齢者領域における音楽の療法的役割を学習するとともに（見通す力）、それぞれの領域における音楽療法の実践を学ぶ（解決する力）。
(16)授業の内容予 定	1) 近代音楽療法の歴史の概観 2) 音楽とヒトのつながり 3) 音楽の療法的な役割 4) 様々な領域での音楽療法の実際：ビデオ、DVD、音声にて紹介 5) 音楽体験を通じた体験的に知る音楽の影響 6) ソルフェージュと身体 7) ソルフェージュと楽器 8) ソルフェージュと子ども 9) ソルフェージュと音楽療法 10) ソルフェージュと音楽教育 11) 音楽療法と音楽教育 12) 即興とソルフェージュ 13) 学校教育とソルフェージュ 14) 人間にとっての音楽とは 15) 創作発表
(17)準備学習（予 習・復習）等の内容	事前学習のための質問： 「これまでの人生で心にのこる音、あるいは音楽（と自分は考えているもの）を一つだけ挙げるとすれば何か？ それはなぜか？」を、各自熟考してくる。集中講義のため具体的な時間は設定しない。
	教育学関連

(18)学問分野1(主学問分野)	
(18)学問分野2(副学問分野)	心理学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	芸術関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特に指定しない。資料は講義の中で配布する。
(21)参考文献	特に指定しない。必要な際は講義にて紹介する。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業参加度60%、レポート40%
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	講義と演習
(25)留意点・予備知識	もし、自分の楽器を持参したい学生がいれば、講義に持参することを歓迎する。
(26)オフィスアワー	集中講義なので設定しない。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	skondo@hoku-iryo-u.ac.jp
(28)その他	特になし。

教育学部

(1)整理番号	374
(2)区分番号	374
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	ソルフェージュII B (Solfage II B)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース音楽サブコース）：必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	集中講義
(10)担当教員 (所属)	塩原 麻里（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての 具体的な到達目標	○音楽と動きの代表的なアプローチであるダルクローズ・リトミックを、理論と実践の両面から探求することによって、音楽教育における動きの効用と可能性について理解できるようになること（見通す力、解決する力）
(15)授業の概要	1)ダルクローズ・リトミックの代表的なエクササイズを体験しながら、その目的や理論的背景をディスカッションも含めた講義によって学ぶ（見通す力）。 2) 1)を踏まえ、実際にグループに分かれて模擬授業を計画し遂行することによって、音楽教育における音楽と動きの学習に関わる様々な留意点について考察していく（解決する力）。
(16)授業の内容 予定	以下をキーワードに15回の授業でリトミックとはなんかを学ぶ。 1) 音楽と動き 2) リトミック 3) エミール・ジャック＝ダルクローズ 4) 内的聴覚 5) 身体表現 6) 音楽の視覚化 7) 即興 8) リトミックとソルフェージュ 9) 創意工夫と音楽 10) アクティヴ・ラーニング 11) ディープ・アクティヴ・ラーニング 12) リトミックと音楽教育 13) リトミックと学校 14) 海外の動向 15) 今後の音楽教育について

(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	配布された資料を事前に読んでおくこと。随時、課題を出す。集中講義のため具体的な時間は設定しません。
(18)学問分野 1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	芸術関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	思想関連
(19)実務経験のある 教員による 授業科目について	-
(20)教材・教科書	随時、プリントを配布する。
(21)参考文献	エミール・ジャック＝ダルクローズ著『リズムと音楽と教育』全音出版社 エミール・ジャック＝ダルクローズ著『音楽と人間』開成出版 フランク・マルタン他編著『エミール・ジャック＝ダルクローズ』全音楽譜出版社
(22)成績評価方法 及び採点基準	レポート。その他、随時課題を出す。課題発表、ディスカッションへの参加状況なども含めて、総合的に判断する。 レポート：60% その他の課題：40%
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・ 授業方法	講義＋演習
(25)留意点・予 備知識	身体を動かす活動が中心になるので、動きやすい服装と底の薄い柔らかい靴で参加すること。
(26)オフィスア ワー	集中講義なので設定しない。
(27)Eメールア ドレス・HPアド レス	marishiobara22@gmail.com
(28)その他	特になし。

教育学部

(1)整理番号	375
(2)区分番号	375
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	ソルフェージュIII A (Solfage III A)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース音楽サブコース）：選択必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日 5・6時限
(10)担当教員 (所属)	清水 稔（教育学部）
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応する CP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業とし ての具体的到 達目標	○音楽を総合的な観点で捉えられる力を身につけること（見通す力） ○音楽実践のための基礎的な技術を身につけること（解決する力）
(15)授業の概 要	視唱、聴音、即興、伴奏付け等の演習を行います。 また、創作を通してソルフェージュ力の向上と諸要素の働きや形式について総合的に学びます。
(16)授業の内 容予定	第1回：音階とハンドサイン 第2回：リズムと拍子 第3回：単旋律聴音と視唱 第4回：移調とコード奏の基礎 第5回：二声部の視唱とパートワーク 第6回：二声部の視唱と聴音 第7回：形式と総合ソルフェージュ（導入） 第8回：形式と総合ソルフェージュ（発展） 第9回：コード奏による伴奏付け 第10回：コード奏による即興 第11回：転調と移動ド唱法 第12回：合唱作品と移動ド唱法 第13回：即興によるソルフェージュ 第14回：創作によるソルフェージュ 第15回：ソルフェージュの指導法について 第16回：期末試験 ※授業の内容は進捗状況により変更することがあります。
	楽典の知識が必要です。その都度、次回までの課題を提示しますので、学習したことを繰り返し取り組むようにしてください（3時間）。また、次の回の予

(17)準備学習 (予習・復習)等の内容	習として、授業内で示されたキーワードについて事前に調べておくようにしてください(1時間)。
(18)学問分野 1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	思想関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	授業でプリントを配布します。
(21)参考文献	Edwin Godon "Leaning Sequence in Music" (GIA Publications)
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への参加姿勢(15%) 毎時間の課題における成果(70%) 最終回における振り返りの試験(15%) 以上を総合して評価します。
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	個人だけでなく、グループやペアで協働で演習を行います。
(25)留意点・予備知識	特にありませんが、移動ド唱法を用いての学習になりますので、理論的な背景を知っておくことが望ましいです。
(26)オフィスアワー	E-mailでアポを取ってください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	m-shimizu@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特にありません。

教育学部

(1)整理番号	376
(2)区分番号	376
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	ソルフェージュIII B (Solfage III B)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース音楽サブコース）：選択必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 7・8時限
(10)担当教員 (所属)	清水 稔（教育学部）
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル3
(13)対応する C P / D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業とし ての具体的到達 目標	○楽譜を総合的に読み取り、適切な表現と必要な技能を捉えることができること（見通す力） ○正確な読譜と適切な演奏表現ができる音感と身体感覚を身につけ、とくに鍵盤楽器を中心に表現することができること（解決する力） ○教育現場で実際に指導する際に、必要となる基礎的な力を身につけることができること（解決する力）
(15)授業の概 要	楽譜から音程とリズム及び表現を読み取って演奏したり、音や演奏を聴き取り楽譜に表したりすることを繰り返し行うことで、音楽表現における基礎力を身につけます。 また、実際に指導する場面を想定して、どのような解決方法が必要かを見取りながら技術を身に付けることができるようにします。
(16)授業の内 容予定	実技を伴う内容なので、能力・状況を見ながら柔軟に進めます。 第1回 キーボードソルフェージュの基礎（カデンツとコード奏） 第2回 移調唱と移調奏（1）基本的な知識と技能 第3回 移調唱と移調奏（2）移調楽器との関係 第4回 移調唱と移調奏（3）総合課題 第5回 テンポと音楽表現（1）スコアリーディングと視唱表現 第6回 テンポと音楽表現（2）スコアリーディングと鍵盤奏 第7回 楽曲の構成を捉える（1）アナリーゼの視点と方法 第8回 楽曲の構成を捉える（2）役割と表現 第9回 楽曲の構成を捉える（3）総合課題 第10回 聴いて音楽を捉える（1）聴唱と聴奏 第11回 聴いて音楽を捉える（2）記譜との関係 第12回 聴いて音楽を捉える（3）楽器の特徴とソルフェージュ 第13回 総合課題（1）指導場面を想定した課題（導入） 第14回 総合課題（2）指導場面を想定した課題（発展） 第15回 総合課題（3）振り返りと試験
	楽典の知識が必要です。その都度、次回までの課題を提示しますので、学習したことを繰り返し取り組むようにしてください（3時間）。また、次の回の

(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	予習として、授業内で示されたキーワードについて事前に調べておくようにしてください(1時間)。
(18)学問分野 1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	思想関連
(19)実務経験 のある教員によ る授業科目につ いて	-
(20)教材・教 科書	最初の授業で提示します。
(21)参考文献	音楽通論、音楽事典等 コールユーブンゲン ダンノーゼルのソルフェージュ(音楽之友社) Edward Bolkovac and Judith Johnson"150ROUNDS for singing and teaching"(Boosey&Hawkes) 島岡譲『和声と楽式のアナリゼ』(音楽之友社)
(22)成績評価 方法及び採点基 準	授業への参加姿勢(15%) 毎時間の課題の達成度(70%) レポートや課題等の提出物(15%) 以上を総合して評価します。
(23)授業形式	実習
(24)授業形 態・授業方法	全員で、歌ったり、キーボードを演奏したりしながら課題に取り組みます。
(25)留意点・ 予備知識	楽典の知識や、課題に取り組むための基礎となる力が必要です。
(26)オフィス アワー	Eメールでアポを取ってください。
(27)Eメールア ドレス・HPア ドレス	m-shimizu@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし。

教育学部

(1)整理番号	377
(2)区分番号	377
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	ソルフェージュIII C (Solfage III C)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース音楽サブコース）：選択必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 9・10時限
(10)担当教員 (所属)	清水 稔（教育学部）
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応する CP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業とし ての具体的到 達目標	○音楽を総合的な観点で捉えられる力を身につけること（見通す力） ○音楽実践のための基礎的な技術を身につけること（解決する力）
(15)授業の概 要	視唱、聴音、即興、伴奏付け等の演習を行います。 また、創作を通してソルフェージュ力の向上と諸要素の働きや形式について総合的に学びます。
(16)授業の内 容予定	第1回：音階とハンドサイン 第2回：リズムと拍子 第3回：単旋律聴音と視唱 第4回：移調とコード奏の基礎 第5回：二声部の視唱とパートワーク 第6回：二声部の視唱と聴音 第7回：形式と総合ソルフェージュ（導入） 第8回：形式と総合ソルフェージュ（発展） 第9回：コード奏による伴奏付け 第10回：コード奏による即興 第11回：転調と移動ド唱法 第12回：合唱作品と移動ド唱法 第13回：即興によるソルフェージュ 第14回：創作によるソルフェージュ 第15回：ソルフェージュの指導法について 第16回：期末試験 ※授業の内容は進捗状況により変更することがあります。
	楽典の知識が必要です。その都度、次回までの課題を提示しますので、学習したことを繰り返し取り組むようにしてください（3時間）。また、次の回の予

(17)準備学習 (予習・復習)等の内容	習として、授業内で示されたキーワードについて事前に調べておくようにしてください(1時間)。
(18)学問分野 1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	思想関連
(19)実務経験 のある教員に よる授業科目 について	実務教員
(20)教材・教科書	授業でプリントを配布します。
(21)参考文献	Edwin Gordon "Leaning Sequence in Music" (GIA Publications)
(22)成績評価 方法及び採点 基準	授業への参加姿勢(15%) 毎時間の課題における成果(70%) 最終回における振り返りの試験(15%) 以上を総合して評価します。
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	個人だけでなく、グループやペアで協働して課題に取り組みます。
(25)留意点・予備知識	特にありませんが、移動ド唱法で行いますので、楽典としての理論を踏まえていることが望ましいです。
(26)オフィスアワー	E-mailでアポを取ってください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	m-shimizu@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特にありません。

教育学部

(1)整理番号	378
(2)区分番号	378
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	ソルフェージュIIID (Solfage IIID)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース音楽サブコース）：選択必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日 3・4時限
(10)担当教員 (所属)	清水 稔（教育学部）
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル3
(13)対応する CP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業とし ての具体的到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> ○楽譜を総合的に読み取り、適切な表現と必要な技能を捉えることができること（見通す力） ○正確な読譜と適切な演奏表現ができる音感と身体感覚を身に付け、とくに鍵盤楽器を中心に表現することができること（解決する力） ○教育現場で実際に指導する際に、必要となる基礎的な力を身に付けることができること（解決する力）
(15)授業の概 要	<p>楽譜から音程とリズム及び表現を読み取って演奏したり、音や演奏を聴き取り楽譜に表したりすることを繰り返し行うことで、音楽表現における基礎力を身に付けます。</p> <p>また、実際に指導する場面を想定して、どのような解決方法が必要かを見取りながら技術を身に付けることができますようにします。</p>
(16)授業の内 容予定	<p>第1回 キーボードソルフェージュの基礎（カデンツとコード奏）</p> <p>第2回 移調唱と移調奏（1）基本的な知識と技能</p> <p>第3回 移調唱と移調奏（2）移調楽器との関係</p> <p>第4回 移調唱と移調奏（3）総合課題</p> <p>第5回 テンポと音楽表現（1）スコアリーディングと視唱表現</p> <p>第6回 テンポと音楽表現（2）スコアリーディングと鍵盤奏</p> <p>第7回 楽曲の構成を捉える（1）アナリーゼの視点と方法</p> <p>第8回 楽曲の構成を捉える（2）役割と表現</p> <p>第9回 楽曲の構成を捉える（3）総合課題</p> <p>第10回 聴いて音楽を捉える（1）聴唱と聴奏</p> <p>第11回 聴いて音楽を捉える（2）記譜との関係</p> <p>第12回 聴いて音楽を捉える（3）楽器の特徴とソルフェージュ</p> <p>第13回 総合課題（1）指導場面を想定した課題（導入）</p> <p>第14回 総合課題（2）指導場面を想定した課題（発展）</p> <p>第15回 総合課題（3）振り返りと試験</p>
	<p>楽典の知識が必要です。その都度、次回までの課題を提示しますので、学習したことを繰り返し取り組むようにしてください（3時間）。また、次の回の予習として、授業内で示されたキーワードについて事前に調べておくようにしてください（1時間）。</p>

(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	
(18)学問分野 1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	思想関連
(19)実務経験 のある教員によ る授業科目につ いて	-
(20)教材・教 科書	最初の授業で提示します。
(21)参考文献	音楽通論、音楽事典等 コールユーブンゲン ダンノーゼルのソルフェージュ（音楽之友社） Edward Bolkovac and Judith Johnson "150 ROUNDS for singing and teaching" (Boosey&Hawkes) 島岡譲『和声と楽式のアナリゼ』（音楽之友社）
(22)成績評価 方法及び採点基 準	授業への参加姿勢（15%） 授業での課題の達成度（70%） レポートや課題等の提出物（15%） 以上を総合して評価します。
(23)授業形式	実習
(24)授業形 態・授業方法	全員で、歌ったり、キーボードを演奏したりしながら課題に取り組みます。
(25)留意点・ 予備知識	楽典の知識や、課題に取り組むための基礎となる力が必要です。
(26)オフィス アワー	Eメールでアポを取ってください。
(27)Eメールア ドレス・HPア ドレス	m-shimizu@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし。

教育学部

(1)整理番号	379
(2)区分番号	379
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	歌唱（合唱および日本の伝統的な歌唱を含む）（Voice Performance in Vocal Chamber Ensembles and Japanese Traditional Singings）
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等（小・音楽サブコース）・初等中等（中コース音楽）・特支（中コース音楽）：必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日5・6時限（一部集中講義）
(10)担当教員（所属）	杉原 かおり（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル1～2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	○発声の基礎に触れ、自然で無理のない歌い方を理解することができること（見通す力） ○合唱および日本の伝統的な歌唱を含むさまざまな歌唱様式の違いを大まかに捉えることができること（見通す力） ○学校教育の中での歌唱の在り方を考えることができること（解決する力、学び続ける力）
(15)授業の概要	声楽の入門として発声のメカニズムを知り、無理のない発声法の基礎を習得します。また、年齢による声の変化を知ることにより、発達段階に応じた歌唱指導のあり方を考察します。その上で、中学校・高等学校歌唱教材で取り上げられている曲およびそれに類似する小品、合唱曲、日本の伝統的な音楽などを通して、発声・発音・フレーズ感・拍・和声などの曲による違いに気づき、曲種に応じた歌唱法を実習します。
(16)授業の内容予定	以下の内容を、それぞれの授業の中で、個人の習熟度に合わせた発声指導・歌唱指導を交えながら行います。 ○発声法演習と曲による様式の違いの学習 ○発声法演習と教材を使った歌唱法の実習（合唱教材を使ったハーモニーの感得、民謡とクラシックの発声法・表現方法の違いなど、教材の範囲でその様式の違いを感じ取るができるようにする。） ○日本の伝統的な音楽の歌唱法の実習（集中講義） （進行例） 1 音楽に関連する音声学の基礎知識の習得 2 音楽に関連する音声学の基礎知識の習得と発声法演習 3 発声法演習 コールユーブンゲン 4 発声法演習 コンコーネ

	<p>5 発声法演習 コンコーネ 小学校歌唱教材（共通教材）を利用した歌唱法研究</p> <p>6 発声法演習 コンコーネ 中学校歌唱教材（共通教材）を利用した歌唱法研究</p> <p>7 発声法演習 コンコーネ 高等学校1年次の歌唱教材を利用した歌唱法研究</p> <p>8 発声法演習 コンコーネ 高等学校2-3年次の歌唱教材を利用した歌唱法研究</p> <p>9 小・中学校共通教材の弾き歌い</p> <p>10 高等学校共通教材の弾き歌い</p> <p>11~15 集中講義による日本の伝統的な歌唱法の実習（「能」）</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	授業で行った事を復習し、与えられた課題の練習を毎日30分以上行うこと。
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	コールユーブンゲン、コンコーネ50番、その他その都度指示します。
(21)参考文献	授業中に必要に応じ指示しますが、音楽史全般に関する文献は各自自習しておくこと。
(22)成績評価方法及び採点基準	実技教科の特性上、日々の練習の積み重ねを重視し、毎時間毎の課題習得度と取り組み姿勢（80%）、演奏発表（20%）を総合的に評価する予定です。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	集団指導と個人指導を両方行います。
(25)留意点・予備知識	外国語（ヨーロッパ語圏の言語）・文学・歴史などに興味を持ち、声楽だけでなく、音楽史、ソルフェージュ、ピアノなど音楽全般について深く勉強してください。コールユーブンゲン、楽典は習得済みで履修してください。
(26)オフィスアワー	月曜日 12:00~12:30

(27)Eメールアドレス・HPアドレス	kabochan@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	380
(2)区分番号	380
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	独唱I (Solo (Voice Performance) I)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（小・音楽サブコース）、初等中等（中コース音楽）・特支（中コース音楽）：必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 7・8時限
(10)担当教員（所属）	杉原 かおり（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2～3
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○学校教育の授業に必要な、癖のない自然で無理のない発声で歌うことができること（見通す力、学び続ける力） ○歌唱の技術とは何かを考えることができること（解決する力）
(15)授業の概要	ヴォカリッツィ（母音唱法）を通して発声の基礎の定着を図ります。発声の基盤となる呼吸、母音の響きの統一を重点に据え、息のレガートを習得します。
(16)授業の内容予定	<p>基本的には、発声の技術を習得するのに適しているイタリア語を用いたイタリア歌曲から、個々の声質・習熟度にあった選曲で個別指導を中心とした授業を展開します。また、歌唱の伴奏法も学びます。</p> <p>第1回 発声の基礎 音声学入門 声を出しながら体の使い方の基本を学ぶ 第2回 発声の基礎 音声学入門 声を出しながら体の使い方の概要を学ぶ 第3回 発声の基礎 音声学入門 コンコーネの学習方法 第4回 発声の基礎とその応用練習（コンコーネ50番）、イタリア歌曲入門（イタリア語の発音） 第5回 発声の基礎とその応用練習（コンコーネ50番）、イタリア歌曲入門（学習方法とイタリア語の発音） 第6回 発声 コンコーネ 指定されたイタリア歌曲〈1〉を独唱（受講生第1グループ） 第7回 発声 コンコーネ 指定されたイタリア歌曲〈1〉を独唱（受講生第2グループ） 第8回 発声 コンコーネ 指定されたイタリア歌曲〈1〉を独唱（受講生第3グループ） 第9回 発声 コンコーネ 指定されたイタリア歌曲〈2〉を独唱（受講生第1グループ） 第10回 発声 コンコーネ 指定されたイタリア歌曲〈2〉を独唱（受講生第2グループ） 第11回 発声 コンコーネ 指定されたイタリア歌曲〈2〉を独唱（受講生第3グループ）</p>

	<p>第12回 発声 コンコーネ 声質に合った歌曲の独唱 (受講生第1グループ)</p> <p>第13回 発声 コンコーネ 声質に合った歌曲の独唱 (受講生第2グループ)</p> <p>第14回 発声 コンコーネ 声質に合った歌曲の独唱 (受講生第3グループ)</p> <p>第15回 コンコーネ・任意の歌曲の発表</p> <p>曲目は学習者の状況を見て教員が指定します。それぞれの実態に応じてすすめていきますので、内容が変更になる場合もあります。なお、毎時間が評価の対象です。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	基礎練習や与えられた課題の練習を毎日40分以上行うこと。
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	コンコーネ50番(中声用・全音楽譜出版社)、イタリア歌曲集他
(21)参考文献	必要に応じ指示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	実技教科の特性上、日々の練習の積み重ねを重視し、毎時間毎の課題習得度と取り組み姿勢(80%)、演奏発表(20%)を総合的に評価する予定です。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	集団指導と個人指導を両方行います。
(25)留意点・予備知識	外国語(ヨーロッパ語圏の言語)・文学・歴史などに興味を持ち、声楽だけでなく、音楽史、ソルフェージュ、ピアノなど音楽全般について深く勉強してください。
(26)オフィスアワー	月曜日12:00~12:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	kabochan@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	381
(2)区分番号	381
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	独唱II (Solo (Voice Performance) II)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース音楽）・特支（中コース音楽）：必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 3・4時限
(10)担当教員（所属）	杉原 かおり（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2～3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○正確に楽譜を読むことができること（見通す力） ○癖のない、自然で無理のない発声で歌うことができること（解決する力、学び続ける力） ○個々の声質を理解すること（見通す力） ○発声技術と表現力を向上させること（解決する力、学び続ける力）
(15)授業の概要	独唱Iで学んだ基本を定着・向上させながら、イタリア古典歌曲等を用いて、自然で無理の無い発声で歌うことを目指します。また、正確な読譜力を身につけ、楽曲の解釈・表現法について考察し、実技に結びつける方法を研究します。その際、外国語と日本語による発音からくる発声の違いを感覚としてとらえられるようにします。教科書の教材程度の歌曲の弾き歌いも経験します。
(16)授業の内容予定	<p>発声の技術を習得するのに適しているイタリア歌曲をベースに、日本語、ドイツ語の基本的な楽曲を学習します。また、個々の声質・習熟度にあった選曲で個別指導を中心とした授業を展開します。その際、お互いの伴奏を弾きあいながら、声楽の伴奏法も習得します。</p> <p>第1回 独唱Iで学んだ発声の復習 コンコーネ 第2回 発声 コンコーネ 芸術表現演習音楽Iの最後に出された課題の独唱 第3回 発声 コンコーネ 任意のイタリア歌曲の独唱（受講生第1グループ） 第4回 発声 コンコーネ 任意のイタリア歌曲の独唱（受講生第2グループ） 第5回 発声 コンコーネ 任意のイタリア歌曲の独唱（受講生第3グループ） 第6回 発声 コンコーネ 日本歌曲（外国語との発声の違い）の独唱（受講生第1グループ） 第7回 発声 コンコーネ 日本歌曲（外国語との発声の違い）の独唱（受講生第2グループ）</p>

	<p>第8回 コンコーネ 任意の日本歌曲と弾き歌い (受講生第1グループ)</p> <p>第9回 コンコーネ 任意の日本歌曲と弾き歌い (受講生第2グループ)</p> <p>第10回 コンコーネ 任意の日本歌曲と弾き歌い (受講生第3グループ)</p> <p>第11回 コンコーネ ドイツ歌曲入門 (ドイツ語の発音)</p> <p>第12回 コンコーネ ドイツ歌曲 (ドイツ語の発音、韻律と音楽の関係)</p> <p>第13回 コンコーネ ドイツ歌曲独唱 (受講生第1グループ)</p> <p>第14回 コンコーネ ドイツ歌曲独唱 (受講生第2グループ)</p> <p>第15回 コンコーネ 任意の歌曲独唱発表</p> <p>なお、毎回評価の対象とするので充分準備をすること。 それぞれの実態に応じてすすめるので、内容が変更になる場合があります。</p>
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	課題練習と基礎練習を毎日40分以上行うこと。
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	コンコーネ50番・イタリア歌曲集他 必要に応じ指示します。
(21)参考文献	必要に応じ指示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	実技教科の特性上、日々の練習の積み重ねを重視し、毎時間の課題習得度と取り組み姿勢 (80%)、演奏発表 (20%) を総合的に評価する予定です。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	集団指導と個人指導を両方行います。
(25)留意点・予備知識	外国語 (ヨーロッパ語圏の言語) ・文学・歴史などに興味を持ち、声楽だけでなく、音楽史、ソルフェージュ、ピアノなど音楽全般について深く勉強してください。
(26)オフィスアワー	月曜日 12:00~12:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	kabochan@hirosaki-u.ac.jp

(28)その他 特になし

教育学部

(1)整理番号	382
(2)区分番号	382
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	独唱IIIA (Solo (Voice Performance) IIIA)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース音楽サブコース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日 5・6時限
(10)担当教員（所属）	杉原 かおり（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2～3
(13)対応するCP/D/P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	○正確に読譜すること（見通す力） ○癖のない自然で無理のない発声で歌いつつ、個々の声質を理解しながら発声技術と表現力を向上させること（解決する力、学び続ける力） ○これらのことを学校教育の中でどう生かすかを考えることができること（見通す力）
(15)授業の概要	独唱Ⅰ・Ⅱで学んだ基本を定着・向上させながら、イタリア古典歌曲（日本の伝統的歌曲を含む）等を用いて、自然で無理のない発声で歌うことを目指します。また、楽曲の解釈・表現法について考察し、実技に結びつける方法を研究します。その際、外国語と日本語による発音からくる発声の違いを感覚としてとらえられるようにします。
(16)授業の内容予定	学習者の実態に応じて個人毎の課題を決めます。 第1回 独唱Ⅰ・Ⅱで学んだ発声の復習とコンコーネ 第2回 発声 コンコーネ 既習曲の独唱 第3回 コンコーネ 任意の歌曲の独唱 Rossini, Donizetti, Bellini, Verdi, Tostiなどから、それぞれの声に合わせた課題を選択（導入） 第4回 コンコーネ 任意の歌曲の独唱

	<p>Rossini, Donizetti, Bellini, Verdi, Tostiなどから、それぞれの声に合わせた課題を選択（展開）</p> <p>第5回 コンコーネ 任意の歌曲の独唱</p> <p>Rossini, Donizetti, Bellini, Verdi, Tostiなどから、それぞれの声に合わせた課題を選択（発展）</p> <p>第6回 トスティ50番練習曲 任意の日本歌曲、またはモーツァルト以前の声楽曲の独唱（導入）</p> <p>第7回 トスティ50番練習曲 任意の日本歌曲、またはモーツァルト以前の声楽曲の独唱（展開）</p> <p>第8回 トスティ50番練習曲 任意の日本歌曲、またはモーツァルト以前の声楽曲の独唱（研究）</p> <p>第9回 トスティ50番練習曲 任意の日本歌曲、またはモーツァルト以前の声楽曲の独唱（発展）</p> <p>第10回 トスティ50番練習曲 任意の歌曲と重唱（導入）</p> <p>第11回 トスティ50番練習曲 任意の歌曲と重唱（展開）</p> <p>第12回 トスティ50番練習曲 任意の歌曲と重唱 舞台演技法〈1〉</p> <p>第13回 トスティ50番練習曲 任意の歌曲と重唱 舞台演技法とその実践（研究）</p> <p>第14回 トスティ50番練習曲 任意の歌曲と重唱 舞台演技法とその実践（発展）</p> <p>第15回 任意の既習曲を発表</p> <p>なお、毎回評価の対象としますので充分準備をすること。 それぞれの実態に応じて進めるため、内容が変更になる場合があります。</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	課題練習と基礎練習を毎日40分以上行うこと。
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	コンコーネ50番、トスティ50番練習曲集（高声用）、イタリア歌曲集他 必要に応じてその都度指示します。
(21)参考文献	必要に応じてその都度指示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	実技教科の特性上、日々の練習の積み重ねを重視し、毎時間の課題習得度と取り組み姿勢（80%）、演奏発表（20%）を総合的に評価する予定です。
	演習

(23)授業形式	
(24)授業形態・授業方法	個人指導と集団指導を両方行います。
(25)留意点・予備知識	外国語（ヨーロッパ語圏の言語）・文学・歴史などに興味を持ち、声楽だけでなく、音楽史、ソルフェージュ、ピアノなど音楽全般について深く勉強してください。
(26)オフィスアワー	月曜日 12 : 00 ~ 12 : 30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	kabochan@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	383
(2)区分番号	383
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	独唱IIIB (Solo (Voice Performance) IIIB)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース音楽サブコース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 5・6時限
(10)担当教員（所 属）	杉原 かおり（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベ ル）	レベル2～3
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○自分の声質を知り、自分に合ったレパートリーについて考えることができ るようになること（見通す力、解決する力） ○無理のない発声で歌うことができるようになること（解決する力、学び 続ける力）
(15)授業の概要	独唱ⅢAまでに習得した発声のテクニックをさらに向上させるために、イ タリア古典歌曲・イタリア歌曲・日本の伝統的の歌曲等から、アジリタや跳 躍を含むやや高度な作品に取り組みます。
(16)授業の内容予 定	<p>学習者の実態に応じて個人毎の課題を決めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 これまで習得した発声の復習とトスティ練習曲集 2 トスティ50番練習曲 任意の楽曲の独唱 3 トスティ50番練習曲 任意の楽曲の独唱 それぞれの声に合わせた課 題を選択 4 トスティ50番練習曲 それぞれの声に合わせた任意の歌曲の独唱（導 入） 5 トスティ50番練習曲 それぞれの声に合わせた任意の歌曲の独唱 （発展） 6 トスティ50番練習曲 任意の楽曲（導入） 7 トスティ50番練習曲 任意の楽曲（発展） 8 トスティ50番練習曲 任意の楽曲（展開） 9 トスティ50番練習曲 任意の楽曲（研究） 10 トスティ50番練習曲 任意の楽曲（仕上げ） 11 トスティ50番練習曲 任意の楽曲（総括） 12 トスティ50番練習曲 重唱 舞台演技法（導入） 13 トスティ50番練習曲 重唱 舞台演技法とその実践（発展） 14 トスティ50番練習曲 重唱 舞台演技法とその実践（仕上げ） 15 任意の既習曲（独唱と重唱）の発表 <p>なお、毎回評価の対象とするので充分準備をすること。 それぞれの実態に応じて進めるため、内容が変更になる場合があります。</p> <p>課題練習と基礎練習を毎日40分以上行うこと。</p>

(17)準備学習（予習・復習）等の内容	
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	コンコーネ50番、トスティ練習曲集50番（高声用）、イタリア歌曲集他必要に応じ指示します。
(21)参考文献	必要に応じ指示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	実技教科の特性上、日々の練習の積み重ねを重視し、毎時間の課題習得度と取り組み姿勢（80%）、演奏発表（20%）を総合的に評価する予定です。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	個人指導と集団指導を両方行います。
(25)留意点・予備知識	外国語（ヨーロッパ語圏の言語）・文学・歴史などに興味を持ち、声楽だけでなく、音楽史、ソルフェージュ、ピアノなど音楽全般について深く勉強してください。
(26)オフィスアワー	月曜日 12：00～12：30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	kabochan@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	384
(2)区分番号	384
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	独唱IIC (Solo (Voice Performance) IIC)
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	初等中等（中コース音楽サブコース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 3・4時限
(10)担当教員 (所属)	杉原 かおり（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3~4
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○自分の声質を知り、声種とレパートリーについて考えることができるようになること（見通す力、解決する力） ○各個人に適した作品を無理のない発声で歌うことができるようになること（解決する力、学び続ける力）
(15)授業の概要	習得した発声のテクニックをさらに向上させるために、イタリア古典歌曲・イタリア歌曲・日本の伝統的歌曲等から、アジリタや跳躍を含むやや高度な作品に取り組みます。 また、作曲家や国・時代・言葉他からくる様式の違いについて実習します。
(16)授業の内容 予定	学習者の実態に応じて個人毎の課題を決めます。ヨーロッパ語圏の歌曲は主にロマン派までの作品、日本歌曲は時代を問わず、オペラアリアはモーツァルトまでの作品から選曲します。また必要に応じ、共通教材の弾き歌いを行います。 第1回 これまでに学んだ発声の復習とトスティ練習曲集 第2回 トスティ50番練習曲 任意の楽曲の独唱 それぞれの声に合わせた課題を選択 第3回 トスティ50番練習曲 任意の楽曲の独唱（導入） 第4回 トスティ50番練習曲 任意の楽曲の独唱（発展） 第5回 トスティ50番練習曲 任意の楽曲の独唱または重唱（1）（導入） 第6回 トスティ50番練習曲 任意の楽曲の独唱または重唱（1）（発展） 第7回 トスティ50番練習曲 任意の楽曲の独唱または重唱（1）（研究） 第8回 トスティ50番練習曲 任意の楽曲の独唱または重唱（1）（総括） 第9回 トスティ50番練習曲 舞台演技法〈3〉 第10回 トスティ50番練習曲 任意の楽曲の独唱または重唱（2）（導入） 第11回 トスティ50番練習曲 任意の楽曲の独唱または重唱（2）（発展） 第12回 トスティ50番練習曲 任意の楽曲の独唱または重唱（2）（展開） 第13回 トスティ50番練習曲 任意の楽曲の独唱または重唱（2）（研究） 第14回 トスティ50番練習曲 任意の楽曲の独唱または重唱（2）（総括） 第15回 任意の既習曲（独唱と重唱）の成果発表

	なお、毎回評価の対象とするので充分準備をすること。 それぞれの実態に応じて進めるため、内容が変更になる場合があります。
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	課題練習と基礎練習を毎日40分以上行うこと。
(18)学問分野 1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験の ある教員による 授業科目につい て	実務教員
(20)教材・教科 書	トスティ練習曲集50番, パノフカ24番, コンコーネ25番, イタリア歌曲集他 必要に応じ指示します。
(21)参考文献	必要に応じ指示します。
(22)成績評価方 法及び採点基準	実技教科の特性上、日々の練習の積み重ねを重視し、毎時間の課題習得度と 取り組み姿勢(80%)、演奏発表(20%)を総合的に評価する予定です。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・ 授業方法	個人指導と集団指導を両方行います。
(25)留意点・予 備知識	外国語(ヨーロッパ語圏の言語)・文学・歴史などに興味を持ち、声楽だけ でなく、音楽史、ソルフェージュ、ピアノなど音楽全般について深く勉強し てください。
(26)オフィスア ワー	月曜日 12:00~12:30
(27)Eメールア ドレス・HPアド レス	kabochan@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	385
(2)区分番号	385
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	独唱IID (Solo (Voice Performance) IID)
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	初等中等（中コース音楽サブコース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 7・8時限
(10)担当教員（所属）	杉原 かおり（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3~4
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○作曲家や国・言葉による各曲の様式の違いや発声の違いを感じ取ることができること（見通す力） ○それらを表現できること（解決する力, 学び続ける力） ○自他の声の発達状態を理解すること（見通す力） ○自分に合った適切な選曲ができること（解決する力, 学び続ける力）
(15)授業の概要	幅広い声楽作品に取り組みます。また、表現の幅を広げるために重唱なども行います。
(16)授業の内容予定	<p>学習者の実態に応じて個人毎の課題を決めます。歌曲は時代を問わず、オペラアリア・重唱曲は近・現代を除く作品（オーケストラが小編成の作品）から選曲します。また必要に応じ、共通教材の弾き歌いを行います。</p> <p>第1回 これまでに学んだ発声の復習とトスティ練習曲集 第2回 トスティ50番練習曲 任意の楽曲の独唱 それぞれの声に合わせた課題を選択 第3回 トスティ50番練習曲 任意の楽曲の独唱（導入） 第4回 トスティ50番練習曲 任意の楽曲の独唱（発展） 第5回 トスティ50番練習曲 任意の楽曲の独唱または重唱（1）（導入） 第6回 トスティ50番練習曲 任意の楽曲の独唱または重唱（1）（発展） 第7回 トスティ50番練習曲 任意の楽曲の独唱または重唱（1）（展開） 第8回 トスティ50番練習曲 任意の楽曲の独唱または重唱（1）（総括） 第9回 トスティ50番練習曲 舞台演技法〈4〉 第10回 トスティ50番練習曲 任意の楽曲の独唱または重唱（2）（導入） 第11回 トスティ50番練習曲 任意の楽曲の独唱または重唱（2）（発展） 第12回 トスティ50番練習曲 任意の楽曲の独唱または重唱（2）（展開） 第13回 トスティ50番練習曲 任意の楽曲の独唱または重唱（2）（研</p>

	<p>究) 第14回 トスティ50番練習曲 任意の楽曲の独唱または重唱 (2) (総括) 第15回 任意の既習曲(独唱と重唱)の成果発表</p> <p>なお、毎回評価の対象とするので充分準備をすること。 それぞれの実態に応じて進めるため、内容が変更になる場合があります。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	課題練習と基礎練習を毎日40分以上行うこと。
(18)学問分野 1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	トスティ練習曲集50番, パノフカ24番, コンコーネ25番, イタリア歌曲集他
(21)参考文献	必要に応じ指示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	実技教科の特性上、日々の練習の積み重ねを重視し、毎時間の課題習得度と取り組み姿勢(80%)、演奏発表(20%)を総合的に評価する予定です。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	個人指導と集団指導を両方行います。
(25)留意点・予備知識	外国語(ヨーロッパ語圏の言語)・文学・歴史などに興味を持ち、声楽だけでなく、音楽史、ソルフェージュ、ピアノなど音楽全般について深く勉強してください。
(26)オフィスアワー	月曜日 12:00~12:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	kabochan@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	386
(2)区分番号	386
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	合奏および和楽器 (Chamber Ensembles (Including Traditional Japanese Instruments))
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等 (小・音楽サブコース) ・初等中等 (中コース音楽) ・特支 (中コース音楽) : 必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 1・2時限
(10)担当教員 (所属)	和田 美亀雄 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル1
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○合奏の基礎となるソルフェージュを身につけアンサンブルの実践法を理解すること (解決する力)</p> <p>○演奏理論を実践に繋げるため、練習の持続力・探求力を身につけること (学び続ける力)</p> <p>○和楽器 (尺八や琴) を通じて日本の伝統音楽を実習し、簡単な小品の演奏ができるようになること (学び続ける力)</p>
(15)授業の概要	音楽教員に必要な基本的ソルフェージュ能力の習得。また、合奏によるコミュニケーション能力の向上を目指します。更に日本の伝統音楽から和楽器の尺八や琴の基本的奏法を実習します。
(16)授業の内容予定	<p>第1回：ボディー・パーカッションによる拍子全般についての実技表現を学びます。</p> <p>第2回：ボディー・パーカッションによる2～4重奏を実習します。</p> <p>第3回：ボディー・パーカッションによるラテン系音楽を実習します。</p> <p>第4回：ヴォイス・アンサンブルによる「音程を伴うリズム」について実習します。</p> <p>第5回：ヴォイス・アンサンブルによる「リズムとハーモニー」の関係を学習し実習します。</p> <p>第6回：ヴォイス・アンサンブルによる2～4重唱を実習します。</p> <p>第7回：和楽器について基本的な演奏姿勢から楽譜の読み方等を実習します。</p> <p>第8回：和楽器について簡単な作品を使って演奏の基本を実習します。</p> <p>第9回：和楽器について簡単な作品を使って合奏の基本を実習します。</p> <p>第10回：リコーダー (アルト) によるブレス、フィンガリングやタンギングの基礎奏法を実習します。</p> <p>第11回：リコーダー (アルト) によるリズムとメロディー表現を単旋律作品を基に実習します。</p> <p>第12回：リコーダー (アルト) によるリズムやメロディー、ハーモニー表現を2重奏作品を基に実習します。</p> <p>第13回：リコーダー (アルト) による合奏能力を養うため、2～4重奏作品を基に実習します。</p> <p>第14回：リコーダー (アルト) による初見能力を養うため、簡単な作品</p>

	<p>を基に実習します。 第15回：リコーダー（アルト）による初見能力を養うため、ソルフェージュ教材を基に実習します。 ☆授業の進行状況により内容が異なる場合があります。また、和楽器の授業は集中講義とします。（時期は毎回、担当講師と相談）</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	授業課題の訓練として、毎日30分程度の練習が必要となります。
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	適宜、資料を配布します。
(21)参考文献	適宜、指示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>実技研究のため、日々の積み重ねが重要視されます。 そのため、毎時の授業課題の修得度を厳密に評価します。 (90%) 演奏発表 (10%)</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	グループでの実技実習。
(25)留意点・予備知識	<p>教員免許認定科目 和楽器実技は集中講義とします。</p>
(26)オフィスアワー	木曜日 17:40~18:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	mikio@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特にありません。

教育学部

(1)整理番号	387
(2)区分番号	387
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	独奏および伴奏 (Instrumental Solo and Accompaniment)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等 (小・音楽サブコース) ・初等中等 (中コース音楽) ・特支 (中コース音楽) : 必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 5・6時限
(10)担当教員 (所 属)	宮本 香織 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベ ル)	レベル2
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○正しいテクニックと体の使い方を身につけること (解決する力) ○楽曲の様式感と構造を理解し、表現すること (学び続ける力) ○伴奏を通して、音楽のコミュニケーション力を身につけること (学び 続ける力)
(15)授業の概要	音階、分散和音、練習曲を通してピアノの基礎的テクニックを習得し、 それを演奏に活かせるようにします。この授業では主にバッハの作品を 正しく捉え、演奏することを目指します。 また、声楽曲や器楽曲の伴奏では、お互いの音を聴く、一緒に表現す る、といった、音楽でのコミュニケーションを楽しむことができるよう 意識して、楽曲に取り組みます。
(16)授業の内容予 定	第1回：ガイダンス及び課題曲の決定 第2回～第7回：音階と分散和音・練習曲 ※練習曲については、ハノン、ツェルニー、クラマー・ビューロ ー、モシュコフスキ等、 各自の進度によって決定します 第8回：まとめと次の課題曲決定 伴奏実践1 第9回：伴奏実践2 第10回：バッハを中心としたバロック作品の演奏研究 (曲想、テンポ) 第11回：バッハを中心としたバロック作品の演奏研究 (楽曲構成) 第12回：バッハを中心としたバロック作品の演奏研究 (指、身体のコー ディネート) 第13回：バッハを中心としたバロック作品の演奏研究 (和声の響きや進 行) 第14回：バッハを中心としたバロック作品の演奏研究 (音楽への想像 力) 第15回：バッハを中心としたバロック作品の演奏研究 (暗譜) 第16回：期末試験
(17)準備学習 (予 習・復習) 等の内容	授業内で示した課題を1日40分以上、よく練習して次の授業に臨んでく ださい

(18)学問分野1(主 学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副 学問分野)	-
(18)学問分野3(副 学問分野)	-
(19)実務経験のあ る教員による授業科 目について	実務教員
(20)教材・教科書	授業内で指示します。
(21)参考文献	適宜紹介します。
(22)成績評価方法 及び採点基準	平常評価（平常レッスンへの取り組み姿勢、事前の準備）：40% 期末評価（期末試験）：60% 上記を合算して、最終的な評価を行う予定です。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授 業方法	全体指導、個人指導
(25)留意点・予備 知識	コピー楽譜は認めません。
(26)オフィスアワ ー	世話教員へ予め電子メールで申し込むこと。
(27)Eメールアドレス ・HPアドレス	世話教員：朝山奈津子（音楽学研究室） asayaman@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	388
(2)区分番号	388
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	独奏I (Solo (Instrumental Performance) I)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース音楽）・特支（中コース音楽）：必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日 3・4時限
(10)担当教員（所 属）	和田 美亀雄（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベ ル）	レベル2
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○基礎力を充実させ、音楽教員としての幅広い実技能力が必要とされるため、管楽器の中からトロンボーン及びユーフォニアムの演奏法を理解し、実践すること（解決する力） ○基礎的な技術、音色等を習得するため、練習の持続力・探求力を身につけること（学び続ける力） ○学校吹奏楽の指導者としてふさわしい実技能力を身につけること（学び続ける力）
(15)授業の概要	基礎力を充実させ、音楽教員としての幅広い専門的実技能力を養成するため、管楽器の中からトロンボーン及びユーフォニアムの実技を学びます。また、吹奏楽指導者としての能力を養います。
(16)授業の内容予 定	第1回：楽器の持ち方、姿勢、アンブシュアづくり。 第2回：呼吸法、バズィング、タンギング方法を実践。 第3回：トロンボーンのスライド奏法について学習。 第4回：ユーフォニアムのピストン奏法について学習。 第5回：ロングトーン、各種タンギング、ピアノとの音程合わせ。 第6回：リップスラー（2度～5度の音程間） 第7回：音階と分散和音（B-Dur, 1オクターブのみ） 第8回：タンギングによる5度以上、1オクターブまでのインターバル訓練。 第9回：音量のコントロール。 第10回：トロンボーン各ポジションの倍音を学習。 第11回：ユーフォニアム各ピストンの倍音を学習。 第12回：リップスラー（1オクターブ）の訓練。 第13回：テヌート及びレガートのタンギング実習。 第14回：スタッカートタンギングについて実習。 第15回：8小節のフレーズを各アーティキュレーションで演奏。 ☆授業の進行状況により内容が異なる場合があります。
(17)準備学習（予 習・復習）等の内容	授業課題の訓練を毎日、30分程度必要とします。
	芸術関連

(18)学問分野1(主 学問分野)	
(18)学問分野2(副 学問分野)	-
(18)学問分野3(副 学問分野)	-
(19)実務経験のあ る教員による授業科 目について	実務教員
(20)教材・教科書	適宜、資料を配布します。
(21)参考文献	適宜、指示します。
(22)成績評価方法 及び採点基準	実技研究のため、日々の積み重ねが重要視されます。 そのため、毎時の授業課題の修得度を厳密に評価します。 (90%) 演奏発表 (10%)
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授 業方法	個人及びグループでの管楽器実技演習。
(25)留意点・予備 知識	特にありません。
(26)オフィスアワ ー	木曜日 17:40~18:30
(27)Eメールアドレ ス・HPアドレス	mikio@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特にありません。

教育学部

(1)整理番号	389
(2)区分番号	389
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	独奏II (Solo (Instrumental Performance) II)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース音楽）・特支（中コース音楽）：必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 5・6時限
(10)担当教員 (所属)	宮本 香織（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○正しいテクニックと体の使い方を身につけること（解決する力） ○楽曲の様式感と構造を理解し、表現すること（学び続ける力）
(15)授業の概要	各自に合う練習曲を通してピアノの基礎的テクニックを確かなものにし、それを演奏に活かせるようにします。この授業では主に古典派の作品とショパンの作品を取り上げます。作品を正しく捉え、演奏することを目指します。
(16)授業の内容 予定	第1回：ガイダンス及び課題曲の決定 第2回：練習曲・古典派作品の演奏研究（曲想、テンポ） 第3回：練習曲・古典派作品の演奏研究（楽曲構成） 第4回：練習曲・古典派作品の演奏研究（指、身体のコーディネート） 第5回：練習曲・古典派作品の演奏研究（和声の響きや進行） 第6回：練習曲・古典派作品の演奏研究（音楽への想像力） 第7回：練習曲・古典派作品の演奏研究（暗譜） 第8回：まとめと次の課題曲決定 第9回：ショパンの演奏研究（曲想、テンポ） 第10回：ショパンの作品による演奏研究（楽曲構成） 第11回：ショパンの作品による演奏研究（指、身体のコーディネート） 第12回：ショパンの作品による演奏研究（和声の響きや進行） 第13回：ショパンの作品による演奏研究（エディション研究） 第14回：ショパンの作品による演奏研究（音楽への想像力） 第15回：ショパンの作品による演奏研究（暗譜） 第16回：期末試験
(17)準備学習 (予習・復習)等 の内容	授業内で示した課題を1日40分以上、よく練習して次の授業に臨んでください
	芸術関連

(18)学問分野 1(主学問分野)	
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	授業内で指示します。
(21)参考文献	適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（平常レッスンへの取り組み姿勢、事前の準備）：40% 期末評価（期末試験）：60% 上記を合算して、最終的な評価を行う予定です
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	全体指導、個人指導
(25)留意点・予備知識	コピー楽譜は認めません。
(26)オフィスアワー	世話教員へ予め電子メールで申し込むこと。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	世話教員：朝山奈津子（音楽学研究室） asayaman@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	独奏IVを受講予定の学生は必ず履修すること。

教育学部

(1)整理番号	390
(2)区分番号	390
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	独奏IIIA (Solo (Instrumental Performance) IIIA)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース音楽サブコース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 5・6時限
(10)担当教員（所 属）	和田 美亀雄（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベ ル）	レベル3
(13)対応するC P/D P	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○音楽教員としての幅広い実技能力を養成するため、管楽器の中からトロンボーン及びユーフォニアムの演奏法を理解すること（解決する力） ○基礎的な技術、音色の質的向上と正確な音程操作を習得するため、練習の持続力・探求力を身につけること（学び続ける力） ○学校吹奏楽の指導者としての能力を身につけること（解決する力）
(15)授業の概要	基礎技術の充実と、トロンボーン・スライドの特殊技術やユーフォニアムのピストン操作をエチュード等を使用しながら習得します。また、両楽器の響きの相違点を追求し、特徴的な表現方法を学びます。
(16)授業の内容予 定	第1回：個々の基礎練習法の確立を模索します。 第2回：基礎練習法の習慣化、安定化を目指します。 第3回：エチュード（コーポラッシュ）により個々のレベルアップを図ります。 第4回：エチュードを個々のレベルに配慮しながら進めます。 第5回：エチュードと並行して、音階や分散和音の訓練を繰り返し実践します。 第6回：エチュードと並行して小品による音色探求や演奏表現を学びます。 第7回：エチュードと並行して、小品による音色探求や演奏表現を深めていきます。 第8回：容易な独奏作品における楽曲分析を演奏表現を学びます。 第9回：容易な合奏作品における楽曲分析と演奏表現を学びます。 第10回：容易な管弦楽作品における楽曲分析と演奏表現を学びます。 第11回：容易な室内楽作品における楽曲分析と演奏表現を学びます。 第12回：ドイツ、バロック作品における楽曲分析と演奏表現を学びます。 第13回：「伴奏合わせ」における練習法を実習します。 第14回：「伴奏合わせ」における演奏法を実習します。 第15回：「初見」における実践的演奏法を実習します。 ☆授業の進行状況により内容が異なる場合があります。
	授業課題の訓練を毎日、30分以上必要とします。

(17)準備学習（予習・復習）等の内容	
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	60 Selected Studies for Brass Instruments (C. Kopprasch) 他、適宜、指示します。
(21)参考文献	適宜、指示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	実技研究のため、日々の積み重ねが重要視されます。そのため、毎時の授業課題の修得度を厳密に評価します。 (90%) 演奏発表 (10%)
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	個人及びグループでの管楽器実技演習。
(25)留意点・予備知識	独奏ⅢCと同時開講。
(26)オフィスアワー	木曜日 17:40~18:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	mikio@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特にありません。

教育学部

(1)整理番号	391
(2)区分番号	391
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	独奏IIIB (Solo (Instrumental Performance) IIIB)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース音楽サブコース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 5・6時限
(10)担当教員 (所属)	和田 美亀雄（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/D P	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○音楽教員としての幅広い実技能力を養成するため、管楽器の中かこと（解決する力） ○基礎的な技術、音色の質的向上と正確な音程操作を習得するため、練習の持続力・探求力を身につけること（学び続ける力） ○学校吹奏楽の指導者としての能力を身につけること（解決する力）
(15)授業の概要	基礎技術の充実とトロンボーン・スライドの特殊技術やユーフォニアムのピストン操作をエチュード等を使用しながらレベルアップしていきます。また、両楽器の響きの特徴を活かした演奏表現や正確な純正律音程の操作法を目指します。
(16)授業の内容 予定	第1回：個々の基礎練習法を確立させます。 第2回：基礎練習法の習慣化、安定化を確立させます。 第3回：エチュード（コーポラッシュ）により個々のレベルアップを図ります。 第4回：エチュードを個々のレベルに配慮しながら進めます。 第5回：エチュードと並行して、音階や分散和音を全調で練習します。 第6回：エチュードと並行して、小品による音色探求や演奏表現を深めます。 第7回：独奏作品において楽曲分析と演奏表現を深めます。 第8回：合奏作品において楽曲分析と演奏表現を深めます。 第9回：管弦楽作品において楽曲分析と演奏表現を深めます。 第10回：室内楽作品において楽曲分析と演奏表現を深めます。 第11回：イタリア・バロック作品の楽曲分析と演奏表現を学びます。 第12回：「伴奏合わせ」における練習法を習得します。 第13回：「伴奏合わせ」における演奏法を習得します。 第14回：①「長調の初見」における実践的演奏法を習得します。 第15回：②「短調の初見」における実践的演奏法を習得します。 ☆授業の進行状況により内容が異なる場合があります。
	授業課題の訓練を毎日、30分以上必要とします。

(17)準備学習 (予習・復習)等 の内容	
(18)学問分野 1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験の ある教員による授 業科目について	実務教員
(20)教材・教科 書	60 Selected Studies for Brass Instruments (C. Kopprasch) 他、適宜、指示します。
(21)参考文献	適宜、指示します。
(22)成績評価方 法及び採点基準	実技研究のため、日々の積み重ねが重要視されます。 そのため、毎時の授業課題の習得度を厳密に評価します。 (90%) 演奏発表 (10%)
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・ 授業方法	個人及びグループでの管楽器実技演習。
(25)留意点・予 備知識	独奏ⅢDと同時開講。
(26)オフィスア ワー	木曜日 17:40~18:30
(27)Eメールアド レス・HPアドレ ス	mikio@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特にありません。

教育学部

(1)整理番号	392
(2)区分番号	392
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	独奏III C (Solo (Instrumental Performance) IIIC)
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	初等中等（中コース音楽サブコース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 5・6時限
(10)担当教員（所属）	和田 美亀雄（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル4
(13)対応するCP/D P	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○音楽教員としての幅広い実技能力を養成するため、管楽器の中からトロンボーン及びユーフォニアムの演奏法を理解し実践すること（解決する力） ○基礎的な技術、音色の質的向上と正確な音程操作や金管楽器特有のリップスラーを習得し、練習の持続力・探求力を身につけること（学び続ける力） ○学校吹奏楽の指導者としての能力を身につけること（解決する力）
(15)授業の概要	基礎技術の充実と、トロンボーン・スライドの特殊技術やユーフォニアムのピストン操作をエチュード等を使用しながら更に深めます。また、両楽器の響きの相違点を追求し、特徴的な表現方法を学びます。
(16)授業の内容予定	第1回：個々の基礎練習法を確立していきます。 第2回：基礎練習法の習慣化、安定化を更に目指します。 第3回：エチュード（コーポラッシュ）により個々のレベルアップを図ります。 第4回：エチュードを個々のレベルに配慮しながら進めます。 第5回：エチュードと並行して、音階や分散和音の訓練を重要視します。 第6回：エチュードとして並行して、小品による音色探求や演奏表現を学びます。 第7回：エチュードと並行して、小品による音色探求や演奏表現を深めていきます。 第8回：独奏作品における楽曲分析と演奏表現を学びます。 第9回：合奏作品における楽曲分析と演奏表現を学びます。 第10回：管弦楽作品における楽曲分析と演奏表現を学びます。 第11回：室内楽作品における楽曲分析と演奏表現を学びます。 第12回：フランス・近代作品における楽曲分析と演奏表現を学びます。 第13回：「伴奏合わせ」における演奏法を実習します。 第14回：バス記号による「初見演奏法」を実習します。 第15回：アルト・テナー記号による「初見演奏法」を実習します。 ☆授業の進捗状況により内容が異なる場合があります。
	授業課題の訓練を毎日30分以上必要とします。

(17)準備学習（予習・復習）等の内容	
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	60 Selected studies for Brass Instruments 他、適宜指示します。
(21)参考文献	適宜、指示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	実技研究のため、日々の積み重ねが重要視されます。 そのため、毎時の授業課題の修得度を厳密に評価します。 (90%) 演奏発表 (10%)
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	個人及びグループでの管楽器実技演習。
(25)留意点・予備知識	独奏ⅢAと同時開講。
(26)オフィスアワー	木曜日 17:40~18:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	mikio@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特にありません。

教育学部

(1)整理番号	393
(2)区分番号	393
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	独奏IIID (Solo (Instrumental Performance) IIID)
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	初等中等（中コース音楽サブコース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 5・6時限
(10)担当教員（所属）	和田 美亀雄（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル4
(13)対応するCP/D/P	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○音楽教員としての幅広い実技能力を養成するため、管楽器の中からトロンボーン及びユーフォニアムの演奏法を理解すること（解決する力） ○基礎的な技術、音色の質的向上と正確な音程操作を習得するため、練習の持続力・探求力を身につけること（学び続ける力） ○学校吹奏楽の指導者としての能力を身につけること（解決する力）
(15)授業の概要	基礎技術の充実と、トロンボーン・スライドの特殊技術やユーフォニアムのピストン操作をエチュード等を使用しながらレベルアップしていきます。また、両楽器の響きの特徴を活かした演奏表現を目指します。
(16)授業の内容予定	第1回：個々の基礎練習法を確立させます。 第2回：基礎練習法の習慣化、安定化を確立させます。 第3回：エチュード（コーポラッシュなど）により個々のレベルアップを図ります。 第4回：エチュードを個々のレベルの配慮しながら進めます。 第5回：エチュードと並行して、音階や分散和音を全調で練習します。 第6回：エチュードと並行して、小品による音色探求や演奏表現を深めます。 第7回：独奏作品における楽曲分析と演奏表現を深めます。 第8回：合奏作品における楽曲分析と演奏表現を深めます。 第9回：管弦楽作品における楽曲分析と演奏表現を深めます。 第10回：室内楽作品における楽曲分析と演奏表現を深めます。 第11回：コンクール課題曲のが楽曲分析と演奏表現を学びます。 第12回：「伴奏合わせ」における演奏法を学びます。 第13回：中音部記号が混在する楽譜の「初見」を訓練します。 第14回：サクバットについて学びます。 第15回：サクバットの演奏法を学びます。 ☆授業の進捗状況により内容が異なる場合があります。
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	授業課題の訓練を毎日30以上必要とします。

(18)学問分野1(主 学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副 学問分野)	-
(18)学問分野3(副 学問分野)	-
(19)実務経験のあ る教員による授業 科目について	実務教員
(20)教材・教科書	60 Selected studies for Brass Instruments 他、 適宜、指示します。
(21)参考文献	適宜、指示します。
(22)成績評価方法 及び採点基準	実技研究のため、日々の積み重ねが重要視されます。 そのため、毎時の授業課題の修得度を厳密に評価します。 (90%) 演奏発表 (10%)
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授 業方法	個人及びグループでの管楽器実技演習。
(25)留意点・予備 知識	独奏ⅢBと同時開講。
(26)オフィスアワ ー	木曜日 17:40~18:30
(27)Eメールアド レス・HPアドレス	mikio@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特にありません。

教育学部

(1)整理番号	394
(2)区分番号	394
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	独奏IVA (Solo (Instrumental Performance) IVA)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース音楽サブコース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日 7・8時限
(10)担当教員 (所属)	宮本 香織（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2～3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○楽曲の様式感と構造を把握し演奏すること（解決する力） ○音楽を聴き感じたことを言語化し、共有すること（学び続ける力）
(15)授業の概要	この授業ではロマン派の作品と近代の作品を取り上げます。作品を正しく捉え、演奏することを目指します。また、演奏をより発展させるため、お互いの演奏を聴き合い、感じたことを言葉で表現し伝えられるよう取り組んでいきます。
(16)授業の内容 予定	第1回：ガイダンス及び課題曲の決定 第2回：ロマン派作品の演奏研究(曲想、テンポ) 第3回：ロマン派作品の演奏研究(楽曲構成) 第4回：ロマン派作品の演奏研究(指、身体のコーディネート) 第5回：ロマン派作品の演奏研究(和声の響きや進行) 第6回：ロマン派作品の演奏研究(音楽への想像力) 第7回：ロマン派作品の演奏研究(暗譜) 第8回：まとめと次の課題曲決定 第9回：近代作品の演奏研究(曲想、テンポ) 第10回：近代作品の演奏研究(楽曲構成) 第11回：近代作品の演奏研究(指、身体のコーディネート) 第12回：近代作品の演奏研究(和声の響きや進行) 第13回：近代作品の演奏研究(音楽への想像力) 第14回：近代作品の演奏研究(暗譜) 第15回：演奏についての自己分析と他の演奏についての考察 第16回：期末試験
(17)準備学習 (予習・復習)等 の内容	授業内で示した課題を1日40分以上、よく練習して次の授業に臨んでください
	芸術関連

(18)学問分野 1(主学問分野)	
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	授業内で指示します。
(21)参考文献	適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（平常レッスンへの取り組み姿勢、事前の準備）：40% 期末評価（期末試験）：60% 上記を合算して、最終的な評価を行う予定です。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	全体指導、個人指導
(25)留意点・予備知識	コピー楽譜は認めません。 独奏Ⅱを履修済みのこと。
(26)オフィスアワー	世話教員へ予め電子メールで申し込むこと。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	世話教員：朝山奈津子（音楽学研究室） asayaman@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	395
(2)区分番号	395
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	独奏IVB (Solo (Instrumental Performance) IVB)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース音楽サブコース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 7・8時限
(10)担当教員（所 属）	宮本 香織（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベ ル）	レベル3
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具 体的到達目標	○楽曲の様式感と構造を把握し演奏すること（解決する力） ○初見演奏を通して包括的に音楽を捉えられるようになること（学び続ける力）
(15)授業の概要	この授業では、前半では近現代作品、後半では各々決定した楽曲に取り組みます。また、初見課題では音楽を瞬時に、包括的に捉えて演奏できるようにすることを目指します。
(16)授業の内容予定	第1回：ガイダンス及び課題曲の決定 第2回：近現代作品の演奏研究（曲想、テンポ） 第3回：近現代作品の演奏研究（楽曲構成） 第4回：近現代作品の演奏研究（指、身体のコーディネート） 第5回：近現代作品の演奏研究（和声の響きや進行） 第6回：近現代作品の演奏研究（音楽への想像力） 第7回：近現代作品の演奏研究（暗譜） 第8回：まとめと次の課題曲決定 初見演奏の実践1 第9回：任意の作品による演奏研究（曲想、テンポ） 第10回：任意の作品による演奏研究（楽曲構成） 第11回：任意の作品による演奏研究（指、身体のコーディネート） 第12回：任意の作品による演奏研究（和声の響きや進行） 第13回：任意の作品による演奏研究（音楽への想像力） 第14回：任意の作品による演奏研究（暗譜） 第15回：初見演奏の実践2 第16回：期末試験
(17)準備学習（予 習・復習）等の内容	授業内で示した課題を1日40分以上、よく練習して次の授業に臨んでください
(18)学問分野1(主学 問分野)	芸術関連
	-

(18)学問分野2(副学問分野)	
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	授業内で指示します。
(21)参考文献	適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（平常レッスンへの取り組み姿勢、事前の準備）：40% 期末評価（期末試験）：60% 上記を合算して、最終的な評価を行う予定です。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	全体指導、個人指導
(25)留意点・予備知識	コピー楽譜は認めません。 独奏Ⅱを履修済みのこと。
(26)オフィスアワー	世話教員へ予め電子メールで申し込むこと。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	世話教員：朝山奈津子（音楽学研究室） asayaman@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	396
(2)区分番号	396
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	独奏IVC (Solo (Instrumental Performance) IVC)
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	初等中等（中コース音楽サブコース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日 5・6時限
(10)担当教員（所 属）	宮本 香織（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベ ル）	レベル3~4
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○楽曲の様式感と構造を把握し演奏すること（解決する力） ○初見演奏及び即興演奏を通して、包括的に音楽を捉え、応用できる力を身につけること（学び続ける力） ○関連する文献資料を読み、それを演奏に結び付けてより深い表現ができるようになること（学び続ける力）
(15)授業の概要	この授業では、各々決定した楽曲に取り組みます。視野を広く持ち、文献資料や様々なエディションの楽譜、様々な演奏家の演奏音源などに触れ、音楽をより高めていく方法を身に付けます。 また、初見課題と即興課題では音楽を瞬時に、包括的に捉えて演奏できる応用力を養います。
(16)授業の内容予 定	第1回：ガイダンス及び課題曲の決定 第2回：任意の作品による演奏研究（曲想、テンポ） 第3回：任意の作品による演奏研究（楽曲構成） 第4回：任意の作品による演奏研究（指、身体のコーディネート） 第5回：任意の作品による演奏研究（和声の響きや進行） 第6回：任意の作品による演奏研究（音楽への想像力） 第7回：初見演奏・即興演奏の実践1 第8回：初見演奏・即興演奏の実践2 第9回：任意の作品による演奏研究（作曲家についての文献研究） 第10回：任意の作品による演奏研究（解釈史等の文献研究） 第11回：任意の作品による演奏研究（文献研究と演奏の関連付け） 第12回：任意の作品による演奏研究（楽譜の比較） 第13回：任意の作品による演奏研究（様々な演奏解釈） 第14回：任意の作品による演奏研究（暗譜） 第15回：演奏についての自己分析と他の演奏についての考察 第16回：期末試験
(17)準備学習（予 習・復習）等の内容	授業内で示した課題を1日40分以上、よく練習して次の授業に臨んでください
	芸術関連

(18)学問分野1(主 学問分野)	
(18)学問分野2(副 学問分野)	-
(18)学問分野3(副 学問分野)	-
(19)実務経験のあ る教員による授業科 目について	実務教員
(20)教材・教科書	授業内で指示します。
(21)参考文献	適宜紹介します。
(22)成績評価方法 及び採点基準	平常評価（平常レッスンへの取り組み姿勢、事前の準備）：40% 期末評価（期末試験）：60% 上記を合算して、最終的な評価を行う予定です。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授 業方法	全体指導、個人指導
(25)留意点・予備 知識	コピー楽譜は認めません。 独奏Ⅱを履修済みのこと。
(26)オフィスア ワ ー	世話教員へ予め電子メールで申し込むこと。
(27)Eメールアドレ ス・HPアドレス	世話教員：朝山奈津子（音楽学研究室） asayaman@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	397
(2)区分番号	397
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	独奏IVD (Solo (Instrumental Performance) IVD)
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	初等中等（中コース音楽サブコース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 9・10時限
(10)担当教員（所属）	宮本 香織（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル4
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○演奏する身体、心を保つ方法を見つけること（解決する力） ○多角的に音楽を捉え、自らの音楽表現ができること（学び続ける力）
(15)授業の概要	この授業では、各々決定した楽曲に取り組みます。多角的に音楽を捉え、それを土台に自分らしい音楽表現を創り上げられるようになることを目指します。 また、人前で演奏するということを改めて見つめ、自分の身体と心をどのように保っていくのか、考えていきます。
(16)授業の内容予定	第1回：ガイダンス及び課題曲の決定 第2回：任意の作品による演奏研究（曲想、テンポ） 第3回：任意の作品による演奏研究（楽曲構成） 第4回：任意の作品による演奏研究（指、身体のコーディネート） 第5回：任意の作品による演奏研究（和声の響きや進行） 第6回：任意の作品による演奏研究（音楽への想像力） 第7回：演奏することについて（身体を保つ） 第8回：演奏することについて（心を保つ） 第9回：任意の作品による演奏研究（作曲家についての文献研究） 第10回：任意の作品による演奏研究（解釈史等の文献研究） 第11回：任意の作品による演奏研究（文献研究と演奏の関連付け） 第12回：任意の作品による演奏研究（楽譜の比較） 第13回：任意の作品による演奏研究（様々な演奏解釈） 第14回：任意の作品による演奏研究（暗譜） 第15回：演奏についての自己分析と他の演奏についての考察 第16回：期末試験
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	授業内で示した課題を1日40分以上、よく練習して次の授業に臨んでください
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連

(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	授業内で指示します。
(21)参考文献	適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（平常レッスンへの取り組み姿勢、事前の準備）：40% 期末評価（期末試験）：60% 上記を合算して、最終的な評価を行う予定です
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	全体指導、個人指導
(25)留意点・予備知識	コピー楽譜は認めません。 独奏Ⅱを履修済みのこと。
(26)オフィスアワー	世話教員へ予め電子メールで申し込むこと。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	世話教員：朝山奈津子（音楽学研究室） asayaman@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	398
(2)区分番号	398
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	指揮法 (Conducting)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等 (小・音楽サブコース) ・初等中等 (中コース音楽) ・特支 (中コース音楽) : 必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日 1・2時限
(10)担当教員 (所属)	清水 稔 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○指揮法の基本的な技術を身につけること (見通す力) ○教育現場で必要な、身体的表現や意思の伝達能力を身につけること (解決する力) ○指揮者としての役割と心構えについて理解すること (見通す力)
(15)授業の概要	合唱や合奏における指揮者としての必要な技術を身につけ、知識を学ぶことができるように、実際の場面を想定しながら技法の習得を目指します。全員で練習をしながら、その中で個別に実践することで、お互いに意見交換をしながら技術の向上を図ります。また、指揮法の基礎的な技術から、スコアリーダーング、楽曲分析、移調楽器の読譜も学びます。
(16)授業の内容予定	第1回 指揮者とは何か 第2回 打点と点前、点後及び構えと姿勢 第3回 打法と拍子 第4回 平均運動 第5回 しゃくい 第6回 直接運動(跳ね上げ) 第7回 直接運動(先入・引っ掛け) 第8回 楽曲分析と応用 (導入) 第9回 楽曲分析と応用 (発展) 第10回 楽曲分析と応用 (総括) 第11回 移調楽器とスコアリーダーング 第12回 左手の活用 第13回 合奏指導における実践 第14回 総合演習 (課題の選択と練習) 第15回 総合演習 (実践発表と討議)
	授業での課題を、日々行うことが必要です。 授業内で課題を随時提示しますので、その練習に努めましょう (3時間)。

(17)準備学習 (予習・復習)等の内容	また、次の回に学習部分について事前に教科書を見て内容を掴むようにしてください(1時間)。
(18)学問分野 1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	思想関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	斎藤秀雄『指揮法教程』音楽之友社
(21)参考文献	小松一彦『実践的指揮法 管弦楽・吹奏楽の指揮を目指す人に』音楽之友社
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への参加姿勢(15%) 毎時間の課題の習得度(50%) 最終課題(35%) 以上を総合的に評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	ピアノ等を音源とした指揮実技演習
(25)留意点・予備知識	特にありません。
(26)オフィスアワー	E-mailにてアポを取ってください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	m-shimizu@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特にありません。

教育学部

(1)整理番号	399
(2)区分番号	399
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	音楽理論I (Theory of Music I)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（小・音楽サブコース）、初等中等（中コース音楽）・特支（中コース音楽）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 1・2時限
(10)担当教員 (所属)	清水 稔（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての 具体的到達目標	○西洋音楽の基礎となる理論を実感をもって理解することができること（見通す力） ○和声のルールと技法について理解し、創作できる技術を身につけること（解決する力） ○作品を和声の観点から分析することができること（解決する力）
(15)授業の概要	作曲や編曲の下地となる音楽理論の知識と技法を身につけることが目的となります。 基本的には西洋音楽の和声法における理論ですが、その背景にある原理や理由を学ぶことで、既存の様式にとらわれず、創造性をもって音と向き合えるような学びにしたいと思います。 また、幅広い和声の技法を学ぶことで、教育現場での多様な音楽に対応できるような知識と技術を身につけることを目指します。
(16)授業の内容 予定	1時間目：音楽理論について（意義と教育での活用） 2時間目：拍子とリズム 3時間目：旋律と音階・旋法の関係 4時間目：4声体と声部 5時間目：3和音の連結（和声進行と禁則） 6時間目：3和音の機能（I V VI） 7時間目：3和音の機能（II VI） 8時間目：3和音の第1転回型 9時間目：3和音の第2転回型 10時間目：V7の和音とドミナントモーション 11時間目：借用和音 12時間目：借用和音と転調 13時間目：和声の創作 14時間目：変位音と転位音 15時間目：試験

(17)準備学習 (予習・復習)等 の内容	その都度、次回までの課題を提示しますので、学習したことを繰り返し取り組むようにしてください(3時間)。また、次の回の予習として、授業内で示されたキーワードについて事前に調べておくようにしてください(1時間)。
(18)学問分野 1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	思想関連
(19)実務経験のある 教員による授業科目 について	-
(20)教材・教科書	柳田孝義『名曲で学ぶ和声法』(音楽之友社)
(21)参考文献	近藤秀秋『音楽の原理』(アルテス) 島岡 譲『和声のしくみ・楽曲のしくみ』(音楽之友社) 島岡 譲『和声 理論と実習 I』(音楽之友社)
(22)成績評価方法 及び採点基準	授業への参加姿勢(15%) 授業内での課題の達成度(50%) 振り返りの試験(35%) 以上を総合して評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・ 授業方法	和声課題を解きながら、実際に演奏をすることで響きを実感しながら進めます。お互いに課題の解答を批評しながら、和声進行の感覚と技術を身につけます。
(25)留意点・予 備知識	基本的な楽典の知識
(26)オフィスア ワー	E-Mailにてアポを取ってください。
(27)Eメールアド レス・HPアドレ ス	m-shimizu@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特にありません。

教育学部

(1)整理番号	400
(2)区分番号	400
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	音楽理論II (Theory of Music II)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース音楽）・特支（中コース音楽）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日 3・4時限
(10)担当教員 (所属)	清水 稔（教育学部）
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2～3
(13)対応する C P / D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業とし ての具体的到達 目標	○西洋音楽の基礎となる理論を実感をもって理解すると同時に諸外国の理論についても理解を深めることができること（見通す力） ○和声のルールと技法について理解し、創作できる技術を身につけること（解決する力） ○作品を和声の観点から分析することができること（解決する力）
(15)授業の概 要	音楽理論Iでの学習を基に、作曲や編曲の下地となる音楽理論の知識と技法をより高い技術で身につけることが目的となります。西洋音楽の語法を基盤にしながら、現代の書法や諸外国の理論についても見識を深め、教育現場での多様な音楽に対応できるような知識と技術を身につけることを目指します。
(16)授業の内 容予定	1時間目：和声進行の復習（ドミナントモーションと属七の和音） 2時間目：属七の根音省略形 3時間目：属九の和音 4時間目：4和音について 5時間目：付加6の和音 6時間目：ナポリのIIとドリアのIV 7時間目：反復進行 8時間目：非和声音 9時間目：偶成和音 10時間目：バス課題による総合問題 11時間目：ソプラノ課題による総合問題 12時間目：コラルの作曲（導入） 13時間目：コラルの作曲（発展） 14時間目：品評会 15時間目：試験
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	音楽理論Iで学習した知識が必要です。その都度、次回までの課題を提示しますので、学習したことを繰り返し取り組むようにしてください（3時間）。また、次の回の予習として、授業内で示されたキーワードについて事前に調べておくようにしてください（1時間）。
	芸術関連

(18)学問分野 1(主学問分野)	
(18)学問分野 2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	思想関連
(19)実務経験 のある教員によ る授業科目につ いて	-
(20)教材・教 科書	柳田孝義『名曲で学ぶ和声法』（音楽之友社）
(21)参考文献	・近藤秀秋『音楽の原理』（アルテス） ・島岡 譲『和声のしくみ・楽曲のしくみ』（音楽之友社） ・島岡 譲『和声 理論と実習Ⅱ・Ⅲ』（音楽之友社）
(22)成績評価 方法及び採点基 準	授業への参加姿勢（15%） 授業での課題の達成度（50%） 振り返りの試験（35%） 以上を総合して評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形 態・授業方法	課題を解きながら、実際に演奏することを通して和声進行を実感しながら身に付けていきます。また、コードネームの学習も同時に行い、キーボードハーモニーと即興を基にした伴奏付けなども行います。
(25)留意点・ 予備知識	基本的に音楽理論Ⅰを受講していることが前提となります。
(26)オフィス アワー	E-Mailにてアポを取ってください。
(27)Eメールア ドレス・HPア ドレス	m-shimizu@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特にありません。

教育学部

(1)整理番号	401
(2)区分番号	401
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	作曲法I(編曲法を含む) (Composition I (Included Arrangement))
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等(小・音楽サブコース)・初等中等(中コース音楽)・特支(中コース音楽)：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 1・2時限
(10)担当教員 (所属)	清水 稔(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての 具体的到達目標	○歌曲の作曲とアンサンブルへの編曲ができること(見通す力) ○作品にするために音を構成していく上での基本的な原理を理解すること(見通す力) ○言葉と作曲行為の関係について理解し、歌の作品を創るための技術を身につけること(解決する力) ○楽器の特性を理解し、編曲をする技術を身につけること(解決する力)
(15)授業の概要	基本的な形式を用いた作品づくりを通して、作曲の技法を身につけるとともに、創作に対する考え方を深めることができます。また、教育現場での場面を想定した課題に取り組むことで、現場での実践的な力を身につけることも目指します。 発表と意見交換を繰り返し行うことで、創作行為の理解を深め、問題解決の力を身につけることができます。
(16)授業の内容 予定	1時間目：作曲という行為について 2時間目：二部形式の作曲(動機・反復・変化) 3時間目：歌の旋律(言葉と抑揚) 4時間目：歌の旋律(和声と旋律) 5時間目：バックギング的な伴奏とフィルインの役割 6時間目：合唱における対旋律の書法 7時間目：対旋律と対位法 8時間目：編曲の方法と留意点 9時間目：ブルグミュラーの編曲(奏法と制限) 10時間目：編曲と著作権 11時間目：合唱曲における声部の役割 12時間目：合唱曲における伴奏の機能と書法 13時間目：合唱曲の構成について 14時間目：合唱曲の作曲 15時間目：品評会
	授業の中で課題の指示をします。基本的には授業外でも作品の制作を進めますので、4時間は取り組むようにしてください。

(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	授業外で作曲をして授業で成果を披露しながら進めますので、授業で学んだことをその都度振り返りながら取り組むこととなります。
(18)学問分野 1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	思想関連
(19)実務経験のある 教員による 授業科目について	-
(20)教材・教科書	石柘真礼生『楽式論』（音楽之友社） ※五線紙とプリントを用います。主にパソコンを用いて作曲・浄書をするのでパソコンを持参してください。
(21)参考文献	青島広志『名曲の設計図』（全音） 島岡 譲『和声と楽式のアナリゼ』（音楽之友社）
(22)成績評価方法 及び採点基準	授業への参加姿勢（15%） 授業内での課題の達成度（50%） 最終課題の作品と発表（35%） 以上を総合して評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・ 授業方法	授業内で作曲をしたり、作品のプロセスや作品を発表し、お互いに意見交換をすることで知識と技術を身につけて向上させていきます。
(25)留意点・予 備知識	音楽理論Ⅰ・Ⅱを受講していることが望ましいです。
(26)オフィスア ワー	E-Mailにてアポを取ってください。
(27)Eメールア ドレス・HPアド レス	m-shimizu@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特にありません。

教育学部

(1)整理番号	402
(2)区分番号	402
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	作曲法II (Composition II)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース音楽サブコース）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日 1・2時限
(10)担当教員 (所属)	清水 稔（教育学部）
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル3
(13)対応する CP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業とし ての具体的到 達目標	○器楽の作品を作曲することができること（見通す力） ○作品にするために音を構成していく上での基本的な原理を理解すること（見通す力） ○楽器と表現の関係を理解しながら、楽器のための作品を創る技術を身につけることができること（解決する力）
(15)授業の概 要	基本的な形式を用いた作品づくりを通して、作曲の技法を身につけるとともに、創作に対する考え方を深めることができる。教育現場での場面を想定した課題に取り組むことで、実践的な力を身につけることを目的とする。また、作曲における理論的な背景を理解することで、創造的に音楽を創る基礎力を養う。
(16)授業の内 容予定	1時間目：器楽曲の特徴 2時間目：カノンの作曲 3時間目：協働的な創作について 4時間目：変奏曲の書法 5時間目：変奏曲の作曲 6時間目：作品の発表と協議 7時間目：動機と主題 8時間目：反復・変化・対称を生かした構成 9時間目：ソナタ形式について 10時間目：ソナチネの作曲技法（提示部） 11時間目：ソナチネの作曲技法（展開部） 12時間目：ソナチネの作曲技法（再現部とコーダ） 13時間目：自由創作（構成のデザイン） 14時間目：自由創作（作曲と意見交換） 15時間目：品評会
(17)準備学習 (予習・復 習)等の内容	授業の中で課題の指示をします。基本的には授業外でも作品の制作を進めますので、4時間は取り組むようにしてください。 授業外で作曲をして授業で成果を披露しながら進めますので、授業で学んだことをその都度振り返りながら取り組むことになります。

(18)学問分野 1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	思想関連
(19)実務経験 のある教員に よる授業科目 について	-
(20)教材・教 科書	石桁真礼生『楽式論』（音楽之友社） 五線紙を持参してください。また、パソコンを用いて作曲・浄書をするので、 パソコンを持参してください。使用するソフトは授業内で指示をします。
(21)参考文献	島岡 譲『和声と楽式のアナリゼ』（音楽之友社） 青島広志『名曲の設計図』（全音）
(22)成績評価 方法及び採点 基準	授業への参加（15%） 授業内での課題の達成度（50%） 最終作品と発表（35%） 以上を総合的に判断して評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形 態・授業方法	授業内で創作したり、授業外での創作途中のプロセスや成果を発表すること を通してお互いに意見交換します。お互いに学び合うことで、作曲における知 識・理解を深め、技術を向上させていきます。
(25)留意点・ 予備知識	音楽理論Ⅰ・Ⅱを受講していることが望ましいです。
(26)オフィス アワー	E-Mailにてアポを取ってください
(27)Eメール アドレス・HP アドレス	m-shimizu@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特にありません。

教育学部

(1)整理番号	403
(2)区分番号	403
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	音楽史(日本の伝統音楽及び民族音楽を含む) (History of Music (Included Japanese Traditional Music and Ethnomusicology))
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等(小・音楽サブコース)・初等中等(中コース音楽)・特支(中コース音楽)：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 5・6時限
(10)担当教員(所属)	朝山 奈津子(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○主要な作曲家と主要作品の知識を身につけ、西洋音楽史の大まかな流れを理解すること(見通す力) ○日本の音楽の主要な種目と響きの特性を理解すること(見通す力) ○民族音楽の概念を理解すること(見通す力)
(15)授業の概要	西洋と日本の伝統的な芸術音楽についての基礎的な用語、ジャンルと作品を学ぶ。
(16)授業の内容予定	※なお、授業内容と進行は受講生の関心と理解度に応じて適宜変更する。 西洋音楽史 第1回 バロックの声楽：オペラ、オラトリオ 第2回 ルネサンス：調性音楽の確立 第3回 中世：多声音楽の成り立ち 第4回 バロックの器楽：器楽の自立、バッハ 第5回 初期古典派：ヨーロッパ各地の様式 第6回 古典派：ハイドン、モーツァルト 第7回 盛期古典派：ベートーヴェン 第8回 ロマン主義前期：古典派からの連続性 第9回 ロマン主義の諸相：革新的傾向 第10回 20世紀(1)：ロマン主義の反動 第11回 20世紀(2)：第2次世界大戦後の新しい傾向 中間試験 第12回 西洋音楽史試験(30分程度) 日本音楽史 第12回 日本の音楽理論 第13回 古代と中世の芸能 第14回 近世の芸能 民族音楽学

	<p>第15回 沖縄の音楽</p> <p>期末試験 第16回 日本・民族音楽試験（15分程度） 西洋音楽史試験解説</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	授業の前に、教科書の該当箇所を読んでおくこと。また授業後は復習用のワークシートを配布するので、次回授業時に提出し、添削を受けること。毎週1時間程度の予復習を習慣づけること。
(18)学問分野1(主学問分野)	思想関連
(18)学問分野2(副学問分野)	芸術関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書(授業時かならず携行のこと)：久保田慶一 編著『決定版 はじめての音楽史 古代ギリシアの音楽から日本の現代音楽まで』東京：音楽之友社、2017。
(21)参考文献	<p>弘前大学付属図書館 蔵</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『音楽大事典』全6巻，岸辺成雄ほか編，平凡社，1981-83。 ・D. J. グラウト，C. V. パリスカ『新西洋音楽史』全3巻，戸口幸策・津上英輔・寺西基之共訳，音楽之友社，1998-2001。 ・D. G. ヒューズ『ヨーロッパ音楽の歴史』全2巻，H. M. ベニテズ・近藤譲訳，朝日出版社，1984。 ・M. カッロツツォ，C. チマガッリ『西洋音楽の歴史』全3巻，川西麻理訳，シーライト・パブリッシング，2009-2011。 ・村田千尋『西洋音楽史再入門』春秋社，2016。 ・月溪恒子『日本音楽との出会い』東京堂出版，2010。 ・吉川英史『日本音楽の歴史』創元社，1965。 ・金城厚『沖縄音楽入門』音楽之友社，2006。 <p>弘前大学教育学部音楽教育講座 蔵</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『ニューグローヴ世界音楽大事典』全23巻，柴田南雄・遠山一行総監修，講談社，1994-95。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>復習シートへの取り組み（20%）</p> <p>中間試験（60%）</p> <p>期末試験（20%）</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	教科書の記述や譜例をもとに、実際に作品を視聴しながら講義を進める。
(25)留意点・予備知識	特になし。
(26)オフィスアワー	電子メール等で予約をとること。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	asayaman@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし。

教育学部

(1)整理番号	404
(2)区分番号	404
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	音楽学I (Musicology I)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース音楽）・特支（中コース音楽）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 7・8時限
(10)担当教員 (所属)	朝山 奈津子（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2～3
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○「音楽」の理論的な知識を身につけること（見通す力） ○さまざまな「音楽」について研究する手がかりを自分で見つけることができること（学び続ける力） ○小学校および中学校における教材研究の方法論を身につけること（解決する力）
(15)授業の概要	音楽学、楽器学、音楽美学、音楽民族学、日本音楽史など、音楽学研究の成果を多様な観点から紹介する。 さらに、各自で実際に調査を行い、成果を発表して、研究の手順を実習する。
(16)授業の内容予定	※授業内容は、受講生の関心に応じて変更する。以下は予定。 第1回 ガイダンス：音楽学の成立と展開 第2回 音楽美学の諸問題 第3回 音楽の理論的基礎 第4回 楽器学の基礎（1）：成立と展開 第5回 楽器学の基礎（2）：分類の実際 第6回 民族音楽学概説 第7回 中間試験（1）：日本の伝統音楽研究の方法 第8回 日本の伝統音楽の歴史（1）：古代 第9回 日本の伝統音楽の歴史（2）：中世 第10回 日本の伝統音楽の歴史（3）：近世 第11回 日本の伝統音楽の歴史（4）：明治以降 第12回 中間試験（2）：研究発表の中間報告 第13回 演習 津軽地方の文化資源（受講者による研究発表）（1） 第14回 演習 津軽地方の文化資源（受講者による研究発表）（2） 第15回 演習 津軽地方の文化資源（受講者による研究発表）（3）
	各単元において関連する文献を紹介するので、各自、関心のあるものを読み、情報収集に努めること。第1-6回では、次時でのディスカッションのテーマを提示するので、自分の考えをまとめておくこと。以上について、毎週2時間程度の予習と復習を習慣づけること。

(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	2回の中間試験には十分な準備をもって臨むこと。 第13回以降の個人研究発表には、資料収集と発表資料の作成に十分な時間をかけること。
(18)学問分野 1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	思想関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による 授業科目について	-
(20)教材・教科書	第7-12回：久保田慶一編著『決定版 はじめての音楽史：古代ギリシアの音楽から日本の現代音楽まで』、音楽之友社、2017年。 また、資料を各時限に配布する。
(21)参考文献	授業中に指示する。
(22)成績評価方法及び採点基準	・ 中間試験（80%）：2回行う。 ・ 研究発表（20%）：準備状況、授業内での発表内容、配付資料および提示資料の構成を評価する。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・ 授業方法	第1-3回は、各回前半に配付資料を基に講義し、ディスカッションを行う。 第4-11回は、配付資料および教科書の記述を基に講義し、関連する音楽を試聴する。 第12-15回は、受講生の研究発表を基に、ディスカッションを行う。
(25)留意点・予備知識	特になし。
(26)オフィスアワー	電子メール等で予約を取ること。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	asayaman@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし。

教育学部

(1)整理番号	405
(2)区分番号	405
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	音楽学II (Musicology II)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 7・8時限
(10)担当教員 (所属)	朝山奈津子 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2~3
(13)対応するCP/D P	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的な到達目標	○音楽に関する専門的な情報を整理し、人に判りやすく伝えることができる (解決する力) ○音楽に関する専門的な情報のリテラシーを身につける (学び続ける力)
(15)授業の概要	<p>西洋と東洋をはじめとする世界の音楽について、受講者がそれぞれ、歴史的・文化的背景を踏まえながら、その成立・伝承・実践について調べ、発表します。</p> <p>テーマは小学校や中学校で教材として取り上げられる作品を中心に、受講者の関心に応じて選択します。</p> <p>なお、到達目標として、具体的には、次のようなことを求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽に関する専門的な情報を整理し、人に判りやすく伝えることができる =>さまざまな音楽における特殊な記号や固有の慣習を踏まえて資料の内容を理解できる =>楽譜、録音、録画、写真などの資料を適切に用いて説明ができる ・音楽に関する専門的な情報のリテラシーを身につける =>信用できる情報を見分けられる =>情報の所在と入手方法の見当をつけられる
(16)授業の内容 予定	<p>初回に受講者と教員で相談の上、関心に応じてテーマを設定する予定です。以下はH30年度実施事例。</p> <p>第1回 ガイダンス：テーマ設定 第2回 器楽領域で用いる楽器：飯村論文 第3回 器楽領域で用いる楽器：山中論文、嶋田論文 第4回 器楽領域で用いる楽器：受講者による研究発表 第5回 小学唱歌集の成立：概要、研究発表準備 第6回 小学唱歌集の成立：岩井論文、杉田論文 第7回 小学唱歌集の成立：ゴツチェフスキ論文</p>

	<p>第8回 文部省唱歌の成立：岩井論文、杉田論文 第9回 文部省唱歌の成立：権藤論文、鈴木論文 第10回 唱歌の音楽的特徴：岩井論文、杉田論文 第11回 唱歌の音楽的特徴：嶋田論文 第12回 唱歌各論：「ふるさと」、「揚げば尊し」と「蛍の光」 第13回 唱歌各論：「揚げば尊し」、「さくらさくら」 第14回 童謡運動の成立と展開：長田論文、小島論文、岩井論文 第15回 童謡運動の成立と展開：周東論文、井手口論文</p>
(17)準備学習 (予習・復習)等 の内容	<p>毎週、担当する文献を読み、発表のための原稿と資料を作成すること。おそらく4時間程度は必要と思われる。</p>
(18)学問分野 1(主学問分野)	<p>思想関連</p>
(18)学問分野 2(副学問分野)	<p>芸術関連</p>
(18)学問分野 3(副学問分野)	<p>-</p>
(19)実務経験のある 教員による授業 科目について	<p>-</p>
(20)教材・教科書	<p>初回にテーマを設定後、指示します。H30年度実施事例は以下の通り。</p> <p>飯村諭吉「小学校音楽教科書に扱われる打楽器とその時代的変遷：各打楽器の演奏技法に関する指導内容の分析を通して」、中央教育研究所編『教科書フォーラム：中研紀要』18(2017)、41-53頁。</p> <p>山中和佳子「日本の学校教育における鍵盤ハーモニカの導入」、『福岡教育大学紀要』65/5(2016)、17-24頁。</p> <p>山中和佳子「戦後日本の小学校におけるたて笛およびリコーダーの導入過程」、『音楽教育ジャーナル』7/2(2010)、73-83頁。</p> <p>嶋田由美「戦後の器楽教育の変遷：昭和期の『笛』と『鍵盤ハーモニカ』の扱いを中心として」、『音楽教育ジャーナル』7/2(2010)、15-25頁。</p> <p>永澄憲史他『唱歌の社会史：なつかしさとあやうさと』、メディアアイランド、2018年。</p> <p>鈴木治「『尋常小学唱歌』歌詞編纂についての一考察：『高野辰之文書』をめぐって」、音楽教育史学会編『音楽教育史研究』20(2017)、1-12頁。</p> <p>権藤敦子『高野辰之と唱歌の時代』、東京堂出版、2015年。</p> <p>桜井雅人、ヘルマン・ゴチエフスキ、安田寛『揚げば尊し：幻の原曲発見と『小学唱歌集』全軌跡』、東京堂出版、2015年。</p> <p>権藤敦子「小学校音楽科における教材選択の問題：高野辰之『国定読本と唱歌との連絡』(1913)を手がかりに」、広島大学大学院教育学研究科初等カリキュラム開発講座編『初等教育カリキュラム研究』1(2013)、33-45頁。</p> <p>渡辺裕『歌う国民：唱歌、校歌、うたごえ』、中央公論新社、2010年。(中公新書：2075)</p> <p>嶋田由美「明治後半期『唱歌調』とは何か：その構造的な特殊性と生成に至る教育的背景」、日本音楽教育学会編『音楽教育学』39/1(2009)、1-12頁。</p> <p>杉田政夫『学校音楽教育とヘルバルト主義：明治期における唱歌教材の構成理念にみる影響を中心に』、風間書房、2005年。</p> <p>嶋田由美「唱歌「さくらさくら」の研究：その成立過程と学校唱歌教材としての変遷をめぐって」、日本音楽教育学会編『音楽教育学』32/2(2004)、1-14頁。</p> <p>岩井正浩『子どもの歌の文化史』、第一書房、1998年。</p> <p>井手口彰典『童謡の百年：なぜ「心のふるさと」になったのか』、筑摩書</p>

	<p>房、2018年。（筑摩選書；0157） 周東美材『童謡の近代：メディアの変容と子ども文化』、岩波書店、2015年。（岩波現代全書；076） 小島美子『日本童謡音楽史』、第一書房、2004年。 長田暁二『童謡歌手からみた日本童謡史』、大月書店、1994年。</p>
(21)参考文献	<p>初回にテーマを設定後、指示します。H30年度実施事例は以下の通り。</p> <p>安達弘潮『リコーダー復興史の秘密』、音楽之友社、1998年。 澤崎眞彦、江崎公子『唱歌大事典』、東京堂出版、2017年。 奥中康人『国歌と音楽：伊澤修二がめざした日本近代』、春秋社、2009年。 金田一春彦、安西愛子編『日本の唱歌』上中下巻、講談社、1982年。（講談社文庫；き2） 堀内敬三、井上武士編『日本唱歌集』、岩波書店、1958年。（岩波文庫；緑92-1） 後藤暢子『山田耕柝：作るのではなく生む』、ミネルヴァ書店、2014年。 海老澤敏『瀧廉太郎：夭折の響き』、岩波書店、2004年。（岩波新書 新赤版；921）</p>
(22)成績評価方法及び採点基準	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点（70%）：発表資料の内容と構成、議論への積極的な参加 ・期末課題（30%）：取り上げたテーマから1つを選び、レポートを執筆する
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・各テーマについて全員が取り組む。関連するテーマ・対象に関わる複数の著者の文献を手分けして読んで、配付資料を作成し、発表する。 ・発表は原則として、2週で1テーマを扱う。全員で15分程度ずつ発表し、ディスカッションを行う。
(25)留意点・予備知識	受講に当たって条件となる授業はない（音楽史、音楽学Iを履修していなくても、履修可能。）
(26)オフィスアワー	電子メール等で予約を取ること。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	asayaman@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし。

教育学部

(1)整理番号	406
(2)区分番号	406
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	音楽学III (Musicology III)
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 7・8時限
(10)担当教員(所 属)	朝山 奈津子(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベ ル)	レベル3~4
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○資料を批判的に読む力を身につけること(解決する力) ○卒業研究に必要な読解力と文章力を身につけること(学び続ける力) ○卒業研究の構想を得ること(学び続ける力)
(15)授業の概要	受講者各自が設定するテーマについて、複数の文献を比較し、それぞれの著者がどのような視点を持っているか、何が書かれ、何が書かれなかったかを批判的に読み解く訓練を行う。 受講者の個人発表に対して、クラス全体でディスカッションを行い、問題の探求を全員で行う。
(16)授業の内容予 定	第1回：ガイダンス、発表分担 第2-5回：問題の所在を把握する 第5-8回：問題に関連する先行研究を渉猟する 第9-12回：先行研究を批判的に検討する 第12-15回：収集した情報から仮説を立てる 個人発表と議論の時間を充分かつ公平に確保するため、同日に異なる単元を扱うことがある。また、受講者数に応じてスケジュールを変更することがある。
(17)準備学習(予 習・復習)等の内容	期首に発表の日程を決めるので、各自で計画的に準備に取り組むこと。 卒業研究に関わるテーマや各自が関心を持つ研究領域について日頃から情報収集を心がけ、できるだけ多くの文献を読んでおくこと。授業後は、配付資料や参考文献を用いてよく復習すること。 発表の準備および発表後の情報整理のため、週平均4時間程度が必要。
(18)学問分野1(主 学問分野)	思想関連
(18)学問分野2(副 学問分野)	芸術関連
	-

(18)学問分野3(副学問分野)	
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	使用しない。
(21)参考文献	佐々木健一『論文ゼミナール』、東京大学出版会、2013年。 各人の発表に関連して各回に指示する。
(22)成績評価方法及び採点基準	個人発表の準備 (30%) ディスカッションへの積極性 (20%) 期末レポート (50%)
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	毎回2名程度の個人発表を全員で聴き、それぞれについて議論を行う。 教員は発表に対するコメントと、議論の司会、関連する参考文献の提示を行う。
(25)留意点・予備知識	特になし。(音楽学IおよびIIを履修していなくともよい。)
(26)オフィスアワー	電子メール等で予約をとること。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	asayaman@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	開講時限(月7/8)は暫定。履修希望者全員の都合に合わせて変更することがある。初回に出席できない場合は事前に申し出ること。

教育学部

(1)整理番号	407
(2)区分番号	407
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	音楽学IV (Musicology IV)
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日 3・4時限
(10)担当教員(所 属)	朝山 奈津子(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベ ル)	レベル4
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○資料を批判的に読む力を身につけること(解決する力) ○卒業研究に必要な読解力、文章力、論理構成力を身につけること(学び 続ける力)
(15)授業の概要	受講者各自が設定するテーマについて、一次文献の読み解きや調査、楽曲 分析などに基づく独自の情報収集を行い、論理的に構成して発表する。 受講者の個人発表に対して、クラス全体でディスカッションを行い、問題 の探求を全員で行う。
(16)授業の内容予 定	第1回：ガイダンス、発表分担 第2-5回：仮説を証明する方法を探る 第5-8回：根拠となる情報を収集する 第9-12回：情報を分析し、判りやすく提示する 第12-15回：全体を論理的に構成する 個人発表と議論の時間を充分かつ公平に確保するため、同日に異なる単元 を扱うことがある。また、受講者数に応じてスケジュールを変更すること がある。
(17)準備学習(予 習・復習)等の内容	期首に発表の日程を決めるので、各自で計画的に準備に取り組むこと。 卒業研究に関わるテーマや各自が関心を持つ研究領域について日頃から情報 収集を心がけ、できるだけ多くの文献を読んでおくこと。授業後は、配付 資料や参考文献を用いてよく復習すること。 発表の準備および発表後の情報整理のため、週平均4時間程度が必要。
(18)学問分野1(主 学問分野)	思想関連
(18)学問分野2(副 学問分野)	芸術関連
(18)学問分野3(副 学問分野)	-

(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特になし。
(21)参考文献	佐々木健一『論文ゼミナール』、東京大学出版会、2013年。 各人の発表に関連して各回に指示する。
(22)成績評価方法及び採点基準	個人発表の準備（50%） ディスカッションへの積極性（50%）
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	毎回2名程度の個人発表を全員で聴き、それぞれについて議論を行う。 教員は発表に対するコメントと、議論の司会、関連する参考文献の提示を行う。
(25)留意点・予備知識	特になし。（音楽学I, II, IIIを履修していなくともよい。）
(26)オフィスアワー	電子メール等で予約をとること。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	asayaman@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	開講時限（火3/4）は暫定。履修希望者全員の都合に合わせて変更することがある。初回に出席できない場合は事前に申し出ること。

教育学部

(1)整理番号	408
(2)区分番号	408
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	素描（1年）（Drawing）
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等（小・美術サブコース）・初等中等（中コース美術）・特支（中コース美術）：必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 7・8時限
(10)担当教員（所属）	佐藤 光輝（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル1
(13)対応するCP/DP	CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○素描の基礎的技術を習得すること（学び続ける力）
(15)授業の概要	身近なモチーフを観察し描写することを通して、造形全般に必要なとされる素描の基礎的技術を習得します。
(16)授業の内容予定	<p>1：ガイダンス 2：講義（形、遠近法）、透視図の作図 3：講義（用具、材料）、球体の陰影描写 4：鉛筆・練習作品①、石膏立方体1 5：鉛筆・練習作品②、機械の描画 6：鉛筆・練習作品②、機械の描画 7：鉛筆・練習作品③、人物クロッキー 8：鉛筆・練習作品④、手の描画 9：鉛筆・練習作品④、手の描画 10：資料鑑賞（DVD、図書） 11：ペン・練習作品⑤、静物 12：鉛筆・課題作品、構成デッサン 13：鉛筆・課題作品、構成デッサン 14：鉛筆・課題作品、構成デッサン 15：講評会、課題作品の提出</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	毎回の授業において指示します。
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	学際・新領域
	-

(19)実務経験のある教員による授業科目について	
(20)教材・教科書	用意するもの: クロッキー帳、鉛筆、練り消しゴム、カッター、定規、ボールペン 材料費(画用紙、その他)として100円を徴収します。 教科書は使用しません。資料は適宜配布します。
(21)参考文献	梁取文吾、『基礎から身につくはじめてのデッサン』西東社 教室で閲覧できます。
(22)成績評価方法及び採点基準	<ul style="list-style-type: none"> ・持ち点(100点)からの減点法で採点します。 ・欠席は1回につき(-5点)となります。 ※遅刻は1回につき(-2.5点) ・作品は満点を100点とします。 例:欠席が2回、作品評価が80点の場合。 $(持ち点)100点 - (欠席 \cdot 2回)10点 - (作品 \cdot 80点)20点 = (最終評価)70点$
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	講義と作品制作
(25)留意点・予備知識	制作した作品は学内掲示板等に展示し、公開する予定です。
(26)オフィスアワー	前後期 水曜 9、10時限
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ms@hirosaki-u.ac.jp http://www.facebook.com/hirodaibi
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	409
(2)区分番号	409
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	素描（2年）（Drawing）
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（小・美術サブコース）・初等中等（中コース美術）・特支（中コース美術）：必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員（所属）	塚本 悦雄（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決する力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	○構造的、立体的に形を捉えることができること（学び続ける力） ○上記の捉えかたで見た形を、平面の上に素描として表現できること（解決する力）
(15)授業の概要	○鉛筆デッサン（モチーフは石膏、人物）の実践を通して、形を立体的な構造体として捉えることを論理的に理解する ○上記で理解した形の見方に基づき、見た形を表現するための技術を実践を通し身につける
(16)授業の内容予定	<p>授業計画</p> <p>「第1日目」</p> <p>第1回：授業の説明。石膏デッサンについて（講義）</p> <p>第2回：課題作品①石膏デッサン クロッキーなど、構図の決定</p> <p>第3回： // あたりをつける</p> <p>第4回： // 大まかな輪郭を描く</p> <p>第5回： // 大まかな明暗をつける</p> <p>「第2日目」</p> <p>第6回： // グラデーションの幅を増やす</p> <p>第7回： // 描き込み</p> <p>第8回： // 大きな形に捉えなおす</p> <p>第9回： // 仕上げ、提出</p> <p>第10回：講評</p> <p>「第3日目」</p> <p>第11回：課題作品①人物デッサン クロッキーなど、ポーズの決定</p> <p>第12回： // 構図の決定、大まかな輪郭を描く</p> <p>第13回： // 大まかな明暗をつける</p> <p>第14回： // 描き込み、完成、提出</p> <p>第15回：講評、片付け</p> <p>以上は予定です。制作の進み方によって、予定を変更する場合があります。</p> <p>毎日クロッキーをする習慣をつけておくことが望まれます。</p>

(17)準備学習（予習・復習）等の内容	
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	用意するもの： クロッキー帳、鉛筆、練り消しゴム、カッター、デッサンスケール（木炭紙サイズ）
(21)参考文献	村松晶三、「デッサン用具と描き方」（美術出版社）
(22)成績評価方法及び採点基準	提出作品50%、出席状況受講態度30%、講評会での相互評価20%で評価します。ただし、5回以上欠席の場合は、不可となります。
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	3日間の集中講義です。主に実技を行います。
(25)留意点・予備知識	素描作品（地域、時代は問いません）を画集などで観ておいてください。 制作した作品は、学内の掲示板などに展示する予定です。
(26)オフィスアワー	前・後期とも水曜日 12:00～12:40
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	etsuka@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	なし

教育学部

(1)整理番号	410
(2)区分番号	410
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	絵画基礎 (Basic Painting)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等（小・美術サブコース）・初等中等（中コース美術）・特支（中コース美術）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 5・6時限
(10)担当教員 (所属)	岩井 康頼（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル1
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての 具体的到達目 標	○絵画表現の基礎としての必要な基本的描写力を習得すること（見通す力） ○具体的表現ができるようになること（解決する力）
(15)授業の概要	絵画表現の基礎として必要な基本描写力と画材の使用法について研究します。室内及び静物をモチーフとして具体的に表現を試みます。人物クロッキーにより「線」で人物を的確、且つ素早く捉えます。基底材（キャンバス作り）の技術を習得します。
(16)授業の内容 予定	第1回：授業の概要とデッサンとクロッキー（第14回目まで毎回20分ほど行なう） 第2回：絵画制作へのコンセプト 第3回：クロッキーと絵画材料と基底材作り（キャンバスづくり） 第4回：クロッキーと絵画材料と基底材作り（下地づくり） 第5回：クロッキーと絵画制作 下絵とコンポジション 第6回：クロッキーと絵画制作 下絵とコンポジション 第7回：クロッキーと絵画制作 着彩（基礎） 第8回：クロッキーと絵画制作 着彩（基礎と発展） 第9回：クロッキーと絵画制作 着彩（発展） 第10回：クロッキーと絵画制作 着彩（発展と応用） 第11回：クロッキーと絵画制作 着彩（応用） 第12回：クロッキーと絵画制作 第13回：クロッキーと絵画制作 コンポジションについて 第14回：絵画制作完成 第15回：鑑賞と講評 絵画空間とコンポジション
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	作品完成の為に授業以外にも制作することがある。 （勿論、自由です） 描画材料は、油彩絵具、水彩絵具、アクリル絵具、テンペラ絵具、木炭、鉛筆など。”

(18)学問分野 1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある 教員による授業科目 について	-
(20)教材・教科書	油彩絵具、水彩絵具、アクリル絵具、テンペラ画、黒炭等
(21)参考文献	『絵画技術体系』 マックス・デルナー著（美術出版社）
(22)成績評価方法及び採点基準	絵画表現の基礎として、ものの見方や考え方について理解出来たかをみます。制作過程（プロセス）と制作結果の作品を評価します。制作過程50点、作品評価50点
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	講義と作品制作
(25)留意点・予備知識	汚れてもよい格好で出席すること
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	y-iwai@tojo.ac.jp
(28)その他	なし

教育学部

(1)整理番号	411
(2)区分番号	411
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	絵画I (2年前) (Painting I)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等 (中コース美術) ・特支 (中コース美術) : 必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 7・8時限
(10)担当教員 (所属)	岩井 康頼 (非常勤講師)
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応する CP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業とし ての具体的到達 目標	○絵画制作の基礎としての必要な基本的描写と具体的表現ができること (解決する力) ○基本的な構成 (コンポジション) を理解できること (解決する力) ○絵画表現における適切な画材の選択すること (学び続ける力)
(15)授業の概 要	絵画表現の基礎となる描写 (室内空間、静物) に加えて、画面の構成 (コンポジション) について研究する。平面による可能性と、立体との差異を理解することにより、絵画表現における描写、構図、及び適切な画材の選択ができるよう研究する。また人物をモチーフに絵画表現 (クロッキー) の可能性を深める
(16)授業の内 容予定	第1回: 授業の説明、クロッキー 第2回: クロッキーと絵画制作概要 第3回: 絵画材料と基底材作り (パネル・キャンバス) 第4回: 絵画材料と基底材作り (下地準備) 第5回: クロッキーと絵画制作 第6回: クロッキーと絵画制作・着彩 第7回: クロッキーと絵画制作・着彩 第8回: クロッキーと絵画制作・着彩 第9回: クロッキーと絵画制作・着彩 第10回: クロッキーと絵画制作・着彩 第11回: クロッキーと絵画制作・着彩 第12回: 絵画材料とその実践 第13回: 絵画材料とその実践 第14回: 完成 第15回: 講評及び鑑賞
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	作品完成の為に授業以外にも制作することがある。勿論自由。
	芸術関連

(18)学問分野 1(主学問分野)	
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験 のある教員によ る授業科目につ いて	-
(20)教材・教 科書	必要に応じて紹介します。
(21)参考文献	『絵画技術体系』 マックス・デルナー、美術出版社
(22)成績評価 方法及び採点基 準	絵画表現の基礎としての見方について理解できたかをみる。制作過程（プロセス）50点、作品評価50点
(23)授業形式	講義と作品制作
(24)授業形 態・授業方法	講義と制作
(25)留意点・ 予備知識	なし
(26)オフィス アワー	なし
(27)Eメールア ドレス・HPア ドレス	y-iwai@tojo.ac.jp
(28)その他	なし

教育学部

(1)整理番号	412
(2)区分番号	412
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	絵画I (2年後) (Painting I)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等 (中コース美術) ・特支 (中コース美術) : 必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 9・10時限
(10)担当教員 (所属)	岩井 康頼 (非常勤講師)
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応する CP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業とし ての具体的到達 目標	○絵画表現の基礎となる描写 (室内空間、静物) に加えて、画面の構成 (コンポジション) について研究すること (見通す力) ○平面による可能性と、立体との差異を理解することにより、絵画表現における描写、構図、及び適切な画材の選択ができるよう研究すること (解決する力) ○人物(クロッキー) をモチーフに絵画表現の可能性を深めること (解決する力)
(15)授業の概 要	絵画表現の基礎となる描写 (室内空間、静物) に加えて、画面の構成 (コンポジション) について研究する。平面による可能性と、立体との差異を理解することにより、絵画表現における描写、構図、及び適切な画材の選択ができるよう研究する。また人物(クロッキー) をモチーフに絵画表現の可能性を深める。
(16)授業の内 容予定	第1回: 授業の説明。クロッキー と絵画素材の概要 第2回: クロッキーと絵画制作概要とそのコンセプト 第3回: クロッキーと絵画材料と基底材作り (パネル・キャンバス) 第4回: クロッキーと絵画材料と基底材作り (下地準備) 第5回: クロッキーと絵画制作 (下絵) 第6回: クロッキーと絵画制作 (下絵) 第7回: クロッキーと絵画制作 (着彩) 第8回: クロッキーと絵画制作 (着彩) 第9回: 絵画制作 (着彩) 第10回: 絵画制作 (着彩) 第11回: 絵画制作 (着彩) 第12回: 絵画制作 (着彩) 第13回: 絵画制作と素材研究 第14回: 完成 第15回: 「講評会」を設定し鑑賞及び講評する。
	実技の授業なので授業以外の制作時間も必要とする。

(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	
(18)学問分野 1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験 のある教員によ る授業科目につ いて	-
(20)教材・教 科書	油彩絵具、水彩絵具、アクリル絵具、テンペラ絵具、木炭、鉛筆など。
(21)参考文献	『絵画技術体系』 マックス・デルナー著 (美術出版社)
(22)成績評価 方法及び採点基 準	平面としての絵画表現（特にコンポジション）と画材の選択が適切かどうかを見る。作品制作にあたって、コンポジションについて積極的に取り組み、制作のプロセスを大事にしたかを見る。制作過程（プロセス）50点、作品評価50点
(23)授業形式	講義と作品制作
(24)授業形 態・授業方法	講義と制作
(25)留意点・ 予備知識	なし
(26)オフィス アワー	なし
(27)Eメールア ドレス・HPア ドレス	y-iwai@tojo.ac.jp
(28)その他	なし

教育学部

(1)整理番号	413
(2)区分番号	413
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	絵画II (3年前) (Painting II)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等 (中コース美術サブコース) : 選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 1・2時限
(10)担当教員 (所属)	岩井 康頼 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○油彩を用いて自分の表現したいテーマを構築し、そのことを考察して制作及び完成すること (解決する力)
(15)授業の概要	人物あるいは生物をモチーフとして、発展的に絵画表現を追求することができるようになること。
(16)授業の内容予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の説明、現代美術の動向 2. 絵画制作概要とクロッキー 3. 絵画材料と基底材作り (パネル・板等) 4. 絵画材料と基底材・下地づくり 5. 絵画制作と下図、構図 6. 絵画制作と画面構成・着彩 7. 絵画制作と画面構成・着彩 8. 絵画制作と画面構成・着彩 9. 絵画制作とミクストメディア 10. 絵画制作とミクストメディア 11. 絵画制作とミクストメディア 12. 絵画制作 (素材等の試みも) 13. 絵画制作 14. 完成 15. 鑑賞と振り返り・講評
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	作品完成のために授業以外にも制作することがある。勿論自由。
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	必要に応じて紹介します。
(21)参考文献	『絵画技術体系』 マックス・デルナー、美術出版社
	制作過程 (プロセス) 50点、作品評価50点

(22)成績評価方法及び採点基準	
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	講義と制作
(25)留意点・予備知識	なし
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	y-iwai@tojo.ac.jp
(28)その他	なし

教育学部

(1)整理番号	414
(2)区分番号	414
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	絵画II (3年後) (Painting II)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等 (中コース美術サブコース) : 選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 7・8時限
(10)担当教員 (所属)	蝦名 敦子 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○日本画の画材を使って、絵の具や支持体—和紙の違いによる表現効果を生かして、発展的な制作ができるようになること
(15)授業の概要	○スケッチ、写生を充実させながら、静物や風景画に取り組む。
(16)授業の内容予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 表現の主題設定 2. モチーフの考察とスケッチ 3. 写生 4. 下図の完成 5. 表現素材の検討、パネルの準備 6. 紙貼りと地塗り 7. トレースと骨描き 8. 下塗り 9. 描きおこしと着彩 10. 着彩(背景) 11. 着彩(大まかな色の重ね塗り) 12. 着彩(全体と部分) 13. 着彩(細部) 14. 仕上げ 15. 講評会
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	授業時間以外にも積極的に制作を進めてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	

	パネルは各自で用意してもらいます。材料費（紙、絵の具代）として一人500円集めます。
(21)参考文献	参考作品、文献など、適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	制作過程（40%）、提出作品（40%）、レポート（20%）から総合的に評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	実習、演習をしながら進めます。
(25)留意点・予備知識	教養科目「日本画入門I」または「日本画入門II」が履修済みであることが望ましい。
(26)オフィスアワー	木曜日（14:30～15:30）
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	eatsuko@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	415
(2)区分番号	415
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	絵画II（4年前）（Painting II）
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	初等中等（中コース美術サブコース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 9・10時限
(10)担当教員（所属）	岩井 康頼（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル4
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○自分の好む画材を使って、自分の表現したいテーマに沿って制作できること（見通す力）
(15)授業の概要	人物あるいは静物をモチーフとして、発展的に絵画表現の追求をすることができるようになることを目標にします。
(16)授業の内容予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の説明、現代美術の動向 2. 絵画制作のコンセプト 3. キャンバスンづくり（パネル・板等） 4. 下地づくり 5. 下図、構図 6. 画面構成・着彩 7. 色面構成・着彩 8. 完成・講評会 9. 各自のテーマによる自由制作（ミクストメディアも含む） 10. コンセプトと自由制作（平面と半立体） 11. 自由制作（異素材等の試みも） 12. 自由制作 13. 自由制作 14. 完成 15. 鑑賞と振り返り
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	作品の大きさによっては、授業時間内に間に合わないことも生じます。自主的に時間を見つけて制作に取り組んでください。
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-

(20)教材・教科書	なし
(21)参考文献	参考作品、文献は、適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業態度と作品を評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	実習・演習をしながら進めます。
(25)留意点・予備知識	なし
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	y-iwai@tojo.ac.jp
(28)その他	なし

教育学部

(1)整理番号	416
(2)区分番号	416
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	版画（2年前）（Print Making）
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース美術サブコース）：選択必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員 （所属）	岩井 康頼（非常勤講師）
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 （レベル）	レベル2
(13)対応する CP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業とし ての具体的到達 目標	○版画表現の基礎を学び、自ら定めたテーマに沿って版画制作できること（解決する力）
(15)授業の概 要	多様な版画の可能性を知る。制作途中のプロセスに生じるアクシデント（出会い）なども自分の作品に取り込み積極的に自分の世界と格闘しながら、創る喜びを実践する。
(16)授業の内 容予定	<p>第1回：版画概要と説明 第2回：版画概要とイントロダクション 第3回：版画概要とイントロダクション 第4回：モノプリント制作 第5回：コラグラフ制作 第6回：樹脂板・アルミ板等にドライプリント 第7回：樹脂板・アルミ板等にドライプリント 第8回：自由制作 第9回：自由制作 第10回：自由制作 第11回：自由制作 第12回：自由制作 第13回：自由制作 第14回：自由制作完成 第15回：講評及び鑑賞</p> <p>講評会を設定し鑑賞及び講評をする。テスト板をもとに習作及び作品を制作する。版画の基礎識とその応用と実践により理解を深め、創るプロセスの大事さに創作の醍醐味を体験する。版画基礎、版画技法を駆使し各自のテーマに即した表現とプロセスを研究する。現代美術の表現なども参考に比較検討する。</p>
	版画のエスキースを作成しておくこと。

(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	
(18)学問分野 1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験 のある教員によ る授業科目につ いて	-
(20)教材・教 科書	銅板、亜鉛版、樹脂板、ブレダン紙、ニードルなど。
(21)参考文献	必要に応じて紹介する。
(22)成績評価 方法及び採点基 準	版画において、作業時の準備、後片づけなどの基本的習慣を身につけ制作出来たかをみる。版画制作を通じてテーマ沿った自己表現ができたかをみる。版画という限られた条件の中で、どこまで表現できたかをみる。制作過程50点、作品評価50点
(23)授業形式	講義と作品制作
(24)授業形 態・授業方法	実技
(25)留意点・ 予備知識	なし
(26)オフィス アワー	y-iwai@tojo.ac.jp
(27)Eメールア ドレス・HPア ドレス	なし
(28)その他	なし

教育学部

(1)整理番号	417
(2)区分番号	417
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	版画（2年後）（Print Making）
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース美術サブコース）：選択必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員（所属）	佐藤 光輝（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○シルクスクリーン（孔版）技法の基礎を身につける（学び続ける力）
(15)授業の概要	写真製版によるシルクスクリーン（孔版）について作品制作を通して学習する。
(16)授業の内容予定	1：ガイダンス /参考資料紹介 2：講義（版画について） 3：シルクスクリーン（下絵コラージュ制作） 4：シルクスクリーン（色彩計画） 5：シルクスクリーン（フィルム描画） 6：シルクスクリーン（製版） 7：シルクスクリーン（印刷） 8：シルクスクリーン（製版、印刷） 9：シルクスクリーン（製版、印刷） 10：シルクスクリーン（製版、印刷） 11：資料鑑賞 12：シルクスクリーン（製版、印刷） 13：シルクスクリーン（製版、印刷） 14：シルクスクリーン（製版、印刷） 15：作品発表と講評
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	毎回の授業において指示します。
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	学際・新領域
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	版画材料（版、紙、絵具、等）として（1500円）を徴収する。 教科書は使用しない。
(21)参考文献	

	多摩美術大学校友会（編集）『新しいシルクスクリーン入門』 誠文堂新光社 教室で閲覧できます。
(22)成績評価方法及び採点基準	提出作品 50%、出席状況受講態度 50%で評価する。
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	講義と作品制作
(25)留意点・予備知識	制作した作品は学内掲示板等に展示し、公開する予定。 版画（3年後）（Print Making）と同時開講。
(26)オフィスアワー	前後期 水曜 9、10時限
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ms@hirosaki-u.ac.jp http://www.facebook.com/hirodaibi
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	418
(2)区分番号	418
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	版画（3年前）（Print Making）
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース美術サブコース）：選択必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員 （所属）	岩井 康頼（非常勤講師）
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 （レベル）	レベル3
(13)対応する CP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業とし ての具体的到達 目標	○版画表現の基礎を学び、自ら定めたテーマに沿って版画制作できること（解決する力）
(15)授業の概 要	多様な版画の可能性を知る。制作途中のプロセスに生じるアクシデント（出会い）なども自分の作品に取り込み積極的に自分の世界と格闘しながら、創る喜びを实践する。
(16)授業の内 容予定	<p>第1回：版画概要と説明 第2回：版画概要とイントロダクション 第3回：版画概要とイントロダクション 第4回：モノプリント制作 第5回：コラグラフ制作 第6回：樹脂板・アルミ板等にドライプリント 第7回：樹脂板・アルミ板等にドライプリント 第8回：自由制作 第9回：自由制作 第10回：自由制作 第11回：自由制作 第12回：自由制作 第13回：自由制作 第14回：自由制作完成 第15回：講評及び鑑賞</p> <p>講評会を設定し鑑賞及び講評をする。テスト板をもとに習作及び作品を制作する。版画の基礎識とその応用と実践により理解を深め、創るプロセスの大事さに創作の醍醐味を体験する。版画基礎、版画技法を駆使し各自のテーマに即した表現とプロセスを研究する。現代美術の表現なども参考に比較検討する。</p>
	版画のエスキースを作成しておくこと。

(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	
(18)学問分野 1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験 のある教員によ る授業科目につ いて	-
(20)教材・教 科書	銅板、亜鉛版、樹脂板、ブレダン紙、ニードルなど。
(21)参考文献	必要に応じて紹介する。
(22)成績評価 方法及び採点基 準	版画において、作業時の準備、あとかたづけなどの基本的習慣を身につけ制作出来たかをみる。版画制作を通じてテーマ沿った自己表現ができたかをみる。版画という限られた条件の中で、どこまで表現できたかをみる。制作過程50点、作品評価50点
(23)授業形式	講義と作品制作
(24)授業形 態・授業方法	実技
(25)留意点・ 予備知識	なし
(26)オフィス アワー	なし
(27)Eメールア ドレス・HPア ドレス	y-iwai@tojo.ac.jp
(28)その他	なし

教育学部

(1)整理番号	419
(2)区分番号	419
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	版画（3年後）（Print Making）
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース美術サブコース）：選択必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員（所属）	佐藤 光輝（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○シルクスクリーン（孔版）技法の応用を学習すること（学び続ける力）
(15)授業の概要	写真製版によるシルクスクリーン（孔版）について作品制作を通して学習する。
(16)授業の内容予定	1：ガイダンス /参考資料紹介 2：講義（版画について） 3：シルクスクリーン（下絵コラージュ制作） 4：シルクスクリーン（色彩計画） 5：シルクスクリーン（フィルム描画） 6：シルクスクリーン（製版） 7：シルクスクリーン（印刷） 8：シルクスクリーン（製版、印刷） 9：シルクスクリーン（製版、印刷） 10：シルクスクリーン（製版、印刷） 11：資料鑑賞 12：シルクスクリーン（製版、印刷） 13：シルクスクリーン（製版、印刷） 14：シルクスクリーン（製版、印刷） 15：作品発表と講評
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	毎回の授業において指示します。
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	学際・新領域
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	版画材料（版、紙、絵具、等）として（1500円）を徴収する。 教科書は使用しない。
(21)参考文献	多摩美術大学校友会（編集）『新しいシルクスクリーン入門』 誠文堂新光社

(22)成績評価方法及び採点基準	提出作品 50%、出席状況受講態度 50%で評価する。
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	講義と作品制作
(25)留意点・予備知識	制作した作品は学内掲示板等に展示し、公開する予定。 版画（2年後）（Print Making）と同時開講。
(26)オフィスアワー	前後期 水曜 9、10時限
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ms@hirosaki-u.ac.jp http://www.facebook.com/hirodaibi
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	420
(2)区分番号	420
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	彫刻基礎 (Basic Sculpture)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等（小・美術サブコース）・初等中等（中コース美術）・特支（中 コース美術）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 7・8時限
(10)担当教員（所 属）	塚本 悦雄（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベ ル）	レベル2
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 2 解決する力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○彫刻・芸術についての学識を得ること（学び続ける力） ○対象を構造、量感、空間を意識した彫刻的な見方で捉えることができる こと（学び続ける力） ○自分がイメージした形を、彫刻の基本的な素材である粘土を用いて造形 できること（解決する力） ○基本的な「型取り技法」について理解すること（学び続ける力）
(15)授業の概要	○スライドや実物による古今東西の彫刻作品の鑑賞を通し、彫刻の歴史を 理解する ○粘土による石膏像などの模刻を通し、彫刻的な見方を身につける ○石膏などの素材の扱いや様々な道具の安全な使用法など、彫刻制作には 欠かせない知識や基本的な技術を習得する
(16)授業の内容予 定	授業計画 第1回：オリエンテーション、様々な彫刻（講義） 第2回：技法と表現（講義） 第3回：模刻・芯棒の制作、粘土の準備 第4回：模刻・粘土での制作（粗付け～細部の仕上げに向かう） 第5回：" 第6回：" 第7回：" 第8回：完成、講評 第9回：彫塑作品制作（テーマ各自設定） 第10回：" 第11回：" 第12回：石膏取り・雌型の制作 第13回：" 第14回：" 第15回：講評、片付け *石膏取りは集中講義形式で行う予定。日程など未定。
(17)準備学習（予 習・復習）等の内容	出来るだけ多くの彫刻作品（古今東西様々な）、特に具象的に表現された ものを、実物や図版などで観るなどして、知識を広めておくことが望まれ ます。この学習を週4時間程度行ってください。

(18)学問分野1(主 学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副 学問分野)	-
(18)学問分野3(副 学問分野)	-
(19)実務経験のあ る教員による授業科 目について	-
(20)教材・教科書	テキストは必要に応じてプリント等配布する
(21)参考文献	建島覚造他「彫刻をつくる（新技法シリーズ）1」美術出版、 Georges Duby and Jean-Luc Daval編「Sculpture」Taschen 毎日新聞社編「仏像の至宝」毎日新聞社 他
(22)成績評価方法 及び採点基準	提出作品50%、出席状況受講態度30%、講評会での相互評価20%で 評価します。ただし、5回以上欠席の場合は、不可となります。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授 業方法	授業は演習形式で行います。講義で得た知識や理解を作品制作の実践を通 し、さらに深めていきます。また、全回を通じて、様々な作家を（簡単に ですが）紹介していきます。
(25)留意点・予備 知識	作業しやすい服装で受講してください。 教材費（石膏など）として1,000円が必要です。
(26)オフィスアワ ー	前・後期とも水曜日 12:00～12:40
(27)Eメールアドレ ス・HPアドレス	etsuka@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	なし

教育学部

(1)整理番号	421
(2)区分番号	421
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	彫刻I (2年前) (Sculpture I)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等 (中コース美術) ・特支 (中コース美術) : 必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日 5・6時限
(10)担当教員 (所属)	塚本 悦雄 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○石彫の制作手法や道具の扱い方など、基本的な技術を使って作品を完成できること (解決する力) ○安全に作業ができること (学び続ける力)
(15)授業の概要	○スライドや実物による古今東西の石彫作品の鑑賞を通し、石彫の歴史を理解する ○石彫の制作を通し、彫刻的な見方を身につける ○石という素材の扱いや、様々な道具の安全な使用法など、石彫制作には欠かせない知識や基本的な技術を習得する
(16)授業の内容 予定	第1回：授業の説明、石彫についての講義 第2回：石彫「小さな石彫」 構想、アイデアスケッチ 第3回：マケットの制作 (粘土を使用) 第4回：" 第5回：石彫の制作 粗取り 第6回：" 第7回：" 第8回：" 第9回：" 第10回：" 第11回：" 第12回：" 第13回：" 第14回：" 第15回：完成、講評
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	出来るだけ多くの彫刻作品 (古今東西様々な)、特に具象的に表現されたものを、実物や図版などで観るなどして、知識を広めておいてください。また、興味を持った作品については、その作品の制作者とつくられた歴史的背景などについても調べておくといでしょう。

(18)学問分野 1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	テキストは必要に応じてプリント等配布します。
(21)参考文献	Georges Duby and Jean-Luc Daval編「Sculpture」Taschen 他
(22)成績評価方法及び採点基準	提出作品50%、出席状況受講態度30%、講評会での相互評価20%で評価します。ただし、5回以上欠席の場合は、不可となります。
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	主に実技を行います。
(25)留意点・予備知識	作業しやすい服装で受講してください。 教材（石材）費として2,000円ほど必要です。
(26)オフィスアワー	前・後期とも水曜日 12:00～12:40
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	etsuka@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	なし

教育学部

(1)整理番号	422
(2)区分番号	422
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	彫刻I (2年後) (Sculpture I)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等 (中コース美術) ・ 特支 (中コース美術) : 必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 1・2時限
(10)担当教員 (所属)	塚本 悦雄 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応するC P/D P	CP・DP 2 解決する力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○対象を構造、量感、空間を意識した彫刻的な見方で捉えることができること (学び続ける力) ○自分がイメージした形を、彫刻の基本的な素材である粘土を用いて造形できること (学び続ける力) ○陶彫の制作技法を習得すること (解決する力) ○陶による作品を完成させることができること (見通す力)
(15)授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ○制作を通し、彫刻的な形の見方を習得する ○彫塑、素焼き、本焼きという制作工程それぞれの素材の扱いや様々な道具の安全な使用法などの基本的な技術を身につける
(16)授業の内容予 定	第1回：授業の説明。彫刻の様々な表現 (講義) アイデアスケッチ 第2回：マケットの制作 第3回：" 第4回：陶彫の制作・芯棒の制作、粘土の準備 第5回：粘土での制作 (粗付け～細部の仕上げに向かう) 第6回：" 第7回：" 第8回：" 第9回：" 第10回：彫塑完成 第11回：素焼きの準備・内グリなど 第12回：素焼き 第13回：下絵付け 第14回：施釉本焼き 第15回：講評、片付け
(17)準備学習 (予 習・復習) 等の内 容	彫刻作品を数多く観てください。図版でも良いですが、美術館、ギャラリー、神社仏閣、町の中にあるモニュメントなど、それらの場所に足を運び実物の彫刻に触れる機会を常日頃より積極的に設けることが望まれます。
(18)学問分野 1(主学問分野)	芸術関連

(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある 教員による授業 科目について	-
(20)教材・教科書	テキストは必要に応じてプリント等配布します。
(21)参考文献	参考書・参考資料等 建畠寛造他「彫刻をつくる（新技法シリーズ）1」美術出版、 Georges Duby and Jean-Luc Daval編「Sculpture」Taschen 他
(22)成績評価方法 及び採点基準	提出作品50%、出席状況受講態度30%、講評会での相互評価20%で 評価します。ただし、5回以上欠席の場合は、不可となります。
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授 業方法	主に実技を行います。
(25)留意点・予備 知識	作業しやすい服装で受講してください。 教材費が陶土として1,000円が必要です。
(26)オフィスアワ ー	前・後期とも水曜日 12:00～12:40
(27)Eメールアド レス・HPアドレ ス	etsuka@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	なし

教育学部

(1)整理番号	423
(2)区分番号	423
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	彫刻II (3年前) (Sculpture II)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等 (中コース美術サブコース) : 選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 3・4時限
(10)担当教員 (所属)	塚本 悦雄 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決する力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○木彫を日本の伝統としての観点から捉えることができること (学び続ける力) ○木彫の制作手法や道具の扱い方など、基本的な技術を使って作品を完成できること (解決する力) ○安全に作業ができること (学び続ける力)
(15)授業の概要	○スライドや実物による木彫作品の鑑賞を通し、日本における木彫の歴史を理解する ○木彫制作における素材の扱いや様々な道具の安全な使用法など、木彫制作には欠かせない知識や基本的な技術を習得する
(16)授業の内容 予定	第1回: オリエンテーション、木彫について (講義) 第2回: 木彫の技法と表現 (講義) 第3回: 作品の構想・アイデアスケッチ、マケット制作 第4回: マケット制作 (素焼き) 第5回: 道具の説明・刃物研ぎなど 第6回: 木彫の制作・木取り 第7回: " " " " ・粗彫り 第8回: " " " " " " 第9回: " " " " ・中彫り 第10回: " " " " " " 第11回: " " " " ・仕上げ彫り 第12回: " " " " " " 第13回: " " " " " " 第14回: " " " " ・完成 (場合により着彩) 第15回: 講評、片付け
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	彫刻作品を数多く観てください。図版でも良いですが、美術館、ギャラリー、神社仏閣、町の中にあるモニュメントなど、それらの場所に足を運び実物の彫刻に触れる機会を常日頃より積極的に設けることが望まれます。この学習を週4時間程度行ってください。

(18)学問分野 1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	テキストは必要に応じてプリント等配布します
(21)参考文献	建畠覚造他「彫刻をつくる（新技法シリーズ）1」美術出版、舟越桂「森へ行く日」求龍堂 Georges Duby and Jean-Luc Daval編「Sculpture」Taschen 毎日新聞社編「仏像の至宝」毎日新聞社 他
(22)成績評価方法及び採点基準	提出作品50%、出席状況受講態度30%、講評会での相互評価20%で評価します。ただし、5回以上欠席の場合は、不可となります。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	講義と作品制作を通し、論理的、実践的に学びを深めていきます
(25)留意点・予備知識	・作業しやすい服装で受講してください ・教材費（桂材・楠材など）として1,000～2,000円が必要です。
(26)オフィスアワー	前・後期とも水曜日 12:00～12:40
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	etsuka@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	なし

教育学部

(1)整理番号	424
(2)区分番号	424
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	彫刻II (3年後) (Sculpture II)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等 (中コース美術サブコース) : 選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日 3・4時限
(10)担当教員 (所属)	塚本 悦雄 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決する力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○肖像彫刻を美術史の観点から理解すること (学び続ける力) ○テラコッタによる肖像彫刻作品を、制作・完成させることができること (解決する力)
(15)授業の概要	○スライドや実物による古今東西の肖像彫刻作品の鑑賞を通し、肖像彫刻を歴史的観点から理解する ○上記で得た知識を元に、現代における肖像彫刻のあり方を考え作品を発想し、テラコッタで制作する技術を習得する
(16)授業の内容予定	第1回: オリエンテーション 第2回: 様々な肖像彫刻 第3回: テラコッタについて 第4回: 作品制作 ・作品の構想、アイデアスケッチ 第5回: " ・芯棒、粘土の準備 第6回: " ・粗付 第7回: " ・" 第8回: " ・内ぐり 第9回: " ・細部へ 第10回: " ・中間講評 第11回: " ・仕上げ 第12回: " ・" 第13回: " ・焼成 第14回: " ・完成 (着彩) 第15回: 講評、片付け
	美術館、ギャラリー、神社仏閣、町の中にあるモニュメントなど、それらの場所に足を運び実物の彫刻に触れる機会を常日頃より積極的に設けることが望まれます。また、興味を持った作品については、その作品の制作者とつくられた

(17)準備学習 (予習・復習)等の内容	歴史的背景などについても調べておくといいいでしょう。この学習を週4時間程度行ってください。
(18)学問分野 1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	必要に応じてプリント等配布します。
(21)参考文献	建畠覚造他「彫刻をつくる(新技法シリーズ)1」美術出版、舟越桂「森へ行く日」求龍堂 Georges Duby and Jean-Luc Daval編「Sculpture」Taschen 毎日新聞社編「仏像の至宝」毎日新聞社 他
(22)成績評価方法及び採点基準	提出作品50%、出席状況受講態度30%、講評会での相互評価20%で評価します。ただし、5回以上欠席の場合は、不可となります。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	講義と作品制作を通し、論理的、実践的に学びを深めていく。
(25)留意点・予備知識	作業しやすい服装で受講してください。 教材費(粘土)として1,000~2,000円が必要です。
(26)オフィスアワー	前・後期とも水曜日 12:00~12:40
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	etsuka@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	なし

(18)学問分野1(主 学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副 学問分野)	-
(18)学問分野3(副 学問分野)	-
(19)実務経験のあ る教員による授業 科目について	-
(20)教材・教科書	テキストは必要に応じてプリント等配布します
(21)参考文献	参考書・参考資料等 建畠覚造他「彫刻をつくる（新技法シリーズ）1」美術出版、舟越桂「森 へ行く日」求龍堂 Georges Duby and Jean-Luc Daval編「Sculpture」Taschen 毎日新聞社編「仏像の至宝」毎日新聞社 他
(22)成績評価方法 及び採点基準	提出作品50%、出席状況受講態度30%、講評会での相互評価20%で 評価します。ただし、5回以上欠席の場合は、不可となります。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授 業方法	講義と作品制作を通し、論理的、実践的に学びを深めていきます
(25)留意点・予備 知識	・作業しやすい服装で受講してください ・教材費（桂材・楠材など）として1,000~2,000円が必要です。
(26)オフィスアワ ー	前・後期とも水曜日 12:00~12:40
(27)Eメールアド レス・HPアドレス	etsuka@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	なし

教育学部

(1)整理番号	426
(2)区分番号	426
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	デザイン基礎 (Basic Design)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等（小・美術サブコース）・初等中等（中コース美術）・特支（中コース美術）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 1・2時限
(10)担当教員 (所属)	○佐藤 光輝（教育学部）・石川 善朗（教育学部）
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル1
(13)対応する CP/DP	CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業とし ての具体的到達 目標	○前半（佐藤）の色面構成は画面構成の方法と色彩の基本原理を理解すること（学び続ける力） ○後半（石川）のペーパーワークは紙の取り扱いについて学習し、立体造形に用いるときの表現方法と技術を習得すること（学び続ける力）
(15)授業の概 要	前半：色面構成の作品制作を通して、構成と色彩の基礎を学習する。 後半：紙の性質の簡単な解説の後、テーマ「マスク」について練習課題を作成する。そのあと各自世界のマスク、仮面について調査し、オリジナルマスクの作成を指定した紙で行う。最後に各自自分の作成意図を発表し講評を行う。
(16)授業の内 容予定	1：ガイダンス 2：講義（構成について）、作図 3：講義（色彩について）、混色と配色 4：練習作品制作（構成） 5：練習作品制作（配色） 6：課題作品制作（構成） 7：課題作品制作（配色） 8：作品発表、講評 9：紙の立体：練習課題の作成（設計図転写） 10：練習課題の作成（紙での制作） 11：課題作品のスケッチ作成 12：課題作品の設計図転写 13：課題作品の切り抜き 14：課題作品の作成 15：作品発表、講評 授業の進捗状況によっては変更もありうる。
	予習：2時間 復習：2時間 以上を毎週行うこと。

(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	
(18)学問分野 1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	学際・新領域
(19)実務経験 のある教員によ る授業科目につ いて	実務教員
(20)教材・教 科書	前半は材料費（画用紙、絵の具、その他）として500円を徴収する。 後半は各自指定された紙を用意する。その他にペーパーワークに必要な道具を 用意する。内容についてはその都度指示を行う。 教科書は使用しない。資料は適宜配布する。
(21)参考文献	高橋正人、『基礎デザイン』（岩崎美術社） 南雲治嘉、『視覚表現』（グラフィック社） ※教員研究室にて閲覧可能（佐藤）
(22)成績評価 方法及び採点基 準	制作過程と制作結果（作品）を評価する。 制作作業過程：20% 制作結果（作品）：80% で評価する
(23)授業形式	演習
(24)授業形 態・授業方法	講義と作品制作
(25)留意点・ 予備知識	後半の紙の制作については、紙の接着剤に留意して、水性やスティックタイプ の糊、接着剤は使用しない。必ず油性（エタノール系か透明ゴム状系）の液状 接着剤を使用する。 制作した作品は学内掲示板に展示し、公開する予定。
(26)オフィス アワー	前後期 水曜 9、10時限（佐藤）
(27)Eメールア ドレス・HPア ドレス	ms@hirosaki-u.ac.jp http://www.facebook.com/hirodaibi
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	427
(2)区分番号	427
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	デザインI (2年前) (Design I)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等(中コース美術)・特支(中コース美術)：必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日 3・4時限
(10)担当教員(所属)	石川 善朗(教育学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するC P/D P	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○地域のクラフト製品である「ブナコ」をデザイン制作することにより、与えられた課題：「クラフト製品のデザイン開発」に対してその解決策を提示できること(解決する力) ○生産デザインの基本デザイン構築を通して、その考え方の習得と組み立てから塗装仕上げまでの開発プロセスを学び、完成すること(学び続ける力)
(15)授業の概要	青森県弘前市に存在するクラフト製品の「ブナコ」デザイン開発を通して、地域の課題と商品開発を学ぶ。デザインを用いて商品開発の問題点を取り出し、解決する方法を考察する。
(16)授業の内容予 定	立体デザイン) ・講義 (ブナコのデザインについて) ・課題作品制作 (実材を用いたブナコ製作、なおブナコ製作に関係する実際の技術者の指導も受ける) 授業1回目：全体の授業ガイダンスと、必要になる道具や材料の解説 授業2回目：ブナコ(株)の工場見学(授業時間内で終了) 授業3回目：作品設計及び素案作り「テーマ：ブナコによるテーブルウェア」 授業4回目：基本材料の作成用処理 授業5回目：素地制作(ブナテープ巻き付け、ブナコ(株)より非常勤講師) 授業6回目：素地制作(ブナテープ成形、ブナコ(株)より非常勤講師) 授業7回目：素地制作(ブナテープ立ち上げ、ブナコ(株)より非常勤講師) 授業8回目：素地制作(仕上げ) 授業9回目：素地制作仕上げ研磨(研磨紙：中目) 授業10回目：素地制作仕上げ研磨(研磨紙：細目) 授業11回目：素地着色(ウレタン染料系塗料) 授業12回目：素地研磨及び塗装(研磨紙：極細目、ウレタン系透明つや消し1層目)材料学講義(塗装について) 授業13回目：素地研磨及び塗装(研磨紙：極細目、ウレタン系透明つや消し2層目)材料学講義(塗料について)

	<p>授業14回目：素地研磨及び塗装（研磨紙：極細目、ウレタン系透明つや消し3層目）材料学講義（ボディについて）</p> <p>授業15回目：各自による作品発表と講評</p> <p>授業の進捗状況によっては変更もありうる。</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	<p>予習（シラバスにより次週の工程を調査しておく）：2時間</p> <p>復習（授業と同じ工程を再度行う）：2時間</p> <p>以上を毎週行うこと。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	<p>適宜資料を配布する。</p> <p>ブナコ製作に関わる材料を実費で購入する。</p> <p>1,500~2,000円程度の材料費が必要となる。</p>
(21)参考文献	<p>プロダクトデザイン研究室で閲覧可能な立体デザインに関する文献各種。</p> <p>・日本インテリアデザイン協会、『日本の生活デザイン』（建築資料研究社）</p>
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>制作作業過程：20%</p> <p>制作結果(作品)：80%</p> <p>で評価する。</p>
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	講義と企業見学及び制作
(25)留意点・予備知識	<p>制作を伴うので簡単な刃物類が扱えること。木工及び塗装作業が可能な服装で出席すること。弘前市内各所にあるインテリアショップや市内土手町にあるブナコ直営店などで実際のブナコ製品を見ておくこと。</p>
(26)オフィスアワー	平日昼休み
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	hirozen@hirosaki-u.ac.jp（石川善朗）
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	428
(2)区分番号	428
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	デザインI (2年後) (Design I)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等 (中コース美術) ・ 特支 (中コース美術) : 必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 7・8時限
(10)担当教員 (所属)	佐藤 光輝 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての 具体的到達目標	○写真メディアを技術的に理解すること (学び続ける力) ○光を扱って自分だけの映像を獲得すること (解決する力)
(15)授業の概要	現在の写真術の基礎は19世紀に発明されたが、写真の原理そのものは古くから知られていた。この授業では、小穴投影現象、青写真法、ネガポジ法をたどって、映像の出現と定着の方法を学習する。
(16)授業の内容 予定	1 ガイダンス 資料鑑賞 2 青写真 (サイアノタイプ) 薬液制作 3 青写真 (サイアノタイプ) 原稿制作 4 青写真 (サイアノタイプ) 作品制作 5 青写真 (サイアノタイプ) 作品完成 6 針穴写真についての講義 7 針穴の制作 8 暗箱の制作 9 撮影と現像 (風景) 10 撮影と現像 (静物) 11 撮影と現像 (人物) 12 撮影と現像 (野外) 13 スキャンとポジの作成 14 作品印刷 15 作品発表と講評
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	毎回の授業において指示します。
(18)学問分野 1(主学問分野)	芸術関連

(18)学問分野 2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	学際・新領域
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書は使用しない。 針穴写真機を作成して撮影と現像をおこなうので材料費（1,000円）が必要となる。
(21)参考文献	田所美恵子『針穴写真を撮る』（雄鶏社）、教員研究室 田所美恵子『針穴のパリ』（河出書房新社）、教員研究室
(22)成績評価方法及び採点基準	課題作品制作をおこなうが、重視するのは授業への取り組みの状況。 成績評価は、授業取り組み状況60点、課題作品40点の合計でおこなう。
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	実習と演習
(25)留意点・予備知識	作業する暗室の収容人数の関係上、受講者を最大10名とする。 写真現像の薬液を使用するのでエプロン等の用意が必要。
(26)オフィスアワー	前後期、水曜 9・10時限
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ms@hirosaki-u.ac.jp http://www.facebook.com/hirodaibi
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	429
(2)区分番号	429
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	デザインII (3年前) (Design II)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等 (中コース美術サブコース) : 選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日 9・10時限
(10)担当教員 (所属)	佐藤 光輝 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	○絵本制作について必要な知識を学び、アイデアの発想と表現方法を習得すること (学び続ける力)
(15)授業の概要	絵と言葉を複合的に使用するメディアである絵本の特徴について制作を通して学習する。
(16)授業の内容予定	<ul style="list-style-type: none"> 1 : ガイダンス / 参考資料紹介、アンケート 2 : 絵本紹介、作品鑑賞 3 : 絵コンテ制作 4 : 絵コンテ発表、修正 5 : 絵コンテ完成 6 : 絵本作品制作 (描画) 7 : 制作、資料鑑賞 (国内作家) 8 : 制作、資料鑑賞 (海外作家) 9 : 描画完成、原稿スキャン、テキスト入力 10 : 製本ガイダンス 11 : 中身綴じ (加工) 12 : 中身綴じ (接着) 13 : カバー製作、表紙の制作 14 : 製本完成 15 : 作品発表と講評
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	毎回の授業において指示します。 初回授業までに絵本を10冊以上読んでおいてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	文学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	教育学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-

(20)教材・教科書	関典子著：佐藤光輝監修『身近な道具で手づくりの本』（弘前大学出版会）
(21)参考文献	絵と文：おのななせ 監修：佐藤光輝『まいまいさんとなめくじさん』（弘前大学出版会） 南雲治嘉『絵本デザイン』（グラフィック社）
(22)成績評価方法及び採点基準	<ul style="list-style-type: none"> ・持ち点（100点）からの減点法で採点します。 ・欠席は1回につき（-5点）となります。 ※遅刻は1回につき（-2.5点） ・作品は満点を100点とします。 <p>例：欠席が2回、作品評価が80点の場合。 （持ち点）100点 - （欠席・2回）10点 - （作品・80点）20点 = （最終評価）70点</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	講義と制作
(25)留意点・予備知識	制作した作品は学内掲示板等に展示し、公開する予定です。
(26)オフィスアワー	前後期 水曜 9、10時限
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ms@hirosaki-u.ac.jp http://www.facebook.com/hirodaibi
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	430
(2)区分番号	430
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	デザインII (3年後) (Design II)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等 (中コース美術サブコース) : 選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 9・10時限
(10)担当教員 (所属)	石川 善朗 (教育学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○2次元コンピューターグラフィックス (2DCG) の基礎を学び、与えられた課題をコンピューター上でデザインし完成すること (解決する力) ○2DCGのデザイン制作課程を学び、その制作方法を考察すること (学び続ける力)
(15)授業の概要	課題として「A2」サイズのポスターを想定し、ベクター系、ラスター系の画像処理ソフトウェアを用いて、CGデザインに関する自己表現を学習する。基本的な2次元CGの技術はマスターする。コンピューターにおける画像表現についての流れを理解する。
(16)授業の内容 予定	授業当初は座学で、2DCGのファイル作成の基礎を学ぶ。 次に総合情報処理センター画像処理解析室で2DCGの実際の操作を行う。コンピューター上で課題の「A2」サイズのポスターを作成した後、それらについて講評を行う。 授業1回目：全体の授業ガイダンスと、必要になる道具やソフトウェアの解説 授業2回目：CG作成におけるコンピューターの作業構造を解説する。 授業3回目：作成ファイルの保存形式とファイル構造を解説する。 授業4回目：実際にCG用コンピューターに触れて、その操作方法の基礎を学ぶ。 授業5回目：CGにおけるベクター系とラスター系の表現の違いについて学ぶ。 授業6回目：2DCGにおける写真表現技術 (ラスター系) について学ぶ。 授業7回目：2DCGにおける紙面レイアウト技術 (ベクター系) について学ぶ。 授業8回目：ポスター原案作成、レイアウト考案とラフスケッチ作成 授業9回目：ラスター系によるポスター部品作成 初級編 授業10回目：ラスター系によるポスター部品作成 上級編 授業11回目：ベクター系によるポスターレイアウト作成 初級編 授業12回目：ベクター系によるポスターレイアウト作成 中級編 授業13回目：ベクター系によるポスターレイアウト作成 上級編

	<p>授業14回目：ポスター作品完成と各種USBメモリで提出。 授業15回目：各自による作品発表と講評</p> <p>進捗状況により変更もありうる。</p>
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	<p>予習（Adobe社PhotoShop及びIllustratorを使ってみる）：2時間 復習（授業と同じ工程を再度行う）：2時間 以上を毎週行うこと。</p>
(18)学問分野 1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある 教員による授業科目 について	実務教員
(20)教材・教科書	<p>教材としてソフトウェアAdobe社PhotoShop及びIllustratorを用いる。 各ソフトウェアに関する参考書を用意すると良い。 各自スケッチ用筆記具、スケッチブックなどが必要となる。</p>
(21)参考文献	<p>ソフトウェアAdobe社PhotoShop及びIllustratorに関する参考文献。各種数 多く出版されているので図書館や情報基盤センターなどで自分が理解しやすい ものを1～2冊目を通しておくこと。</p>
(22)成績評価方法 及び採点基準	<p>制作作業過程：20% 制作結果(作品)：80% で評価する</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・ 授業方法	講義及び作品制作
(25)留意点・予 備知識	<p>コンピューター初心者でも可能であるが、コンピューターグラフィックスの 基礎知識があれば、さらに高度な課題作成が可能となる。教材・教科書欄に 記述した各ソフトウェアに関する参考書を用意すると良い。</p>
(26)オフィスア ワー	オフィスアワーは月～金の11:50~12:40まで
(27)Eメールア ドレス・HPアド レス	hirozen@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	完成した作品は廊下の所定の場所にて公開する予定

教育学部

(1)整理番号	432
(2)区分番号	432
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	工芸基礎（2年前）（Basic Crafts）
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（小・美術サブコース）・初等中等（中コース美術）・特支（中コース美術）：必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日 9・10時限
(10)担当教員 （所属）	石川 善朗（教育学部）
(11)地域志向 科目	地域志向科目
(12)難易度 （レベル）	レベル2
(13)対応する CP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業とし ての具体的到達 目標	○地域の伝統工芸技術の内、津軽地区の夏の祭事ねぶた・ねぶた祭りで用いられる紙工芸技術と彩色を取り上げ技術を学び実践できること（見通す力） ○用意した針金と紙（和紙）を用いて「照明器具」の作品を完成することができること（解決する力）
(15)授業の概 要	青森県には津軽の夏祭りとして紙を使った祭事道具を用いる、ねぶた、ねぶた祭りがある。また日本各地にも竹や和紙を用いた照明器具が地域の伝統工芸品として存在する。それらの技術を踏襲したうえで、青森県の紙に関連した祭り御輿の制作技術を用いて、卓上や吊し形の照明器具を創作する。
(16)授業の内 容予定	照明器具の解説。 針金組み上げの解説。 紙の張り込みの解説。 立体造形の基本を学ぶ。 1回目：全体ガイダンス、必要工具、材料の解説 2回目：照明器具について（講義） 3回目：アイデアスケッチ、簡易図面制作 4回目：練習作品-針金による骨組み制作（基礎） 5回目：練習作品-針金による骨組み制作（応用） 6回目：練習作品-針金による骨組み制作（完成） 7回目：課題作品（50cm立方以下）の照明器具のアイデアスケッチ 8回目：課題作品-針金による骨組み制作（基礎） 9回目：課題作品-針金による骨組み制作（応用） 10回目：課題作品-針金による骨組み制作（完成） 11回目：紙の張り込み（前半） 12回目：紙の張り込み（後半） 13回目：紙に着色（上塗り） 14回目：課題作品完成 15回目：作品発表、講評

	授業の進捗状況によっては変更もありうる。
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	予習（照明器具を近隣の店舗で調査する）：2時間 復習（授業の作業を繰り返す）：2時間 以上を毎週行うこと。
(18)学問分野 1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験 のある教員によ る授業科目につ いて	実務教員
(20)教材・教 科書	適宜資料を配付する。 材料代として1,500円～2,000円程度必要である。
(21)参考文献	インテリアデザイン、照明器具などの写真入り解説書。多種多彩にあるので各自気に入った本を数冊、目を通しておくこと。
(22)成績評価 方法及び採点基 準	制作作業過程：20% 制作結果(作品)：60% 発表プレゼンテーション：20% で評価する
(23)授業形式	実習
(24)授業形 態・授業方法	講義と作品制作
(25)留意点・ 予備知識	安全で動きやすく、絵の具や接着剤が付着しても良い服装で臨むこと。
(26)オフィス アワー	月～金の11:50~12:40まで
(27)Eメールア ドレス・HPア ドレス	hirozen@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	433
(2)区分番号	433
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	工芸基礎（2年後）（Basic Crafts）
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（小・美術サブコース），初等中等（中コース美術）・特支（中コース美術）：必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 3・4時限
(10)担当教員（所属）	石川 善朗（教育学部）
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○津軽地域の青森県認定の伝統的工芸品である「津軽焼」と、一般陶芸の基本技術から陶芸の制作に触れて、基本的な陶芸の技法を身につけること（見通す力） ○自分で粘土の成形から、焼成が完成するまでの工程を一通りできることまでを学び、美術教育の指導を行えること（解決する力）
(15)授業の概要	伝統工芸技術の一つ陶芸を取り上げる。特に青森地域の工芸である「津軽焼」に触れて、土に親しむことと基礎的な造型、及び釉薬や焼成について学ぶ。
(16)授業の内容予定	授業は陶芸制作が主体となる。 1回目：全体ガイダンス、必要工具、材料の解説 2回目：陶器について、特に日用品における用と美について（講義） 3回目：アイデアスケッチ 4回目：作業説明と陶土の混練 5回目：陶土の成形、練習作品作成（基礎） 6回目：陶土の成形、練習作品作成（応用） 7回目：陶土の成形、練習作品作成（完成） 8回目：練習作品作成（器作成と素焼き） 9回目：練習作品作成（釉薬と本焼き） 10回目：課題作品（器作成裏） 11回目：課題作品（器作成表） 12回目：課題作品（器作成と素焼き） 13回目：課題作品（施釉） 14回目：課題作品（本焼き） 15回目：作品発表、講評 授業の進捗状況によっては変更もありうる
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	予習（陶磁器に関する書籍を通読する）：2時間 復習（作業を再度繰り返す）：2時間 以上を毎週行うこと。

(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	適宜資料を配付する。 陶土の材料代として1,500円~2,000円程度必要である
(21)参考文献	一般的な陶芸に関する本を読んでおく和良好的。「津軽焼」に関する解説書などに目を通しておくとなお良い。
(22)成績評価方法及び採点基準	制作作業過程：20% 制作結果(作品)：80% で評価する
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	講義と実習・実技
(25)留意点・予備知識	安全で動きやすく、粘土が付着しても良い服装で臨むこと
(26)オフィスアワー	月~金の11:50~12:40まで
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	hirozen@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	434
(2)区分番号	434
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	工芸史 (History of Industrial Arts)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース美術サブコース）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日 9・10時限
(10)担当教員 (所属)	石川 善朗（教育学部）
(11)地域志向 科目	地域志向科目
(12)難易度 (レベル)	レベル3
(13)対応する C P / D P	CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業とし ての具体的到達 目標	○工芸の歴史を学び、技術の変遷や表現方法の変遷等を理解すること（学び続ける力） ○各種工芸品について考察し、それぞれの発達、衰退や産業としての工芸の歴史を理解すること（学び続ける力） ○日本工芸技術発展史と青森地域の工芸品について考察し理解すること（学び続ける力）
(15)授業の概 要	古代から現代までの日本の工芸を中心に、産業デザインやクラフト等、工芸の歴史をたどる。また、陶磁・漆芸・染織・金工・ガラス工芸など、おもだった工芸技術の概略を技法史の視点から紹介し、工芸製品産業の視点からも紹介する。青森県の工芸に関しては特に詳しく触れる。
(16)授業の内 容予定	古代から現代までの工芸の歴史俯瞰と、特に陶磁・漆芸・染織・金工・ガラス工芸それぞれについて講義した後、現在おかれている工芸製品の現状についても講義する。さらに青森県の工芸については詳しく述べる。 授業1回目：全体ガイダンス、授業の進め方と必要なもの 授業2回目：工芸の技術史（原始から古代） 授業3回目：工芸の技術史（古代から近世） 授業4回目：工芸の技術史（近世から現代） 授業5回目：主な工芸品とその成り立ちについて 授業6回目：木工の技術と歴史 授業7回目：金工の技術と歴史 授業8回目：染織の技術と歴史 授業9回目：陶芸の技術と歴史 授業10回目：漆工の技術と歴史 授業11回目：ガラス工芸の技術と歴史 授業12回目：青森県の工芸（津軽塗） 授業13回目：青森県の工芸（こぎん刺しとその他） 授業14回目：青森県の工芸に対する現在の取り組み 授業15回目：世界の工芸と日本の工芸の比較（アールヌーボー） 授業16回目：記述試験

	授業の進捗状況によっては変更もありうる。
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	予習（シラバスに沿って次週の課題を調査しておく）：2時間 復習（授業内容のノートを読み直し、よく内容を記憶しておく）：2時間 以上を毎週行うこと。
(18)学問分野 1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	歴史学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	民俗学関連
(19)実務経験 のある教員によ る授業科目につ いて	実務教員
(20)教材・教 科書	適宜、資料を配布する。
(21)参考文献	各種出版されている工芸史や工芸技法書
(22)成績評価 方法及び採点基 準	平常講義：20% 記述式テスト：80% で評価する
(23)授業形式	講義
(24)授業形 態・授業方法	スライドによる講義を行う。
(25)留意点・ 予備知識	高校の世界史や日本史の教科書を理解していること。 日本や世界の工芸史の各種参考書を通読しておくこと
(26)オフィス アワー	月～金の11:50~12:40まで
(27)Eメールア ドレス・HPア ドレス	hirozen@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	435
(2)区分番号	435
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	美術史基礎 (Basic Art History)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等（小・美術サブコース），初等中等（中コース美術）・特支（中コース美術）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 5・6時限
(10)担当教員 (所属)	出 佳奈子（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル1
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての 具体的到達目標	○さまざまな地域・さまざまな時代の美術作品を鑑賞することができること（見通す力） ○さまざまな地域・さまざまな時代の美術作品の造形的特徴を理解すること（解決する力）
(15)授業の概要	さまざまな地域、さまざまな時代を代表する美術作品を数点とりあげ、それぞれの造形的特徴や、制作地・制作時期に特有の文化的背景について概説を行い、その上でそれぞれの作品に適した観賞方法について考えていきます。
(16)授業の内容 予定	1 ガイダンス・授業概要の説明・アンケート 2 古代の美術（オリエント・エジプト地域） 3 古代の美術（日本） 4 信仰と美術（古代ギリシア） 5 信仰と美術（ヨーロッパのキリスト教美術） 6 信仰と美術（仏像） 7 空間の把握（ヨーロッパのルネサンス美術） 8 空間の把握（中国・日本の水墨画） 9 空間の把握（中東／イスラム圏の美術） 10 読む絵画（ヨーロッパの物語画） 11 読む絵画（日本の絵巻） 12 リアリティをめぐる（ネーデルラント絵画） 13 リアリティをめぐる（19世紀フランスの写実主義） 14 リアリティVS抽象（近代美術） 15 アートと人の関係 16 期末試験
(17)準備学習 (予習・復習)等 の内容	復習が重要です。授業中に配布した資料を見直すとともに、紹介した作品については美術全集等で確認・復習をしてください。 予習・復習については、週に各2時間ずつを目安に行ってください。

(18)学問分野 1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	歴史学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	文化人類学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特に指定しません。授業中にプリントを配布します。
(21)参考文献	授業中に適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への参加態度（毎回のワークシート） 50% 期末試験 50%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	パワーポイントを用いた講義および演習
(25)留意点・予備知識	特にありません。
(26)オフィスアワー	特に設けていません。用事がある場合は、下記のメールアドレスに連絡してください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	idek_48@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特にありません。

教育学部

(1)整理番号	436
(2)区分番号	436
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	美術史I (Art History I)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース美術）・特支（中コース美術）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日 1・2時限
(10)担当教員（所属）	出 佳奈子（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○古代からロココ（18世紀）までの西洋美術史の流れを理解すること（見通す力） ○古代からロココ（18世紀）までの西洋美術の各作品に関して、歴史的・思想的背景と表現的特徴を説明できるようになること（解決する力）
(15)授業の概要	古代からロココ（18世紀）までの西洋美術の流れを概観し、各時代の様式的特徴を把握するとともに、代表的作品の作者・内容・受容について説明してきます。
(16)授業の内容予定	1 全体的な流れの確認 2 古代オリエント、エジプトおよび古代ギリシアの美術 3 古代ギリシア、ローマの美術 4 西欧中世初期の美術 5 ロマネスクの美術 6 ゴシックの美術 7 14世紀イタリアの美術 8 イタリアの初期ルネサンスの美術 9 イタリアの盛期ルネサンスの美術 10 北方ルネサンスの美術 11 マニエリスムの美術 12 イタリアのバロック美術 13 ベルギー、オランダのバロック美術 14 スペインのバロック美術 15 ロココの美術 16 期末試験
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	予習・復習については、美術全集を確認しながら、週に各2時間ずつを目安に行ってください。
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連

(18)学問分野2(副学問分野)	歴史学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	文化人類学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	授業中にプリントを配布します。
(21)参考文献	授業中に適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	期末試験 80% 授業態度 20%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	パワーポイントを用いた講義形式
(25)留意点・予備知識	世界史の流れを復習しておいてください。
(26)オフィスアワー	特に設定していません。用事がある場合は、下記のメールアドレスに連絡してください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	idek_48@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特にありません。

教育学部

(1)整理番号	437
(2)区分番号	437
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	美術史II（3年前）（Art History II）
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース美術サブコース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日 5・6時限
(10)担当教員（所属）	出 佳奈子（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○19・20世紀の美術作品を理解する上で必要な知識を習得すること（見通す力） ○19・20世紀の近現代の美術作品が提示する様々な問題について考える力をつけること（解決する力）
(15)授業の概要	19・20世紀の主に欧米における美術史を概観します。この時代の美術界には、モネやゴッホ、ピカソといった、展覧会等でも取り上げられることの多い有名な美術家たちが数多く登場します。授業では、そうした人物による作品をスライドで概観しながら、そこで繰り広げられた美術の表現をめぐる諸問題について考える機会を提供していきます。このような学習とそれに発する考察は、目下話題の様々な現代美術を、感じるままに鑑賞するだけではなく、鋭い意図と緻密な計算をもって制作された作品として捉えると同時に、それらが私達観者に発するメッセージを能動的に理解（解釈）することにもつながるでしょう。（なお、ここでの学習は、美術教員の採用試験対策としても有益になるよう考慮していく予定です。）

(16)授業の内容予定	<p>1 19世紀ヨーロッパにおける美術アカデミー（→「新古典主義」・「アカデミスム」）</p> <p>2 多様な価値観の登場と美術1（→「ロマン主義」・「ラファエル前派」における「オリエンタリズム」と「中世回帰」）</p> <p>3 多様な価値観の登場と美術2（→「写実主義」／展覧会の隆盛）</p> <p>4 「印象派」の成立：マネ</p> <p>5 「印象派」と再現（Representation）の問題</p> <p>6 日本における浮世絵の展開</p> <p>7 多様な価値観の登場と美術2（→「印象派」／ゴッホにおける「ジャポニスム」）</p> <p>8 日本におけるヨーロッパ近代美術の受容（→美術にまつわる制度の導入と「洋画」・「日本画」の展開）</p> <p>9 純粋な「絵画」1（→セザンヌから「キュビズム」へ）</p> <p>10 純粋な「絵画」2（→ゴーガン／マティス）</p> <p>11 純粋な「絵画」3（→「ドイツ表現主義」／モンドリアンと抽象・構成の概念をめぐって）</p> <p>12 表出（Expression）としての絵画表現①（→「象徴主義」・「シュルレアリスム」）</p> <p>13 表出（Expression）としての絵画表現「シュルレアリスム」</p> <p>14 美術（絵画）とは何か？と問いかけた20世紀美術（→「ダダイスム」・「抽象表現主義」など）</p> <p>15 「美術の終焉？」：美術のメッセージ性（→「コンセプチュアル・アート」等の1960年代以降の美術界の状況）</p> <p>16 期末試験</p> <p>※授業の進行状況に応じて内容が多少変わる場合もあります。</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	<p>特に復習が重要です。授業中に配付したプリントを読みながら、美術全集等で作品の図版や解説を確認することが必要となります。予習・復習については週に各2時間を目安に行ってください。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	<p>芸術関連</p>
(18)学問分野2(副学問分野)	<p>歴史学関連</p>
(18)学問分野3(副学問分野)	<p>思想関連</p>
(19)実務経験のある教員による授業科目について	<p>-</p>
(20)教材・教科書	<p>特に指定しません。授業中にプリントを配付します。</p>
(21)参考文献	<p>・美術全集 『世界美術大全集 西洋篇』（全28巻）、小学館、1992年～。（図書館、一部は美術史研究室）</p>

	<p>『日本美術全集』（全25巻）、講談社、1990年～。（美術史研究室）</p> <p>・近代美術史についての概説 高階秀爾著『西欧絵画の近代：ロマン主義から世紀末まで』青土社、1996年。（美術史研究室） ニコス・スタンゴス著、宝木範義訳『20世紀美術：フォーヴィスムからコンセプチュアル・アートまで』PARCO出版局、1985年。（美術史研究室） 宮下誠著『逸脱する絵画（20世紀芸術学講義）』法律文化社、2002年。（美術史研究室） 宮下誠著『20世紀絵画：モダニズム美術史を問い直す』光文社新書、2005年。（図書館） アメリカ・アレナス著、福のり子訳『なぜ、これがアートなの』淡交社、1998年。（図書館）</p> <p>・その他 クレメント・グリーンバーグ著、藤枝晃雄ほか訳『グリーンバーグ批評選集』勁草書房、2005年。（美術史研究室）</p> <p>※その他、授業中に随時紹介します。なお、（）内は閲覧可能場所です。</p>
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>授業への積極的な参加態度（毎回の小テスト） 30%</p> <p>期末試験 70%</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	パワーポイントを用いた講義形式
(25)留意点・予備知識	前年度の「美術史I」の講義を受講していることが望ましいのですが、受講していない場合には初回の授業でその旨を伝えてください。
(26)オフィスアワー	オフィスアワーは特に設定していません。相談等がある場合にはメールで連絡をとってください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	idek_48@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特にありません。

教育学部

(1)整理番号	438
(2)区分番号	438
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	美術史II (3年後) (Art History II)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等 (中コース美術サブコース) : 選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 5・6時限
(10)担当教員 (所属)	出 佳奈子 (教育学部)
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応する CP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業とし ての具体的到達 目標	○古代から江戸時代にかけての日本美術史の流れを理解すること (見通す力) ○古代から江戸時代にかけての日本美術における各作品の歴史的・思想的背景と表現的特徴を説明できるようになること (解決する力)
(15)授業の概 要	縄文時代から江戸時代までの日本美術の通史を概観します。各時代の様式や作品の時代背景を紹介しながら、阿修羅像や平等院鳳凰堂、運慶・快慶の仏像、狩野永徳や長谷川等伯による桃山絵画、伊藤若冲の奇想画、琳派の美術、浮世絵など、さまざまなジャンルの美術作品を見ていきます。
(16)授業の内 容予定	<ol style="list-style-type: none"> 1 美術史について 2 縄文・弥生・古墳時代の美術 3 飛鳥・白鳳時代の仏像 4 天平時代の仏像 5 密教美術 6 浄土教美術 7 絵巻 8 鎌倉時代の仏像 9 室町時代の水墨画 10 中世やまと絵と狩野派の登場 11 桃山美術 12 江戸時代初期の狩野派と風俗画 13 文人画と洋風画 14 琳派／江戸の奇想画 15 浮世絵の展開 16 期末試験 <p>※授業内容は変更する場合があります。</p>
	復習が重要です。美術全集などを見て、必ず作品の確認をしてください。予習・復習については、週に各2時間ずつを目安に行ってください。

(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	
(18)学問分野 1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	歴史学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	文化人類学関連
(19)実務経験 のある教員によ る授業科目につ いて	-
(20)教材・教 科書	特に指定しません。授業中にプリントを配布します。
(21)参考文献	授業中に適宜紹介します。
(22)成績評価 方法及び採点基 準	期末試験 80% 授業への参加態度 20%
(23)授業形式	講義
(24)授業形 態・授業方法	パワーポイントを使用した講義形式
(25)留意点・ 予備知識	特にありません。
(26)オフィス アワー	特に設けていません。用事がある場合は、下記のメールアドレスに連絡してください。
(27)Eメールア ドレス・HPア ドレス	idek_48@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特にありません。

教育学部

(1)整理番号	439
(2)区分番号	439
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	美術史II（4年前）（Art History II）
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	初等中等（中コース美術サブコース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日 5・6時限
(10)担当教員（所属）	出 佳奈子（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○19・20世紀の美術作品を理解する上で必要な知識を習得すること（見通す力） ○19・20世紀の近現代の美術作品が提示する様々な問題について考える力をつけること（解決する力）
(15)授業の概要	19・20世紀の主に欧米における美術史を概観します。この時代の美術界には、モネやゴッホ、ピカソといった、展覧会等でも取り上げられることの多い有名な美術家たちが数多く登場します。授業では、そうした人物による作品をスライドで概観しながら、そこで繰り広げられた美術の表現をめぐる諸問題について考える機会を提供していきます。このような学習とそれに発する考察は、目下話題の様々な現代美術を、感じるままに鑑賞するだけではなく、鋭い意図と緻密な計算をもって制作された作品として捉えると同時に、それらが私達観者に発するメッセージを能動的に理解（解釈）することにもつながるでしょう。（なお、ここでの学習は、美術教員の採用試験対策としても有益になるよう考慮していく予定です。）

(16)授業の内容予定	<p>1 19世紀ヨーロッパにおける美術アカデミー（→「新古典主義」・「アカデミスム」）</p> <p>2 多様な価値観の登場と美術1（→「ロマン主義」・「ラファエル前派」における「オリエンタリズム」と「中世回帰」）</p> <p>3 多様な価値観の登場と美術2（→「写実主義」／展覧会の隆盛）</p> <p>4 「印象派」の成立：マネ</p> <p>5 「印象派」と再現（Representation）の問題</p> <p>6 日本における浮世絵の展開</p> <p>7 多様な価値観の登場と美術2（→「印象派」／ゴッホにおける「ジャポニスム」）</p> <p>8 日本におけるヨーロッパ近代美術の受容（→美術にまつわる制度の導入と「洋画」・「日本画」の展開）</p> <p>9 純粋な「絵画」1（→セザンヌから「キュビズム」へ）</p> <p>10 純粋な「絵画」2（→ゴーガン／マティス）</p> <p>11 純粋な「絵画」3（→「ドイツ表現主義」／モンドリアンと抽象・構成の概念をめぐって）</p> <p>12 表出（Expression）としての絵画表現①（→「象徴主義」・「シュルレアリスム」）</p> <p>13 表出（Expression）としての絵画表現「シュルレアリスム」</p> <p>14 美術（絵画）とは何か？と問いかけた20世紀美術（→「ダダイスム」・「抽象表現主義」など）</p> <p>15 「美術の終焉？」：美術のメッセージ性（→「コンセプチュアル・アート」等の1960年代以降の美術界の状況）</p> <p>16 期末試験</p> <p>※授業の進行状況に応じて内容が多少変わる場合もあります。</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	<p>特に復習が重要です。授業中に配付したプリントを読みながら、美術全集等で作品の図版や解説を確認することが必要となります。予習・復習については週に各2時間を目安に行ってください。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	<p>芸術関連</p>
(18)学問分野2(副学問分野)	<p>歴史学関連</p>
(18)学問分野3(副学問分野)	<p>思想関連</p>
(19)実務経験のある教員による授業科目について	<p>-</p>
(20)教材・教科書	<p>特に指定しません。授業中にプリントを配付します。</p>
(21)参考文献	<p>・美術全集 『世界美術大全集 西洋篇』（全28巻）、小学館、1992年～。（図書館、一部は美術史研究室）</p>

	<p>『日本美術全集』（全25巻）、講談社、1990年～。（美術史研究室）</p> <p>・近代美術史についての概説 高階秀爾著『西欧絵画の近代：ロマン主義から世紀末まで』青土社、1996年。（美術史研究室） ニコス・スタンゴス著、宝木範義訳『20世紀美術：フォーヴィスムからコンセプチュアル・アートまで』PARCO出版局、1985年。（美術史研究室） 宮下誠著『逸脱する絵画（20世紀芸術学講義）』法律文化社、2002年。（美術史研究室） 宮下誠著『20世紀絵画：モダニズム美術史を問い直す』光文社新書、2005年。（図書館） アメリカ・アレナス著、福のり子訳『なぜ、これがアートなの』淡交社、1998年。（図書館）</p> <p>・その他 クレメント・グリーンバーグ著、藤枝晃雄ほか訳『グリーンバーグ批評選集』勁草書房、2005年。（美術史研究室）</p> <p>※その他、授業中に随時紹介します。なお、（）内は閲覧可能場所です。</p>
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>授業への積極的な参加態度（毎回の小テスト） 30% 期末試験 70%</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	パワーポイントを用いた講義形式
(25)留意点・予備知識	前年度の「美術史I」の講義を受講していることが望ましいのですが、受講していない場合には初回の授業でその旨を伝えてください。
(26)オフィスアワー	オフィスアワーは特に設定していません。相談等がある場合にはメールで連絡をとってください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	idek_48@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特にありません。

教育学部

(1)整理番号	440
(2)区分番号	440
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	陸上競技I (Track and Field I)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等（中コース保健体育）・特支（中コース保健体育）：必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 5・6時限
(10)担当教員（所属）	杉本和那美（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○陸上競技の特性に関する知識を習得すること（見通す力） ○陸上競技の基礎的技術の習得を通し、陸上競技の指導方法を理解すること（解決していく力）
(15)授業の概要	陸上競技における走・跳・投の運動の基礎的な知識を学習し、技能を習得する。 さらに、それらの知識と技能を通して陸上競技の指導方法を学習する。
(16)授業の内容予定	第1回：オリエンテーション 第2回：長距離走のトレーニング法 第3回：短距離走のトレーニング法 第4回：短距離走の技術と記録計測 第5回：バトンパスの技術とトレーニング法 第6回：バトンパスの技術とリレーの記録計測 第7回：ハードリングとインターバル走のトレーニング法 第8回：ハードル走の技術と記録計測 第9回：走幅跳の踏切技術 第10回：走幅跳の助走と記録計測 第11回：走高跳の踏切技術と空中姿勢 第12回：走高跳の助走と記録計測 第13回：砲丸投のトレーニング法と記録計測 第14回：5種競技の記録測定（短距離、障害走、投擲） 第15回：5種競技の記録測定（跳躍、長距離）とまとめ
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	〔予習〕毎回の授業で取り上げられる種目の特性について理解するとともに、身体の調子を整えておくようにする。 〔復習〕毎回の授業で取り上げた種目の記録や測定方法をまとめ、個人の課題とその指導方法について検討する。
(18)学問分野1(主学問分野)	体育関連
(18)学問分野2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	スポーツ科学関連

(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	日本陸上競技連盟（編集） 陸上競技指導教本アンダー16・19 基礎から身につく陸上競技 初級編（2013）大修館書店 小木曾 一之（編著） 中学・高校 陸上競技の学習指導 「わかって・できる」指導の工夫（2017）道和書院
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（授業への参加度：20%） 達成評価（実技の完成度：50%） レポート（運動の理解度：30%） 上記を合算して成績評価を行います。
(23)授業形式	実技
(24)授業形態・授業方法	取り上げた種目の練習をします。 各種目の最終回と期末に記録の測定をします。
(25)留意点・予備知識	授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明をします。
(26)オフィスアワー	木曜日 14時～15時
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	kanami@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	442
(2)区分番号	442
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	水泳I (Swimming I)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等（中コース保健体育）・特支（中コース保健体育）：必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員（所属）	○戸塚 学（教育学部）・益川 満治（教育学部） ・非常勤講師（未定）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル1~2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○水泳指導上必要な基本技術（4泳法）を習得すること ○水泳指導上必要な安全・環境管理法について理解すること ○水泳の運動強度を理解し、健康運動としての水泳の可能性を理解すること
(15)授業の概要	○水泳指導上必要な基本技術（4泳法）を習得すること。 ○水泳指導上必要な安全・環境管理法について理解すること。
(16)授業の内容予定	<p>第1回 プールの衛生管理 第2回 水中安全法（水泳の運動強度の理解を含む） 第3回 伏し浮き、蹴伸び等の基本スキル 第4回 クロールの基礎（キック） 第5回 クロールの基礎（ストローク） 第6回 平泳ぎの基礎（キック） 第7回 平泳ぎの基礎（ストローク） 第8回 スタート・ターン（クロール・平泳ぎ） 第9回 背泳ぎの基礎（キック） 第10回 背泳ぎの基礎（ストローク） 第11回 バタフライの基礎（キック） 第12回 バタフライの基礎（ストローク） 第13回 スタート・ターン（背泳ぎ・バタフライ） 第14回 個人メドレー 第15回 水中運動と運動強度 第16回 技能テスト</p> <p>技能上達の状況に合わせて授業内容の変更を行うことがあります。</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	大学に入学してから水泳をしていない人は、市営プール等で体を水に慣らしておいて下さい。
(18)学問分野1(主学問分野)	体育関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
	-

(19)実務経験のある教員による 授業科目について	
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	日本水泳連盟（編集），水泳指導教本，2012年，大修館書店
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（授業態度など）：10% 期末評価（実技試験、レポートなど）：90%
(23)授業形式	実技
(24)授業形態・授業方法	学園町プールまたは近隣のプールにて集中授業を行います。 詳細については、授業ガイダンス時にお知らせします。
(25)留意点・予備知識	競泳用水着を各自用意すること。
(26)オフィスアワー	月曜日11:00~12:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	tot@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	443
(2)区分番号	443
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	スキーI (Ski I)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等（中コース保健体育）・特支（中コース保健体育）：必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員（所 属）	○高橋 俊哉（教育学部）・清水 紀人（教育学部）・益川 満治（教育学部）・工藤 雅照（非常勤講師）・中田 良子（非常勤講師）
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度（レベ ル）	レベル1
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具 体的到達目標	○スキーの基本技術・基礎技術を習得するとともに、指導法を習得すること（技術的には級別検定2級を目標）
(15)授業の概要	この授業は、全日本スキー連盟「日本スキー教程・指導者必携」にある基本技術・基礎技術およびその指導法について学習します。
(16)授業の内容予定	<p>第 1 回 技能レベルチェック</p> <p>第 2 回 歩行・登行・制動・方向転換等の基本技術</p> <p>第 3 回 制動要素を含むターン技術①（ブルークボーゲン）</p> <p>第 4 回 制動要素を含むターン技術②（シュテムターン）</p> <p>第 5 回 大回り①（整地・中斜面）</p> <p>第 6 回 大回り②（整地・中急斜面）</p> <p>第 7 回 小回り①（整地・中斜面）</p> <p>第 8 回 小回り②（整地・中急斜面）</p> <p>第 9 回 大回り③（ナチュラルバーン・中斜面）</p> <p>第 10 回 大回り④（ナチュラルバーン・中急斜面）</p> <p>第 11 回 小回り③（ナチュラルバーン・中斜面）</p> <p>第 12 回 小回り④（ナチュラルバーン・中急斜面）</p> <p>第 13 回 谷回りの連続①（大回り）</p> <p>第 14 回 谷回りの連続②（小回り）</p> <p>第 15 回 総合滑降</p> <p>第 16 回 技能テスト</p> <p>技能上達の状況により、授業内容を変更することがあります。</p>
(17)準備学習（予 習・復習）等の内容	大学に入学してからスキーをしていない学生は、授業前にスキーを実施して感覚を取り戻しておいて下さい。スキーの経験のない学生については、事前に補講授業を行います。
(18)学問分野1(主学 問分野)	スポーツ科学関連
	体育関連

(18)学問分野2(副学問分野)	
(18)学問分野3(副学問分野)	健康科学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特にありません。
(21)参考文献	「スキー指導と検定」(全日本スキー連盟)
(22)成績評価方法及び採点基準	・授業態度およびレポート(20点)・技能テスト(80点) 上記を合算して成績評価を行います。
(23)授業形式	実技
(24)授業形態・授業方法	2月中旬～下旬に3泊4日の集中授業で実施し、技能レベル別に分けられたグループにて受講します。
(25)留意点・予備知識	授業に関わる経費は、各自負担となります。詳細については12月のガイダンス時に周知します。
(26)オフィスアワー	月12:00～13:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	toshiya@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	なし

教育学部

(1)整理番号	444
(2)区分番号	444
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	体操I (Gymnastics I)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等（中コース保健体育サブコース）：選択必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員（所属）	三宅良輔（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル1～2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	○体操の基本動作を修得するとともに、その学習方法についても理解すること
(15)授業の概要	○小・中・高等学校保健体育「体づくり運動」の領域の指導に必要な基本的な体の操り方や学習方法を実技を通して理解し体得します。
(16)授業の内容予定	第1回ガイダンス 第2回ストレッチング 第3回ラベンダー体操 第4回疾風（はやて） 第5回基本体操Part1 第6回基本体操Part2 第7回組運動（2人組） 第8回組体操（2人組） 第9回組体操の安全な作り方および小テスト 第10回ボール体操 第11回駆け足体操 第12回ロープ体操 第13回チューブ体操 第14回ステップ体操Part1 第15回ステップ体操Part2および小テスト 準備学習（予習・復習）等の内容 * 予習は特に必要とされません。復習は、授業時にできなかったことについては、練習を重ね、できるように努力をしておいてください。
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	○教科書を事前に一括購入しますので、授業までに教科書を読んできて下さい。
(18)学問分野1(主学問分野)	体育関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-

(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	体操HandBook2 (DVD) 日本体育大学運動方法体操研究室 (閲覧可能場所: 戸塚研究室)
(21)参考文献	授業時に必要な資料が配布されます。また、必要に応じて授業時に指示されます。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価 (受講態度など) : 10% 中間評価 (実技試験) : 30% 期末評価 (実技試験、レポートなど) : 60%
(23)授業形式	実技
(24)授業形態・授業方法	夏季休業中に集中授業で実施されます。
(25)留意点・予備知識	授業期間については後日周知されます。授業に関する問い合わせは、保健体育講座 戸塚までお願いします。
(26)オフィスアワー	非常勤講師担当につき、保健体育 戸塚 (月曜日11:00~12:00) にご相談下さい。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	tot@hirosaki-u.ac.jp (保健体育 戸塚)
(28)その他	特になし。

教育学部

(1)整理番号	447
(2)区分番号	447
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	バドミントンI (Badminton I)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等（中コース保健体育サブコース）：選択必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日 9・10時限
(10)担当教員 (所属)	上野秀人（教育学研究科）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル1
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての 具体的到達目標	○中学校学習指導要領解説（保健体育編）に示されている内容について、生徒に示範できる技能を習得すること
(15)授業の概要	授業では、バドミントンの基礎知識や打ち方の解説を行いながら、バドミントンの発展を理解したりバドミントンの動きを体感したりする。また、ペアやグループを変化させながら、状況に応じた取り組みを試行し、ダブルスのゲームを楽しく活発に行います。
(16)授業の内容 予定	1 ガイダンス（受講に関する諸注意及び授業の展開の説明） 2 グリップと構え方 3 フォアハンドストローク 4 バックハンドストローク 5 ストロークラリー 6 サービス（サービス動作を理解する） 7 フットワーク 8 シングルスゲーム 9 ルールと審判法・ゲームの楽しみ方 10 ダブルスゲームの基本（基本陣形） 11 ダブルスゲームの応用（ローテーション） 12 ダブルスゲームの応用（ローテーション） 13 ゲームの戦術 14 ゲームの戦術 15 ダブルスゲーム 16 テスト
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	（予習）中学校学習指導要領解説保健体育編の球技：ネット型の記載内容を確認する。 （復習）授業で学んだ特性、技術・戦術を活かして、その指導方法を検討したり、実践したりする。

(18)学問分野 1(主学問分野)	体育関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	スポーツ科学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	教育学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	中学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）
(21)参考文献	バドミントン競技規則（日本バドミントン協会）
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価：40% 達成評価：60%（小テスト20%、大テスト40%）
(23)授業形式	実技
(24)授業形態・授業方法	実技・演習
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	水12:00-12:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ueno@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	450
(2)区分番号	450
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	柔道I (Judo I)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等（中コース保健体育サブコース）：選択必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 1・2時限
(10)担当教員（所属）	高橋俊哉（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル1
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○柔道の基本に習熟し、安全な指導法を身につけること （2級程度を目安とする）
(15)授業の概要	柔道の基本動作、および対人技能について、一通り学習します。安全上の観点から、特に受け身の指導法について重点的にとりあげます。
(16)授業の内容予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 基本動作1 礼法、姿勢、組み方、崩し、歩き方、体さばき、受身1 3. 基本動作2 受身2 4. 基本動作3 受身3 5. 対人技能 投技 手技 6. 対人技能 投技 腰技 7. 対人技能 投技 足技 8. 対人技能 投技 捨身技 9. 対人技能 寝技 抑技 10. 対人技能 寝技 絞技 11. 対人技能 寝技 関節技 12. 審判法 13. 試合 14. 形 投の形1 15. 形 投の形2
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	各回の技術内容を確実に習得して次回に備えてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	スポーツ科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	体育関連
(18)学問分野3(副学問分野)	健康科学関連
	-

(19)実務経験のある教員による授業科目について	
(20)教材・教科書	なし
(21)参考文献	なし
(22)成績評価方法及び採点基準	各単元の終わりに見極めの試験をする
(23)授業形式	実技
(24)授業形態・授業方法	提示された課題をグループワークを中心に学習する。
(25)留意点・予備知識	柔道着を用意すること
(26)オフィスアワー	月12:00-13:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	toshiya@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	なし

教育学部

(1)整理番号	451
(2)区分番号	451
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	剣道I (Kendo I)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等（中コース保健体育サブコース）：選択必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員（所属）	竹田隆一（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル1
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的な到達目標	○剣道の実技に取り組みながら、専門用語およびルール、競技特性について理解し、説明できること ○剣道の技能を習得し、それぞれの種目を指導することができること
(15)授業の概要	剣道の歴史や技術的特性を講義する。それを基に、実技で技術学習をおこなう。 技術学習は、はじめに基本技術を習得し、次いで、わざの基本となる型の学習をおこない、対人技能(試合)と展開する。
(16)授業の内容予定	第1回：剣道の歴史、運動特性（講義） 第2回：剣道の基本動作の習得 一振り一 第3回： " 一踏み込み一 第4回： " 一上肢下肢の調和一 第5回：木刀を使つての基本形 1（1本目から4本目）（実技） 第6回： " 2（5本目から6本目）（実技） 第7回：防具をつけての基本形（木刀の基本形を防具をつけておこなう）（実技） 第8回：防具をつけての技の練習 1（仕掛け技）（実技） 第9回： " 2（応じ技）（実技） 第10回：技の練習（打ち込み稽古を中心におこなう）（実技） 第11回：対人技能の練習（互角稽古を中心におこなう。）（実技） 第12回：試合法・審判法（審判の所作・宣告の仕方を中心におこなう。）（実技） 第13回：試合練習（団体試合をおこなう。）（実技） 第14回：総合練習（トーナメント試合をおこなう。）（実技） 第15回：総合的に復習
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	・剣道の歴史や運動特性を予習する。 ・審判法を予習する。 ・防具の名称、着装の仕方を予習する。 ・初心者にとどのように指導したらいいか研究する。
(18)学問分野1(主学問分野)	スポーツ科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	体育関連
	-

(18)学問分野3(副学問分野)	
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	『剣道授業の展開』全日本剣道連盟2009年 初版
(21)参考文献	『武道のすすめ』中林信二 1987年 中林信二先生遺作集刊行会
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>【基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門用語およびルール、競技特性の理解度 (30%) ・実技テストの結果を含む技能習熟度 (40%) ・授業への参加意欲と態度 (30%) <p>【評価方法】</p> <p>上記の基準を用いて行なった各種目の採点結果から、総合的に判断し、評価を決定する。</p>
(23)授業形式	実技
(24)授業形態・授業方法	提示された課題をグループワークを中心に学習する。
(25)留意点・予備知識	<ul style="list-style-type: none"> ・集中授業だが、集中力を切らさず、受講すること。 ・各自、日本手ぬぐいを用意すること。 ・防具・竹刀等はこちらで用意する。
(26)オフィスアワー	月12:00-13:00 (高橋)
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	toshiya@hirosaki-u.ac.jp (高橋)
(28)その他	なし

教育学部

(1)整理番号	452
(2)区分番号	452
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	野外活動I (Outdoor Activity I)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース保健体育サブコース）：選択必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員（所属）	高橋俊哉（教育学部）
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度（レベル）	レベル1
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○夏季の野外活動について、安全に留意した計画立案と行動ができる、知識と技能を身につけること
(15)授業の概要	○野外活動の基本概念と基礎的スキル、安全な指導法を習得すること
(16)授業の内容予定	机上で、野外活動の基本概念を学んだ後、2泊3日の野外プログラムを計画し実施します。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 野外活動とは 2. 野外活動の活動プログラム 3. 活動計画作成に関する留意点 4. 活動計画作成 5. 各種装備の使用法 6. 食料計画とパッキング 7. 登山の基本技術 8. 読図とコンパスワーク 9. 救急処置と搬送法 10. 山小屋泊の技術 11. テント泊の技術 12. カヌーのパドリングについて 13. カヌーツーリングの実際 14. 各種装備の撤収とメンテナンス 15. 実習ふりかえり
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	八甲田山、及び十和田湖について、地理、気候等の情報収集をしてください。体調を整えて受講してください。
(18)学問分野1(主学問分野)	スポーツ科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	体育関連
(18)学問分野3(副学問分野)	健康科学関連
	-

(19)実務経験のある教員による授業科目について	
(20)教材・教科書	なし
(21)参考文献	なし
(22)成績評価方法及び採点基準	レポート
(23)授業形式	実技
(24)授業形態・授業方法	提示された課題をグループワークを中心に学習する。
(25)留意点・予備知識	事前にガイダンスを実施します。
(26)オフィスアワー	月12:00~13:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	toshiya@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	なし

教育学部

(1)整理番号	453
(2)区分番号	453
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	体操II（3年）（Gymnastics II）
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース保健体育サブコース）：選択必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員（所属）	三宅良輔（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2～3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○体づくり運動の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともにその指導法を身につけること ○目的に応じた心身の気づきや交流を深めるための運動の仕方や指導を身につけること ○ライフステージ及びライフスタイルに応じた体操や運動の計画の立て方を身につけること
(15)授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ○中学校・高等学校保健体育科学習指導要領における体ほぐしの領域指導に関する知識・技能とともに、その指導法を学ぶ ○体操を通じて、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツを推進及び発展させる必要性について学ぶ
(16)授業の内容予定	<p>第1回ガイダンス 第2回ストレッチングの指導法 第3回ラベンダー体操の指導法 第4回疾風（はやて）の指導法 第5回基本体操の指導法（基本的な体の動かし方①） 第6回基本体操の指導法（基本的な体の動かし方②） 第7回組運動の指導法（2人組） 第8回組体操の指導法（2人組） 第9回組体操の安全な作り方および中間テスト 第10回ボール体操の指導法 第11回駆け足体操の指導法 第12回ロープ体操の指導法 第13回チューブ体操の指導法 第14回ステップ体操の指導法① 第15回ステップ体操の指導法②および期末テスト</p> <p>準備学習（予習・復習）等の内容 * 予習は特に必要とされません。復習は、授業時にできなかったことについては、練習を重ね、できるように努力をしておいてください。</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	事前に教科書を読んでおいて下さい。
(18)学問分野1(主学問分野)	体育関連

(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	体操HandBook2(DVD)日本体育大学運動方法体操研究室(閲覧可能場所:戸塚研究室)
(21)参考文献	授業時に必要な資料が配布されます。また、必要に応じて授業時に指示されます。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価(受講態度など):10% 中間評価(実技試験):30% 期末評価(実技試験、レポートなど):60%
(23)授業形式	実技
(24)授業形態・授業方法	夏季休業中に集中授業で実施されます。
(25)留意点・予備知識	授業期間については後日周知されます。授業に関する問い合わせは、保健体育講座 戸塚までお願いします。
(26)オフィスアワー	非常勤講師担当につき、保健体育 戸塚(月曜日11:00~12:00)にご相談下さい。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	tot@hirosaki-u.ac.jp(窓口教員:保健体育 戸塚 学)
(28)その他	特になし。

教育学部

(1)整理番号	454
(2)区分番号	454
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	体操II（4年）（Gymnastics II）
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	初等中等（中コース保健体育サブコース）：選択必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員（所属）	三宅良輔（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3～4
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○体づくり運動の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともにその指導法を身につけること ○目的に応じた心身の気づきや交流を深めるための運動の仕方や指導を身につけること ○ライフステージ及びライフスタイルに応じた体操や運動の計画の立て方を身につけること
(15)授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ○中学校・高等学校保健体育科学習指導要領における体ほぐしの領域指導に関する知識・技能とともに、その指導法を学ぶ ○体操を通じて、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツを推進及び発展させる必要性について学ぶ
(16)授業の内容予定	<p>第1回ガイダンス 第2回ストレッチの指導法 第3回ラベンダー体操の指導法 第4回疾風（はやて）の指導法 第5回基本体操の指導法（基本的な体の動かし方①） 第6回基本体操の指導法（基本的な体の動かし方②） 第7回組運動の指導法（2人組） 第8回組体操の指導法（2人組） 第9回組体操の安全な作り方および中間テスト 第10回ボール体操の指導法 第11回駆け足体操の指導法 第12回ロープ体操の指導法 第13回チューブ体操の指導法 第14回ステップ体操の指導法① 第15回ステップ体操の指導法②および期末テスト 準備学習（予習・復習）等の内容 * 予習は特に必要とされません。復習は、授業時にできなかったことについては、練習を重ね、できるように努力をしておいてください。</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	事前に教科書を読んでおいて下さい。
	体育関連

(18)学問分野1(主学問分野)	
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	体操HandBook2 (DVD) 日本体育大学運動方法体操研究室（閲覧可能場所：戸塚研究室）
(21)参考文献	授業時に必要な資料が配布されます。また、必要に応じて授業時に指示されます。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（受講態度など）：10% 中間評価（実技試験）：30% 期末評価（実技試験、レポートなど）：60%
(23)授業形式	実技
(24)授業形態・授業方法	夏季休業中に集中授業で実施されます。
(25)留意点・予備知識	授業期間については後日周知されます。授業に関する問い合わせは、保健体育講座 戸塚までお願いします。
(26)オフィスアワー	非常勤講師担当につき、保健体育 戸塚（月曜日11:00～12:00）にご相談下さい。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	tot@hirosaki-u.ac.jp （窓口教員：保健体育 戸塚 学）
(28)その他	特になし。

教育学部

(1)整理番号	455
(2)区分番号	455
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	陸上競技II (3年) (Track and Field II)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等 (中コース保健体育サブコース) : 選択必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 5・6時限
(10)担当教員 (所属)	杉本和那美 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2~3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○陸上競技の特性に関する知識を習得すること (見通す力) ○陸上競技の基礎的技術の習得を通し、陸上競技の指導方法を理解すること (解決していく力)
(15)授業の概要	陸上競技における走・跳・投の運動の基礎的な知識を学習し、技能を習得する。 さらに、それらの知識と技能を通して陸上競技の指導方法を学習する。
(16)授業の内容予定	第1回：オリエンテーション 第2回：長距離走のトレーニング法 第3回：短距離走のトレーニング法 第4回：短距離走の技術と記録計測 第5回：バトンパスの技術とトレーニング法 第6回：バトンパスの技術とリレーの記録計測 第7回：ハードリングとインターバル走のトレーニング法 第8回：ハードル走の技術と記録計測 第9回：走幅跳の踏切技術 第10回：走幅跳の助走と記録計測 第11回：走高跳の踏切技術と空中姿勢 第12回：走高跳の助走と記録計測 第13回：砲丸投のトレーニング法と記録計測 第14回：5種競技の記録測定 (短距離、障害走、投擲) 第15回：5種競技の記録測定 (跳躍、長距離) とまとめ
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	〔予習〕 毎回の授業で取り上げられる種目の特性について理解するとともに、身体の調子を整えておくようにする。 〔復習〕 毎回の授業で取り上げた種目の記録や測定方法をまとめ、個人の課題とその指導方法について検討する。
(18)学問分野1(主学問分野)	体育関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
	-

(19)実務経験のある教員による授業科目について	
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	日本陸上競技連盟（編集） 陸上競技指導教本アンダー16・19 基礎から身につく陸上競技 初級編（2013）大修館書店 小木曾 一之（編著） 中学・高校 陸上競技の学習指導 「わかって・できる」指導の工夫（2017）道和書院
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（授業への参加度：20%） 達成評価（実技の完成度：50%） レポート（運動の理解度：30%） 上記を合算して成績評価を行います。
(23)授業形式	実技
(24)授業形態・授業方法	取り上げた種目の練習をします。 各種目の最終回と期末に記録の測定をします。
(25)留意点・予備知識	授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明をします。
(26)オフィスアワー	木曜日 14時～15時
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	kanami@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	456
(2)区分番号	456
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	陸上競技II (4年) (Track and Field II)
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	初等中等 (中コース保健体育サブコース) : 選択必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 5・6時限
(10)担当教員 (所属)	杉本和那美 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2~3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○陸上競技の特性に関する知識を習得すること (見通す力) ○陸上競技の基礎的技術の習得を通し、陸上競技の指導方法を理解すること (解決していく力)
(15)授業の概要	陸上競技における走・跳・投の運動の基礎的な知識を学習し、技能を習得する。 さらに、それらの知識と技能を通して陸上競技の指導方法を学習する。
(16)授業の内容予定	第1回：オリエンテーション 第2回：長距離走のトレーニング法 第3回：短距離走のトレーニング法 第4回：短距離走の技術と記録計測 第5回：バトンパスの技術とトレーニング法 第6回：バトンパスの技術とリレーの記録計測 第7回：ハードリングとインターバル走のトレーニング法 第8回：ハードル走の技術と記録計測 第9回：走幅跳の踏切技術 第10回：走幅跳の助走と記録計測 第11回：走高跳の踏切技術と空中姿勢 第12回：走高跳の助走と記録計測 第13回：砲丸投のトレーニング法と記録計測 第14回：5種競技の記録測定 (短距離、障害走、投擲) 第15回：5種競技の記録測定 (跳躍、長距離) とまとめ
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	〔予習〕 毎回の授業で取り上げられる種目の特性について理解するとともに、身体の調子を整えておくようにする。 〔復習〕 毎回の授業で取り上げた種目の記録や測定方法をまとめ、個人の課題とその指導方法について検討する。
(18)学問分野1(主学問分野)	体育関連
(18)学問分野2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
	-

(19)実務経験のある教員による授業科目について	
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	日本陸上競技連盟（編集） 陸上競技指導教本アンダー16・19 基礎から身につく陸上競技 初級編（2013）大修館書店 小木曾 一之（編著） 中学・高校 陸上競技の学習指導 「わかって・できる」指導の工夫（2017）道和書院
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（授業への参加度：20%） 達成評価（実技の完成度：50%） レポート（運動の理解度：30%） 上記を合算して成績評価を行います。
(23)授業形式	実技
(24)授業形態・授業方法	取り上げた種目の練習をします。 各種目の最終回と期末に記録の測定をします。
(25)留意点・予備知識	授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明をします。
(26)オフィスアワー	木曜日 14時～15時
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	kaanmi@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	465
(2)区分番号	465
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	バドミントンII (3年) (Badminton II)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等 (中コース保健体育サブコース) : 選択必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日 9・10時限
(10)担当教員 (所属)	上野秀人 (教育学研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての 具体的到達目標	○中学校学習指導要領解説 (保健体育編) に示されている内容について、生徒に示範できる技能を習得すること
(15)授業の概要	授業では、バドミントンの基礎知識や打ち方の解説を行いながら、バドミントンの発展を理解したりバドミントンの動きを体感したりする。また、ペアやグループを変化させながら、状況に応じた取り組みを試行し、ダブルスのゲームを楽しく活発に行います。
(16)授業の内容 予定	1 ガイダンス (受講に関する諸注意及び授業の展開の説明) 2 グリップと構え方 3 フォアハンドストローク 4 バックハンドストローク 5 ストロークラリー 6 サービス (サービス動作を理解する) 7 フットワーク 8 シングルスゲーム 9 ルールと審判法・ゲームの楽しみ方 10 ダブルスゲームの基本 (基本陣形) 11 ダブルスゲームの応用 (ローテーション) 12 ダブルスゲームの応用 (ローテーション) 13 ゲームの戦術 14 ゲームの戦術 15 ダブルスゲーム 16 テスト
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	(予習) 中学校学習指導要領解説保健体育編の球技: ネット型の記載内容を確認する。 (復習) 授業で学んだ特性、技術・戦術を活かして、その体育授業・運動部活動及びスポーツ指導での指導方法を検討したり、実践したりする。

(18)学問分野 1(主学問分野)	体育関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	スポーツ科学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	教育学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	中学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）
(21)参考文献	バドミントン競技規則（日本バドミントン協会）
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価：40% 達成評価：60%（小テスト20%，大テスト40%）
(23)授業形式	実技
(24)授業形態・授業方法	実技・演習
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	水12:00-12:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ueno@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	466
(2)区分番号	466
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	バドミントンII (4年) (Badminton II)
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	初等中等 (中コース保健体育サブコース) : 選択必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日 9・10時限
(10)担当教員 (所属)	上野秀人 (教育学研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての 具体的到達目標	○中学校学習指導要領解説 (保健体育編) に示されている内容について、生徒に示範できる技能を習得すること
(15)授業の概要	授業では、バドミンントンの基礎知識や打ち方の解説を行いながら、バドミンントンの発展を理解したりバドミンント的な動きを体感したりする。また、ペアやグループを変化させながら、状況に応じた取り組みを試行し、ダブルスのゲームを楽しく活発に行います。
(16)授業の内容 予定	1 ガイダンス (受講に関する諸注意及び授業の展開の説明) 2 グリップと構え方 3 フォアハンドストローク 4 バックハンドストローク 5 ストロークラリー 6 サービス (サービス動作を理解する) 7 フットワーク 8 シングルスゲーム 9 ルールと審判法・ゲームの楽しみ方 10 ダブルスゲームの基本 (基本陣形) 11 ダブルスゲームの応用 (ローテーション) 12 ダブルスゲームの応用 (ローテーション) 13 ゲームの戦術 14 ゲームの戦術 15 ダブルスゲーム 16 テスト
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	(予習) 中学校学習指導要領解説保健体育編の球技: ネット型の記載内容を確認する。 (復習) 授業で学んだ特性、技術・戦術を活かして、その体育授業・運動部活動及びスポーツ指導での指導方法を検討したり、実践したりする。

(18)学問分野 1(主学問分野)	体育関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	スポーツ科学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	教育学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	中学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）
(21)参考文献	バドミントン競技規則（日本バドミントン協会）
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価：40% 達成評価：60%（小テスト20%，大テスト40%）
(23)授業形式	実技
(24)授業形態・授業方法	実技・演習
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	水12:00-12:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ueno@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	469
(2)区分番号	469
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	柔道II（3年）（Judo II）
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース保健体育サブコース）：選択必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 1・2時限
(10)担当教員（所属）	高橋俊哉（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○初段程度の技術を身につけること
(15)授業の概要	柔道Iで学んだ基礎をもとに、実践技術を高めていきます。
(16)授業の内容予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 基本動作1 礼法、姿勢、組み方、崩し、歩き方、体さばき、受身1 3. 基本動作2 受身2 4. 基本動作3 受身3 5. 対人技能 投技 手技 6. 対人技能 投技 腰技 7. 対人技能 投技 足技 8. 対人技能 投技 捨身技 9. 対人技能 寝技 抑技 10. 対人技能 寝技 絞技 11. 対人技能 寝技 関節技 12. 審判法 13. 試合 14. 形 投の形1 15. 形 投の形2
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	各回の技術内容を確実に習得して次回に備えてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	スポーツ科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	体育関連
(18)学問分野3(副学問分野)	健康科学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	なし
(21)参考文献	なし
(22)成績評価方法及び採点基準	各単元の終わりに見極めの試験をする

(23)授業形式	実技
(24)授業形態・授業方法	提示された課題をグループワークを中心に学習する。
(25)留意点・予備知識	柔道着を用意すること
(26)オフィスアワー	月12:00-13:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	toshiya@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	なし

教育学部

(1)整理番号	470
(2)区分番号	470
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	柔道II（4年）（Judo II）
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	初等中等（中コース保健体育サブコース）：選択必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 1・2時限
(10)担当教員（所属）	高橋俊哉（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○初段程度の技術を身につけること
(15)授業の概要	柔道Iで学んだ基礎をもとに、実践技術を高めていきます。
(16)授業の内容予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 基本動作1 礼法、姿勢、組み方、崩し、歩き方、体さばき、受身1 3. 基本動作2 受身2 4. 基本動作3 受身3 5. 対人技能 投技 手技 6. 対人技能 投技 腰技 7. 対人技能 投技 足技 8. 対人技能 投技 捨身技 9. 対人技能 寝技 抑技 10. 対人技能 寝技 絞技 11. 対人技能 寝技 関節技 12. 審判法 13. 試合 14. 形 投の形1 15. 形 投の形2
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	各回の技術内容を確実に習得して次回に備えてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	スポーツ科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	体育関連
(18)学問分野3(副学問分野)	健康科学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	なし
(21)参考文献	なし
(22)成績評価方法及び採点基準	各単元の終わりに見極めの試験をする

(23)授業形式	実技
(24)授業形態・授業方法	提示された課題をグループワークを中心に学習する。
(25)留意点・予備知識	柔道着を用意すること
(26)オフィスアワー	月12:00-13:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	toshiya@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	なし

教育学部

(1)整理番号	471
(2)区分番号	471
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	剣道II（3年）（Kendo II）
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース保健体育サブコース）：選択必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員（所属）	竹田隆一（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル1
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的な到達目標	○剣道の実技に取り組みながら、専門用語およびルール、競技特性について理解し、説明できること ○剣道の技能を習得し、それぞれの種目を指導することができること
(15)授業の概要	剣道の歴史や技術的特性を講義する。それを基に、実技で技術学習をおこなう。 技術学習は、はじめに基本技術を習得し、次いで、わざの基本となる型の学習をおこない、対人技能（試合）と展開する。
(16)授業の内容予定	第1回：剣道の歴史、運動特性（講義） 第2回：剣道の基本動作の習得 一振り一 第3回： " 一踏み込み一 第4回： " 一上肢下肢の調和一 第5回：木刀を使つての基本形 1（1本目から4本目）（実技） 第6回： " 2（5本目から6本目）（実技） 第7回：防具をつけての基本形（木刀の基本形を防具をつけておこなう）（実技） 第8回：防具をつけての技の練習 1（仕掛け技）（実技） 第9回： " 2（応じ技）（実技） 第10回：技の練習（打ち込み稽古を中心におこなう）（実技） 第11回：対人技能の練習（互角稽古を中心におこなう。）（実技） 第12回：試合法・審判法（審判の所作・宣告の仕方を中心におこなう。）（実技） 第13回：試合練習（団体試合をおこなう。）（実技） 第14回：総合練習（トーナメント試合をおこなう。）（実技） 第15回：総合的に復習
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・剣道の歴史や運動特性を予習する。 ・審判法を予習する。 ・防具の名称、着装の仕方を予習する。 ・初心者にとどのように指導したらいいか研究する。
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	体育関連
	-

(18)学問分野3(副学問分野)	
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	『剣道授業の展開』全日本剣道連盟2009年 初版
(21)参考文献	『武道のすすめ』中林信二 1987年 中林信二先生遺作集刊行会
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>【基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門用語およびルール、競技特性の理解度 (30%) ・実技テストの結果を含む技能習熟度 (40%) ・授業への参加意欲と態度 (30%) <p>【評価方法】</p> <p>上記の基準を用いて行なった各種目の採点結果から、総合的に判断し、評価を決定する。</p>
(23)授業形式	実技
(24)授業形態・授業方法	提示された課題をグループワークを中心に学習する。
(25)留意点・予備知識	<ul style="list-style-type: none"> ・集中授業だが、集中力を切らさず、受講すること。 ・各自、日本手ぬぐいを用意すること。 ・防具・竹刀等はこちらで用意する。
(26)オフィスアワー	月12:00-13:00 (高橋)
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	toshiya@hirosaki-u.ac.jp (高橋)
(28)その他	なし

教育学部

(1)整理番号	472
(2)区分番号	472
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	剣道II（4年）（Kendo II）
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	初等中等（中コース保健体育サブコース）：選択必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員（所属）	竹田隆一（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル1
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的な到達目標	○剣道の実技に取り組みながら、専門用語およびルール、競技特性について理解し、説明できること ○剣道の技能を習得し、それぞれの種目を指導することができること
(15)授業の概要	剣道の歴史や技術的特性を講義する。それを基に、実技で技術学習をおこなう。 技術学習は、はじめに基本技術を習得し、次いで、わざの基本となる型の学習をおこない、対人技能（試合）と展開する。
(16)授業の内容予定	第1回：剣道の歴史、運動特性（講義） 第2回：剣道の基本動作の習得 一振り一 第3回： " 一踏み込み一 第4回： " 一上肢下肢の調和一 第5回：木刀を使つての基本形 1（1本目から4本目）（実技） 第6回： " 2（5本目から6本目）（実技） 第7回：防具をつけての基本形（木刀の基本形を防具をつけておこなう）（実技） 第8回：防具をつけての技の練習 1（仕掛け技）（実技） 第9回： " 2（応じ技）（実技） 第10回：技の練習（打ち込み稽古を中心におこなう）（実技） 第11回：対人技能の練習（互角稽古を中心におこなう。）（実技） 第12回：試合法・審判法（審判の所作・宣告の仕方を中心におこなう。）（実技） 第13回：試合練習（団体試合をおこなう。）（実技） 第14回：総合練習（トーナメント試合をおこなう。）（実技） 第15回：総合的に復習
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	・剣道の歴史や運動特性を予習する。 ・審判法を予習する。 ・防具の名称、着装の仕方を予習する。 ・初心者にとどのように指導したらいいか研究する。
(18)学問分野1(主学問分野)	スポーツ科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	体育関連
	-

(18)学問分野3(副学問分野)	
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	『剣道授業の展開』全日本剣道連盟2009年 初版
(21)参考文献	『武道のすすめ』中林信二 1987年 中林信二先生遺作集刊行会
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>【基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門用語およびルール、競技特性の理解度 (30%) ・実技テストの結果を含む技能習熟度 (40%) ・授業への参加意欲と態度 (30%) <p>【評価方法】</p> <p>上記の基準を用いて行なった各種目の採点結果から、総合的に判断し、評価を決定する。</p>
(23)授業形式	実技
(24)授業形態・授業方法	提示された課題をグループワークを中心に学習する。
(25)留意点・予備知識	<ul style="list-style-type: none"> ・集中授業だが、集中力を切らさず、受講すること。 ・各自、日本手ぬぐいを用意すること。 ・防具・竹刀等はこちらで用意する。
(26)オフィスアワー	月12:00-13:00 (高橋)
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	toshiya@hirosaki-u.ac.jp (高橋)
(28)その他	なし

教育学部

(1)整理番号	473
(2)区分番号	473
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	スキーII (2年) (Ski II)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等 (中コース保健体育サブコース) : 選択必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員 (所属)	○高橋 俊哉 (教育学部)・清水 紀人 (教育学部)・益川 満治 (教育学部)・工藤 雅照 (非常勤講師)・中田 良子 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○スキーの基本技術・基礎技術を習得するとともに、指導法を習得すること (技術的には級別検定1級取得を目標)
(15)授業の概要	この授業は、全日本スキー連盟「日本スキー教程・指導者必携」にある基本技術・基礎技術およびその指導法について学習します。
(16)授業の内容予定	<p>第 1 回 技能レベルチェック</p> <p>第 2 回 歩行・登行・制動・方向転換等の基本技術</p> <p>第 3 回 制動要素を含むターン技術① (プルークボーゲン)</p> <p>第 4 回 制動要素を含むターン技術② (シュテムターン)</p> <p>第 5 回 大回り① (整地・中斜面)</p> <p>第 6 回 大回り② (整地・中急斜面)</p> <p>第 7 回 小回り① (整地・中斜面)</p> <p>第 8 回 小回り② (整地・中急斜面)</p> <p>第 9 回 大回り③ (ナチュラルバーン・中斜面)</p> <p>第 10 回 大回り④ (ナチュラルバーン・中急斜面)</p> <p>第 11 回 小回り③ (ナチュラルバーン・中斜面)</p> <p>第 12 回 小回り④ (ナチュラルバーン・中急斜面)</p> <p>第 13 回 谷回りの連続① (大回り)</p> <p>第 14 回 谷回りの連続② (小回り)</p> <p>第 15 回 総合滑降</p> <p>第 16 回 技能テスト</p> <p>技能上達の状況により、授業内容を変更することがあります。</p>
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	授業前にスキーを実施して感覚を取り戻しておいて下さい。
(18)学問分野1(主学問分野)	スポーツ科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	体育関連
	健康科学関連

(18)学問分野3(副学問分野)	
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特にありません。
(21)参考文献	「スキー指導と検定」(全日本スキー連盟)
(22)成績評価方法及び採点基準	・授業態度およびレポート(20点)・技能テスト(80点) 上記を合算して成績評価を行います。
(23)授業形式	実技
(24)授業形態・授業方法	2月中旬～下旬に3泊4日の集中授業で実施し、技能レベル別に分けられたグループにて受講します。
(25)留意点・予備知識	授業に関わる経費は、各自負担となります。詳細については12月のガイダンス時に周知します。
(26)オフィスアワー	月12:00～13:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	toshiya@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	なし

教育学部

(1)整理番号	474
(2)区分番号	474
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	スキーII (3年) (Ski II)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等 (中コース保健体育サブコース) : 選択必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員 (所属)	○高橋 俊哉 (教育学部)・清水 紀人 (教育学部)・益川 満治 (教育学部)・工藤 雅照 (非常勤講師)・中田 良子 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度 (レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的な到達目標	○スキーの基本技術・基礎技術を習得するとともに、指導法を習得すること (技術的には級別検定1級取得を目標)
(15)授業の概要	この授業は、全日本スキー連盟「日本スキー教程・指導者必携」にある基本技術・基礎技術およびその指導法について学習します。
(16)授業の内容予定	<p>第 1 回 技能レベルチェック 第 2 回 歩行・登行・制動・方向転換等の基本技術 第 3 回 制動要素を含むターン技術① (プルークボーゲン) 第 4 回 制動要素を含むターン技術② (シュテムターン) 第 5 回 大回り① (整地・中斜面) 第 6 回 大回り② (整地・中急斜面) 第 7 回 小回り① (整地・中斜面) 第 8 回 小回り② (整地・中急斜面) 第 9 回 大回り③ (ナチュラルバーン・中斜面) 第 10 回 大回り④ (ナチュラルバーン・中急斜面) 第 11 回 小回り③ (ナチュラルバーン・中斜面) 第 12 回 小回り④ (ナチュラルバーン・中急斜面) 第 13 回 谷回りの連続① (大回り) 第 14 回 谷回りの連続② (小回り) 第 15 回 総合滑降 第 16 回 技能テスト</p> <p>技能上達の状況により、授業内容を変更することがあります。</p>
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	授業前にスキーを実施して感覚を取り戻しておいて下さい。
(18)学問分野1(主学問分野)	スポーツ科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	体育関連
	健康科学関連

(18)学問分野3(副学問分野)	
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特にありません。
(21)参考文献	「スキー指導と検定」(全日本スキー連盟)
(22)成績評価方法及び採点基準	・授業態度およびレポート(20点)・技能テスト(80点) 上記を合算して成績評価を行います。
(23)授業形式	実技
(24)授業形態・授業方法	2月中旬～下旬に3泊4日の集中授業で実施し、技能レベル別に分けられたグループにて受講します。
(25)留意点・予備知識	授業に関わる経費は、各自負担となります。詳細については12月のガイダンス時に周知します。
(26)オフィスアワー	月12:00～13:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	toshiya@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	なし

教育学部

(1)整理番号	475
(2)区分番号	475
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	野外活動II (2年) (Outdoor Activity II)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース保健体育サブコース）：選択必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員（所属）	高橋俊哉（教育学部）
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○冬季野外活動の基本概念と基礎的技能を身につけること
(15)授業の概要	冬季野外活動の基本概念と基礎的技能、安全な指導法を習得します。
(16)授業の内容予定	机上で、冬期野外活動の基本概念を学んだ後、2泊3日の野外プログラムを計画し実施します。 1. 冬期野外活動の特色 2. 冬期野外活動の活動プログラム 3. 活動計画作成に関する留意点 4. 活動計画作成 5. 各種装備の使用法 6. 食料計画 7. パッキング 8. シール登高の技術 9. 読図とコンパスワーク 10. バックカントリースキーの基本技術 11. シチュエーションへの対応 深雪 12. シチュエーションへの対応 アイスバーン等 13. 救急処置と搬送法 14. 各種装備の撤収とメンテナンス 15. 実習ふりかえり
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	スキー技術を高めておくこと。
(18)学問分野1(主学問分野)	スポーツ科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	体育関連
(18)学問分野3(副学問分野)	健康科学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	なし
(21)参考文献	なし

(22)成績評価方法及び採点基準	レポート
(23)授業形式	実技
(24)授業形態・授業方法	提示された課題をグループワークを中心に学習する。
(25)留意点・予備知識	事前にガイダンスを実施します。受講条件SAJ 2級以上
(26)オフィスアワー	月12 : 00~13 : 00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	toshiya@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	なし

教育学部

(1)整理番号	476
(2)区分番号	476
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	野外活動II (3年) (Outdoor Activity II)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース保健体育サブコース）：選択必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員（所属）	高橋俊哉（教育学部）
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○冬季野外活動の基本概念と基礎的技能を身につけること
(15)授業の概要	冬季野外活動の基本概念と基礎的技能、安全な指導法を習得します。
(16)授業の内容予定	机上で、冬期野外活動の基本概念を学んだ後、2泊3日の野外プログラムを計画し実施します。 1. 冬期野外活動の特色 2. 冬期野外活動の活動プログラム 3. 活動計画作成に関する留意点 4. 活動計画作成 5. 各種装備の使用法 6. 食料計画 7. パッキング 8. シール登高の技術 9. 読図とコンパスワーク 10. バックカントリースキーの基本技術 11. シチュエーションへの対応 深雪 12. シチュエーションへの対応 アイスバーン等 13. 救急処置と搬送法 14. 各種装備の撤収とメンテナンス 15. 実習ふりかえり
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	スキー技術を高めておくこと。
(18)学問分野1(主学問分野)	スポーツ科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	体育関連
(18)学問分野3(副学問分野)	健康科学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	なし
(21)参考文献	なし

(22)成績評価方法及び採点基準	レポート
(23)授業形式	実技
(24)授業形態・授業方法	提示された課題をグループワークを中心に学習する。
(25)留意点・予備知識	事前にガイダンスを実施します。受講条件SAJ 2級以上
(26)オフィスアワー	月12 : 00~13 : 00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	toshiya@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	なし

教育学部

(1)整理番号	478
(2)区分番号	478
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	水泳II (2年) (Swimming II)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等 (中コース保健体育サブコース) : 選択必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員 (所属)	○戸塚学 (教育学部) ・益川満治 (教育学部) ・大庭昌昭 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2~3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○4泳法 (クロール・平泳ぎ・背泳ぎ・バタフライ) の指導法について身につけること ○安全・効率的な水泳授業の展開の方法について身につけること
(15)授業の概要	○中学校・高等学校保健体育科学習指導要領における水泳の単元指導に関する知識・技能を学ぶ ○水泳授業の管理・運営上の方法論ならびに留意事項についての理解を深める。
(16)授業の内容予定	第 1 回 授業ガイダンス、学校における水泳授業展開のための基礎知識 第 2 回 泳法指導の基礎知識 第 3 回 泳法指導の基礎① (準備運動と授業への導入方法) 第 4 回 泳法指導の基礎② (泳ぐための基本姿勢の習得とその指導法) 第 5 回 泳法指導の基礎③ (キック動作の指導法) 第 6 回 クロールの指導① (上半身のストロークの指導法) 第 7 回 クロールの指導② (息継ぎの指導法) 第 8 回 クロールの指導③ (キック・ストローク・息継ぎの協調性を導く指導法) 第 9 回 平泳ぎの指導法① (キックの指導法) 第 10 回 平泳ぎの指導法② (上半身ストロークの指導法) 第 11 回 平泳ぎの指導法③ (キック・ストロークの協調性を導く指導法) 第 12 回 背泳ぎの指導法① (キック・上半身のストロークの指導法) 第 13 回 背泳ぎの指導法② (キック・ストロークの協調性を導く指導法) 第 14 回 バタフライの指導法① (キック・上半身のストロークの指導法) 第 15 回 バタフライの指導法② (キック・ストロークの協調性を導く指導法) 授業進度に合わせて授業内容の変更を行うことがあります。

(17)準備学習（予習・復習）等の内容	水泳 I で培った 4 泳法の技能を事前に確認し、授業に臨むこと。
(18)学問分野1(主学問分野)	体育関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	日本水泳連盟（編集），水泳指導教本，2012年，大修館書店
(21)参考文献	特になし。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（授業態度など）：20% 中間評価（技能の到達度）：30% 期末評価（技能の到達度・レポートなど）：50%
(23)授業形式	実技
(24)授業形態・授業方法	7月に学園町プールにて集中授業を行う予定です。
(25)留意点・予備知識	水泳 I の授業において、基礎的な水泳技能を身につけておくこと
(26)オフィスアワー	月曜日11:00~12:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	tot@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし。

教育学部

(1)整理番号	479
(2)区分番号	479
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	体育原理 (Philosophy of Physical Education)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（小・保健体育サブコース）、初等中等（中コース保健体育）・特支（中コース保健体育）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 3・4時限
(10)担当教員（所属）	本間正行（非常勤講師）
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○過去、現在、未来の体育・スポーツの目的、内容、方法、あり方について理解すること
(15)授業の概要	「体育」、「スポーツ」の世界史的変遷、社会的背景との関わり、現在の子どもたちの体格・運動能力等の実態を解説し、「体育」とは何かについて考察する。
(16)授業の内容予定	<p>第1回 「体育原理」で何を学ぶか</p> <p>第2回 古代ギリシャの体育・スポーツ ホメロス</p> <p>第3回 古代ギリシャの体育・スポーツ ポリスの体育</p> <p>第4回 古代ローマ、中世の体育・スポーツ</p> <p>第5回 ルネッサンス期の体育哲学</p> <p>第6回 近代体育の発生</p> <p>第7回 国家主義と体育活動</p> <p>第8回 イギリスにおけるスポーツの発展</p> <p>第9回 イギリスにおけるスポーツの近代化</p> <p>第10回 近代オリンピック</p> <p>第11回 比較スポーツ論</p> <p>第12回 日本の近代教育と体育</p> <p>第13回 戦後の体育の変遷</p> <p>第14回 戦後のスポーツの変遷</p> <p>第15回 教科体育では何を教えるのか</p> <p>第16回 テスト</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	シラバスの授業内容を確認し、事前にキーワードを一つ考え講義に望むようにする。
(18)学問分野1(主学問分野)	体育関連
(18)学問分野2(副学問分野)	教育学関連
	-

(18)学問分野3(副学問分野)	
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	プリント配布
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価：20% 達成評価：80% (筆記試験50%, レポートによる評価30%)
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	グループディスカッションを含む
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	480
(2)区分番号	480
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	体育心理学 (Psychology of Physical Education)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（小・保健体育サブコース）、初等中等（中コース保健体育）・ 特支（中コース保健体育）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 1・2時限
(10)担当教員（所 属）	益川満治
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度（レベ ル）	レベル2
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての 具体的到達目標	○スポーツ心理学についての学識を得ること（見通す力） ○上記学問の知識に基づいて、授業や指導場面への応用が図れること（解 決する力）
(15)授業の概要	・運動の学習と技能習得の心理学的理論を理解する。 ・自分のスポーツ競技場面や体育、クラブ等での指導に際し、運動学習の 理論を元に問題点を考えられる知識を身につける。 ・動機づけの理論から運動への動機づけの方法を学び取り、やる気を高め る指導法についても考えられるようにする。
(16)授業の内容予 定	1. ガイダンス・スポーツ心理学とは？ 2. スポーツとパーソナリティ 3. スポーツと動機付け 4. 技能獲得のための運動学習 5. スポーツと状況判断能力 ①情報処理過程から考える 6. スポーツと状況判断能力 ②運動プログラム 7. 競技に必要な心理的スキルと心理特性 8. メンタルトレーニング ①メンタルトレーニング事始め 9. メンタルトレーニング ②心理臨床技法の応用 10. メンタルトレーニング ③メンタルトレーニングの介入と注意点 11. 運動・スポーツの心理的効果 12. 運動・スポーツの継続問題 13. 体育授業におけるスポーツ心理学の応用 14. 総合演習 ①ココロを育てる指導 15. 総合演習 ②心理学的視点を取り入れた指導実践 16. 試験又はプレゼンテーション
(17)準備学習（予 習・復習）等の内容	【予習】関連する内容の資料に目を通す 【復習】授業で学んだ内容について指導場面にどのように転用できるか考 える
(18)学問分野1(主 学問分野)	スポーツ科学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	体育関連
(18)学問分野3(副学問分野)	健康科学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	必要に応じてプリント・資料を配布する
(21)参考文献	これから学ぶスポーツ心理学（荒木雅信編・大修館書店・2018）、運動指導の心理学（杉原隆・大修館書店・2011）
(22)成績評価方法及び採点基準	授業毎の小レポート：40% 筆記試験又はプレゼンテーション：30% レポート：30% 上記を合算して最終的な成績評価を行う。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	パワーポイントを用い、内容についての解説を行います。その中で、授業参加者に対し、質疑応答の形で考えや意見を踏まえながら授業を進めていきます。積極的な発言を期待しています。
(25)留意点・予備知識	現在行っている（行っていた）スポーツについての経験や意見を聞いていきます。
(26)オフィスアワー	水曜日昼休み
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	masukawa@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	481
(2)区分番号	481
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	体育経営管理学 (Administration and Supervision in Physical Education)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース保健体育）・特支（中コース保健体育）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 5・6時限
(10)担当教員（所属）	清水紀人（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業とし	○学校・地域・職場等における個々のA.S.・C.S.・P.S.の内容・構造・目的等を理解すること

<p>ての 具 体 的 到 達 目 標</p>	
<p>(15) 授 業 の 概 要</p>	<p>体育・スポーツ活動の成立のために必要な運動施設の整備・運営（A.S.）、クラブの育成（C.S.）、運動プログラムの提供（P.S.）などについて理解し、これらを学校・地域・職場の3つの側面から比較検討し、体育経営管理のための基礎を理解します。</p>
<p>(16) 授 業 の 内 容 予 定</p>	<p>1回目：オリエンテーション 2回目：体育・スポーツとは 3回目：体育経営管理の目的と意義 4回目：A.S. について「Ⅰ」 5回目：A.S. について「Ⅱ」 6回目：C.S. について「Ⅰ」 7回目：C.S. について「Ⅱ」 8回目：P.S. について「Ⅰ」 9回目：P.S. について「Ⅱ」 10回目：学校におけるA.S.、C.S.、P.S.の目的と役割 11回目：地域におけるA.S.、C.S.、P.S.の目的と役割 12回目：職場におけるA.S.、C.S.、P.S.の目的と役割 13回目：総合型地域スポーツクラブの現状「Ⅰ」 14回目：総合型地域スポーツクラブの現状「Ⅱ」 15回目：総合型地域スポーツクラブの今後の課題 16回目：まとめと筆記試験</p>
<p>(17) 準 備 学 習 (予 習・ 復 習) 等 の 内 容</p>	<p>日本体育協会のホームページを事前に見て、体育経営管理に関わる予備知識を得るようにして下さい。</p>
<p>(18) 学 問 分 野 1(主 学 問 分 野)</p>	<p>体育関連</p>
<p>(18) 学 問 分 野 2(副 学 問 分 野)</p>	<p>-</p>
<p>(18) 学 問 分 野 3(副 学 問 分 野)</p>	<p>-</p>
<p>(19) 実 務 経 験 の あ る 教 員 に よ る 授 業</p>	<p>-</p>

科目 について	
(20) 教材・ 教科 書	スポーツ経営学講義（大修館）・配布資料を使用します。
(21) 参考 文献	特になし
(22) 成績 評価 方法 及び 採点 基準	平常評価：20%（授業への参加度。毎回の授業に対するリアクションペーパーに基づくもので、単なる出席回数ではありません。） 達成評価（理解度の確認）：80%（筆記試験50%、レポート30%） 上記を合算して成績評価を行います
(23) 授業 形式	講義
(24) 授業 形 態・ 授業 方法	基本は講義形式です。一部グループディスカッションを含みます。
(25) 留意 点・ 予備 知識	体育・スポーツ経営学講義（大修館書店）を必ず購入するようにして下さい。 授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明をします。
(26) オフ イス アワ ー	（月）11:00～12:00
(27) E メー ルア ドレ ス・ HPア ドレ ス	nori@hirosaki-u.ac.jp 教育者総覧 http://db.jm.hirosaki-u.ac.jp/cybouz/db.exe? page=DBRecord&did=1988&vid=718&rid=2419&text=%90%B4%90%85%81%40%8B%49%90%6C&Head=&hid=&sid=n&rev=0&ssid=
(28) その 他	特になし

教育学部

(1)整理番号	483
(2)区分番号	483
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	保健体育基礎実験I (Experiment in Sports and Fitness I)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース保健体育）・特支（中コース保健体育）：必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 7・8時限
(10)担当教員（所属）	益川満治（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2～3
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・ DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具 体的到達目標	○スポーツ心理学的測定・調査・実験方法を身につける ○測定・調査データを元に統計学の基礎を身につける
(15)授業の概要	スポーツ心理学的測定・調査・実験を行い、そのデータを元に、2 者、あるいは2群以上の比較対象間に意味のある差があるかどうかを 調べてみます。 それによって、実際に自分が測定したデータの意味を科学的に考えま す。
(16)授業の内容予定	第1回：ガイダンス 第2回：アンケート及び調査 ①アンケートを作る 第3回：アンケート及び調査 ②項目作り 第4回：アンケート及び調査 ③心理的競技能力診断検査 第5回：鏡映描写 ①練習効果と転移 第6回：鏡映描写 ②報告書の作成 第7回：目標設定 ①目標設定の効果 第8回：目標設定 ②報告書の作成 第9回：状況（状況）判断能力 ①情報処理過程から考える 第10回：状況（状況）判断能力 ②報告書の作成 第11回：運動による効果 ①快適運動強度の設定 第12回：運動による効果 ②一過性運動による感情の変化 第13回：統計処理 ①t検定、相関 第14回：SPSSによる統計処理 ②一元配置分散分析 第15回：SPSSによる統計処理 第16回：総合演習
(17)準備学習（予習・ 復習）等の内容	実験データの整理を行ってください。
(18)学問分野1(主学 問分野)	スポーツ科学関連
(18)学問分野2(副学 問分野)	体育関連

(18)学問分野3(副学問分野)	健康科学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	必要に応じて資料及びプリントを配布する。
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	各測定・実験・調査の報告書：50% 総合レポート：30% 授業に対する参加度：20% 上記を合算して成績評価とする
(23)授業形式	実験
(24)授業形態・授業方法	主に、測定・実験・調査を行い、それらについて検証を行う。また、実際に測定された項目について、量的な観点から考察を行っていく。受講者の人数や施設の関係で授業の順番が変更になることもありうる。
(25)留意点・予備知識	前期に開講されている、「スポーツ心理学」を受講していることが望まれる。
(26)オフィスアワー	水曜日昼休み
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	masukawa@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	484
(2)区分番号	484
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	スポーツ運動学 (Sport Kinematics)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（小・保健体育サブコース）、初等中等（中コース保健体育）・特支（中コース保健体育）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日 5・6時限
(10)担当教員（所属）	杉本和那美（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○身体運動を力学的視点から観察する能力を身につけ、合理的な運動のメカニズムについて理解すること
(15)授業の概要	力学的基礎知識を学習し、各種の身体運動の観察法や分析法を身につける
(16)授業の内容予定	第1回：スポーツ運動学の概要 第2回：人体の機能解剖 第3回：分析方法と運動の記述 第4回：重心 第5回：力と運動 第6回：運動量と力積 第7回：投射体の運動 第8回：回転運動 第9回：トルク、エネルギー、仕事 第10回：中間試験とこれまでのまとめ 第11回：いろいろな力 第12回：スポーツ現場での活用（陸上競技） 第13回：スポーツ現場での活用（水泳、柔道など） 第14回：スポーツ現場での活用（球技種目） 第15回：期末試験とふりかえり
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	毎回の授業で取り上げられる力学的基礎知識について理解しておいてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	スポーツ科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	授業中、適宜プリントを配布
(21)参考文献	阿江通良・藤井範久 スポーツバイオメカニクス20講（2002）朝倉書店

(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（発表や平常ミニレポート：20%） 中間評価（中間テスト：40%） 期末評価（期末テスト：40%） 上記を合算して成績評価を行います。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	基本は講義形式で行います。授業の最後にレポートを提出してもらいます。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	木曜日 14時～15時
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	kanami@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	485
(2)区分番号	485
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	保健体育基礎実験II (Experiment in Sports and Fitness II)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース保健体育）・特支（中コース保健体育）：必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日 9・10時限
(10)担当教員 (所属)	○戸塚 学（教育学部）・杉本和那美（教育学部）
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2~4
(13)対応する CP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業とし ての具体的到達 目標	○スポーツ運動学、運動生理学に関する科学的分析の手法を体験することにより、スポーツ・健康科学研究を理解、実践する上での基礎的能力を身につけること
(15)授業の概 要	スポーツ・健康科学の研究に不可欠なバイオメカニクス分野および運動生理学分野の実験全14回から構成される。受講者は各回、測定者と被験者を経験し、測定の手法を身に付けるとともに個人データの解析ならびに全員のデータを集計し、必要な場合には保健体育基礎実験Iで習得した統計的手法を用い分析を学ぶ
(16)授業の内 容予定	第1回：ガイダンス（授業の進め方、実験レポートの書き方等） 第2回：身体組成の測定(1)（バイオインピダンス法）（戸塚） 第3回：身体組成の測定(2)（超音波法）（戸塚） 第4回：有酸素性作業能力の測定（PWC75% HRmax）（戸塚） 第5回：有酸素性作業能力の測定（シャトルラン）（戸塚） 第6回：最大無酸素パワー（戸塚） 第7回：等尺性最大筋力（戸塚） 第8回：フィールドテストの理論と実際（戸塚） 第9回：実験の立案と実験設定（杉本） 第10回：実験の実施(1)（杉本） 第11回：実験の実施(2)（杉本） 第12回：画像分析法（杉本） 第13回：地面反力の測定（杉本） 第14回：実験試技の分析（杉本） 第15回：分析データの解釈と理解（杉本）
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	事前に、授業予定になっている内容を下記参考文献等を読んで理解しておくこと。また、実験レポートを書く過程で、データ処理の基本統計の知識を十分に身につけるよう心掛けること

(18)学問分野 1(主学問分野)	スポーツ科学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	体育関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験 のある教員によ る授業科目につ いて	-
(20)教材・教 科書	各授業時にプリントなどの参考資料を配布する
(21)参考文献	【運動生理学】 運動生理学概論（大修館書店） スポーツ選手と指導者のための体力・運動能力測定法（大修館書店） 【スポーツ運動学】 バイオメカニクス—身体運動の科学的基礎（杏林書院） 閲覧可能場所は、いずれも研究室。
(22)成績評価 方法及び採点基 準	動生理学、バイオメカニクス、運動心理学に関する科学的な研究方法や分析の 手法を身につけ、実験レポートの作成ができるようになることが授業の達成目 標です。 評価は、授業への取り組み状況と個々の実験内容に関するレポート提出により 評価する。
(23)授業形式	講義
(24)授業形 態・授業方法	実験・実習
(25)留意点・ 予備知識	履修前にスポーツ運動学、生理学・運動生理学の単位を習得しておくこと。
(26)オフィス アワー	月曜日11:00~12:00
(27)Eメールア ドレス・HPア ドレス	tot@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	486
(2)区分番号	486
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	コーチング特論 (Methodology of Sport Coaching)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース保健体育サブコース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 1・2時限
(10)担当教員 (所属)	○高橋俊哉（教育学部）・清水紀人（教育学部）・戸塚学（教育学部）・益川満治（教育学部）・杉本和那美（教育学部）
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル3
(13)対応する CP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業とし ての具体的到達 目標	○スポーツ指導の理論的背景について理解し、それを実際の指導現場で生かせるようになること
(15)授業の概 要	スポーツ指導で目指すものは、単に技術の向上だけでなく、スポーツを通しての発見や創造あるいは感動といった内面的な成長も見逃せません。授業では、これらを念頭に、より効果的なスポーツ指導を具現化するための基本的課題について授業担当教員の専門的立場から解説します。
(16)授業の内 容予定	第1回：ガイダンス・総論（高橋） 第2回：器械運動の技術指導（清水） 第3回：器械運動と体操競技との関係（清水） 第4回：体操競技と新体操との関係（清水） 第5回：スポーツと体力（高橋） 第6回：スポーツ障害（高橋） 第7回：柔道の技術指導・スノースポーツの技術指導（高橋） 第8回：トレーニング科学の基礎理論（戸塚） 第9回：コンディショニングの基礎理論（戸塚） 第10回：アスレティック・リハビリテーションの基礎理論（戸塚） 第11回：スポーツ指導の評価とその活用（杉本） 第12回：スポーツ指導の立て方（杉本） 第13回：陸上競技の技術指導（杉本） 第14回：スポーツコーチング（益川） 第15回：ボールゲームのコーチング ①コーチング技法（益川） 第16回：ボールゲームのコーチング ②バスケットボールにおけるコーチング（益川）
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	復習：授業で学んだ内容を振り返り、ノートにまとめて下さい。

(18)学問分野 1(主学問分野)	スポーツ科学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験 のある教員によ る授業科目につ いて	-
(20)教材・教 科書	配付資料等
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価 方法及び採点基 準	レポートによる評価が中心となりますが、各教員によって方法が異なる場合があります。 5名の評価が全て60点以上で合格です。1名でも60点を下回った場合は、再履修となります。
(23)授業形式	講義
(24)授業形 態・授業方法	基本は講義形式です。5名の教員によるオムニバス形式をとります。 担当の順番に変更もありうる場合があります。また、授業の進行状況等によ り、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明をします。
(25)留意点・ 予備知識	特になし
(26)オフィス アワー	月12:00~13:00
(27)Eメールア ドレス・HPア ドレス	toshiya@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	なし

教育学部

(1)整理番号	487
(2)区分番号	487
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	生理学・運動生理学 (Physiology of Sports and Exercise)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（小・保健体育サブコース）、初等中等（中コース保健体育）・特支（中コース保健体育）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 1・2時限目
(10)担当教員（所属）	戸塚 学（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2～3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○人間の筋肉・神経・呼吸・循環系の構造や基本的な機能が理解できること ○運動による身体構造や機能の生理学的変化・適応の一部が理解できること
(15)授業の概要	○保健体育専門教員として必要な身体の各器官の構造と機能について学ぶ ○運動が各器官の生理機能に及ぼす影響や運動を含む環境変化に対する人間の適応能について形態と機能の両面から学ぶ
(16)授業の内容予定	第1回：エネルギー代謝 第2回：運動と身体組成 第3回：運動と呼吸系の機能 第4回：運動と循環系の機能 第5回：運動と骨格筋の機能（構造とエネルギー供給系） 第6回：運動と骨格筋の機能（トレーニングへの適応） 第7回：運動と糖・脂質代謝 第8回：運動と内分泌 第9回：中間試験 第10回：環境と運動（ストレス・急用・高温・低温・高圧・低圧） 第11回：運動と栄養 第12回：体力・運動能力の性差 第13回：体力・運動能力の加齢変化 第14回：健康保持・増進のための身体活動 第15回：健康保持・増進のための運動指導 第16回：期末テスト
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	予習は教科書を中心に行い、復習は授業で配布する資料を中心に行うこと
(18)学問分野1(主学問分野)	体育関連
(18)学問分野2(副学問分野)	スポーツ科学関連

(18)学問分野3(副学問分野)	健康科学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	樋口 満 (監修), 栄養・スポーツ系の運動生理学, 2018年, 南江堂
(21)参考文献	生理学の基本がわかる事典 (西東社) 閲覧場所は研究室です。
(22)成績評価方法及び採点基準	期末評価 (期末試験) : 100%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	教科書を中心に、適宜プリントを配布しながら、スライドの説明と板書により授業が進みます。
(25)留意点・予備知識	この授業を受講する前に、教養教育において生物学系の授業の単位を修得しておくことを進めます。
(26)オフィスアワー	月曜日11:00~12:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	tot@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし。

教育学部

(1)整理番号	488
(2)区分番号	488
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	トレーニング特論 (Principles and Concepts of Training and Conditioning)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース保健体育サブコース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日 1・2時限
(10)担当教員 (所属)	戸塚 学（教育学部）
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル3~4
(13)対応する CP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○トレーニングの科学的基礎について理解すること ○運動処方of基礎的知識を身につけること ○コンディショニングの基礎的知識を身につけること
(15)授業の概要	身体トレーニングに関する概念及びその科学的基礎から各種トレーニング方法について、特にバイオメカニクスと運動生理学視点から概説します。健康運動指導士養成カリキュラムの基礎科目でもあり、現場でのトレーニング指導や運動処方のための基礎理論を学習します。体育・スポーツの専門家をめざす学生には重要な基礎知識を学習します。
(16)授業の内容予定	第1回：トレーニング指導者の役割 第2回：トレーニング計画の立案 第3回：筋力トレーニングのプログラム 第4回：パワー向上のトレーニング理論とプログラム 第5回：持久力向上のトレーニング理論とプログラム 第6回：スピード向上トレーニングの理論とプログラム 第7回：柔軟性向上のトレーニングの理論とプログラム 第8回：疾病予防のためのトレーニング理論とプログラム 第9回：アスレティックリハビリテーション概論 第10回：筋力トレーニングの指導方法 第11回：パワー向上のためのトレーニングの指導方法 第12回：持久力向上のためのトレーニングの指導方法 第13回：スピード向上のためのトレーニングの指導方法 第14回：柔軟性向上のためのトレーニングの指導方法 第15回：トレーニング効果の測定と評価 第16回：期末テスト
(17)準備学習 (予習・復習)等の内容	教科書を中心に予習復習を行って下さい。

(18)学問分野 1(主学問分野)	スポーツ科学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	体育関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	健康科学関連
(19)実務経験 のある教員に よる授業科目 について	-
(20)教材・教 科書	日本トレーニング指導者協会（著），トレーニング指導者テキスト実践編書いて版，2014年，大修館書店
(21)参考文献	適宜プリントを配布します。
(22)成績評価 方法及び採点 基準	期末評価（期末試験）：100%
(23)授業形式	講義
(24)授業形 態・授業方法	教科書を中心に適宜プリントを配布し、授業を進めます。
(25)留意点・ 予備知識	事前にトレーニングの基礎から応用的な方法まで幅広く文献をあたり、わからないことや疑問に思うことを整理しておいてください。
(26)オフィス アワー	月曜日11:00～12:00
(27)Eメール アドレス・HP アドレス	tot@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし。

教育学部

(1)整理番号	489
(2)区分番号	489
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	解剖学 (Anatomy)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等（中コース保健体育サブコース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日 3・4時限
(10)担当教員（所属）	小玉 正志（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル1～2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	○人体の構造の基本を理解すること ○解剖学的見地から人間の運動を考えるための基本を身につけること
(15)授業の概要	人体の構造について骨格系、筋系、神経系を中心に学びます。
(16)授業の内容予定	<p>器官とその系統、組織とそのあらし、骨格系、筋系、神経系について具体的事柄を取り上げながら、それぞれの系統について学ぶ。骨の標本を観察する。</p> <p>1回目 人体とは 2回目 細胞・組織 3回目 構造と機能から見た人体 4回目 骨格とは 5回目 骨の連結 6回目 骨格筋 7回目 体幹の骨格と筋 8回目 上肢の骨格と筋 9回目 下肢の骨格と筋 10回目 神経とは 11回目 中枢神経系（脳について） 12回目 中枢神経系（脊髄について） 13回目 末梢神経系について 14回目 骨の観察及び骨の試験 15回目 ペーパーテスト及び総括</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	予習は、教科書の図を見て、イメージしておく。復習は、授業で講述する教科書に書いてない事柄について覚える。
(18)学問分野1(主学問分野)	生体の構造と機能関連
(18)学問分野2(副学問分野)	健康科学関連
	スポーツ科学関連

(18)学問分野3(副学問分野)	
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	竹内修二監修、人体解剖の基本がわかる事典、西東社
(21)参考文献	なし
(22)成績評価方法及び採点基準	骨の名称を覚える試験、小テスト、期末テストより評価する。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義。配布プリントと教科書を参考に授業を進める。
(25)留意点・予備知識	携帯はマナーモードにするか、電源を切っておく事。
(26)オフィスアワー	火曜日 11:50~12:40
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	mkodama@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	なし

教育学部

(1)整理番号	490
(2)区分番号	490
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	衛生学・公衆衛生学 (Hygiene and Public Health)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（小・保健体育サブコース）、初等中等（中コース保健体育）・特支（中コース保健体育）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日 5・6時限
(10)担当教員（所属）	太田 誠耕(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル1～2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○集団としての日本人の健康状態について理解すること
(15)授業の概要	社会、環境、生活と健康について講義する。 日本全体の健康状態と青森県の健康状態を比較検討する。
(16)授業の内容予定	1. オリエンテーション、健康論Ⅰ（健康とは） 2. 健康論Ⅱ（健康の価値）、衛生公衆衛生の歴史 3. 保険統計（人口、出生、死亡） 4. 保健統計（生活習慣病、寿命） 5. 疫学概論 6. 健康増進 7. 疾病予防感染症対策 8. 地域保健と衛生行政 9. 母子保健、学校保健 10. 産業保健、成人保健 11. 老人保健・福祉、精神保健 12. 国際保健、保健医療の制度と法規 13. 環境保健概論 14. 公害、環境保全 15. テストおよびテストの解答と解説 ※進行状況により内容が前後することがあります。
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	健康に関するニュースに関心を寄せて下さい。 教科書をよく読んで下さい。
(18)学問分野1(主学問分野)	社会医学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	鈴木庄亮 監修 シンプル衛生公衆衛生学2019 南江堂
(21)参考文献	国民衛生の動向、最新版

(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価 20% 期末評価 80% 上記を合算して最終評価を行う予定です
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	主に教員からの講義です
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	月・火曜日12:00~12:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ohtahta@hirosaki-u. ac. jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	491
(2)区分番号	491
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	学校保健 (School Health Science (Health Education))
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等 (中コース保健体育) ・特支 (中コース保健体育) : 必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 5・6時限
(10)担当教員 (所属)	高橋俊哉 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル1
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○学校保健の重要性と、その基本構造を理解すること
(15)授業の概要	健康についての教育と管理について学習します。
(16)授業の内容予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校保健概説 2. 子供の発育発達 3. 子供の発達と体育 4. 子供の心の発達 5. 現代的な健康課題の現状と対策 6. 学校保健計画と学校保健活動 7. 学校健康診断と健康評価 8. 教職員の健康と教育活動 9. 学校環境衛生と教育活動 10. 保健教育の基礎と展開 11. 学校安全の理論と学校安全活動 12. スポーツ活動中の事故防止 13. 子供の体力低下と学校保健 14. 問題解決法としてのHQC 15. 特別支援教育と学校保健
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	各回の内容を次週までに理解しておくこと
(18)学問分野1(主学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	体育関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	なし
(21)参考文献	学校保健ハンドブック第6次改訂
(22)成績評価方法及び採点基準	テスト
(23)授業形式	講義

(24)授業形態・授業方法	提示された課題をグループワークを中心に学習する。
(25)留意点・予備知識	なし
(26)オフィスアワー	月12:00~13:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	toshiya@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	なし

教育学部

(1)整理番号	492
(2)区分番号	492
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	木材加工技術基礎 (Introduction to Woodworking Technology)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等（小・技術サブコース）、初等中等（中コース技術）・特支（中コース技術）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 5・6時限
(10)担当教員（所属）	廣瀬 孝（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○材料としての木材およびその性質や切削等各加工の基本的知識を習得すること
(15)授業の概要	○中学校技術・家庭科の技術分野「A 材料と加工に関する技術」の指導で特に中心となる木材等の特性を理解する。 ○木材の加工法を学び、実践時に必要な技術を習得する。
(16)授業の内容予定	第1回 オリエンテーション 第2回 木材の物理的性質について（1） 比重、含水、収縮・膨潤 第3回 木材の物理的性質について（2） 密度 第4回 木材の物理的性質について（3） 強度 第5回 木材の物理的性質について（4） 硬さ、熱 第6回 木材の物理的性質について（5） 電気 第7回 木材の組織について（1） 組織外観観察 第8回 木材の組織について（2） 外観観察 第9回 木質材料について 第10回 工具・機械について（1） 工具・機械の名称 第11回 工具・機械について（2） 鋸の使い方 第12回 工具・機械について（3） 鉋の使い方 第13回 工具・機械について（4） 木工機械の使い方 第14回 接合について（1） 釘・ねじ接合 第15回 接合について（2） 接着接合 第16回 期末試験
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	毎回の授業で取り上げる木材の性質等に関して理解しておくようにしてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	材料工学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-

(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	☆教科書、「新しい技術・家庭」、東京書籍 (木工室) ☆教科書、「技術・家庭技術分野」、開隆堂 (木工室)
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価(発表、作業等) : 70% 期末評価(期末試験) : 30% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	取り上げる内容を説明後、観察や使い方の練習を行います。
(25)留意点・予備知識	履修にあたっては特段の予備知識は必要としません。
(26)オフィスアワー	水曜日11時50分から12時40分
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	takashi_hirose@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	493
(2)区分番号	493
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	木材加工技術 A (Woodworking Technology A)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース技術サブコース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 1・2時限
(10)担当教員（所属）	廣瀬 孝（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○木材加工に関する疑問や課題等を解決し、木材に関して理解すること
(15)授業の概要	○「木材加工技術基礎」、「製図」の既習事項を基礎とし、木材に関する疑問や課題等を明らかにする。 ○疑問等の解決するための方法を各自が見出し、解決することで木材に関する理解を深める。
(16)授業の内容予定	第1回 オリエンテーション 第2回 近年の木材加工技術について 第3回 木材や加工等に関する課題設定 第4回 木材や加工等に関する課題解決法の検討 第5回 木材や加工等に関する課題解決法の発表 第6回 木材・木質材料の特徴を学ぶための教材開発（1） 教材開発のための調査 第7回 木材・木質材料の特徴を学ぶための教材開発（2） 教材（案）の決定 第8回 木材・木質材料の特徴を学ぶための教材開発（3） 教材の試作1 第9回 木材・木質材料の特徴を学ぶための教材開発（4） 教材の試作2 第10回 木材・木質材料の特徴を学ぶための教材開発（5） 発表 第11回 木質材料を作る（1） 木質材料について 第12回 木質材料を作る（2） 試験の決定 第13回 木質材料を作る（3） 木質材料の作製 第14回 木質材料を作る（4） 作製した木質材料の評価 第15回 木質材料を作る（5） 評価結果の発表 第16回 期末試験
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	毎回の授業で取り上げる木材の加工法等に関して理解しておくようにしてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	材料工学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-

(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	☆教科書、「新しい技術・家庭」、東京書籍 (木工室) ☆教科書、「技術・家庭技術分野」、開隆堂 (木工室)
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価 (発表、作業等) : 70% 期末評価 (期末試験) : 30% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	取り上げる内容を説明後、課題設定やその解決法を検討します。
(25)留意点・予備知識	本講義履修前に「木材加工技術基礎」、「製図」、「木材加工実習 I」を既に履修していることが必要です。
(26)オフィスアワー	水曜日11時50分から12時40分
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	takashi_hirose@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	494
(2)区分番号	494
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	木材加工技術B (Woodworking Technology B)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース技術サブコース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日 1・2時限
(10)担当教員（所属）	廣瀬 孝（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	○木材の種類とその物性の違いを理解すること
(15)授業の概要	○種々の木材の含水率や収縮率、曲げ強度等の物性に関して評価し、理解する。
(16)授業の内容予定	第1回 オリエンテーション 第2回 木材試験法の説明 第3回 試験片作製のためのけがき 第4回 試験片の作製 第5回 含水率の測定 第6回 年輪幅の測定 第7回 収縮率の測定 第8回 吸水率の測定（1） 吸水試験の準備 第9回 吸水率の測定（2） 吸水率の測定 第10回 硬さ試験 第11回 曲げ試験（1） 曲げ試験の準備 第12回 曲げ試験（2） 曲げ試験 第13回 圧縮試験（1） 圧縮試験の準備 第14回 圧縮試験（2） 圧縮試験 第15回 引張試験およびまとめ 第16回 期末試験
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	毎回の授業で取り上げる木材の物性に関して理解しておくようにしてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	材料工学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
	実務教員

(19)実務経験のある教員による授業科目について	
(20)教材・教科書	☆教科書、「新しい技術・家庭技術分野」、東京書籍（木工室） ☆教科書、「技術・家庭技術分野」、開隆堂（木工室）
(21)参考文献	木材試験法（JIS Z 2101）
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（発表、作業等）：70% 期末評価（期末試験）：30% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	取り上げる内容を説明後、確認作業をします。
(25)留意点・予備知識	本講義履修前に「木材加工技術基礎」、「製図」、「木材加工実習Ⅰ」を既に履修していることが必要です。
(26)オフィスアワー	水曜日11時50分から12時40分
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	takashi_hirose@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	495
(2)区分番号	495
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	木材加工実習I (Practical Training on Woodworking I)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース技術）・特支（中コース技術）：必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日 3・4時限
(10)担当教員（所属）	廣瀬 孝（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○課題製作を通して、木材加工の工具や機械等の使用方法を習得すること
(15)授業の概要	課題の製作により、加工技術を自ら深める力を習得する。
(16)授業の内容予定	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 木材の性質・特徴を理解するための木箱の製作（1） 両刃鋸の使用法（けがきの仕方を含む）</p> <p>第3回 木材の性質・特徴を理解するための木箱の製作（2） 切断の順番や切断幅</p> <p>第4回 木材の性質・特徴と工具の構造を活かした、木材ブロックからの動物製作（1） 案の作成</p> <p>第5回 木材の性質・特徴と工具の構造を活かした、木材ブロックからの動物製作（2） 鋸の種類と使用法 曲面切断、切削の仕方</p> <p>第6回 木材の性質・特徴と工具の構造を活かした、木材ブロックからの動物製作（3） 仕上げ</p> <p>第7回 組み接ぎによる升の製作（1） 平鉋の調整とよみの使用法</p> <p>第8回 組み接ぎによる升の製作（2） 三枚組み接ぎのけがき</p> <p>第9回 組み接ぎによる升の製作（3） 三枚組み接ぎの作製</p> <p>第10回 組み接ぎによる升の製作（4） 五枚組み接ぎのけがき</p> <p>第11回 組み接ぎによる升の製作（5） 五枚組み接ぎの作製</p> <p>第12回 ほぞ加工を生かした本立てづくり（1） けがき</p> <p>第13回 ほぞ加工を生かした本立てづくり（2） 鋸とよみによるほぞ穴加工</p> <p>第14回 ほぞ加工を生かした本立てづくり（3） 角のみ盤によるほぞ穴加工</p> <p>第15回 作製した升・ほぞ等に関する発表</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	毎回の授業で取り上げる技術に関して理解しておくようにしてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	材料工学関連
	-

(18)学問分野2(副学問分野)	
(18)学問分野3(副学問分野)	
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	☆教科書、「新しい技術・家庭技術分野」、東京書籍 (木工室) ☆教科書、「技術・家庭技術分野」、開隆堂 (木工室)
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価 (発表、作業等) : 70% 期末評価 (課題の出来) : 30% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	取り上げる内容を説明後、作業します。
(25)留意点・予備知識	本講義履修前に「木材加工技術基礎」、「製図」の単位取得 (単位保留中含) が必要です。 安全で効率的な作業が可能な服装で臨んでください。
(26)オフィスアワー	水曜日11時50分から12時40分
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	takashi_hirose@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	496
(2)区分番号	496
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	木材加工実習II (Practical Training on Woodworking II)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース技術サブコース）：選択必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日 3・4時限
(10)担当教員（所 属）	廣瀬 孝（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベ ル）	レベル3
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○製品を意識したものづくりを習得すること
(15)授業の概要	○「木材加工技術基礎」および「製図」、「木材加工実習I」の既習事項を基礎とし、木材の色や形等の機能を活かした椅子の製作を通して、木材の加工技術を習得する。
(16)授業の内容予 定	第1回 オリエンテーション 第2回 木材加工とは 第3回 椅子の構想のための情報収集 第4回 椅子の構想 第5回 椅子の構想のまとめ 第6回 椅子の製図 第7回 試験方法の検討 第8回 製作の準備 第9回 けがき・切断 第10回 部品加工 第11回 組立て・仕上げ 第12回 試験 第13回 試験結果を反映させた椅子の製図・けがき 第14回 試験結果を反映させた椅子の切断・組立て・仕上げ 第15回 作製した椅子に関する発表
(17)準備学習（予 習・復習）等の内容	毎回の授業で取り上げる木材の加工法等に関して理解しておくようにしてください。
(18)学問分野1(主 学問分野)	材料工学関連
(18)学問分野2(副 学問分野)	-

(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	☆教科書、「新しい技術・家庭技術分野」、東京書籍 ☆教科書、「技術・家庭技術分野」、開隆堂
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（発表、作業等）：60% 期末評価（製品の出来）：40% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	取り上げる内容を説明後、各自の計画を進めます。
(25)留意点・予備知識	本講義履修前に「木材加工技術基礎」、「製図」、「木材加工実習Ⅰ」を既に履修していることが必要です。 安全で効率的な作業が可能な服装で臨んでください。 実習で使う材料を各自で購入する予定です（商品開発を理解するため）。
(26)オフィスアワー	水曜日11時50分から12時40分
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	takashi_hirose@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	497
(2)区分番号	497
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	製図 (Engineering Drawing Practice)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等（中コース技術）・特支（中コース技術）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 5・6時限
(10)担当教員（所属）	廣瀬 孝（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○立体を平面上で扱うための基礎的な知識を習得すること
(15)授業の概要	○誰が見ても正確に理解できる図面、製作に必要な全ての情報を明瞭に含んでいる図面を描ける力を習得する。
(16)授業の内容予定	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 製図用具の使用法</p> <p>第3回 色々な図法について</p> <p>第4回 平面図法について</p> <p>第5回 平面図法の演習</p> <p>第6回 正投影図法について</p> <p>第7回 正投影図法の演習</p> <p>第8回 等角図法について</p> <p>第9回 等角図法の演習</p> <p>第10回 第三角法とキャビネット図について</p> <p>第11回 第三角法とキャビネット図の演習</p> <p>第12回 スマホスピーカーの製作（1） 部品表の作成</p> <p>第13回 スマホスピーカーの製作（2） 切断、部品加工</p> <p>第14回 スマホスピーカーの製作（3） 組立て、仕上げ</p> <p>第15回 第三角法とキャビネット図によるスマホスピーカーの作図</p> <p>第16回 期末試験</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	毎回の授業で取り上げる図法に関して理解しておくようにしてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	材料工学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
	実務教員

(19)実務経験のある教員による授業科目について	
(20)教材・教科書	技術教育研究会編「製図」（技術教育研究会）500円程度です。第1回目に配布・徴収いたします。
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（発表、作業等）：70% 期末評価（期末試験）：30% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	取り上げる内容を説明後、作業します。
(25)留意点・予備知識	本講義履修前に「木材加工技術基礎」の履修が必要です。
(26)オフィスアワー	水曜日11時50分から12時40分
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	takashi_hirose@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	498
(2)区分番号	498
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	金属加工技術基礎 (Introduction to Metalworking Technology)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等 (小・技術サブコース), 初等中等 (中コース技術) ・ 特支 (中コース技術) : 必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日・5.6時限
(10)担当教員 (所属)	赤平 亮 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○金属加工に関する基礎的な知識を身につけ、身の回りの工業製品がどのような工程を経て作られているのかを理解できるようになること
(15)授業の概要	塑性加工や切削加工など、金属加工の基礎知識を幅広く習得する。
(16)授業の内容予定	<p>第1回 オリエンテーション 第2回 機械材料と加工性 (炭素鋼と合金鋼) 第3回 機械材料と加工性 (鋳鉄と非鉄金属) 第4回 塑性加工 (弾性変形と塑性変形、鍛造とその特徴) 第5回 塑性加工 (プレス加工とその特徴) 第6回 塑性加工 (その他の塑性加工) 第7回 切削加工 (切削加工のあらまし) 第8回 切削加工 (切削理論) 第9回 切削加工 (切削加工機械) 第10回 砥粒加工と特殊加工 第11回 鋳造 (鋳造のあらまし、鋳造の分類) 第12回 鋳造 (各種鋳造方法とその特徴) 第13回 溶接 (溶接のあらまし、ガス溶接とその特徴) 第14回 溶接 (アーク溶接とその特徴) 第15回 加工と自動化</p> <p>※授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。</p>
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	各回の授業内容について復習を行ってください。 (1時間程度行う必要があります。)
(18)学問分野1(主学問分野)	材料工学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	材料力学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-

(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	嵯峨常生ほか8名編修『機械工作1・2』（2013）実教出版
(21)参考文献	講義の中で適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業中の取り組み（小テストなどを含む30%）とレポート70%から総合的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	講義形式を中心に行います。
(25)留意点・予備知識	受講にあたっては特段の予備知識は必要としません。
(26)オフィスアワー	特になし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	特になし
(28)その他	窓口教員：勝川健三（教育学部）

教育学部

(1)整理番号	499
(2)区分番号	499
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	金属加工技術A (Metalworking Technology A)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース技術サブコース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日 5・6時限
(10)担当教員（所属）	佐藤 裕之（理工学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○本講義は理工学部「機械材料工学」を以って読み換える
(15)授業の概要	本講義は理工学部「機械材料工学」を以って読み換える
(16)授業の内容予定	本講義は理工学部「機械材料工学」を以って読み換える
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	本講義は理工学部「機械材料工学」を以って読み換える
(18)学問分野1(主学問分野)	-
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	本講義は理工学部「機械材料工学」を以って読み換える
(21)参考文献	本講義は理工学部「機械材料工学」を以って読み換える
(22)成績評価方法及び採点基準	本講義は理工学部「機械材料工学」を以って読み換える
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	本講義は理工学部「機械材料工学」を以って読み換える
(25)留意点・予備知識	本講義は理工学部「機械材料工学」を以って読み換える
(26)オフィスアワー	本講義は理工学部「機械材料工学」を以って読み換える
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	本講義は理工学部「機械材料工学」を以って読み換える

(28)その他

本講義は理工学部「機械材料工学」を以って読み換える

教育学部

(1)整理番号	500
(2)区分番号	500
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	金属加工技術B (Metalworking Technology B)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース技術サブコース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 3・4時限
(10)担当教員（所属）	笹川 和彦（理工学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○本講義は理工学部「材料力学Ⅰ」を以って読み換える
(15)授業の概要	本講義は理工学部「材料力学Ⅰ」を以って読み換える
(16)授業の内容予定	本講義は理工学部「材料力学Ⅰ」を以って読み換える
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	本講義は理工学部「材料力学Ⅰ」を以って読み換える
(18)学問分野1(主学問分野)	材料力学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	本講義は理工学部「材料力学Ⅰ」を以って読み換える
(21)参考文献	本講義は理工学部「材料力学Ⅰ」を以って読み換える
(22)成績評価方法及び採点基準	本講義は理工学部「材料力学Ⅰ」を以って読み換える
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	本講義は理工学部「材料力学Ⅰ」を以って読み換える
(25)留意点・予備知識	本講義は理工学部「材料力学Ⅰ」を以って読み換える
(26)オフィスアワー	本講義は理工学部「材料力学Ⅰ」を以って読み換える
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	本講義は理工学部「材料力学Ⅰ」を以って読み換える

(28)その他

本講義は理工学部「材料力学Ⅰ」を以って読み換える

教育学部

(1)整理番号	501
(2)区分番号	501
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	金属加工実習I (Practical Training on Metalworking I)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース技術）・特支（中コース技術）：必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日 7・8時限
(10)担当教員（所属）	伊藤 祐規（非常勤）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○金属加工の手順と安全作業の基本を実習を通して体得すること
(15)授業の概要	あらゆる金属加工は、刃物の選択（工作機械・工具）、ワーク（工作物）のつかみ方、測定の3要素のバランスを考慮して進められる。大学実習室にある限られた設備を使い作品を製作してゆく過程でこれらを学ぶ。また、金属加工に取り組む時、初心者（中学生など）が何気なく行う作業の中に潜む危険性について予測できる能力、危険予知ができることに重点を置く。
(16)授業の内容予定	※実習の進捗状況によっては、内容が前後することもある。 第1回 オリエンテーション 安全心得 服装、整理・整頓・清潔・清掃、正しい作業手順 第2回 機械図面の読み方 図面から作業手順を連想する 第3回 測定及びけがき実習 スケール、ノギス、ハイトゲージの正しい使い方 副尺の原理と正しい読み取り 第4回 測定及びけがき実習 外側マイクロメータ、デプスマイクロメータ、ダイヤルゲージの正しい使い方 第5回 その他の測定機器 ブロックゲージの取り扱い、スコヤによるすきまの調べ方 第6回 軟鋼板にけがき針、トースカン、ハイトゲージによる直線のけがき 第7回 けがき線で定められた場所へのセンターポンチの打ち方 第8回 卓上ボール盤の正しい使い方。センタドリル、ドリルの正しい使い方。穴あけ 第9回 タップねじ立て作業 第10回 弓のこ作業 第11回 やすりかけの基本作業、平面のやすりかけ、直角面のやすりかけ 第12回 旋盤の取り扱い 刃物の取付、端面削り、円筒削り 第13回 ボールペンの部品製作と組立

	第14回 テリトリの製作 第15回 文鎮の製作
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習の必要はありません。時間に余裕があるときは繰り返して練習してもらいます。
(18)学問分野1(主学問分野)	材料力学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	教材は全て実習室で準備します。
(21)参考文献	機械加工実習教科書 社団法人 雇用問題研究会
(22)成績評価方法及び採点基準	積極的に授業に参加し取り組んでいる50%、安全に作業を進めている30%、手順を理解している20%を採点の基準とします。
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	授業計画にあるように実際にもものづくりを行なってその技術を理解・取得していく授業形態を採ります。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	特になし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	特になし
(28)その他	窓口教員；勝川健三（教育学部）

教育学部

(1)整理番号	503
(2)区分番号	503
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	機械技術基礎 (Introduction to Machine Technology)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等 (小・技術サブコース)、初等中等 (中コース技術) ・特支 (中コース技術) : 必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日・7.8時限
(10)担当教員 (所属)	赤平 亮 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具 体的到達目標	○機械の構成や要素、設計法に関する基礎的な知識を身につけ、身の回りの工業製品がどのような構造で作られているのかを理解できるようになること
(15)授業の概要	機械技術に必要な基礎知識を幅広く習得することを目的に、リンクやカムなどの機械要素とその役割や、設計、加工手法について学習する。
(16)授業の内容予定	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 伝達機構 (リンクとカム)</p> <p>第3回 伝達機構 (歯車)</p> <p>第4回 伝達機構 (ベルトとチェーン)</p> <p>第5回 流体機械 (流体機械の基礎)</p> <p>第6回 流体機械 (流体機械の種類とその特徴)</p> <p>第7回 内燃機関 (熱機関の基礎)</p> <p>第8回 内燃機関 (原理と構造)</p> <p>第9回 エネルギーと機械</p> <p>第10回 エネルギーの現状と将来</p> <p>第11回 金属材料と非金属材料</p> <p>第12回 加工の基礎と規格</p> <p>第13回 構造と強度</p> <p>第14回 機械設計の基礎</p> <p>第15回 機械設計とCADシステム</p> <p>※授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。</p>
(17)準備学習 (予習・ 復習) 等の内容	各回の授業内容について復習を行ってください。 (1時間程度行う必要があります。)
(18)学問分野1(主学問 分野)	機械力学関連
(18)学問分野2(副学問 分野)	-

(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	林洋次ほか12名編修『機械設計2』（2013）実教出版 勝田正文ほか6名編修『原動機』（2014）実教出版
(21)参考文献	講義の中で適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業中の取り組む（小テストなどを含む30%）とレポート70%から総合的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	講義形式を中心に行います。
(25)留意点・予備知識	受講にあたっては特段の予備知識は必要としません。
(26)オフィスアワー	特になし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	特になし
(28)その他	窓口教員：勝川健三（教育学部）

教育学部

(1)整理番号	504
(2)区分番号	504
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	機械技術 A (Machine Technology A)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース技術サブコース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜 1・2時限
(10)担当教員（所属）	紙川 尚也（理工学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○本講義は理工学部「機械要素学」を以って読み換える
(15)授業の概要	本講義は理工学部「機械要素学」を以って読み換える
(16)授業の内容予定	本講義は理工学部「機械要素学」を以って読み換える
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	本講義は理工学部「機械要素学」を以って読み換える
(18)学問分野1(主学問分野)	材料力学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	材料工学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	物理化学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	本講義は理工学部「機械要素学」を以って読み換える
(21)参考文献	本講義は理工学部「機械要素学」を以って読み換える
(22)成績評価方法及び採点基準	本講義は理工学部「機械要素学」を以って読み換える
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	本講義は理工学部「機械要素学」を以って読み換える
(25)留意点・予備知識	本講義は理工学部「機械要素学」を以って読み換える
(26)オフィスアワー	本講義は理工学部「機械要素学」を以って読み換える
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	本講義は理工学部「機械要素学」を以って読み換える
(28)その他	本講義は理工学部「機械要素学」を以って読み換える

教育学部

(1)整理番号	505
(2)区分番号	505
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	機械技術B (Machine Technology B)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース技術サブコース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 7・8時限
(10)担当教員（所属）	城田 農（理工学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○本講義は理工学部「工業熱力学Ⅰ」を以って読み換える
(15)授業の概要	本講義は理工学部「工業熱力学Ⅰ」を以って読み換える
(16)授業の内容予定	本講義は理工学部「工業熱力学Ⅰ」を以って読み換える
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	本講義は理工学部「工業熱力学Ⅰ」を以って読み換える
(18)学問分野1(主学問分野)	熱工学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	流体工学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	本講義は理工学部「工業熱力学Ⅰ」を以って読み換える
(21)参考文献	本講義は理工学部「工業熱力学Ⅰ」を以って読み換える
(22)成績評価方法及び採点基準	本講義は理工学部「工業熱力学Ⅰ」を以って読み換える
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	本講義は理工学部「工業熱力学Ⅰ」を以って読み換える
(25)留意点・予備知識	本講義は理工学部「工業熱力学Ⅰ」を以って読み換える
(26)オフィスアワー	本講義は理工学部「工業熱力学Ⅰ」を以って読み換える
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	本講義は理工学部「工業熱力学Ⅰ」を以って読み換える
(28)その他	本講義は理工学部「工業熱力学Ⅰ」を以って読み換える

教育学部

(1)整理番号	506
(2)区分番号	506
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	機械実習I (Practical Training on Machine Technology I)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース技術）・特支（中コース技術）：必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日 9・10時限
(10)担当教員 (所属)	伊藤 祐規（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○力学分野と水力学分野の基本定理を簡単な実験を通して確認し理解すること ○2サイクルエンジンの構造を理解すること
(15)授業の概要	始めに実験から得られる測定値の取り扱いについて説明し、力のつり合い、摩擦力の特徴、浮力の特徴を簡単な実験で確認する。その後、実験室に設置されている水力学実験を通して仮定と理論と測定値の評価方法を学ぶ。最後に、2サイクルエンジンの分解・組立をしながらその構造を理解する。
(16)授業の内容 予定	※実習の進捗状況によっては内容が前後することもある。 第1回 オリエンテーション 測定の精度 測定値 有効数字の概念を学ぶ 第2回 力のつり合い 平面力のつり合いを複数のばねばかりで確認する 第3回 静止摩擦と特徴を調べる。報告書の書き方 第4回 浮力の測定と最小二乗法の活用 第5回 浮力の測定と最小二乗法の活用 第6回 単振り子を用いた重力加速度の測定 第7回 単振り子を用いて周期と糸の長さを測定 第8回 片持ちはりの荷重と変位の測定 第9回 タンクから噴出する水量と時間を測定し、オリフィス・トリチェリの定理を理解する 第10回 マノメータの取り扱い 第11回 ベルヌーイの定理を用いる流量測定 第12回 ベルヌーイの定理を用いる流量測定 第13回 2サイクルエンジンの分解 第14回 2サイクルエンジンの組み立て 第15回 工業製品の寸法を多量に測定し、正規分布に近づくことを確認する
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	これまでに学んだ物理を復習しておくことが望ましい。

(18)学問分野 1(主学問分野)	機械力学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	必要な資料を配布します
(21)参考文献	必要な資料を配布します
(22)成績評価方法及び採点基準	積極的に授業に参加すること70%、協力して正しい手順で実験を進めていること30%を評価する。
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	実習のみならず実験も行う。
(25)留意点・予備知識	ノートパソコンを持参し、その場でexcel等で測定結果を確認できることが望ましい。
(26)オフィスアワー	特になし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	特になし
(28)その他	窓口教員；勝川健三（教育学部）

教育学部

(1)整理番号	508
(2)区分番号	508
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	電気技術基礎 (Introduction to Electrical Technology)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等 (小・技術サブコース)、初等中等 (中コース技術) ・特支 (中コース技術) : 必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 5・6時限
(10)担当教員 (所属)	櫻田 安志 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	<p>○電気の基礎知識 (電圧、電流、抵抗、電力、それらの単位、電気回路の概念) に関して簡潔に説明ができる能力を習得すること (見通す力、学び続ける力)</p> <p>○簡単な電気回路の電圧、電流の関係を定式化し、相互に導出することができる能力を習得すること (解決する力、学び続ける力)</p> <p>○身近な電化製品について、その基本的な機能の原理となる物理現象 (電気に関する部分) に関して簡潔に説明ができる能力を習得すること (見通す力、解決する力、学び続ける力)</p>
(15)授業の概要	電気現象および電気回路の基礎知識について、主に講義形式 (演習と実験を含む) で学習します。具体的には、電気回路 (直流・一部交流)、半導体、磁気、静電気の基本的な事項について、ポイントの解説、問題演習、実験を通して学習します。
(16)授業の内容予定	<p>毎回の内容 (予定) は次の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> ガイダンス、電流と電圧 (4/17) : ガイダンス、「電子と電流」、「電位、電圧、起電力」、「直流と交流」、「電気回路」、「オームの法則」 (教科書 pp. 2-14) 直流回路の計算1 (4/24) : 「並列接続」、「直列回路」 (pp. 15-25) 直流回路の計算2 (5/8) : 「直並列回路」、「応用回路」 (pp. 25-36) 抵抗の性質 (5/15) : 「抵抗率と導電率」、「抵抗の温度係数」、「抵抗器」 (pp. 37-44) 電流のいろいろな作用1 (5/22) : 「電流の3作用」、「ジュールの法則」、「ジュール熱の利用例」、「電線の許容電流」、「電力と電力量」 (pp. 45-54) 電流のいろいろな作用2 (5/29) : 「電流の化学作用」、「熱電現象」 (pp. 54-70) 中間試験 (6/5) 試験範囲: 教科書1章 (pp. 2-74) および授業内容、配布済みプリント・演習問題、試験終了後に前半の学習内容についての解説を行う。

- 8 磁気 (6/12) : 「磁気現象」、「磁界」 (pp. 76-80)
- 9 電流と磁界 (6/19) : 「電流による磁界」、「磁気回路」、「鉄の磁化」 (pp. 81-96)
- 10 電磁誘導作用1 (6/26) : 「電磁誘導」、「誘導起電力の大きさと向き」、「渦電流」、「インダクタンス」 (pp. 97-107)
- 11 電磁誘導作用2 (7/3) : 「電磁誘導の応用」 (pp. 108-112)
- 12 電磁力 (7/10) : 「磁界中の電流に働く力」、「二つの電流の間に働く力」、「直流電動機の原理」 (pp. 113-120)
- 13 静電現象 (7/17) : 「摩擦電気」、「静電力」、「静電誘導」、「静電遮へい」、「電界」、「電位と電位の傾き」、「電束密度」、「放電現象」 (pp. 122-133)
- 14 コンデンサと静電容量 (7/24) : 「コンデンサ」、「静電容量」、「コンデンサに蓄えられるエネルギー」、「コンデンサの接続」、「コンデンサの種類と用途」 (pp. 134-143)
- 15 正弦波交流の性質 (7/31) : 「正弦波交流」、「周期と周波数」、「瞬時値と最大値」、「平均値と実効値」 (pp. 148-153)
- 16 期末試験 (8/7) 試験は2章、3章、4章の1 (pp. 76-153)

授業の進度によって、各回の内容が変わることがあります。

授業の進め方

毎回課題を出すので、教科書を熟読の上、問題を解いて授業に持参すること（この課題は評価対象となります。忘れた場合は、その回の評価を0点とします）。授業では、教科書の重要点について解説を行います。また、必要に応じて簡単な実験を行います。この実験そのものについては評価の対象とはしませんが、実験での学習内容は定期試験の出題範囲の一部となります。

(17)準備学習(予習・復習)等の内容

この授業では、予め学習する内容の教科書範囲を明示しておきますので、以下の流れで授業の予習と復習を行って下さい。

予習の仕方(例) 90分/各回の授業前

- 1. 教科書の該当する部分を熟読し、数式の流れに従って内容をだまかに捉えるようにする。また、図や表が何を説明しているのかをできるだけ”細かく”考えてみる。
- 2. 例題を解いてみる。

復習の仕方(例) 90分/各回の授業後

- 1. 課題プリントおよび演習問題を自力で解く（次回の授業で課題として提出すること）。
- 2. 前回の課題の解答例の記述内容と自分の解答を比較してみる。
- 3. 教科書において前後する数式がどのように導き出されるかを考えてみる。
- 3. 教科書の数式や図表を頼りに、そこではどのような電気現象が起きているのかについて考えてみる。
- 4. 別の本で、同様の内容について読んでみる（教科書との違いを意識してみる）。

学習内容が難しいと感じる場合は、その内容に関係した例題（他の本に載っている例題）や演習問題を解いてみると良い。
 なお、今年度の教科書に掲載されている演習問題が少ないので、教科書以外の書籍を用いて演習問題に取り組むことが望ましい。

(18)学問分野1(主学問分野)

電気電子工学関連

(18)学問分野2(副学問分野)

-

(18)学問分野3(副学問分野)

-

実務教員

(19)実務経験のある教員による授業科目について	
(20)教材・教科書	高橋寛 監修、増田英二 編著、わかりやすい 電気基礎、コロナ社 記載以外の内容に関してはプリントを配布する場合がある。
(21)参考文献	大熊康弘、図解でわかるはじめての電気回路、技術評論社（内容が独立した項目ごとに書かれているので、この本だけで勉強するのは難しいですが、分かりやすく書いてあるので、教科書と併用して学習すると効果的でしょう。） 藤瀧和弘著、まんがでわかる電気、オーム社 （講義で不安な部分について読んでみると良いでしょう。） 以上の文献は技術科院生演習室において閲覧可能です。 これらの他にも参考になる本があります。なお、これらの本は技術科院生演習室の中でお読みください。 ※技術科院生演習室には学習用のスペース（机）がありません。授業履修者はこのスペースを学習に使用することができます。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（各回の課題）：14% 中間評価（中間試験）43% 期末評価（期末試験）43% 以上を合算して最終評価とする。 各回の課題は、成績に1%/回の寄与があります（課題の解答・提出状況により、1点から0点の評価がつくという意味です）。課題に真面目の取り組んでいない場合、授業への持参を忘れた場合、欠席の場合は0点となり、直接成績に影響しますのでご注意ください。また、中間試験および期末試験はレポート等で代替することもあります。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	教科書のトピックの解説、学生による演習問題の解説と教員による補足説明、演示実験
(25)留意点・予備知識	この授業は、履修者に高校生程度の物理の知識があることを前提として進めます。物理に不安がある学生は、基本事項だけでも良いので各自で学習を進めてください。解らない部分については対応しますので、遠慮なく質問をして下さい。 関連科目：電気実習 I
(26)オフィスアワー	火曜日 7・8時限（前期） 必要に応じて予めメールでご連絡をいただければ個別に対応します。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ysakura@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	難易度はレベル2としましたが、理系を志す大学の1年生を想定しています（大学入学前に、高等学校程度の物理の知識を得ていない人は、自分で学習しておく必要があります）。教科書の自習では理解できない部分がありますので、①授業前に予習をしておくこと、②授業を聞いて、予習で理解できなかった点も含めて理解に努めること、③演習問題や復習を丁寧に言い、理解の深化に努めること、などが必要となります。 なお、具体的到達目標に記載した内容は、中学校学習指導要領（平成29年3月公示）の第8節技術家庭の技術分野の内容Cエネルギー変換の技術を指導する際に必要とされる基礎的な知識および技能に関連するものである。

教育学部

(1)整理番号	509
(2)区分番号	509
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	電気技術 A (Electrical Technology A)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース技術サブコース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日 7・8時限
(10)担当教員（所属）	櫻田 安志（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	<p>○さまざまな発電方法の原理について説明することができる能力を習得すること（見通す力、学び続ける力）</p> <p>○さまざまな発電方法の特徴（メリット、デメリット）について説明することができる能力を習得すること（見通す力）</p> <p>○再生可能エネルギーの特徴と将来性について説明することができる能力を習得すること（見通す力、学び続ける力）</p>
(15)授業の概要	この授業では、「電気エネルギー」の現状と可能性について学習する。具体的には、主な発電方法の原理、特徴、現状について知ることを目的とした学習を行う（エネルギー変換の発電（電気エネルギーの生成）という側面に関する学習）。
(16)授業の内容予定	<p>毎回の内容（予定）は次の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業のガイダンス（学習の仕方、授業の進め方などに関する説明） 2. 大規模集中型発電システムと分散型エネルギーシステム（教科書第1章） 3. 原子力発電システム、火力発電システム（配布資料） 4. 水力発電システム（教科書第2章） 5. 風力発電システム（教科書第3章） 6. 地熱発電システム（教科書第5章） 7. 太陽熱発電システム（教科書第6章） 8. 太陽光発電システム（教科書第8章） 9. 海洋エネルギー発電システム（教科書第7章） 10. 燃料電池システム（教科書第11章） 11. コージェネレーション（教科書第4章） 12. 熱電発電システム、圧電発電システム（教科書9, 10章） 13. エネルギー貯蔵システム（教科書第13章） 14. スマートグリッドとは何か（教科書第14章） 15. 全体のまとめ

	授業の進捗状況などにより、内容を変更することがあります。
(17)準備学習 (予習・復習)等の内容	予習について： 教科書を中心に授業内容に関する予習をしておくこと（120分/各回の授業） キーワードと思われる語句などについては、文献などであらかじめ調べておくこと。 教科書中の表現、図表などの引用元文献（あるいは類似の内容の資料）を、インターネット経由で入手して熟読する（解からない点については遠慮なく質問してください）。 復習について： 各回で学習した内容について振り返りを行うこと（60分/各界の授業）
(18)学問分野 1(主学問分野)	エネルギー学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	電気電子工学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	伊藤 義康、分散型エネルギー入門、講談社（2012） 注：この書籍は出版社に在庫がありませんので、履修者は以下のいずれかの方法でご対応ください。 1. 電子書籍（Amazon Kindle, 楽天koboなど）の購入 2. 中古本の購入（Amazonマーケットプレイスなど） 記載以外の内容に関してはプリントを配布する場合があります。
(21)参考文献	白鳥 敬、よくわかる自然エネルギーと発電のしくみ、日本実業出版社（2013） 桂井 誠、ハンディブック電気（改訂2版）、Ohmsha（2014） 藤田吾郎、マンガでわかる発電・送配電、Ohmsha（2013） 谷腰欣司、プロが教える電気のすべてがわかる本、ナツメ社（2014） 福田 務、発電・送電・配電が一番わかる、技術評論社（2014） 福田京平、電気が一番わかる、技術評論社（2012） 岸田一隆、ボクらのエネルギーって、どうなるの！？、X-Knowledge（2012） 家入龍太、スマートハウス、SHOEISHA（2013） 以上の文献は技術科院生演習室において閲覧可能です。 これらの他にも参考になる本があります。なお、これらの本は技術科院生演習室の中でお読みください。 ※技術科院生演習室には学習用のスペースがあります。授業履修者はこのスペースを学習に使用することができます。 細川博昭、知っておきたい自然エネルギーの基礎知識、SoftBank Creative（2012） 福田務ほか、絵ときでわかる電気エネルギー、Ohmsha（2005） 監修：久保田健、神本正行、再生可能エネルギーで地域を変える、弘前大学出版会（2017）
	平常評価（各回の課題）：100% 毎回のレポート課題を、遅延なく提出すること。その内容の水準が高等教育レベル以上であり、かつ根拠資料が明示（引用元）されていること。

(22)成績評価方法及び採点基準	
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	座学、および履修者による課題についての説明（発表）
(25)留意点・予備知識	履修に際して条件はありませんが、高校生程度の電気に関する知識があるものとして授業を進める予定です。内容の水準については、予習と復習を十分に行うことで対応できるようにしたいと考えています。関連科目としては電気技術基礎がありますが、電気技術Aの学習内容は電気技術基礎に比べて応用中心の内容になります（ただし、数式はあまり出てきません）。
(26)オフィスアワー	火曜日 7・8時限（前期） 予めメールでご連絡いただくことにより、上の時間以外も対応できます。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	vsakura@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	この授業をレベル3としましたが、本学の基準によるもの（発展的内容で構成されることによるもの）です。学習者の実感する難易度はレベル1に相当します。

教育学部

(1)整理番号	510
(2)区分番号	510
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	電気技術B (Electrical Technology B)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース技術サブコース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日 9・10時限
(10)担当教員（所属）	櫻田 安志（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○交流と直流の特徴について説明することができる能力を習得すること（見通す力） ○回路素子の性質を説明することができる能力を習得すること（見通す力、学び続ける力） ○回路素子のインピーダンス・アドミタンスと電圧・電流の関係について説明することができる能力、及びその際に三角関数および複素数を使った計算ができる能力を習得すること（見通す力、学び続ける力） ○回路中の消費電力の計算ができる能力を習得すること（見通す力、学び続ける力） ○共振回路について説明できる能力を習得すること（見通す力）
(15)授業の概要	この授業では、電気工学の基礎を理解するために必要な電気回路の基礎について学習します。電気回路の学習では、その計算法（数学というよりは計算法）を身につけることと、電気現象の概念を理解することの両方が重要になります。一般的な学習法では、計算法が中心になることが多いですが、それが表す電気現象をイメージできることも重要です。いわゆる文系を自認している方には、計算法で用いる数学が難しいと感じられることがあるかも知れません。しかし、重要な部分は難しくあ

	りませんので、高等学校で学習すべき範囲を復習した上で、しっかりと予習と復習を行うことによって対応できます。
(16)授業 の内容予定	<p>毎回の内容（予定）は次の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、0-1本書の読み方、0-2物理量と単位：教科書pp. 2-17 2. 電気数学（その1）：教科書pp. 18-27 3. 電気数学（その2：複素数）：教科書pp. 28-38 4. 抵抗とオームの法則、抵抗の直列・並列回路、分圧と分流：教科書pp. 40-53 5. 直流計器と電源、電流の発熱作用と電力、1章の演習問題：教科書pp. 54-68 6. キルヒホッフの法則、重ね合わせの定理とテブナンの定理：教科書pp. 70-83 7. 中間試験（6回目までの内容）、Δ-Y変換とブリッジ回路：教科書pp. 84-89 8. 正弦波交流の発生、交流波形の表現：教科書pp. 98-107 9. 複素ベクトル表現、演習問題：教科書pp. 108-114 10. RLC素子とその性質：教科書pp. 116-121 11. インピーダンスとアドミタンス：教科書pp. 122-127 12. $V=ZI$、$I=YV$の複素数計算、演習問題：教科書pp. 128-136 13. 電力と力率：教科書pp. 138-149 14. 共振回路とQ：教科書pp. 150-159 15. 相互インダクタンス回路の仕組み、回路表現、演習問題：教科書pp. 166-178 16. 期末試験（8回目以降の内容） <p>授業の進度によって、各回の内容が変わることがあります。</p>
(17)準備 学習（予 習・復習） 等の内容	<p>この授業では、予め学習する内容の教科書範囲を明示しておきますので、以下の流れで授業の予習と復習を行って下さい。</p> <p>予習 90分/毎回の授業前</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書の該当部分を熟読し、数式の流れに従って内容を大まかに捉えるようにする。 2. 例題を解いてみる。 3. 前後する数式がどのように導き出されるかを考えてみる。 4. 数式を頼りに、そこではどのような電気現象が起きているのかについて考えてみる。 <p>復習 90分/毎回の授業後</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業内容を思い出しながら、数式の流れを追ってみる。 2. 演習問題を解いてみる。 3. 再び教科書で説明されている電気現象について考える。その際に演習問題で取り扱われている状況や使われている数式を参考にする。 4. 別の本を併せて読んでみる。 <p>なお、難しいと感じる場合は、その内容に関係した例題（他の本に載っている例題）や演習問題を解いてみると良いでしょう。</p>
(18)学問 分野1(主 学問分野)	電気電子工学関連
(18)学問 分野2(副 学問分野)	-
(18)学問 分野3(副 学問分野)	-
(19)実務 経験のある 教員による 授業科目に ついて	実務教員
	橋本洋志、電気回路教本、オーム社（2001）

(20)教材・教科書	
(21)参考文献	高橋寛ほか、電気基礎（上）、コロナ社（文部科学省検定済教科書） ※昨年度の電気技術基礎で用いた教科書
(22)成績評価方法及び採点基準	中間評価（中間試験）：50% 期末評価（期末試験）：50% 上記を合算して成績評価を行います。なお、定期試験の代わりにレポートによる評価を行う場合もあります。この場合、〇〇試験の評価比率が、当該レポートの評価比率となります。60%を合格の条件とします。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	座学
(25)留意点・予備知識	高等学校で学習した数学の知識（三角関数の基礎、複素数の基礎） 高等学校で学習した物理の知識（電気、波動） 関連科目：電気技術基礎、電気実習Ⅰ、Ⅱ、電気技術A
(26)オフィスアワー	火曜日 7・8時限（前期） 必要に応じて予めメールでご連絡いただければ個別に対応可能です。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ysakura@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	この科目の内容は、電気技術基礎の延長線上にあるものです。したがって、電気技術基礎を履修していることを、この科目の履修条件とします。

教育学部

(1)整理番号	511
(2)区分番号	511
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	電気実習I (Practical Training on Electrical Technology I)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース技術）・特支（中コース技術）：必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日 5・6時限
(10)担当教員（所属）	櫻田 安志（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル1
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○電気技術基礎に関連した基礎的な実験を行うことができる能力を習得すること（解決する力、学び続ける力）</p> <p>○ブレッドボードを使い簡単な回路の製作ができる能力を習得すること（解決する力、学び続ける力）</p> <p>○はんだゴテを使い簡単な回路の製作ができる能力を習得すること（解決する力、学び続ける力）</p> <p>○回路計（テスタ、マルチメータなど）を安全に注意しながら適切に使用することができる能力を習得すること（解決する力、学び続ける力）</p> <p>○各種照明器具の特徴を説明することができる能力を習得すること（解決する力）</p>
(15)授業の概要	<p>この実習では、全体の時間（90分）を前半の時間帯と後半の時間帯の内容に分けて学習する。前半の時間帯では、（この週の時間帯に行われた）電気技術基礎の学習内容に対応した実験・実習を行う。後半は、電気の実験や実習、回路作製のスキルなどを伸ばすための実験・実習を行う。</p> <p>前半の時間帯の内容： 電気技術基礎の学習内容に対応した実験・実習の内容を学習します。</p> <p>後半の時間帯の内容： 初めに簡単な回路をブレッドボード上に作製します。次にはんだごての使い方を学習します。続いて、教材用のアナログ回路計（テスタ）を作製して、その仕組みについて学習します。さらに回路計の使用法について学習します。 その後、テーブルタップや簡単な照明機器の回路を作製して製作技術を習得するとともに照明機器の点灯の仕組みや特徴について学習します。加えて、LEDを使った簡単なイルミネーション回路の作製やラジオなどの製作を通して単純な回路設計と製作とを体験します。 さらにトランジスターを活用した回路の作製などを通して、さまざまな回路素子の働きについても学習します。</p>

<p>(16)授業の内容 内容予定</p>	<p>各回の内容は以下のように予定しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、「直流回路」に関する実験・実習（4/11） 2. 「抵抗の接続」に関する実験・実習、ブレッドボードの使用法、ブレッドボード上への回路作製（LED点灯回路）（4/18） 3. 「回路計」に関する実験・実習1、はんだづけ（LED点灯回路）、回路計とその使用方法、アナログ回路計（テスタ）の製作1（説明）（4/25） 4. 「回路計」に関する実験・実習2、テーブルタップの作製、回路計とその使用方法、アナログ回路計（テスタ）の製作2（はんだ付け、抵抗器による倍率器・分流器の構成）（5/9） 5. 「電流の作用」に関する実験・実習、回路計による導通試験と絶縁試験、圧着工具の使い方、アナログ回路計（テスタ）の製作3（はんだ付け、ダイオード、ヒューズなどの役割）（5/16） 6. 「電流による磁界」に関する実験・実習、アナログ回路計（テスタ）の製作4（はんだ付け、回路の校正・確認）、LEDによるイルミネーションの説明（5/23） 7. 「電池」に関する実験・実習、いろいろな電池、LEDによるイルミネーション1（ブレッドボード上での回路作製）（5/30） 8. 「磁界」に関する実験・実習、LEDによるイルミネーション2（回路作製）（6/6） 9. 「磁性体」に関する実験・実習、LEDによるイルミネーション3（装飾から完成まで）（6/13） 10. 「電磁誘導」に関する実験・実習、LEDによるイルミネーションの発表会、照明器具の特徴、照明器具（電球用）の作製（6/20） 11. 「インダクタンス」に関する実験・実習、ゲルマニウムラジオの作製（6/27） 12. 「電磁力」に関する実験・実習、クリップモーターの作製（7/4） 13. 「静電力」に関する実験・実習、トランジスタを使った回路（スイッチング回路と増幅回路）（7/11） 14. 「コンデンサ」に関する実験・実習、LED表示トランジスタ式導通センサの作製（7/25） 15. 「交流波形」に関する実験・実習、LED交互点滅器の作製（8/1） <p>なお、進捗状況によって内容が変更になることがあります。</p>
<p>(17)準備学習 (予習・復習)等の内容</p>	<p>復習を中心に丁寧な学習を期待します（90分/各回の実習）。授業時間の前の昼休みの時間帯に、実習で使う実験室を開けておきますので、復習および製作に活用して下さい。希望者には放課後にも対応しますが、まずはこの時間帯を活用するようにして下さい。また、時間の都合で専門知識については簡単な説明しかできませんので、キーワードになりそうな言葉については各自で調べて、必要に応じて質問をしてください。</p>
<p>(18)学問分野 1(主学問分野)</p>	<p>電気電子工学関連</p>
<p>(18)学問分野 2(副学問分野)</p>	<p>-</p>
<p>(18)学問分野 3(副学問分野)</p>	<p>-</p>
<p>(19)実務経験のある教員による授業科目について</p>	<p>実務教員</p>
<p>(20)教材・教科書</p>	<p>適宜資料を配布します。</p> <p>教材費として、回路計（4千円程度）、および回路部品（1千円程度）の費用が必要になります（いずれも、生協（の奥のカウンター）で購入してください</p>

	い)。教材販売のために、履修者の氏名の情報が必要となります。本件について、休業中に掲示による連絡を行いますので、必ず掲示板を確認して下さい。
(21)参考文献	白鳥 敬、よくわかる自然エネルギーと発電のしくみ、日本実業出版社 (2013) 大矢隆生、テスターの使い方が良くわかる本、技術評論社 (2009) 奥澤 熙、はじめて見るテスターの本、誠文堂新光社 (2008) 奥澤 熙、はじめてのテスター、誠文堂新光社 (1997) 金沢敏保、藤原章雄、テストとデジタル・マルチメータの使い方、CQ出版 (2006) 杉本 靖、LED電子工作の素、技術評論社 (2011) 加藤芳夫、たのしくできる かんたんブレッドボード電子工作、電機大出版局 (2015) 西田和明、たのしくできる ブレッドボード電子工作、電機大出版局 (2011) いずれも図書館で借りてください。なお、図書館で借りられない場合は授業担当者に問い合わせてください。
(22)成績評価方法及び採点基準	課題レポート（発表を含む）：60% 実験能力・作製能力（作製物と作製過程の様子、実技試験、実習への参加姿勢）：40% 両者を合算して評価します。なお、レポート期限は厳守するものとし、それ以降の提出を認めません（忌引きなど正当な理由がある場合を除きます）。
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	実習および実験形式
(25)留意点・予備知識	知識について： 1. 高等学校で学習する電気の知識を持っている者。 2. 電気技術基礎を履修した者あるいは履修中の者。 これらの条件を両方とも満たすことが必要です。それ以外の者の履修は認めておりません。 服装等について： 作業をするので、以下のことに注意して下さい。 1. 手につけるアクセサリ類は外す。 2. 汚れても問題ない服装で来る。また、裾の広がったものや、かさ張るものは着ない。 3. 長髪は束ねて置き、加工機に巻き込まれないようにする。
(26)オフィスアワー	火曜日 7・8時限（前期） 予めメールでご連絡いただくことにより、上の時間以外も対応できます。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ysakura@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	電気技術基礎の内容と関連付けた実習を行いますので、両方の履修が望ましいです。 具体的到達目標に記載した内容は、中学校学習指導要領（平成29年3月公示）の第8節技術家庭の技術分野の内容Cエネルギー変換の技術を指導する際に必要とされる基礎的な技能、技術および知識に関連するものである。

教育学部

(1)整理番号	512
(2)区分番号	512
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	電気実習II (Practical Training on Electrical Technology II)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース技術サブコース）：選択必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日 3・4時限
(10)担当教員 (所属)	櫻田 安志（教育学部）
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応する CP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業とし ての具体的到 達目標	○電子回路の基礎（トランジスタ、ダイオードなどを用いた回路の特性を含む）について、入門的なレベルの知識を習得すること（見通す力） ○中学校技術科の教科書に掲載されている回路と同程度のレベルの回路について、その動作の概要を説明することができる能力を習得すること（見通す力、解決する力） ○シングルボードコンピュータを導入し、初期状態で使用することができる能力を習得すること（解決する力）
(15)授業の概 要	この実習では、中学校技術科の教科書レベルの簡単な電子工作を行うための基礎的な知識を、部品の特性の理解、部品の購入、基礎的な仕組みの理解、作製などを通して学習する。加えて、シングルボードコンピュータを活用するまでの流れを学習する。
(16)授業の内 容予定	各回の内容は以下のように予定しています。 <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、前半で使用する回路素子について (10/2) 2. マルチメータの使用法、ダイオードのVI特性の測定、光導電セルの特性 (10/9) 3. オシロスコープの使用法、トランジスタの特性測定 (10/16) 4. 光導電セルとトランジスタを用いたLED点灯回路 (10/23) 5. 電源を切り替えることができるLEDライトの作製 (10/30) 6. 充電モジュール、昇圧モジュールの作製 (11/13) 7. 交流と直流の変換、ブリッジダイオード、平滑回路 (11/20) 8. ライトレースカーの作製（各素子の動作） (11/27) 9. ライトレースカーの作製（本体の作製） (12/4) 10. ライトレースカーの作製（コースの作製、ライトレースカーレース） (12/11) 11. マイコンの活用1（開発環境の導入） (12/18) 12. マイコンの活用2（サンプル回路） (12/15) 13. 課題製作1（設計および製作1） (1/8) 14. 課題製作2（製作2） (1/22) 15. まとめと発表 (1/29)

	※授業の進捗状況に応じて、内容が変更されることがあります。
(17)準備学習 (予習・復習)等の内容	予習 60分/各回の実習 予め指定する回路について、部品の特性について学習し、理解をしておくこと。加えて、回路の動作について説明できるように準備をしておくこと。 復習 30分/各回の実習 実習で作製した回路、あるいは参考の回路について、部品の特性および回路の動作を説明ができるように知識を整理すること。
(18)学問分野 1(主学問分野)	電気電子工学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	ロボティクス関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	情報工学関連
(19)実務経験 のある教員に よる授業科目 について	実務教員
(20)教材・教科書	中学校技術科の各教科書に関連した資料を必要に応じて配布する。 その他、適宜、必要な資料を配布する。 この実習で作製する教材の部品は、授業の際に履修者に通販等で購入していただきます（教材費として5千円程度を予定しています）。
(21)参考文献	文部科学省検定済教科書、新しい技術家庭 技術分野、東京書籍（2016） 文部科学省検定済教科書、新技術家庭 技術分野、教育図書（2016） 文部科学省検定済教科書、技術・家庭 技術分野、開隆堂（2016） 櫻田の教員室にご来室いただければ、ご覧いただくことができます。
(22)成績評価 方法及び採点 基準	各回のレポート・作製物：50% 製作技術（実技試験）：50% 上記の項目を合算して最終評価とします。
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	実習（一部、学生によるプレゼンテーションおよび教員による解説）
(25)留意点・ 予備知識	この実習には比較的高価な材料を使用しておりますので、履修に際しては無駄にしないように十分にご注意ください。なお、高等学校卒業程度の物理および数学の知識があるものとして実習を行います。また、この科目を履修するためには、電気実習Ⅰおよび情報実習Ⅰの単位を取得する必要があります。 関連科目：電気技術基礎、電気実習Ⅰ、電気技術A、電気技術B、情報技術基礎、情報実習Ⅰ、情報実習Ⅱ
(26)オフィス アワー	水曜日 5・6時限
(27)Eメール アドレス・HP アドレス	ysakura@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特にありません。

教育学部

(1)整理番号	513
(2)区分番号	513
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	栽培技術基礎 (Introduction to Crop Production Technology)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等（小・技術サブコース）、初等中等（中コース技術）・特支（中コース技術）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 7・8時限
(10)担当教員（所属）	勝川健三（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○農業・環境・栽培についての基本的な技術を理解すること（見通す力） ○栽培授業や学校園運営を行えるような基礎的な理論を身につけること（見通す力） ○演習を通して栽培技術を適切に行える力を身につけること（解決する力）
(15)授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・本授業は農業および栽培の概略および栽培学習の方法論について講義する。 ・チューリップの水耕促成栽培を実践し学習成果の発表を行う。
(16)授業の内容予定	<p>本授業は植物の生育状況によって内容を変更することがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1回 ガイダンス 第2回 生活の中の作物 第3回 作物の自然分類／作物の一生と作物栽培 第4回 たねと発芽・たねまき 第5回 成長のしくみと管理①栄養成長期 第6回 成長のしくみと管理②生殖成長期 第7回 作物の繁殖と育種／作付体系と作型 第8回 プロジェクト学習；チューリップ水耕促成栽培 第9回 作物栽培と環境／作物の生育と大気環境 第10回 作物の生育を支える土 第11回 作物の養分と肥料 第12回 作物を取り巻く生物 第13回 学校園で栽培される作物①トマト 第14回 学校園で栽培される作物②イネ 第15回 プロジェクト学習；チューリップ水耕促成栽培の学習成果発表 第16回 期末考査
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・一部反転授業を行いますので教科書を事前に読み説明ができるようにしてください。 ・チューリップ水耕促成栽培は持ち帰って栽培します。
(18)学問分野1(主学問分野)	生産環境農学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	教育学関連

(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	実教出版 農業と環境 新訂版 ISBN978-4-407-20398-1
(21)参考文献	農文協 そだててあそぼうシリーズ (栽培実験室で閲覧可能)
(22)成績評価方法及び採点基準	期末考査 (80点)、学習成果発表とレポート・授業への取り組み状況 (20点 遅刻は評価に含めず)
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・主に教科書に沿って解説していきます。 ・一部反転授業を行います。 ・チューリップの水耕促成栽培の観察と記録を行います。
(25)留意点・予備知識	地域生活技術Vと同時開講。
(26)オフィスアワー	月～金 12:00～12:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	kenzo_k#hirosaki-u.ac.jp (#を@にしてください)
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	514
(2)区分番号	514
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	栽培技術A (Crop Production Technology A)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース技術サブコース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 3・4時限
(10)担当教員（所属）	勝川健三（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○農業・環境・栽培についての基本的な概念を理解すること（見通す力） ○農業と環境そして人との関わりについて俯瞰的に理解すること（学び続ける力） ○学校園でよく栽培される作物を理解すること（見通す力）
(15)授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・農業・栽培と環境との関わりについてその概略を講義する。 ・学校園でよく栽培される作物を取り上げその概要を講義する。
(16)授業の内容予定	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 農業と環境の関わり</p> <p>第3回 人間と植物・動物との関わり</p> <p>第4回 農業と自然・社会との関わり；世界の農業／生物多様性の保全と利用</p> <p>第5回 日本の農業・農村と食料供給；日本の農業を支える自然環境／日本の農業生産技術の特色</p> <p>第6回 農業・農村の役割①食料の生産・供給機能</p> <p>第7回 農業・農村の役割②国土・環境保全機能</p> <p>第8回 これからの農業・農村；農業とエネルギー／持続可能な農業の維持と発展</p> <p>第9回 学校園で栽培される作物①穀物類；トウモロコシ</p> <p>第10回 学校園で栽培される作物②豆類；ダイズ</p> <p>第11回 学校園で栽培される作物③果菜類；スイカ</p> <p>第12回 学校園で栽培される作物④葉茎菜類；ハクサイ</p> <p>第13回 学校園で栽培される作物⑤葉茎菜類；ダイコン</p> <p>第14回 学校園で栽培される作物⑥花卉類；キク</p> <p>第15回 学校園で栽培される作物⑦花卉類；花壇用草花</p> <p>第16回 期末考査</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・一部反転授業を行いますので教科書を事前に読み説明ができるようにしてください ・講義後は再度教科書を読んで理解に努めてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	生産環境農学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
	実務教員

(19)実務経験のある教員による授業科目について	
(20)教材・教科書	実教出版 農業と環境 新訂版 ISBN978-4-407-20398-1
(21)参考文献	農文協 そだててあそぼうシリーズ（栽培実験室で閲覧可能）
(22)成績評価方法及び採点基準	期末考査（80%） 授業への取り組み状況（20% 遅刻は評価に含めず）
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・主に教科書の解説を行います。 ・一部反転授業を行います。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	月～金 12:00～12:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	kenzo_k#hirosaki-u.ac.jp（#を@にしてください）
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	515
(2)区分番号	515
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	栽培技術B (Crop Production Technology B)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース技術サブコース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 7・8時限
(10)担当教員 (所属)	勝川健三（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての 具体的到達目標	○草花栽培についての基本的な技術を理解すること（見通す力） ○栽培授業や学校園運営を行えるような基礎的な理論を習得すること（見通す力）
(15)授業の概要	・近年「花育」といった草花を活用した教育活動が注目されているなか、本授業は草花を栽培するにあたっての基礎を講義するほかキク類や球根草花といった学校教育現場で活用されている代表的な草花について概説します。
(16)授業の内容 予定	下記の他に一部の草花を取り上げてその概説も併せて行います。 第1回 ガイダンス 第2回 花卉園芸の特徴 第3回 花卉生産と消費の動向 第4回 花卉の多面的利用 第5回 園芸デザイン 第6回 花卉の生育と環境①花卉の一生 第7回 花卉の生育と環境②根の成長と養水分の吸収 第8回 花卉の生育と環境③シュートの成長と光合成 第9回 花卉の生育と環境④花芽分化と発達 第10回 花卉の生育と環境⑤生育開花調節と作型 第11回 品種改良と繁殖①花卉の品種と品種改良 第12回 品種改良と繁殖②花卉の繁殖方法 第13回 花卉の生育と栽培技術①花卉の生育と土・水・肥料 第14回 花卉の生育と栽培技術②花卉の栽培管理 第15回 生産施設と栽培環境の調整 第16回 期末考査
(17)準備学習 (予習・復習)等 の内容	・一部反転授業を行いますので教科書を事前に読み説明ができるようにしてください。 ・復習しわからないことがないようにしてください。
	生産環境農学関連

(18)学問分野 1(主学問分野)	
(18)学問分野 2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	実教出版 草花 (購入する必要はありません)
(21)参考文献	農文協 そだててあそぼうシリーズ (栽培実験室で閲覧可能)
(22)成績評価方法及び採点基準	期末考査 (80%)、授業への取り組み状況 (20%, 遅刻は評価に含めず)
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・主に教科書の解説を行います。 ・一部反転授業を行います。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	月～木 12:00～12:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	kenzo_k#hirosaki-u. ac. jp (#を@にしてください)
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	516
(2)区分番号	516
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	栽培実習I (Practical Training on Crop Production I)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース技術）・特支（中コース技術）：必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日 3・4時限
(10)担当教員（所属）	勝川健三（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○将来的に栽培授業や学校園運営が行えるよう基礎的な栽培技術と知識を習得すること（見通す力） ○実際に作物を栽培することによって日々の観察方法を身につけること（学び続ける力） ○実際に作物を栽培することによって適期に適切な栽培技術を身につけること（解決する力）
(15)授業の概要	・穀実類、葉菜類、果菜類、根菜類、花卉類を題材にして栽培活動を行います。
(16)授業の内容予定	<p>天候や作物の生育状況により変更があります。</p> <p>第1回 ガイダンス、土壌改良①化学的改良（実習室）</p> <p>第2回 土壌改良② 物理的・生物的改良（千年）</p> <p>第3回 ジャガイモ（根菜類）定植（千年）</p> <p>第4回 整地（畝立て、マルチング）</p> <p>第5回 イネ（穀物）PETボトル栽培、コマツナ（葉菜）播種</p> <p>第6回 ジャガイモ芽かき（千年）</p> <p>第7回 ニンジン（根菜）・ダイズ（マメ類）の播種</p> <p>第8回 トマト（果菜）の定植</p> <p>第9回 ジャガイモ中耕・土寄せ・追肥（千年）</p> <p>第10回 栄養繁殖（キク（花卉）挿し木）・ラッカセイ播種</p> <p>第11回 作物保護（病害虫防除）</p> <p>第12回 作物保護（除草）（千年）</p> <p>第13回 キク鉢上げ、ハクサイ（葉菜）、ダイコン（根菜）の播種</p> <p>第14回 アイ（工芸作物）の生葉染</p> <p>第15回 ジャガイモ収穫（千年）</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	毎回のポートフォリオ・作物ごとの栽培記録を作成します。
(18)学問分野1(主学問分野)	生産環境農学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	教育学関連
	-

(18)学問分野3(副学問分野)	
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	実教出版 農業と環境 新訂版 ISBN978-4-407-20398-1
(21)参考文献	農文協 そだててあそぼうシリーズ（栽培実験室で閲覧可能）
(22)成績評価方法及び採点基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオ（50%）・栽培記録（30%）・実習への取り組み状況（遅刻も評価に含む20%）を総合的に勘案して評価します。 ・（後述する）日々の管理状況も評価の対象とします。
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・代表的な作物を実際に栽培しその技術を習得します。
(25)留意点・予備知識	<ul style="list-style-type: none"> ・天候によっては休講にする場合があります。その場合休業中に補講が入ります。 ・対象が生き物である以上実習日だけでなく日々の観察・管理が求められます。 ・栽培活動にふさわしい服装・長靴・軍手を用意すること。 ・千年園場で行う場合がありますので自転車が必要です。
(26)オフィスアワー	月～金 12:00～12:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	kenzo_k#hirosaki-u.ac.jp（#を@に変更してください）
(28)その他	<ul style="list-style-type: none"> ・学習効果を高めるため後期「栽培実習Ⅱ」を同じ年度に履修してください。 ・「地域生活技術実習Ⅴ」と同時開講

教育学部

(1)整理番号	517
(2)区分番号	517
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	栽培実習II (Practical Training on Crop Production II)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース技術サブコース）：選択必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 3・4時限
(10)担当教員（所属）	勝川健三（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	<p>○栽培授業や学校園運営が行えるよう基礎的な栽培技術と知識を習得すること（見通す力）</p> <p>○実際に冬季の生物育成を行うことによって日々の観察方法を身につけること（学び続ける力）</p> <p>○実際に冬季の生物育成を行うことによって適期に適切な栽培技術を身につけること（解決する力）</p>
(15)授業の概要	・ 秋冬季の生物育成ならびに農産物の貯蔵・加工を主とします。
(16)授業の内容予定	<p>天候や作物の生育状況により変更があります。</p> <p>第1回 ガイダンス、ニンニク定植（トンネル栽培）</p> <p>第2回 シイタケ菌床作り、PETボトルでコマツナ栽培</p> <p>第3回 圃場整備：作物の抜き取り・整地</p> <p>第4回 圃場整備：秋起こし</p> <p>第5回 イネ収穫、植物残渣による堆肥作り</p> <p>第6回 イネ調整</p> <p>第7回 ラッカセイ収穫、調整</p> <p>第8回 ダイコン・ハクサイ収穫、調整</p> <p>第9回 ダイズ収穫</p> <p>第10回 農産物の加工①ハクサイの漬物</p> <p>第11回 農産物の加工②米ぬか堆肥作り</p> <p>第12回 農産物の加工③豆腐作り</p> <p>第13回 コマツナ収穫、評価</p> <p>第14回 雪中ニンジン収穫、調整、糖度評価</p> <p>第15回 シイタケ菌床栽培</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	・ 複数のレポート・栽培記録の作成によって復習を行います。
(18)学問分野1(主学問分野)	生産環境農学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	教育学関連
	-

(18)学問分野3(副学問分野)	
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	実教出版 農業と環境 新訂版 ISBN978-4-407-20398-1
(21)参考文献	農文協 そだててあそぼうシリーズ（栽培実験室で閲覧可能）
(22)成績評価方法及び採点基準	ポートフォリオ80%、発表・栽培記録・授業への取り組み（遅刻は評価に含む 20%）を総合的に勘案して評価します。
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・天候によっては休講にする場合があります。その場合休業中に補講が入ります。 ・自ら育てる作物の日常管理を求めます（栽培記録に反映させる）。
(25)留意点・予備知識	<ul style="list-style-type: none"> ・長靴・軍手を持参し作業にふさわしい服装で履修してください。 ・対象が生き物である以上、実習日だけでなく日々の観察・管理が求められます。
(26)オフィスアワー	月～金 12:00～12:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	kenzo_k#hirosaki-u.ac.jp（#を@に変更してください）
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	518
(2)区分番号	518
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	情報技術基礎 (Introduction to Information Technology)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等（小・技術サブコース）、初等中等（中コース技術）・特支（中コース技術）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 5・6時限
(10)担当教員 (所属)	櫻田 安志（教育学部）
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応する CP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業とし ての具体的到達 目標	○情報モラル、情報セキュリティの基礎について説明できる能力を習得すること（見通す力） ○コンピュータと情報に関する基本的な名称・用語について説明できる能力を習得すること（学び続ける力） ○コンピュータ内での情報の表現について説明できる能力を習得すること（見通す力） ○ソフトウェアの役割について説明できる能力を習得すること（見通す力）
(15)授業の概 要	情報モラル・セキュリティ、コンピュータのソフトウェア・ハードウェア、およびコンピュータによる情報処理に関して、中学校技術科の教員が理解すべき基礎知識を学習する。
(16)授業の内 容予定	1. ガイダンス、社会と情報技術1 コンピュータと情報 コンピュータの歴史 情報化と社会 2. 社会と情報技術2 情報セキュリティ 情報のモラル1 3. 社会と情報技術3 情報のモラル1 著作権 4. 情報の表現1 10進数、2進数、8進数、16進数 5. 情報の表現2 バイトとビット、基数の変換 6. 情報の表現3 負の数の表現、補数とは 2進数の四則演算 固定小数点方式と浮動小数点方式 文字コード 7. 中間試験、前半の学習内容のまとめ・試験問題の解説

	8. 論理回路の基礎 論理値の表現 ブール代数と論理回路 9. 演算と記憶の方式 演算回路（半加算器、全加算器、論理演算、記憶回路） 10. コンピュータの基本構成と動作1 アナログ信号とデジタル信号 ハードウェアとソフトウェア プログラム言語 11. コンピュータの基本構成と動作2 コンピュータの五大装置 主記憶装置 12. コンピュータの基本構成と動作3 補助記憶装置 インターフェース 13. オペレーティングシステムの基礎 14. ネットワークの基礎 15. コンピュータ制御の基礎 16. 期末試験 ※授業の進捗状況に応じて内容を変更することがあります。
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	授業時の配布資料を使って、予習および復習、課題の作成を行って下さい。特に、復習は理解が進むまで十分に行う必要があります。 予習 60分/各回の授業 復習 120分/各回の授業
(18)学問分野 1(主学問分野)	情報科学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	情報工学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	教育学関連
(19)実務経験 のある教員によ る授業科目につ いて	実務教員
(20)教材・教 科書	授業時にプリント等の資料を配布する。
(21)参考文献	宮内ミナミ、森本喜一郎、情報科学の基礎知識、朝倉書店 浜辺隆二、論理回路入門第2版、森北出版 半澤孝雄、はじめて学ぶ情報処理入門、オーム社
(22)成績評価 方法及び採点基 準	試験（70%）およびレポート（30%）による評価を行う。ただし、理由申告なしの欠席者についてはレポートを受領しない。したがって、欠席状況は課題提出の観点から結果的に減点となる（しかし、これは出席点ではない）。教科書の演習問題レベルの試験を行うが、レポートで代替することもある。
(23)授業形式	演習
(24)授業形 態・授業方法	演習（講義と実習を含む） 授業では、教員による説明（講義）、および配布された演習問題プリントに取り組むことになる。
(25)留意点・ 予備知識	コンピュータに関する基礎事項をはじめて学ぶ学生を対象としている。ただし、大学生として理解すべき、高等学校レベルの数学などの知識はすでに習得済みという前提で授業を進めるので、不安がある人は十分に予習をしておくこと。
(26)オフィス アワー	水曜日 5・6時限（後期） 予めメールでご連絡いただければ個別に対応します。

(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ysakura@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	専門の必修科目のため、初回から重要な内容を学習します（教養科目とは初回授業の対応が異なるので注意すること）。

教育学部

(1)整理番号	519
(2)区分番号	519
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	情報技術A (Information Technology A)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース技術サブコース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	集中講義（実施予定：2月8、9、10、11日）
(10)担当教員（所 属）	櫻田 安志（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベ ル）	レベル2
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具 体的到達目標	○携帯機器用のアプリケーションの開発環境を設定することができる能力を習得すること（解決する力、学び続ける力） ○携帯機器用のプログラミング言語の基礎を理解している能力を習得すること（解決する力） ○教材用のプログラムを構想し、試作することができる能力を習得すること（解決する力、学び続ける力）
(15)授業の概要	携帯機器のアプリケーションについて、その開発環境を設定するとともに、その環境下で教材用プログラムの作成を通して携帯機器用のプログラミング言語の基礎について学習する。
(16)授業の内容予定	2月8日 ・携帯機器のアプリケーション1（一般的なアプリとその特徴） ・携帯機器のアプリケーション2（教育用アプリとその特徴） ・開発環境の構築1 2月9日 ・開発環境の構築2（エミュレータの活用） ・サンプルプログラムの特徴1（主にスタンドアロンの機能） ・サンプルプログラムの特徴2（主にネットワーク利用の機能） ・携帯機器用アプリ（教育用プログラム）の構想 2月10日 ・携帯機器用アプリの作製1（サンプルプログラムを基に基本機能を作成） ・携帯機器用アプリの作製2（エミュレーション環境による機種依存の確認など） ・携帯機器用アプリの作製3（独自の機能を考案してみよう） ・作製したアプリを用いた教育活動の考案1 2月11日 ・携帯機器用アプリの作製4（サンプルプログラムを基に基本機能を作成：前日とは異なるOS・開発環境） ・携帯機器用アプリの作製5（エミュレーション環境による機種依存の確認など：前日とは異なるOS・開発環境） ・携帯機器用アプリの作製6（独自の機能を考案してみよう：前日とは異なるOS・開発環境）

	<p>・ 作製したアプリを用いた教育活動の考案2：前日とは異なるOS・開発環境</p> <p>※授業の進捗状況に応じて、内容が変更されることがあります。</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	<p>予習60分×1週間 復習150分×1週間（課題作製を含む） 4日間の集中講義であるが、予め資料を配布するので事前学習を行って下さい。また、最終課題を完成するために授業後の復習を十分に行う必要があります。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	情報工学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	情報科学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	事前に資料を配布します。
(21)参考文献	教材と共に文献を配布あるいは紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>平常評価（授業時の作成物）：60% 中間評価（中間課題の成果）：20% 期末評価（最終課題の成果）：20% 以上の評価を合算して最終評価とします。</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	座学および実習（プログラミング）
(25)留意点・予備知識	情報技術基礎および情報技術実習1の知識が必要となります。
(26)オフィスアワー	水曜日 5・6時限（後期） 予めメールで連絡をいただければ、適宜対応することが可能です。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ysakura@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	情報技術基礎および情報技術実習1の単位を修得していることが履修要件となります。

教育学部

(1)整理番号	520
(2)区分番号	520
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	情報技術B (Information Technology B)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース技術サブコース）：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中講義（実施予定：4月6、7日、13日、およびその他1コマ）
(10)担当教員（所属）	櫻田 安志（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル1
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	<p>○教育用言語の使用環境を構成することができる能力を習得すること（解決する力、学び続ける力）</p> <p>○教育用言語を用いた簡単なプログラムを作成することができる能力を習得すること（解決する力）</p> <p>○小学校および中学校の学習内容に基づいたプログラムを構想し、その基礎的な部分を作成することができる能力を習得すること（解決する力、学び続ける力）</p>
(15)授業の概要	教育現場で用いられている幾つかの教育用プログラミング言語について、①それらの導入および環境構築を行い、②基本的な使用方法を理解し、③小学校および中学校の授業を意識した学習内容を考案する。
(16)授業の内容予定	<p>4月6日</p> <ol style="list-style-type: none"> Scratch入門：導入、アカウント作成、Scratch Jr. も触ってみよう。 Scratchを用いた小学校の授業 Scratchを用いた中学校の授業 制御用カーの作製1：作製 制御用カーの作製2：PCによる制御 <p>4月7日</p> <ol style="list-style-type: none"> ドリトル入門 ドリトルを用いた小学校の授業1：算数での活用 ドリトルを用いた小学校の授業2：音楽での活用 ドリトルを用いた中学校の授業1：マイコンカーの制御 ドリトルを用いた中学校の授業2：双方向通信 <p>4月13日</p> <ol style="list-style-type: none"> Micro:bit入門 Micro:bitを用いた小学校の授業

	<p>3. Micro:bitを用いた中学校の授業 4. Micro:bitを用いた発展的なプログラミング学習</p> <p>翌週以降の1コマ 1. 作成物の発表会、まとめ</p> <p>授業の進捗状況に応じて、内容が変更されることがあります。</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	<p>全体を4日間（3日+1コマ）に分けて行いますので、毎回の復習を重要視しています。毎回の学習内容は、各自のコンピュータあるいは大学演習室のコンピュータで復習可能です。また、課題を出しますので、その作成も行って下さい。なお、始めの三日間の学習内容は、制御用カーの部分を除くと独立して修得できるため、4月7日～12日および13日～18日の間に、90分/日程度の復習を行い、同時に最終課題の作成を行って下さい。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	電気電子工学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	情報工学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	授業時にプリントを配布します。
(21)参考文献	Scratch、ドリトル、micro:bitについては、数多くの参考書が出版されていますので、多くの書籍が参考になります。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>授業時の作成物：70% 最終課題の評価：30% 上記の内容を合算して最終評価とする。</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	授業と演習、一部作製
(25)留意点・予備知識	小学校および中学校の学習指導要領への記載内容について知っていることが望ましい。
(26)オフィスアワー	火曜日 7・8時限（前期） 予めご連絡いただければ、設定時間帯以外でも適宜対応します。
(27)Eメールアドレス	ysakura@hirosakui-u.ac.jp

ス・HPアドレス	
(28)その他	特にありません。

教育学部

(1)整理番号	521
(2)区分番号	521
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	情報技術実習I (Practical Training on Information Technology I)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース技術）・特支（中コース技術）：必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 7・8時限
(10)担当教員（所属）	櫻田 安志（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○コンピュータの基本構造について、中学生の指導が可能な程度で理解すること（解決する力）</p> <p>○BASICの基本的な技法について、高等学校工業科の教科書レベルで理解すること（学び続ける力）</p> <p>○Cの基本的な技法について、高等学校工業科の教科書レベルで理解すること（学び続ける力）</p> <p>○与えられた課題に関するプログラムを自分なりに作ることができる能力を習得すること（解決する力）</p>
(15)授業の概要	<p>この授業では、まず、自分が実習で使用するコンピュータの分解・組み立てを行い、その内部構造や各 부품の役割を知ります。その後で、いくつかのプログラミング言語の初歩を学びます。授業では、作成するプログラムについて、コーディングだけでなく、開発環境の構築、アルゴリズムについての考究、フローチャートなどの作成など、初歩的なプログラム作成の基礎も学びます。なお、使用するプログラミング言語はBASIC、C (VisualBasic、C#) などです（学習者の状況により、他のプログラミング言語を学ぶこともあります）。</p>

(16)授業 内容予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス、コンピュータの内部構造（分解） 2. コンピュータの内部構造（組み立て）、プログラミング環境の準備 3. プログラミングの基礎、フローチャートの作成法 4. BASICの基礎1（変数、配列、繰り返し） 5. BASICの基礎2（条件分岐）、構造化プログラミング 6. BASICの基礎3（グラフィック） 7. BASICを使ったアプリケーション作成 8. BASICの実技試験、Cの基礎（変数、配列、繰り返し、条件分岐） 9. Cを使ったアプリケーション作成 10. Cの実技試験 11. VisualBasicの環境設定 12. VisualBasicのアプリケーション作成 13. C#の環境設定 14. C#のアプリケーション作成 15. 全体のまとめ <p>※授業の進捗状況に応じて、内容が変更されることがあります。</p>
(17)準備 学習（予 習・復習） 等の内容	<p>予習10分/毎回の授業 復習80分/毎回の授業 特に復習に力を入れてください。</p>
(18)学問 分野1(主学 問分野)	<p>情報工学関連</p>
(18)学問 分野2(副学 問分野)	<p>電気電子工学関連</p>
(18)学問 分野3(副学 問分野)	<p>情報科学関連</p>
(19)実務 経験のある 教員による 授業科目に ついて	<p>実務教員</p>
(20)教 材・教科書	<p>事前に資料を配布します。</p>
(21)参考 文献	<p>早見 謙 他8名、文部科学省検定済教科書 情報技術基礎、実教出版 石塚満 監修、寺島和彦 他2名執筆、文部科学省検定済教科書 情報技術基礎、オ ーム社 教材と共に、上記以外の文献を配布あるいは紹介します。</p>
(22)成績 評価方法及 び採点基準	<p>平常評価（授業時の作成物）：30%（毎回の授業時に提出していただきます） 中間評価1（中間課題1の成果）：20% 中間評価2（実技試験1）：15% 中間評価3（中間課題2の成果）：20% 期末評価（実技試験2）：15% 以上の評価を合算して最終評価とします。</p>
(23)授業 形式	<p>実習</p>
	<p>実習（プログラミングなど）および講義および解説</p>

(24)授業 形態・授業 方法	
(25)留意 点・予備知 識	大学生初年度の学力があれば履修に支障はありません。ただ、サンプルを眺めてもプログラミングは身に付きませんので、自分でコードを入力して、試行錯誤して学習してください。
(26)オフ イスアワー	水曜日 5・6時限（後期） 予め、メールでご連絡いただければ必要に応じて個別に対応します。
(27)Eメー ルアドレ ス・HPア ドレス	ysakura@hirosalki-u.ac.jp
(28)その 他	この実習では、学習内容の一環として環境の構築も行います。後半の授業では各自の環境を構築するために、ノートパソコンを持参してください。また、各実習も可能な限りこちらで用意したパソコンを使用します（が、自分のノートパソコンを使用することもできます）。

教育学部

(1)整理番号	522
(2)区分番号	522
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	情報技術実習II (Practical Training on Information Technology II)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース技術サブコース）：選択必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 3・4時限
(10)担当教員（所属）	櫻田 安志（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○小型コンピュータの使用環境を整備して活用できる能力を習得すること（解決する力） ○マイコンが動作する仕組み、特にプログラムと入出力との関係について理解すること（解決する力） ○マイコンに接続する電気回路の初歩的な内容を理解すること（解決する力）
(15)授業の概要	将来、授業で使用することを意識して、小型コンピュータの使用環境を整備し、幾つかのアプリケーションを活用することを通して、その基本動作について学びます。併せて、マイコンを使った計測制御回路の仕組みについて実習を行いながら学びます。また、入出力素子を適切に接続するために必要となる電気回路の初歩的な事項について学びます。
(16)授業の内容予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス 2. 小型コンピュータ へのLinux OSインストールなど 3. 小型コンピュータのアプリケーション1 4. 小型コンピュータのアプリケーション2 5. 小型コンピュータへのWindows OSのインストール 6. 小型コンピュータを用いた電子工作1：LEDの制御 7. 小型コンピュータを用いた電子工作2：モーターの制御 8. 小型コンピュータを用いた電子工作3：センサの活用 9. 小型コンピュータを用いた電子工作4：ネットワークの活用 10. さまざまな所で活躍するマイコン 11. マイコンボードのプラットフォーム1 12. マイコンボードのプラットフォーム2 13. マイコンボードを用いた電子工作1：LEDの制御 14. マイコンボードを用いた電子工作2：モーターの制御 15. マイコンボードを用いた電子工作3：センサの活用 <p>※授業の進捗状況に応じて、内容が変更されることがあります。</p>

(17)準備学習 (予習・復習)等の内容	復習90分/毎回の実習 実習で学んだ内容について、自分の手でプログラムを作成することを通して復習をすることが重要です。
(18)学問分野 1(主学問分野)	情報工学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	電気電子工学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	・Massimo Banzi他、Arduinoをはじめよう第3版、オライリージャパン ・MicroSD Card (32GB以上、Class10以上のもの) MicroSD cardは2回目の授業から、教科書は後半の授業で使用しますので、各自で購入してください。
(21)参考文献	授業の際に紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（各回の課題）：60% 期末評価（レポート）：40% 上記を合算して成績評価を行います。 なお、課題には、実技試験形式のものを含みます。
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	説明（講義）に基づく実習
(25)留意点・予備知識	この授業では、情報技術基礎および情報技術実習1の学習内容を必要としますので、両方の授業を履修していること（あるいは履修済みであること）が履修要件となります。
(26)オフィスアワー	火曜日 5・6時限（前期） 予めご連絡いただければ必要に応じて個別対応します。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ysakura@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	この科目は、情報技術基礎と情報技術実習1の単位を修得していること（あるいは履修中であること）を、その履修要件とします。

教育学部

(1)整理番号	525
(2)区分番号	525
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	職業指導 (Vocational Guidance)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 7～10時限 (4/17～6/12予定)
(10)担当教員 (所属)	鳴海 悟 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○学習指導要領を中心に、「キャリア教育 (含進路指導)」の背景と概念を整理し、「望ましい職業観・勤労観」を育む指導について理解を深めること ○教員採用試験への効果的な取り組むことができること
(15)授業の概要	学校教育における学力保証・出口保証は最重要課題。中でも、人間としての「在り方生き方」に深く関わるキャリア教育は中心的な役割を担うと共に、今後、益々グローバル化の流れに即応した創意に満ちた指導の充実が求められる。授業では多くの事例を取りあげ、実際的な授業展開を目指す。
(16)授業の内容予定	1、イントロダクション (学校を取り巻く様々な教育課題について) 2、進路指導の今日的課題 3、学校教育目標と進路年間指導計画 4、学習指導要領におけるキャリア教育の位置づけ 5、学校における進路組織と指導体制について 6、学校種に応じた「年間指導計画」及び「全体計画」立案に対する配慮 7、特別活動と進路指導 (LHR指導案を各自作成) 8、キャリア教育の充実と深化及び具現化 9、「教育関連法規とキャリア教育」 (教育基本法、学校教育法等) 10、教員採用試験とキャリア教育 (出題事例の考察から分かること) 11、特別活動を通じたキャリア指導の具体的事例 12、学校種に応じた「HR経営」で教師力アップを図るには【高校編】 13、「キャリア教育」と「進路指導」の関わりについて 14、「学校」における“2つの評価” (=指導に生かす評価のあり方=) 15、「キャリア教育」で育てる「社会人基礎力」等
	前時と次時の授業は発展的に繋がる。毎回別タイトル、レジュメ、プリント、視聴記録、メモ等は各自ファイリングし、有効に活用すること。

(17)準備学習（予習・復習）等の内容	
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	①決まったテキストは無く、その都度担当教員が配布。②中学校・高等学校学習指導要領「総則」の解説編、及び取得を目指す「教科」の解説編をダウンロードし、一読しておくこと。
(21)参考文献	必要に応じて紹介。以下のⅠ・Ⅱに目を通してることが好ましい。Ⅰ①経産省若手プロジェクト②不安な個人、立ちすくむ国家③2017・11・30④文芸春秋。ⅡⅠ中沢孝夫②就活のまえに③2010・7・30④筑摩書房
(22)成績評価方法及び採点基準	レポート(報告)(30%)、プレゼンテーション(10%)、確認テスト(40%)、授業への参加度(20%)を加味し、総合的に評価。(相対評価ではなく目標に準拠した評価を実施)
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	レジュメ・DVD、新聞、学校・教育行政機関等から公表された資料等を活用し、分析力を高める。
(25)留意点・予備知識	産業・経済の構造変化がめざましく、児童・生徒一人一人のキャリア発達を支援し、キャリア形成を促す意欲や態度を育てる教育が一層求められる。学校と社会、教職に関心のある方には、有益な情報提供の場となる。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	E-mail:satoru1003narumi@yahoo.co.jp
(28)その他	理工学部「職業指導Ⅰ」と同時開講

教育学部

(1)整理番号	526
(2)区分番号	526
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	家庭経営学I (Family Resource Management I)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等（小・家庭科サブコース）、初等中等（中コース家庭科）・特支（中コース家庭科）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 7・8時限
(10)担当教員 (所属)	李 秀眞（教育学部）
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル1
(13)対応する CP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業とし ての具体的到 達目標	○家族資源を効果的に管理できる基本知識を習得すること ○現代家族の特性および課題を理解し、それぞれの課題に対する解決策を論じることができること
(15)授業の概 要	個人と社会の媒体としての家庭は、個人の生活の在り方と社会の変化の両方に対応してきた。今日のような急速な社会変化の中で、人々の価値観および生活を取り巻く環境は急激に変化している。これらの状況は我々に、変化に対応しながら、より豊かな生活を営むことができる生活経営力を求めている。 生活経営力を高めるために、「時間」・「お金」と「労働力」という家族資源の管理について考察し、生活の質の向上のための課題を検討する。また、家族形成および家族問題についても検討する。
(16)授業の内 容予定	第1回 オリエンテーション 第2回 人口統計からみた社会変化と生活 第3回 生活経営のプロセス・基本概念 第4回 労働とジェンダー：女性の就業選択 第5回 労働とジェンダー：家事労働 第6回 生活時間構造の変化 第7回 生活時間管理 自分の生活時間を振り返る 第8回 結婚と家族形成 第9回 パートナ関係の多様化 第10回 家族内コミュニケーション 第11回 現代社会と家族ストレス 第12回 家族ストレスへの対応 第13回 子育てと家族：日本・アジア 第14回 子育てと家族：ヨーロッパ・米国 第15回 多様な家族と生活経営 第16回 期末試験

(17)準備学習 (予習・復習)等の内容	家族、女性就業、子育て、高齢者問題に関する新聞記事、その他の資料に関心をもって読む、収集すること。日ごろから自分の生活時間についてメモしてみること。 自分と家族の生活を振り替えながら、授業中に習得した生活経営に関する知識を実生活に応用できるように、生活経営力を高める努力をすること。
(18)学問分野 1(主学問分野)	社会学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	経営学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	教育学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	適宜プリント資料を配布する。
(21)参考文献	御船美智子・上村協子共編著『現代社会の生活経営』、光生館、2001。 宮本みち子・善積京子編著『現代世界の結婚と家族』、放送大学教育振興会、2008。 宮本みち子・清水新二編著『家族生活研究—家族の景色とその見方—』、放送大学教育振興会、2009。 中山節子・藤田昌子編著『安心して生きる・働く・学ぶ—高校家庭科からの発信—』、開隆堂、2012。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への積極的な参加（30%）、小レポート2回（40%）、試験（30%）を総合して評価する。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	基本的には講義形式であるが、テーマを模索し、まとめて、発表する機会を設ける。
(25)留意点・予備知識	家族、女性就業、子育て、高齢者問題に関する新聞記事、その他の資料に関心をもって読む、収集すること。日ごろから自分の生活時間についてメモしてみること。
(26)オフィスアワー	火曜10:20~11:50
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	leesujin@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	527
(2)区分番号	527
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	家庭経営学II (Family Resource Management II)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース家庭科）・特支（中コース家庭科）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 3・4時限
(10)担当教員（所属）	李 秀眞（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○社会の変化に「生活経済」がどのように影響を受けているかを理解すること ○経済社会の中で「生活者」が直面する課題および解決策を模索することができること
(15)授業の概要	生活経済の基本である「家計」についての位置づけ、基本的事項、家計の研究手法、視点について検討する。また、家族間の経済関係、ライフステージ別の経済生活の特徴および課題について考察する。
(16)授業の内容予定	第1回 オリエンテーション 第2回 戦後の経済変化と生活 第3回 家計のしくみと構造 第4回 家計簿記帳 第5回 家計をめぐる法則 第6回 ライフサイクルと貯蓄・負債 第7回 妻と夫の経済関係 第8回 ペイドワークとアンペイドワーク 第9回 親と子の経済関係 第10回 子どもとお金 第11回 若者の自立と経済 自分の経済生活を振り返る 第12回 高齢期の生活と社会保障 第13回 社会保障と生活 第14回 生活設計の概念 第15回 生活設計の多様性 第16回 期末試験
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	経済現象に関する新聞記事、その他の資料に関心をもって読む、収集すること。 日ごろから自分の経済生活（収支）についてメモしてみること。
(18)学問分野1(主学問分野)	社会学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	経済学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	教育学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	適宜プリント資料を配布する。
(21)参考文献	御船美智子『生活者の経済』、放送大学教育振興会、2001。 御船美智子・上村協子共編著『現代社会の生活経営』、光生館、2001。 重川純子『生活の経済』、放送大学教育振興会、2005。 馬場紀子他『生活経済論』有斐閣アルマ、2007。 湯沢 雍彦・宮本 みち子『新版データで読む家族問題』、日本放送出版協会、2008。 野の山久他『論点ハンドブック家族社会学』、世政思想社、2009。 大藪千穂『生活経済学』、放送大学教育振興会、2012。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への積極的な参加（30%）、小レポート2回（40%）、試験（30%）を総合して評価する。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	基本的には講義形式であるが、テーマを探索し、まとめ、発表する機会を設ける。
(25)留意点・予備知識	経済現象に関する新聞記事、その他の資料に関心をもって読む、収集すること。
(26)オフィスアワー	火曜10：20～11：50
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	leesujin@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	528
(2)区分番号	528
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	家庭経営学III (Family Resource Management III)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース家庭科サブコース）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 1・2時限
(10)担当教員（所 属）	李 秀眞（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベ ル）	レベル3
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○消費生活に必要な様々な知識を習得し、消費者として主体的に行動で けるようになること
(15)授業の概要	現代社会の消費者の問題を考える。また、自立した消費者への消費者の 権利、消費者支援の政策、計約・取引、消費者情報、事業者との関係、 消費者団体、消費者運動について検討する。
(16)授業の内容予 定	第1回 オリエンテーション 第2回 消費生活と消費社会 第3回 豊かな生活と消費者の役割 第4回 消費者取引① 第5回 消費者取引② 第6回 多重財務 第7回 消費者意思決定① 第8回 消費者意思決定② 第9回 現代の消費者問題 第10回 新たな消費者問題への対応 第11回 消費社会と消費者法① 第12回 消費社会と消費者法② 第13回 消費者と情報・情報格差 第14回 消費者と広告 第15回 消費者支援としての消費者教育 第16回 期末試験
(17)準備学習（予 習・復習）等の内容	・消費者庁ホームページを閲覧してみること。 ・消費者トラブルに関する新聞、ニュースに関心を持つこと。
(18)学問分野1(主 学問分野)	社会学関連
(18)学問分野2(副 学問分野)	経済学関連

(18)学問分野3(副学問分野)	経営学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	適宜プリント資料を配布する。
(21)参考文献	御船美智子編『消費者科学入門』、光生館、2006年。 内閣府『ハンドブック消費者』、2010年。 国民生活センター編『消費社会の暮らしとルール—変貌する社会と消費者』、中央法規、2001年。 国民生活センター編『くらしの豆知識 2017』、2016年。 坂東俊矢、細川幸一著『18歳から考える消費者と法』、法律文化社、2010年。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への積極的な参加・態度（30%）、小レポート2回（40%）、試験（30%）を総合して評価する。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	基本的には講義形式であるが、テーマを探索し、まとめ、発表する機会を設ける。
(25)留意点・予備知識	<ul style="list-style-type: none"> ・ 消費者庁ホームページを閲覧してみることに。 ・ 消費者トラブルに関する新聞、ニュースに関心を持つこと。
(26)オフィスアワー	火曜10：20～11：50
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	leesujin@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	529
(2)区分番号	529
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	家庭経営学演習 (Seminar on Family Resource Management)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 3・4時限
(10)担当教員(所属)	李 秀眞 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○文献の内容を正確に理解したうえで、自分の考えをまとめることができること
(15)授業の概要	家庭経営に関する理論が家族の生活にどのように応用できるかについての文献を読む。読み取った内容について議論しながら、多様な家族・家族員の要求を満たす家庭経営の方法を探る。今年度は、リンダ・グラットン(著)、池村千秋(訳)『Work Shift ワーク・シフト(孤独と貧困から自由になる働き方の未来図<2025>)』を講読する。
(16)授業の内容予定	第1回 オリエンテーション・文献紹介 第2回 未来を形づくる5つの要因 第3回 いつも時間に追われ続く未来-3分刻みの世界がやってくる 第4回 孤独にさいなまれる未来-人とのつながりが断ち切られる 第5回 繁栄から締め出される未来-新しい貧困層が生まれる 第6回 コ・クリエーションの未来-みんなの力で大きな仕事をやり遂げる 第7回 積極的に社会と関わる未来-共感とバランスのある人生を送る 第8回 ミニ企業家が活躍する未来-創造的な人生を切り開く 第9回 第一のシフト-ゼネラリストから「連続スペシャリスト」へ 第10回 第二のシフト-孤独な競争から「協力して起こすイノベーション」へ 第11回 第三のシフト-大量消費から「情熱を傾けられる経験」へ 第12回 未来のための知っておくべきこと 第13回 総合討論① 第14回 総合討論② 第15回 まとめ
	かならず授業前に資料を読むこと。そして、議論したい点、疑問点を3つ程度考えておくこと。

(17)準備学習 (予習・復習)等の内容	
(18)学問分野 1(主学問分野)	社会学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	経済学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	教育学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	リンダ・グラットン(著)、池村千秋(訳)『Work Shift ワーク・シフト(孤独と貧困から自由になる働き方の未来図<2025>)』、プレジデント社、2012年。
(21)参考文献	樋口美雄・財務省財務総合政策研究所編著『人口減少社会の家族と地域』、日本評論社、2008年。 ウリ・ニースイー/ジョン・A・リスト著・望月衛訳『その問題、経済学で解決できます』、東洋経済新報社、2014年。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への積極的な参加、担当部分の発表、最終レポート、ディスカッションへの参加度を総合して評価する。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	担当者が担当部分を読んで、レジュメとしてまとめて発表する。内容について、全員参加でディスカッションをする。
(25)留意点・予備知識	家庭経営学Ⅰ、家庭経営学Ⅱを履修したほうが望ましい。
(26)オフィスアワー	火曜10:20~11:50
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	leesujin@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	530
(2)区分番号	530
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	被服学I (Clothing Science I)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等（小・家庭科サブコース）、初等中等（中コース家庭科）・特支（中コース家庭科）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 5・6時限
(10)担当教員（所属）	安川あけみ（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル1
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○衣生活への理解を深め、日常生活における衣服に関する問題を解決する能力を養うこと ○小中学校で被服分野を自信を持って教えられる知識を習得すること
(15)授業の概要	小中学校で被服分野を教えるために必要な知識や、快適な衣生活を送るのに役立つ情報について、簡単な実習も取り入れながら講義する。
(16)授業の内容予定	1回目 ガイダンス 2回目 被服の起源と着用目的 3回目 色彩とデザインが与える印象 4回目 着装による視覚的効果 5回目 天然繊維の種類と用途 6回目 化学繊維の種類と用途、各種繊維の性質 7回目 糸と織物の構造と性質 8回目 編み地の構造と伸縮性 9回目 布の剛軟度と被服のシルエット 10回目 布の水分移動と快適性 11回目 布の熱・空気移動と快適性 12回目 被服の汚れと洗浄 13回目 布の漂白と染色 14回目 既製品のサイズ表示 15回目 学習状況の確認（試験含む）と解説 * 授業の進行状況等により内容が異なる場合がある。
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	予習：日常生活の中で衣服に関する疑問を探す。 復習：授業の内容を確認し、実生活と結び付ける。
(18)学問分野1(主学問分野)	社会学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	学際・新領域
	実務教員

(19)実務経験のある教員による授業科目について	
(20)教材・教科書	適宜プリントを配布する。
(21)参考文献	「新・衣料学概説」 林雅子、片山倫子著（光生館） 「はじめて学ぶ繊維」 信州大学繊維学部編（日刊工業新聞社） 「色彩」大井義雄、川崎秀昭著（日本色研事業（株））
(22)成績評価方法及び採点基準	授業や意見発表に臨む積極性(20%)、試験(40%)、小レポート等(20%)により総合的に評価する。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	主に講義。小レポートや意見発表等を含む。
(25)留意点・予備知識	「被服学Ⅱ」、「被服学Ⅲ」、「被服学実験実習Ⅰ」ならびに「被服学実験実習Ⅱ」を受講する上での基礎となる科目である。
(26)オフィスアワー	(月)～(金) 9:00～18:00（授業中等を除く）
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	yasukawa@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	実務経験（公立高校教員）経験のある教員が担当する。

教育学部

(1)整理番号	531
(2)区分番号	531
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	被服学II (Clothing Science II)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース家庭科サブコース）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 3・4時限
(10)担当教員（所属）	安川あけみ（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	○被服の役割について考え、誰もが快適かつ社会的な衣生活を送るために必要な知識を習得し、衣生活への関心を深めること ○家庭科の授業で取り入れられる被服教材を自分で工夫して作成すること
(15)授業の概要	簡単な実験実習を取り入れながら、小学校および中学校家庭科の授業に取り入れられる教材の作成方法を解説する。
(16)授業の内容予定	1回目 ガイダンス 2回目 色彩による服装美 3回目 かさねの色目と季節感 4回目 繊維によるアイロンの適正温度の違い 5回目 熱による損傷布教材の作成 6回目 繊維による毛糸のフェルト化の比較 7回目 羊毛のフェルト化を利用した作品制作 8回目 ニンヒドリン試薬による衣服の汚れの可視化 9回目 生活排水のCODパックテスト 10回目 しみ抜き実習 11回目 高齢者の身体変化と衣服 12回目 障害と衣服の着脱 13回目 ワークシート 14回目 環境リサイクルと新素材 15回目 学習状況の確認（試験含む）と解説 * 授業の進行状況等により内容が異なる場合がある。
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	予習：自分の衣生活に関心を持ち、疑問点や調べたいことを見つける。 復習：授業の内容を確認し、実生活と結び付けること
(18)学問分野1(主学問分野)	社会学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	学際・新領域

(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	適宜プリントを配布する。
(21)参考文献	「新・衣料学概説」 林雅子、片山倫子 著（光生館） 「高齢者・障害者の被服」一番ヶ瀬康子 監修、渡辺聰子 著（一橋出版）
(22)成績評価方法及び採点基準	授業・実験・実習および意見発表に臨む積極性(40%)、小レポート等(60%)により総合的に評価する。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	簡単な実習や実験を含む講義。意見発表や小レポート作成を含む。
(25)留意点・予備知識	「被服学Ⅰ」を踏まえての講義内容であり、「被服学実験実習Ⅰ、Ⅱ」にも関連する。
(26)オフィスアワー	(月)～(金) 9:00～18:00（授業中等を除く）
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	yasukawa@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	実務経験（公立高校教員）経験のある教員が担当する。

教育学部

(1)整理番号	532
(2)区分番号	532
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	被服学III (Clothing Science III)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 7・8時限
(10)担当教員(所 属)	安川あけみ(教育学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベ ル)	レベル3
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○自身の衣生活をより充実させるために、装飾性と機能性を兼ね備えた 被服の選択ができる能力を身につけること
(15)授業の概要	繊維や布の性質を、被服デザインやシルエット形成に生かす方法を説明 し、快適で健康的な衣生活を送るために必要な知識と教養を概説する。 また、各項目に即した実習も取り入れる。
(16)授業の内容予 定	1回目 ガイダンス 2回目 衣服のシルエットと印象 3回目 目の錯覚を利用した着やせ効果 4回目 布の立体化とフィッティング 5回目 布の文様と柄合わせ 6回目 立体構成の洋服と平面構成の和服の比較 7回目 千代紙による和服製作(前半) 8回目 千代紙による和服製作(後半) 9回目 青森の気候とこぎん刺し 10回目 こぎん刺しを用いた小物製作 11回目 青森の歴史的背景と裂き織り 12回目 裂き織りを用いた小物製作 13回目 流行と購買意識 14回目 ディベート 15回目 学習状況の確認(試験含む)と解説 *授業の進行状況等により内容が異なる場合がある。
(17)準備学習(予 習・復習)等の内容	予習: 日常生活の中で衣服に関する疑問や調べたいことを見つける。 復習: 授業の内容を確認し、実生活と結び付ける。
(18)学問分野1(主 学問分野)	社会学関連
(18)学問分野2(副 学問分野)	教育学関連

(18)学問分野3(副学問分野)	環境保全対策関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	適宜プリントを配布する。
(21)参考文献	「新・衣料学概説」 林雅子、片山倫子 著（光生館） 「はじめて学ぶ繊維」 信州大学繊維学部編（日刊工業新聞社） 「色彩」 大井義雄、川崎秀昭著（日本色研事業（株））
(22)成績評価方法及び採点基準	授業・実習・意見発表に臨む積極性(40%)、小レポート等(60%)により総合的に評価する。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	簡単な実習を含む講義。意見発表や小レポート作成を含む。
(25)留意点・予備知識	「被服学Ⅰ」、「被服学実験実習Ⅰ、Ⅱ」を踏まえての講義内容となる。
(26)オフィスアワー	(月)～(金) 9:00～18:00（授業中等を除く）
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	yasukawa@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	実務経験（公立高校教員）経験のある教員が担当する。

教育学部

(1)整理番号	533
(2)区分番号	533
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	被服学実験実習I (Laboratory Work and Practical Training in Clothing Science I)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等（小・家庭科サブコース）、初等中等（中コース家庭科）・特支（中コース家庭科）：必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 5・6・7・8時限
(10)担当教員（所属）	安川あけみ（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル1
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○基礎的な被服実験の方法を知り、結果の考察の仕方を習得し、講義で得た知識をより深めること
(15)授業の概要	小中学校の教科書で扱われている被服の基礎的な実験を中心に実験方法およびその解析方法を指導する。
(16)授業の内容予定	1時間目 ガイダンス、レポートの書き方 2時間目 デザインを生かした衣服 3時間目 燃焼試験による繊維の鑑別 4時間目 顕微鏡観察による繊維の鑑別 5時間目 織物の三原組織 (1) 平織 6時間目 織物の三原組織 (2) 斜文織、朱子織 7時間目 布の伸縮性 (1) 織物 8時間目 布の伸縮性 (2) 編物 9時間目 布の吸水性 10時間目 布の防しわ性 11時間目 布の保温性 (1) 布の構造による違い 12時間目 布の保温性 (2) 風の影響 13時間目 衣服の汚れと洗浄 14時間目 布の染色 15時間目 学習状況の確認（小テスト含む）とまとめ * 授業の進行状況等により内容が異なる場合がある。
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	予習：次回の実験テキストをよく読み、手順や要領を考えながら実験ノートに内容を書くこと。 復習：実験レポートを書くこと
(18)学問分野1(主学問分野)	社会学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	学際・新領域
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	適宜プリントを配布する。

(21)参考文献	各社の小学校、中学校教科書 「家庭科わくわく実験実習」成瀬信子、教育図書 「図解家庭科の実験・観察・実習指導集」日下部信幸ら、開隆堂
(22)成績評価方法及び採点基準	実験、実習に取り組む姿勢(40%)、レポート内容等(60%)により総合的に評価する。
(23)授業形式	実験・実習
(24)授業形態・授業方法	実験・実習を行った後、講義による理論づけを行う。
(25)留意点・予備知識	水を使う実験ではタオル等を持参すること。 「被服学Ⅰ」の講義内容に関連する。
(26)オフィスアワー	(月)～(金) 9:00～18:00 (授業中等を除く)
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	yasukawa@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	実務経験(公立高校教員)経験のある教員が担当する。

教育学部

(1)整理番号	534
(2)区分番号	534
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	被服学実験実習II (Laboratory Work and Practical Training in Clothing Science II)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース家庭科）・特支（中コース家庭科）：必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日 7・8・9・10時限
(10)担当教員（所属）	安川あけみ（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	○家庭科の教科書の内容を指導するのに必要な、基本的な縫製技術を身につけること ○自分で工夫して被服作品の製作を行うことができること
(15)授業の概要	小学校教員および中学校家庭科の教員として必要な、縫製の基礎的な知識と技術を習得させる。また、簡単な被服作品の製作を指導する。
(16)授業の内容予定	1時間目 ガイダンス、縫製の基本的な知識 2時間目 手縫いの基礎（並縫い、返し縫い、かがり縫い） 3時間目 手縫いの基礎（まつりぐけ、ボタンつけ、スナップつけ） 4時間目 手縫いによるポケットティッシュケースの製作（デザイン考案、裁断、しるしつけ） 5時間目 手縫いによるポケットティッシュケースの製作（縫製） 6時間目 ミシン縫いの基礎（直線縫い、三つ折り縫い） 7時間目 ロックミシンによる縫い代の始末 8時間目 ミシン縫いによるエプロンの製作（デザインの考案、型紙の作成） 9時間目 ミシン縫いによるエプロンの製作（裁断、しるしつけ、縫製（前半）） 10時間目 ミシン縫いによるエプロンの製作（縫製（後半）） 11時間目 ミシン縫いによるハーフパンツの製作（デザインの考案、型紙の作成） 12時間目 ミシン縫いによるハーフパンツの製作（裁断、しるしつけ） 13時間目 ミシン縫いによるハーフパンツの製作（ポケット作り、ポケット付け） 14時間目 ミシン縫いによるハーフパンツの製作（脇縫い、股上、また下の縫製） 15時間目 ミシン縫いによるハーフパンツの製作（裾とウエストの始末、仕上げ）、着装 * 授業の進行状況等により内容が異なる場合がある。
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	予習：次回のテキストをよく読んで実習の内容を理解し、持ち物の準備をすること。 復習：苦手な内容を練習すること。
(18)学問分野1(主学問分野)	社会学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	学際・新領域
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	適宜プリントを配布する。
(21)参考文献	各社の小学校、中学校教科書 「スクールソーイング」日本家政学会被服構成学部会、開隆堂
(22)成績評価方法及び採点基準	実習に取り組む姿勢(40%)、作品の製作進度(20%)、出来映え(40%)により総合的に評価する。
(23)授業形式	実験・実習
(24)授業形態・授業方法	主に実習。その都度、プリントと講義により理論づけを行う。
(25)留意点・予備知識	裁縫用具を持参する。 実習にかかる費用は自己負担とする。
(26)オフィスアワー	(月)～(金) 9:00～18:00 (授業中等を除く)
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	yasukawa@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	実務経験(公立高校教員)経験のある教員が担当する。

教育学部

(1)整理番号	535
(2)区分番号	535
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	食物学I (Food Science I)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等（小・家庭科サブコース）、初等中等（中コース家庭科）・特 支（中コース家庭科）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 9・10時限
(10)担当教員（所 属）	山元涼子（農学生命科学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベ ル）	レベル1
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○糖質、脂質、タンパク質の消化と吸収、代謝を理解すること ○ビタミン、ミネラルの必要性を理解すること ○エネルギーの必要性、水分、電解質の栄養学的意義を理解すること
(15)授業の概要	食事は生命を維持するために必要不可欠である。なぜ食事から栄養を摂 取しなければならないのか、食品から摂取した栄養素はどのように消化 吸収・代謝されていくのかを学ぶ。
(16)授業の内容予 定	1. 栄養の概念 2. 食物の摂取 3. 消化・吸収と栄養素の体内動態 (1) 4. 消化・吸収と栄養素の体内動態 (2) 5. タンパク質の栄養 (1) 6. タンパク質の栄養 (2) 7. 糖質の栄養 (1) 8. 糖質の栄養 (2) 9. 脂質の栄養 (1) 10. 脂質の栄養 (2) 11. ビタミンの栄養—脂溶性— 12. ビタミンの栄養—水溶性— 13. ミネラルの栄養 14. 水・電解質の栄養学的意義 15. エネルギー代謝 16. 期末試験
(17)準備学習（予 習・復習）等の内容	高校で習った化学及び生物を復習しておくことが好ましいです。また、 指定の教科書や参考文献を利用して予習・復習を行うことで理解が深ま ります。
(18)学問分野1(主 学問分野)	農芸化学関連
	健康科学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	新スタンダード栄養・食物シリーズ9 「基礎栄養学」東京化学同人 ISBN 4-8079-1669-6 (各自購入してください。)
(21)参考文献	ポケットアトラス栄養学、ガイアブック ISBN:978-4882829331 ハーパー生化学、丸善 ISBN:978-4621048344 リッピンコットシリーズ イラストレイテッド 生化学、丸善 ISBN:978-4621084410
(22)成績評価方法及び採点基準	小テスト、課題 (15%) 期末試験 (85%)
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式 (教科書とパワーポイント、必要に応じて資料を配布します。)
(25)留意点・予備知識	自分自身の食事との関連を意識して授業を受けると理解が深まると思います。
(26)オフィスアワー	平日 11:50~12:40 (事前にメール連絡を入れることが好ましい。)
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	yamamoto.r@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	農学生命科学部「食品栄養学」と同時開講

教育学部

(1)整理番号	536
(2)区分番号	536
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	食物学II (Food Science II)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース家庭科サブコース）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日 3・4時限
(10)担当教員（所属）	岩井邦久（農学生命科学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○食品成分を科学的に捉え、成分の変化等を含め食品の本質を理解すること（見通す力） ○食品の変化を防止または利用できる力を身につけること（解決していく力）
(15)授業の概要	本科目は、食品の様々な分野について学ぶための基礎となる科目です。食品の本質を理解するため、食品に含まれる栄養成分と栄養素としての働き、嗜好成分と色・味・香り・物性等の特性、機能性成分の化学的性質、調理・加工・保存中に起こる変化や栄養特性の変化等を科学的に説明します。また、食品と関わりが深い毒物、物性、環境問題や制度についても解説を加えます。
(16)授業の内容予定	第1回 人間と食品（食べ物） ・食文化と食生活・健康、食料と環境問題、食品成分表について学びます。 第2回～第5回 食品の一次機能（食品成分の化学） ・炭水化物、脂質、たんぱく質、ビタミン、ミネラル、核酸・核酸構成成分について、それらの構造、性質、栄養を学びます。 第6回～第8回 食品の二次機能（嗜好成分の化学） ・食品のおいしさに関わる水分、色素成分、呈味成分、香り・におい成分、官能評価、有害成分について学びます。 第9回～第10回 食品の三次機能（食品の健康機能性） ・食品の三次機能、機能性食品、食品の生体調節機能に関わる成分について学びます。 第11回～第13回 食品成分の変化 ・炭水化物の変化、脂質の変化、たんぱく質の変化、ビタミンの変化、変化の相互作用、褐変、食品の光・加熱・加圧・減圧・酵素による変化について学びます。 第14回 食品の物性 ・食品の物性、コロイド、レオロジー、テクスチャーについて学びます。 第15回 食品の表示と規格基準

	<p>・食品表示制度、健康や栄養に関する表示の制度、基準について学びます。</p> <p>第16回 期末試験</p>
(17)準備学習 (予習・復習)等の内容	資料の一部が空欄になっているので、その部分を中心に予習することが必要です。食品を学ぶ基礎であり他の科目との関連も深いので、復習は十分に行うべきです。
(18)学問分野 1(主学問分野)	農芸化学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書を使用しますので購入してください。食品学I 食べ物と健康—食品の成分と機能を学ぶ。水品善之、菊崎泰枝、小西洋太郎編、羊土社、ISBN 978-4-7581-0879-9、2015年。
(21)参考文献	カレント食べ物と健康1: 食品の化学と機能、青柳康夫、津田孝範編著、建帛社、ISBN 978-4-7679-0594-5、2017年。
(22)成績評価方法及び採点基準	中間評価 (50%) と期末評価 (50%) で評価します。どちらも評価は試験です。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	教科書とパワーポイントを使って講義形式で進めます。パワーポイントと同じ内容だが一部を空欄にした資料を配布し、空欄部分を受講生に質問し答えてもらうことで理解を深めます。
(25)留意点・予備知識	化学と生物の知識は最低限必要です。
(26)オフィスアワー	月曜11:00~12:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	iwai-kuni@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	農学生命科学部「食品科学」と同時開講

教育学部

(1)整理番号	538
(2)区分番号	538
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	食物学実験実習I (Laboratory Work and Practical Training in Food Science I)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等（小・家庭科サブコース）、初等中等（中コース家庭科）・特支（中コース家庭科）：必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 5・6・7・8時限
(10)担当教員 (所属)	加賀恵子（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル1
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての 具体的到達目標	○主要食品の調理現象（食品の食物化）を科学的に捉え、その要因について考えられるようになること ○実験計画、実験方法、官能検査などの手法を習得すること ○授業で学んだことを、家庭科の学習内容の科学的な理解を促すための教材開発に活用する能力を身につけること
(15)授業の概要	中等家庭科で扱う主要な食品の科学特性に関する理論について概説し、調理科学に関する基礎実験及び食品の調理科学実験を通して、それらを確認する。また、復習レポートの作成を通して教材開発に活かすことのできる応用力を養う。
(16)授業の内容 予定	第1回 ガイダンス（※授業の進め方に関する諸注意、課題、評価について理解する） 第2、3回 緑茶 第4、5回 米 第6、7回 だし 第8、9回 大豆 第10、11回 肉 第12、13回 ゲル 第14、15回 授業の総括、学習状況の確認（試験含む） ※授業の進行状況等により内容が異なる場合があります。
(17)準備学習 (予習・復習)等 の内容	○3、4～11、12回の授業は、予習ワーク・授業・復習レポートを1ユニットとして展開する。 ・予習：配布されたワークシートを完成させてくること。 ・復習：レポートをまとめてくること。
(18)学問分野 1(主学問分野)	社会学関連
	教育学関連

(18)学問分野 2(副学問分野)	
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	随時資料を配布する。
(21)参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校家庭科教科書（開隆堂、東京書籍） ・ 小学校学習指導要領解説 ・ 中学校技術・家庭科 家庭分野教科書（開隆堂、東京書籍、教育図書） ・ 中学校学習指導要領解説「技術・家庭（家庭編）」 ・ 高等学校家庭科教科書 ・ 高等学校学習指導要領解説「家庭」
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>出席が満たない者は評価の対象から除外する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 予習ワーク・復習レポート：75%（@15点×5回） 2. 試験：25%
(23)授業形式	実験・実習
(24)授業形態・授業方法	<ol style="list-style-type: none"> (1) 学生主体による学習形態の導入に関する工夫 ペアワーク、グループワークなど (2) 学生が主体的に行う活動を導入する工夫 実験、実習、プレゼンテーションなど (3) 教員と学生の双方向性の確保，課題設定の工夫 レポートなど
(25)留意点・予備知識	・ 実験材料費を徴収する。
(26)オフィスアワー	後日表示
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	kkaga@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	実務経験（国公立中学校教員）経験のある教員が担当します。

教育学部

(1)整理番号	539
(2)区分番号	539
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	食物学実験実習II (Laboratory Work and Practical Training in Food Science II)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース家庭科）・特支（中コース家庭科）：必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日 7・8・9・10時限
(10)担当教員 (所属)	小野恭子（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○食品の調理特性や調理科学に即した理論と技術を習得すること ○調理を通して、作業手順・配食形態・食事環境を身につけること ○人と人とのかかわりとは、食文化の伝承とは、他の食事の役割として欠かす事ができない食環境を考え、食の大切さを理解すること
(15)授業の概要	調理科学に基づき、食品をどうしたら美味しい食べ物にできるかを常に目指し、自ら学ぶ姿勢を喚起するための授業展開を考察する。 具体的には、料理によっての野菜の切り方の違い・食材のおいしさを更に引き出す加熱の仕方・できあがった料理の演出の仕方などを実践する。
(16)授業の内容 予定	第1、2回 ガイダンス（調理の意義と実習の心得） 米の調理性 献立（炊飯・だしのとり方・豆腐のみそ汁） 第3、4回 日本料理の特徴と日本食献立の実習（魚を主菜に） 第5、6回 中華料理の特徴と中華風献立の実習（野菜を主催に） 第7、8回 西洋料理の特徴と西洋風献立の実習（肉を主催に） 第9、10回 卵・牛乳の調理特性 第11、12回 乳・幼児期のおやつ 第13、14回 郷土料理について 粉の調理性 第15回 まとめ・学習状況の確認（試験含む）
(17)準備学習 (予習・復習)等 の内容	実習内容を予習（手法及びその根拠）し、レポートにまとめた上で望むこと。
(18)学問分野 1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	社会学関連

(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	随時プリントを配布する。
(21)参考文献	「新訂 調理学」光生館
(22)成績評価方法及び採点基準	試験(40%)・レポート(40%)・実習への積極的な参加の姿勢(20%)等を総合的に評価する。
(23)授業形式	実験・実習
(24)授業形態・授業方法	実習
(25)留意点・予備知識	実習費として3,000円徴収する。 実習のため、7・8・9・10コマ目を続けて行う。
(26)オフィスアワー	月曜 12:00~12:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	kyokoono@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	初回より実習を行うため、エプロン・三角巾を用意すること。 授業の進行状況により、実習内容が異なる場合がある。

教育学部

(1)整理番号	540
(2)区分番号	540
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	住居学I (Housing Science I)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等（小・家庭科サブコース），初等中等（中コース家庭科）・特支（中コース家庭科）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 1・2時限
(10)担当教員（所属）	北原啓司（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	○住生活の基本となる住空間の機能と様相について、ライフスタイルとの関連において理解できるようになること ○上記を自ら計画していくことができる能力を身につけること
(15)授業の概要	人間の住生活と空間との関わりをテーマとする住居学を概観するとともに、現代の住宅及び住環境の諸問題を捉えた〈住環境の計画学〉を考察する。
(16)授業の内容予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. ライフスタイル論（家族と住まいの変遷） 2. ライフスタイル論（家族と住要求） 3. ライフスタイル論（日本の住宅政策） 4. ライフスタイル論（住生活基本計画とは） 5. 住居計画論（間取りの考え方） 6. 住居計画論（敷地と住戸まわりの計画） 7. 住居計画論（集住の計画学－理論編） 8. 住居計画論（集住の計画学－実践編） 9. 住居計画論（バリアフリーの住まいづくり） 10. 住居計画論（日本の福祉住宅政策） 11. 住居計画論（建築家の住宅論） 12. 住環境論（住まいと健康） 13. 住環境論（快適な室内環境） 14. 住環境論（住まいの維持管理） 15. 住環境論（ライフスタイルの管理） 16. 定期試験
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	授業時間で必要な学習を行うため、特段の予習・復習は不要である。
(18)学問分野1(主学問分野)	建築学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	学際・新領域
	-

(18)学問分野3(副学問分野)	
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	定期試験の結果をもとに成績を評価する。なお、試験は、ノートや資料を持ち込んだ上の論述試験とする。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	パワーポイントやビデオを用いた、ビジュアルな講義形式である。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	水曜日 12:00~13:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	mxg02632@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	541
(2)区分番号	541
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	住居学II (Housing Science II)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース家庭科）・特支（中コース家庭科）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日 5・6
(10)担当教員 (所属)	北原啓司（教育学部）
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応する CP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業とし ての具体的到 達目標	○製図の基本をマスターすること ○単なる製図ではなく、計画から設計に至るプロセスを一通り経験すること
(15)授業の概 要	演習によって基本的な製図法を習得するとともに、製図能力および表現手法の向上を目指した作品研究を行う。最終的には、体得した製図表現手法の集大成として、小住宅の設計を実施する。製図のルールを学んだ後に、住宅コピー、そして建築家による指導を含めた小住宅の設計を実施することになる。
(16)授業の内 容予定	1) ガイダンス・・・第1回 2) 製図のルールおよび線の練習・・・第2回～第4回 3) 住宅コピー（平面図・立面図・断面図）・・・第5回～第10回 4) 建築家による特別講義および課題説明・・・第11回 5) 住宅設計エスキス・・・第12回～第14回 6) 最終講評会・・・第15回
(17)準備学習 (予習・復 習)等の内容	授業時間で必要な学習を行うため、特段の予習・復習は不要であるが、製作が遅れた場合には遅れを取り戻す製図が必要になる。
(18)学問分野 1(主学問分野)	建築学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-

(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	名作住宅で学ぶ建築製図（学芸出版社）
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	各演習課題をすべて提出することが基本であるが、最終課題の住宅設計の講評会に出席することが条件となり、その作品の評価が、全体的な採点の基準となる。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	住宅設計課題では、地域の専門家として建築家の前田卓氏の指導が3時間用意されている。
(25)留意点・予備知識	製図道具セットを購入してもらうことになる。
(26)オフィスアワー	水曜日 12:00~13:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	mxg02632@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	542
(2)区分番号	542
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	住居学III (Housing Science III)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース家庭科サブコース）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日 7・8時限
(10)担当教員 (所属)	北原啓司（教育学部）
(11)地域志向 科目	地域志向科目
(12)難易度 (レベル)	レベル3
(13)対応する CP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業とし ての具体的到達 目標	〇まちづくりに関わる様々な要素を、客観的に把握することによって、主体的にまちづくり学習に関わることのできる素養と実践能力を身につけること
(15)授業の概 要	地域生活と空間との関わりをテーマとする本科目では、現代の住環境および住宅政策上の諸問題を捉えた上で、住生活から地域を活性化するための様々な計画手法を学ぶこととなる。講義は住環境教育、参加型まちづくり、NPO論、集住の計画学、地域計画論で構成される。
(16)授業の内 容予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 「まち育て」ってなに？ 3. 新しい公共としてのNPOーまちを「たべる」プロローグ 4. まち育ての実践 5. 復興まちづくりの現状と課題 6. 「まち学習」の必要性と可能性 7. 英国と日本の「まち学習」 8. 集合住宅論－1＜高齢社会における新しい住まいづくり＞ 9. 集合住宅論－2＜まちなか居住の可能性と課題＞ 10. 集合住宅論－3＜コ・ハウジングについて考える＞ 11. 都市計画論－1＜コンパクトシティのまち育て＞ 12. 都市計画論－2＜都市のマネジメント＞ 13. 都市計画論－3＜景観法の時代のまち育て＞ 14. 都市計画論－4＜エリアマネジメントとは＞ 15. 都市計画論－5＜空間を場所に変えるまち育て＞
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	授業時間で必要な学習を行うため、特段の予習・復習は不要である。
	建築学関連

(18)学問分野 1(主学問分野)	
(18)学問分野 2(副学問分野)	学際・新領域
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験 のある教員によ る授業科目につ いて	-
(20)教材・教 科書	特になし
(21)参考文献	北原啓司、「空間」を「場所」に変えるまち育て—まちの創造的編集とは—、2018、萌文社
(22)成績評価 方法及び採点基 準	知識の習得を見る定期試験ではなく、学んだことをもとに、まちづくりに関わる総合的学習の企画立案を提出し、それを評価することとなる。
(23)授業形式	講義
(24)授業形 態・授業方法	パワーポイントやビデオを用いたビジュアルな講義である。
(25)留意点・ 予備知識	特になし
(26)オフィス アワー	水曜日、12:00~13:00
(27)Eメールア ドレス・HPア ドレス	mag02632@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	543
(2)区分番号	543
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	住居学演習 (Seminar on Housing Science)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所 属)	北原啓司(教育学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベ ル)	レベル3
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具 体的到達目標	○地域でのさまざまなまちづくり活動に参加して、そこでワークショップ等に参画しながら、住宅から都市へとつながる様々な切り口を学習すること
(15)授業の概要	自治体と教育学部住居研で共同して実施する「景観教室」に小学生の指導補助として参画し、実際に小学校教員と議論しながら、子どもの景観教育のための方法論を体得する。
(16)授業の内容予定	今年度は、黒石東小学校の景観教室に参加してもらうことになる。
(17)準備学習(予 習・復習)等の内容	授業時間で必要な学習を行うため、特段の予習・復習は不要である。
(18)学問分野1(主学 問分野)	建築学関連
(18)学問分野2(副学 問分野)	教育学関連
(18)学問分野3(副学 問分野)	-
(19)実務経験のある 教員による授業科目 について	-
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	特になし
	外部での実習の状況を評価対象とする。

(22)成績評価方法及び採点基準	
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	集中講義形式で、外部での実習に参加する。
(25)留意点・予備知識	住居学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲをすべて履修していること。
(26)オフィスアワー	水曜日、12:00～13:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	mxg02632@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	544
(2)区分番号	544
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	保育学I (Early Childhood Education and Care I)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等（小・家庭科サブコース）、初等中等（中コース家庭科）・特支（中コース家庭科）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日 3・4時限
(10)担当教員（所属）	安川由貴子（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル1
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○保育の基本原理や原則といった本質を理解すること ○乳幼児期の発達特性を理解すること ○幼稚園と保育所、認定こども園の保育について体系的に理解すること
(15)授業の概要	本授業は、幼稚園、保育所、認定こども園、地域社会における「保育」の特性、目標、方法、環境といった原理・原則を習得することを目的とする。具体的には、保育と保育者の役割、環境の変化と発達保障、幼稚園、保育所、認定こども園の保育の本質、目的、ねらい、内容、方法について体系的に学修する。これらの内容を基に、保育施設と小学校との連携の必要性とその方法についても理解を深める。
(16)授業の内容予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、自らの経験と「保育」との関わりを振り返る 2. 乳幼児に対する保育と教育、就学前の子どもを取り巻く現状 3. 乳幼児期の発達的特徴と保育 4. 家庭生活と保育、乳幼児にとっての地域社会 5. 幼稚園、保育所、認定こども園の保育・教育の制度・目的・機能 6. 幼稚園、保育所、認定こども園の保育・教育の内容 7. 幼稚園、保育所、認定こども園の保育・教育の実際 8. 環境を通しての保育・教育 9. 遊びを通しての保育・教育 10. 乳幼児を理解すること 11. 望ましい保育者の資質とは 12. 幼保小連携 13. 地域における子育て支援 14. 多文化社会における保育 15. 保育における現状と今日的課題、学習状況の確認（試験含む） <p>授業の進行状況等により内容が異なる場合があります。</p>

(17)準備学習 (予習・復習)等の内容	予習：次回授業のための情報を収集し、積極的に参加できるようにする。 復習：授業資料を読み直し理解を深め、疑問点や新たな問いを考える姿勢を大切にする。また、それらが、毎回の授業を通じてどのようにつながっているかを振り返り確認する。また、新聞やテレビ等のメディアからの保育や子育てに関わる情報と関連づけて学びを深めるように努める。
(18)学問分野 1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	・西岡育子編集『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>』チャイルド社、2017年。 ・授業中、適宜プリントが配布されます。
(21)参考文献	適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（授業への積極的な参加度、ミニ発表など）：40% 期末評価（試験）：60% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	・視聴覚教材も適宜使用して理解を深めます。 ・ミニ発表やグループワークも適宜取り入れていきます。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	545
(2)区分番号	545
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	保育学II (Early Childhood Education and Care II)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース家庭科）・特支（中コース家庭科）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日 1・2・3・4時限
(10)担当教員（所属）	松尾泉（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○子どもの胎生期からの発達と影響因子を理解すること ○乳幼児の保育・養護の留意点（発達・保健・遊び・生活環境）について理解できること ○子どもの病気や、特徴的な症状の観察や予防・発生時の対処法について理解を深めることができること ○子ども・家族を取りまく地域環境を知り、健康・安全への関心を高めることができること
(15)授業の概要	本授業は、子ども理解の促進を目的に、新生児・乳幼児を中心にその生活課題を理解し、保育・養護における発達のとらえ方、子どもと家族・を取り巻く地域環境や遊び・文化、事故や病気から守るために必要な知識を学ぶ。
(16)授業の内容予定	1. オリエンテーション 子どもの保健について 2. 子どもの発達課題と支援の意義 3. 胎児・新生児・乳幼児の身体的・生理的発達と保育 4. 乳幼児期の精神的発達と保育 5. 乳幼児期の情緒・社会性の発達と保育 6. 乳幼児期の日常生活と保健① 食事・栄養と排泄 7. 乳幼児期の日常生活と保健② 活動・睡眠 8. 乳幼児期の日常生活と保健③ 家族・地域・多様な保育環境 9. 乳幼児・家族の健康課題と保健活動 10. 乳幼児の事故とけが：子どもに安全な生活環境とは 11. 乳幼児にみられる病気や障がい①（主な症状の観察と対処） 12. 乳幼児にみられる病気や障がい②（医療的ケア児の生活や保育） 13. 乳幼児にみられる病気や障がい③（インクルーシブな保育環境） 14. 乳幼児の生活と文化①（生活習慣・子育て・遊び） 15. 乳幼児の生活と文化②（通過儀礼・国際理解） 16. 試験
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	予習：毎回の授業にあたり、講義のねらいに加えて自己の目標を立て、積極的に参加する。 復習：授業終了時に自己の達成度を確認する。不足があればテキストや授業資料を読み直す、教員に質問するなどして理解を深める。

(18)学問分野1(主 学問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副 学問分野)	社会医学関連
(18)学問分野3(副 学問分野)	教育学関連
(19)実務経験のある 教員による授業 科目について	実務教員
(20)教材・教科書	榎原洋一監修『これならわかる！ 子どもの保健演習ノート 追補2000』 診断と治療社、2019年
(21)参考文献	小林美由紀『子どもの保健テキスト』 診断と治療社、2019年
(22)成績評価方法 及び採点基準	最終試験を中心に毎授業の達成度や参加度を総合的に考慮して判定する。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授 業方法	パワーポイント使用。 講義および適時グループワークやディスカッションを取り入れながら行 う。
(25)留意点・予備 知識	「保育Ⅰ」をはじめ既習の関連科目を振り返っておくこと。本科目を通じ て自己の子ども観・保育観を育て、今後の学習につなげて欲しい。
(26)オフィスアワ ー	なし
(27)Eメールアド レス・HPアドレス	なし
(28)その他	看護学校専任教員および助産師の実務経験のある教員が担当する。

教育学部

(1)整理番号	546
(2)区分番号	546
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	保育学III (Early Childhood Education and Care III)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース家庭科サブコース）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日 1・2時限
(10)担当教員 (所属)	安川由貴子（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○現在、大きく変化しつつある家庭を取り巻く状況や課題を見つめ、子育て支援の実際やその考え方を理解すること ○子育て家庭を取り巻く課題を見つめ、問題解決への視点を身につけること
(15)授業の概要	保育学Ⅰ（保育の原理）、保育学Ⅱ（子どもの発育・発達）での学びを基に、保育学Ⅲでは、今日の家庭を取り巻く社会状況と、子どものより良い育ちのための家庭の役割や子育て支援のあり方について理解を深める。
(16)授業の内容 予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、家庭や家族の機能、家庭生活と地域との関わり 2. 家族を取り巻く社会的状況と家族関係、子育て支援が求められる背景 3. 家庭での育児 4. 子どもが健やかに育つ環境、子育てしやすい社会とは 5. 出産と子育てのための社会的支援①日本 6. 出産と子育てのための社会的支援②外国 7. 子育て支援の体制と方法 8. 子育て支援の実際①地域の子育て支援センターにおける子育て支援 9. 子育て支援の実際②保育所・幼稚園・認定こども園における子育て支援 10. 世代間交流による子育て支援 <ol style="list-style-type: none"> 11. 保育に関わる専門職種間、専門機関との連携による相談・支援 12. 児童福祉の理念と法律、児童福祉のための機関・施設 13. 子どもの権利条約 14. 児童虐待の予防と対応 15. 多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解とその支援、学習状況の確認（試験含む） <p>授業の進行状況等により内容が異なる場合があります。</p>
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	予習：次回授業のための情報を収集し、積極的に参加できるようにする。 復習：授業資料を読み直し理解を深め、疑問点や新たな問いを考える姿勢を大切にする。また、それらが、毎回の授業を通じてどのようにつながっているかを確認する。

	るかを振り返り確認する。また、新聞やテレビ等のメディアからの保育や子育てに関わる情報と関連づけて学びを深めるように努める。
(18)学問分野 1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	・教科書は使用されません。授業中、適宜プリントが配布されます。
(21)参考文献	・西岡育子編集『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>』チャイルド社、2017年。 ・適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（授業への積極的な参加度、ミニ発表など）：40% 中間評価（ミニレポート）：20% 期末評価（試験）：40% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	・視聴覚教材も適宜使用して理解を深めます。 ・ミニ発表やグループワークも適宜取り入れていきます。
(25)留意点・予備知識	本授業では、地域における子育て支援の現状を自ら学ぶ姿勢が必要となります。また、少子化対策や子育て支援策について事前に調べておくこと一層理解が深まります。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	548
(2)区分番号	548
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	家庭電気・機械・情報処理 (Human Life Information Processing)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース家庭科サブコース）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 5・6時限
(10)担当教員 (所属)	北原啓司（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての 具体的到達目標	○電気機器に関する基本的な知識を習得することにより、家庭生活の様々な場面でそれを活かすことのできる能力を身につけること ○情報処理のための基本的な技術を習得すること
(15)授業の概要	衣・食・住の各生活に関わる様々な家庭機器の基本的な構造および安全対策等について学ぶ。暖房、照明、調理、洗濯、AV等の様々な電気器具に関して知識を得るだけでなく、米国で家庭電気機器が普及した背景等についても学ぶことになる。
(16)授業の内容 予定	基礎編 1. 家庭電気機器の普及の背景 2. 家庭のエネルギー①・・・熱源 3. 家庭のエネルギー②・・・光源・動力源 4. エレクトロニクス 住生活関係 1. エネルギー供給施設・照明 2. 暖房と採暖 3. 冷房と送風・換気、除湿・加湿 4. 給水および給湯、掃除機 食生活関係 1. 加熱調理用 2. 整形用、冷蔵・冷凍用 衣生活関係 1. ミシン 2. 整理用（洗濯機） 情報処理 1. データ処理の基本 2. データ処理の応用 3. 情報処理演習
	授業時間で必要な学習を行うため、特段の予習・復習は不要である。

(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	
(18)学問分野 1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	電気電子工学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある 教員による授業科目 について	-
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び 採点基準	最終論述試験の成績をもとに評価する（ノート・資料の持ち込み可）。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・ 授業方法	情報処理については、各自で演習してもらうことになるが、その他は講義になる。
(25)留意点・予備 知識	特になし
(26)オフィスアワー	水曜日、12:00~13:00
(27)Eメールアドレス・ HPアドレス	mxg02632@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	550
(2)区分番号	550
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	英文法I (English Grammar I)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（小・英語サブコース）、初等中等（中コース英語）・特支（中コース英語）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 5・6時限
(10)担当教員（所属）	近藤 亮一（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2～3
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての 具体的到達目標	○文法理論の目標を理解し、文の構造に関する基本概念を把握すること（見通す力） ○その過程で、英語の歴史的変遷及び国際共通語としての英語の様々な構文、現象について理解すること（見通す力）
(15)授業の概要	科学的な言語理論である生成文法（Generative Grammar）の基礎概念を概観する。言語を科学的に分析するということはどういうことを学ぶと共に、英語の歴史的変遷及び国際共通語としての英語の様々な構文、現象について学ぶ。
(16)授業の内容予定	第1回：ガイダンス、科学研究の目標としての言語 第2回：生成文法理論の3つの問い、言語知識と文法のモジュール 第3回：言語習得、言語知識と言語運用、理想化、仮説形成、反証可能性 第4回：統語規則、句構造 第5回：句構造規則 第6回：語彙目録、語彙記載項、文法関係と主題関係 第7回：wh移動変形、主語繰り上げ変形、受動変形 第8回：名詞句からの外置、接辞移動、主語—助動詞倒置、Do支持とその歴史的変遷 第9回：これまでのまとめ及び中間試験、生成文法における「生成」の意味 第10回：文法の枠組み、等位構造制約、Comp-whの制約とその歴史的変遷、構造保持制約 第11回：移動変形の適用領域 第12回：束縛条件A（照応形の解釈） 第13回：束縛条件B（代名詞の解釈） 第14回：束縛条件C（指示表現の解釈） 第15回：まとめと試験 ※授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。
	シラバスに記載された各回の授業の内容予定を参考とし、教科書の該当箇所を授業実施時まで预习

(17)準備学習（予習・復習）等の内容	し、授業実施後に復習を行ってください。（予習、復習は、最低でも各1時間程度行う必要があります。）
(18)学問分野 1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	中村捷、金子義明、菊地朗「生成文法の新展開」2001年（研究社）
(21)参考文献	授業時に紹介する。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業での態度、回答の仕方（50%） 試験（中間・期末）（50%）
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	基本は講義形式です。その日の内容を議論や演習を通して検討することがあります。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	金曜日13:00-14:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	適宜お知らせします。
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	551
(2)区分番号	551
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	英文法II (English Grammar II)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日 5・6時限
(10)担当教員(所属)	近藤亮一(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2~3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的な到達目標	○英語の構文・現象についての理解を深めること(見通す力)
(15)授業の概要	講義や学生の発表を通して英語の構文・現象に対する分析を検討し、英語の文法・規則についての知識を得る。
(16)授業の内容予定	<p>第1回：ガイダンス 第2回：構文・現象の紹介 第3回：英語における主語の必要性とその歴史的变化 第4回：遊離数量詞と移動の軌跡 第5回：準助動詞・中間動詞 第6回：二重目的語構文・同族目的語構文 第7回：場所句倒置構文・否定倒置構文 第8回：これまでのまとめと復習 第9回：現代英語と方言の違い(動詞の呼応) 第10回：現代英語と方言の違い(従属節) 第11回：現代英語と方言の違い(命令文) 第12回：仮定法・等位接続 第13回：多重wh疑問文・感嘆文 第14回：挿入節・分詞構文 第15回：まとめと試験</p> <p>※授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・発表担当者は発表資料を作成し、期限までにそれをメール添付により提出しなければいけません。 ・授業実施後、講義・担当者の発表をもとに復習を行ってください。(予習、復習は、最低でも各1時間程度行う必要があります。)
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	歴史学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
	-

(19)実務経験のある教員による授業科目について	
(20)教材・教科書	授業時にハンドアウトを配布する。
(21)参考文献	中村捷・金子義明・菊地朗「生成文法の新展開」（研究社） 中村捷・金子義明「英語の主要構文」（研究社） 中島平三編 [最新]英語構文事典（大修館書店） Alison Henry, Belfast English and Standard English (Oxford University Press) など
(22)成績評価方法及び採点基準	授業での発表・態度・回答の仕方（50%） 試験（50%）
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	主に講義と学生の発表・質疑応答により進められます。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	月曜日 14:00-15:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	適宜お知らせします。
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	552
(2)区分番号	552
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	英語学演習I (Topics in English Linguistics I)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース英語）・特支（中コース英語）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 9・10時限
(10)担当教員（所属）	近藤亮一（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2～3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○具体的な英語の構文の理解を深めるとともに、その構文の分析の仕方を習得すること（解決する力） ○その過程で、英語の歴史的変遷及び国際共通語としての英語の様々な構文・現象についての理解を深めること（解決する力）
(15)授業の概要	担当者は教科書のある章を発表し、内容に関して質問するので、それに回答する。
(16)授業の内容予定	第1回：ガイダンス 第2回：文法の枠組み 第3回：時と時制・ムードとモダリティー 第4回：アスペクト・動詞のクラスと交替現象 第5回：名詞句移動・疑問詞移動 第6回：関係詞・There構文 第7回：分裂文とBe動詞構文・話題化構文と右方移動構文 第8回：省略現象・That補文と不定詞補文 第9回：コントロール現象・動名詞と派生名詞 第10回：叙述関係・Tough構文と目的節 第11回：程度表現と比較構文・名詞の解釈 第12回：代用表現・極性現象 第13回：文副詞とVP副詞・理由節・条件節・譲歩節 第14回：数量詞と作用域・遂行動詞と発話行為 第15回：まとめと試験 ※授業の進行業況等により内容が変更になる場合はその都度説明します。
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	・発表担当者は発表資料を作成し、期限までにそれをメール添付により提出しなければいけません。 ・シラバスに記載された各回の授業の内容予定を参考とし、教科書の該当箇所を授業実施時まで予習し、授業実施後、担当者の発表をもとに復習を行ってください。（予習、復習は、最低でも各1時間程度行う必要があります。）
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
	-

(18)学問分野3(副学問分野)	
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	中村捷・金子義明「英語の主要構文」2002年 研究社
(21)参考文献	授業時に紹介する。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業での発表・態度・回答の仕方(50%) 試験(50%)
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	主に学生の発表・質疑応答により進められます。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	月曜日 14:00-15:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	適宜お知らせします。
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	553
(2)区分番号	553
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	英語学演習II (Topics in English Linguistics II)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 3・4時限
(10)担当教員(所 属)	近藤亮一(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベ ル)	レベル3
(13)対応するCP/D P	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具 体的到達目標	○科学的な言語理論である生成文法(GB理論・極小主義理論)のしくみを理解し、それをもとに英語の構文に自分なりの分析を提案できるようになること(解決する力)
(15)授業の概要	担当者は教科書のある章を発表し、内容に関して質問するので、それに回答する。
(16)授業の内容予定	第1回: ガイダンス 第2回: GB理論の特徴・枠組み 第3回: X'理論・語彙目録・構成素統御と統率 第4回: θ 理論・格理論・統率理論・ α 移動と連鎖 第5回: 境界理論・障壁理論・束縛理論・コントロール理論 第6回: 空範疇・媒介変数 第7回: GB理論のまとめ 第8回: ミニマリストプログラムの特徴 第9回: 語彙目録・最小句構造① 第10回: 最小句構造②・領域 第11回: 照合理論①・照合理論② 第12回: 移動理論・移動の条件① 第13回: 移動の条件②・移動の条件③ 第14回: 移動の条件④・束縛理論 第15回: ミニマリストプログラムのまとめ
(17)準備学習(予 習・復習)等の内容	・発表担当者は発表資料を作成し、期限までにそれをメール添付により提出しなければいけません。 ・シラバスに記載された各回の授業の内容予定を参考とし、教科書の該当箇所を授業実施時までに予習し、授業実施後、担当者の発表をもとに復習を行ってください。(予習、復習は、最低でも各1時間程度行う必要があります。)
(18)学問分野1(主学 問分野)	言語学関連
	-

(18)学問分野2(副学問分野)	
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	中村捷・金子義明・菊地朗「生成文法の新展開」研究社
(21)参考文献	授業時に紹介する。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業での発表・態度・回答の仕方（50%） レポート（50%）
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	講義・学生の発表と質疑応答により進められます。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	金曜日13:00-14:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	適宜お知らせします。
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	554
(2)区分番号	554
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	英語学講読I (Readings in English Linguistics I)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース英語サブコース）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日 9・10時限
(10)担当教員 (所属)	近藤亮一（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての 具体的到達目標	○英語の文献を正確に読めるようになるとともに、英語の文の構造と解釈に関する理解を深めること（見通す力）
(15)授業の概要	生成文法理論に関する英語の文献を精読していく過程で、英語表現・文法事項・文献の内容について質問するので、担当者はそれに回答する。
(16)授業の内容 予定	第1回：ガイダンス 第2回：構成素・名詞 第3回：動詞・形容詞・副詞・前置詞 第4回：その他の範疇 第5回：句の種類 第6回：定形節と非定形節 第7回：定形節の種類 第8回：これまでのまとめと復習 第9回：普遍文法 第10回：文法操作 第11回：文法原理 第12回：文法操作・原理の性質 第13回：文法構成（意味部門） 第14回：文法構成（音韻部門） 第15回：まとめと試験 ※授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	精読をするので、シラバスに記載された各回の授業の内容予定を参考とし、教科書（授業時にハンドアウトを配布する）の該当箇所を授業実施時までに予習し、授業実施後に復習を行ってください。（予習、復習は、最低でも各1時間程度行う必要があります。）
	言語学関連

(18)学問分野 1(主学問分野)	
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	授業時にハンドアウトを配布する。
(21)参考文献	Andrew Radford “Analyzing English Sentences” Cambridge University Press
(22)成績評価方法及び採点基準	授業での態度・回答の仕方（50%） 試験（50%）
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	学生による和訳・その内容等についての解説や質疑応答により進みます。
(25)留意点・予備知識	精読をするので、辞書や専門用語辞典を用いてしっかり予習してくること。
(26)オフィスアワー	金曜日 13:00 - 14:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	適宜お知らせします。
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	555
(2)区分番号	555
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	英語学講読II (Readings in English Linguistics II)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 5・6時限
(10)担当教員 (所属)	近藤亮一 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての 具体的到達目標	○英語の文献を正確に読めるようになるとともに、英語の文の構造と解釈に対して自分なりの分析を提案できるようになること (見通す力)
(15)授業の概要	生成文法理論に関する英語の文献を精読していく過程で、英語表現・文法事項・文献の内容について質問するので、担当者はそれに回答する。
(16)授業の内容 予定	<p>第1回：ガイダンス 第2回：言語能力 第3回：生得説 第4回：言語能力・言語運用 第5回：生得説を支持する証拠 第6回：媒介変数 第7回：空主語に関する媒介変数 第8回：これまでのまとめと復習 第9回：Wh移動に関する媒介変数 第10回：主要部の位置に関する媒介変数 第11回：媒介変数の複雑性 第12回：原理と媒介変数理論 第13回：言語習得と媒介変数 第14回：媒介変数の設定 第15回：まとめと試験</p> <p>※授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。</p>
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	精読をするので、シラバスに記載された各回の授業の内容予定を参考とし、教科書 (授業時にハンドアウトを配布する) の該当箇所を授業実施時までには予習し、授業実施後に復習を行ってください。(予習、復習は、最低でも各1時間程度行う必要があります。)
	言語学関連

(18)学問分野 1(主学問分野)	
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	授業時にハンドアウトを配布する。
(21)参考文献	Andrew Radford “Analyzing English Sentences” Cambridge University Press
(22)成績評価方法及び採点基準	授業での態度・回答の仕方（50%） 試験（50%）
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	学生による和訳・その内容等についての解説や質疑応答により進みます。
(25)留意点・予備知識	精読をするので、辞書や専門用語辞典を用いてしっかり予習してくること。
(26)オフィスアワー	月曜日 14:00 - 15:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	適宜お知らせします。
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	556
(2)区分番号	556
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	英語学特殊講義I (Synchronic and Diachronic Aspects of English I)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日 7・8時限
(10)担当教員(所属)	近藤亮一(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3~4
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○英語やその歴史的変化に関する知識を習得し、英語だけでなく言語一般の理解を深めること(見通す力)
(15)授業の概要	統語論の観点から英語の構文とその歴史的変化を概観する。
(16)授業の内容予定	<p>第1回：ガイダンス 第2回：節の構造 第3回：節における主語の必要性 第4回：節の構造の歴史的変化 第5回：動詞句の構造 第6回：動詞句における意味役割付与 第7回：動詞句の構造の歴史的変化 第8回：これまでのまとめと復習・中間試験 第9回：名詞句の構造 第10回：節の構造と名詞句の構造の類似性 第11回：名詞句の構造の歴史的変化 第12回：さまざまな移動現象 第13回：その他の句の構造 第14回：その他の句の構造の歴史的変化 第15回：まとめと試験</p> <p>※授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業実施後に復習を行ってください。(復習は、最低でも各2時間程度行う必要があります。)
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	歴史学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	授業時にハンドアウトを配布する。
(21)参考文献	

	<p>中村捷・金子義明・菊地朗「生成文法の新展開」(研究社) 中村捷・金子義明「英語の主要構文」(研究社) 中島平三編 [最新]英語構文事典 (大修館書店) 英語学・言語学に関する論文・学術雑誌</p>
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>授業での態度・回答の仕方 (50%) 試験 (中間・期末) (50%)</p>
(23)授業形式	<p>講義</p>
(24)授業形態・授業方法	<p>基本は講義形式です。その日の内容を議論や演習を通して検討することがあります。</p>
(25)留意点・予備知識	<p>特になし</p>
(26)オフィスアワー	<p>金曜日 13:00 - 14:00</p>
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<p>適宜お知らせします。</p>
(28)その他	<p>特になし</p>

教育学部

(1)整理番号	557
(2)区分番号	557
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	英語学特殊講義II (Synchronic and Diachronic Aspects of English II)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 9・10時限
(10)担当教員(所属)	近藤亮一(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3~4
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○英語やその歴史的变化に関する知識を習得し、英語だけでなく言語一般の理解を深めること(見通す力)
(15)授業の概要	統語論の観点から英語の構文とその歴史的变化を概観する。
(16)授業の内容予定	<p>第1回：ガイダンス 第2回：不定詞節の構造 第3回：不定詞節の主語 第4回：不定詞節の構造の変化 第5回：非定形節の構造 第6回：非定形節の主語 第7回：非定形節の構造の歴史的变化 第8回：これまでのまとめと復習・中間試験 第9回：主節のカートグラフィー 第10回：従属節のカートグラフィー 第11回：主節の歴史的变化に対するカートグラフィーからの考察 第12回：従属節の歴史的变化に対するカートグラフィーからの考察 第13回：動詞句のカートグラフィー 第14回：その他の句のカートグラフィー 第15回：まとめと試験</p> <p>※授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業実施後に復習を行ってください。(復習は、最低でも各2時間程度行う必要があります。)
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	歴史学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	授業時にハンドアウトを配布する。

(21)参考文献	中村捷・金子義明・菊地朗「生成文法の新展開」(研究社) 中村捷・金子義明「英語の主要構文」(研究社) 中島平三編 [最新]英語構文事典 (大修館書店) 英語学・言語学に関する論文・学術雑誌
(22)成績評価方法及び採点基準	授業での態度・回答の仕方 (50%) 試験 (中間・期末) (50%)
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	基本は講義形式です。その日の内容を議論や演習を通して検討することがあります。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	月曜日 14:00-15:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	適宜お知らせします。
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	558
(2)区分番号	558
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	英語学特殊講義III (Synchronic and Diachronic Aspects of English III)
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日 7・8時限
(10)担当教員(所属)	近藤亮一(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3~4
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○英語やその歴史的变化に関する知識を習得し、英語だけでなく言語一般の理解を深めること(見通す力)
(15)授業の概要	統語論の観点から英語の構文とその歴史的变化を概観する。
(16)授業の内容予定	<p>第1回：ガイダンス 第2回：節の構造 第3回：節における主語の必要性 第4回：節の構造の歴史的变化 第5回：動詞句の構造 第6回：動詞句における意味役割付与 第7回：動詞句の構造の歴史的变化 第8回：これまでのまとめと復習 第9回：名詞句の構造 第10回：節の構造と名詞句の構造の類似性 第11回：名詞句の構造の歴史的变化 第12回：さまざまな移動現象 第13回：その他の句の構造 第14回：その他の句の構造の歴史的变化 第15回：まとめ</p> <p>※授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業実施後に復習を行ってください。(復習は、最低でも各2時間程度行う必要があります。)
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	歴史学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	授業時にハンドアウトを配布する。
(21)参考文献	

	<p>中村捷・金子義明・菊地朗「生成文法の新展開」（研究社） 中村捷・金子義明「英語の主要構文」（研究社） 中島平三編「最新」英語構文事典（大修館書店） 英語学・言語学に関する論文・学術雑誌</p>
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>授業での態度・回答の仕方（50%） レポート（中間・期末）（50%）</p>
(23)授業形式	<p>講義</p>
(24)授業形態・授業方法	<p>基本は講義形式です。その日の内容を議論や演習を通して検討することがあります。</p>
(25)留意点・予備知識	<p>特になし</p>
(26)オフィスアワー	<p>金曜日13:00-14:00</p>
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<p>適宜お知らせします。</p>
(28)その他	<p>特になし</p>

教育学部

(1)整理番号	559
(2)区分番号	559
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	英語学特殊講義IV (Synchronic and Diachronic Aspects of English IV)
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 9・10時限
(10)担当教員(所属)	近藤亮一(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3~4
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○英語やその歴史的变化に関する知識を習得し、英語だけでなく言語一般の理解を深めること(見通す力)
(15)授業の概要	統語論の観点から英語の構文とその歴史的变化を概観する。
(16)授業の内容予定	<p>第1回：ガイダンス 第2回：不定詞節の構造 第3回：不定詞節の主語 第4回：不定詞節の構造の変化 第5回：非定形節の構造 第6回：非定形節の主語 第7回：非定形節の構造の歴史的变化 第8回：これまでのまとめと復習 第9回：主節のカートグラフィー 第10回：従属節のカートグラフィー 第11回：主節の歴史的变化に対するカートグラフィーからの考察 第12回：従属節の歴史的变化に対するカートグラフィーからの考察 第13回：動詞句のカートグラフィー 第14回：その他の句のカートグラフィー 第15回：まとめ</p> <p>※授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業実施後に復習を行ってください。(復習は、最低でも各2時間程度行う必要があります。)
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	歴史学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	授業時にハンドアウトを配布する。

(21)参考文献	中村捷・金子義明・菊地朗「生成文法の新展開」(研究社) 中村捷・金子義明「英語の主要構文」(研究社) 中島平三編 [最新]英語構文事典 (大修館書店) 英語学・言語学に関する論文・学術雑誌
(22)成績評価方法及び採点基準	授業での態度・回答の仕方 (50%) レポート (中間・期末) (50%)
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	基本は講義形式です。その日の内容を議論や演習を通して検討することがあります。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	月曜日 14:00-15:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	適宜お知らせします。
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	560
(2)区分番号	560
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	英語音声学 (English Phonetics)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等 (小・英語サブコース)、初等中等 (中コース英語)・特支 (中コース英語) : 必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 7・8時限
(10)担当教員 (所属)	野呂徳治 (教育学部)
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル1
(13)対応する C P / D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○英語音声の歴史的変遷及び国際共通語としての英語の多様な音声体系について理解すること (見通す力) ○音声学の基礎理論を実践的に学ぶことを通して、適正な英語の発音を身につけること (解決する力) ○日本人を対象とした英語発音の効果的な指導方法についても理解を深めること (学び続ける力)
(15)授業の概要	英語音声の歴史的変遷及び国際共通語としての英語の多様な音声体系について学ぶと共に、音声学の基礎理論を踏まえ、英語発音の特徴について特に日本語との対比を通して学ぶ。さらに、日本人が苦手とする英語音についても自ら発音練習を通して認識し、効果的な英語発音の指導方法について考察する。
(16)授業の内容予定	第1回：授業ガイダンス、世界中で使われている英語 (World Englishes) の音声的特徴 第2回：英語音声の歴史的変遷と現代英語の標準発音 第3回：英語のつづりと発音の関係 第4回：調音点と調音様式 第5回：英語の子音の発音のメカニズムと発音練習 (閉鎖音) 第6回：英語の子音の発音のメカニズムと発音練習 (摩擦音) 第7回：英語の子音の発音のメカニズムと発音練習 (破擦音・鼻音) 第8回：英語の子音の発音のメカニズムと発音練習 (側音・半母音) 第9回：英語の母音の発音のメカニズムと発音練習 (短母音)、中間試験 (理論及び発音技能) 第10回：英語の母音の発音のメカニズムと発音練習 (長母音) 第11回：英語の母音の発音のメカニズムと発音練習 (二重母音) 第12回：英語の母音の発音のメカニズムと発音練習 (弱母音) 第13回：英語の超分節音素のメカニズムと発音練習 (アクセント) 第14回：英語の超分節音素のメカニズムと発音練習 (リズム) 第15回：英語の超分節音素のメカニズムと発音練習 (イントネーション) 定期試験 (理論及び発音技能)

(17)準備学習 (予習・復習)等の内容	英語発音のメカニズムについて教科書を参照しながら理解を深め、その上で、実際に発音モデルにならって発音練習に取り組む。また、発音記号小テストに備えて発音記号表記の練習をおこなうとともに、英語発音の際の口腔図や母音・子音表の書写等の課題に取り組む。
(18)学問分野 1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験 のある教員に よる授業科目 について	-
(20)教材・教科書	竹林滋・清水あつ子・斎藤弘子「改訂新版初級英語音声学」(大修館書店)
(21)参考文献	授業中に適宜指示する。
(22)成績評価 方法及び採点 基準	授業中の学習への取り組み、課題、試験(中間試験・期末試験)などを基に総合的に評価する。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義・演習
(25)留意点・ 予備知識	将来、英語教員として適正な発音モデルを学習者に提示できるよう、授業時はもちろんのこと、授業外でも自らの発音技能の向上に努めること。
(26)オフィス アワー	水曜日5・6時限
(27)Eメール アドレス・HP アドレス	Eメールアドレス： norotoku@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	授業では演習活動として行う発音練習は、本科目の中核的な学習活動であり、発音技能を向上させるためには必要不可欠なものであるため、全身全霊を傾けて取り組むこと。

教育学部

(1)整理番号	561
(2)区分番号	561
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	応用言語学 (Applied Linguistics)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日 5・6時限
(10)担当教員(所 属)	野呂徳治(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベ ル)	レベル3
(13)対応するC P/D P	CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○応用言語学及び第二言語習得研究の学問上の目的、内容、方法について理解を深めること(学び続ける力)
(15)授業の概要	応用言語学及び第二言語習得研究の学問領域を概観し、そのうち、特に、第二言語習得研究の諸理論及びその分野で得られた知見を考察し、第二言語(外国語)の習得・学習について理解を深める。
(16)授業の内容予 定	1回目: 授業ガイダンス, 理論言語学と応用言語学 2回目: 応用言語学の諸領域の概観① 3回目: 応用言語学の諸領域の概観② 4回目: 母語習得と第二言語習得① 5回目: 母語習得と第二言語習得② 6回目: 第二言語習得研究の目的・内容・方法① 7回目: 第二言語習得研究の目的・内容・方法② 8回目: 中間試験とこれまでの振り返り 9回目: 第二言語習得研究の主要理論① 10回目: 第二言語習得研究の主要理論② 11回目: 第二言語習得研究の主要理論③ 12回目: 第二言語習得研究の主要理論④ 13回目: 第二言語習得研究における研究課題① 14回目: 第二言語習得研究における研究課題② 15回目: 第二言語習得研究における研究課題③ 16回目: 期末試験 なお、授業の進行状況等により上記の授業内容が異なる場合がある。
(17)準備学習(予 習・復習)等の内 容	第二言語習得研究について教科書・資料等を参照しながら理解を深めるとともに、授業で課される小レポートの課題に取り組む。
(18)学問分野1(主 学問分野)	言語学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	最初の授業時に指示する。
(21)参考文献	最初の授業時に指示する。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業中の学習への取り組み、課題、試験（中間試験・期末試験）などを基に総合的に評価する。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義・演習
(25)留意点・予備知識	外国語教育のあり方について問題意識を持って授業に参加することが求められる。
(26)オフィスアワー	水曜日5・6時限
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	Eメールアドレス： norotoku@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特にありません。

教育学部

(1)整理番号	562
(2)区分番号	562
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	英米文学史I (History of English / American Literature I)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース英語）・特支（中コース英語）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 7・8時限
(10)担当教員（所 属）	土屋陽子（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベ ル）	レベル2
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具 体的到達目標	○アメリカ文学分野の作者、作品、文学用語等についての見聞を広げ、自らの興味をもって作品を「読み」、分析する力をつけること（見通す力） ○各時代の特徴を理解し、多様性を呈したアメリカについて文学を通して傍観すること（学び続ける力）
(15)授業の概要	植民地時代から現代に至るまでのアメリカ文学の変遷を、主要な作家を中心に、アメリカ社会の変遷と照らし合わせながら見ていく。授業は教科書の他、配布するプリントを中心に進めていく。 毎回授業の最後にレスポンスペーパーを提出してもらう予定である。
(16)授業の内容予定	（実際の進度は予定と異なる場合もあります。） 第1回 オリエンテーション アメリカの国土と人 アメリカ文学の様相 第2回 植民地の文学 （ピューリタン文学、理性の文学：アン・ブラッドストリート/ ベンジャミン・フランクリン） 第3回 独立から南北戦争（チャールズ・ブロックデン・ブラウン/ ワシントン・アービング） 第4回 独立から南北戦争（ジェイムズ・フェニモア・クーパー） 第5回 独立から南北戦争（小説：エドガー・アラン・ポー/ ナサニエル・ホーソーン/ ハーマン・メルヴィル） 第6回 独立から南北戦争（詩：ヘンリー・ウォズワス・ロングフェロー/ ウォルト・ホイットマン/ エミリー・ディキンソン） 第7回 南北戦争から第一次世界大戦：リアリズムと自然主義の文学 （「金メッキ時代」の文化、マーク・トウェイン/ ウィリアム・ディーン・ハウエル） 第8回 リアリズムと自然主義 （ヘンリー・ジェイムズ/ スティーブン・クレイン/ フランク・ノリス） 第9回 自然主義（セオドア・ドライサー） 女性作家（ケイト・ショパン、ヴィラ・キャザー、イーディス・ウォートン） 第10回 第一次世界大戦から第二次世界大戦まで（繁栄と解放の文化・シャーウッド・アンダソン）

	第11回 第一次世界大戦から第二次世界大戦まで（ロストジェネレーション：フィッツジェラルド、ヘミングウェイ） 第12回 第一次世界大戦から第二次世界大戦まで（ロストジェネレーション：フォークナー、ドス・パソス） 第13回 第二次世界大戦から冷戦（20年代の不況文学） 第14回 第二次世界大戦から冷戦（ポストモダンとマイノリティ） 第15回 冷戦以降の文学
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	授業で使用するプリントはあらかじめ配布するので、プリントで取り上げられている項目を各自、1時間程度下調べをしてから授業に参加するようにしてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	文学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	諏訪部浩一編『アメリカ文学入門』三修社
(21)参考文献	プリントを配布します。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（授業参加度、レスポンスペーパーの提出を含む）40% 期末レポート 60%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	教員による講義が中心となります。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	水曜日12:00-14:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	初回授業にて提示します。
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	563
(2)区分番号	563
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	英米文学史II (History of English / American Literature II)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日 3・4時限
(10)担当教員(所属)	土屋陽子(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具 体的到達目標	○英文学分野の、作者や作品、文学用語等についての知識を身につけること(見通す力) ○各時代の特徴を理解し、詩・演劇・散文の流れを歴史的に捉える力をつけること(学び続ける力)
(15)授業の概要	古英語時代からの英文学の流れを概説する。授業は教科書の他に配布するプリントを中心に行う。
(16)授業の内容予定	(実際の進度は予定と異なる可能性もあります) 第1回 イントロダクション 古英語の時代 第2回 古英語の時代(チョーサー) 第3回 16世紀の文学(背景) 第4回 16世紀の文学(シェイクスピア) 第5回 17世紀の文学(背景) 第6回 17世紀の文学(ミルトン、ドライデン、ポウプ) 第7回 18世紀の文学(背景) 第8回 18世紀の文学(デフォー、スウィフト) 第9回 ロマン主義文学(背景) 第10回 ロマン主義文学(ワーズワス) 第11回 ロマン主義文学(シェリー、キーツ、オースティン) テニソンの時代の文学・背景 第12回 ヴィクトリア朝時代の文学(背景) 第13回 ヴィクトリア朝時代の文学 第14回 20世紀前半の文学 第15回 20世紀前半の文学(児童文学)まとめ アメリカ文学との比較
(17)準備学習(予習・ 復習)等の内容	授業で使用するプリントはあらかじめ配布するので、プリントに書かれた項目について、各自1時間程度下調べをしてから授業に参加するようにしてください。
(18)学問分野1(主学問 分野)	文学関連
(18)学問分野2(副学問 分野)	-

(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	石塚久朗編『イギリス文学入門』（三修社）
(21)参考文献	プリントを配布します。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業参加度40% 期末レポート60%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	教員による講義が中心となります。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	水曜日12:00-14:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	初回授業にて提示します。
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	566
(2)区分番号	566
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	英米文学講読I (Readings in English / American Literature I)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（小・英語サブコース），初等中等（中コース英語）・特支 （中コース英語）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日 3・4時限
(10)担当教員（所 属）	土屋陽子（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベ ル）	レベル2
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○辞書引きと正確なリーディングを行うことにより、文学を深く読む力 と、英語教師に必要な英語力を養うこと（見通す力・学び続ける力） ○文学作品の分析力・論理の構築力・発表力を身につけること（解決す る力）
(15)授業の概要	・19世紀アメリカ文学を代表する作家によって書かれたアメリカの短編 作品を取り上げ、輪読形式で精読する。一作品終了ごとに作品のテーマ 等についてディスカッションを行う。
(16)授業の内容予 定	（実際の進度は予定と異なる可能性もあります） 第1回 授業紹介 作家と作品について 第2回 Young Goodman Brown (Hawthorne)① 第3回 Young Goodman Brown ② 第4回 Young Goodman Brown ③ 第5回 Young Goodman Brown ④ 第6回 Young Goodman Brownまとめ、The Tell-Tale Heart (Poe)① 第7回 The Tell-Tale Heart ② 第8回 The Tell-Tale Heart まとめ、Jim Smiley and His Jumping Frog (Twain)① 第9回 Jim Smiley ② 第10回 Jim Smileyまとめ、The Real Right Thing (H. James)① 第11回 The Real Right Thing② 第12回 The Real Right Thing③ 第13回 The Real Right Thing④ 第14回 The Real Right Thingまとめ 第15回 まとめ、期末レポートについて
(17)準備学習（予 習・復習）等の内容	担当者は正確な訳ができるよう、辞書を使って準備をしておくこと。 担当以外の受講者にも随時、作品の内容や、英文の構造、意味などにつ いて意見をもとめるので、各自作品を事前に読み、内容を把握しておく こと。（授業準備には2時間程度の時間を要する）
(18)学問分野1(主 学問分野)	文学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	The New Penguin Book of American Short Stories: from Washington Irving to Lydia Davis (Penguin Classics)
(21)参考文献	適宜紹介する
(22)成績評価方法及び採点基準	授業参加度（担当訳、ディスカッション参加度含）40% 期末レポート60%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	毎回担当を決め、教員による授業で扱う文学作品についての説明の他は、作品を輪読していくため受講者の訳発表が中心となる。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	水曜日12:00-14:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	初回授業にて提示する
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	567
(2)区分番号	567
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	英米文学講読II (Readings in English / American Literature II)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 3・4時限
(10)担当教員(所 属)	土屋陽子(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベ ル)	レベル2
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○辞書引きと正確なリーディングを行うことにより、文学を深く読む力 と、英語教師に必要な英語力を養うこと(見通す力・学び続ける力) ○文学作品の分析力・論理の構築力・発表力を身につけること(解決する 力)
(15)授業の概要	・20前半におけるアメリカ文学を代表する作家によって書かれたアメリカ の短編作品を取り上げ、輪読形式で精読する。一作品終了ごとに作品のテ ーマ等についてディスカッションを行う。
(16)授業の内容予 定	(実際の進度は予定と異なる可能性もあります) 第1回 授業紹介 作家と作品について 第2回 The Untold Lie (Anderson)① 第3回 The Untold Lie ② 第4回 The Untold Lieまとめ、Out of Season (Hemingway)① 第5回 Out of Season ② 第6回 Out of Seasonまとめ、Atrophy (Wharton)① 第7回 Atrophy ② 第8回 Atrophy ③ 第9回 Atrophy ④ 第10回 Atrophyまとめ、The Lost Decade (Fitzgerald)① 第11回 The Lost Decade② 第12回 The Lost Decadeまとめ、Now You Cookin' with Gas (Hurston)① 第13回 Now You Cookin' with Gas ② 第14回 Now You Cookin' with Gas ③ 第15回 Now You Cookin' with Gas まとめ、期末レポートについて
(17)準備学習(予 習・復習)等の内 容	担当者は正確な訳ができるよう、辞書を使って準備をしておくこと。 担当以外の受講者にも随時、作品の内容や、英文の構造、意味などについ て意見をもとめるので、各自作品を事前に読み、内容を把握しておくこ と。(授業準備には2時間程度の時間を要する)
(18)学問分野1(主 学問分野)	文学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	The New Penguin Book of American Short Stories: from Washington Irving to Lydia Davis (Penguin Classics)
(21)参考文献	適宜紹介する
(22)成績評価方法及び採点基準	授業参加度（担当訳、ディスカッション参加度含）40% 期末レポート60%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	毎回担当を決め、教員による授業で扱う文学作品についての説明の他は、作品を輪読していくため受講者の訳発表が中心となる。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	水曜日12:00-14:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	初回授業にて提示する
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	568
(2)区分番号	568
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	英米文学演習I (English / American Literature, Seminar I)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース英語サブコース）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 5・6時限
(10)担当教員 (所属)	土屋陽子（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○比較的長いアメリカ文学作品を原書で読むことで、文学を深く読む力と、英語教師に必要な英語力を養うこと（見通す力・学び続ける力） ○文学作品の分析力・論理の構築力・発表力を身につけること（解決する力）
(15)授業の概要	毎回担当者を決め、粗筋、留意点、疑問点をまとめたハンドアウトを用意し、ディスカッションの土台となる発表を行ってもらい、担当以外の受講者は毎回作品を読んだ際に生じた疑問点を5つ箇条書きにして用意し、クラスでのディスカッションに参加することが求められる。
(16)授業の内容予定	（実際の進度は予定と異なる可能性もあります） 第1回 Introduction 1920年代のアメリカとフィッツジェラルドについて 第2回 Gatsby Chap1 第3回 Gatsby Chap2 第4回 Gatsby Chap3 第5回 Gatsby Chap4 第6回 Gatsby Chap5 第7回 Gatsby Chap6 第8回 Gatsby Chap7 ① 第9回 Gatsby Chap7 ② 第10回 Gatsby Chap 8 第11回 Gatsby Chap 9 第12回 映画鑑賞：『華麗なるギャツビー』（1974年） 第13回 映画鑑賞：『グレート・ギャツビー』（2013年） 第14回 ディスカッション、学期末レポートについて 第15回 翻訳テスト、まとめ
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	毎回授業内でディスカッションを行うので、担当者以外の受講者もあらかじめ該当箇所を読んできて各自の意見をまとめておくことが求められる。（授業準備には2時間程度の時間を要する）

(18)学問分野 1(主学問分野)	文学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	F. Scott Fitzgerald The Great Gatsby (Wisehouse Classics)
(21)参考文献	適宜紹介する
(22)成績評価方法及び採点基準	授業参加度（出欠席だけでなくディスカッションでの発言等含める） 20% 授業内発表 30% 期末レポート及び翻訳テスト 50%
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	担当学生の発表を中心にディスカッションを行う
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	水曜日12:00-14:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	初回授業にて提示する
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	569
(2)区分番号	569
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	英米文学演習II (English / American Literature, Seminar II)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 3・4時限
(10)担当教員 (所属)	土屋陽子 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル3
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○比較的長いアメリカ文学作品を原書で読むことで、文学を深く読む力と、 英語教師に必要な英語力を養うこと (見通す力・学び続ける力) ○文学作品の分析力・論理の構築力・発表力を身につけること (解決する 力)
(15)授業の概要	毎回担当者を決め、粗筋、留意点、疑問点をまとめたハンドアウトを用意 し、ディスカッションの土台となる発表を行ってもらい。担当以外の受講者 は毎回作品を読んだ際に生じた疑問点を5つ箇条書きにして用意し、クラスで のディスカッションに参加することが求められる。
(16)授業の内容 予定	(実際の進度は予定と異なる可能性もあります) 第1回 インTRODakション 作品と作家について 第2回 Volume One Letter I-IV、Chapter1 第3回 One-Chapter 2, 3 第4回 One-Chapter 4, 5 第5回 One-Chapter 6, 7 第6回 One-Chapter 8, Volume Two Chapter1 第7回 Two-Chapter2, 3 第8回 Two-Chapter4, 5 第9回 Two-Chapter6, 7 第10回 Two-Chapter 8, 9 第11回 Volume Three Chapter1, 2 第12回 Three-Chapter 3, 4 第13回 Three-Chapter 5, 6 第14回 Three-Chapter7 第15回 まとめ 期末レポートについて
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	毎回授業内でディスカッションを行うので、担当者以外の受講者もあらかじめ 該当箇所を読んできて各自の意見をまとめておくことが求められる (授業 準備には2時間程度の時間を要する)

(18)学問分野 1(主学問分野)	文学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Mary Shelley Frankenstein (Penguin Classics)
(21)参考文献	適宜紹介する
(22)成績評価方法及び採点基準	授業参加度（出欠席だけでなくディスカッションでの発言等含める）20% 授業内発表 30% 期末レポート 50%
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	担当学生の発表を中心にディスカッションを行う
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	水曜日12:00-14:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	初回授業にて提示する
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	570
(2)区分番号	570
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	英米文学特殊講義I (English / American Literature, Special Course I)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日 1・2時限
(10)担当教員 (所属)	土屋陽子 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル3
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○文学作品分析についての初歩的な知識と方法を理解すること (見通す力) ○様々な英米文学作品を英語で読み、それらの作品を批評的観点から分析する力を身につけること (解決する力・学び続ける力)
(15)授業の概要	英米文学研究に必要な用語や主義主張について理解し、出来るだけ多くの英米文学作品を特定のテーマから読み、分析する。テーマごとに一つの作品を原文で読む予定であるが、作品ごとに担当者を決めて担当者の発表をもとにディスカッションを行う。
(16)授業の内容 予定	(実際の進度は予定と異なる可能性もあります) 第1回 Introduction 文学とは何か 第2回 テクスト解釈 (Fictionを読むということ、plot) 第3回 テクスト解釈 (plot分析、Narration and point of View) 第4回 テクスト解釈 (Narration and Point of View分析、Character) 第5回 テクスト解釈 (Character分析) 第6回 テクスト解釈 (Character解釈、Setting) 第7回 テクスト解釈 (Setting分析) 第8回 テクスト解釈 (Setting解釈、Symbol) 第9回 テクスト解釈 (Symbol分析) 第10回 テクスト解釈 (Symbol解釈、Theme) 第11回 テクスト解釈 (Theme分析) 第12回 テクスト解釈 (Cultural and Historical Context) 第13回 詩の解釈 第14回 作品テーマ研究 (women) 第15回 作品テーマ研究 (other fictions) レポートについて
(17)準備学習 (予習・復習)等 の内容	各回で扱う文学作品は事前にプリントを配布するので、各自事前に読み、意見をまとめておくことが求められる。(授業準備には2時間程度の時間を要する)
	文学関連

(18)学問分野 1(主学問分野)	
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	プリントを配布する。
(21)参考文献	英米文学史 I、II で使用した教科書
(22)成績評価方法及び採点基準	授業参加度 20% 授業内発表 40% 期末レポート 40%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	授業内容の「解釈」の部分を教員による講義、「分析」の部分を担当受講生による発表を中心としたディスカッション形式で行う。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	水曜日12:00-14:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	初回授業にて提示します。
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	571
(2)区分番号	571
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	英米文学特殊講義II (English / American Literature, Special Course II)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 7・8時限
(10)担当教員(所属)	土屋陽子(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2~3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	<p>○アメリカにおけるポピュラー音楽の歴史の概要を学び大衆文化からアメリカ社会を概観すること(見通す力)</p> <p>○音楽を形成する社会的・政治的背景を理解すること(学び続ける力)</p> <p>○アメリカの音楽史について英語で書かれた文献を読むことで、英語読解力を高めること(解決する力)</p>
(15)授業の概要	<p>アメリカにおけるポピュラー音楽の歴史を社会や政治との関わりについても言及しながらみていく。</p> <p>毎週一章あるいは半章ずつ、担当者を決めて進めていく。(準備には1時間程度の時間を)</p>
(16)授業の内容予定	<p>(実際の進度・内容は予定と異なる可能性もあります)</p> <p>第1回：イントロダクション：アメリカ文化におけるポピュラー音楽</p> <p>第2回：アメリカン・ルーツミュージックの誕生</p> <p>第3回：19世紀と20世紀初頭のポピュラー音楽</p> <p>第4回：ブルースの誕生</p> <p>第5回：レイス・ミュージック</p> <p>第6回：ジャズとニューオーリンズ</p> <p>第7回：1910~30年代のダンス音楽とジャズ ヒルビリー・ミュージック</p> <p>第8回：ティン・パン・アレー</p> <p>第9回：スイング・ミュージックと戦前・戦中のアメリカ文化</p> <p>第10回：カントリーとフォーク 第11回：戦後のポピュラー音楽(1)：ビッグ・シンガーの時代</p> <p>第12回：1930~40年代のカントリー音楽</p> <p>第13回：戦後のポピュラー音楽(2)：リズム・アンド・ブルースとカントリー・アンド・ウェスタン</p> <p>第14回：ロックンロールと1950年代の音楽産業 第14回：ロックンロールとリズム・アンド・ブルース、カントリー・ミュージックとの関連</p> <p>第15回：まとめ、作品分析と発表</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>担当者だけではなく、受講者は毎回該当箇所を読んで予習をした上で、授業に臨むこと。</p> <p>担当者は教科書を読むだけではなく、書かれた事項について各自詳</p>

	しく調べたうえで授業に臨むことが求められる。
(18)学問分野1(主学問分野)	文学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	文化人類学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Starr, Larry and Christopher Waterman. American Popular Music: From Minstrelsy to MTV, 5th ed. (Oxford University Press)
(21)参考文献	里中哲彦『はじめてのアメリカ音楽史』（ちくま新書）
(22)成績評価方法及び採点基準	授業参加度20% 授業内発表30% 期末レポート（または発表）50%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	授業は教員からの講義に加え、担当者の発表を中心に進める。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	水曜日 12:00-14:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	初回授業にて提示する
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	572
(2)区分番号	572
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	英米文学特殊講義III (English / American Literature, Special Course III)
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日 1・2時限
(10)担当教員 (所属)	土屋陽子 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル3
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○文学作品分析についての初歩的な知識と方法を理解すること (見通す力) ○様々な英米文学作品を英語で読み、それらの作品を批評的観点から分析する力を身につけること (解決する力・学び続ける力)
(15)授業の概要	英米文学研究に必要な用語や主義主張について理解し、出来るだけ多くの英米文学作品を特定のテーマから読み、分析する。テーマごとに一つの作品を原文で読む予定であるが、作品ごとに担当者を決めて担当者の発表をもとにディスカッションを行う。
(16)授業の内容 予定	(実際の進度は予定と異なる可能性もあります) 第1回 Introduction 文学とは何か 第2回 テクスト解釈 (Fictionを読むということ、plot) 第3回 テクスト解釈 (plot分析、Narration and point of View) 第4回 テクスト解釈 (Narration and Point of View分析、Character) 第5回 テクスト解釈 (Character分析) 第6回 テクスト解釈 (Character解釈、Setting) 第7回 テクスト解釈 (Setting分析) 第8回 テクスト解釈 (Setting解釈、Symbol) 第9回 テクスト解釈 (Symbol分析) 第10回 テクスト解釈 (Symbol解釈、Theme) 第11回 テクスト解釈 (Theme分析) 第12回 テクスト解釈 (Cultural and Historical Context) 第13回 詩の解釈 第14回 作品テーマ研究 (women) 第15回 作品テーマ研究 (other fictions) レポートについて
(17)準備学習 (予習・復習)等 の内容	各回で扱う文学作品は事前にプリントを配布するので、各自事前に読み、意見をまとめておくことが求められる。(授業準備には2時間程度の時間を要する)
	文学関連

(18)学問分野 1(主学問分野)	
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	プリントを配布する。
(21)参考文献	英米文学史Ⅰ、Ⅱで使用した教科書
(22)成績評価方法及び採点基準	授業参加度 20% 授業内発表 40% 期末レポート 40%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	授業内容の「解釈」の部分を教員による講義、「分析」の部分を担当受講生による発表を中心としたディスカッション形式で行う。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	水曜日 12:00-14:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	初回授業にて提示します。
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	573
(2)区分番号	573
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	英米文学特殊講義IV (English / American Literature, Special Course IV)
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 7・8時限
(10)担当教員(所属)	土屋陽子(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2~3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	○アメリカにおけるポピュラー音楽の歴史の概要を学び大衆文化からアメリカ社会を概観すること(見通す力) ○音楽を形成する社会的・政治的背景を理解すること(学び続ける力) ○アメリカの音楽史について英語で書かれた文献を読むことで、英語読解力を高めること(解決する力)
(15)授業の概要	アメリカにおけるポピュラー音楽の歴史を社会や政治との関わりについても言及しながらみていく。 毎週一章あるいは半章ずつ、担当者を決めて進めていく。
(16)授業の内容予定	(実際の進度・内容は予定と異なる可能性もあります) 第1回: イントロダクション: アメリカ文化におけるポピュラー音楽 第2回: アメリカン・ルーツミュージックの誕生 第3回: 19世紀と20世紀初頭のポピュラー音楽 第4回: ブルースの誕生 第5回: レイス・ミュージック 第6回: ジャズとニューオーリンズ 第7回: 1910~30年代のダンス音楽とジャズ ヒルビリー・ミュージック 第8回: ティン・パン・アレー 第9回: スイング・ミュージックと戦前・戦中のアメリカ文化 第10回: カントリーとフォーク 第11回: 戦後のポピュラー音楽(1): ビッグ・シンガーの時代 第12回: 1930~40年代のカントリー音楽 第13回: 戦後のポピュラー音楽(2): リズム・アンド・ブルースとカントリー・アンド・ウェスタン 第14回: ロックンロールと1950年代の音楽産業 第14回: ロックンロールとリズム・アンド・ブルース、カントリー・ミュージックとの関連 第15回: まとめ、作品分析と発表
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	担当者だけではなく、受講者は毎回該当箇所を読んで予習をした上で、授業に臨むこと。 担当者は教科書を読むだけではなく、書かれた事項について各自詳しく調べたうえで授業に臨むことが求められる。(授業準備には1時間程度の時間を要する)

(18)学問分野1(主学問分野)	文学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	文化人類学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Starr, Larry and Christopher Waterman. American Popular Music: From Minstrelsy to MTV, 5th ed. (Oxford University Press)
(21)参考文献	里中哲彦『はじめてのアメリカ音楽史』（ちくま新書）
(22)成績評価方法及び採点基準	授業参加度20% 授業内発表30% 期末レポート（または発表）50%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	授業は教員からの講義に加え、担当者の発表を中心に進める。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	水曜日 12:00-14:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	初回授業にて提示する
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	574
(2)区分番号	574
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	コミュニケーションIA (Communication IA)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等（小・英語サブコース）、初等中等（中コース英語）・特支（中コース英語）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	Tuesday 2nd Period
(10)担当教員 (所属)	Anthony Rausch (Department of English)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル1
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての の具体的到達目 標	The objective of this course is to ensure that students have a fundamental understanding of English Grammar（見通す力）and develop approaches to help learners also gain such understanding.（CP・DP 3 学び続ける力）
(15)授業の概要	The course follows the syllabus of the textbook (Focus on Grammar Level 4) and outlines the grammar. This is followed by practice activities that are valuable both for students learning as well as developing teacher consciousness.
(16)授業の内容 予定	To cover the material of the textbook in an effective manner such that students have mastered the content. Class 1: Simple Present and Present Progressive Class 2: Simple Past and Past Progressive Class 3: Simple Past, Present Perfect and Present Perfect Progressive Class 4: Furuta and Future Progressive Class 5: Negative Yes/No Questions and Tag Questions Class 6: Additions and Responses: So, Too, Neither, Not either, But Class 7: Gerunds and Infinitives Class 8: Make, Have, Let, Help, Get Class 9: Phrasal Verbs Class 10: Adjective Clauses with Subject Relative Pronouns Class 11: Adjective Clauses with Object Relative Pronouns Class 12: Modals and Similar Expressions Class 13: Advisability in the Past Class 14: Review Class 15: Review Class 16: Test
	As language is highly cumulative, students are required to do homework, with equal components of review and pre-study.

(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	
(18)学問分野 1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある 教員による授業科目 について	-
(20)教材・教科書	Focus on Grammar Level 4
(21)参考文献	Focus on Grammar Level 4 Workbook
(22)成績評価方法及び 採点基準	Grades will be based on attendance and active participation, quizzes and tests.
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	The teaching will be based on a class reading of the textbook together with feedback on the text practice activities.
(25)留意点・予備知識	Attend class each week and participate actively so you don't fall behind.
(26)オフィスアワー	Everyday 11:50 to 12:40
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	asrausch@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	nothing in particular

教育学部

(1)整理番号	575
(2)区分番号	575
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	コミュニケーションIB (Communication IB)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等（中コース英語）・特支（中コース英語）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	Tuesday 2nd Period
(10)担当教員 (所属)	Anthony Rausch (Department of English)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル1
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	The objective of this course is to ensure that students have a fundamental understanding of English Grammar（見通す力） and develop approaches to help learners also gain such understanding.（CP・DP 3 学び続ける力）
(15)授業の概要	The follows the syllabus of the textbook (Focus on Grammar Level 4) and outlines the grammar. This is followed by practice activities that are valuable both for students learning as well as developing teacher consciousness.
(16)授業の内容予定	To cover the material of the textbook in an effective manner such that students have mastered the content. Class 1: The Passive: Overview Class 2: The Passive with Modals and Similar Expressions Class 3: The Passive Causative Class 4: Present Real Conditionals Class 5: Future Real Conditionals Class 6: Present and Future Unreal Conditionals Class 7: Past Unreal Conditionals Class 8: Direct and Indirect Speech Class 9: Tense Changes in Indirect Speech Class 10: Indirect Questions, Commands, Advice, Requests, Invitations Class 11: Indirect Questions Class 12: Embedded Questions Class 13: Review Class 14: Whole Course Review Class 15: Whole Course Review Class 16: Test
	As language is highly cumulative, students are required to do homework, with equal components of review and pre-study.

(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	
(18)学問分野 1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある 教員による授業科目 について	-
(20)教材・教科書	Focus on Grammar Level 4
(21)参考文献	Focus on Grammar Level 4 Workbook
(22)成績評価方法及び採 点基準	Grades will be based on attendance and activity participation, quizzes and tests.
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	The teaching will be based on a class reading of the textbook together with feedback on the text practice activities
(25)留意点・予備知識	Attend every class and participate actively so as not to fall behind.
(26)オフィスアワー	Everyday 11:50 to 12:40
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	asrausch@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	nothing in particular

教育学部

(1)整理番号	576
(2)区分番号	576
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	コミュニケーションIIA (Communication IIA)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース英語）・特支（中コース英語）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 7・8時限
(10)担当教員 (所属)	荒田 弘美（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての 具体的到達目標	○パラグラフのトピックを見つけ、メインアイデアを探し、因果関係を探るといったリーディングスキルをのぼすこと（見通す力） ○ディスカッションを通してコミュニケーションスキルを高めること（見通す力）
(15)授業の概要	多様なトピックをカバーし、基本語彙や文法の学習からユニットの理解を深める。音読演習、小グループによる質疑応答演習。クリティカルシンキングを取り入れることで、語学のレベルにかかわらず批判的思考力の習得を促進する。
(16)授業の内容 予定	第1回 Orientation Unit 1 The News Media 第2回 Unit 1 Skills and Strategies 2 Finding Main Ideas Critical Thinking 第3回 Unit 1 Reading 3 Citizen Journalism Small Group Discussion 第4回 Making Connections Critical Thinking 第5回 Review Unit 1 Small Group Discussion 第6回 Unit 2 Reading 1 Education Education Around the World 第7回 Unit 2 Reading 2 Tesing in Education Small Group Discussion 第8回 Unit 3 Reading 3 Alternative Educaion Critical Thinking/Group Discussion 第9回 Quiz 1 Unit 1 ~ 3 & Review 第10回 Unit 3 Reading 2 The Workforce of the Twenty-First Century 第11回 Unit 3 Reading 3 Communication Technology in Business Group Discussion 第12回 Unit 3 Critical Thinking Are humans really damaging the environment? 第13回 Presentation (The first half) 第14回 Presentation (The second half) 第15回 Review 第16回 Final Examination

(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	・各回の授業終了時に復習する点、次回までに予習する点についてお知らせします。(予習・復習は最低でも各1時間行う必要があります。)
(18)学問分野 1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある 教員による 授業科目につ いて	-
(20)教材・教科 書	Making CONNECTIONS 2 Skills and Strategies for Academic Reading
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方 法及び採点基準	出席および授業への参加度20% 小テスト30% 期末試験30% ディスカッション20%
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・ 授業方法	テキストに沿って進めていきますが、語彙力だけでなく、クリティカルシンキングを伸ばしていくようにパートナーや小グループで意見交換を行います。
(25)留意点・予 備知識	特になし
(26)オフィスア ワー	なし
(27)Eメールア ドレス・HPアド レス	mcharata@yahoo.co.jp
(28)その他	窓口教員 : Anthony Rausch (asrausch@hirosaki-u.ac.jp)

教育学部

(1)整理番号	577
(2)区分番号	577
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	コミュニケーションIIB (Communication IIB)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（中コース英語サブコース）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日 5・6時限
(10)担当教員 (所属)	荒田 弘美（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての 具体的到達目標	○パラグラフのトピックを見つけ、メインアイデアを探し、因果関係を探るといったリーディングスキルをのばすこと（見通す力） ○ディスカッションを通してコミュニケーションスキルを高めること（見通す力）
(15)授業の概要	多様なトピックをカバーし、基本語彙や文法の学習からユニットの理解を深める。音読演習、小グループによる質疑応答演習。クリティカルシンキングを取り入れることで、語学のレベルにかかわらず批判的思考力の習得を促進する。
(16)授業の内容 予定	第1回 Unit 4 Reading 1 Population Trends 第2回 Unit 4 Reading 2 Global Migration Small Group Discussion 第3回 Unit 4 Reading 4 Challenges Facing the World's Cities 第4回 Making Connections Critical Thinking 第5回 Review Unit 4 Small Group Discussion 第6回 Unit 5 Design in Everyday Life Talk about the objects we own. 第7回 Unit 5 Reading 3 The Design of Living Spaces Positive/Negative Energy 第8回 Unit 5 Reading 4 Fashion Bottom-Up / Top-Down Fashion 第9回 Quiz 1 Units 4-5 & Review 第10回 Unit 6 Reading 1 The Brain and Behavior 第11回 Unit 6 Reading 2 The Thhenage Brain Group Discussion 第12回 Unit 6 Reading 3 The Male and Femal Brain Addictions 第13回 Presentation (the first half) 第14回 Presentation (the second half) 第15回 Review 第16回 Final Examination
	・各回の授業終了時に復習する点、次回までに予習する点についてお知らせします。（予習・復習は最低でも各1時間行う必要があります。）

(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	
(18)学問分野 1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある 教員による授業科目 について	-
(20)教材・教科書	Making CONNECTIONS 2 Skills and Strategies for Academic Reading
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び 採点基準	出席および授業への参加度20% 小テスト30% 期末試験30% ディスカッション20%
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・ 授業方法	テキストに沿って進めていきますが、語彙力だけでなく、クリティカルシンキングを伸ばしていくようにパートナーや小グループで意見交換を行います。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・ HPアドレス	mcharata@yahoo.co.jp
(28)その他	窓口教員 : Anthony Rausch (asrausch@hirosaki-u.ac.jp)

教育学部

(1)整理番号	578
(2)区分番号	578
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	コミュニケーションIIIA (Communication IIIA)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース英語サブコース）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	Monday 2nd Period
(10)担当教員 (所属)	Anthony Rausch (Department of English)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	The objective of this course is to develop student communication ability (見通す力), specifically in a four-skills view and under conditions of immediacy and interaction. (学び続ける力)
(15)授業の概要	The course consists of various input and output communicative activities based on the textbook and in-class materials that force the student to produce meaningful and communicative language.
(16)授業の内容予定	The content is based on textbook content and current events and education or language-related topics. These are developed both by the professor and by the students so as to foster interest and four skills communication. Weekly Schedule based on Textbook Content Week 1: Unit 1 (start): Uniforms – Pride or Conformity? plus other content material Week 2: Unit 1 (finish): Uniforms – Pride or Conformity? plus other content material Week 3: Unit 2 (start): Cram Schools – Parent vs Counselor plus other content material Week 4: Unit 2 (finish): Cram Schools – Parent vs Counselor plus other content material Week 5: Speaking Skills Check #1 Week 6: Unit 3 (start): University Life – Land of Opportunities plus other content material Week 7: Unit 3 (finish): University Life – Land of Opportunities plus other content material Week 8: Unit 4 (start): Your Health – Diets versus Dieting plus other content material Week 9: Unit 4 (finish): Your Health – Diets versus Dieting plus other content material Week 10: Speaking Skills Check #2

	<p>Week 11: Unit 5 (start): News Sources – Old Fashioned or High Tech? plus other content material</p> <p>Week 12: Unit 5 (finish): News Sources – Old Fashioned or High Tech? plus other content material</p> <p>Week 13: Unit 6 (start): Explanations – Scientific and Social plus other content material</p> <p>Week 14: Unit 6 (finish): Explanations – Scientific and Social plus other content material</p> <p>Week 15: Speaking Skills Check #3</p> <p>Week 16: Student Presentations as Final Activity</p>
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	Students have to prepare content for the class.
(18)学問分野 1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある 教員による 授業科目につ いて	-
(20)教材・教科 書	Communication Upgrade: Extended Reading Aloud (Anthony Rausch: DTP Publishing) plus Materials that are developed in class
(21)参考文献	Depending on instructor evaluation of progress in the class, appropriate materials will be introduced.
(22)成績評価方 法及び採点基準	Grades are based on attendance and active participation, preparation for class and in-class communicative performance.
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・ 授業方法	The class is totally interactive, with demands on students to produce class materials and be active in communication about those materials.
(25)留意点・予 備知識	As a communication skills class, attendance is vital.
(26)オフィスア ワー	Everyday 11:50 to 12:40
(27)Eメールア ドレス・HPアド レス	asrausch@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	nothing in particular

教育学部

(1)整理番号	579
(2)区分番号	579
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	コミュニケーションIIIB (Communication IIIB)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース英語サブコース）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	Wednesday 1st period
(10)担当教員 (所属)	Anthony Rausch (Department of English)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	The objective of this course is to develop student communication ability（見通す力）, specifically in a four-skills view and under conditions of immediacy and interaction.（学び続ける力）
(15)授業の概要	The course consists of various input and output communicative activities based on textbook content and in-class materials that force the student to produce meaningful and communicative language.
(16)授業の内容予定	The content is based on textbook content and current events and education or language-related topics. These are developed both by the professor and by the students so as to foster interest and four skills communication. Weekly Schedule based on Textbook Content Week 1: Unit 7 (start): The Environment – Who is Responsible? plus other content material Week 2: Unit 7 (finish): The Environment – Who is Responsible? plus other content material Week 3: Unit 8 (start): Priorities – Space or Society? plus other content material Week 4: Unit 8 (finish): Priorities – Space or Society? plus other content material Week 5: Speaking Check #1 Week 6: Unit 9 (start): Globalization – Free Trade versus Local Economies plus other content material Week 7: Unit 9 (finish): Globalization – Free Trade versus Local Economies plus other content material Week 8: Unit 10 (start): Books and Movies – Telling the Story plus other content material Week 9: Unit 10 (finish): Books and Movies – Telling the Story plus other content material Week 10: Speaking Check #2

	<p>Week 11: Unit 11 (start): A Safe Society – Risk Society and Social Safety plus other content material</p> <p>Week 12: Unit 11 (finish): A Safe Society – Risk Society and Social Safety plus other content material</p> <p>Week 13: Unit 12: Vacations – City or Country, Fast or Slow?</p> <p>Week 14: Speaking Skills Check #3</p> <p>Week 15: Review of themes and progress</p> <p>Week 16: Student Presentations as Final Activity</p>
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	Students have to prepare content for the class.
(18)学問分野 1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある 教員による 授業科目につ いて	-
(20)教材・教科 書	Communication Upgrade: Extended Reading Aloud (Anthony Rausch; DTP Publishing) plus Materials that are developed in class.
(21)参考文献	Depending on instructor evaluation of progress in the class, appropriate materials will be introduced.
(22)成績評価方 法及び採点基 準	Grades are based on attendance and active participation, preparation for class and in-class communicative performance.
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・ 授業方法	The class is totally interactive, with demands on students to produce class materials and be active in communication about those materials.
(25)留意点・予 備知識	As a communication skills course, attendance is very important.
(26)オフィスア ワー	Everyday 11:50 to 12:40
(27)Eメールア ドレス・HPアド レス	asrausch@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	nothing in particular

教育学部

(1)整理番号	580
(2)区分番号	580
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	英語作文I (English Composition I)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	初等中等（小・英語サブコース）、初等中等（中コース英語）・特支（中 コース英語）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	Friday 5th period
(10)担当教員（所 属）	Anthony Rausch (Department of English)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベ ル）	レベル3
(13)対応するC P/D P	CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	The objective of the course is to develop student writing skills at both a sentence/paragraph level and a composition level. (学び 続ける力)
(15)授業の概要	The course presents paragraph organizational structures which constitute the basic approach to expository writing. Students learn these and then apply them in their own writing.
(16)授業の内容予 定	The content of course, beyond introduction of the organizational structures, is based on the topics students decide to write about. Textbook Contents: Week 1: Course Introduction and Explanation Week 2: Unit 1: Describing Things and Places Week 3: Unit 1 Writing Feedback + Unit 2: Describing People Week 4: Unit 1 2nd Writing Feedback + Unit 2 Writing Feedback + Unit 3 Describing Processes Week 5: Unit 2 2nd Writing Feedback + Unit 3 Writing Feedback + Review of Section One: Describing Week 6: Unit 4: Generalization Week 7: Unit 4 Writing Feedback + Unit 5: Definition Week 8: Unit 4 2nd Writing Feedback + Unit 5 Writing Feedback + Unit 6: Instruction Week 9: Unit 5 2nd Writing Feedback + Unit 6 Writing Feedback + Unit 7: Explanation Week 10: Unit 6 2nd Writing Feedback + Unit 7 Writing Feedback + Review of Section Two: Organizing Week 11: Unit 8: Comparison Week 12: Unit 8 Writing Feedback + Unit 9: Contrast Week 13: Unit 8 2nd Writing Feedback + Unit 9 Writing Feedback Week 14: Final Writing Project Explanation and Start Week 15: Final Writing Project: Feedback #1 Week 16: Final Writing Project: Feedback #2 and Submission
	Writing assignments are given as weekly homework.

(17)準備学習（予習・復習）等の内容	
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Composition Upgrade: Think, Organize and Write (Anthony Rausch; Sanshusha)
(21)参考文献	If problems are identified, appropriate materials will be introduced to address these.
(22)成績評価方法及び採点基準	Grades will be based on weekly writing work and a final writing project.
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	Reading of the textbook and feedback on writing.
(25)留意点・予備知識	It is very important not to fall behind.
(26)オフィスアワー	Everyday 11:50 to 12:40
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	asrausch@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	nothing in particular

教育学部

(1)整理番号	581
(2)区分番号	581
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	英語作文II (English Composition II)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	初等中等（中コース英語サブコース）：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	Wednesday 3rd period
(10)担当教員（所属）	Anthony Rausch (Department of English)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/D P	CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	The objective of the course is to develop student writing skills at both a sentence/paragraph level and a composition level. (学び続ける力)
(15)授業の概要	The course presents paragraph organizational structures which constitute the basic approach to expository writing. Students learn these and then apply them in their own writing.
(16)授業の内容予定	The content of course, beyond introduction of the organizational structures, is based on the topics students decide to write about. Textbook Contents: Week 1: Course Introduction and Explanation Week 2: Unit 10: Cause and Result + general feedback Week 3: Unit 10 Writing Feedback + Unit 11: Unexpected Result Week 4: Unit 10 2nd Writing Feedback + Unit 11 Writing Feedback + Section Three Review (Units 8-9-10-11) Week 5: Unit 12 Prediction + general feedback Week 6: Unit 12 Writing Feedback + Unit 13 Opinion Week 7: Unit 12 2nd Writing Feedback + Unit 13 Writing Feedback + Unit 14 Narration Week 8: Unit 13 2nd Writing Feedback + Unit 14 Writing Feedback + Section Four Review Week 9: Textbook Review: Units 1- 14 and General Feedback Week 10: Final Writing Project Explanation and Start Week 11: Final Writing Project work Week 12: Final Writing Project work Week 13: Final Writing Project work / feedback Week 14: Final Writing Project work / feedback Week 15: Final Writing Project work / feedback Week 16: Final Writing Project: Submission
	Writing assignments are given as weekly homework.

(17)準備学習（予習・復習）等の内容	
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Composition Upgrade: Think, Organize and Write (Anthony Rausch; Sanshusha)
(21)参考文献	If problems are noticed, appropriate materials will be introduced.
(22)成績評価方法及び採点基準	Grades will be based on weekly writing work and a final writing project.
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	Reading of the textbook and feedback on writing.
(25)留意点・予備知識	It is very important not to fall behind.
(26)オフィスアワー	Everyday 11:50 to 12:40
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	asrausch@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	nothing in particular

教育学部

(1)整理番号	582
(2)区分番号	582
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	英語作文III (English Composition III)
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	Friday 3rd period
(10)担当教員 (所属)	Anthony Rausch (Department of English)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル4
(13)対応するCP/DP	CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	The objective of the course is to have students apply what they have learned in the first two levels to real world professional writing, whether related to education or some other professional area. (学び続ける力)
(15)授業の概要	The course consists of the students developing their own independent writing projects which are overseen and reviewed by the instructor.
(16)授業の内容 予定	The content is based on what the students decided, which reflects their professional aims. Each week takes up a different aspect of professional preparation; a sample progression would be: Week 1: professional / teacher philosophy Week 2: teaching philosophy: what kind of teacher Week 3: language philosophy: what is language Week 4: discipline philosophy: how to work with students Week 5: why I want to be a teacher: motivation for education Week 6: why I want to be an English teacher: motivation for English Week 7: why English is important: understanding purpose Week 8: what English skills are important: operationalizing purpose Week 9: use of different teaching methods / tools ① Week 10: use of different teaching methods / tools ② Week 11: focus on the learners: an all-around teacher Week 12: focus on the job: colleagues and parents Week 13: preparing for group discussions and interviews ① Week 14: preparing for group discussions and interviews ② Week 15: final brainstorming session Week 16: final writing
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	Students have to prepare their ideas about each of the thematic topic areas and be ready to discuss / revise / present these in class.

(18)学問分野 1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある 教員による授業科目 について	-
(20)教材・教科書	A set of materials to begin the discussions are provided by the instructor, with additional materials identified, developed and presented individually by students as they require.
(21)参考文献	not relevant
(22)成績評価方法及び採 点基準	Grades are based on attendance and in-class participation in writing and speaking activities, preparation for class and the final writing product.
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	The class is taught at an individual level, with the instructor advising students about their writing at each step of the process.
(25)留意点・予備知識	Attendance for this class is sometimes irregular as students have various job-hunting activities that they must do. However, attendance will help you with preparation for your group discussion and interviews.
(26)オフィスアワー	Everyday 11:50 to 12:40
(27)Eメールアドレス・HP アドレス	asrausch@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	nothing in particular

教育学部

(1)整理番号	583
(2)区分番号	583
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	比較文化 (Comparative Culture)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	初等中等（小・英語サブコース）、初等中等（中コース英語）・特支（中コース英語）：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日 3・4時限目
(10)担当教員（所属）	荒田 弘美（非常勤講師）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル1
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具 体的到達目標	○自分自身を理解し異文化を理解すること（見通す力） ○文化差に対処し困難を低減して異文化間の対人関係を紡ぐことのできるクロスカルチャリストになること（見通す力）
(15)授業の概要	多種多様な世界の文化をケーススタディーを通して学び、ソーシャルスキルを身につけていく。
(16)授業の内容予定	第1回 Definition of Culture 10 Tips to Improve Cultural Understanding 第2回 Unit 1 Communication Different Communication Strategies 第3回 Unit 2 Culture Culture Iceberg 第4回 Unit 3 Nonverbal Communication 第5回 Unit 4 Communication Clearly Foreigners in Japan 第6回 Unit 5 Culture and Values Foreigners in Japan 第7回 Unit 6 Culture and Perception/ Different Interpretations 第8回 Quiz 1 Units 1-6 & Review 第9回 Unit 7 Diversity and Subcultures in Japan 第10回 Unit 8 Stereotypes about Japanese 第11回 Unit 9 Culture Shock 第12回 Unit 10 Culture and Change 第13回 Unit 11 Talking about Japan 第14回 Presentation (the first half) 第15回 Presentation (the second half) 第16回 Final Examination
(17)準備学習（予習・ 復習）等の内容	・各回の授業終了時に復習する点、次回までに予習する点についてお知らせします。（予習・復習は最低でも各1時間行う必要があります。） ・課外授業としてリサーチがあります。
(18)学問分野1(主学問 分野)	言語学関連
	-

(18)学問分野2(副学問分野)	
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	Speaking of Intercultural Communication by Peter Vincent 異文化理解の英語コミュニケーション NAN' UN-DO
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	試験
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	基本的にテキスト沿って進めていきますが、グループディスカッションを多く取り入れ、毎回カルチャークイズを導入します。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	ない
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	mcharata@yahoo.co.jp
(28)その他	窓口教員 : Anthony Rausch (asrausch@hirosaki-u.ac.jp)

教育学部

(1)整理番号	584																		
(2)区分番号	584																		
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程特別支援教育専攻																		
(4)授業科目名〔英文名〕	特別支援教育の基礎理論 (Introduction of Education for Children with Special Needs)																		
(5)対象学年	1																		
(6)必修・選択	特別支援教育専攻：必修																		
(7)単位	2																		
(8)学期	前期																		
(9)曜日・時限	月曜日 3・4時限																		
(10)担当教員(所属)	中山忠政 (教育学部)																		
(11)地域志向科目	-																		
(12)難易度(レベル)	レベル1																		
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力																		
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援教育が開始された理由や経緯について、理解すること (見通す力) ○特別支援教育の制度について、その概要を理解する (見通す力) ○インクルーシブ教育について、特別支援教育との関係を理解する (見通す力) 																		
(15)授業の概要	<p>本科目は【特別支援学校教諭免許状を取得するための必修科目】です。 教育職員免許状施行規則第7条の第1欄に規定された科目であり、「特別支援学校における教育の理念と歴史、思想」および「障害のある子どもの教育に関する社会的、制度的、経営的事項」について学習します。</p>																		
(16)授業の内容予定	<p>各回の末尾に、テキストの該当箇所(予習箇所)を示しています。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 ガイダンス／関連法規</td> <td style="width: 50%;">[P 237～239]</td> </tr> <tr> <td>2 「特殊教育」「特別支援教育」「インクルーシブ教育」</td> <td>[P 30・31]</td> </tr> <tr> <td>3 障害の考え方 (1) ノーマライゼーション</td> <td>[P 12・13]</td> </tr> <tr> <td>4 障害の考え方 (2) I C I D H と I C F</td> <td>[P 156・157]</td> </tr> <tr> <td>5 サラマンカ声明 (特別なニーズ教育)</td> <td>[P 16・17]</td> </tr> <tr> <td>6 欧米の障害児教育の歴史</td> <td>[P 244・253]</td> </tr> <tr> <td>7 日本の障害児教育の歴史</td> <td>[P 254・269]</td> </tr> <tr> <td>8 養護学校義務制実施まで</td> <td>[P 272・273、30・31]</td> </tr> <tr> <td>9 特別支援教育を推進するための制度の在り方について (答申)</td> <td>[参考文献 (9)]</td> </tr> </table>	1 ガイダンス／関連法規	[P 237～239]	2 「特殊教育」「特別支援教育」「インクルーシブ教育」	[P 30・31]	3 障害の考え方 (1) ノーマライゼーション	[P 12・13]	4 障害の考え方 (2) I C I D H と I C F	[P 156・157]	5 サラマンカ声明 (特別なニーズ教育)	[P 16・17]	6 欧米の障害児教育の歴史	[P 244・253]	7 日本の障害児教育の歴史	[P 254・269]	8 養護学校義務制実施まで	[P 272・273、30・31]	9 特別支援教育を推進するための制度の在り方について (答申)	[参考文献 (9)]
1 ガイダンス／関連法規	[P 237～239]																		
2 「特殊教育」「特別支援教育」「インクルーシブ教育」	[P 30・31]																		
3 障害の考え方 (1) ノーマライゼーション	[P 12・13]																		
4 障害の考え方 (2) I C I D H と I C F	[P 156・157]																		
5 サラマンカ声明 (特別なニーズ教育)	[P 16・17]																		
6 欧米の障害児教育の歴史	[P 244・253]																		
7 日本の障害児教育の歴史	[P 254・269]																		
8 養護学校義務制実施まで	[P 272・273、30・31]																		
9 特別支援教育を推進するための制度の在り方について (答申)	[参考文献 (9)]																		

	<p>10 特別支援学校の目的と対象 [P 32・33]</p> <p>11 特別支援教育の推進について（通知） [参考文献（10）]</p> <p>12 就学手続きと就学義務の猶予・免除 [P 64・65] [参考文献（12）]</p> <p>13 特別支援学校の学級編制の基準・教科用図書 [参考文献（13）]</p> <p>14 特別支援教育の経費 [参考文献（13）]</p> <p>15 インクルーシブ教育に向けて [P 18～29]</p> <p>16 試験</p>
(17) 準備学習（予習・復習）等の内容	<p>・各回毎に課題（ワークシートとレポート）が出題される。</p> <p>・次回授業分については、テキスト等の該当箇所を読んでおくこと。該当箇所は、「授業の内容予定」欄に、[P O・O] として示している。</p>
(18) 学問分野 1(主学問分野)	教育学関連
(18) 学問分野 2(副学問分野)	-
(18) 学問分野 3(副学問分野)	-
(19) 実務経験のある教員による授業科目について	-
(20) 教材・教科書	<p>【注意】6）については、改訂が予定されているので、別途指示する。</p> <p>(1) 玉村公二彦他（編著）『キーワードブック特別支援教育』クリエイツかもがわ</p> <p>(2) 文部科学省『特別支援学校幼稚部教育要領 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領』海文堂出版</p> <p>(3) 文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（幼稚部・小学部・中学部）』開隆堂出版</p> <p>(4) 文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 各教科編（幼稚部・小学部・中学部）』開隆堂出版</p> <p>(5) 文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）』開隆堂出版</p> <p>(6) 文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（高等部）』海文堂出版</p>
(21) 参考文献	<p>以下の資料を使用するので、各自で印刷してファイルに綴じるなどして毎回持参すること。 （枚数が多いものもあるので、1枚に複数枚印刷するなどしてもよい） （9）特別支援教育を推進するための制度の在り方について（答申）</p> <p>http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/icsFiles/afiedfile/2017/09/22/1212704_001.pdf</p> <p>(10) 特別支援教育資料（最新年度分）の「第1部 集計編」 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1406456.htm</p> <p>(10) 青森県の特別支援教育リーフレット（最新年度版） https://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/education/tokushi_shiryou.html ※「青森県特別支援教育情報サイト」の内の「1 本県の特別支援教育」の箇所に掲載されている。</p> <p>(11) 特別支援教育の推進について（通知）http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/07050101/001.pdf</p> <p>(11) 平成29年度特別支援教育体制整備状況調査結果について http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/1402845.htm</p> <p>(12) 教育支援資料（「第1編 学校教育法施行令の一部を改正する政令の解説」のみ）</p> <p>http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/icsFiles/afiedfile/2014/06/13/1340247_04.pdf</p> <p>(12) 学校教育法施行令の一部改正について（通知） http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1339311.htm</p> <p>(13) 特別支援教育資料（最新年度分）の「第3部 資料編」 ※例年、6月末に最新年度版に更新される。 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/1343888.htm</p> <p>(14) 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告） ※「概要」ではなく「報告書本体」、ただし54頁以降は不要</p> <p>http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/giicroku/icsFiles/afiedfile/2012/07/24/1323733_8.pdf</p> <p>【注意】「報告」にはページ数が打たれていないので、表紙を1ページとしてページを振っておいてください。</p>

	<p>(14) 「障害者の権利に関する条約（和文）」 http://www.mofa.go.jp/mofaj/fp/hr_ha/page22_000899.html</p> <p>(14) 一般的意見第4号 http://www.dinf.ne.jp/doc/japanese/rights/rightafter/crpd_gc4_2016_inclusive_education.html ※括弧内は、使用を予定している授業回数を示している。</p>
(22) 成績評価方法及び採点基準	レポートおよび試験の結果などを総合して評価します。
(23) 授業形式	講義
(24) 授業形態・授業方法	事前学習（ワークシート）に取り組んできたことを前提として、解説等を加えていきます。
(25) 留意点・予備知識	受講に際しては、「障害のある人に関わるボランティア体験」の提出を求めます。詳細については、初回授業時にお知らせします。
(26) オフィスアワー	前期：月曜日の昼休み 後期：金曜日の昼休み
(27) Eメールアドレス・HPアドレス	tadamasa●hirosaki-u.ac.jp ※「●」を「@」に置き換えてください。
(28) その他	第1回（初回）に、課題①と課題②（ボランティア課題）を出題するので、受講希望者は必ず出席すること。また、「受講カード」を記入の上、提出をお願いします。

教育学部

(1)整理番号	585
(2)区分番号	585
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程特別支援教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	知的障害者の心理 (Psychology for Children with Intellectual Disabilities)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	特別支援教育専攻：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 5・6時限
(10)担当教員(所属)	○増田 貴人(教育学部)・奈良 理央(非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル1
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○知的障害児の心理特性や行動特性を理解し、支援方法を考えることができること
(15)授業の概要	知的障害児の心理特性や行動特性について概説する。あわせて、応用行動分析を用いた指導法についても論じ、特別支援教育に必要とされる心理学的知見を深める
(16)授業の内容予定	進捗状況等に応じて変更することがある <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション(増田) 2. 知的障害の定義と分類(増田) 3. 知的障害のアセスメント(増田) 4. 心理機能①知覚、学習(増田) 5. 心理機能②言語(増田) 6. 行動形成の技法①(導入)(奈良) 7. 行動形成の技法②(理論)(奈良) 8. 行動形成の技法③(基礎)(奈良) 9. 行動形成の技法④(実践)(奈良) 10. 行動形成の技法⑤(学校での応用)(奈良) 11. 心理機能③数概念(増田) 12. 心理機能④問題解決(増田) 13. 心理機能⑤記憶、注意(増田) 14. 心理機能⑥動機づけ、運動(増田) 15. まとめ～知的障害児者の心理(増田) 16. 試験
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	テキストを使用します。事前に一読したり用語を確認するなどの予習を必ずして講義にのぞんで下さい。
(18)学問分野1(主学問分野)	心理学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	小池敏英・北島善夫 「知的障害の心理学—発達支援からの理解—」北大路書房
(21)参考文献	適宜授業中で紹介する
(22)成績評価方法及び採点基準	口述試験。事前に出題された設問から2つが無作為に出題される。それぞれの回答は5段階で評価され、ルーブリック方式により最終評価を確定する。 出席点・受講態度等は成績に考慮されませんが、出席回数が極端に少ない場合試験の採点をしません。 また、授業中の不適切な言動が目立つ場合、授業からの退席を命じることがあります。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義だが一部演習を含む
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	月曜7・8時限
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	増田： tmasuda@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	586
(2)区分番号	586
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程特別支援教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	知的障害者の生理・病理 (Physiology and pathology for Children with Intellectual Disabilities)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	特別支援教育専攻：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 5・6時限
(10)担当教員(所 属)	増田 貴人(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベ ル)	レベル2
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具 体的到達目標	○知的障害及び関連する障害の生理・病理について理解し、かつその理 解内容をわかりやすく伝達できるようにすること
(15)授業の概要	知的障害及び関連する障害の生理・病理について概観し、あわせてその 内容について知見を収集・補完し適切な形で相手にわかりやすくプレゼ ンテーションする。
(16)授業の内容予定	第1回：オリエンテーション 第2回：障害の原因(1) 出生前要因 第3回：障害の原因(2) 周産期要因 第4回：障害の原因(3) 出生後要因 第5回：言語病理学的視点と指導への応用 第6回：呼吸・摂食・栄養・消化器の疾患 第7回：てんかん 第8回：睡眠障害 第9回：発達障害との関連(自閉症) 第10回：発達障害との関連(LD・ADHD・DCD) 第11回：中間評価 第12回：グループ設定と発表準備 第13回：心理・生理・病理の知見を応用した指導法に関する資料収 集・調査・準備 第14回：グループ発表 第15回：ふりかえりとまとめ ※受講者の理解度やグループ発表進行上の調整により、内容の変更もあ り得る
(17)準備学習(予 習・復習)等の内容	予習復習に努め、わからないところは早めに解決させること
(18)学問分野1(主学 問分野)	教育学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	病理病態学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	小池敏英・北島善夫「知的障害の心理学—発達支援からの理解—」北大路書房（「知的障害者の心理」のテキスト）の一部を使用する。
(21)参考文献	必要に応じて紹介する
(22)成績評価方法及び採点基準	授業中に課すレポート（30%）、及び試験（70%）で評価します。出席点・受講態度等は成績に考慮されませんが、出席回数が極端に少ない場合試験の採点をしません。また、授業中の不適切な言動が目立つ場合、授業からの退席を命じることがあります。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	一部演習を含む
(25)留意点・予備知識	1年次科目の「特別支援教育の基礎理論」または「知的障害者の心理」を履修済であることを前提に授業が進行される。
(26)オフィスアワー	月曜7/8時限
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	tmasuda@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	587
(2)区分番号	587
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程特別支援教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	肢体不自由者の心理・生理・病理 (Behavioural Characteristics for Children with Physically Handicapped)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	特別支援教育専攻：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 5・6時限
(10)担当教員(所属)	増田 貴人(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3~4
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○人間の構造と機能を理解して、肢体不自由・運動障害の発生の原因、仕組み、運動障害のある子どもへの支援と対応を理解することができること
(15)授業の概要	運動機能とその発達を学習した上で、脳性まひ、二分脊椎など各種運動障害の病理と心理について、関連する視聴覚教材などをおして、障害についての理解を深め、また人間の体の仕組みや機能についての理解をはかる。
(16)授業の内容予 定	1. オリエンテーション 2. 運動障害各論1：脳性麻痺 3. 運動障害各論2：二分脊椎 4. 運動障害各論3：筋ジストロフィ 5. 運動障害各論4：他の神経筋系の障害 6. 運動障害各論5：骨・関節系 7. 運動障害各論6：その他(奇形等) 8. 発達の視点に立つ身体活動 9. 知覚—運動発達の諸理論 10. 視知覚・聴知覚・触知覚の学習支援 11. 運動機能とその障害 12. 身体活動と認知・情緒 13. 軽度の運動障害(運動の不器用さ) 14. 運動障害の評価 15. まとめ 16. 試験 (授業の進度や状況次第では、内容の変更をすることもある)
(17)準備学習(予 習・復習)等の内 容	授業後に配布プリントを中心に復習に努め、疑問点を先送りにしないこと
	教育学関連

(18)学問分野 1(主学問分野)	
(18)学問分野 2(副学問分野)	病理病態学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある 教員による授業 科目について	-
(20)教材・教科書	用語解説については、下記文献を使用する。 松元泰英著「肢体不自由教育 連携で困らないための医療用語集」ジアース教育新書
(21)参考文献	必要に応じて適宜紹介する
(22)成績評価方法 及び採点基準	試験による。成績不良による追試・レポート課題の実施は、原則として実施しない。 試験問題の出題については、事前に配布された設問のなかから、4題出題する。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授 業方法	講義
(25)留意点・予備 知識	3年次対象科目である。 2年次までの特別支援教育科目を受講済であることが望ましい。少なくとも「特別支援教育の基礎理論」「知的障害者の心理」「知的障害者の生理・病理」の未履修者は、内容理解が困難と予想される。
(26)オフィスアワ ー	月曜7/8時限
(27)Eメールアド レス・HPアドレ ス	増田 : tmasuda@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	588
(2)区分番号	588
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程特別支援教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	小児疾患 (Pediatric Disease)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	特別支援教育専攻：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日 7・8時限
(10)担当教員(所属)	田中 完 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○小児科学Ⅰを参照のこと
(15)授業の概要	小児科学Ⅰを参照のこと。
(16)授業の内容予定	小児科学Ⅰを参照のこと。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	小児科学Ⅰを参照のこと。
(18)学問分野1(主学問分野)	内科学一般関連
(18)学問分野2(副学問分野)	感染・免疫学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	病理病態学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	配布資料
(21)参考文献	必要に応じてその都度紹介
(22)成績評価方法及び採点基準	筆記試験(レポート)
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義
(25)留意点・予備知識	疑問点は講義時間内に解決する姿勢が必要。
(26)オフィスアワー	小児科学Ⅰを参照のこと。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	小児科学Ⅰを参照のこと。
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	589
(2)区分番号	589
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程特別支援教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	特別支援学校の教育課程 (Curriculum of Education for Children with Special Needs)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	特別支援教育専攻：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日 5・6時限
(10)担当教員(所属)	中山忠政(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援学校の教育目標について、教育課程との関係について理解すること（見通す力） ○特別支援学校（知的障害者）における、教育課程の編成の原則と実際について理解すること（見通す力・解決していく力） ○特別支援学校（知的障害者）における、指導計画の作成について身に付けること（解決していく力）
(15)授業の概要	特別支援学校（知的障害者）における教育課程について、『特別支援学校学習指導要領』等を参照しながら、その原則と実際について学びます。
(16)授業の内容予定	<p>【授業内容については、変更する場合がある (高等部の解説が未発刊のため、●としてある)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 特別支援学校の教育課程 [P 38・39、42・43] [解説P 160～165] 2 総則(1) 教育目標 [P 15・61・(高) P 4] [解説P 54～56、166～168、(高) P ●] 教育課程の役割 [P 61～63] [解説P 169～174、188～189] 3 総則(2) 道徳教育 [P 62・65] [解説P 178～184、218・219] 道徳教育における配慮事項 [P 74・75] [P 305～330] 4 第3章 特別の教科 道徳(道徳科) [P 192、(高) P 234] [解説(教) P 524・525、(高) P ●] 総則(3) 教育課程の編成における共通的事項 [P 63～69] [解説P 203～217] 5 第2章 各教科と領域 [P 25、42、(高) P ●] [解説P 132] 6 総則(4) 授業時数等の取扱い [P 66・67、(高) P 7] [解説P 220～234、(高) P ●]

	<p>指導計画の作成等に当たっての配慮事項 [P67～69] [解説P220～234]</p> <p>7 総則(5) 重複障害者等に関する教育課程の取扱い [P75～77] [解説P331～344]</p> <p>個別の指導計画・個別的教育支援計画 [P68、72] [解説P240・241、283～285]</p> <p>8 知的障害者のある児童生徒の学習上の特性と教育的対応 [解説(教)P20～29、(高)P●]</p> <p>9 第2章 特別支援学校(知的障害者)における各教科 [P80～191] [解説P40～523]</p> <p>10 学校教育法施行規則に規定されている教育課程の取扱い [P43] [解説P345～348]</p> <p>特別支援学校(知的障害者)における指導の形態 [解説(教)P28～36]</p> <p>11 キャリア教育の充実 [P71] [解説P280～282]</p> <p>キャリア教育及び職業教育に関して配慮すべき事項 [(高)P19] [解説(高)P●]</p> <p>12 第7章 自立活動(1) 学習指導案の作成 [P199～201] [解説(自立活動編)]</p> <p>13 第7章 自立活動(2) グループ発表 [P199～201] [解説(自立活動編)]</p> <p>14 指導要録(学籍と指導に関する記録) [P70] [解説P270～274]</p> <p>15 まとめ</p> <p>16 試験</p>
(17) 準備学習(予習・復習)等の内容	<p>【予習】テキスト(学習指導要領や解説)の該当箇所(「授業の内容予定」に示してある)を読み、事前配付のワークシートを完成させ、授業の前日(水曜日)までに提出のこと。</p> <p>【復習】「振り返りテスト」を随時行うので、前回学習分について復習しておくこと。</p>
(18) 学問分野 1(主学問分野)	教育学関連
(18) 学問分野 2(副学問分野)	-
(18) 学問分野 3(副学問分野)	-
(19) 実務経験のある教員による授業科目について	-
(20) 教材・教科書	<p>【注意】</p> <p>(1) 文部科学省『特別支援学校幼稚部教育要領・特別支援学校小学部・中学部学習指導要領』海文堂出版 文部科学省『特別支援学校高等部学習指導要領』(2019年2月公示) http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/02/04/1399950_11.pdf</p> <p>(2) 文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(幼稚部・小学部・中学部)』開隆堂出版</p> <p>(3) 文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 各教科編(幼稚部・小学部・中学部)』開隆堂出版</p> <p>(4) 文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)』開隆堂出版</p> <p>(5) 【未発刊】文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(高等部)』</p> <p>(6) 『小学校学習指導要領』または『中学校学習指導要領』 ※『小学校学習指導要領』または『中学校学習指導要領』(基礎免許とするものでよい)の本体(『解説』ではない)を、別途各人で購入しておくこと。</p>
(21) 参考文献	
(22) 成績評価方法及び採点基準	試験およびレポート、「確認テスト」の結果などを総合して評価します。
	講義

(23) 授業形式	
(24) 授業形態・授業方法	事前学習（ワークシート）に取り組んできたことを前提として、解説等を加えていきます。
(25) 留意点・予備知識	「特別支援教育の基礎理論」を受講済みであることを前提として、授業を行います。そのため、「特別支援教育の基礎理論」の未受講者は、「特別支援教育の基礎理論」を優先して受講することをおすすめします。
(26) オフィスアワー	前期：月曜日の昼休み 後期：金曜日の昼休み
(27) Eメールアドレス・HPアドレス	tadamasa●hirosaki-u.ac.jp ※「●」を「@」に置き換えてください。
(28) その他	受講希望者は、初回、必ずご出席ください。課題①～③などが提示されます。また、「履修カード」を記入の上、お持ちください。

教育学部

(1)整理番号	590
(2)区分番号	590
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程特別支援教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	知的障害者の指導法 (Curriculum and Teaching Method for Children with Intellectual Disabilities)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	特別支援教育専攻：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日 1・2時限
(10)担当教員(所属)	天海 丈久(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○特別支援学校(知的障害)における、各教科等の目標と指導上の留意点を述べるができること ○特別支援学校(知的障害)の各教科等について、児童生徒の実態に応じた学習指導案を作成することができること ○作成した学習指導案にもとづいて、模擬授業を行うことができること
(15)授業の概要	特別支援学校(知的障害)の児童生徒を対象とした学習指導案の立案及び模擬授業を行い、各教科等の目標と指導上の留意点を理解します。
(16)授業の内容予定	【授業内容については、変更する場合があります】 第1回 オリエンテーション 【2～5回：国語科(グループ)】 第2回 事例にもとづく学習指導案の立案 第3回 模擬授業の実施(小学部) 第4回 模擬授業の実施(中学部) 第5回 模擬授業の実施(高等部) 【6～8回：国語科(個別)】 第6回 模擬授業の準備 第7回 模擬授業(前半)

	<p>第8回 模擬授業（後半） 【9～12回：算数・数学科（グループ）】 第9回 事例にもとづく学習指導案の立案 第10回 模擬授業の実施（小学部） 第11回 模擬授業の実施（中学部） 第12回 模擬授業の実施（高等部） 【13～15回：算数・数学科（個別）】 第13回 模擬授業の準備 第14回 模擬授業（前半） 第15回 模擬授業（後半）</p>
(17) 準備学習（予習・復習）等の内容	グループでの模擬授業の実施にあたっては、教材の作成など協力して準備に取り組んでください。なお、学習指導案を作成する際には、目標設定と評価について、これまでの実施事例を調べ発表してください。
(18) 学問分野 1(主学問分野)	教育学関連
(18) 学問分野 2(副学問分野)	-
(18) 学問分野 3(副学問分野)	-
(19) 実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20) 教材・教科書	<p>文部科学省（著）『特別支援学校幼稚部教育要領・特別支援学校小学部・中学部学習指導要領・特別支援学校高等部学習指導要領【平成27年3月一部改正】』海文堂出版978-4303124236 文部科学省（著）『特別支援学校学習指導要領解説 総則等編 高等部』海文堂出版 978-4303124120 文部科学省（著）『特別支援学校幼稚部教育要領 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領』海文堂出版：新学習指導要領978-4-303-12424-3 文部科学省（編集）『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則等編（幼稚部・小学部・中学部）』開隆堂978-4-304-04229-4 文部科学省（編集）『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）』開隆堂978-4-304-04230-0 文部科学省（編集）『特別支援教育教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）』開隆堂978-4-304-04231-7</p>
(21) 参考文献	参考文献は、必要に応じて紹介します。
(22) 成績評価方法及び採点基準	<p>模擬授業【グループ】（模擬授業とレポート。全体評価の40%） 模擬授業【個別】（指導案と模擬授業。全体評価の60%） 上記を合算して成績評価を行います。 出席不足、成績不良による救済措置は、原則実施しません。しかし、病気等によるやむを得ない事情のため、しかるべき手続きがあった者に限り対応します。</p>
(23) 授業形式	演習

(24) 授業形 態・授 業方法	特別支援学校（知的障害）における国語科、算数・数学科の授業について、まずグループで学習指導案を立案し、模擬授業を行います。次に、個別で学習指導案の作成及び模擬授業を行い、到達目標の理解ができているかの確認を行います。模擬授業後は、反省を基に修正した学習指導案を提出していただきます。
(25) 留意 点・予 備知識	「特別支援教育の基礎理論」および「特別支援学校の教育課程」を受講済みであることを前提に授業を行います。
(26) オフィ スアワ ー	木曜日、12時から12時40分の間においでください。研究室は、教育学部3-54です。
(27)E メール アドレ ス・ HPア ドレス	amagai@hirosaki-u.ac.jp
(28) その他	<ul style="list-style-type: none"> ○第1回（オリエンテーション）に課題を出題するので、受講希望者は必ず出席してください。 ○『特別支援学校高等部学習指導要領』については、下記よりダウンロードしてください。 http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/02/04/1399950_11.pdf ○青森県総合学校教育センターで開催される「特別支援教育教材・教具展示会」（平成30年度は7月17日～8月16日の平日に開催）の見学をおすすめします。

教育学部

(1)整理番号	591
(2)区分番号	591
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程特別支援教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	肢体不自由者の指導法 (Curriculum and Teaching Method for Children with Physical Disabilities)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	特別支援教育専攻：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 9・10時限
(10)担当教員(所属)	天海 丈久 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するC/P/D/P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○肢体不自由教育に必要な不可欠な概念及び指導法について学習し、理解を深めること ○肢体不自由教育に携わる教員として創造的に課題解決するための基礎的な知識、技能、態度を習得すること
(15)授業の概要	肢体不自由教育に必要な基礎的・基本的事項について、特別支援学校（肢体不自由）における教育の実際を概観しながら学習を進めます。また指導法については、主として自立活動の指導に係る内容を取り上げ、演習により実践的な理解を深めます。
(16)授業の内容予定	進捗状況によっては、内容を変更することもあります。 第1回 オリエンテーション 第2回 肢体不自由教育の歴史 第3回 肢体不自由者が学ぶ場 第4回 肢体不自由教育における教育課程編成の考え方 第5回 肢体不自由教育における各教科等の指導とキャリア教育 第6回 肢体不自由教育における自立活動の指導 第7・8回 肢体不自由教育の実際（県立弘前第二養護学校の見学） 第9回 肢体不自由者の指導法<1>－健康の保持を中心に－ 第10回 肢体不自由者の指導法<2>－心理的な安定、人間関係の形成を中心に－

	<p>第11回 肢体不自由者の指導法<3>-健康の保持、環境の把握を中心に-</p> <p>第12回 肢体不自由者の指導法<4>-身体の動きを中心に-</p> <p>第13回 肢体不自由者の指導法<5>-身体の動きを中心に-</p> <p>第14回 肢体不自由者の指導法<6>-身体の動きを中心に-</p> <p>第15回 肢体不自由者の指導法<7>-コミュニケーションを中心に-</p> <p>第16回 期末テスト</p>
(17) 準備学習(予習・復習)等の内容	<p>○授業終了時に示す次回の授業範囲を予習し、疑問点等を明確にしておいてください。</p> <p>○復習により、あいまいな事項や疑問点を持ち越さないようにしてください。</p>
(18) 学問分野 1(主学問分野)	教育学関連
(18) 学問分野 2(副学問分野)	-
(18) 学問分野 3(副学問分野)	-
(19) 実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20) 教材・教科書	<p>文部科学省(著)『特別支援学校幼稚部教育要領 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領』海文堂出版:新学習指導要領978-4-303-12424-3</p> <p>文部科学省(編集)『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則等編(幼稚部・小学部・中学部)』開隆堂978-4-304-04229-4</p> <p>文部科学省(編集)『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部)』開隆堂978-4-304-04230-0</p> <p>文部科学省(編集)『特別支援教育教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)』開隆堂978-4-304-04231-7</p>
(21) 参考文献	参考文献は、必要に応じて紹介します。
(22) 成績評価方法及び採点基準	<p>平常評価(授業への参加度。学校見学後のレポート。評価全体の50%)</p> <p>期末評価(理解度の確認。評価全体の50%)</p> <p>上記を合算して成績評価を行います。</p> <p>出席不足、成績不良による救済措置は、原則実施しません。しかし、病気等によるやむを得ない事情のため、しかるべき手続きがあった者に限り対応します。</p>
(23) 授業形式	演習
(24) 授業形態・授業方法	第1回から6回は講義形式、第9回から15回は演習形式で授業を行います。第7・8回に予定している学校見学の詳細については、講義の中で連絡します。学校見学後、レポートを提出していただきます。
	演習を行う場合は、前週の授業日に連絡をするので、動きやすい服装で受講してください。

(25) 留意 点・予 備知識	
(26) オフィ スアワ ー	木曜日、12時から12時40分の間においでください。研究室は、教育学部3-54です。
(27)E メール アドレ ス・ HPア ドレス	amagai@hirosaki-u.ac.jp
(28) その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県立弘前第二養護学校の見学(6月1日)は必修とします。 ・ 『特別支援学校高等部学習指導要領』については、下記よりダウンロードしてください。 http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/02/04/1399950_11.pdf

教育学部

(1)整理番号	592
(2)区分番号	592
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程特別支援教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	病弱者の指導法 (Curriculum and Teaching Method for Children with Health Impairments)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	特別支援教育専攻：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日 5・6時限
(10)担当教員 (所属)	佐藤 眞一 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての 具体的到達目標	○特別支援学校教諭として必要な病弱教育に関する基礎理論と専門知識・技能を習得すること ○病気療養児の特性や病弱教育の意義を理解し、病弱教育の実践における指導内容や指導方法等を検討するための知識・技能を習得すること
(15)授業の概要	病弱教育の歴史、意義、対象、制度、教育課程、指導等について講義を行い、実地見学学習や演習・グループ討議を取り入れながら、病弱教育の理解を深める。また、病弱教育と関連する障害者福祉の理念や制度についても概説する。
(16)授業の内容 予定	進捗状況によっては、内容を変更することもある。 第1回 ガイダンス、特別支援教育における病弱教育 第2回 病弱教育の歴史と現状、病弱教育の制度 第3回 病弱者の特性と病弱教育の意義、実地見学学習の事前学習 第4回 特別支援学校(病弱)の見学 第5回 重症心身障害病棟の見学 第6回 見学後のグループ討議とまとめ 第7回 病気の理解と病種・病類別の教育的配慮 第8回 病弱教育の教育課程<1> (全般) 第9回 病弱教育の教育課程<2> (自立活動) 第10回 病弱教育の実際と課題<1> (病種・病類別に応じた指導の実際) 第11回 病弱教育の実際と課題<2> (病弱者の困り感の理解と課題の検討) 第12回 病弱教育の実際と課題<3> (病種・病類別に応じた指導内容の選定) 第13回 病弱教育の実際と課題<4> (重症心身障害児の発達診断と指導内容の選定) 第14回 病弱教育に係る重要事項 (医教連携、医療的ケア、教材教具 他) 第15回 病弱教育の課題と展望 (進路指導と障害者福祉、世界の潮流他、まとめ) 第16回 期末テスト

(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	○講義レジメや資料集を読み、各講義題に応じた予習を行うこと。 ○授業で分からないことをそのままにせず、教員への質問や指定された資料を活用して、復習にも努めること。 ○適宜行う小テストを、自己評価の機会とすること。
(18)学問分野 1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による 授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	○主に、ガイダンス時に配付する講義レジメと資料集をテキストとして使用する。 ○なお、第8～9講では①特別支援学校 教育要領・学習指導要領、②特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(幼稚部・小学部・中学部)、③特別支援学校学習指導要領解説 自立活動の3冊は、手元において内容の確認ができるようにすること。
(21)参考文献	参考文献や資料は、授業で適宜紹介・配付する。
(22)成績評価方法及び採点基準	予習を生かした授業における意見交換(評価全体の20%) ポイント確認小テスト及び課題レポート(同30%) 期末評価(理解度の確認。同50%) 上記を合算して成績評価を行う。 なお、出席が規定に満たない場合は、最終試験を受験しても採点しない。 但し、合理的理由(実習などで証明書の対象となる場合など)による欠席については、事前に申し出た場合のみ、できるだけ配慮する。 また、病気等やむを得ない事情で然るべき手続きがあったものについては、追試を実施するが、成績不良を理由とする再試験・レポート等の救済措置は一切実施しない。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・ 授業方法	学習内容のねらいに応じて、次の4つの授業形式・形態で相互に関連付けながら授業を行う。 <1>講義(パワーポイント、講義レジメ、資料集) <2>VTR映像視聴 <3>実地見学学習(特別支援学校(病弱)と隣接病院) <4>演習(グループ協議)
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	○実地見学学習は必修とする。(10月28日(月)8:20~12:20、「青森県立浪岡養護学校」及び「国立病院機構青森病院」) ○授業に係る変更が生じた場合は、別途掲示にて連絡する。 世話教員：増田貴人

tmasuda@hirosaki-u.ac.jp

教育学部

(1)整理番号	593
(2)区分番号	593
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程特別支援教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	視覚障害者教育総論 (Education for Children with Visual Impairments)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	特別支援教育専攻：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所属)	銭谷 寿(非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○視覚障害教育に関わる基礎的な知識と、障害に応じた関わり方の基本を理解すること
(15)授業の概要	視覚障害児教育の対象、理念、歴史、制度、教育課程、指導方法について概説的に講義を行う。 視覚障害教育に不可欠な点字及び歩行指導については基礎的な演習を行う。 視覚障害者福祉の対象、理念、制度についても概説する。
(16)授業の内容予定	進捗状況等によっては、内容を変更することもある。 1. ガイダンス・はじめに 2. 視覚障害教育の歴史と制度 3. 目の構造と視機能評価 4. 視覚障害児の認知と発達 5. 教科の指導(1)教育課程 6. 教科の指導(2)盲児の指導 7. 教科の指導(3)弱視児の指導 8. 自立活動 9. 歩行指導の理論と演習(1)概説 10. 歩行指導の理論と演習(2)演習 11. ユニバーサルデザイン 12. 労働・福祉・医療との連携 13. キャリア教育 14. 点字の表記・指導(1)概説 15. 点字の表記・指導(2)演習
	授業の最後に内容に関するアンケートを実施し、関心をもったことや質問事項に関しては、次時の初めに関連する資料等を紹介するレジュメを配付する。それらを参考に、復習及び学習の発展に努めること。

(17)準備学習（予習・復習）等の内容	
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	生体の構造と機能関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	「視覚障害教育入門—改訂版—」青柳まゆみ・鳥山由子、ジアース教育新社（2015）、1,800円＋税
(21)参考文献	「視覚障害教育に携わる方のために 五訂版」香川邦生 編著、慶應義塾大学出版社（2016）、3,000円＋税 「視覚に障害のある乳幼児の育ちを支える」猪平真理 編著、慶應義塾大学出版社（2018）、2,000円＋税 ほか、適宜、講義の中で参考資料を紹介する。
(22)成績評価方法及び採点基準	レポート提出による。 採点基準 ① 課題内容を適切に捉えているか。 ② 論理的に記述されているか。 ③ 自分の考えを述べているか。 ④ 分量的に満たされているか。 ⑤ 出席率 出席が規定に満たない場合、レポートを提出しても採点されない。また、出席が規定を満たしていても、指定の日時までにはレポートを提出しなかった場合は成績評価の対象外とする。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義および実技を交えた演習形式。
(25)留意点・予備知識	授業内容や教室の変更等については、別途掲示にて連絡する。
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	世話教員：増田貴人 tmasuda@hirosaki-u.ac.jp

教育学部

(1)整理番号	594
(2)区分番号	594
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程特別支援教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	聴覚障害者教育総論 (Education for Children with Hearing Impairments)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	特別支援教育専攻：必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 7・8時限
(10)担当教員(所属)	須藤 美香(非常勤講師)・成田 智(非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	○聴覚障害の種類や程度、特徴などを理解すること ○聴覚障害により生じる問題点を理解し、その評価方法の概要を把握すること ○聴覚障害児に対する指導・支援について、目的と内容をおおよそ理解すること
(15)授業の概要	到達目標を達成するための講義である。
(16)授業の内容予定	※進捗状況等によっては、内容を変更することもある。 1 聴覚障がいとは 2 聴覚障がいの理解 3 聴覚障がいの問題点と評価法(課題) 4 聴覚障がいの問題点と評価法(評価) 5 聴覚障がいへのアプローチ(総論) 6 聴覚障がいへのアプローチ(各論) 7 聴覚障がいへのアプローチ(総括) 8 聴覚障がい児・者への支援
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業における疑問点は聴講票を利用して解決し、復習に努めて下さい。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	生体の構造と機能関連
(18)学問分野3(副学問分野)	心理学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
	テキストは使用しない。

(20)教材・教科書	
(21)参考文献	参考資料は授業内で適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	レポートにて評価します。提示した課題に対する解答の構成・論理展開や妥当性などについて5段階で評価し60点以上を合格とします。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	擬似体験や視聴覚教材を多く用いますので、主体的に学修してください。
(25)留意点・予備知識	なし
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	世話教員：増田貴人 tmasuda@hirosaki-u.ac.jp 出欠の集計、レポート・成績管理等はとりまとめ教員（須藤）が行います。後日、連絡先をお知らせします。

教育学部

(1)整理番号	595
(2)区分番号	595
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程特別支援教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	重度・重複障害者教育総論 (Education for Children with Severe and/or Multiple Disabilities)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	特別支援教育専攻：選択必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員 (所属)	寺本 淳志 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての 具体的到達目標	○重度・重複障害児の障害特性を理解し、実態把握ができること ○重度・重複障害児に対する教育課程（特に自立活動を中心とした課程）の編成と授業づくり、評価方法を理解すること ○重度・重複障害児に対する教育と医療・福祉との連携、指導計画・支援計画との関連について理解すること
(15)授業の概要	重度・重複障害児教育について、重度・重複障害児の障害特性、教育にあたっての実態把握の方法と指導方法、教育課程の編成、医療・教育・福祉の連携の観点から講義を行います。講義には視聴覚教材や演習、グループディスカッションも取り入れます。
(16)授業の内容 予定	集中講義による授業のため、日程によっては順序の入替、受講者の習得度によって内容を変更する場合があります。 第1講 重度・重複障害の概念と臨床像、障害特性 第2講 重度・重複障害児教育の現状（学習指導要領の理解と医療・福祉との連携） 第3講 重度・重複障害児に対する教育課程と個別の指導計画、個別の教育支援計画 第4講 重度・重複障害児の実際（実態把握・医療的ケア） 第5講 重度・重複障害児の実際（言語・コミュニケーション指導） 第6講 重度・重複障害児の実際（知覚・認知・運動の発達） 第7講 重度・重複障害児の実際（実態に応じた指導・支援方法の実践） 第8講 重度・重複障害児の対する授業づくりとその評価 ・授業内容理解度テスト ※第4～7講の内容に演習およびグループディスカッションを含み、授業は講義と演習・ディスカッションを合わせて実施します。
	○集中講義のため、事前学習については掲示等により指示します。 ○復習課題については、授業日にワークシートやディスカッションのまとめ

(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	の作成等を授業内で指示します。 なお、上記については指定日までの提出を求めます。 ○授業でわからないことは、質問あるいは授業内で配布する感想カードへの記入等、そのままにせず解決に努めてください。
(18)学問分野 1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある 教員による 授業科目につ いて	-
(20)教材・教科 書	授業に必要な資料はレジメや参考資料として配布します。
(21)参考文献	○下記以外は授業内で適宜紹介します 宮崎修次・松本昭子（編）：重症心身障害医療と支援. 金芳堂. 2007. 細淵富夫：重症児の発達と指導. 全国障害者問題研究会出版部. 2007. 宮本信也・土橋圭子（編著）：病弱・虚弱児の医療・療育・教育 改訂3版. 金芳堂. 2015. 篠田達明（監）：肢体不自由児の医療・療育・教育 改訂3版. 金芳堂. 2015. 坂口しおり：障害の重い子どものコミュニケーション評価と目標設定. ジ アース教育新社. 2008.
(22)成績評価方 法及び採点基 準	○第8講に行う内容理解度テストで6割以上の得点を必須条件とし、その上 で、課題（提出を求めた事前学習と復習課題）、授業中の取り組み（演習や ディスカッションへの参加）の総合評価とします。 （比率 テスト：課題：取り組み＝6：3：1） ○出席が規定に満たない場合は成績評価の対象とはしません。ただし、大学 が認める合理的理由による欠席の場合に限り、配慮に努めますが、集中講義 のため対応できない場合もあります。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・ 授業方法	講義（一部演習を含む）
(25)留意点・予 備知識	○留意点 ・講義中に提示（紹介）する映像や資料、事例の取り扱い（レポート作成時 の引用・参考文献も含む）については、個人情報の保護や著作権に十分配慮 （注意）してください ・本科目は集中講義形式で実施します。日程や事前課題、準備物（持参品・服 装等）は掲示にて指示します。掲示を必ず確認するようにしてください。 ○予備知識 ・受講にあたり、今までに履修（学修）した特別支援教育関連科目の授業内 容および特別支援学校学習指導要領（特に重複障害者に関する記述部分）を 再度確認してください。
(26)オフィスア ワー	なし
(27)Eメールア ドレス・HPア ドレス	なし

(28)その他

世話教員：天海丈久
amagai@hirosaki-u.ac.jp

教育学部

(1)整理番号	596
(2)区分番号	596
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程特別支援教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	自閉症・情緒障害者教育総論 (Education for Children with Autistic Spectrum Disorders and Emotional Disorders)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	特別支援教育専攻：選択必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 1・2時限
(10)担当教員(所属)	天海 丈久 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易	レベル2

度 (レ ベル)	
(13) 対応 する CP/ DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14) 授業 とし ての 具体 的到 達目 標	<ul style="list-style-type: none"> ○自閉症者等の医学的診断基準、教育における定義について説明できること ○自閉症・情緒障害特別支援学級の教育課程について説明できること ○情緒障害者、自閉症者の支援方法及び自立活動の指導を検討するための基礎的な知識、技能、態度を習得すること
(15) 授業 の概 要	自閉症等の医学的診断基準、教育における定義及び判断基準、スクリーニングの方法、状態像、教育の場、教育課程の編成等についてテキスト等を参照しながら学びます。これらにもとづき、支援方法や自立活動の指導を検討するための基礎的な知識、技能、態度を習得します。
(16) 授業 の内 容予 定	第1回 オリエンテーション (LD者等教育総論と合同) 第2回 情緒障害の医学的診断基準と教育における定義 第3回 情緒障害のある子供の認知特性の測定方法と教育課程の編成 第4回 情緒障害のある子供の認知特性に応じた指導・支援 第5回 自閉症の医学的診断基準と教育における定義 第6回 自閉症のある子供の認知特性の測定方法と教育課程の編成 第7回 自閉症のある子供の認知特性に応じた指導・支援<1> 第8回 自閉症のある子供の認知特性に応じた指導・支援<2> 試験 2020年2月6日(木)
(17) 準備 学習 (予 習・ 復 習) 等 の 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ○授業終了時に示す次回の授業範囲を予習し、疑問点等を明確にしておいてください。 ○復習により、あいまいな事項や疑問点を持ち越さないようにしてください。
(18) 学問 分野 1(主 学問 分野)	教育学関連
	-

(18) 学問 分野 2(副 学問 分野)	
(18) 学問 分野 3(副 学問 分野)	-
(19) 実務 経験 のある 教員に よる 授業 科目 につ いて	実務教員
(20) 教 材・ 教科 書	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所（著）『特別支援教育の基礎・基本 新訂版 共生社会に向けたインクルーシブ教育システムの構築』（ジアース教育新社）
(21) 参 考 文 献	文部科学省初等中等教育局特別支援教育課（2013）『教育支援資料－障害のある子供の就学手続と早期からの一貫した支援の充実－』 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340250.htm より、「7 情緒障害」、「8 自閉症」をダウンロードし、必要に応じて印刷しておくこと。
(22) 成 績 評 価 方 法 及 び 採 点 基 準	平常評価（授業への参加度。レポート。評価全体の10%） 期末評価（試験。評価全体の90%） 上記を合算して成績評価を行います。 出席不足、成績不良による救済措置は、原則実施しません。しかし、病気等によるやむを得ない事情のため、しかるべき手続きがあった者に限り対応します。
(23) 授 業 形 式	講義
(24) 授 業	授業は講義形式で行います。また適宜映像も使用し、障害の理解が深まるように努めます。 必要に応じて、授業終了後にレポートを提出していただきます。

形態・授業方法	
(25) 留意点・予備知識	特になし
(26) オフィスアワー	木曜日、12時から12時40分の間においでください。研究室は、3-54です。
(27)E メールアドレス・HPアドレス	amagai@hirosaki-u.ac.jp
(28) その他	教科書は、各自生協で購入してください。

教育学部

(1)整理番号	597
(2)区分番号	597
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程特別支援教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	LD者等教育総論 (Education for Children with LD, ADHD, and Other Developmental Disabilities)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	特別支援教育専攻：選択必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 1・2時限
(10)担当教員(所属)	天海 丈久 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易	レベル2

度 (レベル)	
(13) 対応 する CP/ DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14) 授業 とし ての 具体 的到 達目 標	○学習障害、注意欠陥／多動性障害等の医学的診断基準、教育における定義について説明できること ○学習障害、注意欠陥／多動性障害の支援方法及び自立活動の指導を検討するための基礎的な知識、技能、態度を習得すること
(15) 授業 の概 要	学習障害、注意欠陥／多動性障害等の医学的診断基準、教育における定義及び判断基準、スクリーニングの方法、状態像、教育の場、教育課程の編成等についてテキスト等を参照しながら学びます。これらにもとづき、支援方法や自立活動の指導を検討するための基礎的な知識、技能、態度を習得します。
(16) 授業 の内 容予 定	第1回 オリエンテーション（自閉症・情緒障害者教育総論と合同） 第2回 学習障害（LD）の医学的診断基準と教育における定義 第3回 学習障害（LD）のある子供の気付きとのある子供の気付きと認知特性の測定方法 第4回 学習障害（LD）のある子供の認知特性に応じた指導・支援＜1＞ 第5回 学習障害（LD）のある子供の認知特性に応じた指導・支援＜2＞ 第6回 注意欠陥／多動性障害（ADHD）の医学的診断基準と教育における定義 第7回 注意欠陥／多動性障害（ADHD）のある子供の気付きと認知特性の測定方法 第8回 注意欠陥／多動性障害（ADHD）のある子供の認知特性に応じた指導・支援 試験 2020年2月6日（木）
(17) 準備 学習 (予 習・ 復 習) 等 の 内 容	○授業終了時に示す次回の授業範囲を予習し、疑問点等を明確にしておいてください。 ○復習により、あいまいな事項や疑問点を持ち越さないようにしてください。
(18) 学問 分野 1(主 学問 分野)	教育学関連

(18) 学問 分野 2(副 学問 分野)	-
(18) 学問 分野 3(副 学問 分野)	-
(19) 実務 経験 のある 教員に よる 授業 科目 につ いて	実務教員
(20) 教 材・ 教科 書	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所（著）『特別支援教育の基礎・基本 新訂版 共生社会に向けたインクルーシブ教育システムの構築』（ジアース教育新社）
(21) 参 考 文 献	文部科学省初等中等教育局特別支援教育課（2013）『教育支援資料－障害のある子供の就学手続と早期からの一貫した支援の充実－』 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340250.htm より、「9 学習障害」、「10 注意欠陥多動性障害」をダウンロードし、必要に応じて印刷しておいてください。
(22) 成 績 評 価 方 法 及 び 採 点 基 準	平常評価（授業への参加度。レポート。評価全体の10%） 期末評価（試験。評価全体の90%） 上記を合算して成績評価を行います。 出席不足、成績不良による救済措置は、原則実施しません。しかし、病気等によるやむを得ない事情のため、しかるべき手続きがあった者に限り対応します。
(23) 授 業 形 式	講義
(24) 授 業	授業は講義形式で行います。また適宜映像も使用し、障害の理解が深まるように努めます。 必要に応じて、授業終了後にレポートを提出していただきます。

形態・授業方法	
(25) 留意点・予備知識	特になし
(26) オフィスアワー	木曜日、12時から12時40分の間においでください。研究室は、3-54です。
(27)E メールアドレス・HPアドレス	amagai@hirosaki-u.ac.jp
(28) その他	教科書は、各自生協で購入してください。

教育学部

(1)整理番号	598
(2)区分番号	598
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程特別支援教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	言語障害者教育総論 (Education for Children with Speech Disorders)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	特別支援教育専攻：選択必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 7・8時限
(10)担当教員(所属)	小山内 筆子・今川 伸博(非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ことばの生理学的成り立ちと言語障がいとの関係を理解すること ○言語障がいの評価法について理解すること ○障がい特性に配慮した支援の在り方を理解すること ○障がい体験でコミュニケーション障がいの意味を理解すること ○障害概念の歴史的変遷を理解すること
(15)授業の概要	到達目標に記載された事項を通じて、言語障がい児のおかれた状況について共感的に理解する。
(16)授業の内容予定	<p>進捗により変更することもある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 言語障がいとは：ことばの生理学的基盤と言語障がい 2. ことばの生理学的基盤と言語障がい(続き) 3. 言語障がいの評価とアプローチ：発達評価 4. 言語障がいの評価とアプローチ：コミュニケーション指導 5. 吃音体験演習 6. コミュニケーション障がい体験演習 7. 構音障がい体験演習 8. 発達障がいのある児童・生徒への対応について：発達障害児へのコミュニケーション支援を考える
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習・復習及び学習の発展に努めること。
(18)学問分野1(主学問分野)	口腔科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	生体の構造と機能関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	テキストは使用しない。
(21)参考文献	授業内で必要に応じて適宜紹介する。
	成績評価は障がい体験レポートによる。60点以上を合格とし単位を認定する。

(22)成績評価方法及び採点基準	
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	一部演習を含む
(25)留意点・予備知識	なし
(26)オフィスアワー	なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	なし
(28)その他	世話教員：増田貴人 tmasuda@hirosaki-u.ac.jp 成績のとりまとめは「聴覚障害者教育総論」担当の須藤先生が、本科目と合わせて行います。

教育学部

(1)整理番号	599
(2)区分番号	599
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程特別支援教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	特別支援学校教育実習（3年）（Teaching Practicum (Special Needs Education School)）
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	特別支援教育専攻：必修
(7)単位	2
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員 (所属)	教育実践総合センター教育実習部門教員
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル3
(13)対応する C P / D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業とし ての具体的到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> ○教育現場で障害のある児童生徒と接しながら、児童生徒理解を深め、専門的な指導技術の習得を図ることができるようになること ○教師の実務全般に対して課題意識をもって取り組み、実践を踏まえて、より教育理論の理解を深めることができるようになること ○児童生徒の障害状況や行動特徴などの実態を把握し、そのもてる能力を發揮することができるような指導方法を習得すること ○一人一人の実態に応じた指導内容の精選や指導方法の工夫など、特別支援学校の教育に関する指導技術を習得すること ○児童生徒の実態に応じた健康観察の方法や教育活動時の安全管理の方法を習得すること
(15)授業の概 要	比較的長期間にわたり、特別支援学校児童生徒との直接的な接触を豊かにして児童理解を深め、児童の実態や心情的側面の理解に基づいて授業に関する実践的能力を高めるとともに、学級経営や特別活動に参加し、学校における教師の職務・活動を全体的に理解し、教科外活動に関しても実践的指導能力を高める。
(16)授業の内 容予定	<ul style="list-style-type: none"> ○オリエンテーション・事前指導 別途指示される4日間。 講話・観察・参加をとおして、特別支援学校の特色や児童生徒の実態、教育実習に際しての心構えについて理解を図る。 ○本実習 別途指定される8月下旬～9月上旬の10日間。 観察・参加・授業実習・整理をとおして、①児童生徒と主体的にかかわり、実態把握の仕方について理解する。②指導教諭の指導を得ながら、教育活動全般について認識を深める。③実習をとおして、特別支援教育の指導および支援方法について学ぶ。 ○事後指導（3年次主専攻、4年次主・副専攻合同で行う） 別途指示される2日間。

	講話・整理をとおして、実習の反省と整理を行うと共に、特別支援教育を取り巻く現状や課題を学び、さらなる理解を図る。
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	1. 健康管理をしっかりと行い、体調を整えて実習に望むこと。 2. 感染症の予防のために必要な予防接種を受けること。 3. 規則正しい生活をし、遅刻や欠席がないようにする。
(18)学問分野 1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験 のある教員によ る授業科目につ いて	実務教員
(20)教材・教 科書	教育実習手引 配属学部・担当授業に応じた教科書
(21)参考文献	必要に応じて指示される
(22)成績評価 方法及び採点基 準	教職への取り組み、学習指導、生徒指導・学級経営、組織・協働の領域について、5段階で評価する
(23)授業形式	実習
(24)授業形 態・授業方法	実習
(25)留意点・ 予備知識	事前・事後指導には、必ず出席すること。 事前・事後指導や教育実習を無断で欠席したり、事前・事後指導や教育実習中に不誠実な言動（指導担当教員の指示に従わない等の実習態度の問題、えこひいき、体罰、セクハラ行為等）があったりした場合は、教育実習部門・特別支援学校との協議・判断で受講を取り消すことがある。
(26)オフィス アワー	事前指導・掲示にて別途指示がある
(27)Eメールア ドレス・HPア ドレス	事前指導・掲示にて別途指示がある
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	600
(2)区分番号	600
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程特別支援教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	特別支援学校教育実習（4年）（Teaching Practicum (Special Needs Education School)）
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員 (所属)	教育実践総合センター教育実習部門教員
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル4
(13)対応する C P / D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業とし ての具体的到 達目標	<p>○教育現場で障害のある児童生徒と接しながら、児童生徒理解を深め、専門的な指導技術の習得を図ることができるようになること</p> <p>○教師の実務全般に対して課題意識をもって取り組み、実践を踏まえて、より教育理論の理解を深めることができるようになること</p> <p>○児童生徒の障害状況や行動特徴などの実態を把握し、そのもてる能力を発揮することができるような指導方法を習得すること</p> <p>○一人一人の実態に応じた指導内容の精選や指導方法の工夫など、特別支援学校の教育に関する指導技術を習得すること</p> <p>○児童生徒の実態に応じた健康観察の方法や教育活動時の安全管理の方法を習得すること</p>
(15)授業の概 要	比較的長期間にわたり、特別支援学校児童生徒との直接的な接触を豊かにして児童理解を深め、児童の実態や心情的側面の理解に基づいて授業に関する実践的能力を高めるとともに、学級経営や特別活動に参加し、学校における教師の職務・活動を全体的に理解し、教科外活動に関しても実践的指導能力を高める。
(16)授業の内 容予定	<p>○オリエンテーション・事前指導 別途指示される2日間。 講話・観察・参加をとおして、特別支援学校の特色や児童生徒の実態、教育実習に際しての心構えについて理解を図る。</p> <p>○本実習 別途指定される8月下旬～9月上旬の10日間。 （主専攻）観察・参加・授業実習・整理をとおして、①3年次実習を通して習得したことをさらに発揮し、自己の研究課題を深める。②特別支援教育の指導および支援方法とその展開について理解を深める。③教育理論を実践的に体得し、新しい教育理論探求のための課題を発見する。④教職への適性を自己評価し、教職に対する自覚と使命感を高める。 （副専攻）観察・参加・授業実習・整理をとおして、①実習を通して、特別支援教育の指導および支援方法とその展開について学ぶ。②教育理論を実践的に体得し、新しい教育理論探求のための課題を発見する。③教職としての自己の</p>

	<p>特長や課題を自覚し、自己の研究課題を深める。</p> <p>○事後指導（3年次主専攻、4年次主・副専攻合同で行う） 別途指示される2日間。 講話・整理をとおして、実習の反省と整理を行うと共に、特別支援教育を取り巻く現状や課題を学び、さらなる理解を図る。</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康管理をしっかりと行い、体調を整えて実習に望むこと。 2. 感染症の予防のために必要な予防接種を受けること。 3. 規則正しい生活をし、遅刻や欠席がないようにする。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	教育実習手引 配属学部・担当授業に応じた教科書
(21)参考文献	必要に応じて指示される
(22)成績評価方法及び採点基準	教職への取り組み、学習指導、生徒指導・学級経営、組織・協働の領域について、5段階で評価する
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	実習
(25)留意点・予備知識	事前・事後指導には、必ず出席すること。 事前・事後指導や教育実習を無断で欠席したり、事前・事後指導や教育実習中に不誠実な言動（指導担当教員の指示に従わない等の実習態度の問題、えこひいき、体罰、セクハラ行為等）があったりした場合は、教育実習部門・特別支援学校との協議・判断で受講を取り消すことがある。
(26)オフィスアワー	事前指導・掲示にて別途指示がある
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	事前指導・掲示にて別途指示がある
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	601
(2)区分番号	601
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程特別支援教育専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	事前事後指導（特別支援学校）（Guidance before Practicum, Guidance after Practicum（Special Needs Education School））
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	特別支援教育専攻：必修
(7)単位	1
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員 (所属)	教育実践総合センター教育実習部門教員
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○特別支援教育における教育実習の事前準備と事後の省察をとおして、児童生徒理解を深め、専門的な指導技術の習得を図ることができるようになること ○教師の実務全般に対して課題意識をもって取り組み、実践を踏まえて、より教育理論の理解を深めることができるようになること
(15)授業の概要	特別支援学校教育実習の事前に、講話・観察・参加をとおして、特別支援学校の特色や児童生徒の実態、教育実習に際しての心構えについて理解を図る。 特別支援学校教育実習の事前に、講話・整理をとおして、実習の反省と整理を行うと共に、特別支援教育を取り巻く現状や課題を学び、さらなる理解を図る。
(16)授業の内容 予定	○オリエンテーション・事前指導 別途指示される4日間。 講話・観察・参加をとおして、特別支援学校の特色や児童生徒の実態、教育実習に際しての心構えについて理解を図る。 ○本実習 別途指定される8月下旬～9月上旬の10日間。 観察・参加・授業実習・整理をとおして、①児童生徒と主体的にかかわり、実態把握の仕方について理解する。②指導教諭の指導を得ながら、教育活動全般について認識を深める。③実習をとおして、特別支援教育の指導および支援方法について学ぶ。 ○事後指導（3年次主専攻、4年次主・副専攻合同で行う） 別途指示される2日間。 講話・整理をとおして、実習の反省と整理を行うと共に、特別支援教育を取り巻く現状や課題を学び、さらなる理解を図る。
	1. 健康管理をしっかりと行い、体調を整えて実習に望むこと。 2. 感染症の予防のために必要な予防接種を受けること。 3. 規則正しい生活をし、遅刻や欠席がないようにする。

(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	
(18)学問分野 1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験の ある教員による 授業科目につい て	実務教員
(20)教材・教科 書	教育実習手引 配属学部・担当授業に応じた教科書
(21)参考文献	必要に応じて指示される
(22)成績評価方 法及び採点基準	教職への取り組み、学習指導、生徒指導・学級経営、組織・協働の領域につ いて、5段階で評価する。なお事前・事後指導の採点は本実習と連動させて行 う。
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・ 授業方法	実習
(25)留意点・予 備知識	事前・事後指導や教育実習を無断で欠席したり、事前・事後指導や教育実習 中に不誠実な言動（指導担当教員の指示に従わない等の実習態度の問題、え こひいき、体罰、セクハラ行為等）があったりした場合は、教育実習部門・ 特別支援学校との協議・判断で受講を取り消すことがある。
(26)オフィスア ワー	事前指導・掲示にて別途指示がある
(27)Eメールア ドレス・HPアド レス	事前指導・掲示にて別途指示がある
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理 番号	602
(2)区分 番号	602
(3)科目 種別	教育学部学校教育教員養成課程特別支援教育専攻
(4)授業 科目名 〔英文 名〕	特別支援教育の原理と歴史 (Theory and History of Inclusive Education)
(5)対象 学年	3
(6)必 修・選 択	特別支援教育専攻：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜 日・時 限	金曜日 3・4時限
(10)担 当教員 (所 属)	中山忠政 (教育学部)
(11)地 域志向 科目	-
(12)難 易度 (レベ ル)	レベル3
(13)対 応する CP/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授 業とし ての具	○特別支援教育の歴史について、その概観を理解すること (見通す力) ○特別支援教育に関わる原理 (考え方や背景) について習得し、応用できること (学 び続ける力)

体的到達目標	
(15)授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・前半の特別支援教育（日本・世界）の歴史では、テキストを通読します（個人でまとめを行い、それをグループで検討します）。 ・後半の特別支援教育の原理では、以下の文書を取り上げ、通読（英語）していきます。 <p>特別なニーズ教育に関する世界会議（1994）「サラマンカ宣言」 （または）障害者権利委員会（2016）「一般的意見第4号」</p>
(16)授業の内容予定	<p>【授業内容については、変更する場合があります】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 【2～5回：特別支援教育（世界）の歴史】 2 特別支援教育（世界）の歴史（1） 3 特別支援教育（世界）の歴史（2） 4 特別支援教育（世界）の歴史（3） 5 特別支援教育（世界）の歴史（4） 【6～9回：特別支援教育（日本）の歴史】 6 特別支援教育（日本）の歴史（1） 7 特別支援教育（日本）の歴史（2） 8 特別支援教育（日本）の歴史（3） 9 特別支援教育（日本）の歴史（4） 【10～14回：特別支援教育の原理】 10 特別支援教育の原理（1） 11 特別支援教育の原理（2） 12 特別支援教育の原理（3） 13 特別支援教育の原理（4） 14 特別支援教育の原理（5） 【まとめおよび試験】 15 まとめ 16 試験
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	<p>各授業回毎に、各章のまとめとともに、①わからなかった事項について調べた内容、②年表にまとめる、などしておく。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	<p>教育学関連</p>
(18)学問分野2(副学問分野)	<p>-</p>
(18)学問分野3(副学問分野)	<p>-</p>
(19)実務経験のある教員に	<p>-</p>

よる授業科目について	
(20)教材・教科書	<p>山下麻衣 (2014) 『歴史のなかの障害者』 法政大学出版会978-4588603341 http://www.h-up.com/books/isbn978-4-588-60334-1.html (または、中村満紀男・荒川智 (編集) 『障害児教育の歴史』 明石書店978-4750390482) サラマンカ宣言 http://www.unesco.org/education/pdf/SALAMA_E.PDF 一般的意見第4号 http://tbinternet.ohchr.org/_layouts/treatybodyexternal/Download.aspx?symbolno=CRPD/C/GC/4&Lang=en</p>
(21)参考文献	<p>精神薄弱問題史研究会 (編集) 『人物でつづる障害者教育史〈日本編〉』 日本文化科学社978-4821066735 精神薄弱問題史研究会 (編集) 『人物でつづる障害者教育史〈世界編〉』 日本文化科学社978-4821066742</p>
(22)成績評価方法及び採点基準	レポートおよび試験の結果などを総合して評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	段落毎に交代に報告しながら、討議を行います。2回目の授業は、テキスト第1章「初等教育と知的障害児」(13～48ページ)のまとめを、全員提出することとなります。テキスト終了後は、上記文献の英訳を行います。指定の期日までに、成果物(通してのまとめを含む)の提出を求めます。
(25)留意点・予備知識	積極的な課題への取り組みが求められます。
(26)オフィスアワー	前期：月曜日の昼休み 後期：金曜日の昼休み
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	tadamasa●hirosaki-u.ac.jp ※「●」を「@」に置き換えてください。
(28)その他	なし

教育学部

(1)整理番号	603
(2)区分番号	603
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程特別支援教育専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	精神衛生 (Mental Hygiene)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	特別支援教育専攻：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日 5・6時限
(10)担当教員(所 属)	平岡恭一 (非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベ ル)	レベル2
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての 具体的到達目標	○精神保健・精神衛生に関する心理学的な基本概念を身につけ、その視点から心の健康としての精神保健・精神衛生をとらえることができるようになること
(15)授業の概要	前半は精神保健・精神衛生の基礎的理解を目指し、心の健康を説明する概念としての適応という視点から、欲求不満やストレスなどについて解説する。後半は子どもたちが実際にどのような心身の問題を生じるのかを、発達段階に即して述べていく。
(16)授業の内容予 定	I. 精神保健・精神衛生とは II. 精神保健と適応 III. 不適応と欲求不満・葛藤 IV. 不適応とストレス V. 防衛機制 VI. 正常と異常 VII. 欲求充足と精神保健 VIII. 精神障害と精神保健 IX. 発達のあらずじ X. 発達理論 XI. 子どもの心の問題の特徴と分類 XII. 子どもの発達に伴う心の問題の例 XIII. 発達障害について XIV. メンタルヘルスチェック XV. 応用行動分析入門 最終週 筆記試験
(17)準備学習(予 習・復習)等の内容	復習を十分にすること。
(18)学問分野1(主 学問分野)	心理学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	ブレインサイエンス関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	授業中に資料を配布する。
(21)参考文献	授業の中で紹介することがある。
(22)成績評価方法及び採点基準	期末試験によって評価する。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	主に資料と板書によって内容を解説するが、簡単な心理テストの紹介やビデオ視聴なども含む。
(25)留意点・予備知識	講義時間内に疑問点を解決するように努めること。
(26)オフィスアワー	非常勤講師のため設定なし。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	非常勤講師のため設定なし。
(28)その他	世話教員：教育保健講座（「精神保健」）の世話教員

教育学部

(1)整理番号	604
(2)区分番号	604
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程特別支援教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	臨床発達心理学演習（2年前）（Seminar in Clinical Developmental Psychology）
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	特別支援教育専攻：選択必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日 5・6時限
(10)担当教員（所属）	○増田 貴人・天海 丈久（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○発達支援のために必要なデータを収集するための方法（アセスメントツールの使用や観察法など）についての基礎的・基本的な知識、技能を習得すること ○アセスメント結果を解釈し、支援につなげるための考察を含めた所見を書くことができること
(15)授業の概要	発達支援において必要となる基礎的な心理学実験及び心理検査実習、観察法や特性評価を行います。
(16)授業の内容予定	授業の進度や状況に応じて、内容を変更することもあります。 第1回 （両教員）ガイダンス 第2回 （天海）遠城寺式乳幼児分析的発達検査の実習と解釈 第3回 （天海）乳幼児発達スケール（KIDS）の実習と解釈 第4回 （天海）S-M社会生活能力検査第3版の実習と解釈 第5回 （天海）グッドイナフ人物画知能検査（DAM）の実習と解釈及びレポート 第6回 （増田）心理検査（ビネー式）に関する実習<1>（乳児幼児期） 第7回 （増田）心理検査（ビネー式）に関する実習<2>（児童期～前青年期） 第8回 （増田）心理検査（ビネー式）に関する実習<3>（成人期） 第9回 （増田）心理検査（ビネー式）による実習4（IQ、精神年齢の算出）及びレポート 第10回 （天海）知能検査（ウェクスラー式）の解説 第11回 （天海）知能検査（ウェクスラー式）の実習<1> 第12回 （天海）知能検査（ウェクスラー式）の実習<2> 第13回 （天海）知能検査（ウェクスラー式）の実習<3> 第14回 （天海）知能検査（ウェクスラー式）の実習<4> 第15回 （天海）知能検査（ウェクスラー式）結果の解釈及びレポート
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	疑問点は次回までに解消するよう努めてください。 検査等については、講義時間内に終了しない場合もありうるので、適宜時間を見つけて行ってください。
	教育学関連

(18)学問分野1(主学問分野)	
(18)学問分野2(副学問分野)	心理学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	担当教員より必要に応じて適宜指示があります。
(21)参考文献	担当教員より必要に応じて適宜指示があります。
(22)成績評価方法及び採点基準	実習に対する姿勢・態度、及び授業中数回課されるレポートにて評価します。
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	各発達検査や心理検査の概要、実施法、結果の集計、解釈について、実習を通して学びます。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	増田：月曜7/8時限 天海：木曜日の昼休み（12:00～12:40）
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	増田： tmasuda@hirosaki-u.ac.jp 天海： amagai@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	605
(2)区分番号	605
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程特別支援教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	臨床発達心理学演習（2年後）（Seminar in Clinical Developmental Psychology）
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	特別支援教育専攻：選択必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日 5・6時限
(10)担当教員（所属）	○増田 貴人・天海 丈久（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○発達支援のために必要なデータを収集するための方法（アセスメントツールの使用や観察法など）についての基礎的・基本的な知識、技能を習得すること ○アセスメント結果を解釈し、支援につなげるための考察を含めた所見を書くことができること
(15)授業の概要	発達支援において必要となる基礎的な心理学実験及び心理検査実習、観察法や特性評価を行います。
(16)授業の内容予定	授業の進度や状況に応じて、内容を変更することもあります。 第1回 (天海) 認知検査 (DN-CAS) の解説 第2回 (天海) 認知検査 (DN-CAS) の実習<1> 第3回 (天海) 認知検査 (DN-CAS) の実習<2> 第4回 (天海) 認知検査 (DN-CAS) 結果の解釈とレポートの作成 第5回 (天海) KABC-II の解説 第6回 (天海) KABC-II の実習<1> 第7回 (天海) KABC-II の実習<2> 第8回 (天海) KABC-II の実習<3> 第9回 (天海) KABC-II の実習<4> 第10回 (天海) KABC-II の結果の解釈とレポート 第11回 (増田) 視覚検査 (DTVP)、コース立方体組み合わせテストの解説と実習 第12回 (増田) 質的情報収集法（観察法、面接法）の解説 第13回 (増田) 面接法の実践 第14回 (増田) 面接法の解釈 第15回 (増田) 質的情報収集法のレポート
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	疑問点は次回までに解消するよう努めてください。 検査等については、講義時間内に終了しない場合もありうるので、適宜時間を見つけて行ってください。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	心理学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	担当教員より必要に応じて適宜指示があります。
(21)参考文献	担当教員より必要に応じて適宜指示があります。
(22)成績評価方法及び採点基準	実習に対する姿勢・態度、及び授業中数回課されるレポートにて評価します。
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	各発達検査や心理検査の概要、実施法、結果の集計、解釈について、実習を通して学びます。
(25)留意点・予備知識	前期の臨床発達心理学演習を履修済みであることが必要です。未履修は原則として後期分の受講を認めません。
(26)オフィスアワー	増田：月曜7/8時限 天海：木曜日の昼休み（12:00～12:40）
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	増田： tmasuda@hirosaki-u.ac.jp 天海： amagai@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	606
(2)区分番号	606
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程特別支援教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	特別支援教育体験実習 (Participant Observation of School and Class for Children with special needs)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	特別支援教育専攻：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	木曜日 9・10時限
(10)担当教員(所属)	中山忠政(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援学校の目的と役割について、理解すること(見通す力) ○特別支援学校の教員の専門性と役割について、理解すること(見通す力) ○特別支援学校の児童生徒の特徴について、理解すること(見通す力) ○特別支援学校の児童生徒に対する、適切かつ具体的な援助について身に付けること(解決していく力)
(15)授業の概要	附属特別支援学校の授業に継続的に参加する(平日の午前中)とともに、平行して学内での省察活動(木曜日9・10時限)を行い、特別支援学校での活動の理解を深めます。
(16)授業の内容予定	<p>【事前指導】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ガイダンス 2) 事前指導(学内)(1) 3) 事前指導(学内)(2) 4) 事前指導(特別支援学校) <p>【特別支援学校における活動】</p> <p>5～15回 特別支援学校における活動</p> <p>【省察活動(学内)】</p> <p>16～26回 省察活動(学内)</p> <p>【事後指導】</p> <ol style="list-style-type: none"> 27) 事後指導(学内) 28) 事後指導(学内) 29) 事後指導(特別支援学校) 30) まとめ <p>※「特別支援学校における活動」と「省察活動(学内)」は、平行して行います。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	特別支援学校において活動を行った分の日誌の作成ならびに、「動機と課題」「まとめ」のレポートの作成などを行うこと。
	教育学関連

(18)学問分野1(主学問分野)	
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	なし
(21)参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省『特別支援学校幼稚部教育要領・特別支援学校小学部・中学部学習指導要領』海文堂出版 ・文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（幼稚部・小学部・中学部）』開隆堂出版 ・文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 各教科編（幼稚部・小学部・中学部）』開隆堂出版 ・文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（高等部）』海文堂出版 ・文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）』開隆堂出版
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>日誌、省察活動における参加、レポートなどを総合して評価します。 なお、特別支援学校での活動に無断で欠席したり、他の授業を履修している時間帯に活動を行った場合などは、適正な活動が行えなかったものとして、単位の認定は行いません。</p>
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	<p>平日の午前中：附属特別支援学校の授業への参加 木曜日9・10時限：学内での省察活動 の両方を期間中、繰り返して行うこととなります。</p>
(25)留意点・予備知識	<p>「特別支援教育の基礎理論」を受講済みであること。 「特別支援学校の教育課程」を受講していることが望ましい。 ⑨なお、履修希望者数によっては、履修ができない場合もあります。</p>
(26)オフィスアワー	<p>前期：月曜日の昼休み 後期：金曜日の昼休み</p>
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<p>tadamasa●hirosaki-u.ac.jp ※「●」を「@」に置き換えてください。</p>
(28)その他	<p>第1回（初回）に、活動時間帯の調整等を行うので、受講希望者は必ず出席すること。</p>

教育学部

(1)整理番号	607
(2)区分番号	607
(3)科目種別	教育学部学校教育教員養成課程特別支援教育専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	特別支援教育相談支援 (Educational Consultation and Support for Children with Disabilities)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	特別支援教育専攻：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	木曜日 9・10時限
(10)担当教員(所属)	○増田 貴人・天海 丈久(教育学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○特別な教育的支援を要する児童・生徒に対する個別指導計画の作成をすることができること ○作成した個別指導計画にもとづく支援を行い、保護者への報告を含む相談・支援の評価をすることができること
(15)授業の概要	特別支援教育センターで行われている特別支援教育相談のなかで、特別な教育的支援を要する児童・生徒の理解とその支援方法を実践的に学ぶ。実際には、教員からの指導のもと、教育相談活動へ参加する。
(16)授業の内容予定	授業の進行状況等により内容が異なることがある。 (前期) 第1回 オリエンテーション、概要説明 第2回 支援の実際 第3回 特別な支援を要する子どもの特性と指導法 第4回 アセスメント 第5回 指導計画の立案 第6回 対象児の観察 第7回 指導 -行動的側面から- 第8回 指導 -認知的側面から- 第9回 指導 -社会性側面から- 第10回 中間整理 第11回 指導および評価 -行動的側面から- 第12回 指導および評価 -認知的側面から- 第13回 指導および評価 -社会性の側面から- 第14回 結果報告書作成 第15回 保護者および在籍校教員への報告 (後期) 第16回 オリエンテーション、支援計画の再策定 第17回 支援計画の見直し 第18回 特別な支援を要する子どもの特性と指導法(確認) 第19回 再アセスメント 第20回 アセスメント結果の解釈 第21回 対象児の再観察

	第22回 指導 -行動的側面から- 第23回 指導 -認知的側面から- 第24回 指導 -社会性側面から- 第25回 中間整理 第26回 指導および評価 -行動的側面から- 第27回 指導および評価 -認知的側面から- 第28回 指導および評価 -社会性の側面から- 第29回 結果報告書作成 第30回 保護者および在籍校教員への最終報告
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	担当する子ども・教室・状況などを事前に把握し、適切な対応をするためにあらかじめ必要な情報を収集するとともに、必ず記録をまとめ次回の支援に備え役立てること。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	特になし。必要に応じて適宜提示する。
(21)参考文献	特になし。必要に応じて適宜提示する。
(22)成績評価方法及び採点基準	担当児の理解、個別指導計画とそれに基づく支援、指導結果報告書をもとに評価する。 なお、社会的責任という観点から、社会的な常識を大幅に逸脱した対応(無断欠席や無責任等)が明らかな場合、即座に受講を中断させるなどの厳しい対応をすることがある。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	特別支援教育センターの教育相談事業に参加する実習。適宜教員や特別支援教育センター相談補助員等の指導・助言・援助を受ける。
(25)留意点・予備知識	当該曜日・時限を中心に、それ以外も空き時間帯を活用しながら準備する必要がある。 特別支援教育専攻の1年次・2年次科目を履修していること。
(26)オフィスアワー	増田：月曜7/8時限 天海：木曜日の昼休み(12:00~12:40)
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	tmasuda@hirosaki-u.ac.jp (増田) amagai@hirosaki-u.ac.jp (天海)
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	608
(2)区分番号	608
(3)科目種別	教育学部養護教諭養成課程
(4)授業科目名 〔英文名〕	養護学概論 (Introduction to School Health Nursing)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	養護教諭養成課程：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日 3・4時限
(10)担当教員 (所属)	小林央美 (教育学研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル3~4
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目 標	○養護とは何かについて理解し、考察できること ○養護活動過程について理解し、説明できること ○養護教諭に求められる資質能力について理解し、説明できること ○自己の理想とする養護教諭像をえがけること
(15)授業の概要	養護の概念と目的・機能・養護の対象について、養護教諭の歴史や養成制度、子どもの健康課題の変化、専門職の捉え方、学校保健の歴史から学びます。さらに、養護実践の活動過程について、養護の概念と照らしながら学びます。講義を中心としますがグループ討議や発表も取り入れます
(16)授業の内容 予定	<ol style="list-style-type: none"> 1) 養護教諭を目指す上での本授業の意義と目標について理解する。 2) グループワークで、現在の理想とする養護教諭像を明確にする。 3) 養護教諭の制度 (設置規定・職務規程) の現状について学び、そこから制度の課題について考察する。 4) 養護教諭の制度 (資格要件・養成制度) の現状について学び、そこから制度の課題について考察する。 5) 養護教諭の制度研究の必要性について考察する。 6) 養護教諭の制度発展の要因と養護教諭の実践について考察する。 7) 養護教諭の歴史を養護教諭の役割の拡大変化の過程から読み解き、その要因から養護とは何かについて考える。 8) 養護教諭の役割の拡大変化の要因と実践のあり方について考える。 9) 養護教諭の専門性とは何かについて～専門職の視点から～ 10) 養護教諭の専門性とは何かについて～養護の対象の観点から～ 11) 養護の概念とその機能について、諸氏の理論等を元に考える。 12) 養護活動の活動過程から、養護の実践構造について考える。 13) 養護活動過程を養護の概念に照らして考える。 14) 養護教諭に求められる資質について、前時までの学びをもとに、各答申等の意味を考える。 15) 理想とする養護教諭像と今後の学習課題について 16) テスト <p>上記の授業を通して、自己の子ども観、教育観を問い直してみる。また、学</p>

	<p>校教育の中における養護の意義や機能について考える。</p> <p>授業の進行状況により、内容が変更されることがあります。</p>
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	<p>・養護教諭の歴史について、大正17年の職務規程以降の資料をもとに「養護教諭の職務」の拡大変化を読み解く。</p>
(18)学問分野 1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	学際・新領域
(19)実務経験のある 教員による 授業科目につ いて	実務教員
(20)教材・教科 書	岡田加奈子編：養護教諭のための現代の教育ニーズに対応した養護学概論、東山書房（図書館）
(21)参考文献	三木とみ子編：養護概説、ぎょうせい（図書館） とよしまめぐみ：おばあちゃんイスと保健室、東山書房 その他授業の中で紹介します。
(22)成績評価方 法及び採点基準	<p>1) 平常評価：授業態度・グループワークへの参加</p> <p>2) 中間評価：中間レポート・小テスト</p> <p>3) 期末評価：期末試験</p> <p>上記を合算して、最終的な成績を評定します。</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・ 授業方法	講義を中心としますが、グループ討議とその発表も随所に加える予定です。
(25)留意点・予 備知識	<p>・中間レポート用に「養護学ノート」を準備すること（このノートは養護学演習Ⅰ・Ⅱ・養護学実習でも活用する）</p> <p>・授業内容により、学生と日程調整の上、2コマ続きの授業を行うことがある。</p>
(26)オフィスア ワー	オフィスアワー 月曜日 14:30～15:30
(27)Eメールア ドレス・HPア ドレス	Eメールアドレス：hiromi@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	609
(2)区分番号	609
(3)科目種別	教育学部養護教諭養成課程
(4)授業科目名〔英文名〕	養護学基礎実習 (Basic Training of School Health Nursing)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	養護教諭養成課程：選択必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 7・8・9・10時限 (隔週)
(10)担当教員(所属)	新谷 ますみ(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル1
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○健康診断の実施項目(視力・聴力・身体計測・脊柱側弯等)の検査・測定方法と結果の分析について理解し、説明できること ○学校における健康診断の測定方法や結果の分析を、検査・測定の意義との関連で理解し、説明できること ○検査・測定について、学校における健康診断の意義と関連づけて理解し、説明できること
(15)授業の概要	健康診断の実施項目(視力・聴力・身体計測・脊柱側弯等)の検査・測定方法と結果の分析について、検査・測定の意義を考察しながら実習する。 実習を通して、児童生徒への事前指導・事後指導のあり方について考える。 授業での考察を活かして、集団保健指導を立案し、実施する。 一連の実習とその課題解決学習を通して、学校における健康診断の意義を考える。
(16)授業の内容予定	1) 学校における健康診断を受けた経験から、学校における健康診断のあり方を探る(討議) 2) 1)の討議結果から、学校における健康診断について学ぶことの意義と内容について気づきを持つ 3) 聴力検査の原理と検査方法 4) 学校教育における聴力検査の意義 5) 遠見・近見視力検査の原理と方法 6) 学校教育における視力検査の意義 7) 身体計測の意義と測定方法・体型評価の方法 8) 学校教育における身体測定の意義 9) 歯の検査表の記入とその検査項目の理解 10) 学校における歯科検診の意義 11) 健康診断における事前・事後の保健指導 12) 脊柱側弯検査の方法とその検査項目の理解 13) 学校における脊柱側弯検査の意義 14) 疾病統計の理解

	15) 学校教育における疾病統計結果の活用 16) 筆記試験
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	・学校における健康診断の方法について、「児童生徒の健康診断マニュアル」等を読み、予習を行って授業に参加する。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	看護学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	児童生徒の健康診断マニュアル(日本学校保健会)
(21)参考文献	授業の中で適宜紹介
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価：実習への参加態度、討議での発表状況、レポート 期末評価：筆記試験
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	健康診断の実習・実技 事後措置としての集団保健指導の立案と実施
(25)留意点・予備知識	養護学実習の前に履修していることが望ましい。
(26)オフィスアワー	前期:木曜日13:00~14:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	a_masimi1998@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	610
(2)区分番号	610
(3)科目種別	教育学部養護教諭養成課程
(4)授業科目名〔英文名〕	養護学演習I (School Health Nursing, Seminar I)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	養護教諭養成課程：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日 1・2時限
(10)担当教員(所属)	小林央美(教育学研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3~4
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	<p>「養護の概念」や「養護教諭の専門性」「養護活動過程」に照らして、以下の実践活動について理解し、養護教諭への意欲を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保健室の機能について理解し、説明できること ○学校における救急処置活動の意義と特徴について理解し、説明できること ○学校における健康観察や保健調査について理解し、説明できること ○健康観察や保健調査から、養護活動過程における健康実態の把握・健康課題の発見・問題構造の明確化・発生要因の分析について、実践的に理解し、説明できること ○健康課題を持つ児童生徒への支援の展開のあり方について、理解し、説明できること ○児童生徒の発達段階や学校の特性に応じた養護活動の展開のあり方を考察し、説明できること
(15)授業の概要	<p>養護の概念や養護教諭の専門性・養護活動過程等の「養護学概論」における学習を基盤として、「養護活動の過程と実際」について、実践的に学びます。特に、学校における救急処置活動の特徴・健康観察や保健調査のあり方・健康課題を持つ児童生徒への発達段階に応じた支援のあり方を取り上げ、健康実態の把握・健康課題の発見・問題構造の明確化・発生要因の分析・ヘルスニーズの共通化・計画立案・養護活動・評価の一連の養護活動過程の展開について学びます。また、これらの活動過程における「子ども観・養護教諭観・教育観・健康観」についても取り上げます。</p>
(16)授業の内容予定	<p>養護活動過程に沿って、どのような方法で、どのように活動を展開するのか・展開の課題と解決は何かについて、原理、法的根拠、養護の概念や養護教諭の機能等を踏まえ、実践的に検討しながら、学びます。また、児童生徒の発達段階や学校の特性も 検討します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実際の養護活動を取り上げる学びの意義について 2) 保健室設置・諸帳簿・備品についての法的根拠を理解し、そこから保健室の機能について考察する。

	<p>3) 保健室での対応事例の分析を通して、保健室の機能について考察する。</p> <p>4) 学校における救急処置活動の特徴とその処置過程～養護教諭の実践事例から討議を通してまとめる～</p> <p>5) 学校における救急処置活動の特徴とその処置過程～学校救急処置活動の考え方や特徴について整理し、まとめる～</p> <p>6) 保健室経営について～中学校の保健室経営の特徴～</p> <p>7) 保健室経営について～中学校の保健室経営の実際～</p> <p>8) 保健室経営について～高校の保健室経営の特徴～</p> <p>9) 保健室経営について～高校の保健室経営の実際～</p> <p>10) 健康課題を持つ児童生徒への支援～養護を司る視点から慢性疾患を有する児童生徒への関わりのあり方について、討議し、考えを深める。</p> <p>11) 健康課題を持つ児童生徒への支援～養護を司る視点から慢性疾患を有する児童生徒への関わりのあり方について、事例検討を通して、考えを深める。</p> <p>12) 学校教育と健康教育、養護教諭～学校保健安全計画・健康教育・保健指導・保健学習の概要について～</p> <p>13) 学校における保健調査の実際と活用・評価</p> <p>14) 健康観察の実際と活用・評価 健康実態の捉え方とその視点</p> <p>15) 児童生徒の発達段階や学校の特性に応じた養護活動</p> <p>16) 期末テスト</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保健室の設置に関する法的根拠について自己学習すること ・ 慢性疾患を持つ児童生徒への支援のあり方についてまとめる(グループによる事前学習) ・ 保健調査票、健康観察票を作成する(グループによる事前学習)
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	学際・新領域
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	三木とみ子編：新訂養護概説、ぎょうせい 適宜プリントを配布します。
(21)参考文献	三木とみ子編：保健室経営マニュアル、ぎょうせい 大谷尚子編：新・養護学概論、東山書房(図書館) 植田誠治監修：新版 養護教諭執務のてびき第7版、東山書房(図書館) 適宜参考文献を紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	レポート、グループ発表、期末試験で総合的に評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	授業は、課題についてのグループ発表と全体討議およびレポート作成を中心に進めます。

(25)留意 点・予備知識	養護学概論での学びを活用しながら理解を深めます。
(26)オフィ スアワー	オフィスアワー 月14:30~15:30
(27)Eメール アドレス・ HPアドレス	Eメールアドレス : hiromi@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	611
(2)区分番号	611
(3)科目種別	教育学部養護教諭養成課程
(4)授業科目名 〔英文名〕	養護学演習II (School Health Nursing, Seminar II)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	養護教諭養成課程：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日 7・8時限
(10)担当教員 (所属)	新谷 ますみ(教育学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	「養護学概論」における学習を基盤として「養護教諭の活動の過程と実際」について実践的に学ぶこと。 ○具体的な職務の内容とその活動過程を理解し、具体的場面を例示し説明できること ○養護実践の基本的考え方を理解し、説明できること
(15)授業の概要	学習方法は、演習を中心としながら、学習内容によっては講義・討議を取り入れる。 現場の養護教諭の講義・演習も取り入れることにより、理論と実践の往還的な学びを得る。
(16)授業の内容 予定	養護活動過程の展開に沿って、どのような方法でどのように活動を展開するのか・展開の課題と解決方法は何かについて、原理、法的根拠、養護の概念や養護教諭の機能、組織活動の観点を踏まえ実践的に検討しながら、学びます。 1) これまでの学習と養護学演習Ⅱの位置づけ 2) 学校における健康診断の法的根拠の背景 3) 学校における健康診断の教育的意義と特徴 4) 児童生徒の健康課題の特徴と健康診断 5) 学校保健委員会の活動とその意義・児童生徒保健委員会の活動と養護教諭の関わり、組織活動の概要 6) 学校保健委員会の活動とその意義・児童生徒保健委員会の活動と養護教諭の関わりの実際について 7) 保健室経営における組織活動の実際について 8) 学校における救急処置活動の課題と救急処置体制 9) 養護教諭と特別支援教育 10) 養護活動としての保健だより・掲示物 11) 保健だよりの機能と保健指導 12) 学校感染症の予防と対応 13) 中学校における保健室経営の実際～健康教育を中心に～ 14) 中学校における保健室経営の実際～来室生徒への対応を中心に～

	15) 保健室経営の理論と実際 16) 期末テスト
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	・学校における健康診断の法的根拠について、自己学習でまとめる ・学校保健統計をもとに児童生徒の健康課題をまとめる
(18)学問分野 1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	看護学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	健康科学関連
(19)実務経験のある 教員による授業科目 について	実務教員
(20)教材・教科書	授業の中で指示
(21)参考文献	授業の中で適宜紹介
(22)成績評価方法及び 採点基準	課題発表のレポート、養護学ノート、講師授業後のレポートで評価する
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・ 授業方法	グループワーク、ロールプレイなどを取り入れた演習を中心に行う。
(25)留意点・予 備知識	現職養護教諭を講師としてお招きし、現場の実践に触れ、学びが深まる。 養護実習の前に履修していることが望ましい。
(26)オフィスア ワー	前期;毎週木曜日13:00~14:00
(27)Eメールア ドレス・HPア ドレス	新谷ますみE-mail;a_masumi1998@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	612
(2)区分番号	612
(3)科目種別	教育学部養護教諭養成課程
(4)授業科目名〔英文名〕	養護学実習 (Practice of School Health Nursing)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	養護教諭養成課程：選択必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 7・8・9・10時限(隔週)
(10)担当教員(所属)	新谷 ますみ(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル4
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	<p>「養護学概論」における学習を基盤として「養護教諭の活動の過程と実際」について実践的に学ぶこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保健調査や健康診断結果からの実態把握ができること ○身体測定・視力測定・内科検診の意義を踏まえ、計画立案・提案・実施・事後措置・事前、事後の保健指導ができること ○健康診断票の記入ができること ○学校における救急処置活動の展開の基本的過程を理解し、対応できること ○学校感染症への基本的対応ができること ○保健室経営計画の立案の実際について理解し、作成できること
(15)授業の概要	<p>養護学基礎実習で学んだ健康診断に関する知識・技術や、養護学演習ⅠⅡでの養護活動の課題や検討の学びを基盤に、実習を通して学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康診断における事前・事後のミニ保健指導、職員会議での提案や個別保健指導、事後措置のあり方について実習する。 ・学校における救急処置活動の目的や教育的意義を踏まえた実際の展開について実習する。 ・健康観察結果からの学校感染症への対応について実習する。 ・保健室経営計画の立案と評価について、実習を通して、实际的に学びを深める。
(16)授業の内容予定	<ol style="list-style-type: none"> 1) 学校の成り立ちについて実践的に考察する～児童の実態・教職員の実態・学校保健安全計画の実際～ 2) 学校の成り立ちについて実践的に考察する～保健調査や健康診断結果からの実態把握の実際～ 3) 身体測定の計画立案・提案・実施 4) 身体測定の事後措置・事前、事後の保健指導 5) 視力測定の計画立案・提案・実施 6) 視力測定の事後措置・事前、事後の保健指導 7) 内科検診の計画立案・提案・実施 8) 内科検診の事後措置・事前、事後の保健指導 9) 健康診断票の記入 10) 学校における救急処置活動の実際～救急処置体制に関する教職員との共通理解～ 11) 学校における救急処置活動の実際～問診票・救急処置簿・連絡票の作成と活用を通して～ 12) 学校感染症への対応の実際～教職員との共通理解～

	<p>13) 学校感染症への対応の実際～発生時の対応（法的根拠・対応例）～</p> <p>14) 保健室経営計画の立案の実際～作成の留意点～</p> <p>15) 保健室経営計画の実際～教職員との共通理解・年間執務計画～</p> <p>16) 期末試験</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	養護学基礎実習、養護学演習Ⅰ・Ⅱにおける「健康診断」「救急処置活動」「保健指導」等について復習しておく。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	看護学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	健康科学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	授業の中で適宜資料を配布 「養護学概論」「養護学演習Ⅰ、Ⅱ」で使用した教科書
(21)参考文献	授業の中で適宜紹介
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価(主体的な発表、討論による参加度。課題レポート。養護学実習ファイルの記述。評価全体の50%) 期末評価(基本的事項に関する理解度の確認テスト 同50%)
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	実習・演習 児童生徒の健康診断実施のための指導計画立案、実技中心。 内容により、グループワークや発表などの演習形式で学ぶ。
(25)留意点・予備知識	養護実習で必要となる実践力を養う内容となっているため、養護実習前に履修していることが望ましい。
(26)オフィスアワー	金曜日10:00～11:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	a_masumi1998@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	613
(2)区分番号	613
(3)科目種別	教育学部養護教諭養成課程
(4)授業科目名 〔英文名〕	性の発達と個人 (Sexuality Development and Individuals)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	養護教諭養成課程：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 5・6時限
(10)担当教員 (所属)	小玉 正志 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル1~2
(13)対応するCP/D P	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○自分の性についてのアイデンティティ、自己と他者の性の受容について 広い視野から理解し考え、思春期・青年期の性に対する態度の形成に助言 できる力をつけていくこと
(15)授業の概要	性に関する事柄を様々な視点から学ぶ。
(16)授業の内容 予定	この講義は生理・解剖学的な分野及び学校における性教育について行います。 個人の成長、ヒトの発生から成人に至る過程を生理・解剖学的に理解し、 身体的肉体的に発達途上にある児童生徒のからだや心の悩みの現状と対応を 講述します。 1回目 精子と卵子との出会い 2回目 男性と女性の違い (体) 3回目 男性と女性の違い (脳) 4回目 Y染色体の滅亡 5回目 性衝動について 6回目 妊娠と出産 7回目 性感染症 8回目 児童生徒の性について 9回目 小学校低学年の性教育 10回目 小学校高学年の性教育 11回目 中学校の性教育 12回目 高校の性教育 13回目 性同一性障害 14回目 日本の性教育 15回目 総括
(17)準備学習 (予習・復習) 等 の内容	人間の性に関する本を読んでみる。(予習) 授業で教えられたことをまとめておく。(復習)
	健康科学関連

(18)学問分野 1(主学問分野)	
(18)学問分野 2(副学問分野)	生体の構造と機能関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	社会医学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	ガイダンスまたは授業の中で紹介する
(21)参考文献	授業の中で適宜紹介する
(22)成績評価方法及び採点基準	毎回課題を出し、レポートを次の授業の前日、午前11までに、メールで提出すること。不備なレポートは、再提出を求めることもある。 出席とレポートの内容により、採点する。 採点基準；授業への参加度50%，レポートの内容50%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義、ビデオ視聴による。
(25)留意点・予備知識	特記事項なし
(26)オフィスアワー	火曜日 11：50～12：40
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	mkodama@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特記事項なし

教育学部

(1)整理番号	614
(2)区分番号	614
(3)科目種別	教育学部養護教諭養成課程
(4)授業科目名〔英 文名〕	学校看護学 (School Nursing Science)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	養護教諭養成課程：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	葛西敦子(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具 体的到達目標	○養護教諭に必要な学校における看護の基本的知識について理解すること ○小児看護の基本的知識について理解すること
(15)授業の概要	養護教諭は、学校の教育職員の中で医学的素養・看護学的素養を備えた教員であることから、養護教諭に必要な学校看護、小児看護の基礎的知識の習得を目ざす。
(16)授業の内容予定	第1回. ガイダンス、学校看護学概論 第2回. 学校看護 第3回. 子ども(健康と発達)及び家族(保護者)・学校・地域の理解 第4回. 学校看護における連携、学校看護における重要な側面 第5回. 養護教諭の行う養護実践のプロセスの流れ、養護実践のプロセスのスクリーニングとアセスメント 第6回. 養護実践のプロセスの構成要素、看護診断と養護診断 第7回. 学校における看護技術(安全・安楽) 第8回. 学校における看護技術(感染予防) 第9回. 学校における看護技術(保健室等環境への活動、保健室の備品) 第10回. 小児看護の目ざすところ、小児と家族の諸統計 第11回. 小児看護の変遷、小児看護における倫理 第12回. 児童福祉、母子保健、医療費の支援 第13回. 予防接種、学校保健、特別支援教育 第14回. 病気・障害が小児と家族に与える影響 第15回. 小児の健康問題と看護 第16回. 総括・試験 授業の進行状況等により、内容を変更する場合がある。
(17)準備学習(予習・ 復習)等の内容	(1)シラバスに記載された各回の授業内容について、授業実施時までに予習し、授業実施後に復習を行ってください。 (2)講義内容に応じて、課題を出すこともある。
(18)学問分野1(主学問 分野)	看護学関連
	教育学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	
(18)学問分野3(副学問分野)	健康科学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	岡田加奈子・遠藤伸子・池添志乃他：養護教諭、看護師、保健師のための学校看護、東山書房 奈良間美保他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学①、医学書院 奈良間美保他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学②、医学書院 適宜、資料を配付する。
(21)参考文献	適宜、参考文献を紹介する。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（授業への参加度）：20% 期末評価（期末試験）：80% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義
(25)留意点・予備知識	学校看護学演習・学校看護学実習・救急処置実習の履修前に、履修すること。
(26)オフィスアワー	火曜日7・8時限目
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	Atsukoka@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	615
(2)区分番号	615
(3)科目種別	教育学部養護教諭養成課程
(4)授業科目名 〔英文名〕	学校看護学演習 (Seminar on School Nursing Science)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	養護教諭養成課程：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日 5・6 時限
(10)担当教員 (所属)	葛西敦子 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル3
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての 具体的な到達目標	○学校看護学の基礎的知識を基に、学校における病気の子どもへの支援 (養護計画の立案) について理解すること ○症状を訴える子どもへの救急処置、健康の保持増進のための食事指導について理解すること
(15)授業の概要	○病気の子どもの支援では、ペーパーペイシエントを用いて養護計画を立案する。 ○養護教諭として学校現場で遭遇する可能性の多い傷病に対して、その救急処置について学習する。 ○健康の保持増進のための食事指導のパンフレットを作成する。
(16)授業の内容 予定	第1回. ガイダンス、糖尿病の子どもへの支援 (DVD視聴) 第2回. 病気の子どもへの支援 (養護計画の立案：糖尿病) (1) 第3回. 病気の子どもへの支援 (養護計画の立案：糖尿病) (2) 第4回. ペーパーペイシエントを用いた病気の子どもへの支援 (養護計画の立案：アトピー性皮膚炎、てんかん) 第5回. ペーパーペイシエントを用いた病気の子どもへの支援 (養護計画の立案：循環器疾患、脊柱側湾症) 第6回. 外傷の救急処置の基本、感染予防・擦り傷・切り傷の手当、閉鎖療法 第7回. 救急処置課題検討 (1) 第8回. 救急処置課題検討 (2) 第9回. 救急処置課題検討 (3) 第10回. 救急処置課題検討 (4) 第11回. 救急処置課題検討 (5) 第12回. 救急処置課題検討 (6) 第13回. 食事指導パンフレットの作成 (1) 貧血・便秘など 第14回. 食事指導パンフレットの作成 (2) やせ・肥満など 第15回. 総括、試験 救急処置課題検討 (1) ~ (6) では、《内科的症状》感冒・インフルエンザ、過換気症候群、食中毒、喘息発作、食物アレルギーなど、《外科的症状》鼻出血、擦り傷・切り傷・刺し傷、突き指、足首のねんざ、四肢の打

	撲、骨折（単純骨折・複雑骨折）などを取り扱う。 授業の進行状況等により、内容を変更する場合がある。
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	(1) 各回の授業内容は、担当者が資料を作成し発表する。 (2) 発表内容に応じてさらに、課題を出すこともある。
(18)学問分野 1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	健康科学関連
(19)実務経験のある 教員による 授業科目につ いて	-
(20)教材・教科 書	岡田加奈子・遠藤伸子・池添志乃他：養護教諭、看護師、保健師のための学校看護、東山書房 奈良間美保他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学①、医学書院 奈良間美保他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学②、医学書院 適宜、資料を配付する。
(21)参考文献	適宜、参考文献を紹介する。 資料・パンフレット作成のために、参考となるテキストは貸し出しする。
(22)成績評価方 法及び採点基準	平常評価（授業への参加度）：10% 中間評価（作成した資料・パンフレット）：30% 期末評価（期末試験）：60% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・ 授業方法	講義、演習（資料・パンフレットの作成とその発表）
(25)留意点・予 備知識	学校看護学を履修していること。学校看護学実習・救急処置実習前に履修していること。。
(26)オフィスア ワー	火曜日7・8時限目
(27)Eメールア ドレス・HPアド レス	atsukoka@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	616
(2)区分番号	616
(3)科目種別	教育学部養護教諭養成課程
(4)授業科目名〔英文名〕	学校看護学実習（3年前）（Training of School Nursing）
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	養護教諭養成課程：選択必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日1～4時限
(10)担当教員（所属）	葛西敦子（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○学校において子どもの健康増進や健康問題への支援のために、養護教諭として必要な看護の基礎的知識・技術を理解し、実践できること ○臨床実習において患者への看護を実践するために必要な看護の基礎的知識・技術を理解し、実践できること
(15)授業の概要	○学校において子どもの健康増進や健康問題への支援のために、養護教諭として必要な看護の基礎的知識・技術について学ぶ。 ○臨床実習において患者への看護を実践するために必要な看護の基礎的知識・技術について学ぶ。
(16)授業の内容予定	第1回. ガイダンス、環境整備、体位・姿勢・動作（ボディメカニクス）、寝具・寝室への支援（ベッドメイキング：1人で作る） 第2回. ベッドメイキング：2人で作る、バイタルサイン 第3回. バイタルサイン、バイタルサイン課題の確認 第4回. ベッドメイキング（看護技術試験）、フィジカルアセスメント（概論） 第5回. フィジカルアセスメントの基本技術 第6回. フィジカルアセスメント・バイタルサイン（実践編） 第7回. フィジカルアセスメント・バイタルサイン（検証編） 第8回. 筆記試験、バイタルサイン（看護技術試験） 授業の進行状況等により、内容を変更する場合がある。
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	（1）各回の授業内容について、授業前までに予習し、授業後は復習すること。 （2）講義内容に応じて、課題を出すこともある。 （3）実習内容は、練習を重ね、看護技術を修得すること。
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	健康科学関連
	-

(19)実務経験のある教員による授業科目について	
(20)教材・教科書	①阿曾洋子、井上智子、伊部亜希：基礎看護技術、第8版、医学書院。 ②三村由香里、岡田加奈子：ステップアップ保健室で役立つ フィジカルアセスメント、東山書房 適宜、資料を配布する。
(21)参考文献	適宜、参考文献を紹介する。
(22)成績評価方法及び採点基準	(1) 平常評価（授業への参加度）：10% (2) 看護技術試験：30% (3) 筆記試験：60% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う。
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	講義のあと、デモンストレーションを行い、その後学生が実習を展開する。
(25)留意点・予備知識	学校看護学・学校看護学演習を履修していることが望ましい。 救急処置実習を履修するためには、本実習を履修することが望ましい。 臨床実習を履修するためには、本実習を履修することが望ましい。
(26)オフィスアワー	火曜日7・8時限目
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	atsukoka@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	617
(2)区分番号	617
(3)科目種別	教育学部養護教諭養成課程
(4)授業科目名〔英文名〕	学校看護学実習（3年後）（Training of School Nursing）
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	養護教諭養成課程：選択必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日1～4時限
(10)担当教員（所属）	葛西敦子（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○学校において子どもの健康増進や健康問題への支援のために、養護教諭として必要な看護の基礎的知識・技術を理解し、実践できること ○臨床実習において患者への看護を実践するために必要な看護の基礎的知識・技術を理解し、実践できること
(15)授業の概要	○学校において子どもの健康増進や健康問題への支援のために、養護教諭として必要な看護の基礎的知識・技術について学ぶ。 ○臨床実習において患者への看護を実践するために必要な看護の基礎的知識・技術について学ぶ。
(16)授業の内容予定	第1回. ガイダンス、感染予防の基礎知識と技術、滅菌と消毒の理論と技術、保健室の備品 第2回. 滅菌方法、滅菌操作、創傷部の処置、正しい手洗い、保健室での救急処置物品の整備、モイストヒーリング 第3回. 包帯法、薬物療法（エピペン注射、インスリン注射を含む） 第4回. 温罨法・冷罨法 第5回. 移動動作（車椅子・松葉杖・担架） 第6回. フィジカルアセスメント基本技術の再確認 第7回. 包帯法の技術試験、救急処置活動における看護技術の応用、安楽な体位 第8回. 医療的ケア、筆記試験 授業の進行状況等により、内容を変更する場合がある。
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	（1）各回の授業内容について、授業前までに予習し、授業後は復習すること。 （2）講義内容に応じて、課題を出すこともある。 （3）実習内容は、練習を重ね、看護技術を修得すること。
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	健康科学関連

(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	①阿曾洋子、井上智子、伊部亜希：基礎看護技術、第8版、医学書院。 ②三村由香里、岡田加奈子：ステップアップ保健室で役立つ フィジカルアセスメント、東山書房 ③救急法講習教本（日本赤十字社） 適宜、資料を配布する。
(21)参考文献	適宜、参考文献を紹介する。
(22)成績評価方法及び採点基準	(1) 平常評価（授業への参加度）：10% (2) 看護学技術試験：30% (3) 筆記試験：60% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う。
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	講義のあと、デモンストレーションを行い、その後学生が実習を展開する。
(25)留意点・予備知識	学校看護学・学校看護学演習・学校看護学実習（前期）を履修していることが望ましい。 救急処置実習を履修するためには、本実習を履修することが望ましい。 臨床実習を履修するためには、本実習を履修することが望ましい。
(26)オフィスアワー	火曜日7・8時限目
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	atsukoka@hirosaki-u. ac. jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	618
(2)区分番号	618
(3)科目種別	教育学部養護教諭養成課程
(4)授業科目名〔英文名〕	救急処置実習 (Practice in Emergency Treatment)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	養護教諭養成課程：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水 1・2・3・4
(10)担当教員(所属)	太田 誠耕・田中 完・葛西 敦子・原 郁水 新谷 ますみ (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル1~4
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○救急処置の対象となる傷病を適切に判断し処置できるようになること
(15)授業の概要	[ロールプレイングによる救急処置事例の検討] 救急蘇生法、止血法、包帯法、運搬法等の基本的な救急処置を実習する。 次いで頻度や重症度の高い事例を想定し、グループや個人毎にロールプレイング法により、問診、検診、判断、処置、養護指導等の総合的演習を行い、事後に事例毎の検討を行う。
(16)授業の内容予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション, グループ分け 2. グループ毎の救急処置検討会 症例1、2 3. グループ毎の救急処置検討会 症例3、4 4. 副子固定のテストと解説 5. グループ毎の救急処置検討会 症例5、6 6. グループ毎の救急処置検討会 症例7、8 7. 個人毎の救急処置検討会 症例 1~4 8. 個人毎の救急処置検討会 症例 5~8 9. 個人毎の救急処置検討会 症例 9~12 10. 個人毎の救急処置検討会 症例 13~16 11. 個人毎の救急処置検討会 症例 17~20 12. 個人毎の救急処置検討会 症例 21~26 13. CPR, AEDのテストと解説 14. 三角巾, 止血のテストと解説 15. 筆記試験と解説, 実習室の清掃
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	これまでに履修した養護学や医学・看護学に関する科目を総合的に復習しておくこと。
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特になし。
(21)参考文献	これまでに学習した養護学、医学、看護学等に関連するテキスト等
(22)成績評価方法及び採点基準	受講態度、筆記試験、実技試験、レポート、討論の発言回数や発言内容等を総合して評価する。
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	課題に対するロールプレイを実施してもらいます。 その後、内容について討論します。
(25)留意点・予備知識	4年次の養護実習前に履修することが望ましい。 学校看護学実習を履修していることが望ましい。
(26)オフィスアワー	各教員の単独授業を参照。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	各教員の単独授業を参照。
(28)その他	特になし。

教育学部

(1)整理番号	619
(2)区分番号	619
(3)科目種別	教育学部養護教諭養成課程
(4)授業科目名〔英文名〕	臨床看護学演習 (Seminar in Clinical Nursing)
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	養護教諭養成課程：選択必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	5月下旬から6月中旬にかけて行う。
(10)担当教員(所属)	葛西敦子, 田中完(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3~4
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○臨床実習の目的・目標の意義を理解すること ○臨床実習を円滑に展開するための態度・心構えを身につけること ○看護部の組織と機構、看護部の役割などについて理解すること ○感染対策について理解すること ○養護教諭として、病気の子どもへの支援について理解すること
(15)授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ○臨床実習の目的・目標の意義について講義を受ける。 ○臨床実習を円滑に展開するための態度・心構えについて講義を受ける。 ○看護部の運営のオリエンテーションを受け、看護部の組織と機構、看護部の役割などについて理解する。 ○感染対策のオリエンテーションを受け、学校での感染対策について考える。 ○養護教諭として、病気のその子どもが学校に在籍しているときの支援について考える。
(16)授業の内容予定	第1回. ガイダンス、臨床実習の目的・目標 第2回. 臨床実習を円滑に展開するための態度・心構え 第3回. 看護部のオリエンテーション(看護部の組織と機構、看護部の役割など) 第4回. 病院感染対策のオリエンテーション 第5回. 臨床実習での各診療科病棟実習における実習目標の検討 第6回. 臨床実習での各診療科外来実習における実習目標の検討 第7回. 各診療科に関連する傷病時の救急処置 第8回. 養護教諭としての病気の子どもへの支援、総括
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	[予習] (1) 臨床実習の手引きの内容をしっかりと把握しておく。 (2) 病院の機能、看護部の特徴、院内感染対策、事前に学習しておくこと。 (3) 看護技術の練習を行い、技術を身につけてください。 [復習] 看護部のオリエンテーション、病院感染対策のオリエンテーションをうけて、「臨床実習を臨むにあたって」のレポートを書く。
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連
	教育学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	
(18)学問分野3(副学問分野)	健康科学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	臨床実習の手引き、その他資料を配付する。
(21)参考文献	学習するのに必要なテキストは貸し出しする。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（授業への参加度）：20% 中間評価（課題）：50% 期末評価（レポート）：30% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	グループ学習 医学部附属病院看護部長・感染管理認定看護師のオリエンテーション
(25)留意点・予備知識	臨床看護学演習は、臨床実習と同時期に履修すること。
(26)オフィスアワー	火曜日7・8時限目
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	E-Mail : atsukoka@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	620
(2)区分番号	620
(3)科目種別	教育学部養護教諭養成課程
(4)授業科目名 〔英文名〕	臨床実習 (Practice in?Clinical Nursing)
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	養護教諭養成課程：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	6月3日（月）～14日（金）（土曜日・日曜日は除く）
(10)担当教員 （所属）	○葛西 敦子（教育学部）・田中 完（教育学部）・高橋 克子（非常勤講師）
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 （レベル）	レベル4
(13)対応する C P / D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業とし ての具体的到達 目標	○病院の機能や医療専門職種それぞれの職務を理解し、病気の子どもの支援を円滑に展開できるように、連携・協働の方策を学び、将来学校現場で実践できる知識を習得すること ○医療や看護の実際を見学することで、すでに学習した医学・看護学等の知識や技術の理解を深め、養護教諭として健康問題をもつ子どもへの支援、健康の保持・増進のための支援、傷病時の救急処置などを実践できる能力を習得すること
(15)授業の概 要	（1）外来実習 ① 各診療科外来の構造、受診する患者の特徴・治療・看護についてオリエンテーションを受ける。 ② 実習形態は、主として見学実習である。 ③ 患者や家族とのコミュニケーションをとる。 ④ 各診療科に関連する傷病時の救急処置について学習する。 ⑤ 医療関連職種の業務内容およびスタッフ間の連携を把握する。 （2）病棟実習 ① 各診療科病棟の構造・設備、入院患者の特徴・治療・看護についてオリエンテーションを受ける。 ② 実習形態は、学生担当の受け持ち看護師について一緒に行動する。 ③ 可能な範囲で看護計画を閲覧させていただき理解を深める。 ④ 「医療的ケア」に関わる看護技術は、積極的に見学する。 ⑤ 各診療科に関連する傷病時の救急処置について学習する。 （3）院内学級（小学校・中学校） ① 院内学級についてのオリエンテーションを受ける。 ② 授業の見学、教員の指導のもと学習指導を行う。
(16)授業の内 容予定	臨床実習は、医学部附属病院にて実施する。1日の実習時間は、8：30から15：00まで。各診療科の病棟や外来において実習する。 1日目：第1～3回 歯科口腔外科外来実習 2日目：第4～6回 耳鼻咽喉科病棟実習 3日目：第7～9回 形成外科外来実習 4日目：第10～12回 皮膚科外来実習

	<p>5日目：第13～15回 整形外科病棟実習 6日目：第16～18回 神経科精神科病棟 7日目：第19～21回 眼科病棟実習 8日目：第22～23回 小児科病棟実習 9日目：第25～27回 小児科外来実習・院内学級 10日目：第28～30回 内分泌・代謝・感染症内科病棟実習 実習班によっては、実習場所のローテーションが異なる。</p>
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	<p>〔予習〕 (1) 弘前大学教育学部養護教諭養成課程臨床実習の手引き、臨床実習 実習科別連絡事項、臨床実習 留意事項などの資料を事前学習する。 (2) 実習班メンバーで、各病棟・外来実習の実習目標と行動計画を検討し、実習目標・行動計画表にまとめおく。 (3) 各病棟・外来の特徴的な疾患の概要とその看護について学習しておく。 〔復習〕 (1) 毎回の実習について、以下の項目を実習ノートにまとめる。 1. 実習目標、2. オリエンテーションの内容、3. 見学内容、4. 実習の感想、5. 本実習での養護教諭としての学び（各診療科に関連した救急処置について）、6. 実習目標に対する評価、7. 各診療科の特徴的な疾患の概要およびその看護についてまとめ、子どもが学校に登校してきたら、養護教諭としてどのような支援をするかを考察する。 (2) レポート課題：臨床実習を終えて</p>
(18)学問分野 1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	健康科学関連
(19)実務経験 のある教員による 授業科目について	-
(20)教材・教科書	弘前大学教育学部養護教諭養成課程臨床実習の手引き、適宜資料を配付する。
(21)参考文献	学習に必要なテキストは貸し出しする。
(22)成績評価 方法及び採点基準	<p>平常評価（実習への参加度）：20% 中間評価（実習翌日に提出される実習ノートの内容）：50% 期末評価（レポート）30% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う。</p>
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	<p>① 各診療科病棟の構造・設備、入院患者の特徴・治療・看護についてオリエンテーションを受ける。 ② 実習形態は、学生担当の受け持ち看護師について一緒に行動する。できる範囲内で看護ケアに参加する。 ③ 可能な範囲の中で看護計画を閲覧し、理解を深める。 ④ 「医療的ケア」に関わる看護技術は、積極的に見学する。 ⑤ 各診療科に関連する傷病時の救急処置について医療スタッフに指導を仰ぐ。</p>
(25)留意点・予備知識	<p>学校看護学を修得していること。 臨床医科学の各科の講義を履修していること。 学校看護学実習（前期・後期）を履修していること。 臨床看護学演習を同時期に履修すること。</p>
(26)オフィスアワー	火曜日7・8時限目

(27)Eメールアドレス・HPアドレス	E-Mail : atsukoka@hirosaki-u. ac. jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	621
(2)区分番号	621
(3)科目種別	教育学部養護教諭養成課程
(4)授業科目名 〔英文名〕	学校保健(学校安全を含む) (School Health (Including School Safety))
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	養護教諭養成課程：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日 9・10時限
(10)担当教員 (所属)	原 郁水 (教育学部)
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル1
(13)対応する CP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業とし ての具体的到 達目標	○学校保健の意義、内容、目的、構造、関連する法律などや、学校保健に関する実際の活動について理解し、説明できること（見通す力）
(15)授業の概 要	学校保健とは、学校において児童生徒等の健康の保持増進を図ること、集団教育としての学校教育活動に必要な健康や安全への配慮を行うこと、自己や他者の健康の保持増進を図ることができるような能力を育成することといった学校における保健管理と保健教育、組織活動のことです。養護教諭の活動の基礎としての学校保健について理解を深めてください。
(16)授業の内 容予定	<p>第1回：健康とは 第2回：健康の歴史 第3回：学校保健とは 第4回：学校保健の歴史 第5回：答申 第6回：学校保健の現代的課題 第7回：学校保健安全法 第8回：学校保健安全法施行令 第9回：学校保健安全法施行規則 第10回：保健管理 第11回：保健管理 第12回：保健教育 第13回：学校保健組織活動 第14回：学校保健計画 第15回：学校保健の課題、学習状況の確認(試験含む)と振り返り</p> <p>※授業の進行状況により、シラバスと実際の内容が異なることがあります。</p>
	<p>次回の内容について予め目を通しておく（予習） 授業の内容を整理する（復習）</p>

(17)準備学習 (予習・復習)等の内容	
(18)学問分野 1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	学校保健実務必携第4次改訂版 学校保健ハンドブック (初回で説明します)
(21)参考文献	授業中に適宜紹介します
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価(授業への参加度): 20% 中間評価(提出物): 40% 期末評価(試験): 40% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義、討議、発表等
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	水曜日 5・6時限
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ikumih@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	622
(2)区分番号	622
(3)科目種別	教育学部養護教諭養成課程
(4)授業科目名〔英文名〕	学校保健研究I (School Health Research I)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	養護教諭養成課程：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木 9・10
(10)担当教員（所属）	太田 誠耕・小玉 正志・田中 完・葛西 敦子・ 新谷 ますみ・原 郁水(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	○健康情報の収集・処理・評価、論文作成、発表について基本的な知識を習得し、卒論制作に向けて意欲と目標を持つこと。
(15)授業の概要	卒業研究にも役立つような保健情報のまとめ方について学びます。 研究の楽しさ、発見の喜びを知り研究に対する基本的な構えと忍耐・継続する力、優れた研究から学ぶ謙虚さを修得することを目指します。
(16)授業の内容予定	収集された健康情報を適切に処理し、評価を加え論文形式にまとめる方法を学びます。さらにわかりやすい発表の仕方についても実践的に学びます。 前半は太田が担当します。後半はゼミごとに分かれて指導教員が担当します。 1. 概論、研究のスタイル、研究のデザイン 2. いろいろなデータ、調査の仕方、アンケートの作り方、サンプリング 3. 単純集計、記述統計 4. 推測統計 5. Ward、Excel、SPSSなどの活用法 6. プレゼンテーション (7～15. 指導教員毎のゼミナールで以下のような内容を含む) * 先輩の卒論を読む * 著明な研究者の論文を読む * 卒論のテーマを考える * 卒論のテーマを決定する * 卒論の研究方法を考える * 卒論の研究対象を考える * 卒論の卒論の分析方法を考える * 卒論のまとめ方を考える * 卒論の発表方法を考える
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	過去の「弘前学校保健科学」に目を通しておくこと。
(18)学問分野1(主学問分野)	健康科学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	適宜プリントを配布する。
(21)参考文献	過去の弘前学校保健科学や学校保健に関連した学会誌。
(22)成績評価方法及び採点基準	受講態度(討論等への参加状況), 課題の達成状況。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	意見交換等
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	各教員の単独授業を参照
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	各教員の単独授業を参照
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	623
(2)区分番号	623
(3)科目種別	教育学部養護教諭養成課程
(4)授業科目名〔英 文名〕	学校保健研究II (School Health Research II)
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	養護教諭養成課程：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日9・10時限 (各教員と学生で曜日・時間を設定)
(10)担当教員(所属)	教育保健講座所属の各教員
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル4
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・ DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具 体的到達目標	○学校保健研究 I で習得した健康情報の収集・処理・評価、論文作 成、発表について基本的な知識を実践し、卒業研究を進め、卒業論文 を作成し発表すること
(15)授業の概要	指導教員毎に分かれて授業します。 卒業研究のためのゼミを兼ねています。 健康課題の発見や保健情報のまとめ方について学びます。 研究の楽しさ、発見の喜びを知り研究に対する基本的な構えと忍耐・ 継続する力、優れた研究から学ぶ謙虚さを修得することを目指しま す。
(16)授業の内容予定	指導教員毎に分かれて授業します。 卒業研究のためのゼミを兼ね、以下の内容を総合的に行います。 1. 先輩の卒論の検索 2. 著明な研究者の論文の検索 3. 健康課題の発見 4. 健康課題の検討 5. 研究方法の検討 6. 研究対象の検討 7. 分析方法の検討 8. 健康情報の収集 9. 健康情報の統計処理 10. 統計処理の結果の図表化 11. 解析結果の評価 12. 文章化 13. 論文としての構成の検討 14. プレゼンテーションの検討 15. プレゼンテーション の実際
(17)準備学習(予習・ 復習)等の内容	設定した課題について確実に実施すること。
(18)学問分野1(主学問 分野)	健康科学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	特になし。 各担当教員に確認のこと。
(21)参考文献	弘前学校保健科学、その他。 各担当教員からその都度紹介。
(22)成績評価方法及び採点基準	課題の達成状況、討論への参加状況等を総合的に評価する。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習
(25)留意点・予備知識	できるだけ欠席しないように頑張ってください。
(26)オフィスアワー	各教員の単独授業を参照
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	各教員の単独授業を参照
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	624
(2)区分番号	624
(3)科目種別	教育学部養護教諭養成課程
(4)授業科目名〔英文名〕	保健指導論 (Theory of Health Guidance)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	養護教諭養成課程：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日 3・4時限
(10)担当教員(所属)	原 郁水(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	<p>○授業者として選んだ題材の指導計画、教材、教育方法を工夫して1時間分の指導案を立てそれを基に保健指導の模擬授業を行うことができること(見通す力)</p> <p>○指導改善の視点を持ち自分の意見を述べるができること(解決する力)</p> <p>○近年の実践研究の動向を知り、指導力の向上に取り組むことができること(学び続ける力)</p>
(15)授業の概要	これまでの授業を踏まえて保健指導の模擬授業を行い、集団的に検討します。また、近年の実践研究について学習します
(16)授業の内容予定	<p>第1回：保健指導と模擬授業</p> <p>第2回：模擬授業とその検討(食など)</p> <p>第3回：模擬授業とその検討(休養・睡眠など)</p> <p>第4回：模擬授業とその検討(生活習慣病など)</p> <p>第5回：模擬授業とその検討(喫煙など)</p> <p>第6回：模擬授業とその検討(飲酒など)</p> <p>第7回：模擬授業とその検討(薬物乱用など)</p> <p>第8回：模擬授業とその検討(喫煙・飲酒・薬物乱用など)</p> <p>第9回：模擬授業とその検討(感染症など)</p> <p>第10回：模擬授業とその検討(性感染症など)</p> <p>第11回：模擬授業とその検討(保健・医療機関など)</p> <p>第12回：保健指導の実際</p> <p>第13回：集団的保健指導</p> <p>第14回：情報機器等を生かした指導</p> <p>第15回：保健指導の近年の動向、まとめ</p> <p>※授業の進行状況により、シラバスと実際の内容が異なることがあります。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	自分の担当回について準備を行う(予習) 毎回の内容について整理する(復習)
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	テキスト（初回で説明します） ・ 中学校学習指導要領 ・ 中学校学習指導要領解説 保健体育編 ・ 保健体育科教科書
(21)参考文献	授業中に適宜紹介します
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（授業への参加度）：20% 中間評価（模擬授業）：40% 期末評価（レポート）：40% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	主に模擬授業と討論
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	木曜日 7・8時限
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ikumih@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	中学校および高等学校教諭（保健）の免許を取得予定の人は、保健科教育方法論を受講してください。

教育学部

(1)整理番号	625
(2)区分番号	625
(3)科目種別	教育学部養護教諭養成課程
(4)授業科目名〔英文名〕	学校安全特論 (School Safety, Special Course)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	養護教諭養成課程：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 1・2時限
(10)担当教員(所属)	原 郁水
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○子どもの事故の特徴や学校における学校安全(安全管理、安全教育、組織活動)について理解すること(見通す力) ○事故の裁判例等について分析し事故防止に役立たせることができること(解決する力)
(15)授業の概要	学校における安全管理、安全教育及び危機管理を中心に理論や災害発生時の対処法等について学びます。
(16)授業の内容予定	<p>第1回：安全・危険とは 第2回：安全に関する理論 第3回：子供の発育発達と安全、子供に特徴的な事件事故 第4回：子供に特徴的な事件事故 第5回：自然災害 第6回：学校安全 第7回：対人管理(スポーツ振興センター等) 第8回：対人管理(スポーツ振興センター等) 第9回：対人管理(注意義務等) 第10回：対物管理(安全点検など) 第11回：対物管理(安全点検の実際など) 第12回：防災安全・交通安全など 第13回：安全教育 第14回：安全教育 第15回：学校安全の課題、学習状況の確認(試験含む)と振り返り</p> <p>※授業の進行状況により、シラバスと実際の内容が異なることがあります。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	指定した内容について予め目を通しておく(予習) 授業の内容を整理する(復習)
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	安全工学関連

(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	初回で説明します
(21)参考文献	学校安全と危機管理 学校保健実務必携 「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育 学校防災マニュアル（地震・津波災害）作成の手引き 学校の危機管理マニュアル作成の手引き等
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（授業への参加度）：20％ 中間評価（発表）：40％ 期末評価（レポート）：40％ 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義および討議
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	木曜日 7・8時限
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ikumih@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	626
(2)区分番号	626
(3)科目種別	教育学部養護教諭養成課程
(4)授業科目名〔英文名〕	健康相談活動の理論と方法 (Theory and Method of Health Counseling)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	養護教諭養成課程：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 3・4・5・6時限
(10)担当教員(所属)	新谷ますみ(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	○養護の原理を踏まえた養護教諭の健康相談活動の理論と方法を学び、事例を通して具体的に対応を思考する力や実践力を養うこと
(15)授業の概要	子供の心身の状態を4つの視点からアセスメントし、社会的な背景を含めた子供理解を学ぶ。 子供の真のニーズを捉え、いじめなどの現代的な健康課題にチームとして対応する方法を学ぶ。 心身相関の理論と相談技法を学び、学校での事例を課題としてロールプレイやグループワークを行い、実践力を養う。 健康相談活動の記録や事例研究方法を学び、実践を省察する力を養う。
(16)授業の内容予定	第1回目 オリエンテーション(目標・学習方法・課題・評価について) 健康相談活動の基本的理解・学校教育における健康相談活動の目的と意義・保健室に来室した子どもへの対応事例 第2回目 健康相談活動と養護教諭・養護教諭の健康相談活動の特徴・健康観察の活用・「傾聴」や「共感」の対応事例 第3回目 健康相談活動の進め方①対応の基本プロセス・健康相談活動の基本プロセス・支援の目標・「初期対応」「危機対応」の事例 第4回目 健康相談の進め方②対象の理解・子どもの発達課題(小1プログラム、中1ギャップ等を含む)の理解・来室した子どものニーズと見立て 第5回目 健康相談の進め方②対象の理解 ・心身相関の理論・心因性の症状の特徴と発見・「心因性の症状」の事例 第6回目 健康相談の進め方③保健室の機能を活かした対応・救急処置と健康相談活動・保健室の機能と養護教諭の特質を活かした対応 第7回目 健康相談活動に必要な知識・現代的な健康課題(文部科学省)・いじめ、不登校、自殺、児童虐待、心身症、精神疾患等の理解 第8回目 健康相談活動の実践事例から学ぶ ・保健室登校とは・保健室登校の対応を事例から学ぶ 第9回目 健康相談活動の実践事例から学ぶ・校内連携の在り方と実際・対応記録の活用方法 第10回目 救急処置活動・救急処置で来室した子どもの健康相談活動・慢性疾患をもつ子どもの健康相談活動

	<p>第11回目 災害などの危機的な状況における相談活動と支援</p> <p>第12回目 組織や専門家と連携した健康相談活動・校内組織、学校三師、SC等の役割と連携・連携事例から学ぶ</p> <p>第13回目 特別演習・講義 インシデントプロセス法について（予定 小林央美先生）</p> <p>第14回目 養護教諭の健康相談対応の事例研究方法 ・事例研究の記録と方法・事例の個別性と普遍性</p> <p>第15回目 まとめの講義</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	現代的な健康課題について(文部科学省)
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	心理学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	養護教諭が行う健康相談・健康相談活動の理論と実際, 三木とみ子他, ぎょうせい その他のプリント資料は配布 適宜ガイダンスや授業で紹介
(21)参考文献	授業の中で適宜紹介
(22)成績評価方法及び採点基準	発表討議(30)、養護学ノート(30)、記述テスト(40)、合計100点の総合的評価。 積極的に話し合いに参加し、思考することができているかを重視。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義 ロールプレイ、グループディスカッションを取り入れる
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	金曜日10:00~11:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	a_masumi1998@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	講義は、理論と実践事例を往還しながら進め、省察力・実践力が身につくように構成しています。

教育学部

(1)整理番号	629
(2)区分番号	629
(3)科目種別	教育学部養護教諭養成課程
(4)授業科目名 〔英文名〕	精神保健 (Mental Health)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	養護教諭養成課程：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日 5・6時限
(10)担当教員 (所属)	平岡恭一 (非常勤)
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応する CP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業とし ての具体的到 達目標	○精神保健・精神衛生に関する心理学的な基本概念を身につけ、その視点から心の健康としての精神保健・精神衛生をとらえることができるようになること
(15)授業の概 要	前半は、精神保健・精神衛生の基礎的理解を目指し、心の健康を説明する概念としての適応という視点から、欲求不満やストレスなどについて解説する。後半は、子どもたちが実際にどのような心身の問題を生じるのかを、発達段階に即して述べていく。
(16)授業の内 容予定	<p>I. 精神保健・精神衛生とは</p> <p>II. 精神保健と適応</p> <p>III. 不適応と欲求不満・葛藤</p> <p>IV. 不適応とストレス</p> <p>V. 防衛機制</p> <p>VI. 正常と異常</p> <p>VII. 欲求充足と精神保健</p> <p>VIII. 精神障害と精神保健</p> <p>IX. 発達のあらずじ</p> <p>X. 発達理論</p> <p>XI. 子どもの心の問題の特徴と分類</p> <p>XII. 子どもの発達に伴う心の問題の例</p> <p>XIII. 発達障害について</p> <p>XIV. メンタルヘルスチェック</p> <p>XV. 応用行動分析入門</p> <p>最終週 筆記試験</p>
(17)準備学習 (予習・復 習)等の内容	復習を十分にすること。

(18)学問分野 1(主学問分野)	心理学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	ブレインサイエンス関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験 のある教員に よる授業科目 について	-
(20)教材・教 科書	授業中に資料を配布する。
(21)参考文献	授業の中で紹介することがある。
(22)成績評価 方法及び採点 基準	期末試験によって評価する。
(23)授業形式	講義
(24)授業形 態・授業方法	主に資料と板書によって内容を解説するが、簡単な心理テストの紹介やビデオ視聴なども含む。
(25)留意点・ 予備知識	講義時間内に疑問点を解決するように努めること。
(26)オフィス アワー	非常勤講師のため設定なし。
(27)Eメール アドレス・HP アドレス	非常勤講師のため設定なし。
(28)その他	特記なし。

教育学部

(1)整理番号	630
(2)区分番号	630
(3)科目種別	教育学部養護教諭養成課程
(4)授業科目名〔英文名〕	母性保健 (Maternity Health)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	養護教諭養成課程：選択必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 5・6時限目
(10)担当教員(所属)	葛西敦子(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○女性の解剖学的・生理学的特徴を学習し、自身のからだについて理解すること ○妊娠・分娩・産褥について理解すること ○母性保健の関係法規を学び、社会資源を活用できるような知識を身につけること ○女性の一生を見据えた母性保健教育ができるような基礎的知識を理解すること
(15)授業の概要	<p>女性の解剖学的特徴・生理的特徴、妊娠・分娩・産褥、避妊法、性感染症などについて学習する。</p> <p>小学校・中学校・高等学校において、思春期の母性保健教育ができるような基礎的知識を学ぶ。</p> <p>自身の基礎体温を測定し、データを分析することで、性周期の把握をし、健康管理能力の向上を目指す。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回. ガイダンス、基礎体温の測定について、母子保健の関係法規</p> <p>第2回. 女性の解剖学的特徴、女性の生理学的特徴</p> <p>第3回. 妊娠の成立、避妊法</p> <p>第4回. 不妊症、人工妊娠中絶、性感染症</p> <p>第5回. 妊娠期間中の解剖学的特徴や生理学的特徴</p> <p>第6回. 分娩・産褥の解剖学的特徴や生理学的特徴産褥</p> <p>第7回. 試験、加齢による性機能の変化</p> <p>第8回. 基礎体温測定値の分析</p> <p>授業の進行状況等により、内容を変更する場合がある。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>(1) シラバスに記載された各回の授業内容について、授業実施時までに予習し、授業実施後に復習を行ってください。</p> <p>(2) 講義内容に応じて、事前の課題を出すこともある。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	教育学関連

(18)学問分野3(副学問分野)	健康科学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	資料を配布する。 講義初日に婦人用電子体温計を持参すること。
(21)参考文献	適宜、参考図書や文献を紹介する。
(22)成績評価方法及び採点基準	(1) 平常評価（授業への参加度）：10% (2) 中間評価（課題）：20% 基礎体温測定データの提出、基礎体温表の分析 約3ヶ月間、毎日朝に、目覚めた時に基礎体温の測定をしてもらいます。 (3) 期末評価（期末試験）：70% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義
(25)留意点・予備知識	毎朝、目を覚ました時に基礎体温の測定をしてもらいます。しかし、忘れる時もあるかもしれません、測定できないことがあるかもしれません。とにかく継続して測定して下さい。
(26)オフィスアワー	火曜日7・8時限目
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	atsukoka@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	631
(2)区分番号	631
(3)科目種別	教育学部養護教諭養成課程
(4)授業科目名〔英文名〕	衛生学及び公衆衛生学I（予防医学を含む）（Hygiene and Public Health I (Including Premedicine)）
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	養護教諭養成課程：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日 5・6時限
(10)担当教員（所属）	太田 誠耕（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル1～2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○集団としての日本人の健康状態について理解すること
(15)授業の概要	社会、環境、生活と健康について講義する。 日本全体の健康状態と青森県の健康状態を比較検討する。
(16)授業の内容予定	1. オリエンテーション, 健康論 I（健康とは） 2. 健康論 II（健康の価値）, 衛生公衆衛生の歴史 3. 保険統計（人口, 出生, 死亡） 4. 保健統計（生活習慣病, 寿命） 5. 疫学概論 6. 健康増進 7. 疾病予防感染症対策 8. 地域保健と衛生行政 9. 母子保健, 学校保健 10. 産業保健, 成人保健, 11. 老人保健・福祉, 精神保健 12. 国際保健, 保健医療の制度と法規 13. 環境保健概論 14. 公害, 環境保全 15. テストおよびテストの解答と解説 ※進行状況により内容が前後することがあります。
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	健康に関するニュースに関心を寄せて下さい。 教科書をよく読んで下さい。
(18)学問分野1(主学問分野)	社会医学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	鈴木庄亮 監修 シンプル衛生公衆衛生学2019 南江堂
(21)参考文献	国民衛生の動向, 最新版

(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価 20% 期末評価 80% 上記を合算して最終評価を行う予定です。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	主に教員からの講義です。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	月・火曜日12:00~12:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ohtahta@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	632
(2)区分番号	632
(3)科目種別	教育学部養護教諭養成課程
(4)授業科目名〔英文名〕	衛生学及び公衆衛生学II (Hygiene and Public Health II)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	養護教諭養成課程：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日 5・6時限
(10)担当教員(所属)	太田 誠耕(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2~3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○生活環境、学校環境、労働環境及び食生活と健康について理解すること
(15)授業の概要	生活環境、学校環境、労働環境及び食生活と健康について理解する
(16)授業の内容予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 概論 2. 空気 3. 温度、放射線 4. 上水、下水 5. 廃棄物処理 6. 被服 7. 住居 8. 有害動物 9. 食品と微生物、変敗 10. 微生物性食中毒 11. 自然毒食中毒 12. 化学性食中毒 13. 学校環境と健康 14. 学校環境衛生管理、学校給食衛生管理 15. テストおよびテストの解答と解説 ※授業の進行状況により、内容が前後することがあります。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	配布されるプリントを読み返して復習して下さい。
(18)学問分野1(主学問分野)	社会医学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	毎回、プリントを配布します。
	必要に応じて、紹介します。

(21)参考文献	
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価 20% 期末評価 80% 上記を総合して最終評価を行う予定です。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	主に教員が質問を交えて講義します。
(25)留意点・予備知識	自分の周囲の環境に関心を持って下さい。
(26)オフィスアワー	月・火曜日12:00~12:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ohtahta@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	633
(2)区分番号	633
(3)科目種別	教育学部養護教諭養成課程
(4)授業科目名〔英文名〕	衛生学及び公衆衛生学実習 (Practice of Hygiene and Public Health)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	養護教諭養成課程：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日 7・8・9・10時限
(10)担当教員(所属)	太田 誠耕(教育学部)・小玉 正志(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル1~2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○保健指導に実験を利用できること ○学校環境衛生の検査の技術を習得し、検査結果の評価ができること
(15)授業の概要	保健指導に使える実験を体験する。 学校環境衛生の検査と評価について実習する。
(16)授業の内容予定	学校環境で重要な問題となる照度、騒音、空気、飲料水、机いす等の検査測定及び評価、それに基づく事後措置等について学校環境衛生の基準にそって実習する。 また、清潔に関する実験、口内細菌の検出、観察等も実習する。 1. オリエンテーション①(全体・前半の実習について) 2. 清潔に関する実験 3. 食器の残留物検査 4. 口内細菌の検出と観察 5. オリエンテーション②(後半の実習について) 6~14. 学校環境衛生検査の実際 (グループ毎にローテーションで照度、騒音、空気、飲料水、机いす、学校の清潔等を実習する。 15. テストおよびテストの解答と解説
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	学校環境衛生基準に目を通してくる。
(18)学問分野1(主学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	社会医学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
	-

(19)実務経験のある教員による授業科目について	
(20)教材・教科書	「実習の手引き」のプリントを配布する
(21)参考文献	文部科学省：学校環境衛生管理マニュアル（文部科学省ホームページ）
(22)成績評価方法及び採点基準	実習態度，レポート，筆記試験で総合的に評価する
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	実習：グループごと、またはグループのローテーションで実習する
(25)留意点・予備知識	衛生学及び公衆衛生学Ⅱを受講していることが望ましい
(26)オフィスアワー	各教員の単独授業を参照
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	各教員の単独授業を参照
(28)その他	実習室は土足禁止です。

教育学部

(1)整理番号	634
(2)区分番号	634
(3)科目種別	教育学部養護教諭養成課程
(4)授業科目名〔英文名〕	解剖学I (Anatomy I)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	養護教諭養成課程：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日 3・4時限
(10)担当教員(所属)	小玉 正志(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル1~2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	○人体を身近に感じるようになること
(15)授業の概要	「人体とは？」という観点から、自分の体に興味を持てるように講義を行う。
(16)授業の内容予定	<p>器官とその系統、組織とそのあらまし、骨格系、筋系、神経系について具体的事柄を取り上げながら、それぞれの系統について学ぶ。骨の標本を観察する。</p> <p>1回目 人体とは 2回目 細胞・組織 3回目 構造と機能から見た人体 4回目 骨格とは 5回目 骨の連結 6回目 骨格筋 7回目 体幹の骨格と筋 8回目 上肢の骨格と筋 9回目 下肢の骨格と筋 10回目 神経とは 11回目 中枢神経系(脳について) 12回目 中枢神経系(脊髄について) 13回目 末梢神経系について 14回目 骨の観察及び骨の試験 15回目 ペーパーテスト及び総括</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習は、教科書の図を見て、イメージしておく。復習は、授業で講述する教科書に書いてない事柄について覚える。
(18)学問分野1(主学問分野)	生体の構造と機能関連
(18)学問分野2(副学問分野)	健康科学関連
	スポーツ科学関連

(18)学問分野3(副学問分野)	
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	竹内修二監修、人体解剖の基本がわかる事典、西東社
(21)参考文献	なし
(22)成績評価方法及び採点基準	骨の名称を覚える試験、小テスト、期末テストより評価する
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	配布プリントと教科書を参考に授業を進める。
(25)留意点・予備知識	特記事項なし
(26)オフィスアワー	火曜日 11:50～12:40
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	mkodama@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特記事項なし

教育学部

(1)整理番号	635
(2)区分番号	635
(3)科目種別	教育学部養護教諭養成課程
(4)授業科目名〔英文名〕	解剖学II (Anatomy II)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	養護教諭養成課程：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 7・8時限
(10)担当教員(所属)	小玉 正志(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル1~2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○人体を身近に感じるようになること
(15)授業の概要	「人体とは？」という観点から、自分の体に興味を持てるように講義を行う。
(16)授業の内容予定	<p>1回目 消化とは 2回目 消化器の構成 3回目 消化器の構造と機能 4回目 尿の生成 5回目 泌尿器系の構造と機能 6回目 内分泌とは 7回目 内分泌の構造と機能 8回目 生殖器の構造と機能 9回目 心臓の構造と機能 10回目 動脈と静脈 11回目 末梢血管 12回目 感覚器とは 13回目 皮膚・味覚・嗅覚 14回目 視覚・平衡感覚・聴覚 15回目 テストと総説</p> <p>講義の進行上、計画通りに行かないことがある。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習は教科書の図を見てイメージしておくこと。授業で講述する教科書に書いてない事柄について覚える。
(18)学問分野1(主学問分野)	生体の構造と機能関連
(18)学問分野2(副学問分野)	看護学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	健康科学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	竹内修二監修、人体解剖の基本がわかる事典、西東社

(21)参考文献	ガイダンスまたは授業で適宜紹介
(22)成績評価方法及び採点基準	小テスト、レポート、期末テストより評価する。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	配布プリントと教科書をもとに授業を進める
(25)留意点・予備知識	体の不思議に関する本を読んでおくと、予備知識として役に立つ。
(26)オフィスアワー	火曜日 11:50~12:40
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	mkodama@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特記事項なし

教育学部

(1)整理番号	636
(2)区分番号	636
(3)科目種別	教育学部養護教諭養成課程
(4)授業科目名〔英文名〕	生理学 (Physiology)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	養護教諭養成課程：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日 5・6時限
(10)担当教員(所属)	戸塚 学(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2~3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○人間の筋肉・神経・呼吸・循環系の構造や基本的な機能が理解について理解できるようになること ○生理学を通じて人間の生命の尊さを理解すること
(15)授業の概要	○人間のからだの各器官の構造や機能について学ぶ ○中学校・高等学校保健の授業で取り扱う身体機能について学ぶ
(16)授業の内容予定	第1回：ガイダンス、人体の構造 第2回：骨格筋の構造と機能① 第3回：骨格筋の構造と機能② 第4回：神経系の構造と機能① 第5回：神経系の構造と機能② 第6回：呼吸系の構造と機能① 第7回：呼吸系の構造と機能② 第8回：循環器系の構造と機能① 第9回：循環器系の構造と機能② 第10回：血液の機能 第11回：内分泌機能① 第12回：内分泌機能② 第13回：消化器官の機能① 第14回：消化器官の機能② 第15回：排泄のしくみ 第16回：期末試験
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	教科書を中心に予習・復習を進めてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	石川 隆(監修), 生理学の基本がわかる事典, 2016年, 西東社
	授業中に適宜プリントを配布します。

(21)参考文献	
(22)成績評価方法及び採点基準	期末評価（期末試験）：100%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	教科書を中心に、適宜葉配布するプリントを解説しながら授業が進みます。
(25)留意点・予備知識	指定のテキストを各自で購入します。
(26)オフィスアワー	月曜日11:00~12:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	tot@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし。

教育学部

(1)整理番号	638
(2)区分番号	638
(3)科目種別	教育学部養護教諭養成課程
(4)授業科目名〔英文名〕	病理学 (Pathology)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	養護教諭養成課程：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 7・8・9・10時限
(10)担当教員(所属)	小玉 正志(教育学部)・田中 完(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○医学用語並びに各臓器の主な疾患について、科学的な知識を習得すること
(15)授業の概要	疾病の原因や成り立ちを医学的見地から習得する。
(16)授業の内容予定	<p>病理学の講義に先立ち身体の構造と機能の基礎を理解する。 その後、疾病の成り立ちについて理解する。</p> <p>1回目 循環器系とは 2回目 心臓 3回目 血管 4回目 造血 5回目 呼吸器とは 6回目 呼吸器系の働き 7回目 呼吸器系の構造 8回目 炎症 9回目 感染免疫 10回目 アレルギー 11回目 悪性腫瘍 12回目 自己免疫 13回目 病理を基盤とした疾患考察 14回目 染色体異常 15回目 総括と試験 16回目 補講</p> <p>なお、授業の進行状況等により内容が異なる場合がある。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	講義時間内に疑問点を解決しておくことが望ましい。 復習はその日の授業内容の再確認をすること。
(18)学問分野1(主学問分野)	病理病態学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	生体の構造と機能関連
(18)学問分野3(副学問分野)	感染・免疫学関連
	-

(19)実務経験のある教員による授業科目について	
(20)教材・教科書	2018年度版看護学入門3巻、疾病の成り立ち・感染と予防、メヂカルフレンド社
(21)参考文献	必要に応じてその都度紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	筆記試験（レポート）
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義
(25)留意点・予備知識	生物学などの基礎知識を持って臨むこと。
(26)オフィスアワー	月曜日 16:00～16:30（小玉） 火曜日 16:00～17:00（田中）
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	h i r o t a n a @h i r o s a k i - u . a c . j p（田中） m k o d a m a @h i r o s a k i - u . a c . j p（小玉）
(28)その他	特記なし。

教育学部

(1)整理番号	639
(2)区分番号	639
(3)科目種別	教育学部養護教諭養成課程
(4)授業科目名〔英文名〕	微生物学(免疫学を含む) (Microbiology (Including Immunology))
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	養護教諭養成課程：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日 7・8時限
(10)担当教員(所属)	浅野 クリスナ (医学研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル1~2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	○微生物の増殖環境、感染経路、滅菌及び消毒法を理解させ、病原微生物による感染防御に役立たせることができること
(15)授業の概要	微生物と免疫に関する講義を行う。
(16)授業の内容予定	1回目 微生物の歴史 2回目 微生物の構造 3回目 増殖 4回目 感染 5回目 感染防御 6回目 滅菌・消毒 7回目 病原微生物の種類 8回目 免疫の種類 9回目 免疫応答と成立 10回目 体液性免疫 11回目 細胞性免疫 12回目 感染防御 13回目 移植免疫 14回目 環境の微生物 15回目 テストと総括
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習は必要ない。 授業の内容を復習すること。
(18)学問分野1(主学問分野)	感染・免疫学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	看護学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
	ガイダンスまたは授業で適宜紹介

(20)教材・教科書	
(21)参考文献	授業の中で適宜紹介
(22)成績評価方法及び採点基準	ペーパーテストによる採点
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義
(25)留意点・予備知識	特記事項なし
(26)オフィスアワー	未定
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	< krisana@hirosaki-u.ac.jp >
(28)その他	特記事項なし

教育学部

(1)整理番号	640
(2)区分番号	640
(3)科目種別	教育学部養護教諭養成課程
(4)授業科目名〔英文名〕	薬理概論 (Introduction to Pharmacology)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	養護教諭養成課程：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日 9・10時限
(10)担当教員(所属)	瀬谷 和彦 (医学研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル1~2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	○薬物動態学や薬力学の基礎を習得すること
(15)授業の概要	様々な病態に使われる薬物のヒトへの作用、そして薬物に対するヒトの反応について講義する。養護教諭に必要な薬理学的基礎的知識を学ぶ。
(16)授業の内容予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 養護教諭と薬理学 2. 薬理学総論1 (薬力学の基礎知識) 3. 薬理学総論2 (薬物動態学の基礎知識) 4. 薬理学総論3 (薬効に影響する因子) 5. 薬理学総論4 (薬物の有害作用、薬の管理) 6. 抗感染症薬、抗がん薬 7. 免疫治療薬、抗アレルギー薬・抗炎症薬 8. 末梢での神経活動に作用する薬物 9. 中枢神経系に作用する薬物 10. 心臓・血管系に作用する薬物1 11. 心臓・血管系に作用する薬物2 12. 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物 13. 物質代謝に作用する薬物 14. 皮膚科用薬・眼科用薬、救急時の薬物、消毒薬他 15. 保健室常備薬、応急処置 16. 試験
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業前後に教科書を読み、授業後には講義内容と照らし合わせてノートを整理する。
(18)学問分野1(主学問分野)	薬学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	看護学関連

(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	大鹿英世他著：薬理学 疾病のなりたちと回復の促進3、医学書院、2,310円（税込） ISBN 978-4-260-00675-0 C3347
(21)参考文献	・NEW 薬理学 田中千賀子他編集（南江堂） ・イラストでわかる応急処置の全て 山本公弘著（東山書房）
(22)成績評価方法及び採点基準	試験を行い、60点を合格基準とする。授業への参加度も評価の対象となる。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	プリントを配布し、板書あるいは液晶プロジェクターによって講義する。 必要に応じて学習度確認のための小テストを行う。
(25)留意点・予備知識	世話教員は小玉正志先生。
(26)オフィスアワー	未定
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	seya@hirosaki-u.ac.jp 上記メールアドレスでいつでも対応します。
(28)その他	特記事項なし

教育学部

(1)整理番号	641
(2)区分番号	641
(3)科目種別	教育学部養護教諭養成課程
(4)授業科目名〔英 文名〕	栄養学及び食品学 (Nutrition and Food Chemistry)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	養護教諭養成課程：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 3・4時限
(10)担当教員(所属)	戸羽 隆宏(非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル1~2
(13)対応するCP/D P	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具 体的到達目標	○人の成長や健康と栄養との関係を科学的に理解し、生徒への食生活指導に役立てることができること
(15)授業の概要	人栄養学(栄養素の消化吸収と機能、エネルギー代謝、栄養状態の評価、ライフステージと栄養、栄養管理)および栄養素の給源としての食品について学ぶ。
(16)授業の内容予定	1回目 栄養(生活習慣病、健康増進法、日本人の食事摂取基準、国民健康・栄養調査) 2回目 消化吸収(消化器系、食欲、栄養素の消化吸収) 3回目 栄養素とその機能(糖質、脂質) 4回目 栄養素とその機能(タンパク質、ミネラル) 5回目 栄養素とその機能(ビタミン、食物繊維、水、核酸) 6回目 エネルギー代謝(エネルギー消費量の測定、基礎代謝量) 7回目 栄養状態の評価(栄養ケア・マネジメント) 8回目 ライフステージと栄養(成長期、成人期) 9回目 ライフステージと栄養(高齢期、妊娠・授乳期、更年期) 10回目 栄養管理(栄養補給法、栄養サポートチーム) 11回目 治療食の実際(消化器疾患、代謝疾患) 12回目 治療食の実際(循環器疾患、呼吸器疾患、腎疾患) 13回目 治療食の実際(血液疾患、先天性代謝異常症、アレルギー疾患、リハビリテーション) 14回目 食品(食品群、日本食品標準成分表) 15回目 食品(特別用途食品、保健機能食品) 16回目 期末試験
(17)準備学習(予習・ 復習)等の内容	教科書にある練習問題を使って復習して下さい。
(18)学問分野1(主学問 分野)	生体の構造と機能関連
(18)学問分野2(副学問 分野)	健康科学関連

(18)学問分野3(副学問分野)	看護学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	久保田俊一郎・寺本房子編：コンパクト栄養学、改訂第4版、南江堂、2017年、ISBN978-4-524-25945-8、2,200円+税
(21)参考文献	久保田紀久枝・森光康次郎編：新スタンダード栄養・食物シリーズ5 食品学－食品成分と機能性、東京化学同人、2016年、ISBN978-4-807-91665-8、2,600円+税
(22)成績評価方法及び採点基準	期末試験の成績に依る。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	教科書に沿って重要事項を板書しながら進める。
(25)留意点・予備知識	特記事項なし
(26)オフィスアワー	未定
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	非常勤のため設定なし 世話教員(小玉正志先生へ)
(28)その他	特記事項なし

教育学部

(1)整理番号	642
(2)区分番号	642
(3)科目種別	教育学部養護教諭養成課程
(4)授業科目名〔英文名〕	小児科学I(小児保健を含む) (Pediatrics I (Including Children Health))
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	養護教諭養成課程：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日 7・8時限
(10)担当教員(所属)	田中 完(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○児の成長・発達および小児疾患の病態・診断・治療・予防について理解し、説明できること
(15)授業の概要	小児の生理的特徴をふまえて小児の成長・発達について、また各種小児疾患の病態・診断・治療・予防について講述する。その過程で特に小児保健について言及する。小児の健康と病気についての理解を深めながら小児保健、学校保健について総合的に考察する。
(16)授業の内容予定	<p>第1回：講義(小児科学総論) 第2回：講義(小児保健総論) 第3回：講義(小児保健各論) 第4回：講義(小児疾患総論) 第7回：講義(小児疾患治療学) 第8回：講義(成長と発達) 第8回：講義(小児疾患の診断) 第9回：講義(染色体異常) 第10回：講義(感染症) 第11回：講義(感染症と予防接種) 第12回：講義(呼吸器疾患) 第13回：講義(先天性の循環器疾患) 第14回：講義(後天性の循環器疾患) 第15回：総括・期末試験</p> <p>なお、授業等の進行状況により内容が異なる場合がある。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	講義時間内に疑問点は整理し理解することが望ましい。
(18)学問分野1(主学問分野)	内科学一般関連
(18)学問分野2(副学問分野)	病理病態学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-

(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	配布資料 系統看護学講座 専門分野II、医学書院 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論
(21)参考文献	必要に応じてその都度紹介
(22)成績評価方法及び採点基準	筆記試験（レポート）
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義
(25)留意点・予備知識	臨床実習前に履修していること。
(26)オフィスアワー	火曜日 16:00～17:00（なお、出張などで不在のこともある）
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	hirohana@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特記なし。

教育学部

(1)整理番号	643
(2)区分番号	643
(3)科目種別	教育学部養護教諭養成課程
(4)授業科目名〔英文名〕	小児科学II(救急処置を含む) (Pediatrics II (Including Emergency Treatment))
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	養護教諭養成課程：必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 5・6時限
(10)担当教員(所属)	田中 完(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○小児の成長・発達および小児疾患の病態・診断・治療・予防について理解し、説明できること
(15)授業の概要	[小児の成長・発達と小児疾患の・病態・診断・治療・予防] 小児の生理的特徴をふまえて小児の成長・発達について、また各種小児疾患の病態・診断・治療・予防について講述する。 その過程で特に救急処置について言及する。小児の健康と病気についての理解を深めながら小児保健、学校保健について総合的に考察する。
(16)授業の内容予定	第1回：講義(けいれん性疾患とその対処) 第2回：講義(神経疾患) 第3回：講義(筋肉疾患) 第4回：講義(学校検尿と腎疾患) 第5回：講義(ネフローゼ症候群) 第6回：講義(腎炎症候群) 第7回：講義(貧血) 第8回：講義(その他の血液疾患) 第9回：講義(悪性腫瘍) 第10回：講義(甲状腺疾患) 第11回：講義(糖尿病) 第12回：講義(低身長) 第13回：講義(膠原病) 第14回：講義(精神疾患) 第15回：総括・試験 なお、授業の進行状況等により内容が異なる場合がある。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	講義時間内に疑問点は整理し理解することが望ましい。
(18)学問分野1(主学問分野)	内科学一般関連
	感染・免疫学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	
(18)学問分野3(副学問分野)	生体情報内科学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	奈良岡美保、他：系統看護学講座 専門分野II、医学書院 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論 配布資料
(21)参考文献	必要に応じてその都度紹介する。
(22)成績評価方法及び採点基準	筆記試験（レポート）
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義
(25)留意点・予備知識	臨床実習前に履修しておくこと。
(26)オフィスアワー	火曜日 16:00～17:00（なお、出張などで不在のこともある）
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	h i r o t a n a @ h i r o s a k i - u . a c . j p
(28)その他	特記なし。

教育学部

(1)整理番号	644
(2)区分番号	644
(3)科目種別	教育学部養護教諭養成課程
(4)授業科目名〔英文名〕	臨床医科学I（内科学）（Clinical Medicine I（Internal Medicine））
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	養護教諭養成課程：必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 7・8時限
(10)担当教員（所属）	長内智宏（保健学研究科）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○成人の内科学疾患の病因・病態・診断・治療について理解し、説明できること
(15)授業の概要	成人の疾患の病因、病態、経過、診断学、検査法、治療について学習することにより病気に対する取り組み方を習得する。
(16)授業の内容予定	<p>第1回 内科学総論 1 第2回 内科学総論 2 第3回 感染症 1 第4回 感染症 2 第5回 消化器疾患 1 第6回 消化器疾患 2 第7回 呼吸器疾患 1 第8回 呼吸器疾患 2 第9回 循環器疾患 1 第10回 循環器疾患 2 第11回 内分泌・代謝疾患 1 第12回 内分泌・代謝疾患 2 第13回 脳神経疾患 第14回 抹消神経疾患 第15回 まとめ・試験</p> <p>なお、授業の進行上予定通りに進まないことがある。</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	講義時間内に疑問点を解決しておくのが望ましい。
(18)学問分野1(主学問分野)	内科学一般関連
(18)学問分野2(副学問分野)	器官システム内科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	生体情報内科学関連

(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	配布資料
(21)参考文献	必要があればその都度紹介
(22)成績評価方法及び採点基準	筆記試験（レポート）
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義
(25)留意点・予備知識	臨床実習前に履修しておくこと。
(26)オフィスアワー	非常勤講師のため設定なし。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	医学部保健学科を参照のこと。
(28)その他	非常勤講師のため設定なし。

教育学部

(1)整理番号	645
(2)区分番号	645
(3)科目種別	教育学部養護教諭養成課程
(4)授業科目名〔英文名〕	臨床医科学II(救急・災害医学) (Clinical Medicine II (Emergency Medicine))
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	養護教諭養成課程：選択必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 5・6時限
(10)担当教員(所属)	田中 完 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○救急処置理論と災害管理について理解し、説明できること
(15)授業の概要	[救急処置理論と災害管理] 救命蘇生法、止血法、固定法、包帯法、運搬法等の基本的な救急処置理論について、および災害管理について講述する。 子どもの事故に関して要因、予防への意識を高める。
(16)授業の内容予定	第1回：講義：救急医療総論 第2回：講義：意識障害 第3回：講義：呼吸困難 第4回：講義：けいれん 第5回：講義：溺水 第6回：講義：熱傷 第7回：講義：小児の事故 第8回：演習：救急処置 第9回：演習：AED 第10回：講義：放射線事故 第11回：講義：震災対応 第12回：講義：自然災害 第13回：演習：震災・自然災害への対処 第14回：小括と質疑 第15回：総括・試験 なお、授業の進行状況等により内容が異なる場合がある。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	具体的な現場をイメージしながら知識を身につけることが望ましい。
(18)学問分野1(主学問分野)	病理病態学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	社会医学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-

(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	救急法基礎講習教本、赤十字社 救急法講習教本 配布資料
(21)参考文献	必要があればその都度紹介
(22)成績評価方法及び採点基準	筆記試験（レポート）
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	講義と演習
(25)留意点・予備知識	臨床実習前に履修していることが望ましい。 日本赤十字社「赤十字救急法救急員養成講習」も受講のこと。
(26)オフィスアワー	火曜日 16:00～17:00（なお、出張などで不在のこともある）
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	h i r o t a n a@hirosaki-u. ac. jp
(28)その他	特記無し。

教育学部

(1)整理番号	646
(2)区分番号	646
(3)科目種別	教育学部養護教諭養成課程
(4)授業科目名〔英文名〕	臨床医科学III-1（眼科）（Clinical Medicine III-1 (Ophthalmology)）
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	養護教諭養成課程：必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 9・10時限
(10)担当教員（所属）	目時 友美（医学科）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル1～2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○学校保健ケアに適応できるように、眼科系の代表的疾患の症状、検査、治療について理解すること
(15)授業の概要	目の構造と機能、眼科系疾患の診断・治療について学ぶ。
(16)授業の内容予定	1回目 目の構造と機能 2回目 症状とその病態生理 3回目 検査と治療 4回目 機能の障害 5回目 部位別疾患 6回目 疾患の理解 7回目 眼疾患の看護 8回目 テストと総括 進行状況により、計画通りすすむとは限らない
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	授業の内容の復習をする
(18)学問分野1(主学問分野)	器官システム内科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	看護学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	系統看護学講座専門18成人看護学13眼疾患患者の看護
(21)参考文献	なし
(22)成績評価方法及び採点基準	ペーパーテストによる採点
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義
	臨床実習を履修するためには受講しなければならない

(25)留意点・予備知識	
(26)オフィスアワー	未定
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	tomomi@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特記事項なし

教育学部

(1)整理番号	647
(2)区分番号	647
(3)科目種別	教育学部養護教諭養成課程
(4)授業科目名〔英文名〕	臨床医科学III-1（歯科）（Clinical Medicine III-1 （Dentistry and Oral Surgery））
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	養護教諭養成課程：必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日 3・4時限
(10)担当教員（所属）	小林 恒（医学研究科）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○歯科・口腔外科領域の疾患について理解し、説明できること
(15)授業の概要	歯科・口腔外科の疾病について概説する
(16)授業の内容予定	以下の予定は授業の進行状況で前後することがあります。 1. 顎口腔領域の解剖と機能 2. 歯と歯周組織の疾患 3. 外傷性疾患・顎関節症 4. 粘膜疾患・嚢胞性疾患 5. 顎口腔の良性腫瘍 6. 顎口腔の悪性腫瘍 7. 学校における口腔ケア 8. テストおよび解説 * 授業の内容、進度は状況によって変更になる場合があります。
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	講義の後に復習すること
(18)学問分野1(主学問分野)	口腔科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	講義時にプリントを配布
(21)参考文献	講義中に紹介する
(22)成績評価方法及び採点基準	期末評価 100%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	主に教員からの講義です。

(25)留意点・予備知識	できるだけ欠席しないように健康管理して下さい
(26)オフィスアワー	授業時に、教員に聞いて下さい。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	医学研究科のホームページを参照
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	648
(2)区分番号	648
(3)科目種別	教育学部養護教諭養成課程
(4)授業科目名〔英文名〕	臨床医科学III-1(皮膚科) (Clinical Medicine III-1 (Dermatology))
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	養護教諭養成課程：必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日 7・8時限
(10)担当教員(所属)	是川あゆ美(医学研究科)、松崎康司(附属病院)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○皮膚疾患の病態・診断・治療について理解し、説明できること
(15)授業の概要	[皮膚疾患の病態・診断・治療] 皮膚の構造と機能、皮膚疾患の診断・治療について学習する。 特に皮膚疾患の特殊性、すなわち病変が眼で見える故の患者の悩み等についても、対応できるように理解を深めていく。
(16)授業の内容予定	第1回：皮膚科学総論 第2回：湿疹 第3回：母斑 第4回：水泡 第5回：熱傷 第6回：腫瘍 第7回：膠原病 第8回：総括・筆記試験 なお、授業の進行状況により予定通りに進まないことがある。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	講義時間内に疑問点を整理し理解することが望ましい。
(18)学問分野1(主学問分野)	内科学一般関連
(18)学問分野2(副学問分野)	生体機能および感覚に関する外科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	生体の構造と機能関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	系統看護学講座 専門16 成人看護学 [12] 皮膚、医学書院

(21)参考文献	必要があればその都度紹介する。
(22)成績評価方法及び採点基準	筆記試験 レポート
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義
(25)留意点・予備知識	臨床実習前に履修していること。
(26)オフィスアワー	非常勤講師のため設定なし
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	医学部附属病院を参照のこと。
(28)その他	特記なし。

教育学部

(1)整理番号	649
(2)区分番号	649
(3)科目種別	教育学部養護教諭養成課程
(4)授業科目名〔英文名〕	臨床医科学III-1(耳鼻科) (Clinical Medicine III-1 (Otolaryngology))
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	養護教諭養成課程：必修
(7)単位	1
(8)学期	後期・後半
(9)曜日・時限	水曜日 9・10時限
(10)担当教員(所属)	高畑 淳子(附属病院)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル1~2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○各疾患の症状、病態生理、治療および看護を理解することができ、学校保健ケアに適應できるようになること
(15)授業の概要	各疾患の診断・治療について学ぶ
(16)授業の内容予定	1回目 耳鼻科に属する器官の構造と機能 2回目 症状とその病態生理 3回目 検査と治療 4回目 機能の障害 5回目 部位別疾患 6回目 疾患の理解 7回目 耳鼻科疾患の看護 8回目 テストと総括 進行状況により、計画通りすすむとは限らない。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業内容を復習すること
(18)学問分野1(主学問分野)	器官システム内科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	看護学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	なし
(21)参考文献	授業の中で適宜紹介
(22)成績評価方法及び採点基準	ペーパーテストによる採点

(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義
(25)留意点・予備知識	臨床実習を履修するためには受講しなければならない。
(26)オフィスアワー	未定
(27)Eメールアドレス・HP アドレス	takahata@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特記事項なし

教育学部

(1)整理番号	650
(2)区分番号	650
(3)科目種別	教育学部養護教諭養成課程
(4)授業科目名〔英文名〕	臨床医科学III-1（整形外科）（Clinical Medicine III-1（Orthopedics））
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	養護教諭養成課程：必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日 5・6時限
(10)担当教員（所属）	田中直（附属病院）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○学校保健に必要な整形外科の知識を理解すること
(15)授業の概要	学校保健に必要な整形外科の知識を学ぶ。
(16)授業の内容予定	第1回. イントロダクション、整形外科とは 第2回. 整形外科機能解剖学 第3回. 外傷と応急処置 第4回. スポーツ障害と外傷 第5回. 上肢の疾患 第6回. 下肢の疾患 第7回. 脊椎の疾患 第8回. 総括・試験 授業の進行状況等により、内容を変更する場合がある。
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	シラバスに記載された各回の授業の内容予定について、授業実施時まで予習し、授業実施後に復習を行ってください。
(18)学問分野1(主学問分野)	生体機能および感覚に関する外科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	生体の構造と機能関連
(18)学問分野3(副学問分野)	スポーツ科学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	資料を配布する。
(21)参考文献	適宜、紹介する。
(22)成績評価方法及び採点基準	筆記試験

(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義
(25)留意点・予備知識	臨床実習前に履修すること
(26)オフィスアワー	世話教員：葛西敦子・・・火曜日7・8時限
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	世話教員：葛西敦子のメールアドレス atsuoka@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

教育学部

(1)整理番号	651
(2)区分番号	651
(3)科目種別	教育学部養護教諭養成課程
(4)授業科目名〔英文名〕	臨床医科学III-2(精神科) (Clinical Medicine III-2 (Neuro Psychiatry))
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	養護教諭養成課程：選択必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 7・8時限
(10)担当教員(所属)	齊藤まなぶ(医学研究科)、富田哲(附属病院)、大里絢子(医学研究科)、松原侑里(附属病院)、坂本由唯(附属病院)、吉田和貴(附属病院)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○学校保健に必要な精神科疾患の知識を理解すること
(15)授業の概要	学校保健に必要な精神科疾患の知識について学ぶ。
(16)授業の内容予定	第1回. 精神医学総論 第2回. 内因性精神疾患 第3回. 向精神薬 第4回. 児童疾患① 第5回. 児童疾患② 第6回. 心理検査 第7回. アセスメント 第8回. 総括・試験 授業の進行状況等により、内容を変更する場合がある。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	シラバスに記載された各回の授業の内容予定について、授業実施時までに予習し、授業実施後に復習を行ってください。
(18)学問分野1(主学問分野)	内科学一般関連
(18)学問分野2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	心理学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	資料を配布する。

(21)参考文献	適宜、紹介する。
(22)成績評価方法及び採点基準	筆記試験
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義
(25)留意点・予備知識	臨床実習前に履修すること
(26)オフィスアワー	世話教員：葛西敦子・・・火曜日7・8時限
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	世話教員：葛西敦子のメールアドレス atsukoka@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし